

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成29年度発掘調査報告 (第2分冊)

法 泉 寺 跡

今 小 路 西 遺 跡

平成30年3月

鎌倉市教育委員会



法泉寺跡（扇ガ谷四丁目 518番8地点）第1面遺構3（石列・東から）



今小路西遺跡（扇ガ谷一丁目 145番3、146番2地点）（北から）

ごあいさつ

本市は、市域の6割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

そのため、家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多く、毎日、市内数ヶ所で発掘調査が行われている状況です。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18～21年、23年、27～29年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査27ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉の歴史を解き明かす一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまご協力をいただきましたことを心からお礼を申しあげます。

平成30年3月30日

鎌倉市教育委員会

例　　言

- 1 本書は平成29年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に
係る発掘調査報告書（第2分冊）である。
- 2 本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化
財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育
委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第2分冊 目次

ごあいさつ ······	I
例言 ······	II
目次 ······	III
本誌掲載の平成21・23年度発掘調査地点一覧 ······	IV
調査地点位置図 ······	V

8 法泉寺跡 (No.182) 扇ヶ谷四丁目518番8外地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 ······	5
第二章 発見した遺構と遺物 ······	10
第三章 まとめ ······	29

9 今小路西遺跡 (No.201) 扇ガ谷1丁目145番3、146番2地点

第一章 調査地点の位置と歴史的環境 ······	55
第二章 発見された遺構と遺物 ······	63
第三章 考察とまとめ ······	291

本誌掲載の平成21・23年度発掘調査地点一覧

第2分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
8	法泉寺跡 (No.182)	扇ガ谷四丁目518番8	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社寺	38.00	平成22年3月26日 ～平成22年5月28日
9	今小路西遺跡 (No.201)	扇ガ谷一丁目145番3、146番2	店舗併用住宅 (鋼管杭工事)	都市	120.00	平成23年9月26日 ～平成23年12月22日

鎌倉市全図



本書掲載の平成21・23年度免振調査地点 (8~9)
※道路名は一覧表を参照

法泉寺跡 (No.182)

扇ヶ谷四丁目518番8外地点

例 言

1. 本書は鎌倉市扇ヶ谷四丁目518番8外地点における個人住宅建設に伴う発掘調査報告書である。調査面積は38.00m²である。

2. 調査は平成22年3月26日から同年5月28日にかけて実施した。

3. 調査体制は以下の通りである。

担当者 伊丹まどか

調査員 渡邊美佐子・吉田桂子・高橋江奈(東海大学)

測量：須佐仁和・小野夏菜

調査作業員 秋田公佑・浅香文保・牛嶋道夫・杉浦永章・田口康雄・田島道夫・宝珠山秀雄
吉沢巧

4. 本報作成担当は以下の通りである。

遺物実測 岩崎卓治・清水由加里・渡邊美佐子・伊丹まどか

遺構図版作成 清水由加里・森谷十美

遺物図版作成 清水由加里

グリッド図作成 森谷十美

遺物観察表 伊丹まどか・田畠衣理

破片遺物集計表 清水由加里

遺構写真 伊丹まどか

遺物写真 須佐仁和

写真図版作成 清水由加里

執筆・編集 伊丹まどか・渡邊美佐子

5. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。

6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図：1／50 個別遺構図：1／40 遺物実測図：1／3 (*錢は原寸)

なお各挿図にはスケールを表示してある。

7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。

8. 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。

(五十音順、敬称略)

菊川泉・斎木秀雄・汐見一夫・滝沢晶子・田畠衣理・原廣志・馬淵和雄・宮田眞

目 次 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	5
1. 歴史的環境 (図1)	
2. 遺跡の位置とグリッド配置図 (図2)	
3. 堆積土層 (図3)	
第二章 発見した遺構と遺物	10
第1節 第1面の遺構と遺物 (図4～図10)	
第2節 第2面の遺構と遺物 (図11～図12)	
第3節 第3面の遺構と遺物 (図13～図14)	
第4節 第4面の遺構と遺物 (図15～図18)	
第5節 最終確認トレンチ (図19)	
第6節 表土採集遺物 (図20)	
第三章 まとめ	29

挿 図 目 次

図1 調査地点と周辺の遺跡	6
図2 遺跡位置とグリッド配置図	7
図3 調査区堆積土層図	8
図4 第1面全測図	10
図5 第1面・遺構3	12
図6 第1面・遺構3上層(1)出土遺物	13
図7 第1面・遺構3上層(2)・下層(1)出土遺物	14
図8 第1面・遺構3下層(2)出土遺物	15
図9 第1面・遺構6出土	16
図10 第1面・面上・構成土出土遺物	17
図11 第2面全測図	18
図12 第2面・遺構・構成土出土遺物	19
図13 第3面全測図	20
図14 第3面・遺構17・18・20・21・44・45・46・面上・構成土・出土遺物	22
図15 第4面全測図	23
図16 第4面・遺構40・遺構41出土遺物	24
図17 第4面・遺構42出土遺物	25
図18 第4面・面上・構成土出土遺物	26
図19 最終確認トレンチ	27
図20 表土採集遺物	28
図21 本調査地と扇ヶ谷四丁目518番12地点の遺構位置図	31

表 目 次

遺構観察表	33
出土遺物観察表	34
遺物破片数表	38

図版目次

図版1 I区・II区／第1面～第3面全景	39
図版2 I区・II区／第4面全景 最終トレンチ／I区東壁土層堆積	40
図版3 I区・II区／遺構3石列	41
図版4 I区／遺構6・遺構40・ 遺構41・遺構42	42
図版5 第1面遺構3／上層・中層出土遺物	43
図版6 第1面遺構3／下層出土遺物	44
図版7 第1面遺構・面上／第2面出土遺物	45
図版8 第3面・第4面／遺構出土遺物	46
図版9 第4面遺構42出土遺物	47
図版10 第4面遺構42／表土採集遺物	48

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

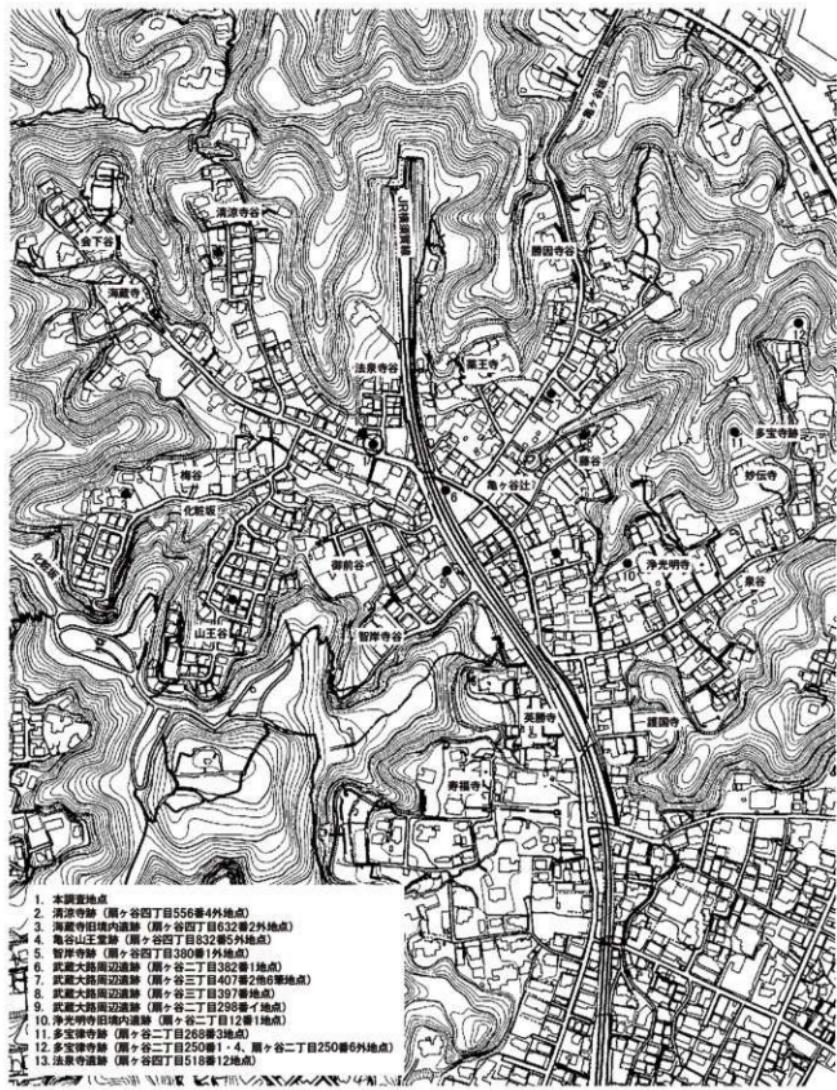
1. 歴史的環境(図1)

本調査地は鎌倉市街地の北西、扇ヶ谷と呼ばれるやや大きな谷戸の中央に位置する。扇を広げた様な形状をした谷戸には、大・小の支谷(泉谷・藤谷・勝因寺谷・法泉寺谷・清涼寺谷・会下谷・山王谷・梅谷・御前谷・智岸寺谷)が複数開析している。本来の扇ヶ谷は、藤ヶ谷の前、英勝寺の裏門付近を指した小地名であり、中世以前には「亀ヶ谷(かめがへ)(かめがいのやつ)(かめがや)」と呼ばれていたが、室町時代に関東管領上杉氏一族が付近に館を構え、名をなし扇谷殿と称されたことで地名に転化している。現在では「亀ヶ谷」という名称は、扇ヶ谷開口部に位置する寿福寺の山号「亀谷山」と、扇ヶ谷から山の内に抜ける亀ヶ谷坂にその名をとどめる。この谷戸には古くから多くの仏閣があったことで知られ、多宝寺・智岸寺・東林寺・清涼寺・新清水寺・新阿弥陀堂・新福寺・法泉寺・松岩寺・勝因寺・淨光寺・興禅寺・正円寺・山王堂・無量寺・權現堂・靈巖院・法幢寺・刃幡荷等の廃絶した仏閣とともに、覺圓寺・薬王寺・淨光明寺・妙伝寺・英勝寺・壽福寺・護国寺・岩船地蔵・岩窟不動尊等現存する寺も多くあり、廃寺を含めた寺名が支谷名として残っている。

調査地前面には西奥の支谷、会下谷に源をもつ扇川(暗渠)と武藏大路が東西に走っている。「武藏大路」については諸説あり、「八幡宮社頭から寿福寺を経て仮粧坂に至る」「亀ヶ谷坂から寿福寺前、六地蔵を経て長谷入口の塔の辻に至る」等とされる。また、鎌倉の内と外を結ぶ七口、極楽寺坂切通し・大仮坂切通し・仮粧坂・亀谷坂・巨福呂坂・朝比奈切通し(通坂)・名越切通しの内、仮粧坂は武藏大路を西に向かい支谷の梅谷を抜けた先にあり、亀ヶ谷坂は調査地前から約100m東にある岩船地蔵から勝因寺谷を抜けて北に向かった先にある。「吾妻鏡」によると、建長三年(1251)12月3日に町免許の地として定めた七か所の内に気和飛坂山上と亀ヶ谷辻があり、文永二年(1265)3月5日には、その二か所の代わりに武藏大路下を定めている。「武藏大路下」及び「亀ヶ谷辻」は本調査地点付近と考えられることから、調査地近辺は商業城の中心であったと考えられる。また、仮粧坂(気和飛坂)の山上から北側辺りの丘を葛原が岡と呼ぶが、付近一帯には古塚、やぐら、五輪塔など多く、山上が葬送の場の一つであったと推定されている。そして幕府が町免許を与えた「気和飛坂山上」とあるのもこの一帯であり、葬送の地であると共に商業城でもあり、「内」と「外」を分ける境界の地としての性格を持つ場でもあったことが知られる。

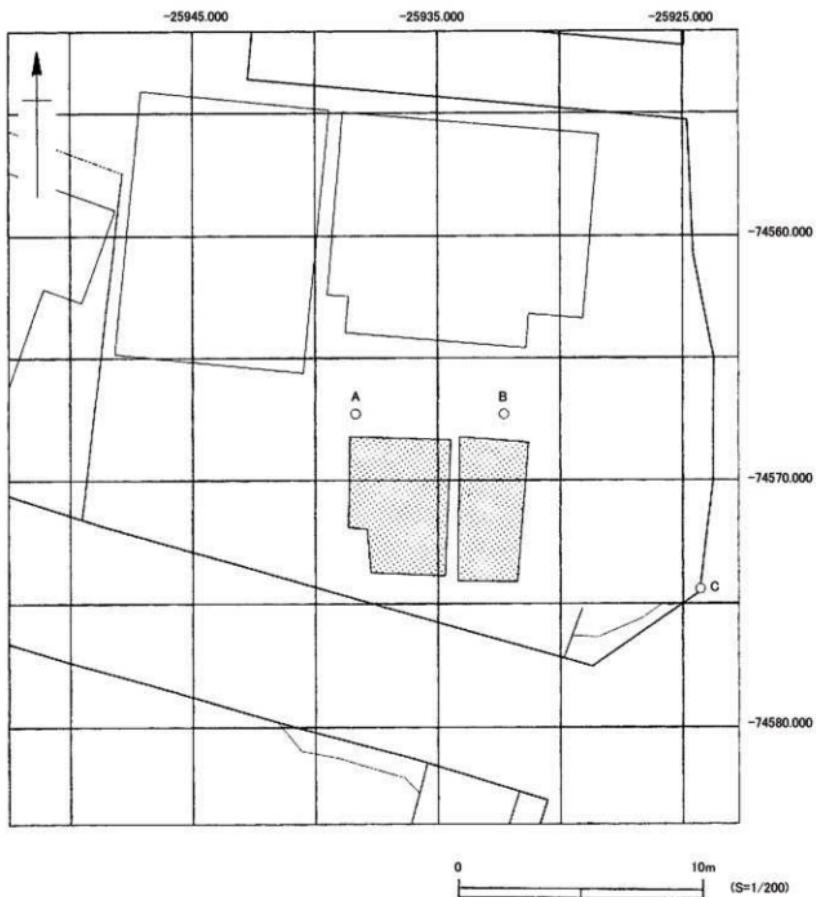
本調査地点は扇ヶ谷支谷のひとつ、法泉寺谷の開口部、西裾際に位置する。谷戸名の由来となった法泉寺(廃寺)があったとされるが、谷戸の中心はJR横須賀線の開通に伴い大半を削平され、法泉寺に関わる遺構を確認することは難しい。谷戸内では13穴のやぐらが確認され、7穴が調査地から北へ約150m行った谷戸の中ほどに集中する。やぐら内部には五輪塔・宝篋印塔の各部が倒壊して発見された。法泉寺は、山号竹園。禪宗。開山素安了堂。文和二年(1353)から弘安元年(1361)までの時期に畠山国清(『延宝伝燈録』)が開基したともいわれているが不明な点も多く、元亨三年(1323)に貞時十三年忌供養に法泉寺から僧衆十五人を参加させたという資料や、文保三年(1319)に成立した(開山した)と諸説あり、概ね14世紀代に現存していただろうと推察される。天文十六年(1547)に法泉寺再興の記事もあるが詳細は不明である。

法泉寺谷では平成20年に本調査地の西隣(扇ヶ谷四丁目518番12地点)で調査を実施している。遺跡



0 200m
(S=1/5000)

図1 調査地點と周辺の遺跡



世界測地系

	X
A	-74567.29
B	-74567.30
C	-74574.41

	Y
A	-25938.36
B	-25932.30
C	-25924.29

図2 遺跡位置とグリッド配置図

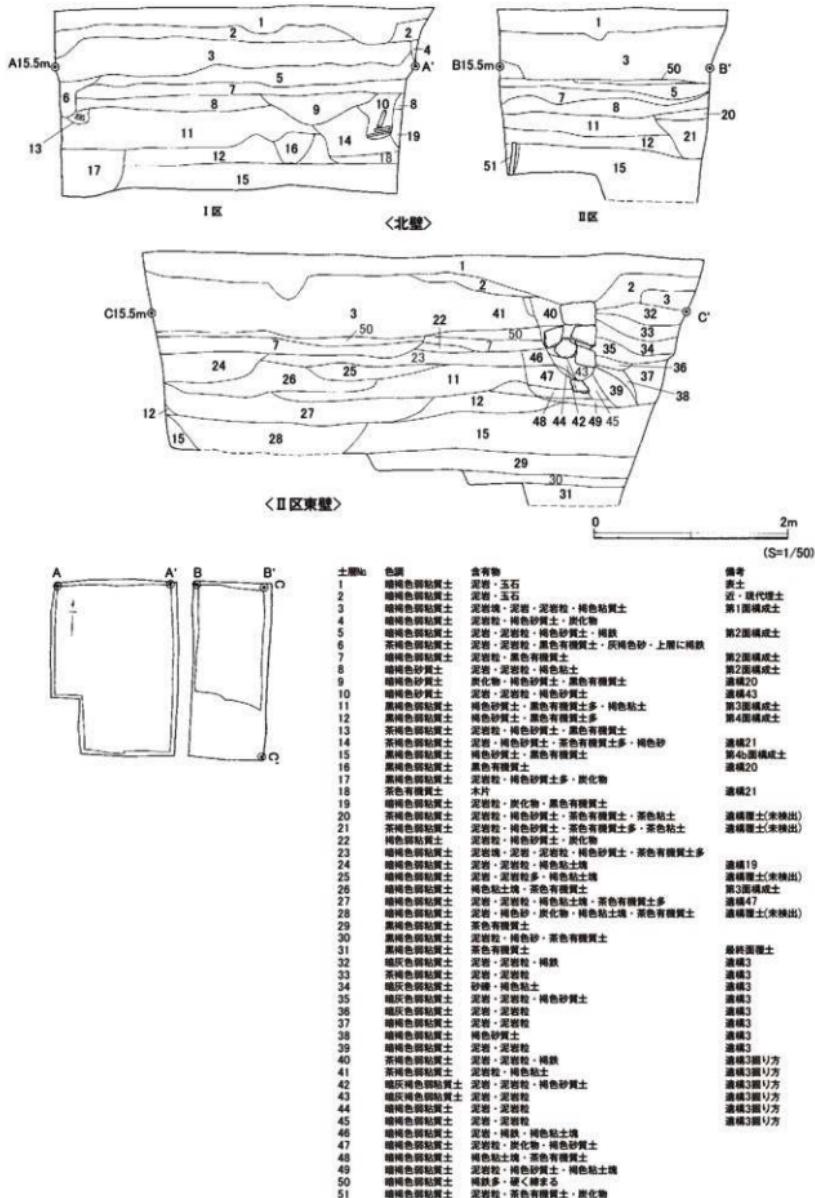


図3 調査区堆積土層図

の性格を示す遺構や遺物の発見はなかったが、東海系（八事裏山窯）の瓦、埼玉県水殿窯の瓦を多く発見することから寺院址との関連を示唆し、13世紀半ばから14世紀代までの遺構・遺物を確認している。

扇ヶ谷一帯の調査成果からは、武家の邸宅や仏閣の他に町屋等の存在が確認されているが、「頬焼阿弥陀縁起絵巻（光触寺蔵）」では建長三年（1215）ごろの物語として、頬焼阿弥陀像の火印の痕を隠す修理をした際に、「かの僧かめかやより仏師を請うて、こくそをもて統をうめ、上にはくをおしければ」と、亀ヶ谷に住する仏師の存在を伝え、「関東往還記」の弘長二年（1262）二月二十八日条には西大寺叡尊が関東に下向した時に初めて扇ヶ谷西奥の支谷清涼寺谷にあった新清涼寺（廃寺）に住した記事がみえ、後に鎌倉極楽寺を拠点に、生涯にわたって鎌倉で慈善救済事業を行い。西大寺系律宗の布教に努めた寂尊の弟子忍性も当初新清涼寺に拠点を得（弘長元年（1261））、同じく扇ヶ谷谷戸内にある多宝寺を経て極楽寺に移っており、数年は扇ヶ谷に在していたことが知られる。

本調査地を含む扇ヶ谷は、支谷の名に残るように多くの寺院・仏閣を谷戸内に有し、繁華な商業城であったとともに、有力御家人の居住城で、仏師などの工人も住む多様性のある地であり、谷戸の中心を武藏大路が走り、鎌倉の内と外を結ぶ交通の要所でもあるという多面性を持つ地であった。

2. 遺跡の位置とグリッド配置図（図2）

調査開始にあたって調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系（座標AREA9）の国土座標値を使用したため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版TKY2JGD」で世界測地系第IX形に変換し、座標値は図2に表記した。

3. 堆積土層（図3）

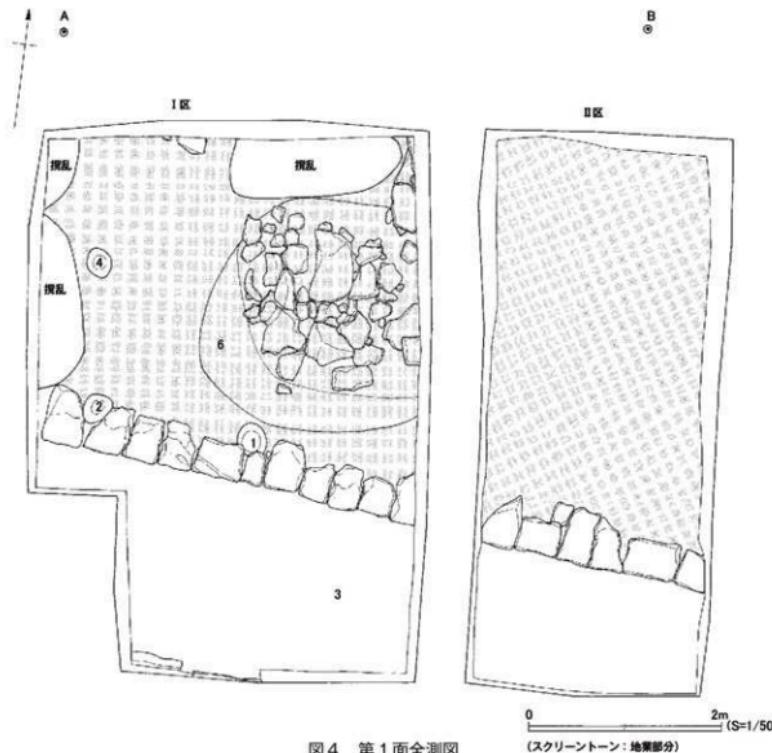
現地表の海拔高は16.10mを測る。現代埋土の堆積を約40～50cm除いて、泥岩塊・泥岩・泥岩粒を含む暗褐色粘質土の地業層上で第1面を検出した。地業層は厚い所で50cmの堆積を確認し、固く締まった地業層であった。発見した遺構は石組みの溝・ピット・地業である。第1面検出レベルは約15.70m。上層に鉛鉄を多く含む硬化した暗褐色弱粘質土上で第2面を検出した。以下構成土は薄く堆積した青灰色砂・泥岩・泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土・貝砂・褐色砂質土を含む黒褐色弱粘質土と、粘質土・砂質土の互層となっていた。発見した遺構は土坑・ピットである。第2面検出レベルは15.40m。有機質土・泥岩・泥岩粒を含む堅く締まった黒褐色弱粘質土上で第3面を検出した。発見した遺構は溝・土坑・ピットである。第3面検出レベルは15.10m。褐色砂質土・黒色有機質土を含む黒褐色弱粘質土上で第4面を検出した。第4面の遺構覆土・構成土等には有機質土が多く含まれ、面上に葉状の植物遺体が広範囲に遺存する箇所もあった。発見した遺構は土坑・ピットである。第4面検出レベルは14.50m。第4面検出後、トレーナーを設け下層の堆積を確認している。I区・II区ともに約50cm下層まで掘り下げたが、生活面を確認することはできなかった。トレーナー下層には茶色有機質土と砂礫が堆積しており、堆積土には自然木と加工木が遺存していた。堆積土は河川あるいは溝の覆土に近似している。確認レベルは海拔13.80mである。

第二章 発見した遺構と遺物

本調査地では廃土処理の場を確保するためにⅠ区・Ⅱ区に分けて調査を開始した。重機によって表土を約30cm除去し、堆積土第3層(図3)以下で遺構を検出し第1面とし、以下4枚の生活面・遺構の計測・記録を行った。検出面の掘り下げに際してⅠ区とⅡ区では検出レベルに相違を生じる遺構が出てきたため、整理作業によって帰属時期を変更した遺構もあり、現地で撮影した遺構写真と復元全測図では多少異なる点もある。また、遺構番号は調査時の作業を調滑に行うために付しており、番号の新旧が時代の新旧を表すものではない。調査開始前現地表は海拔16.10mであった。

以下、層位毎発見した順に遺構・遺物の説明を加えていく。

第1節 第1面の遺構と遺物(図4～図10)



重機によって表土を取り除き、泥岩細片・泥岩を含む暗褐色弱粘質土で丁寧に地業された層上で遺構

を確認した。地業層（構成土）は大型で不整形な泥岩・凝灰質砂岩を全体に含み、約50～60cmの厚さで堆積していた。発見した遺構は溝1条・土坑1基・ピット3穴である。第1面は海拔15.70mで確認している。第1面の地業部分は、固く締まっていること、地業上での発見遺構がないこと等から、溝に沿った道路の一部ではなかったかとの指摘を受けたが、本報告では地業として報告した。

遺構3（図5～図8）

東西に走る溝である。全体的な規模は不明であるが調査区の東西際まで検出し、調査区外に遺構が延びていることを確認している。北側石積みの溝壁を長さ710cmまで確認し、溝の南壁は調査区南側一部を拡張して検出し溝幅約190cmであることを確認している。深さは遺構底面から石積み最上段まで約98cmの高さを測った。石積みの石材は鎌倉周辺の丘陵で採石される粗粒凝灰岩（鎌倉石）の切石で、縦目地をずらしながら、横目地を一直線に積む、切石整層積みという方法で積まれている。溝の軸方向は調査地前を走る道路に並行していた。

同一の溝壁であるはずのI区とII区の溝壁は構造がやや異なる。I区北側溝壁は4段の石積みを確認したが、II区では最下段の石列がなく検出した石積みは3段であった。I区1段目は正面から見て横幅23～50cm、縦幅17～29cm、奥行き約34～59cm。2段目以下は横幅32～84cm、縦幅18～29cm、奥行き42～55cmと規格が統一されていないが、2段目以下は全体的に横長の切石を使っている印象を受ける。また、I区では最下段で石列に沿った杭を2本確認した。杭は石列の際に沿って打たれていたが、石列に伴うものは不明である。

II区1段目は横幅36～50cm、縦幅20～32cm、奥行き約40cm。2段目は横幅33～43cm、縦幅18～24cm、奥行き40～50cm。3段目は横幅36～51cm、縦幅18～27cm、奥行き40～50cm。II区で検出した切石は、I区に比べてやや小ぶりな印象を受ける。I区の最下段石列にあたる部分は、泥岩粒・砂礫を含む暗褐色弱粘質土が堆積していたが、湧水のためにやや縮まりがない。土層の堆積状況から、最下段の石は抜き取られたわけではなく、築造当時からなかった様子である。I区II区ともに正面に見える部分は平に加工してあったが、溝裏にあたる部分は不整形なままであった。また、最下段の石材は平らに加工せず不整形なままで積んでいるものがあり、水没して外から見えない部分は整形しない石材を用いたようである。

本調査地で検出した部分だけで判断することは危ういが、スクリーントーンを貼って示した縦の石列は、切石の縦、横とともに目地を描えて積まれており他の切石と積み方が異なる。この縦の石列に挟まれた、主にI区で検出した石積みはやや横長の切石を使い4段に積まれているが、石列東側のII区で検出した石積みはやや小ぶりの切石を使い3段になっており、このスクリーントーンを貼った縦の石列を挟んで溝普請の分担、あるいは工人が変わるのでないかと考えている。スクリーントーンを貼った石列の間の石積みは長さ420cmを測った。石積みの裏側にあたる切石は不整形であるため、大小の碎石を石材の隙間に差し込むようにして補強していた。

調査区壁で確認した溝覆土の堆積状況から、4段の石段の内、上2段と下2段までの溝覆土の堆積に変化があったため、遺物を分けて採取している。

出土遺物（図6～図8）

遺構3（溝）の石垣は4段検出している。溝覆土を掘りあげる際に、石垣の1段目までのレベルで採取した遺物を上層出土として、2段目～3段目の層位で採取した遺物を中層出土として、4段目から遺構底面まで採取した遺物を下層出土として分けた（II区は3段目以下の堆積層）。また、石垣を取り外し

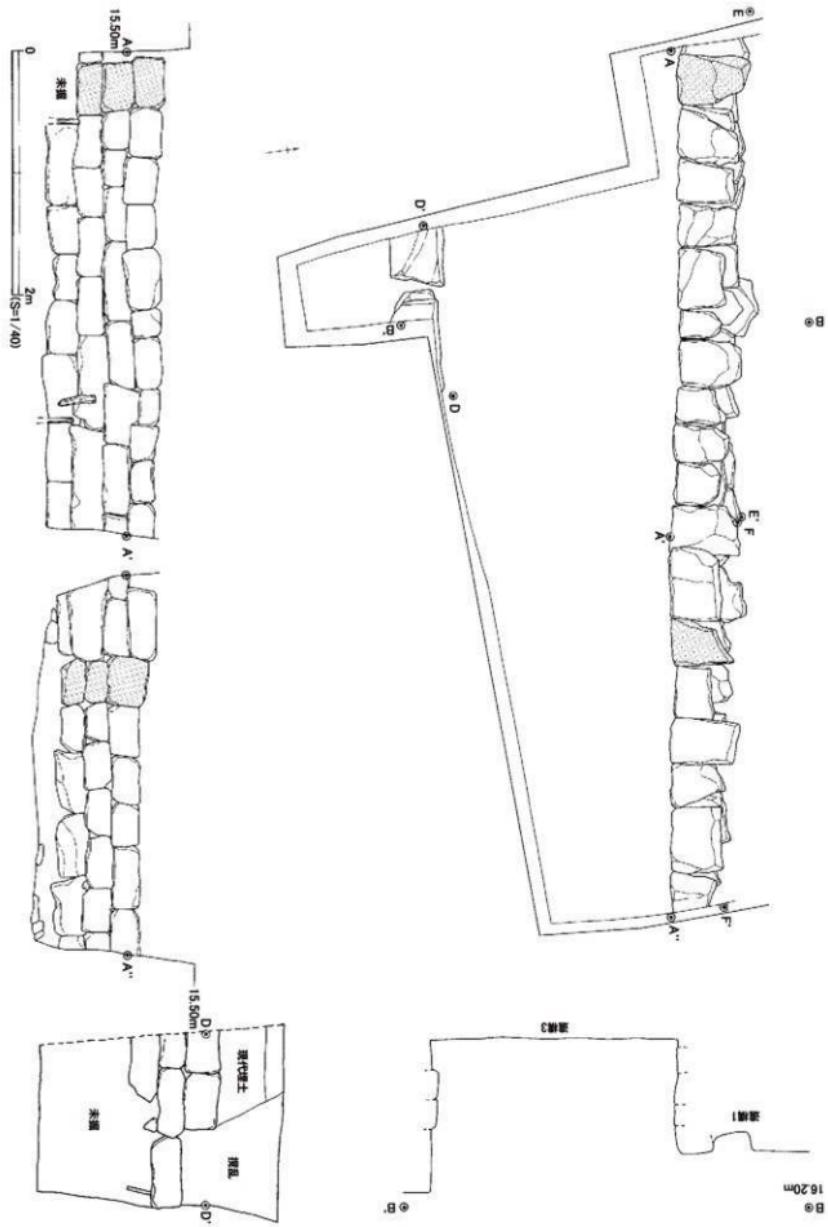


図5 第1面・遺構3

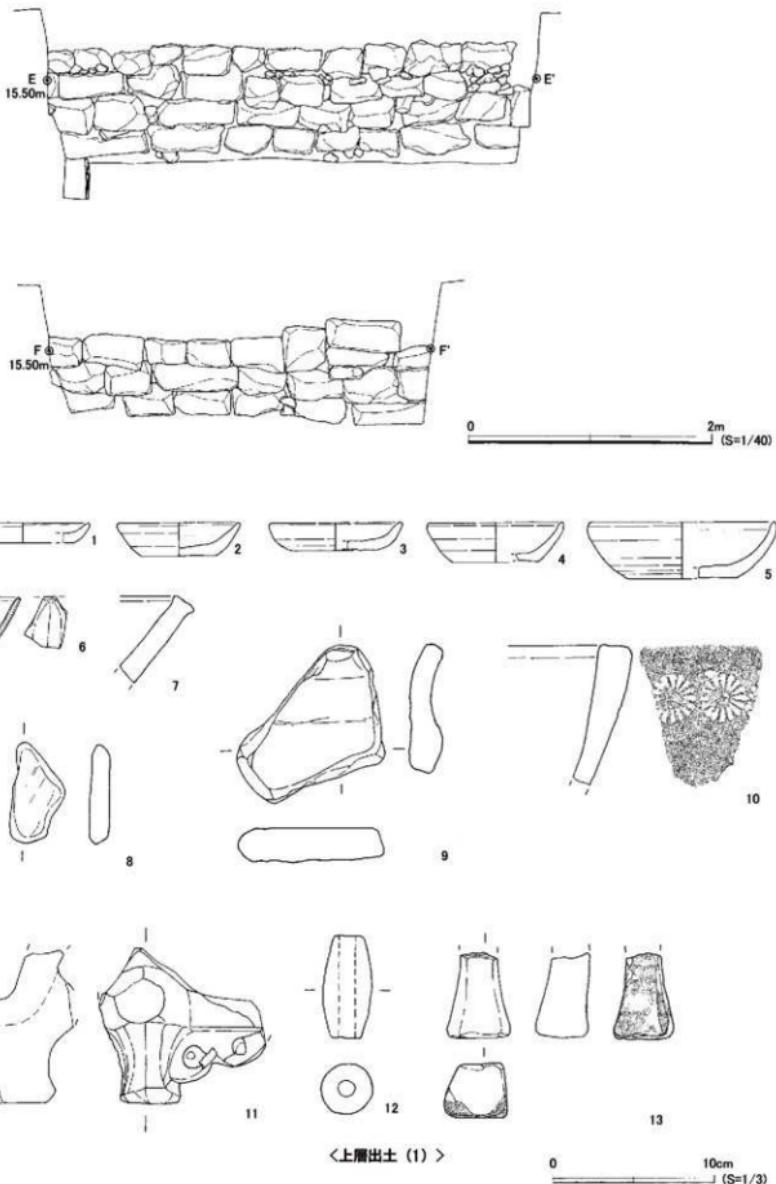
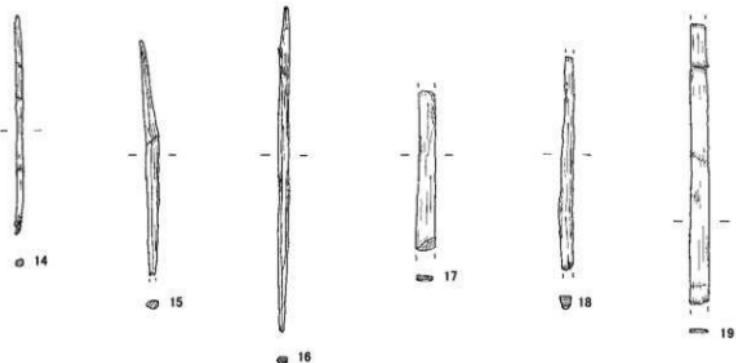
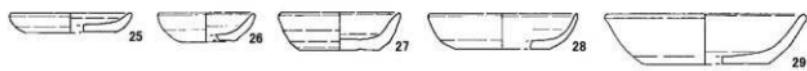
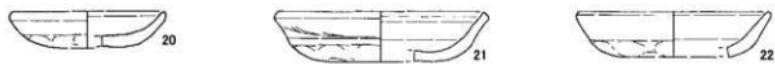


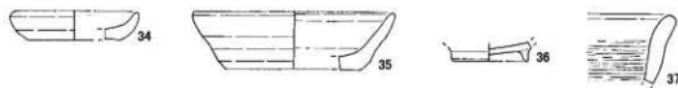
図6 第1面・遺構3上層(1)出土遺物



〈上層出土 (2) 〉



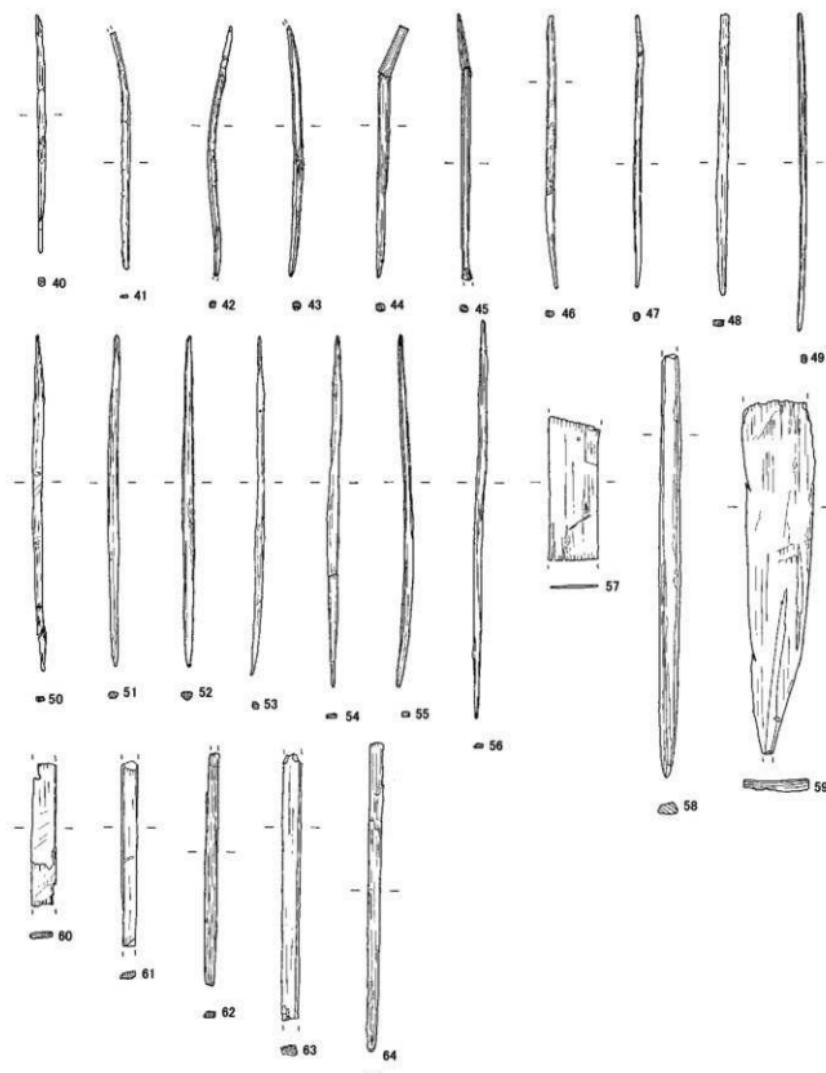
〈中層出土〉



〈下層出土 (1) 〉

0 10cm
(S=1/3)

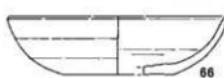
図7 第1面・遺構3上層(2)・下層(1)出土遺物



<下層出土 (2) >



65



66

<縫り方>



<錢・原寸>

0 10cm
(S=1/3)

図8 第1面・遺構3下層(2)出土遺物

た際に裏込めの堆積土から採集した遺物を掘り方出土として分けている。

1～19は上層出土遺物。1～5はかわらけ。6は青磁蓮弁文碗。7は常滑片口鉢Ⅱ類。8～9は常滑甕転用品、断面摩耗痕。10は瓦器質火鉢。11は瓦器質土風呂。12は土製品土錘。13は石製品砥石。14は木製品棒状。15～16は木製品箸状。17～19は木製品用途不明。その他に瀬戸折縁鉢・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・平瓦・滑石鍋が破片で出土している。

20～33は中層出土遺物。20～24は手づくね。25～29はかわらけ。30は瀬戸平碗。31は瀬戸折縁皿。32は瀬戸花瓶。33は常滑甕。その他に舶載器種不明・瀬戸仏花瓶・瓦器質火鉢・獸骨が破片で出土している。

34～64は下層出土遺物。34～35はかわらけ。36は吉備系碗。37は土製品三足鍋。38は漆器皿。39は漆器椀。40～56は木製品箸。57・60は木製品折敷。58は木製品串状。59は木製品杭。61～64は木製品棒状。その他に白磁、器種不明・瀬戸鉢・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・土師器・器種不明・獸骨が破片で出土している。また、この層からは少量ではあるが手づくねも出土している。

65～67は掘り方出土遺物。65～66はかわらけ。67は銭。その他に手づくね・青磁蓮弁文碗・常滑甕・吉備系碗・チャート・滑石鍋・獸骨が破片で出土している。

遺構6(図9)

個別に図面は掲載していない。I区ほぼ中央で発見した。土坑である。遺構覆土は大型の不整形な泥岩を多く含む暗褐色弱粘質土。泥岩の一部には加工痕が見えたが、ほとんどは不整形な泥岩であった。覆土の堆積状況から、遺構ではなく地業の一環であった可能性を考えている。

出土遺物(図9)

1～3はかわらけ。4は瓦。5は漆器器種不明・塗膜のみの発見のため器種等不明であったが、文様の参考例として掲載している。その他に常滑甕が破片で出土している。

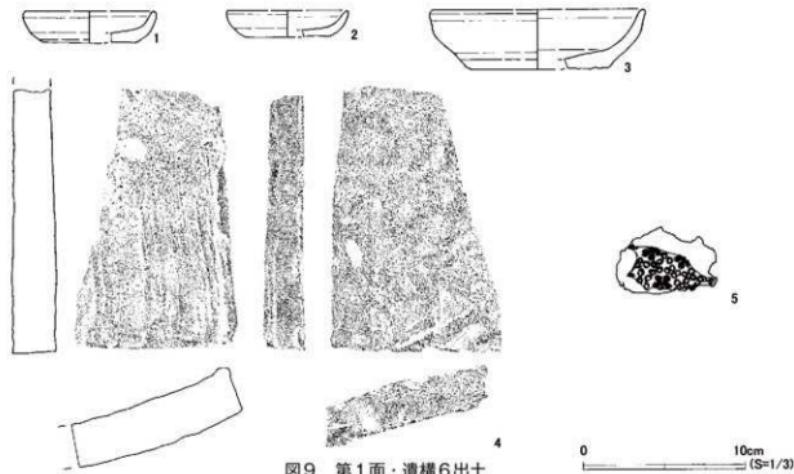


図9 第1面上・遺構6出土

第1面上出土遺物(図10)

第1面遺構精査時に面上から出土した遺物である。1～8はかわらけ。9は瓦器質火鉢。10～11は木製品、

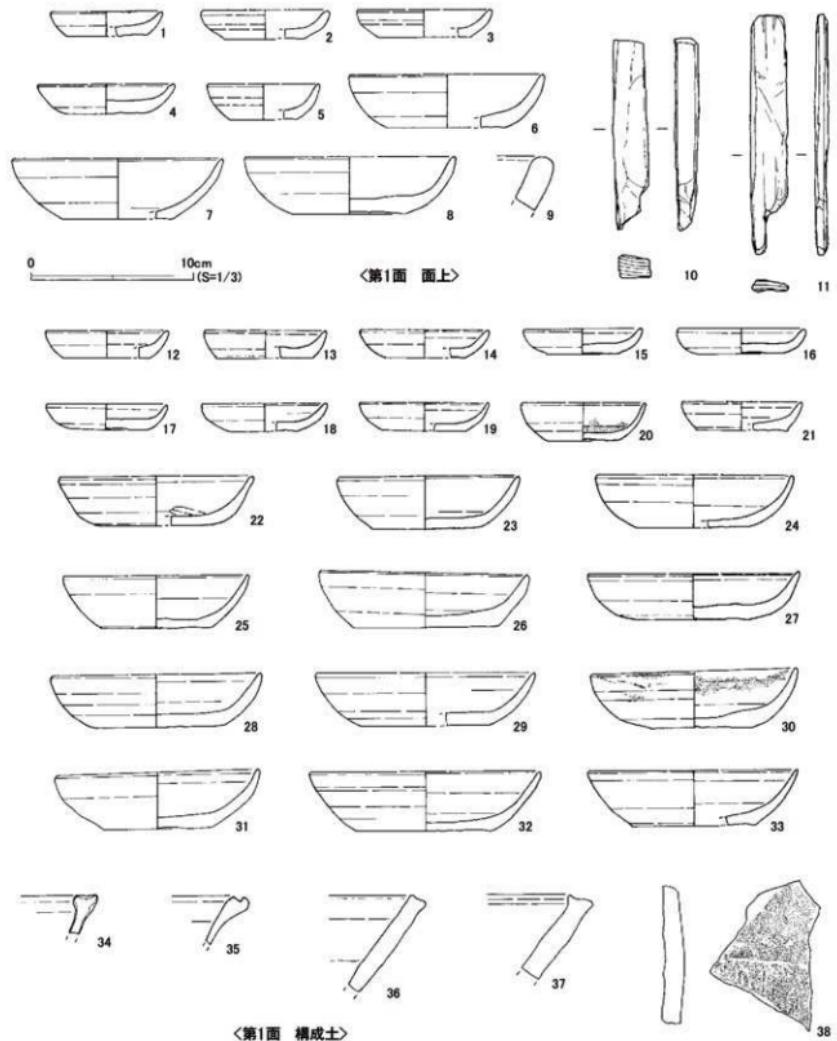


図10 第1面・面上・構成土出土遺物

用途不明。その他に常滑壺・獸骨が破片で出土している。

第1面構成土出土遺物(図10)

第1面遺構検出後、第2面検出までの堆積層で発見した遺物である。12～33はかわらけ。34は青磁香炉。35は常滑片口鉢I類。36～37は常滑片口鉢II類。38は常滑壺転用品。その他に青磁蓮弁文椀・黄釉盤・瀬戸片口鉢・瀬戸瓶子・瀬戸入子・瀬戸、器種不明・常滑壺・備前播鉢・丸瓦・滑石・木製品箸・獸骨が破片で出土している。

第2節 第2面の遺構と遺物(図11～図12)

第2面は不整形な大型泥岩を多く含む第1面構成土を除き、褐鉄・泥岩・泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土上で遺構を確認した。I区遺構検出面は褐鉄を多く含み硬化し、II区は大小の泥岩で丁寧に地業されていた。I区中央に緩く落ち込む土坑状の遺構を検出したが、地業の落ち込みと考え全体図に位置は記録したが個別には報告していない。発見した遺構は土坑3基・ピット8穴である。遺構検出面上での遺物出土はなかった。第2面は海拔15.30～15.40mで確認している。

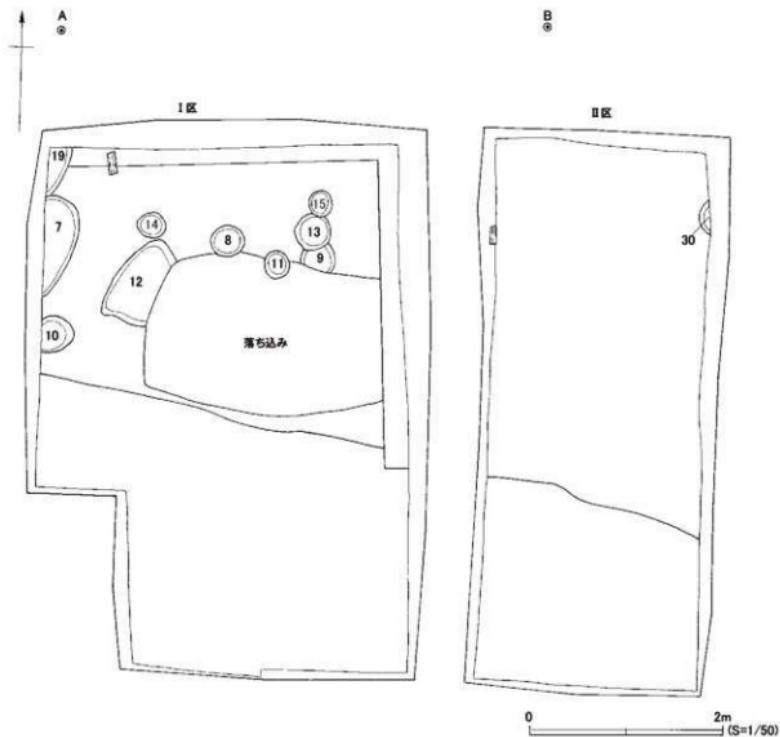


図11 第2面全測図

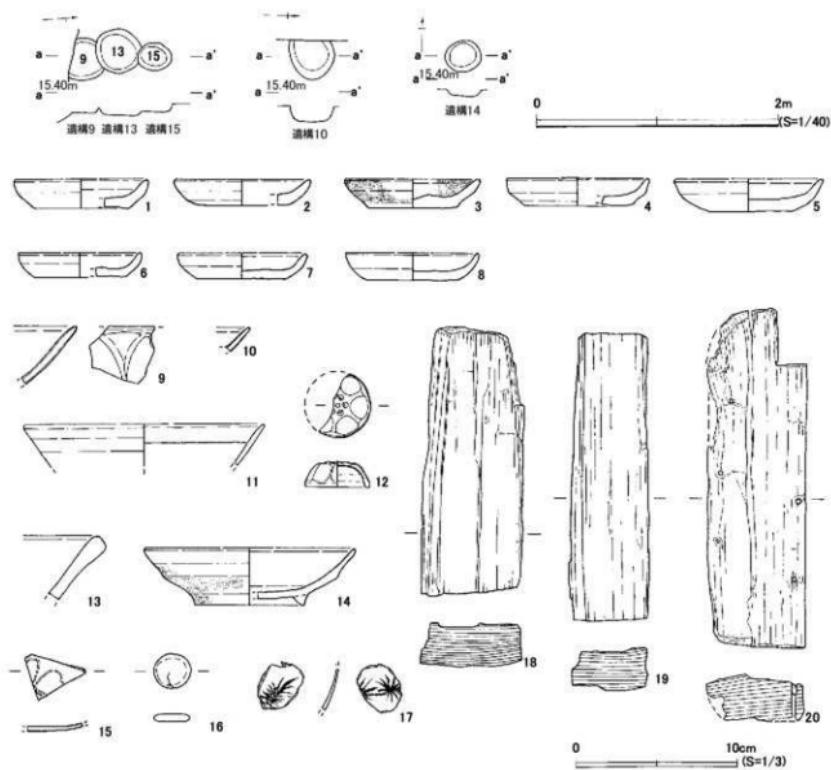


図 12 第2面・遺構・構成土出土遺物

遺構9(図12)

円形を呈する浅いピットである。遺構13に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。遺物は出土していない。

遺構10(図12)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・大型の泥岩・泥岩粒を含み、上層に安山岩が遺存していた。柱穴か。遺物は出土していない。

遺構13(図12)

円形を呈するピットである。遺構9を切り、遺構15に切られる。遺構覆土は青褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・褐鉄・褐色粘土を含む。遺物は出土していない。

遺構14(図12)

円形を呈するピットである。遺構覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

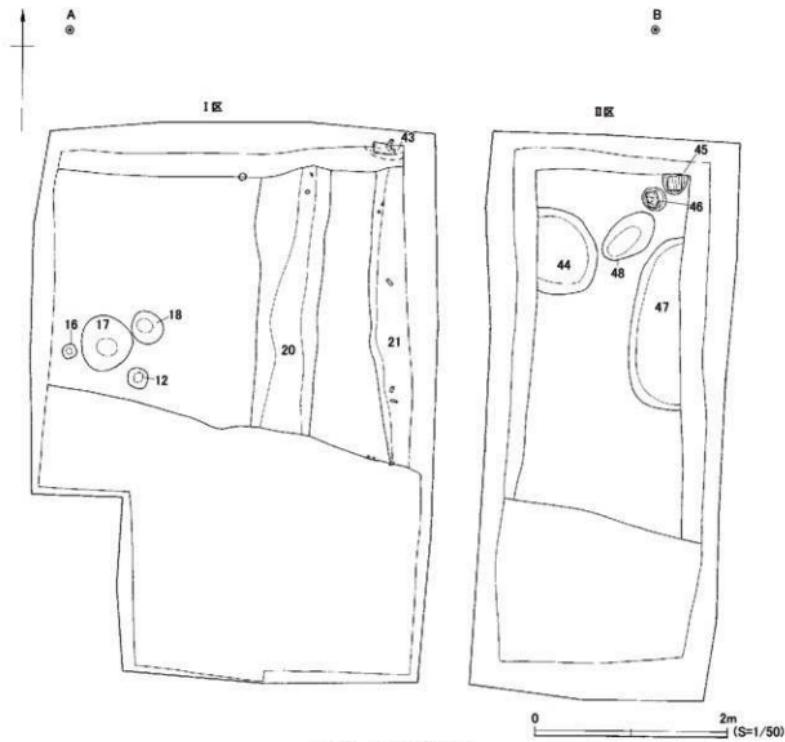
遺構15(図12)

円形を呈するピットである。遺構13を切る。遺構覆土は黒褐色弱粘質土・貝砂・褐色砂質土を含む。遺構上層は泥岩細片で蓋をしたようになっていた。遺物は出土していない。

第2面構成土出土遺物（図12）

第2面検出後、第3面検出までの堆積層で発見した遺物である。1～8はかわらけ。9は青磁鑄蓮弁文碗。10は白磁口元皿。11は白磁口元碗。12は青白磁合子。13は常滑片口鉢I類。14は吉備系碗。15は瓦器碗。16は石製品用途不明。17は漆器椀。18～20は木製品礎板。その他に青白磁碗・常滑甕・常滑片口鉢II類・渥美甕・滑石鍋・獸骨が破片で出土している。

第3節 第3面の遺構と遺物（図13～図14）



第3面は泥岩粒・黒色有機質土を含む茶褐色弱粘質土で遺構を確認した。第1面同様に泥岩・泥岩粒を用いた堅く締まった地業であり、特にII区は顕著に地業土を検出し、上層に平坦な泥岩を意図的に敷き詰めているようにも見えた。礎板の遺存するピットを数穴発見しているが、いずれも調査区際で発見しており建物址を推定することはできなかった。発見した遺構は南北に走る溝2条・土坑3基・ピット5穴。

第3面は海拔15.10mで確認している。

遺構17(図14)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は黒褐色弱粘質土・青灰色弱粘質土・褐色砂質土・泥岩を含む。遺構上層に植物遺体を含む炭化物層が堆積していた。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構18(図14)

円形を呈するピットである。遺構覆土は黒褐色弱粘質土・黒色有機質土・炭化物・木片を含む。遺物はかわらけ・吉備系土器が破片で出土している。

遺構20(図14)

南北に走る溝である。流下方向・規模は不明。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。覆土内に大型の泥岩塊・泥岩・泥岩粒が多く混入する。杭・柱痕を確認しているが、溝に伴うものかは不明である。

出土遺物(図14)

1～2は手づくね。3はかわらけ。その他に手づくね・吉備系土器が破片で出土している。

遺構21(図14)

遺構20に平行して南北に走る溝である。流下方向・規模は不明。遺構20との新旧関係も不明である。遺構覆土は黒褐色弱粘質土・褐色砂質土・黒色有機質土を含む。杭が遺存していた。

出土遺物(図14)

4は手づくね。その他に遺物は出土していない。

遺構44(図14)

円形の土坑である。遺構覆土は暗褐色弱粘質・大型の泥岩を含む。遺構として掲載したが、泥岩の抜き取り痕と考えている。

出土遺物(図14)

5はかわらけ。その他に吉備系土器が出土している。

遺構45(図14)

遺構底面に礎板が遺存するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・褐色砂質土を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構46(図14)

遺構底面に礎板が遺存するピットである。遺構覆土は遺構45覆土に近似、泥岩・泥岩粒・褐色砂質土を含む暗褐色弱粘質土である。遺物は出土していない。

第3面面上出土遺物(図14)

第3面遺構精査時に面上から出土した遺物である。6は手づくね。7は吉備系碗。その他にかわらけが破片で出土している。

第3面構成土出土遺物(図14)

第3面遺構検出後、第4面までの堆積層で発見した遺物である。8～11は手づくね。12～17はかわらけ。18は瓦器碗。19は平瓦。20～22は木製品用途不明。その他に青磁蓮弁文碗・青磁割花文碗・白磁口元碗・常滑壺・渥美鉢・吉備系土器・獸骨が破片で出土している。

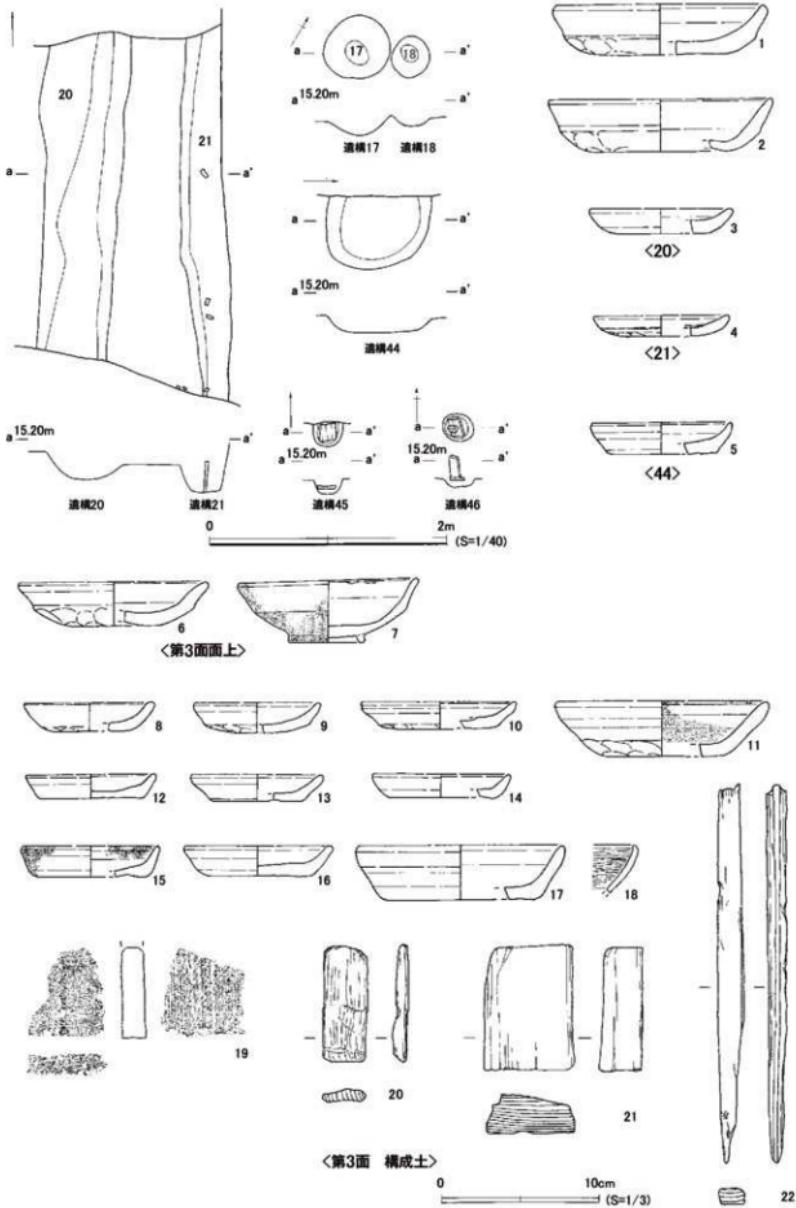


図14 第3面・遺構17・18・20・21・44・45・46・面上・構成土・出土遺物

第4節 第4面の遺構と遺物（図15～図18）

第4面は褐色砂質土・黒色有機質土を含む黒褐色弱粘質土上で遺構を確認した。第4面の遺構覆土・構成土等には有機質土が多く含まれるが、II区では遺構の発見がなく、スクリーントーンで示した個所は葉状の植物遺体が面上に遺存していた。発見した遺構は土坑5基・ピット13穴。第4面は海拔約14.50mで確認している。

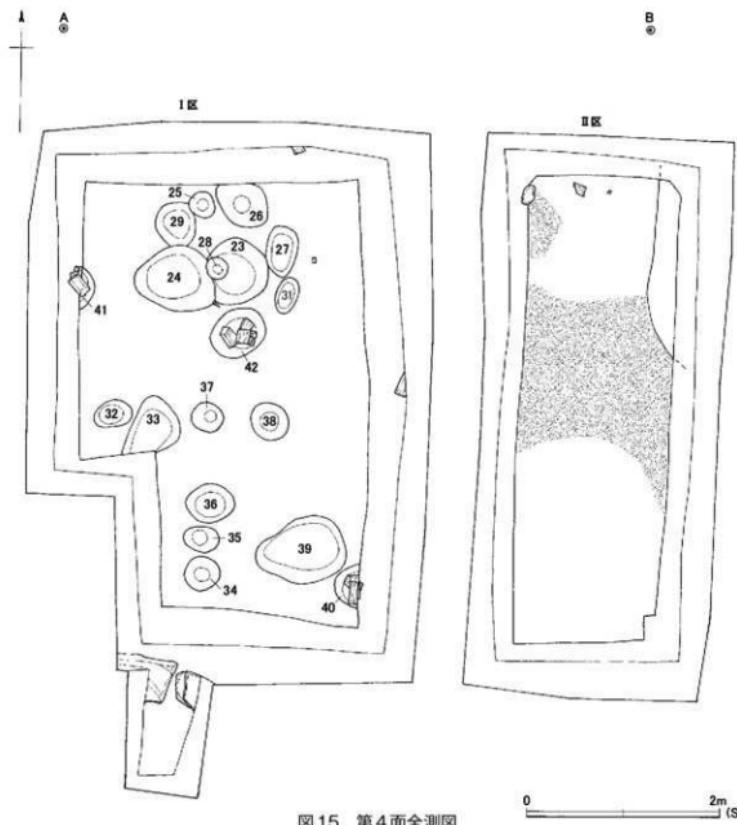


図15 第4面全測図

遺構34(図16)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・黒色有機質土・褐色粘土を含む。遺物は出土していない。

遺構35(図16)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・黒色有機質土・褐色粘土を含む。遺物

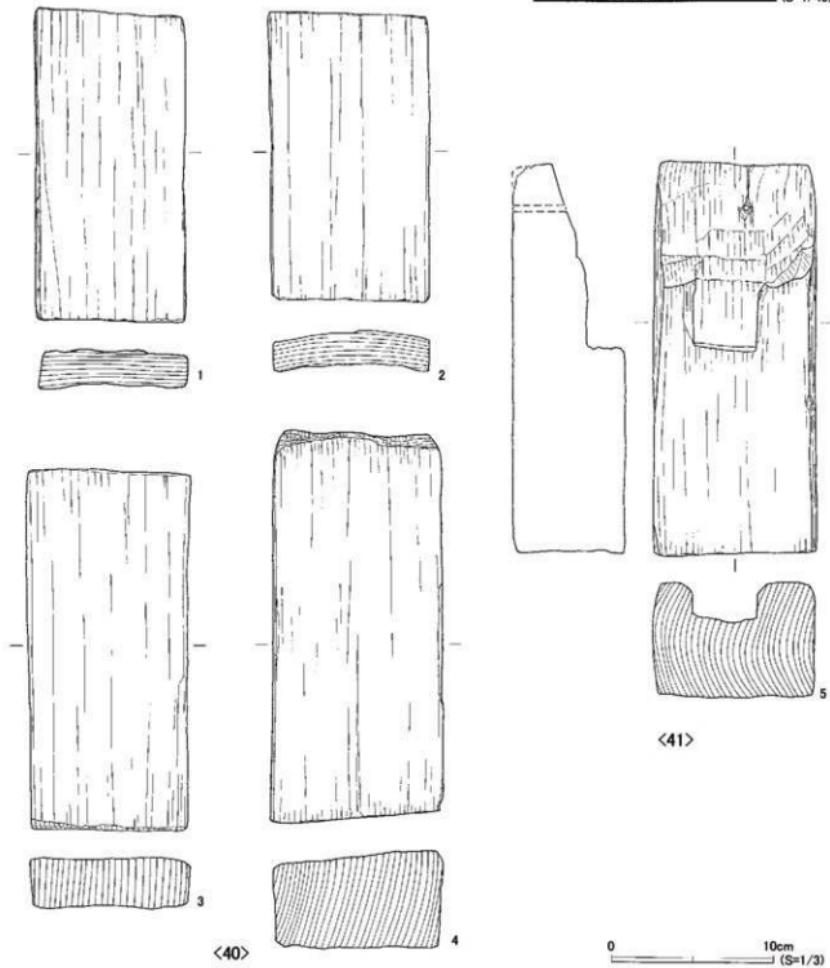
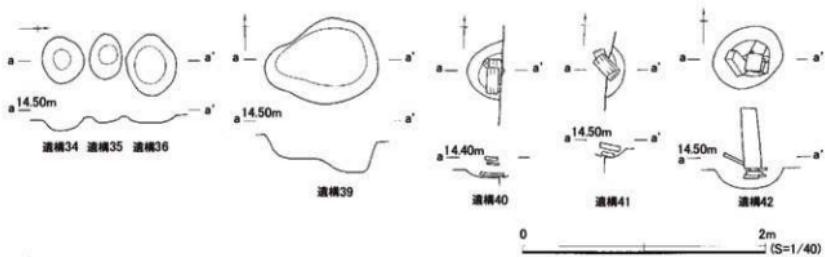


図16 第4面・遺構40・遺構41出土遺物

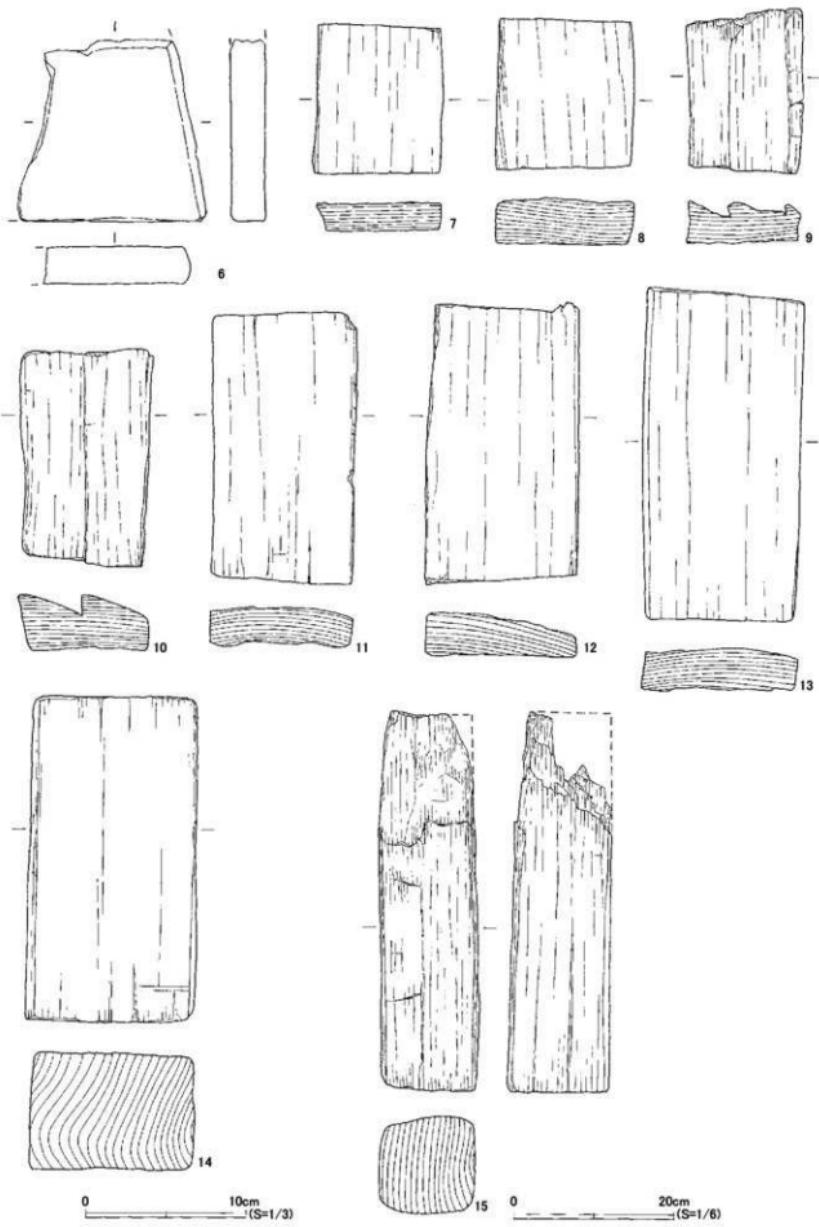


図17 第4面・遺構42出土遺物

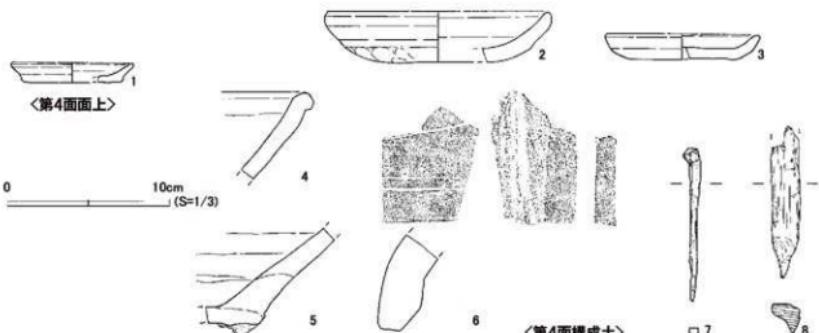


図18 第4面・面上・構成土出土遺物

は出土していない。

遺構36(図16)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・黒色有機質土・褐色粘土を含む。遺物は出土していない。

遺構39(図16)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・黒色有機質土・褐色粘土を含む。遺物は出土していない。

遺構40(図16)

遺構底面に礎板が遺存するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・黒色有機質土・褐色粘土を含む。

出土遺物(図16)

1~4は木製品礎板。その他に遺物は出土していない。

遺構41(図16)

遺構底面に礎板が遺存するピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・黒色有機質土・褐色粘土を含む。

出土遺物(図16)

5は木製品礎板。遺構覆土に遺存していたその他の礎板は遺存状態が悪く実測できなかった。その他に遺物は出土していない。

遺構42(図15)

梢円形を呈するピットである。遺構内に礎板・柱材が遺存していた。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土・黒色有機質土・褐色粘土を含む。遺構内に遺存していた礎板は規格が均等ではなく、何度か礎板を追加しながら修復をした印象を受ける。

遺構内に礎板が遺存していた遺構40・遺構41・遺構42は、覆土も近似しているが、その関係性は不明である。仮に、遺構41と遺構42と、その東、調査区間に遺存していた礎板の芯芯距離を測ると、それぞれ約175cmを測る。東に遺存する礎板と遺構40の芯芯距離は約210cm。遺構42とその北側に遺存

していた礎板の芯芯距離を測ると約210cmを測り、全体で2間×2間の建物址と考える事が出来る。調査区北・東際で検出した礎板は、第3面遺構検出後、第4面に掘り下げ途中で発見したため、個別の図面を図示することが出来なかった。

出土遺物(図17)

6は木製品下駄、黒色系漆が塗装してあった。7～14は木製品礎板。15は木製品柱材。その他に遺物は出土していない。

第4面面上出土遺物(図14)

第4面遺構検出時に採集した遺物である。1は吉備系土器、皿。その他に遺物は出土していない。

第4面構成土出土遺物(図(図14))

第4面遺構検出後、後述する最終トレンチ内で層位毎に採集した遺物の内、第4面構成土出土遺物を掲載した。2は手づくね。3はかわらけ。4は常滑器種不明、鉢か。5は常滑壺。6は丸瓦。7は金属製品、釘。8は木製品加工材。その他に吉備系土器・木製品が破片で出土している。

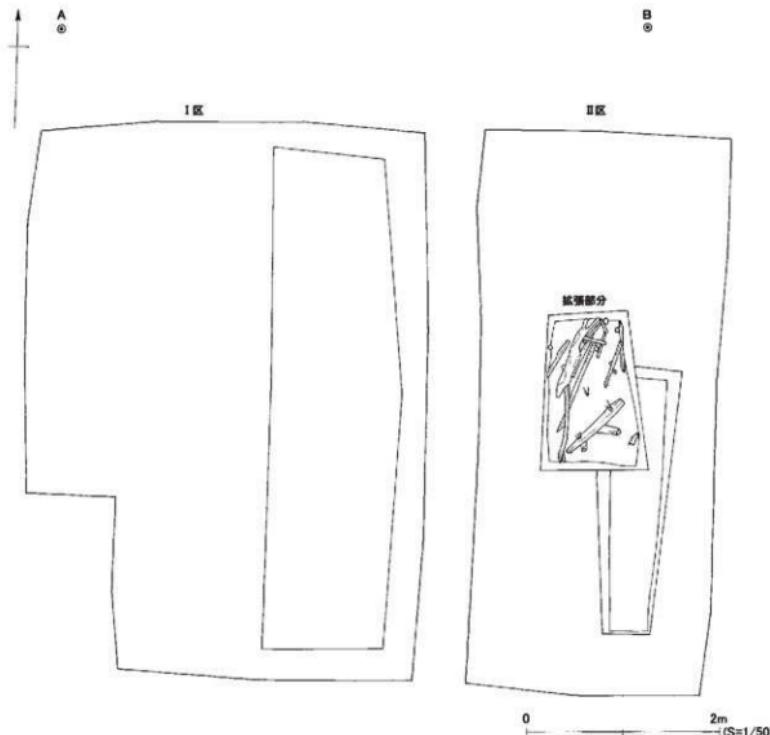


図19 最終確認トレンチ

第5節 最終確認トレンチ（図19）

I区・II区とともに、第4面検出後トレンチを設け下層の堆積を観察した。I区トレンチは約50cm下層まで掘り下げたが中世地山及び、生活面を確認できなかった。第4面構成土は茶色有機質土を含む暗褐色弱粘質土が堆積していた。II区トレンチも同様に約50cm下層まで掘り下げたが中世地山及び生活面は検出できず、茶色有機質土を含む暗褐色弱粘質土の堆積を確認している。トレンチ北側で杭状の木材を検出したため、確認のためにその周辺を拡張したところ杭とともに自然木と加工木が混在して遺存していた。発見した杭はいずれも丸杭で板材を両側から挟むように打たれていたが、講あるいは建物といった構造物に関わるものと考えるには規則性を窺えず土留めであった可能性を考えている。拡張部分下層の堆積土には砂礫が多く混入しており、堆積土だけをみると河川・溝等の覆土に近似している。確認レベルは海拔13.80mである。

第6節 表土採集遺物（図20）

表土及び調査区外で発見した遺物である。1～4はかわらけ。5は青磁皿。6は白磁口兀皿。7は青白磁梅瓶。8は瀬戸平碗。9～10は瀬戸鉢皿。11～13は常滑片口鉢Ⅱ類。14は常滑堺。15は平瓦。

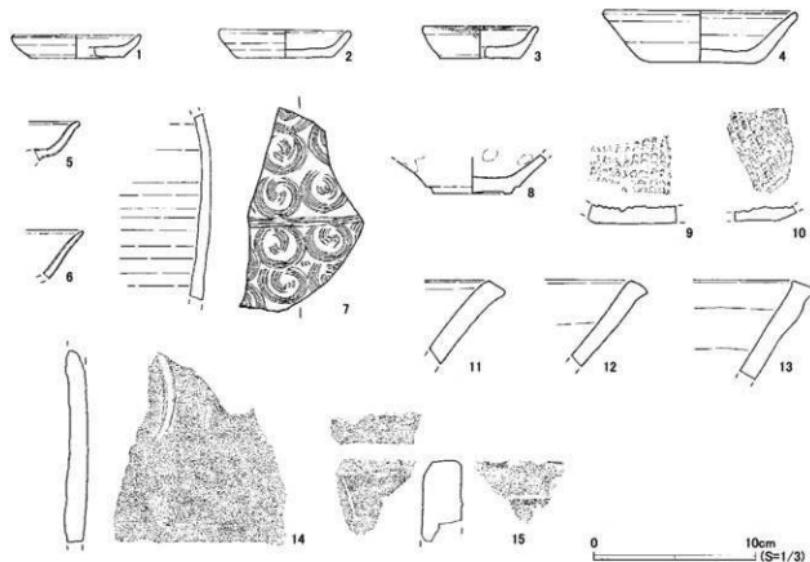


図20 表土採集遺物

第三章　まとめ

本調査地点は多くの支谷を有する扇ヶ谷の中央付近、法泉寺谷の開口部西側に位置し、調査地前には扇川(暗渠)と中世の幹線道路であった武藏大路が東西に走る。扇ヶ谷には現在廃寺となった寺院を含め、多くの寺院が現在も存在し、武家屋敷があったことが知られると共に、仏師などの工人が在し、繁華な商業城でもあり町屋の要素も含む一帯であった。また、室町時代には扇ヶ谷上杉氏の居館が構えられていた。法泉寺跡遺跡の位置する法泉寺谷は明治二十二年の横須賀線開通に伴い、法泉寺谷を縱断する線路によって谷の大半を失ってしまっている。

(1) 検出した遺構と遺物

本調査では浅く堆積した現代埋土を重機によって除去し、大小の泥岩・泥岩粒を含む堅く締まった地業土を検出し第1面とした。調査はⅠ区・Ⅱ区に調査区を分割して実施したために、調査区中央付近は未調査に終わっている。Ⅰ区、Ⅱ区に分断して発見した第1面の溝(遺構3)の石積みは、一部調査区を拡張して調査区内の石積みを検出した。以下、本調査では4枚の生活面を報告している。

第1面で発見した溝(遺構3)は調査区外に遺構が延びており、溝北壁の石積みを検出するにとどまつたが、一部調査区を拡張し部分的ではあるが南側の石積みを検出・記録している。石積みは3段の石列と4段石列の箇所があり、工人あるいは普請分担の異を示唆していた。幅約190cm、深さ約98cmを測る規模の大きな溝であり、調査地前面を東西に走る武藏大路に伴う溝であったと考えている。この石積みの溝は、本調査地から武藏大路を南に約180m行った地点の調査(未報告)でも、道路東側に石積みの溝が発見されており、武藏大路の片側には石積みの溝が付随していたと考えられる。武藏大路の両側に溝が設けられていたか否かは現時点では不明である。また、調査地前を現在は暗渠となった扇川が流れしており、この溝が扇川であった可能性もある。溝(遺構3)出土遺物は上・中・下層と分けて採集した。溝底面を含む下層出土の遺物は概ね14世紀代の年代を示していたが、上・中層は遺物の年代に大きな差がないことから見て、遺構を廃棄する際に時間を作けずに一気に埋められたのではないかと考えられる。出土遺物から溝の廃絶時期は15世紀初頭の年代を与えているが、溝が機能していただろう第1面の年代は、溝の上面から2段目ぐらいまでの厚さを持つ構成土(地業土)出土の遺物から14世紀代の年代を考えている。この構成土は大小の泥岩・泥岩粒を多く含み、厚いところでは約70cmの深さを持つ。

第2面は褐鉄を多く含む硬化した地業土で遺構を発見している。検出遺構はⅠ区に集中し、面上・遺構覆土内からの出土遺物は破片のため報告できず、報告している構成土からの遺物も出土数は少ない。少量の出土遺物から年代を比定するのは危ういが13世紀後半を廻ることはないと考えている。

第3面は泥岩・泥岩粒を用いた堅く締まった地業土で遺構を発見している。特にⅡ区は地業土上層に平坦に加工した泥岩を意図的に敷き詰めているようにも見えた。南北に走る2条の溝を検出し、礎板の遺存するピットを数穴検出したが、調査区外に遺構が延び、溝の規模や建物址などを推定できていない。また、第2面と同じく出土遺物は少量であったが、破片・報告分遺物も含めて手づくね成形のかわらけ出土量が多くなる。第3面は13世紀第3四半期の年代を与えている。

第4面は褐色砂質土・黒色有機質土を含むやや脆弱な地業土上で遺構を発見している。Ⅱ区の面上に

は葉状の植物遺体が広範囲に広がっていた。礎板を覆土内に遺存するピットを数穴検出しているが、調査区外に遺構が伸びているため建物址を確認することはできなかった。第4面は面上・遺構覆土内からの出土遺物がない。構成土出土遺物も少量であり、指標とする遺物がないために年代を比定することは困難だが、概ね13世紀中頃を想定している。第5面は調査区中央にトレンチを設け、下層の堆積土を確認した。トレンチ底面からは杭を伴う側板などを検出したが、出土遺物が殆どなかつたため、年代は不明である。

(2)まとめ

法泉寺跡遺跡では本調査地点と西隣に近接する扇ヶ谷四丁目518番12地点（以降A地点とする）で2例目の調査である（図21）。本調査地点第1面と、A地点第2面は検出レベルをほぼ同じくし、それぞれの構成土は多量の大小泥岩・泥岩粒を用いる堅く締まった厚い堆積土による地業であった。本調査で検出した調査地前面を東西に走る武藏大路は交通の要路であったため、大路に伴う凝灰質砂岩（鎌倉石）切石による石積みの壁を持つ溝（遺構3）は普請・修築等の際に御家人等の普請分担がある公共的な性格を持つと考えられ、本調査ではその分担を思わせる異なる石積みを確認した。A地点第3面は本調査地第2面に相当する。この生活面も泥岩細片を使用した堅く締まった地業が特徴的であり、検出遺構はともに少ない。上層の溝（遺構3）は第2面地業を削平して造られている。A地点第4面は本調査地点第3面に相当する。本調査地点は溝2条に若干の遺構を検出しただけであるが、A地点は少なくとも3時期の遺構が切り合って検出されている。屋敷地は大路に沿った地点からやや奥まった場所に位置していたということだろう。本調査地点で検出した溝は南北方向に伸びるが、A地点では背後の丘陵裾に合わせたような方向で溝を検出した。A地点第5面は本調査地第4面に相当する。ともに生活面を検出した地業は上層の泥岩・泥岩細片を含む堅く締まった地業ではない。本調査地第4面では上層で溝を検出した位置に礎板が遺存するピット等遺構が検出された。第2面を週る時期には武藏大路、扇川とともに調査地点よりも南に位置していたと思われる。本調査地点第5面に相当する生活面の検出・確認をA地点では調査していない。本調査地点でもトレンチによる堆積土の確認調査に終わったが、河川覆土に近似する砂礫の混入する堆積土を確認している。

三方を山に囲まれる鎌倉は平坦な土地が少ないために、土地利用を図り13世紀中頃から市中を取り囲む山稜の切り崩しをはじめ、13世紀後葉には丘陵裾の造成がさらに活発となり、造成と同時に出る地業の混和材となる泥岩・溝壁・建物・基壇・礎石・切石敷き・石垣など土木・建築に利用する凝灰質砂岩（鎌倉石）切石等の石材利用の組織的な生産体制が確立される。14世紀に入ると石材利用はさらに活発になり寺院・幕府や北条氏と関係の深い一部の施設・屋敷などが特権的に利用していた石材は都市全体に利用状況が広がってき、15世紀中葉に至るまでその活気は続くことが近年の調査成果からわかっている。本調査地点で検出した生活面は鎌倉で丘陵裾を造成し石材利用が活発になった時期と重なり、検出した地業・厚い地業覆土は活発な石材利用を裏付け、本調査第1面とA地点第2面は13世紀末から14世紀代の年代を与えており、法泉寺が現存していた時期と重なると共に、第1面で検出した溝（遺構3）は、組織的な普請・石材利用を裏付けるものとなった。

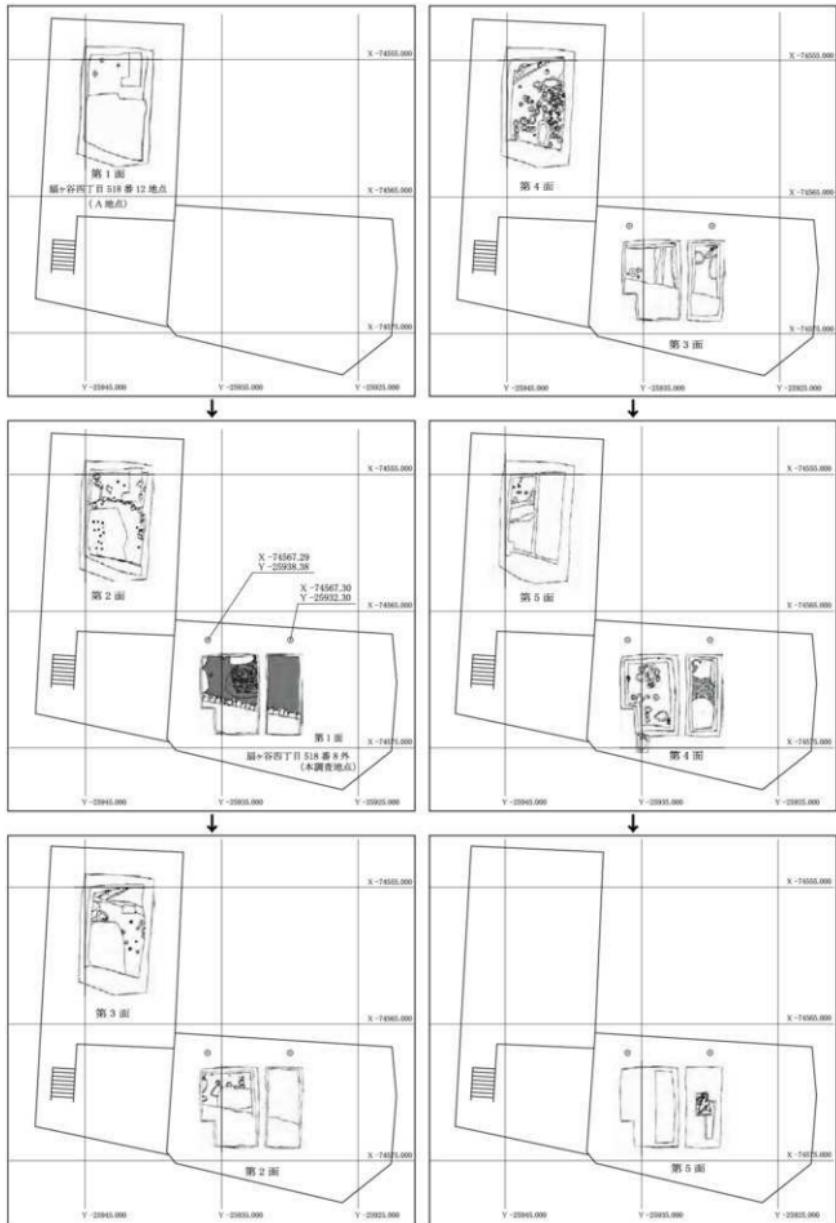


図21 本調査地と扇ヶ谷四丁目518番12地点の遺構位置図

<参考文献>（本報分に共通する）

- ・「日本歴史大系14巻」「神奈川県の地名」 平凡社 昭和62年
- ・「鎌倉市史 総説編」 高柳光寿 吉川弘文館 1959年
- ・「鎌倉市史 考古編」 赤星直忠 吉川弘文館 1967年
- ・「鎌倉市史 社寺編」 高柳光寿・佐藤栄智・川副竹風・貫達人 吉川弘文館 1972年
- ・「鎌倉の古絵図Ⅱ」「鎌倉国宝館図録 第16集」 三浦勝男編集 平成5年
- ・「鎌倉事典」 東京堂出版 平成4年 白井永二
- ・「庵寺事典」 有隣堂 贫達人・川副竹風 1980年
- ・「中世瀬戸窯の研究」 高志書院 藤澤良祐 2008年
- ・「愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系」 愛知県 常滑・中野晴久 2012年
- ・「愛知県史別編窯業3中世・近世常滑系」 愛知県 湿美・安井俊則 2012年
- ・「太宰府条坊跡XV－陶磁器分類編一」 太宰府市教育委員会 2000年
- ・「考古論叢 神奈川第2集」「中世火鉢考」 神奈川県考古学会 河野眞知郎 1993年
- ・「永福寺跡—遺物・考察編—」「第4章 出土瓦について」 原廣志 鎌倉市教育委員会 2002年
- ・「扇ヶ谷地域内のやぐら群について」「鎌倉50号」 宮田眞 昭和60年 鎌倉文化研究所
- ・「中世鎌倉における谷戸開発のある側面」「鎌倉69号」 馬淵和雄 平成4年 鎌倉文化研究所
- ・「日本の美術No.403」「城の石垣と堀」 至文堂 田中哲雄 1999年
- ・「武藏大路周辺遺跡発掘調査報告書(扇ヶ谷二丁目382番1地点)」 2000年 大河内勉 武藏大路発掘調査団

造構観察表

造構No.	面	造構	長軸	短軸	深さ	造構覆土	
						泥化物・茶色有機質土・造構3(溝)に伴うビットか 泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・造構4(溝)に伴う ビットか	泥化物・茶色有機質土・造構3(溝)に伴うビットか 泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・造構4(溝)に伴う ビットか
1	1	ビット	33	31	15	暗褐色弱粘質土	泥化物・茶色有機質土・造構3(溝)に伴うビットか 泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・造構4(溝)に伴う ビットか
2	1	ビット	32	25	2	暗褐色弱粘質土	泥化物・茶色有機質土・造構3(溝)に伴うビットか 泥岩粒・炭化物・茶色有機質土・造構4(溝)に伴う ビットか
3	1	溝	(700)	190	55	国3 土層計測参照	
4	1	ビット	31	25	14	暗褐色弱粘質土	泥化物・褐色砂質土
6	1	落ち込み	238	(220)	51	暗褐色弱粘質土	大型泥岩を発達した落ち込みか
7	2	土坑	(104)	(36)	6	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・褐鉄・調査区外に造構が延びる
8	2	ビット	34	32	9	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・褐色砂質土
9	2	ビット	35	(26)	5	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・褐色砂質土
10	2	ビット	37	(37)	12	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・調査区外に造構が延びる。上層に安山岩遺存・礫石か
11	2	ビット	26	25	19	青褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・褐色砂質土
12	2	土坑	87	(48)	6	黄褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・褐鉄
13	2	ビット	(35)	36	9	青褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・褐色砂質土・造構9を切る
14	2	ビット	29	25	5	茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・褐鉄
15	2	ビット	29	23	4	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・造構13を切る
16	3	ビット	14	14	19	黑褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物多量
17	3	土坑	57	54	14	黑褐色弱粘質土	上層に植物遺体・炭化物
18	3	ビット	32	34	9	黑褐色弱粘質土	炭化物・茶色有機質土・木片
19	2	土坑	(42)	(18)	32	暗褐色弱粘質土	泥岩・炭化物・褐色有機質土・貝殻・造構7に切ら れる
20	3	溝	(275)	(59 ~ 72)	23	暗褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒・調査区外に造構が延びる。流下方向 不明
21	3	溝	(295)	(37)	22	暗褐色弱粘質土	褐色砂質土・茶色有機質土・調査区外に造構が延び る。流下方向不明
22	3	ビット	21	19	11	暗褐色弱粘質土	炭化物・褐色砂質土・茶色有機質土
23	4	土坑	66	(59)	8	暗茶褐色弱粘質土	褐色砂質土・茶色有機質土
24	4	土坑	86	68	6	暗茶褐色弱粘質土	褐色砂質土・茶色有機質土・造構29を切る
25	4	ビット	26	25	14	暗茶褐色弱粘質土	褐色砂質土・茶色有機質土・造構29を切る
26	4	土坑	(55)	42	20	暗茶褐色弱粘質土	褐色砂質土・茶色有機質土・調査区外に造構が延び る。流下方向不明
27	4	ビット	50	33	19	暗茶褐色弱粘質土	褐色砂質土・茶色有機質土
28	4	ビット	22	21	21	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土・造構23・造構24を切る
29	4	ビット	(42)	41	8	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
30	2	ビット	(35)	(13)	7	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
31	4	ビット	37	25	7	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
32	4	ビット	37	29	4	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
33	4	土坑	(57)	44	17	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土・調査区外に造構が延びる
34	4	ビット	37	35	9	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
35	4	ビット	37	26	7	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
36	4	ビット	50	41	7	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
37	4	ビット	32	29	20	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
38	4	ビット	37	35	8	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
39	4	土坑	93	69	20	暗茶褐色弱粘質土	茶色有機質土・褐色粘土
40	4	ビット	44	(30)	(7)	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・調査区外に造構が延びる・鍵板あり
41	4	ビット	42	(24)	(9)	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・調査区外に造構が延びる・鍵板あり
42	4	ビット	55	50	20	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・鍵板あり
43	3	ビット	—	—	—	—	側溝掘り下げ時に発見。規模・形状・造構覆土不明・ 鍵板あり
44	3	土坑	89	(62)	13	暗褐色弱粘質土	大型泥岩の抜き取り痕・調査区外に造構が延びる
45	3	ビット	25	(20)	9	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩粒・褐色砂質土・調査区外に造構が延びる・ 鍵板あり
46	3	ビット	25	24	6	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・鍵板あり
47	3	土坑	175	(50)	8	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・調査区外に造構が延びる・鍵板あり
48	3	土坑	56	39	7	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物

単位(cm)

出土遺物観察表

測定 番号	枚番	出土位置	種別	口径/底径	底径/幅	器高/厚	観察内容		
							a: 成形・開削	b: 動土・素地・材質	c: 色調
6	1	遺構3上層	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.2	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・赤色粒・黒色粒・雲母多・海綿骨芯	c: 黄褐色
6	2	遺構3上層	かわらけ	(7.4)	(4.6)	2.0	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・黒色粒・雲母多	c: 黄褐色
6	3	遺構3上層	かわらけ	(7.9)	(5.2)	1.7	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・黒色粒・雲母多・海綿骨芯	c: 黄褐色
6	4	遺構3上層	かわらけ	(8.2)	(5.2)	2.4	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・黒色粒・雲母多・海綿骨芯	c: 黄褐色
6	5	遺構3上層	かわらけ	(11.2)	(6.6)	3.4	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・黒色粒・雲母多・海綿骨芯	c: 黄褐色
6	6	遺構3上層	青磁	—	—	—	a: ロクロ	b: 水白色	c: 黑色粒をわずかに含む
6	7	遺構3上層	片口直口盤	—	—	—	a: 露砂	b: 露砂・小石粒・長石	c: 赤褐色
6	8	遺構3上層	青磁	(6.2)	(3.2)	1.2	a: 露砂	b: 露砂・小石粒	c: 赤褐色
6	9	遺構3上層	板輪	(8.0)	(8.0)	2.0	a: 露砂	b: 露砂・小石粒・長石	c: 露砂
10	10	第1回 遺構3上層	瓦質	—	—	—	a: 露砂	b: 露砂・白色粒	c: 水白色
6	11	遺構3上層	瓦質	—	—	—	a: 露砂	b: 露砂・白色粒・雲母	c: 黑色
6	12	遺構3上層	土製品	6.2	3.1	—	a: 露砂	b: 露砂・雲母	c: 棕褐色
6	13	遺構3上層	土鉢	(5.2)	(3.9)	—	a: 露砂	b: 露砂・雲母	c: 棕褐色
7	14	遺構3上層	木製品	(13.0)	0.5	0.4	a: 露砂	b: 露砂	c: 黑色
7	15	遺構3上層	木製品	(14.0)	0.8	0.5	a: 露砂	b: 露砂	c: 黑色
7	16	遺構3上層	木製品	19.7	1.6	0.4	a: 露砂	b: 露砂	c: 黑色
7	17	遺構3上層	木製品	(9.0)	1.2	0.3	a: 露砂	b: 露砂	c: 黑色
7	18	遺構3上層	木製品	(13.0)	0.8	0.8	a: 露砂	b: 露砂	c: 黑色
7	19	遺構3上層	木製品	(17.0)	1.2	0.2	a: 露砂	b: 露砂	c: 黑色
7	20	遺構3上層	てづくね	(9.2)	—	2.2	a: てづくね 内底ナメ 外底凹軸孔ナメ消し	b: 露砂・赤色粒・雲母多・海綿骨芯	c: 棕褐色
7	21	遺構3上層	てづくね	(12.6)	—	3.0	a: てづくね 内底ナメ 外底凹軸孔	b: 露砂・赤色粒・雲母多・海綿骨芯	c: 棕褐色
7	22	遺構3上層	てづくね	(11.6)	—	2.7	a: てづくね 内底ナメ 外底凹軸孔ナメ消し	b: 露砂・赤色粒・雲母多・海綿骨芯	c: 棕褐色
7	23	遺構3上層	てづくね	(12.4)	—	3.0	a: てづくね 内底ナメ 外底凹軸孔	b: 露砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯	c: 棕褐色
7	24	遺構3上層	てづくね	(13.0)	—	3.9	a: てづくね 内底なまぐれ 外底凹軸孔ナメ消し	b: 板状灰岩	c: 露砂・赤色粒・雲母多・海綿骨芯
7	25	遺構3上層	かわらけ	(7.2)	(5.6)	1.2	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯	c: 棕褐色
7	26	遺構3上層	かわらけ	(5.8)	(3.4)	1.8	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・赤色粒・雲母	c: 黑色
7	27	遺構3上層	かわらけ	(7.2)	4.8	2.3	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯	c: 黑色
7	28	遺構3上層	かわらけ	(8.9)	(5.8)	2.2	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯	c: 黑色
7	29	遺構3上層	かわらけ	(12.2)	(7.5)	3.1	a: ロクロ 内底ナメ 外底凹軸孔切引	b: 露砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯	c: 黑色
7	30	遺構3上層	かわらけ	(15.4)	—	—	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒・雲母	c: 黑色
7	31	遺構3上層	折沿口	—	—	—	a: ロクロ c: 露砂	b: 露砂・赤色粒	c: 黑色
7	32	遺構3上層	廻戻口	—	—	—	a: ロクロ b: 露砂・赤色粒	c: 露砂・赤色粒	c: 黑色
7	33	第1回 遺構3上層	瓦質	—	—	—	a: 露砂	b: 露砂・白色粒・雲母	c: 黑色
7	34	遺構3上層	かわらけ	(7.6)	(5.8)	1.7	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒・雲母	c: 黑色
7	35	遺構3上層	かわらけ	(12.1)	(8.4)	3.5	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒・雲母	c: 黑色
7	36	第1回 遺構3上層	古希系 繩	—	(4.6)	—	a: てづくね b: 白色粒	b: 露砂・赤色粒・雲母	c: 黄褐色
7	37	遺構3上層	土製品	—	—	—	b: 黑褐色・露砂・白色粒・黒色粒・雲母多	c: 白色	c: 黄褐色
7	38	遺構3上層	土製品	(10.0)	(7.0)	1.1	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒・雲母	c: 黄褐色
7	39	第1回 遺構3上層	漆器 漆	—	—	—	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒・雲母	c: 黄褐色
8	40	第1回 遺構3上層	本製品	14.4	0.5	0.5	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色
8	41	遺構3上層	本製品	(14.5)	0.5	0.2	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色
8	42	遺構3上層	本製品	(15.1)	0.5	0.4	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色
8	43	遺構3上層	本製品	(15.3)	0.5	0.5	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色
8	44	遺構3上層	本製品	(15.3)	0.7	0.5	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色
8	45	遺構3上層	本製品	(16.1)	0.5	0.5	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色
8	46	遺構3上層	本製品	16.6	0.6	0.4	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色
8	47	遺構3上層	本製品	16.5	0.5	0.5	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色
8	48	遺構3上層	本製品	(17.1)	0.6	0.4	a: ロクロ b: 滅失	b: 露砂・赤色粒	c: 黄褐色

単位: cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物観察表

国施 番号	柱番 号	出土面 位置	種別	口径 / 長さ	底径 / 幅	高さ / 厚	縦横内面							
							a: 横毛・済溝	b: 納・蓋	c: 色調	d: 軸洞	e: 地底	f: 残存値	g: 推考	
8	49	第1面 通路3下層	木製品 箸	19.2	0.5	0.5								
8	50	第1面 通路3下層	木製品 箸	20.4	0.6	0.3								
8	51	第1面 通路3下層	木製品 箸	20.1	0.7	0.4								
8	52	第1面 通路3下層	木製品 箸	20.1	0.6	0.5								
8	53	第1面 通路3下層	木製品 箸	20.6	0.5	0.4								
8	54	第1面 通路3下層	木製品 箸	21.4	0.7	0.3								
8	55	第1面 通路3下層	木製品 箸	21.3	0.6	0.3								
8	56	第1面 通路3下層	木製品 箸	24.2	0.5	0.3								
8	57	第1面 通路3下層	木製品 箒	(88)	(3.2)	0.1								
8	58	第1面 通路3下層	木製品 箒	(257)	1.2	0.6								
8	59	第1面 通路3下層	木製品 箒	(215)	1.3	0.7								
8	60	第1面 通路3下層	木製品 箒	(88)	(1.5)	0.3	板折れ							
8	61	第1面 通路3下層	木製品 箒	(113)	1.0	0.5								
8	62	第1面 通路3下層	木製品 箒	(141)	0.7	0.4								
8	63	第1面 通路3下層	木製品 箒	(162)	1.15	0.5								
8	64	第1面 通路3下層	木製品 箒	(188)	1.8	0.3								
8	65	第1面 通路3前方	かわらけ	(63)	(5.2)	1.4	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 不明瞭 b: 滑移・赤色調・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5							
8	66	第1面 通路3前方	かわらけ	(133)	(7.1)	3.5	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 不明瞭 b: 滑移・赤色調・雲母・海綿骨芯 e: 良好 f: 良好 f: 1/2							
8	67	通路3前方	金属製品 鉢	径2.3・孔0.7×0.7	厚さ0.1	g: 銅筋元器 初唐 北宋 - 1094年 行書								
9	1	道橋6	かわらけ	(80)	(5.6)	1.9	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・雲母・赤色調・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5							
9	2	道橋6	かわらけ	(73)	(5.2)	1.6	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・雲母・赤色調・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5							
9	3	道橋6	かわらけ	(129)	(8.7)	3.6	a: ロクロ 水洗痕ナメ 外底回転系切り b: 滑移・雲母・赤色調・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4							
9	4	道橋6	瓦 平瓦	—	—	(2.8)	a: 古面 不明瞭な斜倚子の跡 b: 古面 磨擦・削除・側面: 先端部緑茶色 基面: 黄褐色 b: 滑移・墨跡・小石粒 粗目 c: 良好 f: 1/4							
9	5	道橋6	瓦 平瓦	—	—	—	f: 斜倚の形造り 面: 黒褐色底座、赤色による塗装、型押し、円文・桜文							
10	1	第1面 通路	かわらけ	(68)	(5.0)	1.5	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・雲母・赤色調・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 良好 f: 1/4 外底回転系切り							
10	2	第1面 通路	かわらけ	(76)	(4.9)	1.75	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4							
10	3	第1面 通路	かわらけ	(82)	(5.7)	1.65	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5							
10	4	第1面 通路	かわらけ	(82)	5.0	1.8	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 2/3							
10	5	第1面 通路	かわらけ	(68)	(4.0)	2.15	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 外底回転系切り							
10	6	第1面 通路	かわらけ	(118)	(7.2)	3.2	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4							
10	7	第1面 通路	かわらけ	(129)	(6.8)	3.7	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 内外底面黒色							
10	8	第1面 通路	かわらけ	(129)	7.0	3.5	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5							
10	9	第1面 通路	瓦器質 土器	—	—	—	b: 黑色・砂紋・白色調・雲母 c: 灰白色 e: 良好 f: 1/4 黑色底座							
10	10	第1面 通路	木製品 用具(3個)	(116)	(2.1)	1.5	—							
10	11	第1面 通路	木製品 用具(3個)	(146)	(1.4)	0.7	—							
10	12	第1面 通路成土	かわらけ	(74)	(5.3)	1.7	a: ロクロ 内底ナメ 不明瞭 外底回転系切り 板状圧痕 不明瞭 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5							
10	13	第1面 通路成土	かわらけ	(73)	(6.0)	1.7	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 不明瞭 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5							
10	14	第1面 通路成土	かわらけ	(78)	(5.0)	1.7	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4							
10	15	第1面 通路成土	かわらけ	7.1	4.5	1.5	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯・泥岩粒・小石粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 完形							
10	16	第1面 通路成土	かわらけ	7.6	5.4	1.5	a: ロクロ 内底ナメ 不明瞭 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 完形							
10	17	第1面 通路成土	かわらけ	7.4	4.8	1.5	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4 完形							
10	18	第1面 通路成土	かわらけ	(76)	(4.1)	1.7	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4							
10	19	第1面 通路成土	かわらけ	(78)	(5.0)	1.7	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2							
10	20	第1面 通路成土	かわらけ	(76)	4.2	2.3	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・黒色調・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/5 g: 内底窓開口 黑色底座							
10	21	第1面 通路成土	かわらけ	(73)	(5.5)	1.7	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2							
10	22	第1面 通路成土	かわらけ	(118)	(7.0)	3.0	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2							
10	23	第1面 通路成土	かわらけ	(111)	6.4	3.2	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 滑移・赤色調 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4							
10	24	第1面 通路成土	かわらけ	(118)	(6.8)	3.2	a: ロクロ 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 不明瞭 b: 滑移・赤色調・雲母・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/4							

単位: cm ()=復元値 []=残存値

出土遺物觀察表

版番 番号	出上版位置 上版位置	種別	印序/玉号	原版/幅	巻高/厚	翻訳内容		
						a: 成形・調整 b: 板上・板下・材質 c: 白色 d: 黄褐色 e: 淡成或 (e: 遊戲者 g: 猫者	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 25	第1面 模様上	かわらけ	(11.2)	64	32	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 26	第1面 模様上	かわらけ	12.7	81	33	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 27	第1面 模様上	かわらけ	(12.8)	(7.0)	28	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 28	第1面 模様上	かわらけ	(12.6)	84	32	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 29	第1面 模様上	かわらけ	(13.2)	(8.0)	32	a: 小石粉 b: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 30	第1面 模様上	かわらけ	12.7	67	35	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 31	第1面 模様上	かわらけ	12.3	68	35	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色・雲母・海綿骨芯・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 32	第1面 模様上	かわらけ	(14.1)	(8.2)	36	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色多・云母・海綿骨芯・泥岩粉・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・赤色多・云母・海綿骨芯・泥岩粉・瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
10 33	第1面 模様上	かわらけ	(12.8)	(7.6)	34	a: ロクロ b: 白色 c: 精良堅 c: 漢音色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ b: 白色 c: 精良堅 c: 漱音色 e: 良好 f: 1/2	
10 34	香織 香炉	—	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 c: 精良堅 c: 漱音色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ b: 白色 c: 精良堅 c: 漱音色 e: 良好 f: 1/2	
10 35	常滑	—	—	—	—	a: 脇筋み b: 宝来色 粘砂・白色粒・小石粉 c: 黄褐色 e: 細緻 f: 1/2	a: 脇筋み b: 宝来色 粘砂・白色粒・小石粉 c: 黄褐色 e: 細緻 f: 1/2	
10 36	常滑	片口跡・蟹	—	—	—	a: 脇筋み b: 宝来色 粘砂・白色粒・共石・小石粉 c: 赤褐色 e: 細緻 f: 1/2	a: 脇筋み b: 宝来色 粘砂・白色粒・共石・小石粉 c: 赤褐色 e: 細緻 f: 1/2	
10 37	常滑	片口跡・蟹	—	—	—	a: 脇筋み b: 粘砂・白色粒・小石粉 c: 赤褐色 e: 細緻 f: 1/2	a: 脇筋み b: 粘砂・白色粒・小石粉 c: 赤褐色 e: 細緻 f: 1/2	
10 38	常滑	用版	—	—	—	a: 脇筋み b: 宝来色 粘砂・白色粒・共石・小石粉 c: 黄褐色 e: 細緻 f: 1/2	a: 脇筋み b: 宝来色 粘砂・白色粒・共石・小石粉 c: 黄褐色 e: 細緻 f: 1/2	
12 1	第2面 模様上	かわらけ	(8.1)	(6.0)	1.8	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・小石粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・小石粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 2	第2面 模様上	かわらけ	(8.2)	(5.5)	1.6	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 3	第2面 模様上	かわらけ	(8.1)	3.5	1.8	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 4	第2面 模様上	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.7	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・小石粉 c: 赤褐色 e: 細緻 f: 1/2	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・小石粉 c: 赤褐色 e: 細緻 f: 1/2	
12 5	第2面 模様上	かわらけ	(9.0)	51	2.0	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 6	第2面 模様上	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.5	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 7	第2面 模様上	かわらけ	(7.8)	(5.5)	1.6	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 8	第2面 模様上	かわらけ	(8.1)	57	1.7	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・共石・小石粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・共石・小石粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 9	青磁 龍頭文瓶	—	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・精良堅 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・精良堅 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 10	白磁	—	—	—	—	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・精良堅 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・精良堅 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 11	白磁	片口跡	(14.6)	—	2.6	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・精良堅 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ b: 白色 黑色粒・精良堅 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 12	青白磁 合子蓋	4.0	—	—	1.5	a: 型造み b: 白色 黑色粒・精良堅 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: 型造み b: 白色 黑色粒・精良堅 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 13	常滑	片口跡・蟹	—	—	—	a: 脇筋み b: 宝来色 粘砂・共石・小石粉 c: 黄褐色 e: 細緻 f: 1/2	a: 脇筋み b: 宝来色 粘砂・共石・小石粉 c: 黄褐色 e: 細緻 f: 1/2	
12 14	吉備系 瓶	(12.8)	(6.8)	3.4	1.8	a: てづくね b: 黑色・白色粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 壁部断面 g: 外部断面	a: てづくね b: 黑色・白色粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 壁部断面 g: 外部断面	
12 15	五足瓶	—	—	—	—	b: 从口部 黑色粒含む 瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	b: 从口部 黑色粒含む 瓦上 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
12 16	右頬瓶 通明不 透	—	—	—	0.5	b: 黑色岩質 g: 基石か	b: 黑色岩質 g: 基石か	
12 17	右頬瓶 通明不 透	—	—	—	—	a: 制作部 g: 内外底部黑色漆塗装・内外底部漆による遮蔽・手描き、筆記	a: 制作部 g: 内外底部黑色漆塗装・内外底部漆による遮蔽・手描き、筆記	
12 18	木製品 櫛板	[16.1]	8621	12.51	—	—	—	—
12 19	木製品 櫛板	[17.2]	1481	12.51	—	—	—	—
12 20	木製品 櫛板	[20.5]	8609	12.51	g:	左か所の割れ、内一か所は本釘が遺存	左か所の割れ、内一か所は本釘が遺存	
14 1	第3面 通明不 透	てづくね	(13.0)	—	3.1	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 2	第3面 通明不 透	てづくね	(14.0)	—	3.2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 3	第3面 通明不 透	かわらけ	(8.7)	(6.2)	1.6	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 4	第3面 通明不 透	てづくね	(8.3)	—	1.3	a: てづくね 外底面糊系切りによるナマ酒し b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切りによるナマ酒し b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 5	第3面 通明不 透	かわらけ	(8.7)	(6.9)	1.9	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 6	第3面 通明不 透	てづくね	(11.7)	—	2.7	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切りナマ酒し b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯・泥岩粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切りナマ酒し b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯・泥岩粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 7	第3面 通明不 透	吉備系 瓶	11.0	47	3.8	a: てづくね b: 白色 黑色・海綿骨芯・小石粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 高台部貼付付壁部断面 内外底部漆保有	a: てづくね b: 白色 黑色・海綿骨芯・小石粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 高台部貼付付壁部断面 内外底部漆保有	
14 8	第3面 通明不 透	てづくね	(7.8)	—	1.8	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 9	第3面 通明不 透	てづくね	(7.8)	—	1.9	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 10	第3面 通明不 透	てづくね	(9.6)	—	1.7	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切りナマ酒し b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯・泥岩粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切りナマ酒し b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯・泥岩粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 11	第3面 通明不 透	てづくね	(13.2)	—	3.4	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 高台部貼付付壁部断面 内外底部漆保有	a: てづくね 内底ナメ 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2 g: 高台部貼付付壁部断面 内外底部漆保有	
14 12	第3面 通明不 透	かわらけ	(7.9)	(6.6)	1.5	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 13	第3面 通明不 透	かわらけ	(8.1)	(5.5)	1.9	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯・泥岩粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 外底面糊系切り 板状压痕 b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯・泥岩粉 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	
14 14	第3面 通明不 透	かわらけ	(8.5)	(6.5)	1.5	a: ロクロ 内底ナメ 不良 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	a: ロクロ 内底ナメ 不良 外底面糊系切り b: 微妙・雲母・白色粒・共石・海綿骨芯 c: 黄褐色 e: 良好 f: 1/2	

単位: cm () = 復元値 [] = 残存値

出土遺物觀察表

規番 号	柱番 号	上部材 置	種別	口径/長さ	底径/幅	高さ/厚	規格内容		
							a: 形成、調整 b: 削り、素地、材質 c: 色調 d: 鋼管 e: 他成 f: 進行値 g: 管外		
14	15	上部材置	第3面 横構成	かわらけ	(8.4)	(6.6)	1.9	a: ロクロ 内成ナ子デ 外底回転系切り b: 鋼管、雲母、黒色鉄、海綿骨芯 c: 黄灰色 e: やや青い f: 1.4 g: 内底内凹低頭保形 内底切削面	
14	16	上部材置	第3面 横構成	かわらけ	(9.0)	(6.5)	1.9	a: ロクロ 内成ナ子デ 外底回転系切り b: 鋼管、雲母、黒色鉄、海綿骨芯 c: 黄灰色 e: やや青い f: 1.4 g: 内底内凹低頭保形 内底切削面	
14	17	上部材置	第3面 横構成	かわらけ	(12.8)	(10.0)	3.4	a: ロクロ 内成ナ子明、外底回転系切り b: 鋼管、雲母、赤色鉄、海綿骨芯、泥引鉄 c: 棱角 e: 良好 f: 1.5 g: 内底内凹低頭保形 内底切削面	
14	18	上部材置	瓦屋根	—	—	—	b: 黄色 黑色合色 c: 黑色 e: 良好 f: 口縁部 g: 内面側面に棱位の崩れ		
14	19	上部材置	瓦 瓦屋根	—	—	—	[2.4] a: 口面・縁目叩き 凹面: 離れ砂・錆びナシ b: 黄色 錆管・小石粒 粗土 c: 黄色 e: 良好 f: 小片		
14	20	上部材置	木製品	用途不明	(7.2)	(2.8)	(0.9)	端材か	
14	21	上部材置	木製品	用途不明	(7.7)	(5.5)	(2.5)	端材か	
14	22	上部材置	木製品	用途不明	(23.5)	(1.6)	(1.0)	杭か	
16	1	上部材置	木製品	板	[19.0]	9.0	[2.3]		
16	2	上部材置	木製品	板	[17.4]	9.0	[2.0]		
16	3	上部材置	木製品	板	[21.8]	9.7	[3.2]		
16	4	上部材置	木製品	板	[22.8]	[10.4]	[4.9]		
16	5	上部材置	木製品	板	[28.9]	[10.0]	[6.9]	g: 上部に斜孔 材柱を転用か	
16	7	上部材置	木製品	下板	[9.2]	[7.0]	[1.7]		
17	8	上部材置	木製品	板	[9.0]	8.5	[2.8]		
17	9	上部材置	木製品	板	[16.0]	[7.0]	[2.6]		
17	10	上部材置	木製品	板	[13.3]	8.0	[3.4]		
17	11	上部材置	木製品	板	[16.6]	8.9	[2.2]		
17	12	上部材置	木製品	板	[17.0]	9.0	[2.5]		
17	13	上部材置	木製品	板	[20.3]	9.8	[2.5]		
17	14	上部材置	木製品	板	[20.0]	[10.0]	[7.2]		
17	15	上部材置	木製品	板	[16.5]	[12.0]	[12.0]		
18	1	上部材置	吉澤系 無	—	(7.3)	(6.2)	1.7	a: 斜部荒整形 b: 鋼管・黒色鉄・白色鉄 c: 黄白色 e: 良好 f: 1/5	
18	2	上部材置	吉澤系 無	てづくね	(13.5)	—	3.1	a: てづくね 外底斜面ナザ消し b: 鋼管、雲母、黒色鉄、海綿骨芯、泥引鉄 c: 黄白色 e: やや青い f: 1.2	
18	3	上部材置	吉澤系 無	かわらけ	(9.0)	(7.4)	1.6	a: ロクロ 内成ナ子デ 外底回転系切り b: 鋼管、雲母、黒色鉄、赤色鉄、海綿骨芯、泥引鉄 c: 黄白色 e: やや青い f: 1.4	
18	4	上部材置	吉澤系 無	用途不明	—	—	—	a: 軸組み b: 黑色鉄 網鉄・白色鉄・白石・石英 c: 赤褐色 e: 錆質 f: 口縁部 g: 跳歩	
18	5	上部材置	吉澤系 無	用途 無	—	—	—	a: 軸組み b: 黄色 網鉄・白色鉄・白石・小石粒 c: 黄白色 e: 錆質 f: 口縁部 g: 斜部にトナリ e: 黄白色	
18	6	上部材置	吉澤系 無	丸 丸	—	—	(2.5)	a: 口面・縁目叩きナザ・離れ砂・凹面: 布目板・離れ砂 縫面: 棚縫に斜削り b: 黄灰色 錆管・小石粒 粗土 e: 黄白色	
18	7	上部材置	吉澤系 無	全表面 板	(9.0)	(6.6)	(0.4)	a: 斜面方型 斜造	
18	8	上部材置	木製品	加工材	(9.1)	(1.0)	(1.8)	g: 杭か	
21	1	表土	かわらけ	(7.7)	(5.6)	1.4	a: ロクロ 内成ナ子デ 外底回転系切り・板状底面不明 b: 鋼管、赤色鉄・黒色鉄・雲母多、海綿骨芯、泥引鉄、小石粒 c: 黄白色 e: 良好 f: 1/2		
21	2	表土	かわらけ	78	6.1	1.7	a: ロクロ 内成ナ子デ 外底回転系切り・板状底の板状底 c: 鋼管、雲母、黒色鉄、泥引鉄 e: 黄白色 e: 良好 f: 1/2		
21	3	表土	かわらけ	(6.8)	(4.9)	2.0	a: ロクロ 内成ナ子デ 外底回転系切り・板状底 c: 鋼管、雲母、黒色鉄、泥引鉄 e: 黄白色 e: 良好 f: 1/2 g: 板状底有		
21	4	表土	かわらけ	117	7.2	3.1	a: ロクロ 内成ナ子デ 外底回転系切り・板状底重 b: 鋼管、雲母、黒色鉄、泥引鉄 e: 黄白色 e: 良好 f: 1/2		
21	5	表土	普通 粗粒	—	—	—	a: ロクロ b: 黄白色・粗粒堅膜 c: 黄緑色 e: 良好 f: 口縁部 g: 口縁部や心部反となる		
21	6	表土	普通 粗粒	—	—	—	a: ロクロ b: 黄白色・粗粒堅膜 c: 黄白色 e: 良好 f: 口縁部 g: 口縁部膨脹		
21	7	表土	普通 粗粒	—	—	—	a: ロクロ a: b: 黄白色・粗粒堅膜 c: 深青色 e: 良好 f: 鋼部鋼		
21	8	表土	普通 粗粒	—	—	4.8	a: ロクロ b: 黄白色・砂鉄・石英・褐色 d: 黑蘇鉄軸箱被け e: 良好 錆質 f: (底部部) g: 内底壁面に3箇所アラミド・外底に鉄のタレス有		
21	9	表土	普通 粗粒	—	—	—	a: ロクロ b: 黄白色・砂鉄・白石鉄・白石・小石粒 c: 黄白色 e: 良好 d: 黄灰色 e: 良好 f: 錆質 f: (底部部) g: 黄白色		
21	10	表土	普通 粗粒	—	—	—	a: ロクロ 外底回転系切り b: 砂鉄・白石鉄・白石・小石粒 e: 黄白色 d: 黄灰色 e: 良好 f: 錆質 f: (底部部) g: 黄白色		
21	11	表土	片口排水 直通	—	—	—	a: 軸組み b: 鋼管・砂鉄・白石鉄・小石粒 c: 棕色 e: 錆質 f: 口縁部		
21	12	表土	片口排水 直通	—	—	—	a: 軸組み b: 黄色鉄・砂鉄・白石鉄・小石粒 c: 黄褐色 e: 錆質 f: 口縁部		
21	13	表土	片口排水 直通	—	—	—	a: 軸組み b: 黄色鉄・砂鉄・白石鉄・小石粒 c: 黄褐色 e: 錆質 f: 口縁部 g: 9形式		
21	14	表土	普通 粗粒	—	—	—	a: 軸組み b: 黄褐色・砂鉄・白石鉄・小石粒 c: 棕色 e: 錆質 f: 口縁部 g: 密合印リ		
21	15	表土	丸 平丸	—	—	[2.4]	a: 口面・縁目叩き・縁目砂鉄の印跡 c: 口面・縁目ナザ b: 鋼管、圓筒、錆び等の難削り g: 面削り b: 黄白色		

单位: cm () = 復元値 [] = 残存値

遺物破片数表

HWK 法京寺跡遺跡		表掲遺物 集計	1面遺物 集計	2面遺物 集計	3面遺物 集計	4面遺物 集計	5面遺物 集計	合計	%	
かわらけ	茶 大	175	789	332	127	31		1474	76.7	
	茶 小	13	93	36	23	10		175	9.1	
	手 大		38	11	69	40		158	8.2	
	手 小		8	2	12	9		31	1.6	
白かわらけ		茶 大			1			1	0.1	
白かわらけ		手 大	1					1	0.1	
舶載陶器	青磁	蓮弁文瓶	3	4	1			8	0.4	
		鶴花文瓶			1			1	0.1	
		香炉	1					1	0.1	
		折縁鉢?	1					1	0.1	
	青白磁	器種不明	1	1				2	0.1	
		画		1				1	0.1	
		合子		1				1	0.1	
	白磁	垂の巻		1				1	0.1	
		梅瓶	1					1	0.1	
		口瓦瓶	1		1			2	0.1	
国産陶器	青釉	口瓦瓶			1			1	0.1	
		器種不明	1	1				2	0.1	
		瓶		1				1	0.1	
		折縁鉢	5	1				6	0.3	
		鉢		1				1	0.1	
		折縁瓶		2				2	0.1	
		鉢瓶	2					2	0.1	
		平瓶	1	1				2	0.1	
	常滑	化粧瓶		1				1	0.1	
		月口鉢		1				1	0.1	
		瓶		1				1	0.1	
		入子		1				1	0.1	
		器種不明	1	9	2	3		15	0.8	
		甕	16	67	4			87	4.5	
瓦質品	常滑	壺		2		1		3	0.2	
		片口口丁瓶	1	5	1			7	0.4	
		片口口正瓶	9	9	1		3	29	1.0	
		磨り當滑		2				2	0.1	
		壺鉢		1				1	0.1	
	備前	甕		1				1	0.1	
		壺						1	0.1	
		鉢			1			1	0.1	
	瀬美	甕				1		1	0.1	
		鉢				1		1	0.1	
土製品	瓦	土鍋	6					6	0.3	
		吉備系土器	3	5	4	9		23	1.1	
		土鉢		1				1	0.1	
		男瓦		1				1	0.1	
		女瓦	1	1		2		4	0.2	
	瓦質製品	重ね系		1			3	2	0.1	
		火葬	1	4				5	0.3	
		甕			1	1		2	0.1	
		砥石(中砥)		1				1	0.1	
		火打石	1	1				2	0.1	
石製品	透石質品	磨石		1				1	0.1	
		鏡		1				1	0.1	
		磨石用品		1				1	0.1	
		器種不明		1	1			2	0.1	
		鋼鉄		1				1	0.1	
本製品	自然遺物	釣				1		1	0.1	
		箸		1				1	0.1	
		器種不明		2			12	14	0.7	
		骨	39	28	3	3		73	3.8	
		墨			2	3		5	0.3	
土器	土罐器	甕		1		1	1	5	0.3	
		环		1				1	0.1	
		器種不明		1				1	0.1	
		小甕			1			1	0.1	
合計		合計	272	1095	411	1	141	1	100.0	
% %		%	14.2	57.0	21.4	0.1	7.3	0.1	100.0	



II区・第一面全景（北から）



I区・第一面全景（北から）



II区・第二面全景（北から）



I区・第二面全景（北から）



II区・第三面全景（北から）



I区・第三面全景（北から）

図版2



II区・第四面全景（北から）



I区・第四面全景（北から）



II区・最終確認トレンチ



I区・最終確認トレンチ



I区・東壁土層堆積



I区・東壁土層堆積



I区・遺構3（東から）



I区・遺構3



II区・遺構3（東から）



I区・遺構3（南側拡張部分）



I区・遺構3石列（裏側）



II区・遺構3石列（裏側）

図版4



I区・遺構6（北から）



I区・遺構9・13・15



I区・遺構42



I区・遺構40（北から）



I区・第四面南側

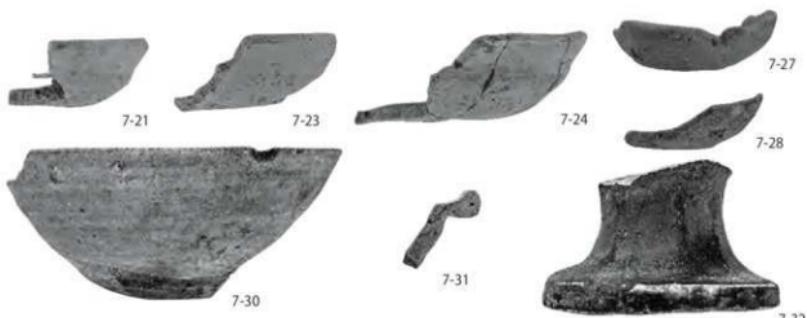


I区・遺構41

▼第1面

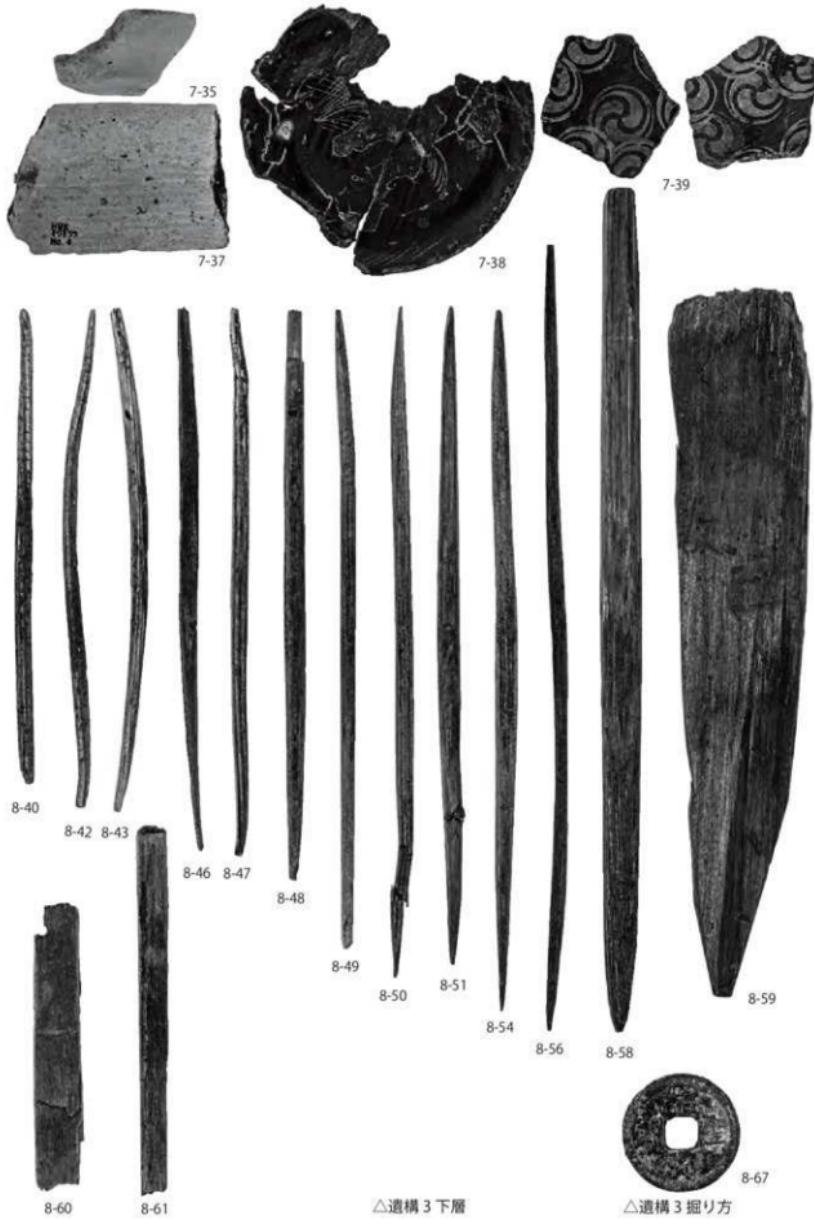


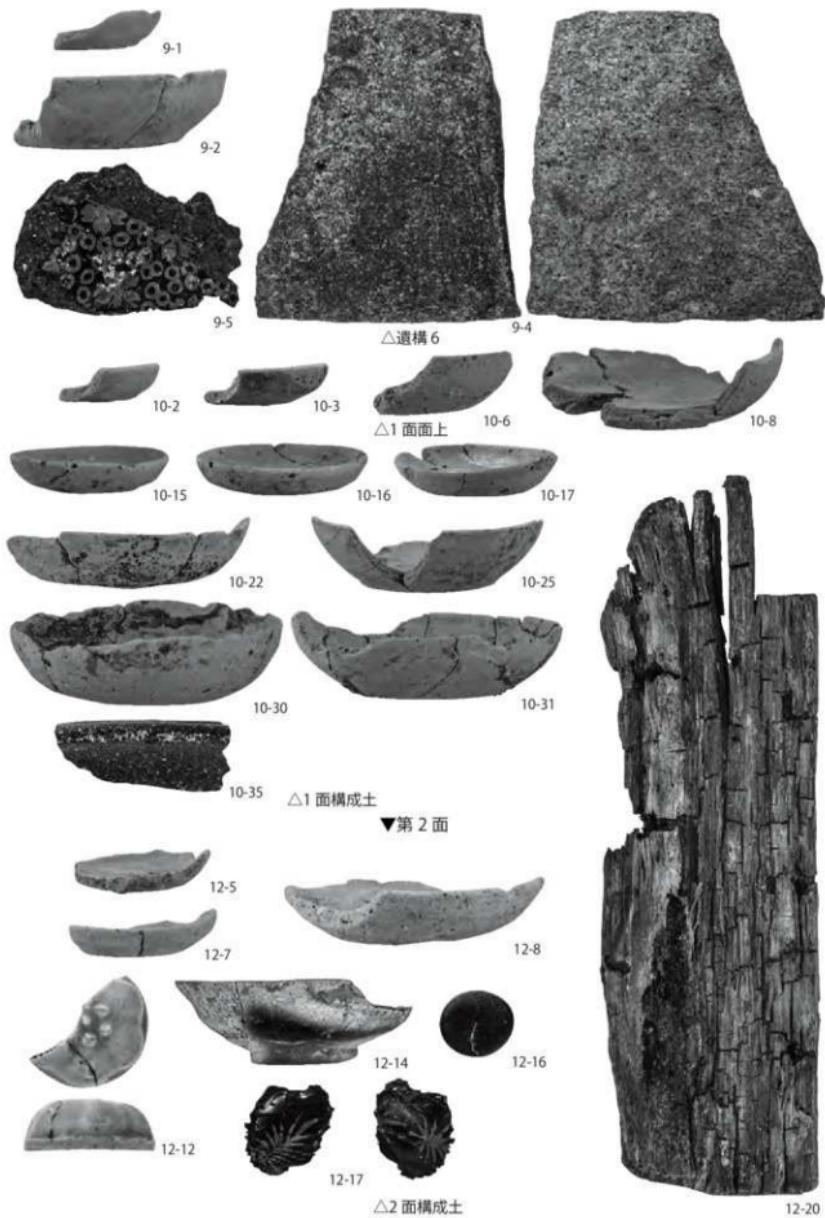
△遺構 3 上層



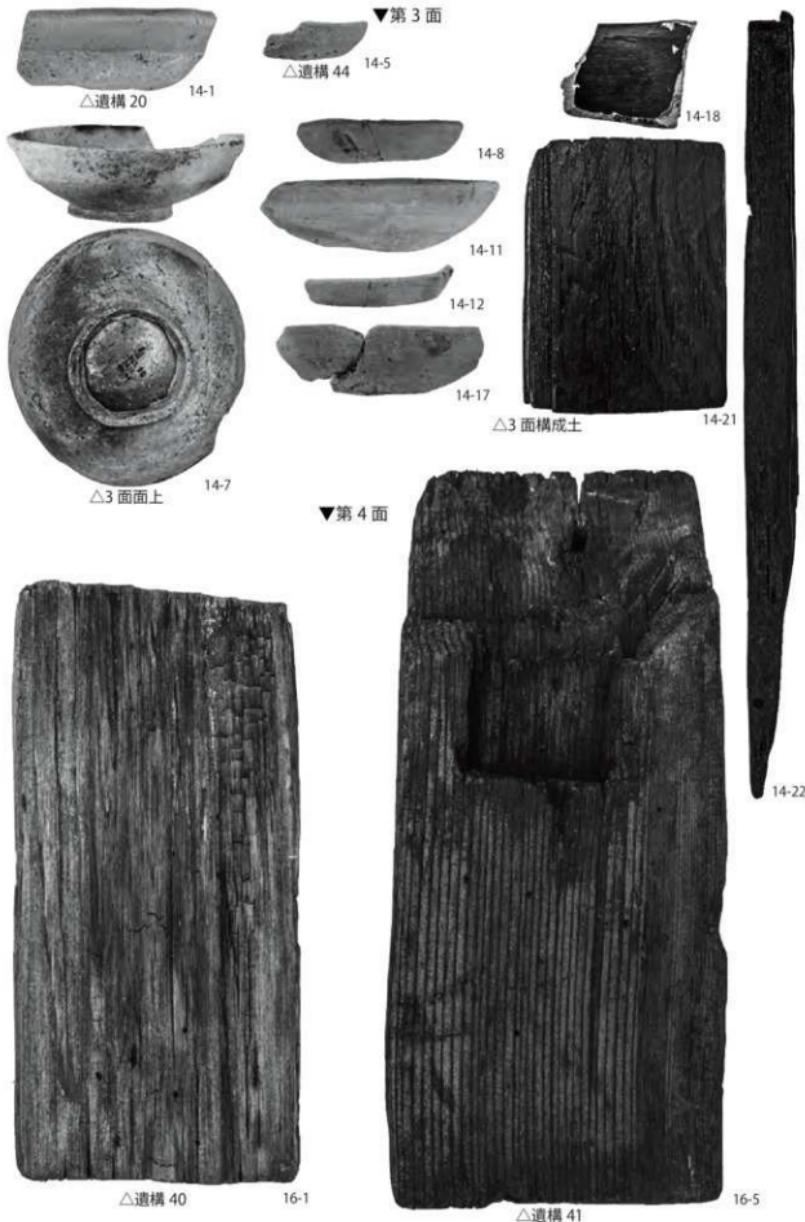
△遺構 3 中層

図版6





圖版8





17-6



17-10



17-12



17-13

△遺構42



△遺構 42

17-15



今小路西遺跡 (No.201)

扇ガ谷1丁目145番3、146番2地点

例 言

1. 本報は鎌倉市扇ガ谷1丁目145番3、146番2地点に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人店舗にかかる建築範囲約120m²を対象とし、平成23年9月26日から12月22日かけて実施した。
3. 現地における調査体制は以下の通りである。

調査 担当 者：原 廣志・後藤 健

調 査 員：梅岡 深音・本城 裕・松原 康子・吉田 桂子

作 業 員：江津 兵太・小口 照男・田口 康雄・中須 洋二・伴 一明・宝珠山 秀雄

4. 本報告作成は以下の分担により行った。

遺 物 実 測：原 廣志・後藤 健・赤堀 裕子・石元 道子・岩崎 卓治・岡田 康子・小野 夏菜・梅岡 深音・本城 裕・吉田 桂子・松吉 里永子・森谷 十美

遺物図版作成：後藤 健・岡田 康子・松吉 里永子・森谷 十美

遺構図版作成：後藤 健

観 察 表：松吉 里永子

遺 構 写 真：原 廣志・後藤 健

遺 物 写 真：後藤 健・須佐 仁和・平山 千絵・松吉 里永子

写真図版作成：後藤 健・岡田 康子・松吉 里永子

執 筆：後藤 健・松吉 大樹

5. 発掘に関わる出土品などの資料は鎌倉市教育委員会が管理・保管している。
6. 本報告の遺構・遺物図版の縮尺は以下の通りである。
遺物実測図1/3(一部1/4) 銭1/1(近代遺構出土銭1/2)
各挿図にはスケールを表示してある。
7. 遺物は可能な限り復元して実測した。紙面の都合からすべての実測図を掲載していない。遺物に関する詳細は観察表にまとめて記載。

- ・復原実測の遺物に関しては、計測値に()を付して表記している。
- ・本製品のうち器形から用途を確実に判別できないものは「…状」として提示してある。
- ・文章中の「かわらけ」はロクロ成形のかわらけを指し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。
- ・ロクロ成形かわらけの底径は回転糸切りの外径部分で、手づくね成形かわらけの底径は、器面が接地した箇所で計測している。
- ・陶磁器に関しては常滑は中野晴久氏、瀬戸製品に関しては藤澤良祐氏、磁器は山本信夫氏の編年に基づいて分類した。破片のため不明なものについては割愛した。

8. 発掘調査及び、報告書作成に関しては次の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)

植月 学・大澤 泉・大橋 康二・金子 智・桜井 準也・汐見 一夫・樋泉 岳二・永田 史子・原 廣志・松吉 大樹・馬淵 和雄

目次 本文目次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	55
第1節 歴史的環境(図1)	
第2節 調査の方法と経緯	
第3節 基本土層(図3)	
第二章 発見された遺構と遺物	63
第1節 第1面の遺構と遺物(図4~6)	
第2節 第2面の遺構と遺物(図7~10)	
第3節 第3面の遺構と遺物(図11~18)	
第4節 第4面の遺構・遺物(図19~29)	
第5節 第5面の遺構・遺物(図30)	
第6節 その他の出土遺物(図31)	
第7節 近代遺構	
第8節 近代遺構出土遺物	
第9節 自然遺物について(写真図版30)	
第10節 鎌倉焼について(図179~181)	
第三章 考察とまとめ	291
第1節 検出した遺構と遺物	
第2節 近代遺構の年代、出土遺物	
第3節 本調査地点の土地所有者と遺構の性格	
第4節 鎌倉焼資料	
おわりに	

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	56	図17 第3面遺構外出土遺物	82
図2 調査位置とグリッド配置図	60	図18 第3面構成土出土遺物	83
図3 調査区南壁堆積土層図	62	図19 第4面全体図	85
図4 第1面全体図	64	図20 第4面個別遺構	86
図5 第1面遺構および遺構外出土遺物	65	図21 第4面遺構出土遺物(1)	88
図6 第1面構成土出土遺物	66	図22 第4面遺構出土遺物(2)	89
図7 第2面全体図	68	図23 第4面遺構出土遺物(3)	90
図8 第2面凝灰質砂岩石列	69	図24 第4面遺構出土遺物(4)	91
図9 第2面遺構および遺構外出土遺物	70	図25 第4面遺構出土遺物(5)	92
図10 第2面構成土出土遺物	71	図26 第4面遺構出土遺物(6)	93
図11 第3面全体図	74	図27 第4面遺構外出土遺物(1)	96
図12 第3面個別遺構	75	図28 第4面遺構外出土遺物(2)	97
図13 第3面遺構出土遺物(1)	76	図29 第4面構成土出土遺物	98
図14 第3面遺構出土遺物(2)	77	図30 第5面出土遺物他	100
図15 第3面遺構出土遺物(3)	79	図31 その他出土遺物	101
図16 第3面遺構出土遺物(4)	81	図32 近代遺構全体図	129

図33	木組み遺構平面・断面図	130
図34	近代遺構出土磁器碗(1)	133
図35	近代遺構出土磁器碗(2)	134
図36	近代遺構出土磁器碗(3)	135
図37	近代遺構出土磁器碗(4)	136
図38	近代遺構出土磁器碗(5)	137
図39	近代遺構出土磁器碗蓋	138
図40	近代遺構出土磁器小杯(1)	139
図41	近代遺構出土磁器小杯(2)	140
図42	近代遺構出土磁器筒形湯呑	141
図43	近代遺構出土磁器盃(1)	142
図44	近代遺構出土磁器盃(2)	143
図45	近代遺構出土磁器皿(1)	144
図46	近代遺構出土磁器皿(2)	145
図47	近代遺構出土磁器皿(3)	146
図48	近代遺構出土磁器皿(4)	147
図49	近代遺構出土磁器皿(5)	148
図50	近代遺構出土磁器皿(6)	149
図51	近代遺構出土磁器鉢(1)	150
図52	近代遺構出土磁器鉢(2)	151
図53	近代遺構出土磁器鉢(3)	152
図54	近代遺構出土磁器鉢(4)	153
図55	近代遺構出土磁器土瓶(1)	154
図56	近代遺構出土磁器土瓶(2)	155
図57	近代遺構出土急須(1)	156
図58	近代遺構出土急須(2)	157
図59	近代遺構出土磁器銚子・段重	158
図60	近代遺構出土磁器水注・徳利	159
図61	近代遺構出土磁器徳利(2)	160
図62	近代遺構出土磁器徳利(3)	161
図63	近代遺構出土磁器徳利(4)	162
図64	近代遺構出土洋食器	163
図65	近代遺構出土植木鉢・灯明・機械栓	164
図66	近代遺構出土磁器その他(1)	165
図67	近代遺構出土磁器その他(2)	166
図68	近代遺構出土磁器その他(3)	167
図69	近代遺構出土磁器蓮華・ミニチュア	169
図70	近代遺構出土磁器タイル(1)	170
図71	近代遺構出土磁器タイル(2)	171
図72	近代遺構出土陶器(1)	174
図73	近代遺構出土陶器(2)	175
図74	近代遺構出土陶器(3)	176
図75	近代遺構出土陶器土瓶・急須(1)	177
図76	近代遺構出土陶器土瓶・急須(2)	178
図77	近代遺構出土陶器土鍋	179
図78	近代遺構出土陶器鍋類(2)	180
図79	近代遺構出土陶器鍋類(3)	181
図80	近代遺構出土陶器壺類(1)	182
図81	近代遺構出土陶器壺類(2)	183
図82	近代遺構出土陶器擂鉢	184
図83	近代遺構出土陶器擂鉢他	185
図84	近代遺構出土人形類(1)	186
図85	近代遺構出土人形類(2)	187
図86	近代遺構出土人形類(3)	188
図87	近代遺構出土人形類(4)	189
図88	近代遺構出土土器焜炉(1)	190
図89	近代遺構出土土器焜炉(2)	191
図90	近代遺構出土土器焜炉(3)	192
図91	近代遺構出土土器焜炉(4)	193
図92	近代遺構出土土器焜炉(5)	194
図93	近代遺構出土土器ワッパ	195
図94	近代遺構出土土器植木鉢	196
図95	近代遺構出土土管	197
図96	近代遺構出土瓦(1)	198
図97	近代遺構出土瓦(2)	199
図98	近代遺構出土瓦(3)	200
図99	近代遺構出土ガラス製品 瓶(1)	202
図100	近代遺構出土ガラス製品 瓶(2)	203
図101	近代遺構出土ガラス製品 瓶(3)	204
図102	近代遺構出土ガラス製品 瓶(4)	205
図103	近代遺構出土ガラス製品 瓶(5)	206
図104	近代遺構出土ガラス製品 瓶(6)	207
図105	近代遺構出土ガラス製品 瓶(7)	208
図106	近代遺構出土ガラス製品 瓶(8)	209
図107	近代遺構出土ガラス製品 瓶(9)	210
図108	近代遺構出土ガラス製品 瓶(10)、食器、家具	211
図109	近代遺構出土ガラス製品 食器、家具類	212
図110	近代遺構出土ガラス製品 遊具	213

図111	近代遺構出土ガラス製品 遊具、その他	214
図112	近代遺構出土ガラス製品 その他	215
図113	近代遺構出土石製品 (1)	216
図114	近代遺構出土石製品 (2)	217
図115	近代遺構出土金属製品 (1)	218
図116	近代遺構出土金属製品 (2)	219
図117	近代遺構出土金属製品 (3)	220
図118	近代遺構出土金属製品 (4)	221
図119	近代遺構出土金属製品 (5)	222
図120	近代遺構出土金属製品 (6)	223
図121	近代遺構出土金属製品 (7)	224
図122	近代遺構出土金属製品 (8)	225
図123	近代遺構出土金属製品 (9)	226
図124	近代遺構出土金属製品 (10)	227
図125	近代遺構出土金属製品 (11)	228
図126	近代遺構出土木製品 墨書 (1)	230
図127	近代遺構出土木製品 墨書 (2)	231
図128	近代遺構出土木製品 墨書 (3)、漆器 (1)	232
図129	近代遺構出土木製品 漆器 (2)	234
図130	近代遺構出土木製品 漆器 (3)	235
図131	近代遺構出土木製品 漆器 (4)	236
図132	近代遺構出土木製品 曲物 (1)	237
図133	近代遺構出土木製品 曲物 (2)	238
図134	近代遺構出土木製品 結物 (1)	239
図135	近代遺構出土木製品 結物 (2)	240
図136	近代遺構出土木製品 蓋類 (1)	241
図137	近代遺構出土木製品 蓋類 (2)	242
図138	近代遺構出土木製品 蓋類 (3)	243
図139	近代遺構出土木製品 蓋類 (4)	244
図140	近代遺構出土木製品 蓋類 (5)	245
図141	近代遺構出土木製品 蓋類 (6)	246
図142	近代遺構出土木製品 蓋類 (7)	247
図143	近代遺構出土木製品 蓋類 (8)	248
図144	近代遺構出土木製品 蓋類 (9)	249
図145	近代遺構出土木製品 容器 (1)	250
図146	近代遺構出土木製品 容器 (2)	251
図147	近代遺構出土木製品 容器 (3)	252
図148	近代遺構出土木製品 容器 (4)	253
図149	近代遺構出土木製品 容器 (5)	254
図150	近代遺構出土木製品 下駄 (1)	255
図151	近代遺構出土木製品 下駄 (2)	256
図152	近代遺構出土木製品 下駄 (3)	257
図153	近代遺構出土木製品 下駄 (4)	258
図154	近代遺構出土木製品 下駄 (5)	259
図155	近代遺構出土木製品 下駄 (6)	260
図156	近代遺構出土木製品 下駄 (7)	261
図157	近代遺構出土木製品 下駄 (8)	262
図158	近代遺構出土木製品 下駄 (9)	263
図159	近代遺構出土木製品 下駄 (10)	264
図160	近代遺構出土木製品 履物・箸	265
図161	近代遺構出土木製品 櫛・鉛筆	266
図162	近代遺構出土木製品 廚房具類	267
図163	近代遺構出土木製品 桜類 (1)	268
図164	近代遺構出土木製品 桜類 (2)	269
図165	近代遺構出土木製品 その他	270
図166	近代遺構出土木製品 板材 (1)	271
図167	近代遺構出土木製品 板材 (2)	272
図168	近代遺構出土木製品 板材 (3)	273
図169	近代遺構出土木製品 板材 (4)	274
図170	近代遺構出土木製品 板材 (5)	275
図171	近代遺構出土木製品 板材 (6)	276
図172	近代遺構出土木製品 部材 (1)	277
図173	近代遺構出土木製品 部材 (2)	278
図174	近代遺構出土木製品 部材 (3)	279
図175	近代遺構出土木製品 部材 (4)	280
図176	近代遺構出土木製品 部材 (5)	281
図177	近代遺構出土木製品 部材 (6)	282
図178	近代遺構出土骨製品他	283
図179	鎌倉焼 (1)	287
図180	鎌倉焼 (2)	288
図181	鎌倉焼 (3)	289

表 目 次

表1 中世出土遺物觀察表	102	表9 近代遺構出土土器觀察表	330
表2 中世遺構計測表	127	表10 近代遺構出土瓦觀察表	331
表3 中世出土遺物集計表	300	表11 近代遺構出土ガラス製品觀察表	332
表4 自然遺物集計表	301	表12 近代遺構出土石製品觀察表	337
表5 近代遺構出土磁器觀察表	304	表13 近代遺構出土金属製品 觀察表	338
表6 近代遺構出土陶器觀察表	322	表14 近代遺構出土木製品 觀察表	340
表7 近代遺構出土磁器(人形類)觀察表	327	表15 近代遺構その他遺物 觀察表	346
表8 近代遺構出土土製品(焜炉類)觀察表	329	表16 鎌倉焼 觀察表	347

図 版 目 次

写真図版 1	349	写真図版16	364
写真図版 2	350	写真図版17	365
写真図版 3	351	写真図版18	366
写真図版 4	352	写真図版19	367
写真図版 5	353	写真図版20	368
写真図版 6	354	写真図版21	369
写真図版 7	355	写真図版22	370
写真図版 8	356	写真図版23	371
写真図版 9	357	写真図版24	372
写真図版 10	358	写真図版25	373
写真図版 11	359	写真図版26	374
写真図版 12	360	写真図版27	375
写真図版 13	361	写真図版28	376
写真図版 14	362	写真図版29	377
写真図版 15	363	写真図版30	378

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境（図1）

当調査地点は源氏山南麓に入り込む谷戸の開口部に位置する。中世以前の様相としては、当調査地点より南方の今小路西遺跡（御成小学校内）から、8世紀前半～10世紀初頭頃までの大規模建物群が検出されており、古代「鎌倉郡衙」の存在が確認されている。また同小学校より北側の地域からは古代の瓦が採集されており、鎌倉郡衙に伴う古代寺院（千葉地廃寺）も存在していたらしい。当調査地点の南西側、今小路西遺跡（御成町171番1外地点）からも、古代建物跡と古代瓦が検出されており、それらが千葉地廃寺関連の正倉を想定させることを鑑みると、当調査地点一帯は古代鎌倉郡衙の影響が強い地域だったことは想像に難くない。そして寿福寺辺りに源義朝の邸宅跡が存在していたという伝承は（「吾妻鏡」治承4年10月7日条）、御成小学校を含む北側の地域一帯が、当時の鎌倉の中心部であったことを彷彿させる。近世の「鎌倉扇ヶ谷絵図」（鶴見大学図書館蔵）によれば、当調査地点周辺は「無量寺」と呼ばれる地域であったが、「新編相模國風土記稿」は無量寺について「興禅寺の西にあり、今字して無量寺谷と唱ふ」と伝えるも、現在廃寺となっているため詳細については不明である。しかし『金沢文庫古文書』などの聖教奥書には「無量寿院」の名前は散見される。無量寿院は安達義景の十三年忌法要を執行したり、安達泰盛が法爾から伝法灌頂を受けたりするなど、鎌倉幕府の有力御家人安達氏の氏寺の存在であったことは間違いない。また、安達泰盛の祖父景盛は、大連房覺智の名で高野山に入り、源実朝菩提のために金剛三昧院を建立、真言僧としての活動が見られるので、無量寿院は真言系寺院であったことは想像に難くないだろう。正和3年（1314）に淨光明寺・覺園寺・極樂寺・称名寺などの真言系寺院の僧13人によって、四宗興隆を発願する史料が残されているが、そのうちの一人に「無量寺 賢信」が参加している（『鎌倉市史史料編1』484号）。真言系寺院の繋がりを考えれば、無量寺と無量寿院は同一寺とみて良いだろう。無量寺の場所はよくわかっていないことは先述したが、当調査地点から北西方向の谷戸では発掘調査が度々かかれており、たとえば、谷戸の最深部東寄りの支谷（現・鎌倉歴史交流館）では、やぐら・擂鉢状の土坑・排水溝・上段の平場へと続くつづら折りの坂道が、上段の平場では13c末～14c前半頃のものとされる池跡と、礎石建物跡が見つかっている。最深部南側の支谷では13c～14c前半頃の建物群が検出されているが、中でも基壇を持つ礎石建物の床下には曲物に入った火葬骨が埋納されており、寺院か墳墓堂的建物であったことは間違いない。また山裾に「やぐら」も検出されていることから、無量寺谷の最深部周辺には寺院群が存在していたと推測できる。これらはおそらく無量寺（無量寿院）関係の寺院群であろう。当調査地点は谷戸の開口部に当たるが、すぐ近くの今小路西遺跡（御成町171番1外地点）からは、変わった木札が出土している。木札には宿（所）警護の夜行番を命じる事書や、一番から三番まで3人づつ計9人の人名と「けたいなく一日一夜おつとめあるべきしやう如件」という書止。文永2年（1265）5月日の年紀が墨書きされていた。墨書きが出土した発掘調査地点では、掘立柱建物が多く検出されており、中でも大型建物の周囲には砂敷の庭も見つかっている。墨書き木札以外の出土遺物も、舶載陶磁器・かわらけ・瀬戸窯製品・漆器などのバリエーションに富んだものが見つかっており、報告書には有力御家人の屋敷地か寺院と推定している。木札には「あきま」と「かせ」の名が墨書きされていたが、元久2年（1205）に謀叛の疑いをかけられた畠山重忠が、武藏二俣川で北条義時と合戦に及んだ際に、幕府方として参陣した安達景盛の「主従七騎」に「鮑間太郎」と「加世次郎」が参加していることから、墨

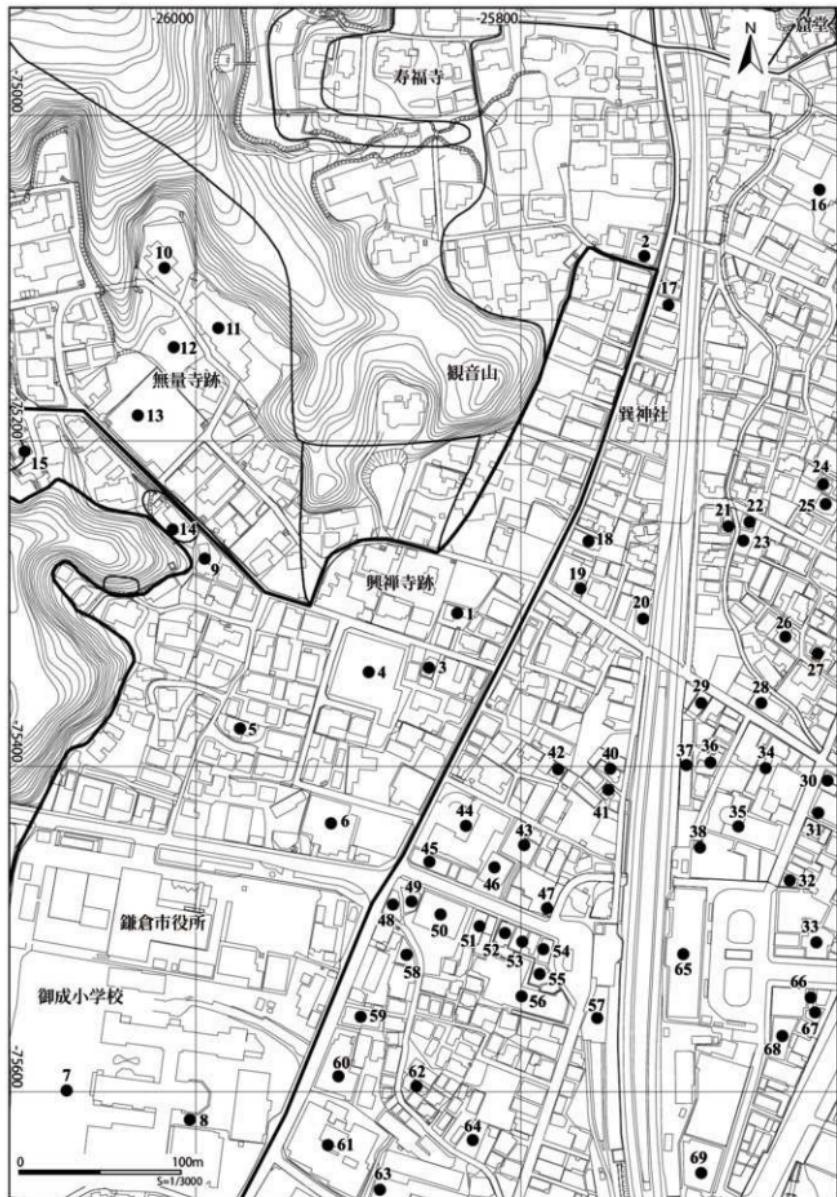


図1 調査地点と周辺の遺跡

調査地点一覧

今小路西遺跡

1. 扇ガ谷1丁目145番3、146番2地点（本調査地点）、2. 扇ガ谷1丁目131番1（馬淵1989『鎌倉市緊急調査報告書』5）、3. 御成町176番7（滝澤2013『鎌倉市緊急調査報告書』29）、4. 御成町171番1外（菊川2008『今小路西遺跡（No.201）発掘調査報告書』）、5. 御成町200番2の一部（原ほか2006『鎌倉市緊急調査報告書』22）、6. 御成町15番5（手塚ほか1982『千葉地遺跡』）、7. 御成町625番3（河野ほか1990『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』）、8. 御成町625番3（河野ほか1993『今小路西遺跡（御成小学校内）第5次発掘調査概報』）、9. 御成町25番1外地点（森ほか2003『今小路西遺跡発掘調査報告書』）

無量寺跡

10. 扇ガ谷1丁目26番74外（宮田ほか2004『無量寺跡発掘調査報告書』博通）、11. 扇ガ谷1丁目26番27外（森ほか2005『鎌倉市緊急調査報告書』21）、12. 扇ガ谷1丁目26番89（森ほか2007『無量寺跡（第3次）発掘調査報告書』）、13. 扇ガ谷1丁目26番14（滝澤ほか2008『無量寺跡（第4次）発掘調査報告書』）

無量寺谷やぐら群

14. 御成町39番6（田畑・手塚1992『鎌倉市緊急調査報告書』8）

鎌倉城

15. 御成町39番36（菊川2006『鎌倉城（No.87）発掘調査報告書』）

若宮大路周辺遺跡群

16. 雪ノ下1丁目210（馬淵1991『鎌倉市緊急調査報告書』6）、17. 扇ガ谷1丁目110番8（滝澤2012『若宮大路周辺遺跡群』博通53集）、18. 扇ガ谷1丁目74番9（菊川1994『鎌倉市緊急調査報告書』10）、19. 扇ガ谷1丁目74番8・10（菊川1990『鎌倉市緊急調査報告書』6）、20. 小町2丁目4番19（原・汐見1990『神奈川県埋蔵文化財調査報告』34）、21. 小町2丁目69番6外（原・汐見1991『鎌倉市緊急調査報告書』7）、22. 小町2丁目28番3・5（原1998『鎌倉市緊急調査報告書』14）、23. 小町2丁目19外（宮田・滝沢2009『神奈川県埋蔵文化財調査報告』56）、24. 小町2丁目24番14（馬淵2016『鎌倉市緊急調査報告書』32）、25. 小町2丁目24番20（滝澤2010『若宮大路周辺遺跡発掘調査報告書』博通41集）、26. 小町2丁目11番2（森2012『鎌倉市緊急調査報告書』28）、27. 小町2丁目12番10（大河内1991『鎌倉考古』20）、28. 小町2丁目63番3（齊木ほか1993『鎌倉市緊急調査報告書』9）、29. 小町1丁目120番1（手塚1989『小町一丁目120番1地点』）、30. 小町1丁目65番26（宮田・滝沢2009『神奈川県埋蔵文化財調査報告』56）、31. 小町1丁目65番10～12（松尾1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査報告書』1）、32. 小町2丁目65番21（齊木ほか1982『鎌倉考古学研究所調査研究報告第1集』）、33. 小町1丁目75番1（齊木1982『鎌倉考古学研究所調査研究報告第1集』）、34. 小町1丁目117番3他4筆（滝澤2006『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』）、35. 小町1丁目106番1（手塚1999『若宮大路周辺遺跡群』）、36. 小町1丁目116番（馬淵1986『鎌倉市緊急調査報告書』2）、37. 小町1丁目116番4（手塚1999『若宮大路周辺遺跡群』）、38. 小町1丁目107番7外（滝澤2013『若宮大路周辺遺跡群』）、39. 御成町123番5（汐見1999『鎌倉市緊急調査報告書』15）、40. 御成町123番3地点（福田2009『鎌倉市緊急調査報告書』25）、41. 御成町126番1（汐見2007『鎌倉市緊急調査報告書』23）、42. 御成町129番4他（松山2009『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』）、43. 御成町12番18（1986『千葉地東遺跡』）、44. 御成町228番2・130番1（齊木1987『御成町228-2他地点遺跡』）、45. 御成町130番6（松尾1985『神奈川県埋蔵文化財調査報告』27）、46. 御成町12（試掘）（宇田川1981『鎌倉考古』5）、47. 御成町788番3、788番5（継1997『鎌倉市緊急調査報告書』13）、48. 御成町808番6（浜野2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51）、49. 御成町806番5（齊木1985『源訪東遺跡』）、50. 御成町806番3（齊木1982『鎌倉考古学研究所調査研究報告』）

第2集)」、51.御成町811番(田代ほか1993『鎌倉市緊急調査報告書』9)、52.御成町819番1(玉林1986『神奈川県埋蔵文化財調査報告』28)、53.御成町819番1(菊川1999『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』)、54.御成町820番1(1982『鎌倉考古学研究所調査研究報告』第2集)、55.御成町802番2(熊谷2003『第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨』)、56.御成町822番2(手塚ほか1983『蔵屋敷東遺跡発掘調査報告書』)、57.御成町790番7(浜野2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51)

58.御成町788番6(齐木2013未報告)、59.御成町783番1他4筆(齐木2009『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』)、60.御成町763番5(齐木2011『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』)、61.御成町792番3、16(齐木2011『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』)、63.御成町778番1(田代1987『神奈川県埋蔵文化財調査報告』31)、64.御成町843番1(宮田・滝沢2013『若宮大路周辺遺跡群(No.242)発掘調査報告書』)、65.小町1丁目103番9(服部1984『蔵屋敷遺跡』)、66.小町1丁目81番18(宮田2000『鎌倉市緊急調査報告書』16)、67.小町1丁目81番23(田代1988『神奈川県埋蔵文化財調査報告書』32)、68.小町1丁目81番8(宮田1995『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』)、69.小町1丁目83番1(四門1993『鎌倉市早見芸術学園改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』)

書された「あけま」と「かせ」が安達氏の被官だったのがわかる(『吾妻鏡』同年6月24日条)。安達氏被官の飽間氏は、現在の群馬県安中市飽間、加世氏は神奈川県川崎市加勢が本貫地に比定されており、上野・武藏両国には安達氏の被官や縁者が多數いたことは、「安達泰盛乱自害者注文」(『鎌倉遺文』15738号)に「此外、武藏上野の御家人など自害の者、注進におよばず」とあることからも知れる。以上のことから、墨書き札は安達氏の屋敷を一日一夜警固する人たちのリストであり、出土した遺跡が安達氏の屋敷であることが想定できよう。木札の紀年「文永二年五月日」は、文永2年6月3日に無量寿院で行われた安達義景の十三年忌の直前である。ともすれば仏事を控えた安達氏の警固リストであった可能性も考えられよう。墨書き札が出土したことは遺跡周辺が安達氏の屋敷であったことを暗示し、谷戸の奥に無量寺(無量寿院)が存在していたことも示唆する。当調査地点も安達氏関連の屋地に含まれている可能性もあるが未詳である。天保3年(1832)頃、無量寺は「綱広谷」と呼ばれていたことが「鎌倉扇ヶ谷絵図」からわかる。谷戸開口部より今小路側に寄る一帯を無量寺と記しているが、おそらくこの谷戸全体を無量寺と呼んでいたことを示すのだろう。「綱広谷」から東側に伸びる尾根の北側、現在の八坂神社の南には、正宗屋敷に祀られていたと伝える「刀稲荷」、無量寺谷の奥へ進む道沿いに鎌倉十井の一つ「正宗の井」があり、当地域が刀匠綱広に縁のある場所であったのがわかる。綱広とは刀匠相州伝正宗の末裔で、小田原北条氏の北条氏綱より一字を押領し、河越番匠・大工三郎兵衛・番匠五郎三郎・結桶師・笠木師・経師などの職人衆らとともに鎌倉内に所領を充てられていた(『小田原衆所領役帳』)。以来、江戸時代を通じて「綱広」を通称とする刀匠が活躍していた(『江戸近郊みちしるべ』文化十三年九月条、『懐堂日曆』天保二年七月廿三日条など)。同絵図には「綱広谷」の南側に「法住寺谷」と記されているが、「法住寺」については『新編鎌倉志』に「法住寺ハ無量寺谷ノ南ナリ、昔律宗ノ旧跡也ト云伝フ」とあるだけで詳細はわかっていない。「鎌倉扇ヶ谷絵図」には当調査地点の北側に「興禪寺」と書かれている。興禪寺は現在廃寺となっており、跡地には現在「古我邸」が建っている。興禪寺は『新編相模国風土記稿』によれば、開山は雲居希膺。開基は朝倉甚十郎正世。宗派は曹洞宗だが、元々は臨済宗の妙心寺派であったと伝える。雲居が慶安2年(1649)の開祖とも伝えるが、詳細については不明(『禅僧雲居希膺その生涯と作品』)。『新編鎌倉志』には興禪寺にあった釣鐘の銘文を載せているが、それには建立年が正保2年(1645)とある。ただこの釣鐘も今は無いので、未詳と言わざるをえない。朝倉正世は父宣正(政)の追善供養のた

めに、奥州松島瑞巌寺より雲居を招請したことは間違ひなさそうである。朝倉宣正は、越前朝倉氏の一族である朝倉在重の孫にあたり、在重が越前国より駿河国安倍郡柿崎に移住した後に駿河で生まれている（『寛政重修諸家譜』）。関ヶ原の戦いでは徳川秀忠に従軍して信州上田攻めに参加。小野忠明（神子上典膳）と共に上田七本槍の一人と称された。後に徳川忠長の付家老として、寛永2年（1625）遠江掛川城主になるが、同9年（1632）、忠長の改易・自刃に伴い大和郡山に蟄居。同14年（1637）2月6日死去している。宣正・宣親・宣季の親子は興禪寺に葬られたらしいが、かく言う正世以下代々は、江戸四谷舟町にあった全勝寺に葬られている。興禪寺が廢寺になった理由の一端がここにあるのかもしれない。雲居希膺は土佐國出身。はじめ大徳寺賢谷宗良について出家し、ついで妙心寺蟠桃院の一宿東軒に従ったとされる。そののち、後水尾上皇の帰依をうけ、宮中に召されて法を説くなどの目覚しい活躍ぶりが伺える。のちに伊達政宗や、子の忠宗に招かれて松島瑞巌寺の中興の祖となった。万治2年（1659）8月8日寂。慈光不味禪師・大悲円満国師と謹されている。雲居の後は虚雲義舟なる僧が興禪寺に入っているらしいが、詳細については不明。話しが少々戻るが、「吾妻鏡」正嘉2年（1258）正月17日条には、安達泰盛邸から出た火が、南風に煽られて「薬師堂後山」を越えて寿福寺まで広がったという記事が載っている。寿福寺の南方に薬師堂があったようだが、もしかすると興禪寺の前身寺院なのかもしれない。先述したが現在は古我邸が建っている。古我邸は、三菱合資会社（後の三菱財閥）の専務理事兼管事をしていた莊清次郎の別荘として、大正5年（1916）建築家桜井小太郎によって建てられた。後に濱口雄幸や近衛文磨が、三菱から建物を借り受け、別荘として利用していたらしい。昭和12年（1937）に古我貞周が取得して以降、現在まで残り続けている（松吉大樹）。

引用参考文献

- 秋山哲雄 2006 「北条氏権力と都市鎌倉」吉川弘文館
石井進 1994 「文献からみた中世都市鎌倉」「中世都市鎌倉を掘る」日本エディタースクール出版部
大上周三 2009 「鎌倉街道と官衙関連遺構について」「神奈川考古」45
大塚紀弘 2014 「奥書から見た中世の鎌倉—中世鎌倉関係典籍奥書の集成と考察— 第3期大三輪龍彦研究基金研究報告」
特定非営利活動法人鎌倉考古学研究所
齊藤建設 2008 「今小路西遺跡（No.201）発掘調査報告書—御成町171番1外地点一」
河野眞知郎 1995 「中世都市鎌倉 遺跡が語る武士の都」講談社選書メチエ
國平健三・河野一也 1988 「奈良時代寺院成立の一端について（I）相模国鎌倉郡の古瓦を中心として」『神奈川考古』24
瑞巌寺 2008 「雲居和尚展 没後350年を記念して」
吹田市立博物館 1996 「禅僧雲居希膺その生涯と作品」
高橋慎一朗 1996 「中世の都市と武士」吉川弘文館
高橋慎一朗編 2017 「鎌倉の歴史 谷戸めぐりのススメ」高志書院
細川重男 2000 「鎌倉政權得宗專制論」吉川弘文館
松吉大樹 2014 「鎌倉市今小路西遺跡出土の結番交名木札について」「都市史研究」1
三浦勝男 1969 「鎌倉の廃寺 興禪寺の絵図について」「金沢文庫研究」10

第2節 調査の方法と経緯

調査の経緯

本発掘調査は店舗併用住宅の建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が実施した。建築計画では基礎工事として鋼管杭工事を施すため、鎌倉市教育委員会は平成23年7月6日に埋蔵文化財の確認調査を実施した。2.4mまで掘削した結果、地表下22cmで遺物包含層が検出され、地表下53cm、65cm、90cm、130cmで中世遺構面と推定される堆積層の確認がなされた。さらに下層にも中世遺構の存在が予測される結果を得たことから、建築計画実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要ありとの判断がなされた。

以上の手続きより、平成23年9月26日～12月22日の約3ヶ月をかけて現地での調査を実施した。

調査の方法

重機による表土除去後、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から120m²の範囲を二分割して調査を進めた(図2)。住宅建築の基礎工事として、地表下2mまでは土壤改良を施すことになり、その深さまでの遺構確認を行った。今回の調査では大きく4面の中世遺構面を確認することができたが、2区では4面の遺構調査の際に一部下層の遺構に到達し、その遺構を5面として取り扱った。また1区での調査時に北側に一部確認調査のためのトレンチを設定し、地表下2mまで掘り下げて以下の状況の確認を行った。さらに最低2面の中世遺構面の存在が確認できたが、中世基盤層とされる黒褐色粘質土層には到達せず、さらに中世以前の遺構・遺物については少量の混入が見られるものの、明確な遺構にともなう形では検出できなかった。

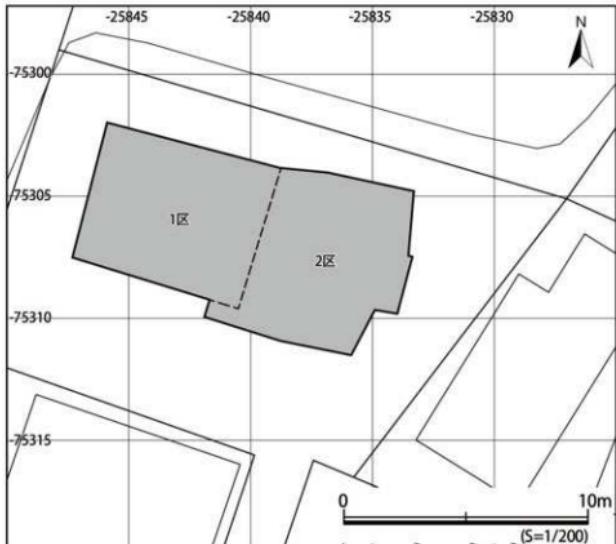


図2 調査位置とグリッド配置図

第3節 基本土層（図3）

発掘調査に先立ち、住宅建設作業のために一部に地表面より70cmほど盛土がなされた。盛土以前の地表面はおよそ海拔8.1mで、北から南へ緩やかに傾斜して下がる。表土下10～20cmで水田耕作土が40cmほど堆積し、その後近現代の掘り込みが多数みられる。現代埋土は第1面までにおよび、遺構を一部破壊している。なお調査区北面と南面の土層図を示しているが、南面の西側はほとんどが現代の掘りこみで搅乱されており、調査中の崩落防止用に板での補強をしたため記録することができなかった。

本来の表土より50～60cmほどを重機で除去し、第1面が検出された。以下、検出面のレベルおよび構成土について述べる。

第1面はやや大粒の泥岩塊を含む灰褐色粘質土で構成されており、検出レベルは海拔7.4mである。

第2面は泥岩の粗粒、炭化物と若干の粗砂を含んだ灰褐色粘質土で構成され、検出レベルは海拔7.25mである。

第3面はやや大型の泥岩塊を含む灰褐色粘質土で構成され、生活面上に砂を敷き詰めている部分もある。検出レベルは海拔7.05mである。

第4面は泥岩細粒を多く含む暗褐色粘質土で構成され、検出レベルは海拔6.85mである。

第4面で掘削深度限界に達したため、北側に一部トレンチを入れて確認を行った。トレンチは海拔6.1mまで掘り下げ、第5面、第6面、第7面の存在が確認された。

第5面は泥岩細粒、貝殻を多く含む暗茶褐色粘質土で構成され、検出レベルは海拔6.7mである。

第6面、第7面はいずれも上面に貝と砂の混入した縮まりのある層によって面を構成している。第6面の検出レベルは海拔6.5m、第7面の検出レベルは海拔6.3mである。中世の基盤層と思しき層は確認されていないが、本調査地点より約60m西南の御成町171番1外地点（図1-4）では、海拔6.5～5.8mで黒色粘土層、海拔6.0～5.7mで青灰色砂層が確認されている。地形的には大きな差がないと推測され、海拔6.0m前後に基盤層が存在しているものと思われる。

なお、調査区東側は大型の近代の遺構が掘りこまれている。中世については大部分が削られているため、土層図には明記していない。遺構の詳細は次章で述べる。

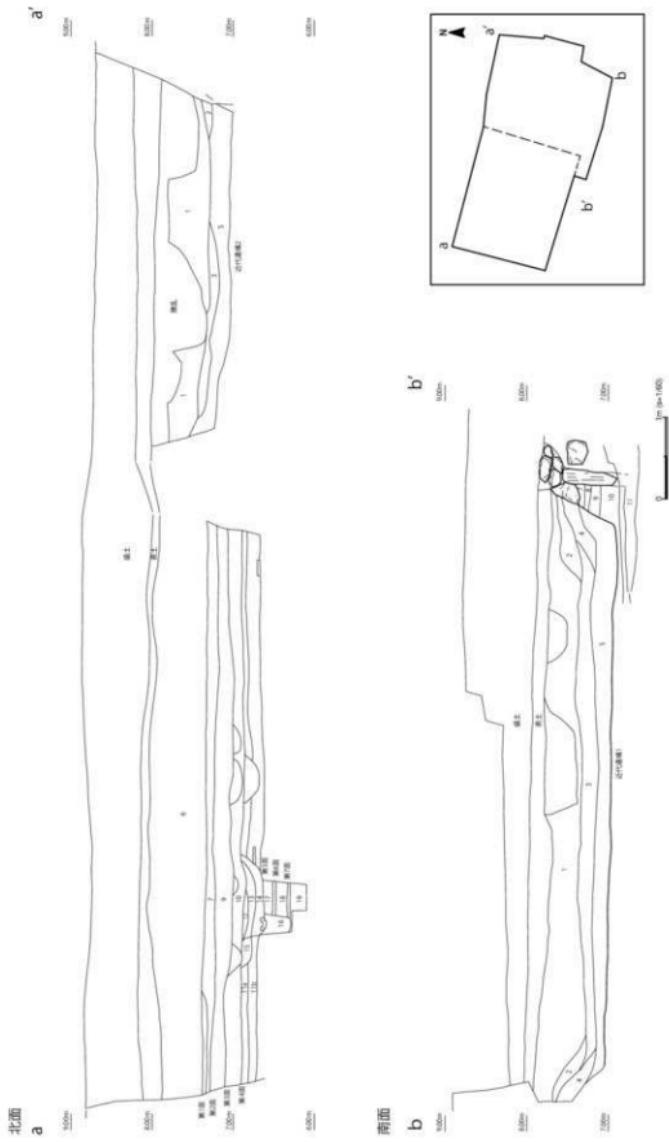


图3 调查区南壁堆積土層図

調査区土層

土層説明

1 暗灰褐色粘質土	締まり弱。炭化物、灰	11 暗褐色粒粘質土	締まり強。小泥岩塊、粗砂多量
2 灰褐色弱砂質土	締まり有。大型泥岩塊多量	12 灰褐色砂質土	締まりやや有。粗砂多量
3 暗灰褐色粘質土	締まり有。木端、陶磁器、ガラス類等	13 明茶灰色粘質土	有機物腐食土。木片多量
4 暗灰褐色粘質土	締まり弱。炭、灰多量	14 茶褐色砂質土	締まり無。粗砂、泥岩粒多量
5 茶褐色粘質土	締まり無。藻状有機物多量。	15 明茶灰色粘質土	締まり無。藻状木片多量
6 暗灰褐色粘質土	水田耕作土	16 暗茶褐色砂質土	締まり無。木片、貝殻砂多い。遺構覆土
7 灰褐色粘質土	締まり有。大型泥岩塊多量。第1面構築土	17 暗茶褐色粘質土	締まり有。泥岩粒、貝殻粒、木片多量
8 灰褐色粘質土	上面に炭化物層。第2面構築土	18 暗褐色粘質土	締まり有。泥岩、炭化物少
9 灰褐色粘質土	締まり有。泥岩粒、砂、炭化物。第2面構築土	19 暗茶褐色粘質土	締まり弱。土器、木片多量
10 灰褐色粘質土	締まり強。大型泥岩多量。上面に粗砂を敷き詰める箇所あり		

第二章 発見された遺構と遺物

本地点では中世の生活面は少なくとも7面存在すると思われるが、掘削深度制限のため、生活面の広がりを捉えたのは4面である。また4面調査時に検出された遺構の一部は検出状況や深度から第5面に相当すると判断した。結果的には中世5面および近代の大型遺構を検出し、観察・記録を行った。個別の遺構図面は現地で実測した遺構および特徴的な遺構を報告する。個別図面がない遺構の形状・規模は全測図および遺構計測表を参照していただきたい。実測遺物は遺物観察表に詳細を報告し、本文中では基本的に遺物名だけを記載する。

以下、主な検出遺構について、中世遺構は上層より説明する。近代遺構については時期的に順序が前後するが、最後にまとめて述べる。

第1節 第1面の遺構と遺物（図4～6）

第1面は調査区の東側およそ2/3近くを近代の遺構によって削平されてしまっていた。また1区西側も近現代の掘り込みにより一部が削平されている。

調査区西側の泥岩碎片を多く含む暗褐色粘質土の地業面より多数の遺構を確認した。遺構はピット52穴・土坑3基で、掘立柱建物址の存在が推定できるが、明確なプランは復元できなかった。遺構の切りあいより第1面で発見した遺構は、少なくとも3時期の時間差があると考えられる。遺物は、かわらけ・手づくね・青磁・白磁・青白磁・常滑・瀬戸・瓦器碗・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・羽口・錢が出土している。第1面確認レベルはおよそ海拔7.4mである。

遺構4

楕円形を呈するピット。遺構覆土は泥岩粒、炭化物を含む暗褐色粘質土。遺物は瀬戸入子が出土している（図5-1）。

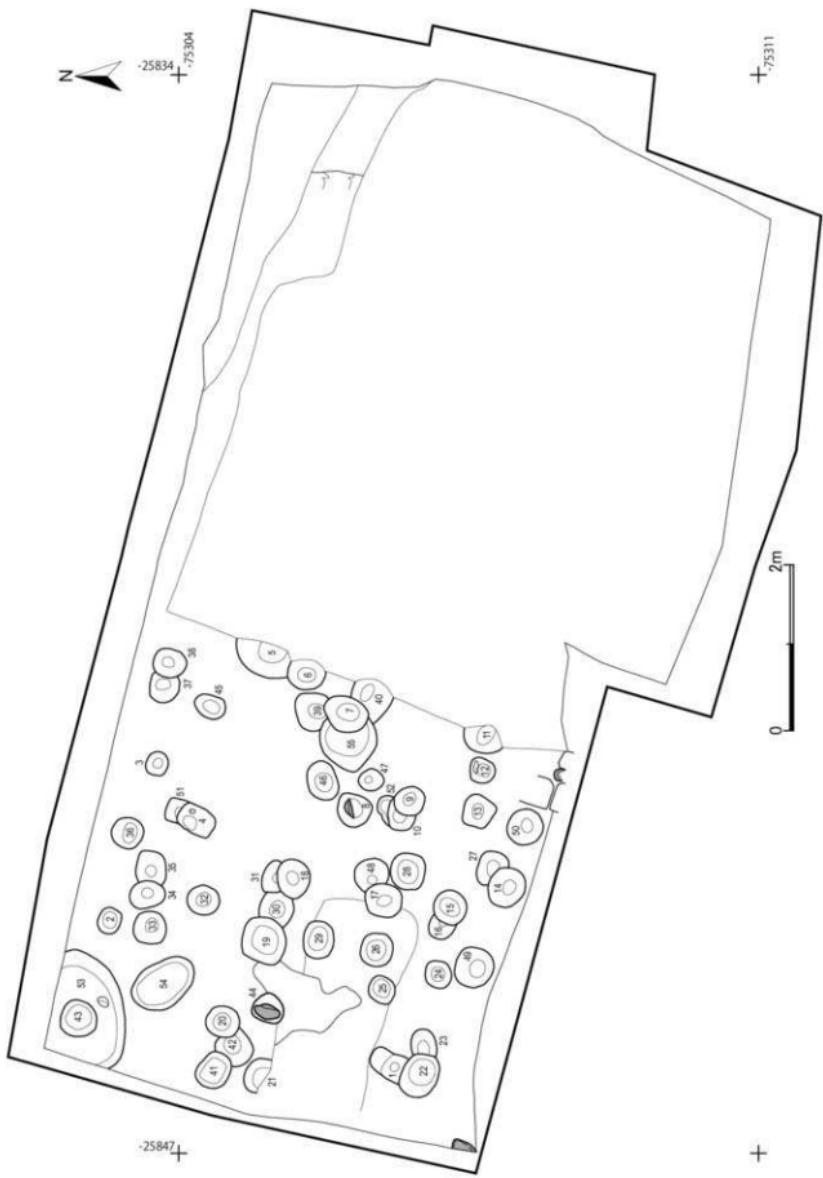


図4 第1面全体図

遺摺 7

椭円形を呈するピット。遺物は常滑片口鉢Ⅱ類が出土している(図5-2)。

遺構 12

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図5-3)が出土している。

遺構 13

隅丸方形を呈するピット。遺物はかわらけ(図5-4)と龍泉窯系鎧蓮弁文青磁碗の破片が出土している。

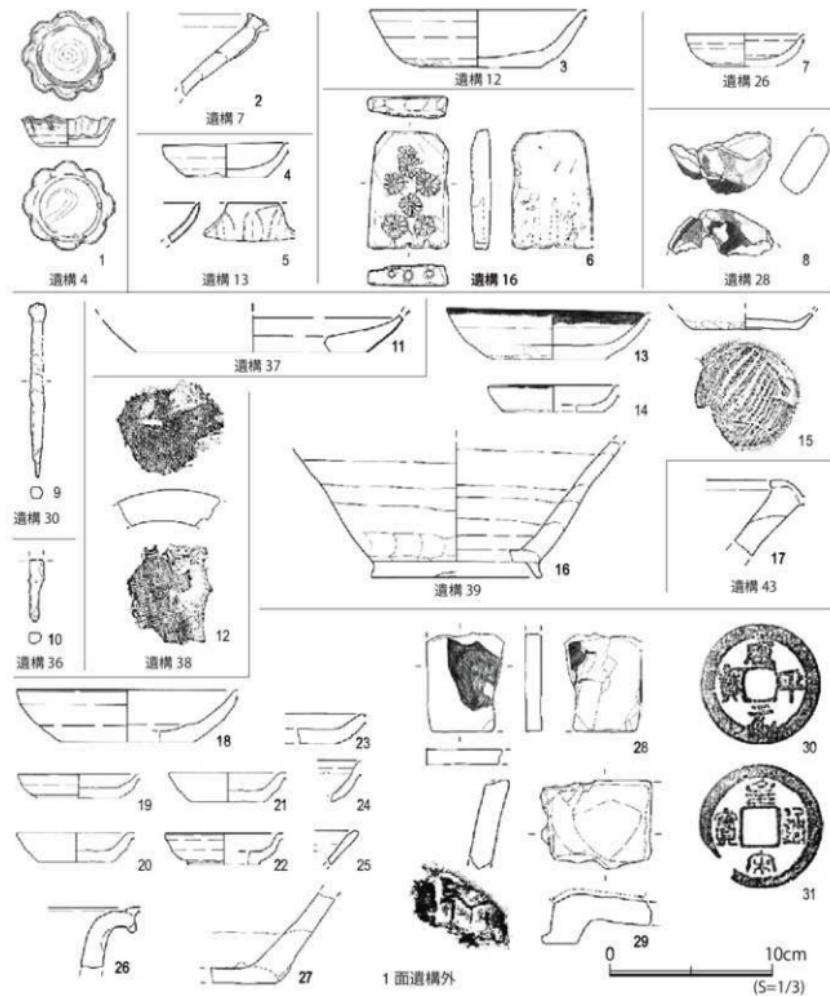


図5 第1面遺構および遺構外出土遺物

(図5-5)。

遺構 16

楕円形を呈するピット。遺構 15 に切られる。壁際から滑石製スタンプ (図5-6) が出土している。

遺構 26

円形を呈するピット。遺構はかわらけ (図5-7) が出土している。

遺構 28

円形を呈するピット。遺構に切られる。遺物は輪の羽口 (図5-8) が出土している。

遺構 30

楕円形を呈するピット。遺構 18, 19, 31 に切られ、遺構 31 はさらに遺構 18 に切られる。遺物は鉄釘 (図5-9) が出土している。

遺構 36

円形を呈するピット。遺物は鉄釘の破片 (図5-10) が出土している。

遺構 37

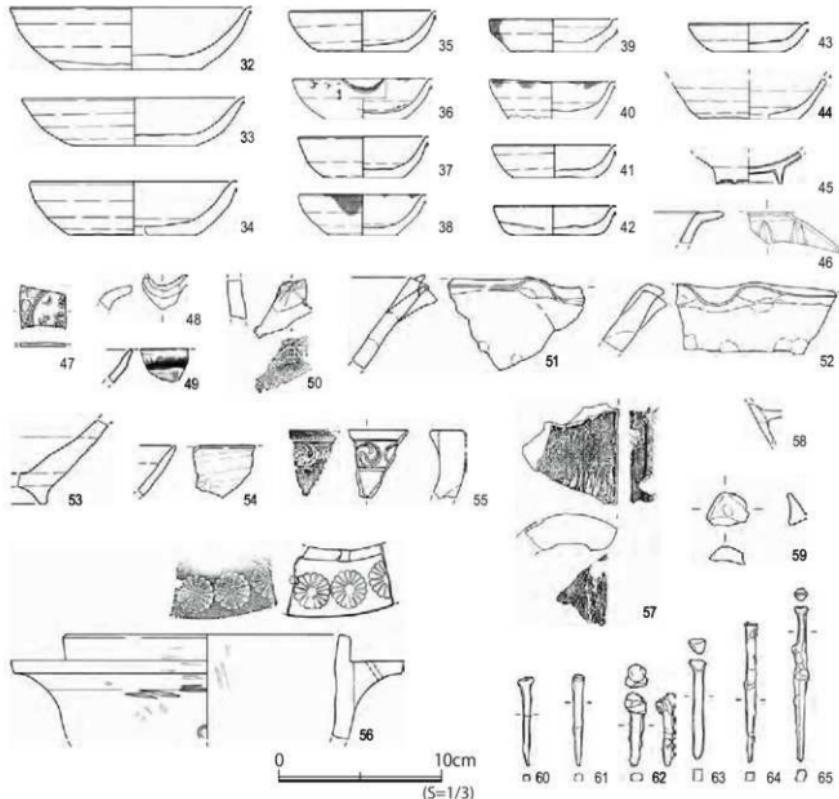


図6 第1面構成土出土遺物

円形を呈するビット。遺構38に切られている。遺物は古瀬戸底部(図5-11)が出土している。器種は不明。

遺構38

楕円形を呈するビット。遺構37を切る。遺物は丸瓦(図5-12)が出土している。

遺構39

やや不整形のビット。遺構7、遺構53に切られる。遺物はかわらけ(図5-13、14)、白かわらけ(図5-15)、常滑片口鉢I類(図5-16)が出土している。

遺構43

円形を呈するビット。遺構51を掘りこんでいる。遺物は土器質火鉢(図5-17)が出土している。

第1面遺構外出土遺物(図5)

18～22はかわらけ。23は手づくねかわらけ。24～25は瀬戸の縁軸小皿、26～27は常滑甕、28は砥石か。29は刺頭文のある軒平瓦で、上面に摺り痕がある。30～31は銅鏡。その他に木片が出土している。

第1面構成土出土遺物(図6)

32～43はかわらけ。44は白かわらけ。45は青磁碗の底部片、46は青磁折線鉢。47は白磁皿底部で梅花文が見られる。48は瀬戸片口、49は瀬戸天目。50は常滑甕。51、53は常滑片口鉢I類。52は常滑片口鉢II類。54は尾張系山茶碗。55～56は瓦器質火鉢。57は丸瓦。58は伊勢系土鍋。59はチャート片。60～65は鉄釘。そのほか、自然遺物が出土している。

第2節 第2面の遺構と遺物(図7～10)

第2面も調査区東側は近代の遺構に削平されてしまっており、調査区全体の1/2ほどしか残存していないかった。やや大粒の泥岩碎片によって平坦に地業された暗褐色粘質土上にいくつか遺構が確認された。発見した遺構はビット18穴・土坑3基、凝灰質砂岩の切石による石列である。遺構の切りあいより第2面で発見した遺構は、少なくとも2時期にわたるものとみられる。遺物は、かわらけ・青磁・白磁・青白磁・常滑・渥美・瀬戸・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・錢が出土している。第2面確認レベルはおよそ海拔7.3mである。

遺構78～80(凝灰質砂岩切石列:図7、8)

一部の切石は第1面の時点で頂部が検出されていた。石列は第2面の面上に乗る形で配列されている。真北からやや東へずれる方向で南北に2列の石列(遺構78、80)があり、ほぼ直行して東西方向の石列(遺構79)が1列みられる。いずれも接しておらず隙間があり1段積みであるが、遺構79と80の間は1段低いレベルでやや不整形な石が列をなしている。一部抜き取られている可能性があるが、当初より低かったのかもしれない。多くはノミ痕が明瞭で平面長方形であるが長短はまちまちである。加工の精緻さから見れば、遺構79は南側が、遺構78は西側が外側と想定される。遺構80は東側が外側の可能性が高い。東側は大型の泥岩片による非常に緊密な地業面が構築されている。削平および調査範囲の狭さから石列の性格は明確にはしがたいが、石列の西北はほとんどがビットであり、南側は土坑が主体であることから、石列を境にして空間利用に差があることがうかがえる。柱穴には礎板が残存しているものが検出されているが、明確な建物址の推定はできていない。

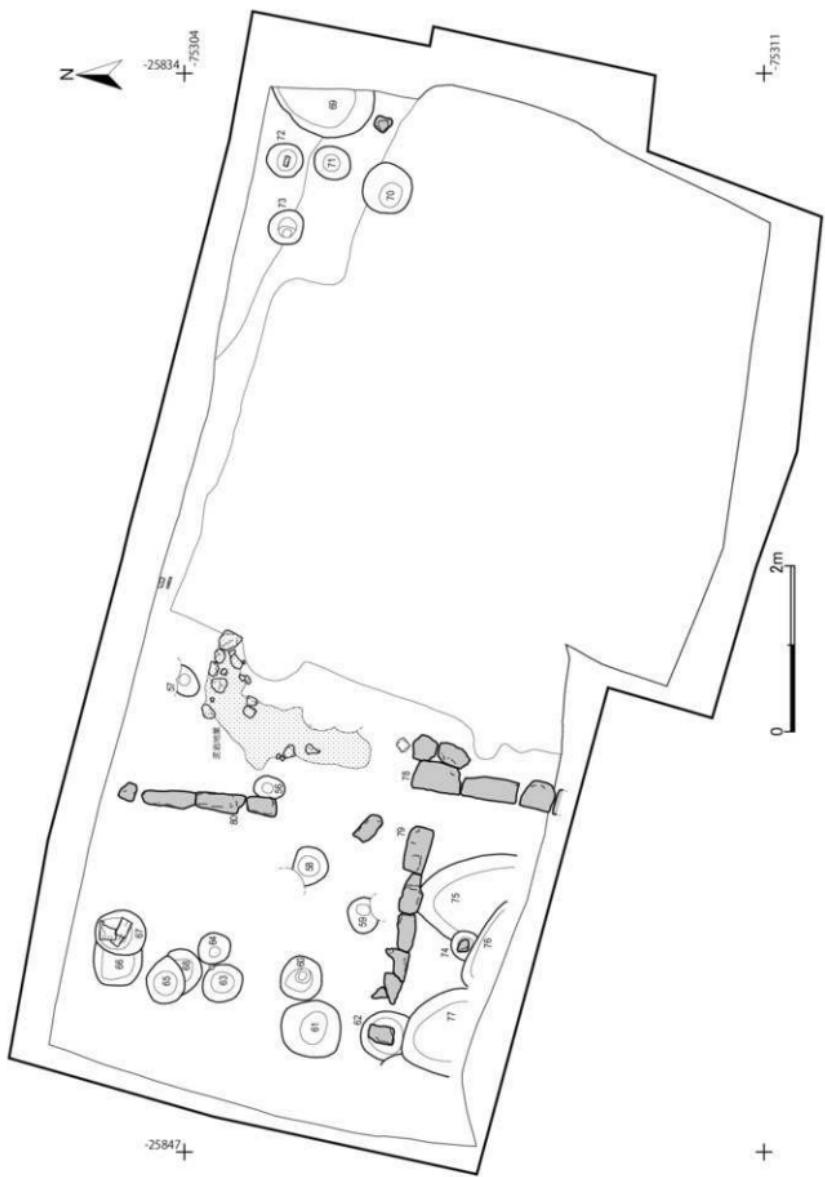


図7 第2面全体図

遺構 57

梢円形を呈するビット。第1面の遺構に切られる。遺物はかわらけ(図9-1)が出土している。

遺構 58

円形を呈するビット。第1面の遺構に切られる。遺物はかわらけ(図9-2)が出土している。

遺構 59

隅丸方形を呈するビット。第1面の遺構に切られる。遺物はチャート片(図9-3)が出土している。

遺構 62

円形を呈するビット。遺物はかわらけ(図9-4)、白かわらけの口縁部片(図9-5)が出土している。

遺構 63

円形を呈するビット。遺物はかわらけ(図9-6)が出土している。

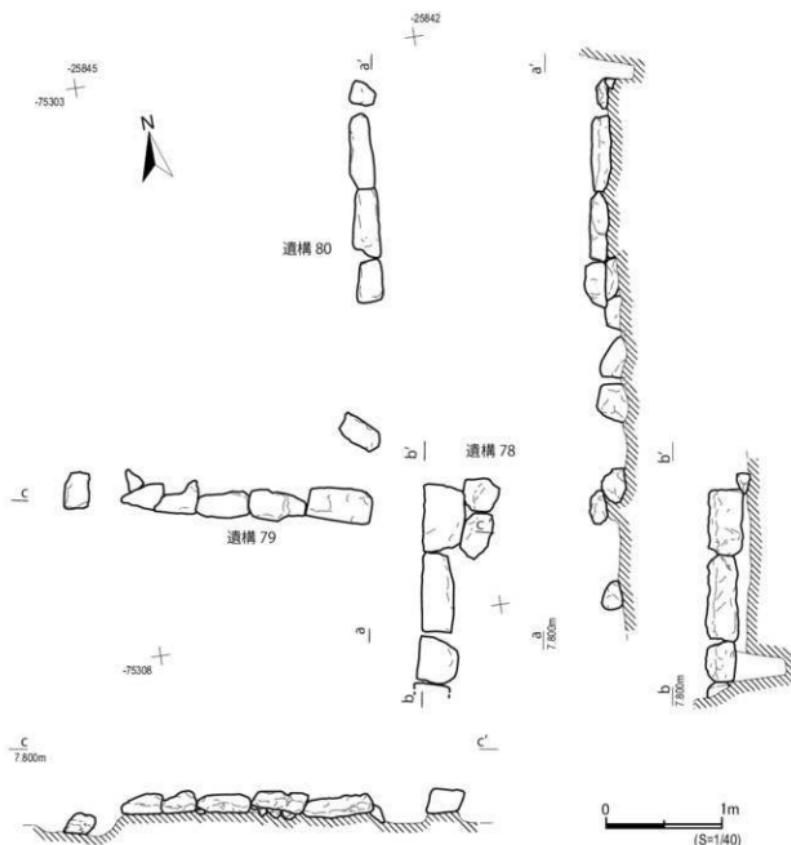
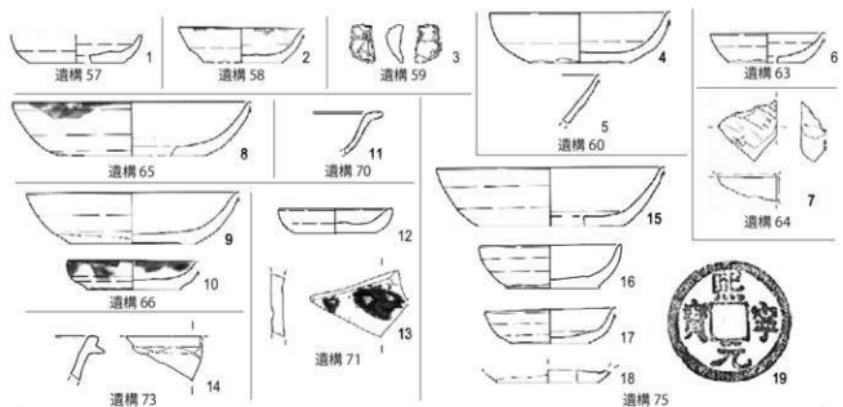
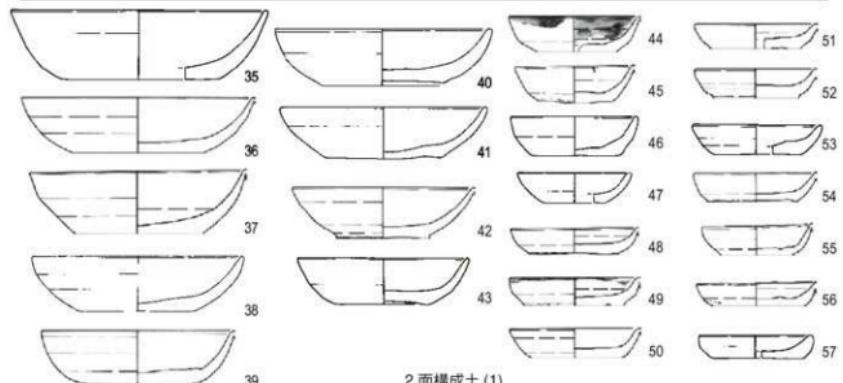


図8 第2面凝灰質砂岩石列



2面遺構外



2面構成土(1)

図9 第2面遺構および遺構外出土遺物

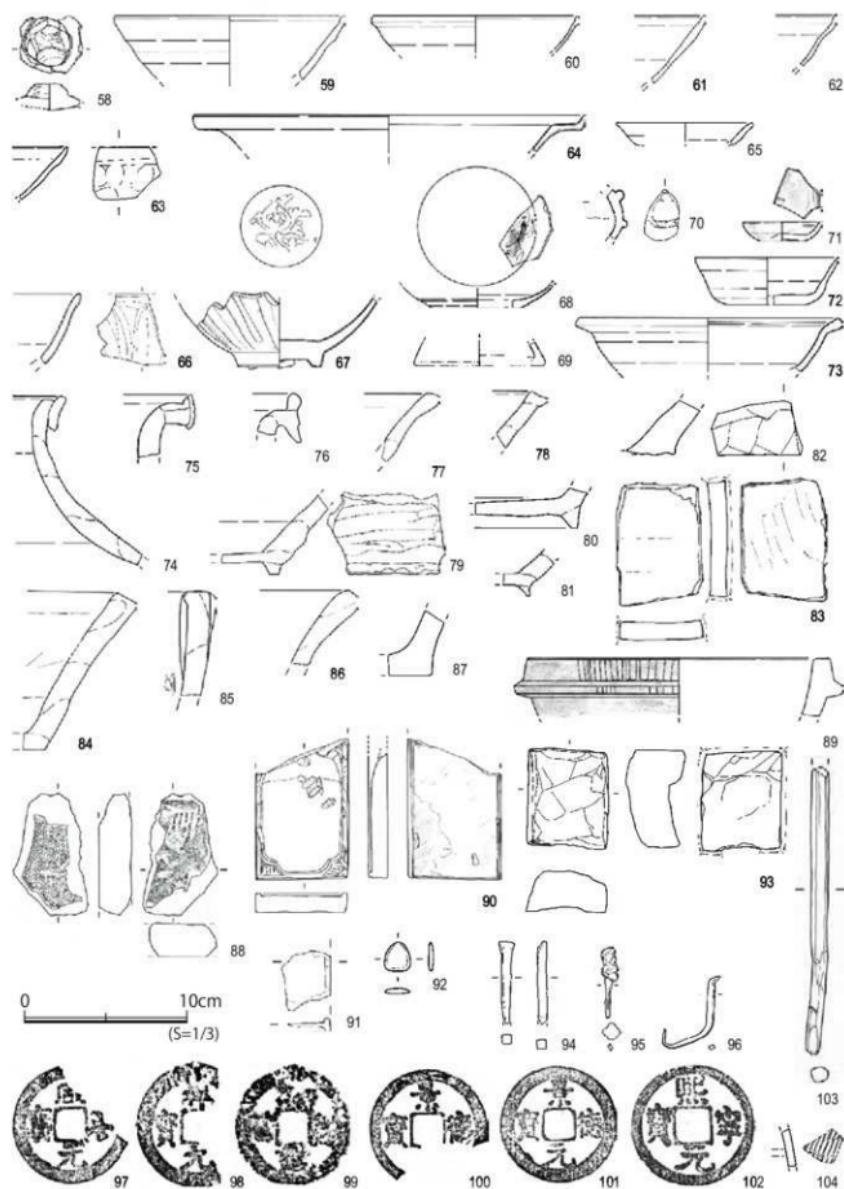


図 10 第2面構成土出土遺物

遺構64

円形を呈するピット。遺物は砥石片(図9-7)が出土している。

遺構65

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図9-8)が出土している。

遺構66

円形を呈するピット。礎板が4枚重なった状態で検出された。遺物はかわらけ(図9-9、10)が出土している。

遺構70

円形を呈するピット。南側は近代遺構によって削平されている。遺物は青磁折縁皿(図9-11)が出土している。

遺構71

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図9-12)と漆の付着した常滑壺の破片(図9-13)が出土している。

遺構73

円形を呈するピット。遺物は掲軸の口縁破片(図9-14)が出土している。

遺構75

楕円形を呈する土坑。凝灰質砂岩東西列(遺構79)にほぼ接している。遺物はかわらけ(図9-15～17)、白磁口兀皿(図9-18)、銅錢(図9-19)が出土している。

2面遺構外出土遺物(図9)

20～27はかわらけ。27は底部破片で穿孔が1点見られる。28は白磁口兀皿。29は渥美壺の破片。30は常滑片口鉢II類。31は常滑片口鉢I類。32は瀬戸柄付片口。33は砥石。34は鉄釘。そのほか自然遺物が出土している。

2面構成土出土遺物(図9、10)

35～57はかわらけ。44は灯明。58～63は白かわらけ。58は蓋のつまみの破片。64は青磁折縁鉢、65は白磁口兀皿、66～67は青磁鍋連弁文碗。67の見込みには植物文がみられる。68は青白磁割花文皿、69は青白磁の脚で器種不明。70も青白磁で器種不明。71、72は瀬戸入子で71は内面に紅が残存している。73は瀬戸折縁皿。74～76は常滑壺。77、79～81は常滑片口鉢I類。78、82は常滑片口鉢II類。83は擦り常滑片。側面全体が摩耗している。84は土器質、85～87は瓦質火鉢。88は瓦。89は滑石鍋。外面に煤が付着する。90～91は硯。92は碁石か。93は砥石。94～95は鉄釘。97～102は銅錢。103は棒状木製品。用途不明。104は須恵器壺の破片。

第3節 第3面の遺構と遺物（図11～18）

第3面は、調査区東側は近代遺構の底面に相当しわずかに削平されているが、調査区全体にわたり残存している。平坦に地業された泥岩細片を多く含む暗褐色粘質土上で多くの遺構を確認した。確認遺構はピット118穴・土坑8基・遺物集中2箇所・据壠1基などである。また調査区中央南側では貝殻片などが混入した地業面がやや広い範囲で確認された。礎板が数多く検出されたが、明瞭な建物址のプランは推定できていない。遺構の切りあい等から、第3面で発見した遺構は少なくとも3時期にわたると推定される。さらに中央や西よりで第3面直下より小溝が検出された。溝の西側に隣接して大型の泥岩塊を敷き詰めた範囲が確認されたが、その機能は不明である。

遺物は、かわらけ・手づくね・青磁・白磁・青白磁・常滑・瀬戸・備前・渥美・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・鋳型・錢が出土している。第3面確認レベルはおよそ海拔7.1mである。

遺構84

円形を呈するピット。遺構119を切る。遺物はかわらけ（図13-1）が出土している。

遺構85

遺構84の東に隣接し、遺構119を切る。やや不整形な梢円を呈する。遺物はかわらけ（図13-2）、常滑片口鉢I類（図13-3）が出土している。

遺構87

円形を呈するピット。遺構85、86に切られる。遺物は炭化した木製品（図13-4）が出土している。

遺構88

円形を呈するピット。遺構86に切られる。遺物はかわらけ（図13-5）、鎌連弁文青磁碗（図13-6）が出土している。

遺構91

隅丸方形を呈するピット。遺物はかわらけ（図13-7～9）、白磁口兀皿（図13-10）が出土している。

遺構92

梢円形を呈するピット。礎板が一枚底に確認された。遺物は白磁口兀皿底部片（図13-11）が出土している。

遺構93

不整形のピット。泥岩塊敷の中にやや埋没している。遺物はかわらけ（図13-12）が出土している。

遺構94

隅丸方形のピット。底部から礎板が1枚検出された。遺物はかわらけ（図13-13）が出土している。

遺構97

不整形のピット。遺物はかわらけ（図13-14）、产地不明の陶器片（図13-15）、常滑片口鉢II類（図13-16）が出土している。

遺構102

4基のピットが切り合う。円形を呈するピット。遺構101を切る。遺物はかわらけ（図13-17）、土器質火鉢（図13-18）が出土している。

遺構103

不整形を呈するピット。遺物はかわらけ（図13-19）が出土している。

遺構105



図 11 第3面全体図

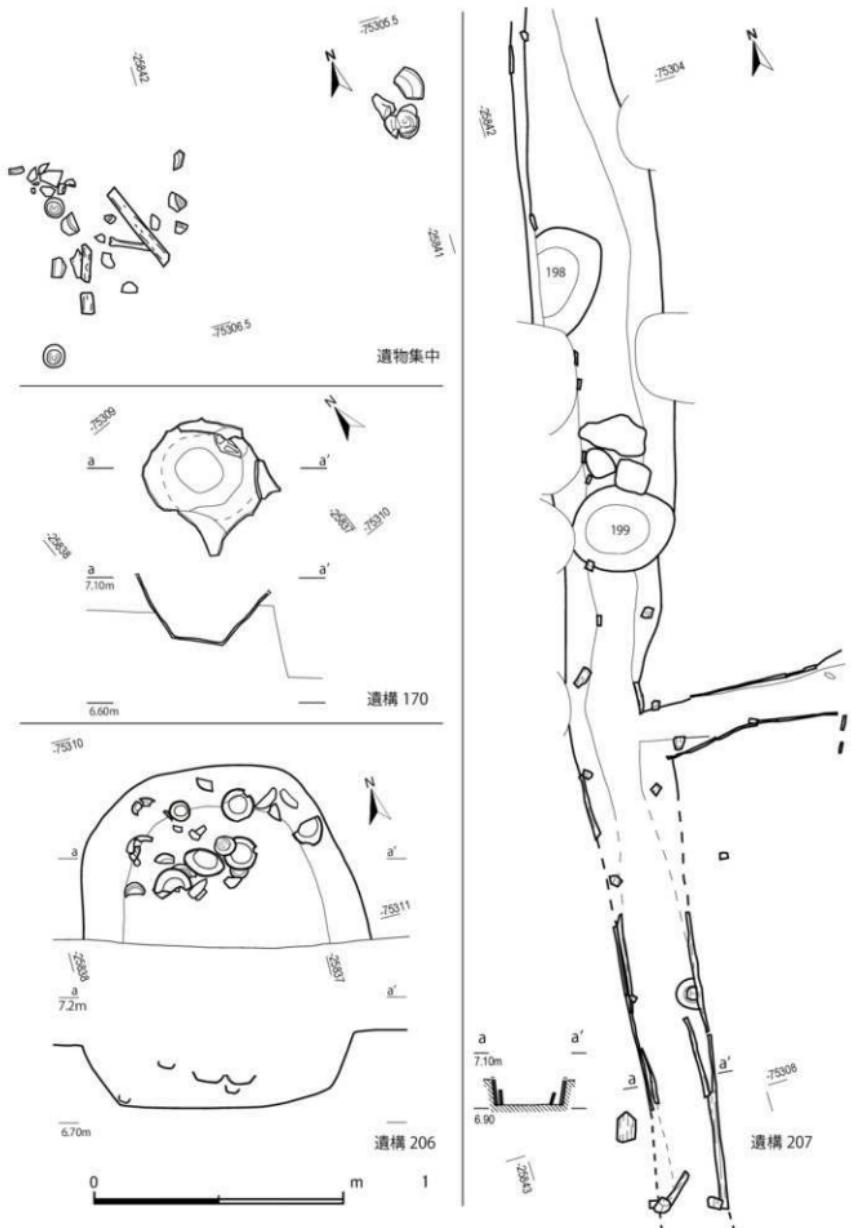


図 12 第3面個別造構

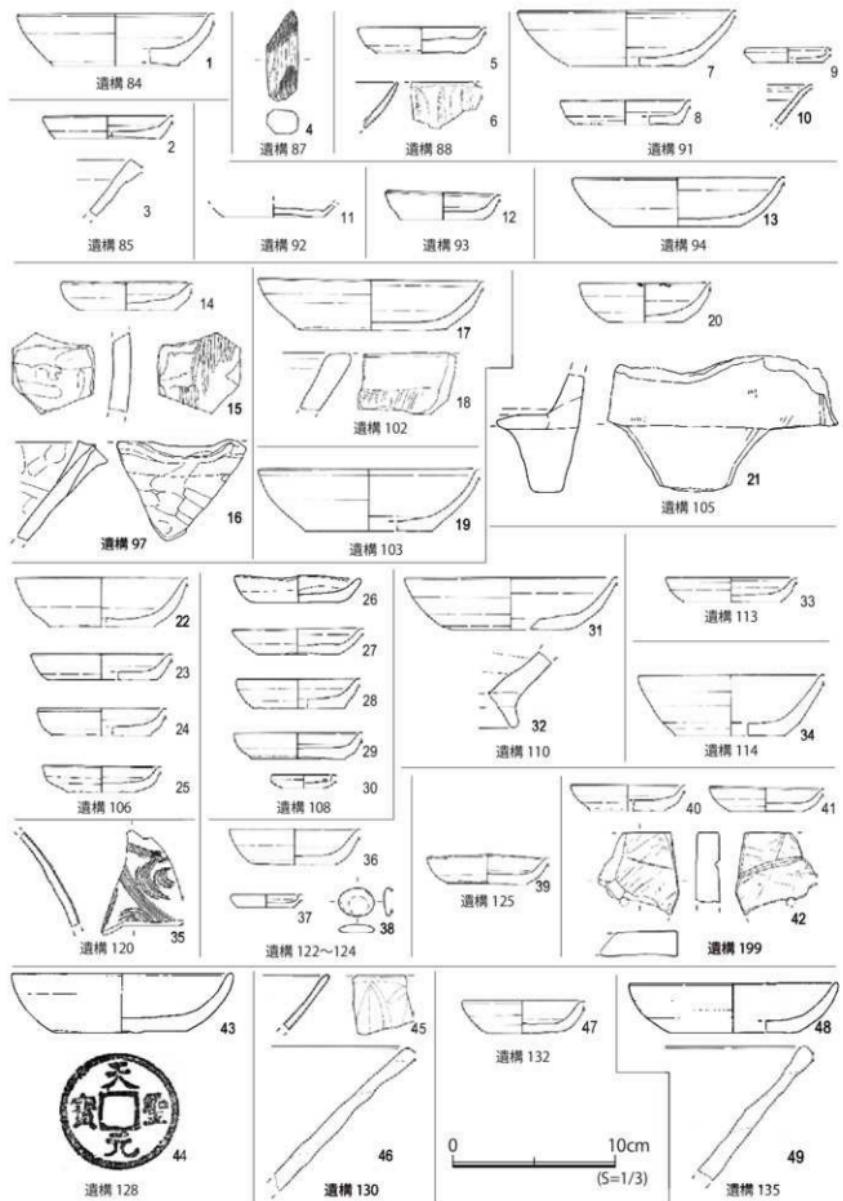


图13 第3面遺構出土遺物(1)

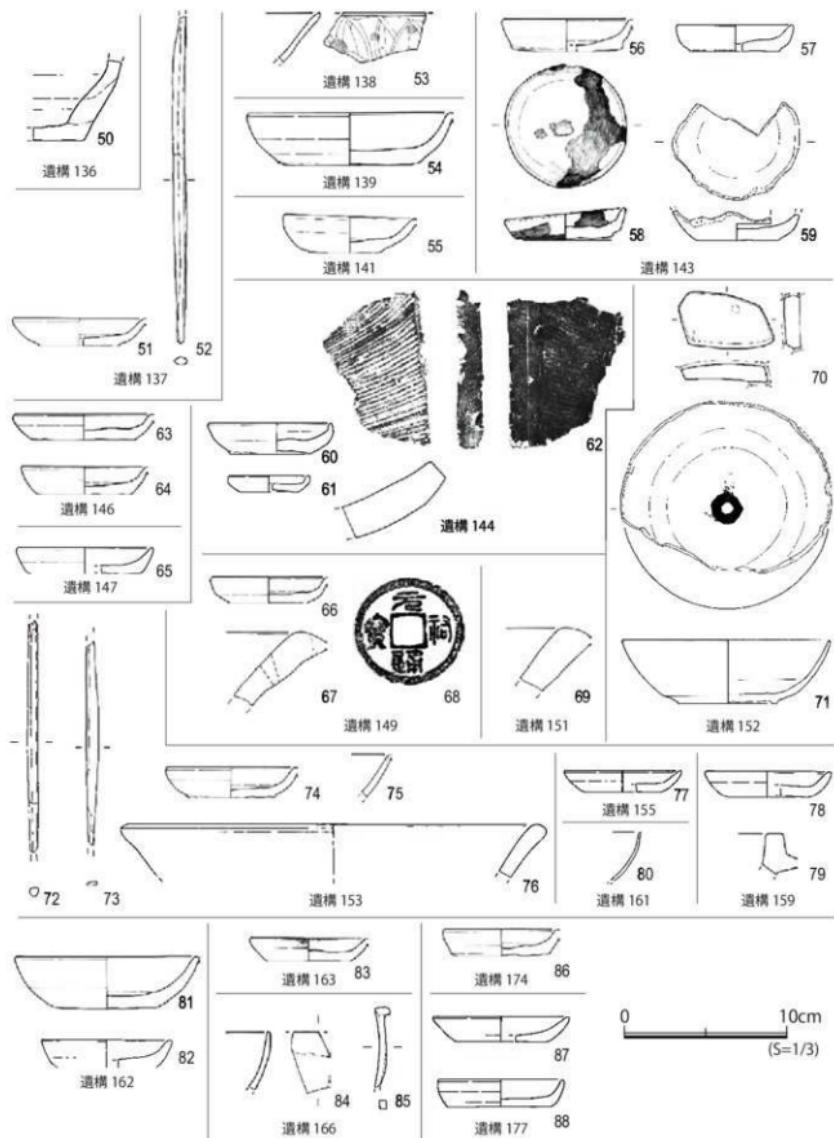


図 14 第3面遺構出土遺物 (2)

隅丸方形を呈するビット。遺構115と遺構207(溝)を切っている。底部から礎板が1枚検出されている。遺物はかわらけ(図13-20)、瓦質火鉢(図13-21)が出土している。

遺構106

隅丸方形を呈するビット。遺構207(溝)を切っており、また遺構107に切られる。礎板と思われる板片が出土。遺物はかわらけ(図13-22～25)が出土している。

遺構108

隅丸長方形を呈するビット。先端を削った小型の杭が立った状態で検出された。杭の底には礎板がおかれている。杭の横からは細長い板が検出されている。遺物はかわらけ(図13-26～30)が出土している。

遺構110

隅丸方形を呈するビット。溝の直上にあり、遺構109、123、124を切る。底部より礎板が1枚検出された。遺物はかわらけ(図13-31)、常滑片口鉢I類(図13-32)が出土している。

遺構113

隅丸方形を呈するビット。底部から礎板が1枚検出された。遺構114を切る。遺物はかわらけ(図13-33)が出土している。

遺構114

隅丸方形を呈するビット。遺構113に切られる。遺物はかわらけ(図13-34)が出土している。

遺構120

円形を呈するビット。遺物は青白磁梅瓶の破片(図13-35)が出土している。

遺構122、123、124

円形を呈するビット。遺構122は123、124によって切られる。124は遺構117も切る。122の底部からは礎板が検出、124内には大型の泥岩塊が認められていた。上面は平坦に加工されており礎板的に使用したものか。遺物はそれぞれの遺構で区別して取り上げることができず、一括している。かわらけ(図13-36、37)と碁石(図13-38)が出土している。

遺構125

円形を呈するビット。遺物はかわらけ(図13-39)が出土している。

遺構199

円形を呈するビット。遺物はかわらけ(図19-40、41)、滑石の加工品(図13-42)が出土している。用途不明。

遺構128

方形を呈するビット。遺物はかわらけ(図13-43)、銅鏡(図13-44)が出土している。

遺構130

円形を呈するビット。遺物は鎧蓮弁文青磁碗(図13-45)、常滑片口鉢I類(図13-46)が出土している。

遺構132

円形を呈するビット。遺構131を切る。遺物はかわらけ(図13-47)が出土している。

遺構135

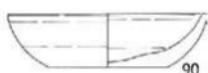
楕円形を呈するビット。遺物はかわらけ(図13-48)、常滑片口鉢I類(図13-49)が出土している。

遺構136

楕円形を呈するビット。遺構137を切る。遺物は常滑壺の底部片(図14-50)が出土。

遺構137

楕円形を呈するビット。遺構136に切られる。遺物はかわらけ(図14-51)、木製箸(図14-52)が出土している。



90
遺構 203

0 10cm
(S=1/3)



91
遺構 204



92



93



94



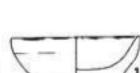
95



96



101



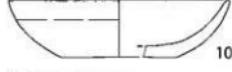
107



113



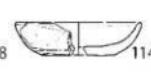
97



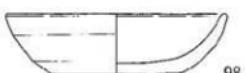
102



108



114



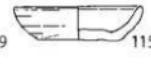
98



103



109



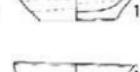
115



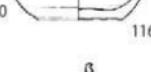
99



104



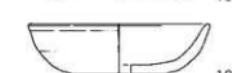
110



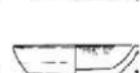
116



100



105



111



117

遺構 206

図 15 第3面遺構出土遺物 (3)

遺構 138

円形を呈するピット。遺物は鎧蓮弁文青磁碗(図14-53)が出土している。

遺構 139

方形を呈するピット。遺物はかわらけ(図14-54)が出土している。

遺構 141

楕円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図14-55)が出土している。

遺構 143

円形を呈するピット。遺構144を切る。遺物はかわらけ(図14-56～59)が出土している。58は全体的に被熱により変色している。

遺構 144

円形を呈するピット。遺構143に切られる。底部から礎板を1枚検出した。遺物はかわらけ(図14-60～61)、平瓦(図14-62)が出土している。

遺構 146

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図14-63～64)が出土している。

遺構 147

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図14-65)が出土している。

遺構 149

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図14-66)、土器質火鉢(図14-67)、銅錢(図14-68)が出土している。

遺構 151

円形を呈するピット。遺構150に切られる。遺物は土器質火鉢(図14-69)が出土している。

遺構 152

隅丸方形を呈するピット。遺構153を切る。礎板と思しき板が1枚検出。遺物は擦痕のある常滑片(図14-70)、漆器碗(図14-71)が出土している。漆器碗は見込みに円形文様が朱漆で描かれる。

遺構 153

円形を呈するピット。遺構152に切られる。底面に5枚長方形の板が確認。礎板か。遺物はかわらけ(図14-74)、瓦器質黒縁碗(図14-75)、常滑片口鉢I類(図14-76)、箸(図14-72、73)が出土している。

遺構 155

楕円形を呈するピット。遺構154に切られる。底部に2枚の長方形の板が検出。遺物はかわらけ(図14-77)が出土している。

遺構 159

方形を呈するピット。底部より礎板が1枚検出された。遺物はかわらけ(図14-78)、滑石製鍋(図14-79)が出土している。

遺構 161

長方形を呈するピット。底部やや上方より薄い板が検出。礎板か。遺物は漆器碗の口縁部片(図14-80)が出土している。

遺構 162

不整形を呈するピット。遺物はかわらけ(図14-81～82)が出土している。

遺構 163

円形を呈するピット。遺構182に切られる。底部より礎板が2枚重なった状態で検出。遺物はかわらけ(図

14-83) が出土している。

遺構 166

円形を呈するピット。遺物は瓦器質黒縁碗(図14-84)、鉄釘(図14-85)が出土している。

遺構 170

大型の常滑窯(図15-89)を埋設した土坑。掘り方が明瞭ではなく未確認である(図12)。

遺構 174

楕円形を呈するピット。底部より礎板が2枚重なった状態で検出。遺物はかわらけ(図14-86)が出土している。

遺構 177

円形を呈するピット。遺構169を切る。遺物はかわらけ(図14-87～88)が出土している。

遺構 203

隅丸長方形を呈する土坑。遺構193に切られ、192を切る。遺物はかわらけ(図15-90～91)が出土している。

遺構 204

方形を呈する土坑。遺構133を切る。遺物は常滑窯肩部片(図15-92)が出土。スタンプが見られる。

遺構 205

隅丸長方形を呈する土坑。遺物は土器質火鉢(図15-93～94)、木製箸(図15-95)が出土している。

遺構 206

円形を呈する土坑。南側は調査区外に伸びているため、全体の規模は不明。土坑内からは上下2層に

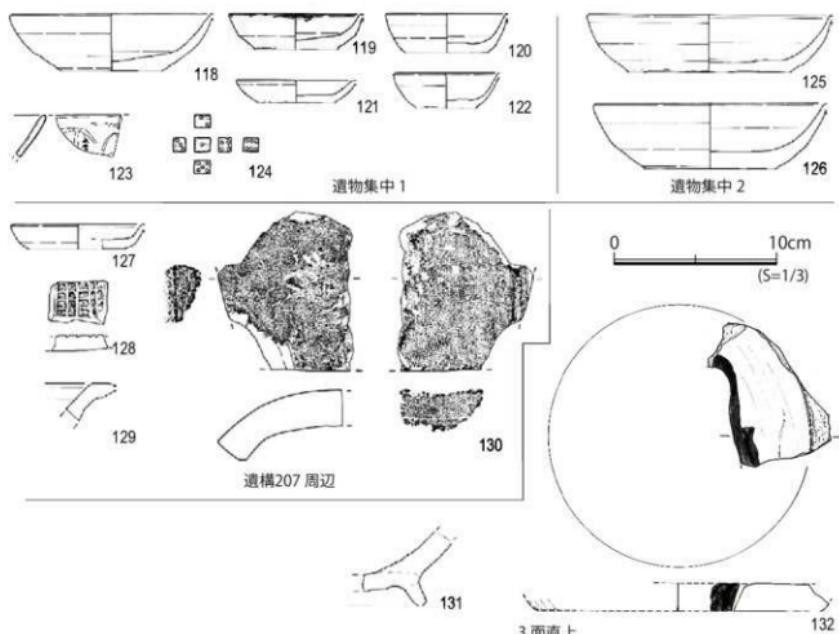


図16 第3面遺構出土遺物(4)

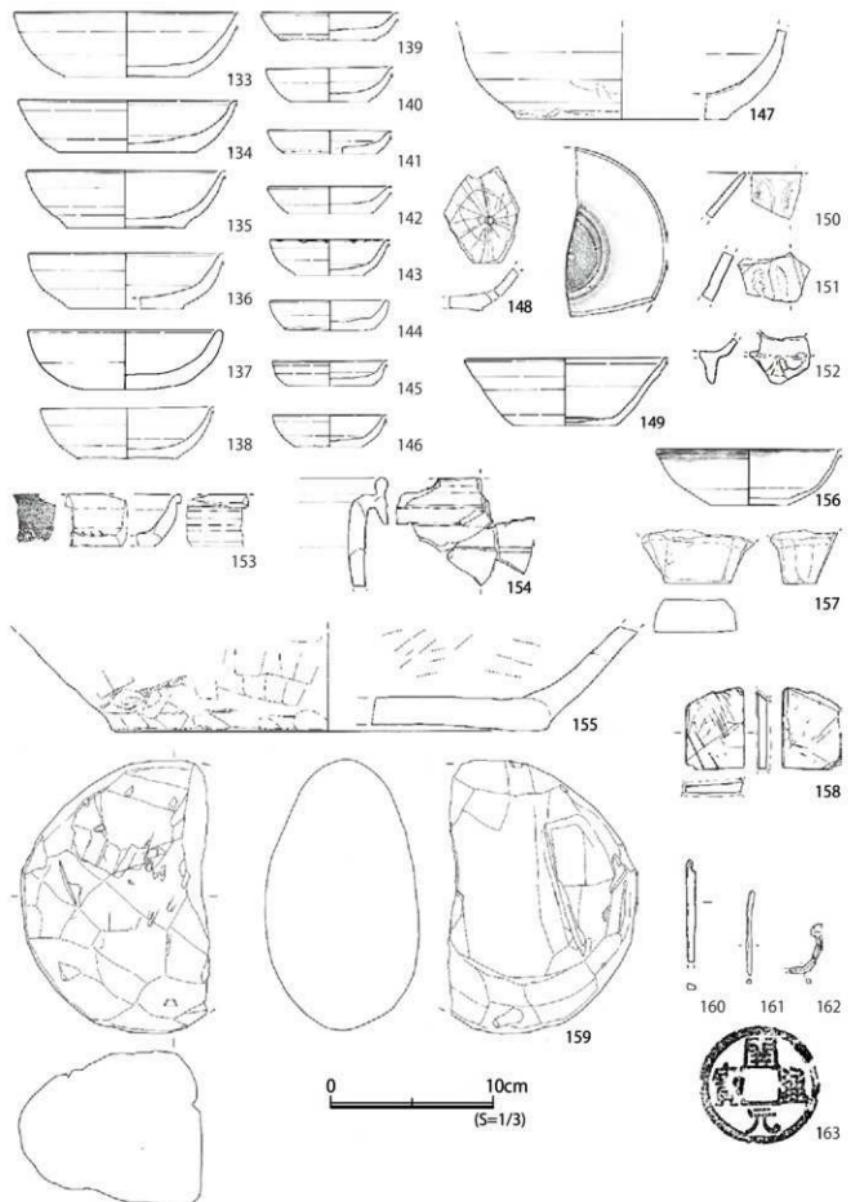


图17 第3面遗构外出土遗物

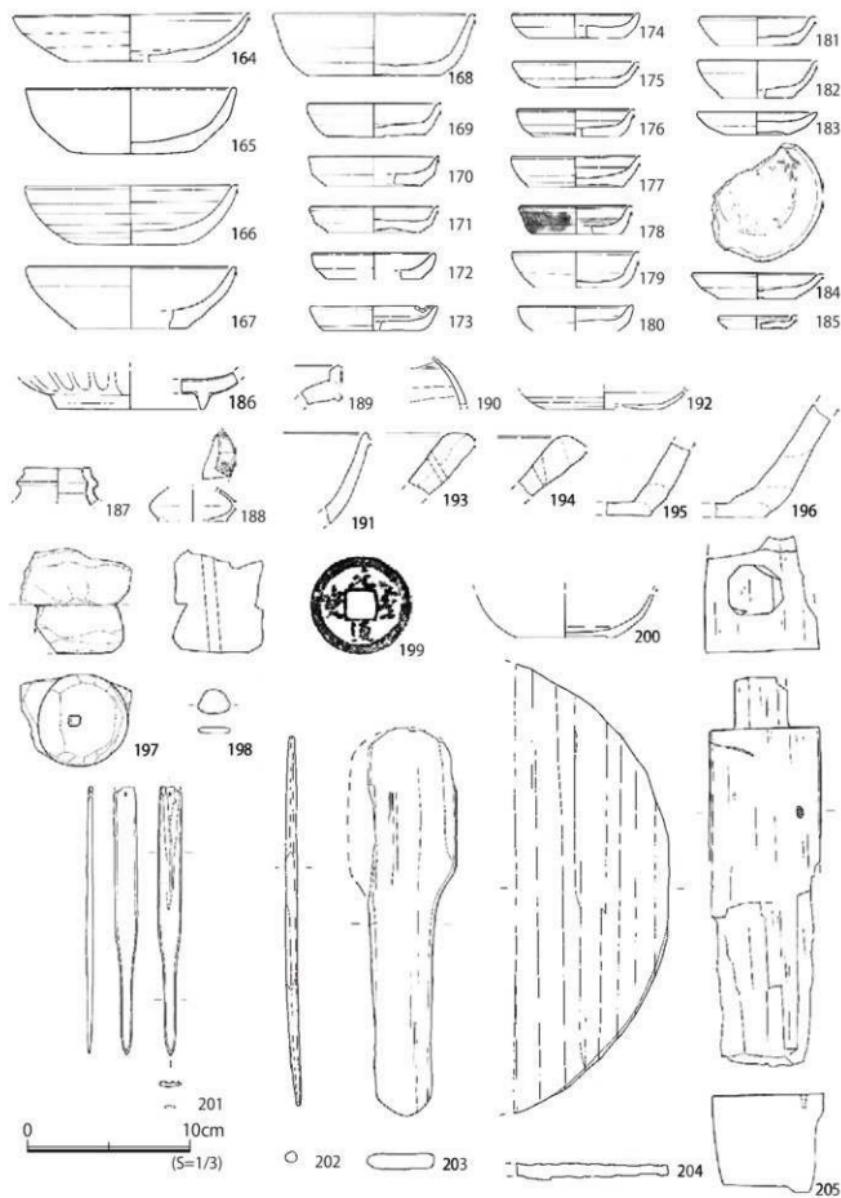


図18 第3面構成土出土遺物

わたり完形に近いかわらけがまとめて多数出土した（図12）。図示できる程度に復元できたものは21点である（図15-96～116）。ほかに鉄釘が1点出土している（図15-117）。

遺物集中1（図12）

遺構126の東側、溝の上部の地面直上でまとまった状態で遺物が検出された。土坑などの掘りこみは確認されていない。検出遺物はかわらけ（図16-118～122）、鎧蓮弁文青磁碗（図16-123）、骨製賽子（図16-124）などである。他に牛骨が含まれていた。

遺物集中2（図12）

上記遺物集中のさらに東の地面直上よりかわらけが数点まとまって検出された。遺構の掘りこみは確認されていない。検出遺物はかわらけ（図16-125～126）である。

遺構207（図12）

調査区の中央やや西寄り、泥岩塊敷のすぐ東隣より、小規模な溝が検出された。溝はピットによって相当壊されている。いわゆる箱掘りの溝で、ほぼ南北方向に調査区全体を走る。軸は2面検出の凝灰質砂岩列と同じである。また遺構123付近で東方向に直行して分岐する。残存状態は良くないが両壁面は薄い板で土留めとし、細い角杭で補強してある。板の上部は全体的に火災によって炭化している。出土遺物はやや少なく、かわらけ（図16-127）、瀬戸卸皿片（図16-128）、土器質火鉢（図16-129）、丸瓦（図16-130）などである。

3面遺構外出土遺物（図16、17）

地業面直上で検出した遺物には常滑片口鉢I類（図16-131）、滑石製鍋の軒用品（図16-132）がある。132には底部には煤が、加工された側面には漆が付着していた。そのほかの遺構外遺物として、かわらけ（図17-133～146）、大型のかわらけ型製品（図17-147）、穿孔をほどこし、そこから放射状に広がる線刻をほどこしたかわらけ底部片（図17-148）、白かわらけ（図17-149）、鎧蓮弁文青磁碗（図17-150）、青白磁梅瓶（図17-151）、青白磁香炉脚部（図17-152）、瀬戸卸皿（図17-153）、常滑甕（図17-154、155）、瓦器質黒縁碗（図17-156）、瓦器質火鉢脚部（図17-157）、砥石（図17-158）、五輪塔水輪（図17-159）、鉄釘（図17-160～162）、銅錢（図17-163）が出土している。

第3面構成土出土遺物（図18）

第3面の構成土からはかわらけ（図18-164～185）が多く出土している。うち184は内面見込みに墨書きが見られるが、文字は判読できない。ほかに蓮弁文青磁鉢（図18-186）、常滑甕（図18-187）、不明舶載陶器（図18-190）、瀬戸洗（図18-191）、瓦器質土器皿（図18-192）、土器質火鉢（図18-193～197）、碁石（図18-198）、銅錢（図18-199）、漆器碗（図18-200）、骨笄（図18-201）、木製箸（図18-202）、木製杓子（図18-203）、木製曲物（図18-204）、木製部材（図18-205）等が出土している。

第4節 第4面の遺構・遺物（図19～29）

第4面は近代遺構による削平の影響を受けず、調査区全域で確認された。平坦に地業された泥岩細片を多く含む暗褐色弱粘質土上で多くの遺構を発見した。発見した遺構はピット71穴・土坑21基で、やや大型の土坑が多く上方の3面とはまた様相が異なる。西側に土坑が多く、ピットは東側に集中している。礎板が検出されたピットも多いが、明確な建物址を推定するには至らなかった。遺構の切りあいから、

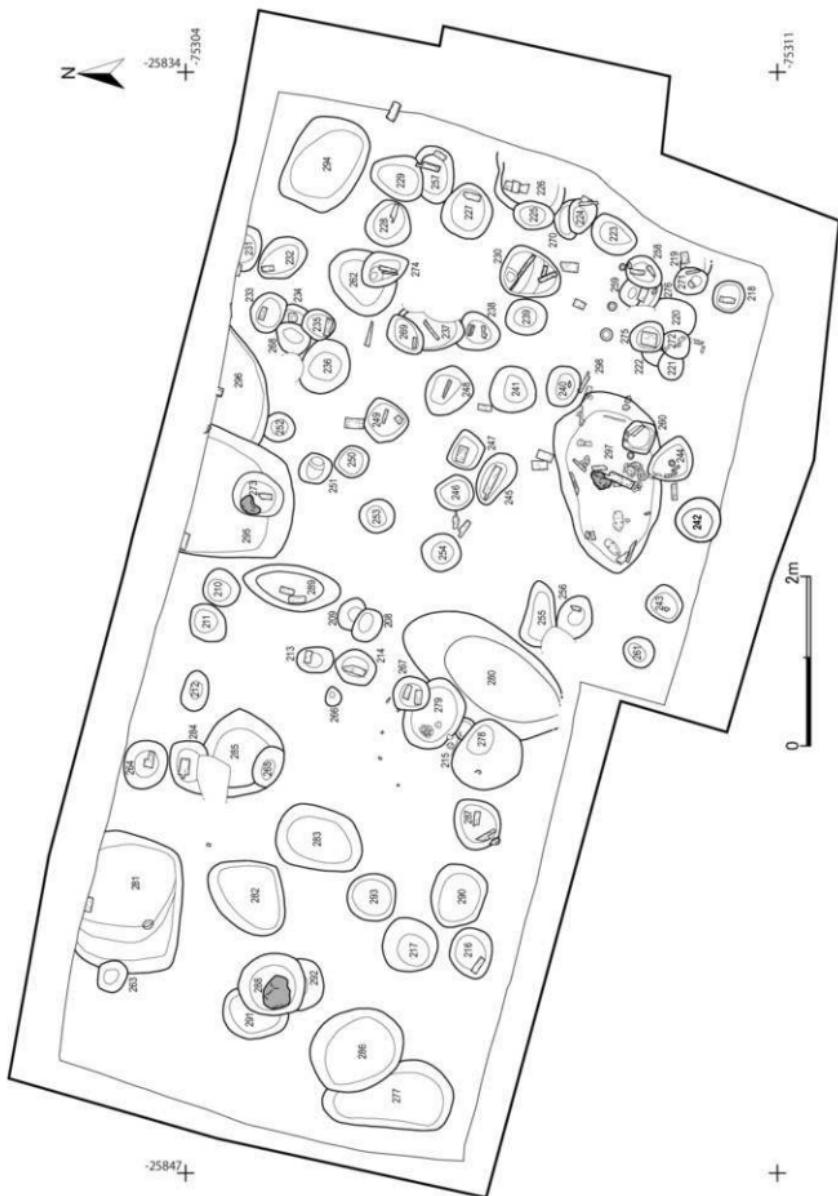


图19 第4面全体図

第4面で発見した遺構は3時期に亘ると考えている。遺物は、かわらけ・手づくね・青磁・白磁・青白磁・常滑・瀬戸・瓦器碗・火鉢・瓦・鉄製品・石製品・鋳型・錢が出土している。第4面の確認レベルはおよそ海拔6.8m。

遺構211(図21)

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図21-1)が出土している。

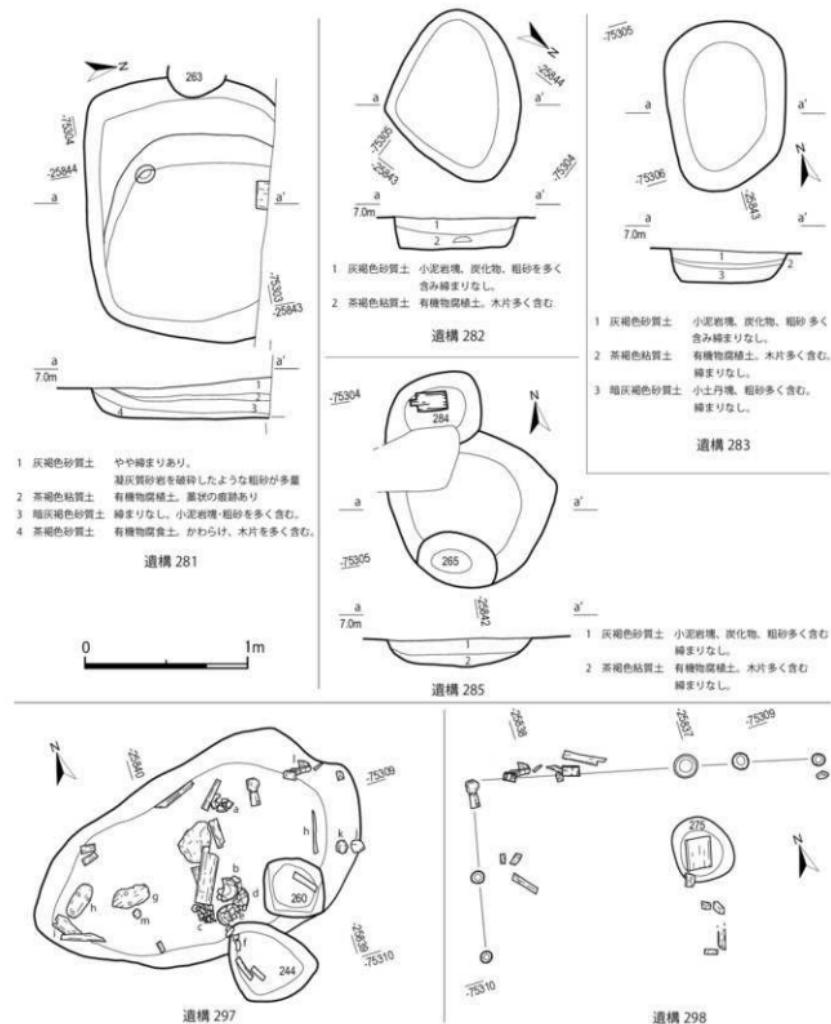


図20 第4面個別遺構

遺構214(図21)

円形を呈するピット。底部から礎板が1枚検出された。遺物はかわらけ(図21-2、3)、銅錢(図21-4)が出土している。

遺構216(図21)

円形を呈するピット。底部より礎板が1枚検出。遺物は木製箸(図21-5)が出土している。

遺構220(図21)

楕円形を呈するピット。遺物は蓮弁文青磁折縁鉢(図21-6)が出土している。

遺構224(図21)

不整形を呈するピット。遺物はかわらけ(図21-7)、常滑片口鉢I類(図21-8)が出土している。

遺構226(図21)

隅丸方形を呈するピット。東側は調査区外に続く。底面より礎板が2枚検出された。遺物は漆碗の破片(図21-9～11)が出土。植物文を描いたものか。

遺構227(図21)

円形を呈するピット。底面より礎板が1枚検出された。遺物はかわらけ(図21-12～13)、常滑片口鉢I類(図21-14)が出土している。

遺構228(図21)

円形を呈するピット。遺物は銅錢(図21-15)が出土している。

遺構229

不整形を呈するピット。遺構257を切る。遺物はかわらけ(図21-16～18)、銅錢(図21-19)が出土している。

遺構230(図21)

三角形を呈するピット。底面より礎板が2枚検出された。遺物はかわらけ(図21-20～22)、常滑亮底部片(図21-23)、銅錢(図21-24)が出土している。

遺構232(図21)

楕円形を呈するピット。底部より礎板が1枚検出された。遺物はかわらけ(図21-25～28)、常滑亮(図21-29)が出土している。

遺構233(図21)

円形を呈するピット。遺構234を切る。遺物はかわらけ(図21-30～32)が出土している。

遺構234(図21)

円形を呈するピット。遺構233、235、268に切られる。底部より礎板が1枚検出。遺物は漆器(図21-33)、用途不明木製品(図21-35)、籠状木製品(図21-34)が出土している。

遺構235(図21)

円形を呈するピット。遺構234、236、268を切る。底部より礎板が1枚検出された。遺物はかわらけ(図21-36)が出土している。

遺構236(図21)

円形を呈するピット。3面の遺構および遺構235に切られる。遺物はかわらけ(図21-37)が出土している。

遺構237(図22)

楕円形を呈するピット。遺構269に切られ、238を切る。底面より長方形木板が検出。遺物はかわらけ(図22-49)、瀬戸の口縁部破片(図22-50)、漆碗(図22-51～52)が出土している。52は底部に3孔がみられる。

遺構239(図21)

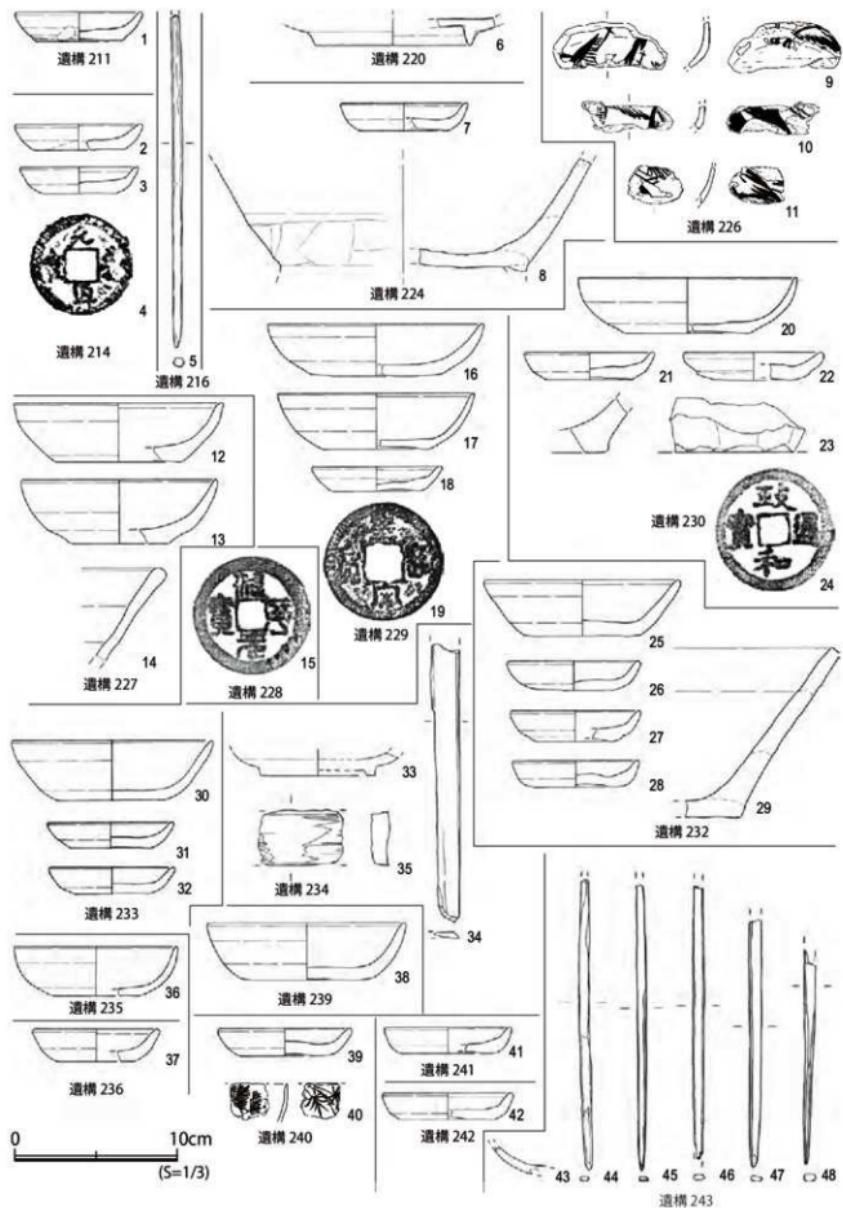


图21 第4面遗构出土遗物(1)

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図21-38)が出土している。

遺構240(図21)

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図21-39)、漆碗の破片(図21-40)が出土。内外面に植物文。

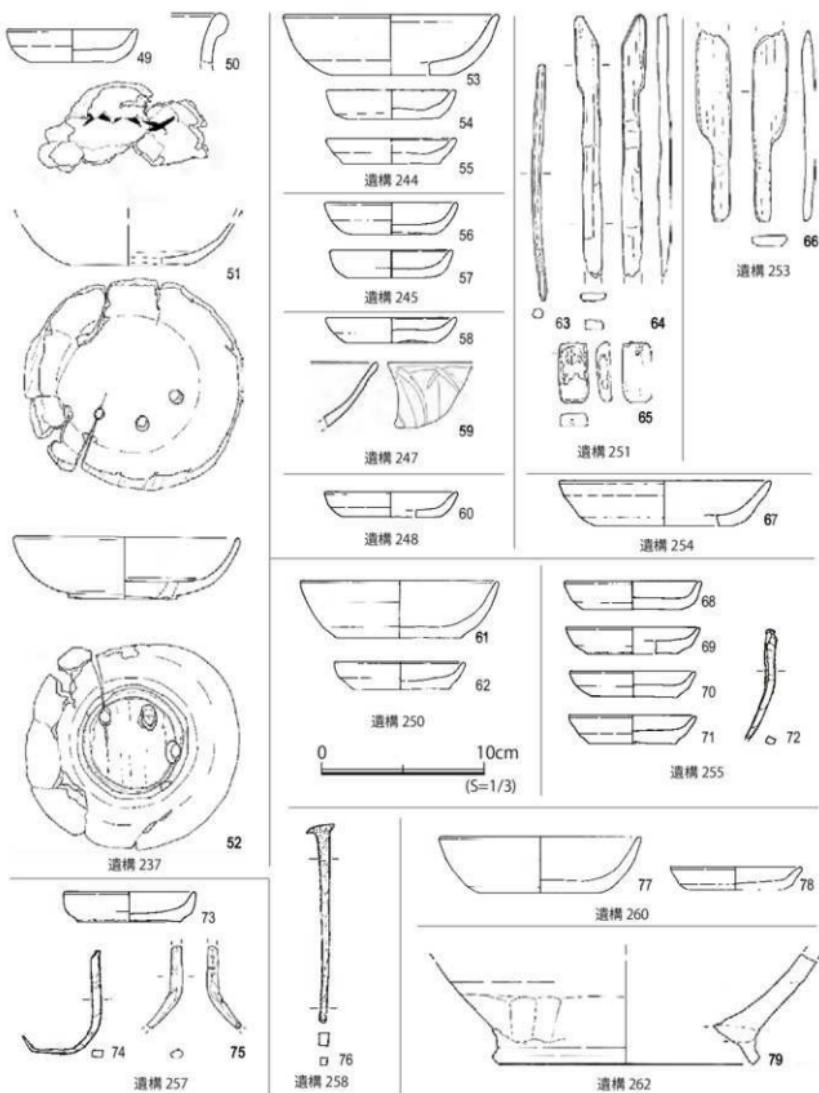
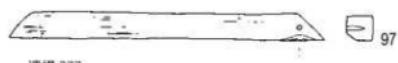
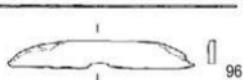
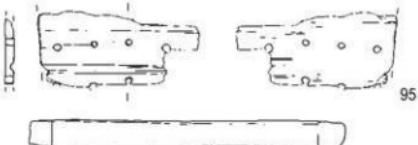
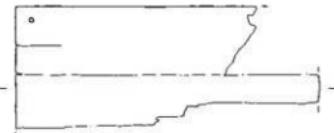
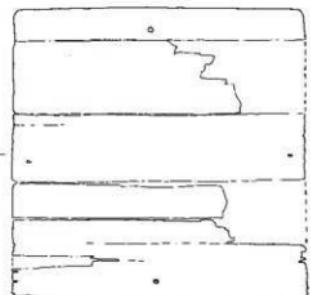
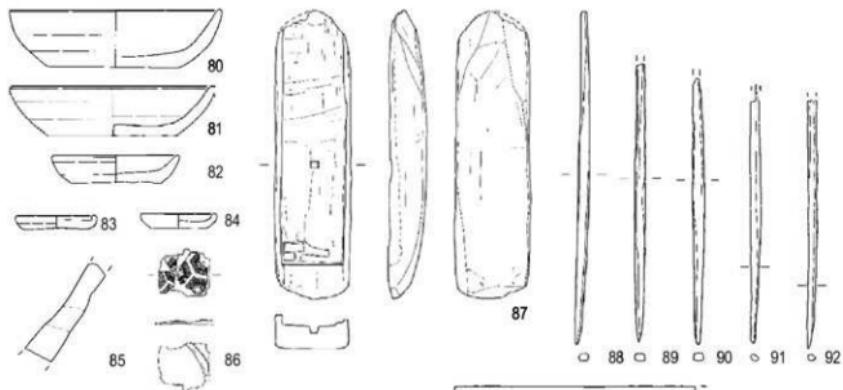


図22 第4面遺構出土遺物(2)



遺構 277

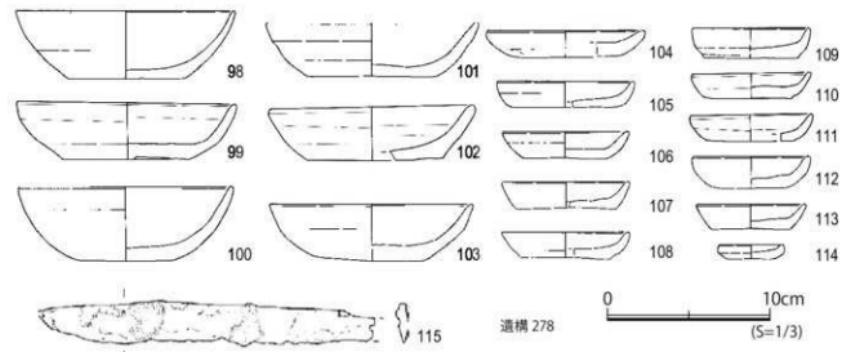


図23 第4面遺構出土遺物(3)

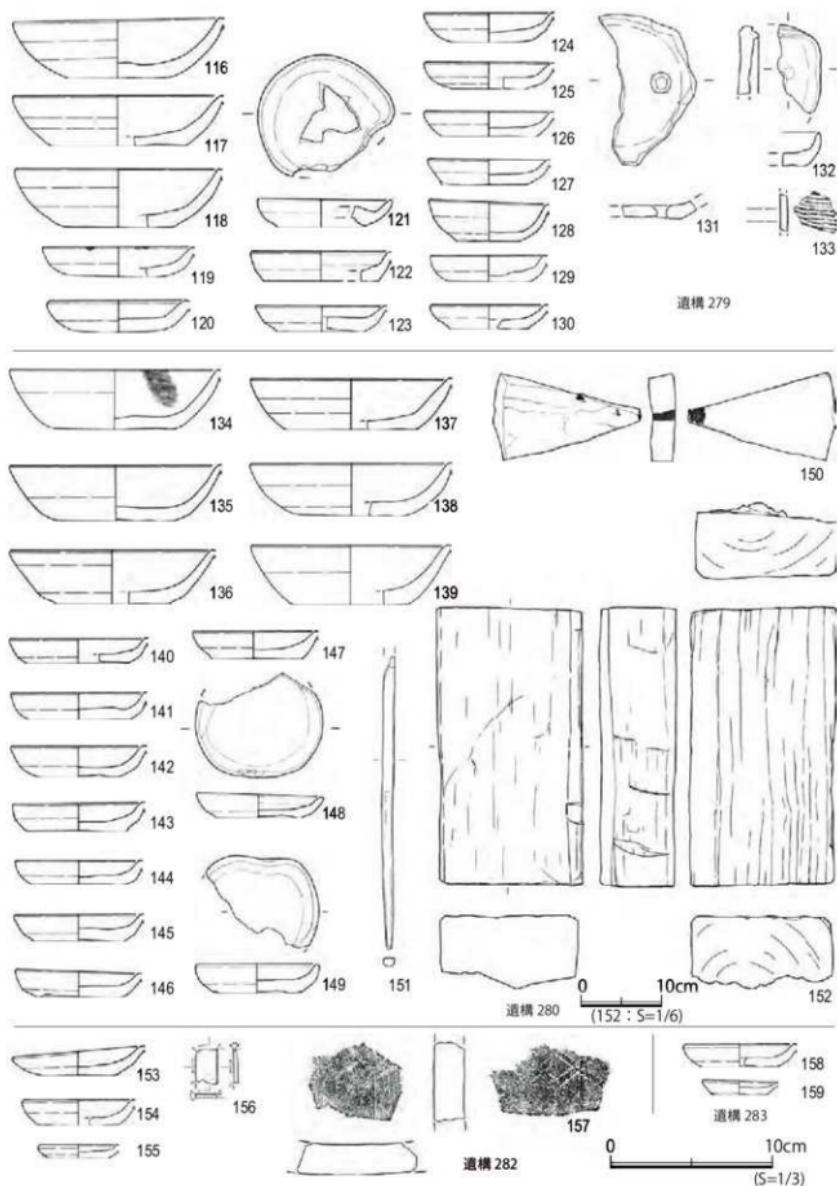


図24 第4面遺構出土遺物(4)

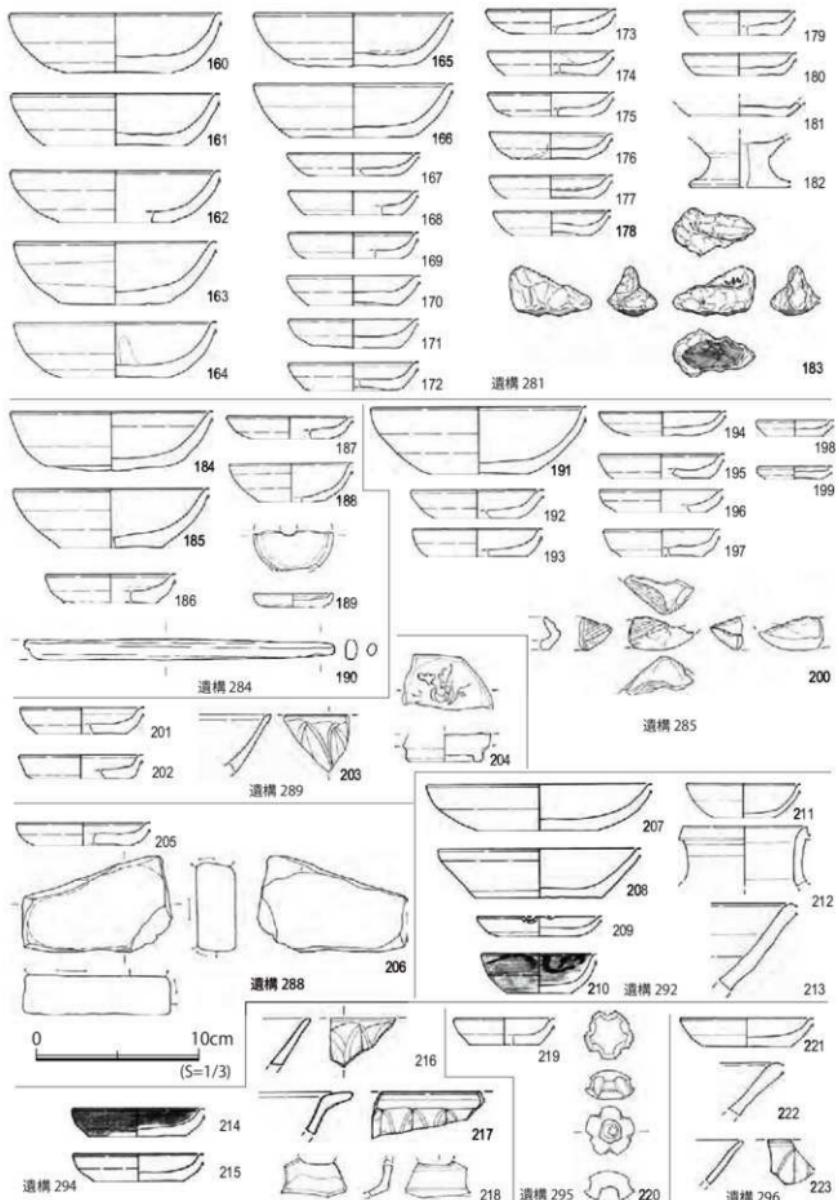
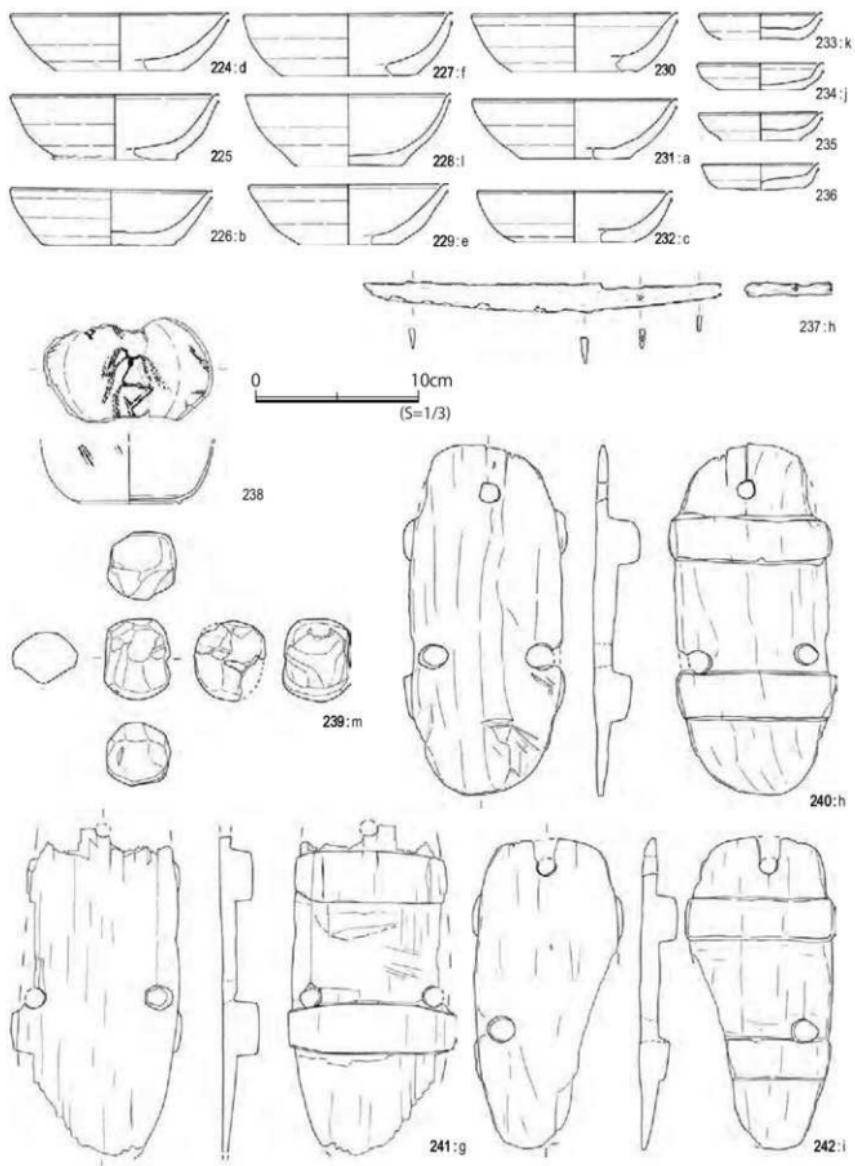


图25 第4面遗构出土遗物(5)



遺構 297

図 26 第4面遺構出土遺物(6)

遺構241(図21)

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図21-41)が出土している。

遺構242(図21)

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図21-42)が出土している。

遺構243(図21)

円形を呈するピット。杭が残存している。遺物は漆器碗片(図21-43)、木製箸(図21-44～48)が出土している。

遺構244(図22)

三角形を呈するピット。遺構297を切る。遺物はかわらけ(図22-53～55)が出土している。

遺構245(図22)

不整形を呈するピット。底部に長方形木板が検出。礎板か。遺物はかわらけ(図22-56～57)が出土している。

遺構247(図22)

方形を呈するピット。底部に礎板が1枚検出された。遺物はかわらけ(図22-58)、鎌蓮弁文青磁碗(図22-59)が出土している。

遺構248(図22)

円形を呈するピット。底部に長方形木板が検出された。礎板か。遺物はかわらけ(図22-60)が出土している。

遺構250(図22)

隅丸方形を呈するピット。遺物はかわらけ(図22-61～62)が出土している。

遺構251(図22)

円形を呈するピット。底部東側が1段深く掘りこまれている。遺物は木製箸(図22-63)、不明木製品(図22-64)、漆塗りの方形板(図22-65)が出土している。

遺構253(図22)

円形を呈するピット。遺物は木製品(図22-66)が出土している。杓文字か。

遺構254(図22)

円形を呈するピット。遺物はかわらけ(図22-67)が出土している。

遺構255(図22)

不整形を呈するピット。遺物はかわらけ(図22-68～71)、鉄釘(図22-72)が出土している。

遺構257(図22)

平面形は不明。遺構227、229に切られる。遺物はかわらけ(図22-73)、鉄釘(図22-74)、不明角製品(図22-75)が出土している。

遺構258(図22)

三角形を呈するピット。遺構259、276を切る。遺物は鉄釘(図22-76)が出土している。

遺構260(図22)

方形を呈するピット。遺構297を切る。底部から長方形木板が検出。遺物はかわらけ(図22-77～78)が出土している。

遺構262(図22)

円形を呈するピット。遺物は常滑片口鉢I類(図22-79)が出土している。

遺構277(図23)

不整形を呈する土坑。遺構286に切られる。出土遺物は80～84はかわらけ、85は涅美片口鉢、86は漆器碗片でスタンプで亀甲文を施す。87は舟形。土坑の壁面に引っかかる形で出土。88～92は木製箸。93、94は折敷。95は2列の穿孔がある木製の板。96は不明木製品。97は曲物の蓋の掘みか。

遺構278(図23)

円形を呈する土坑。遺構215、280を切る。出土遺物は98～114はかわらけ。115は鉄製刀子。

遺構279(図24)

円形を呈する土坑。遺構278に隣接、遺構267に切られ、遺構215、280を切る。出土遺物は116～132はかわらけ。121は歪みが激しい。131は底部に穿孔が1点。132は耳皿状を呈する。133は須恵器甕の破片。混入である。

遺構280(図24)

楕円形を呈する土坑。出土遺物は134～149はかわらけ。148、149は一部側面を内部に押し込んだ形態で耳皿状か。150は三角形に破碎した常滑片で先端に漆が付着する。工具として使用したか。151は木製箸。152は礎板。この土坑を壊したピットがあった可能性があるが、検出できなかった。

遺構281(図20、25)

ほぼ方形を呈する大型の土坑。北側は調査区外に広がる。東側は1段高い中間端を造り出す。覆土は4層に分かれ(図20)。調査区壁面で礎板が検出され、土坑を壊したピットがあったと考えられるが、排水溝中で見つかったためプランは検出できなかった。出土遺物は160～180はかわらけ。181は白磁口兀皿。182は土器質の柱状高台。上部は破損しており形態が不明。183は土製品。一面は炭素吸着により黒色化しているが、何をかたどったものか不明。

遺構282(図20、24)

不整形を呈する土坑。覆土は2層に分かれ(図20)。出土遺物は153～155はかわらけ。156は砥石。157は平瓦。

遺構283(図20、24)

楕円形を呈する土坑。覆土は3層に分かれ、中ほどに薄い腐植土層を挟む(図20)。出土遺物は158～159はかわらけ。

遺構284(図20、25)

不整形を呈するピット。3面の遺構に切られ、遺構285を切る。礎板が1枚検出された。出土遺物は184～189はかわらけ。189は底部中央を穿孔。190は棒状木製品。

遺構285(図20、25)

円形を呈する土坑。遺構265、284に切られる。堆積土は2層に分かれ(図20)。出土遺物は191～200はかわらけ。200は耳皿状に口縁を内側に折り曲げる。

遺構288(図25)

円形を呈する土坑。大型の泥岩塊が内部に放棄されていた。遺構291、292を切る。出土遺物は205はかわらけ。206は瓦の転用品で側面に摺り痕が見られる。

遺構289(図25)

楕円形を呈する土坑。内部より長方形の板が2枚検出された。出土遺物は201～202はかわらけ。203、204は鍋蓮弁文青磁碗。204の内面見込みには草花文が刻文される。

遺構292(図25)

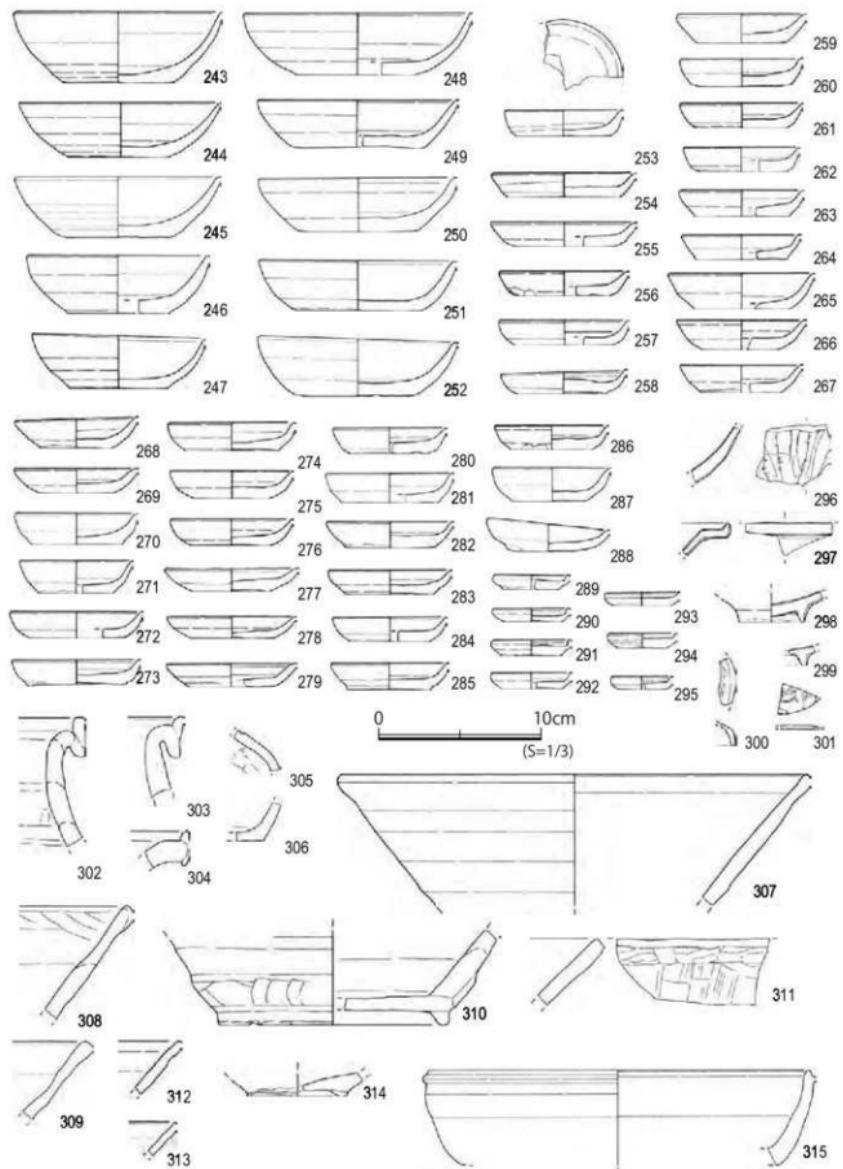


図27 第4面遺構外出土遺物(1)

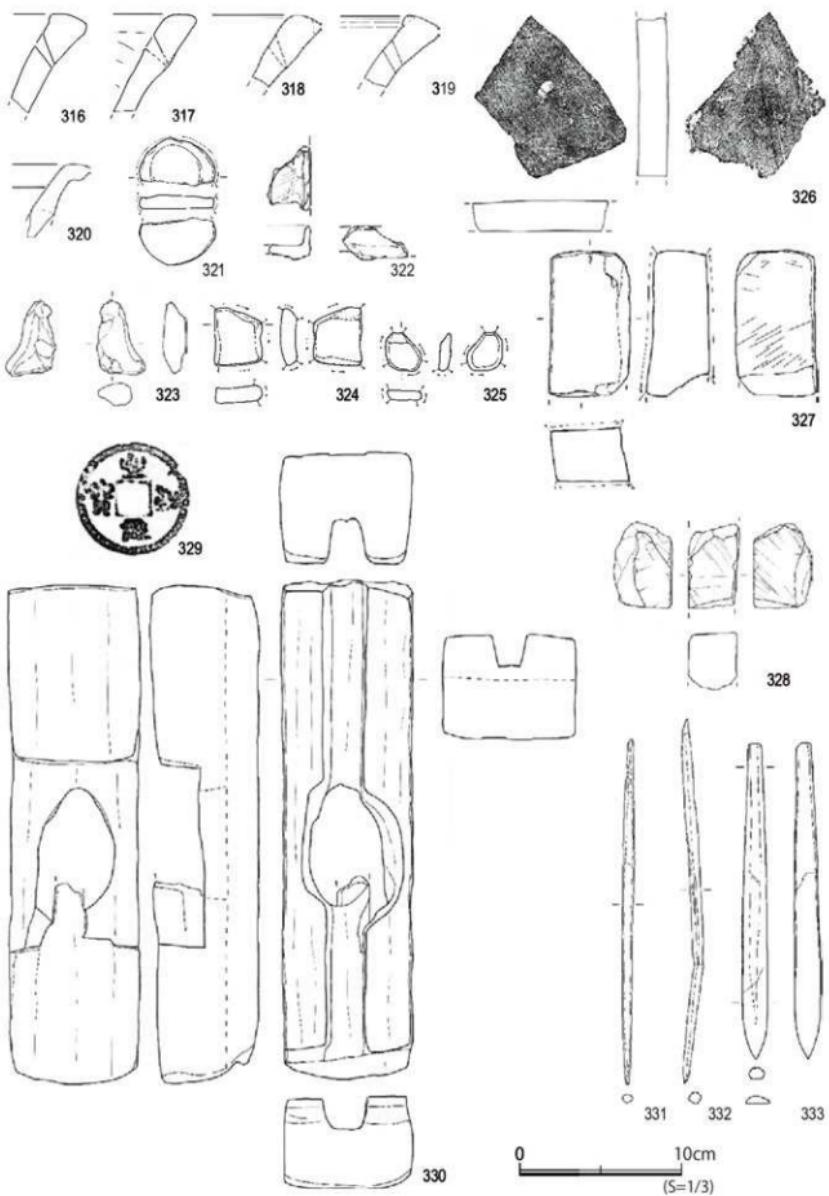


図28 第4面遺構外出土遺物(2)

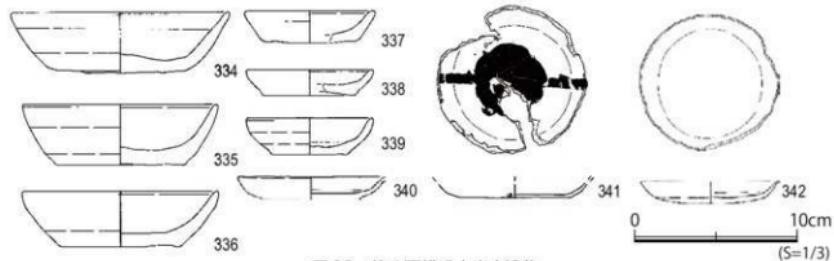


図29 第4面構成土出土遺物

円形を呈する土坑。出土遺物は207～211はかわらけ。212は常滑壺の口縁部片。213は常滑片口鉢I類。

遺構294(図25)

隅丸方形を呈する土坑。出土遺物は214～215はかわらけ。216は錦蓮弁文青磁碗。217は蓮弁文折縁鉢。218は青白磁の香炉か。

遺構295(図25)

隅丸方形を呈する大型の土坑。北は調査区外に伸びる。遺構296を切る。出土遺物は219はかわらけ。220は黒漆の装飾品で底面に穿孔がある。

遺構296(図25)

円形を呈する土坑。遺構295に切られ北は調査区外に伸びるため、正確な平面形は不明。調査区壁面には礎板が検出されているため、ピットが存在していたと考えられるが、排水溝の内部で見つかったためプランを検出できていない。出土遺物は221はかわらけ。222は常滑片口鉢I類。223は錦蓮弁文青磁碗。

遺構297(図20、26)

梢円形を呈する土坑。遺構244、260に切られる。長方形の板および泥岩塊が複数放棄されていた。中央付近にかわらけ、西側に木製品がやまとまって出土した。出土遺物は224～236がかわらけ。237は鉄製刀子で、柄に木製の薄い板が残存した状態であった。238は漆器碗。黒漆で内面見込みに柳が描かれる。239は毬打の球か。240～242は木製の連歯下駄。

遺構298(図20、29)

調査区の東南隅に詳細不明の構造物が確認された。長方形の板が縦板として数枚地面に埋まった状態で検出されている。板壁建物と推測されるがごく一部しか木板が残存しておらず、断定できない。また板の軸に沿う形で杭穴と思われる小さなピットがいくつか見られた。調査区外におそらく続いていると考えられるが全体的な平面形や規模は不明である。北側のピット列の軸状には小型かわらけが1点検出され、その中にはイボキサゴが50数点納められていた。

4面遺構外出土遺物(図27～28)

243～295はかわらけ。296は錦蓮弁文青磁碗。297は青磁折縁鉢。298は青磁碗。299は青磁碗か。300は白磁合子の蓋。301は青白磁で器種不明。302～304は常滑壺口縁部片。305～306は常滑壺。307～310は常滑片口鉢I類。311は常滑片口鉢II類。309、312～314は尾張系山茶碗。315は瀬戸の洗である。

ほかに瀬戸の四耳壺が出土しているが、小片のため図示せず。316～320は土器質火鉢。321は摺りかわらけ。322はかわらけ質の容器で残存状態が不良だが、方形の器か。323は土製品。形象は不明。324

は摺り常滑。325は不明品。側面全面に摺痕が見られる。326は平瓦。327～328は砥石。329は銅錢。330は木製部材。一面には横方向に抉りがあり、一面には縦に一条溝を掘りこみ、中央に穿孔がある。用途不明。331～332は木製箸。333は木製の籠か。

4面構成土出土遺物（図29）

334～339はかわらけ。340～342は漆器皿。341は黒漆地に朱漆で見込みに文様を描く。

第5節 第5面の遺構・遺物（図30）

第5面は第4面遺構295の掘削時に掘り下げ、のちに観察によって土坑1基（遺構300）とピット1基（遺構299）のみ第4面以下の遺構として抽出した。4面以下は掘削深度限界にあたり、生活面としては検出していないが、上記の遺構のみ第5面として取り扱う。したがって遺構の広がりや建築址の構造などは不明である。

遺物はかわらけ・木製品・銭が出土している。第5面確認レベルはおよそ海拔6.6mである。

遺構300（図30）

隅丸方形を呈する土坑。第4面遺構295にほぼ重なる。北側は調査区外に伸びる。遺構273によって切られ、遺構299を切る。出土遺物は1～25はかわらけ。26は木製箸。27は不明木製品。28は木製杓文字。29、30は木製部材で用途不明。

5面遺構外

銅錢（図30-31）が1枚出土。

第6節 その他の出土遺物（図31）

第4面までの遺構、遺構外出土遺物以外について一部残存状態の良いものを掲載しておく。

排水溝出土遺物

調査区東側に設定した排水溝の掘り下げ時に瀬戸水注（図31-1）が出土した。第3面以下に相当するが帰属面は不明である。

第4面以下

調査区北側に設定した確認トレンチではかわらけ（図31-2）、渥美壺（図31-3）、渥美甕（図31-4）が出土。

近代遺構他出土中世遺物（図31）

近代遺構内から中世遺物が多数出土している。混入品であるが、やや状態のよいものを掲載しておく。5～7はかわらけ。8～9は青磁割花文碗、10～11は竈運弁文青磁碗。12は青磁碗。13は青磁折縁鉢。14は青磁運弁文折縁鉢。15は青磁鉢。16は青磁で器種不明。17は青白磁で器種不明。18は白磁片。19は白磁四耳壺の耳。21は瀬戸洗。22は瀬戸水注。25は瀬戸皿。23は瀬戸の碗。26は渥美の甕。27、28は常滑甕。29は常滑片口鉢1類。31、32は常滑片口鉢II類。

20は青白磁梅瓶。30は常滑片口鉢1類。33は鉄釘。いずれも近代遺構1の床面直上より検出、第3面の構成土にあたるか。

24は近代遺構2周辺より検出。瀬戸卸皿。34は近代遺構2より出土で碁石。

ほかに35の碁石を廃土より検出。

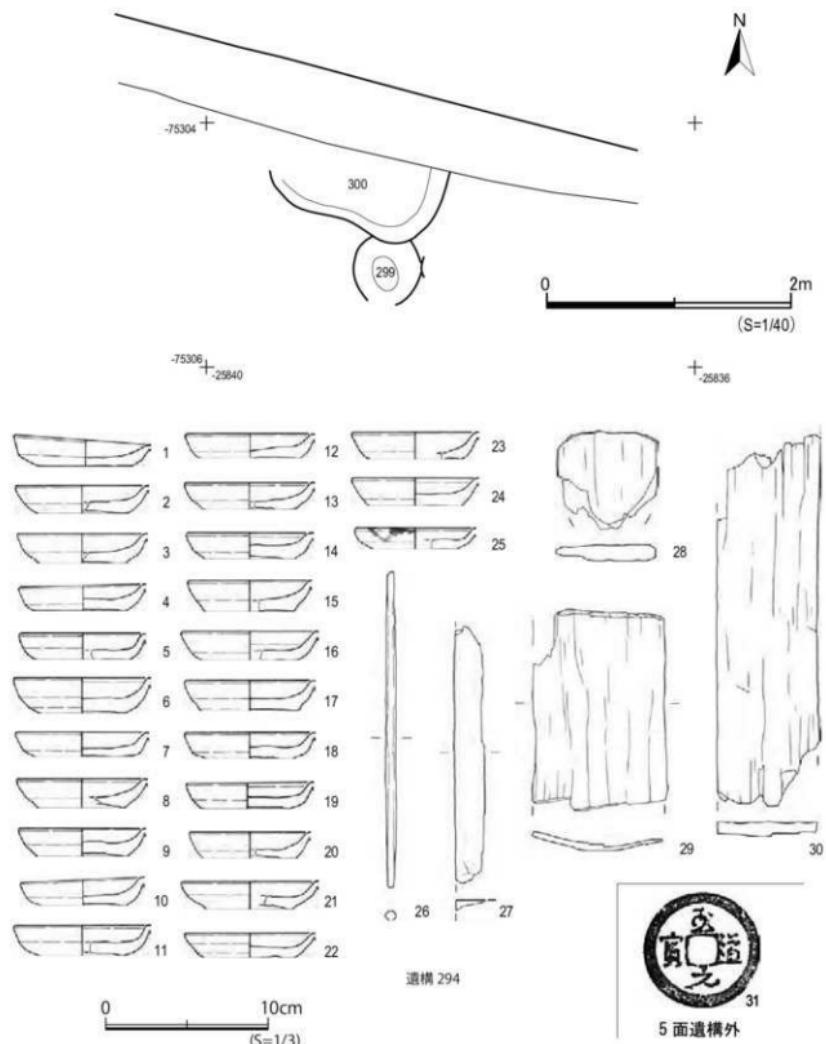


図30 第5面出土遺物他

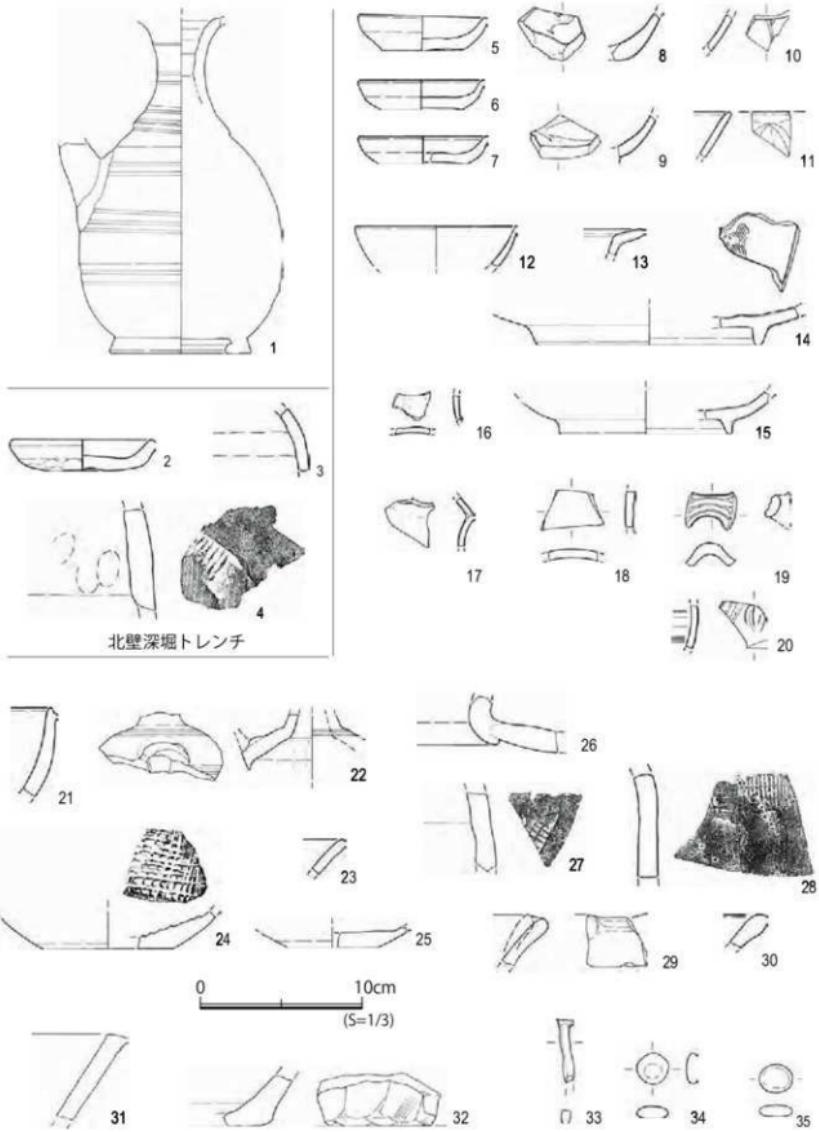


図31 その他出土遺物

表1 中世出土遺物観察表 (単位: cm)

図 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	造作度	法量			観察内容	
						口徑	底径	器高		
5-1	1面	4	陶器	窓戸 入子(輪花)	完形品	5.6	3.6	1.9	a:成形 b:胎土 c:色調 d:釉調 e:焼成と備考	
									a:クロコ形底き成形(右回転) b:ラ押で整形 c:黄灰色 白色粒 黒色粒 良土 d:自然崩降灰 混灰綠	
5-2	7	陶器	常滑 片口跡 1期	口縁部片	-	-	(5.0)	a:粘土組輪のみ技法 b:暗灰色 長石 石英 小石粒 c:暗灰色一部暗赤褐色 e:良好	a:クロコ形底き成形(右回転) b:ラ押で整形 c:黄灰色 白色粒 黒色粒 良土 d:自然崩降灰 混灰綠	
									a:クロコ形底き成形(右回転) b:ラ押で整形 c:黄灰色 白色粒 黒色粒 良土 d:自然崩降灰 混灰綠	
5-3	12	土製品	ロクロ	略定形	4.5	12.9	7.4	3.5	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好
									b:灰褐色 精良底灰 d:混灰綠色不透明白 純厚有り 貫入有り e:山野年鑑Ⅱ類 龍泉窯系 被熱	
5-4	13	土製品	ロクロ	略定形	7.5	4.8	2.1	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	
									b:灰褐色 精良底灰 d:混灰綠色不透明白 純厚有り 貫入有り e:山野年鑑Ⅱ類 龍泉窯系 被熱	
5-5	16	石製品	滑石スタンプ		長7.3	最大幅 4.9	厚1.2	a:灰褐色 花崗岩を7つ隠す 下端の面には3ヵ所貫通しない孔があり中心の孔が一番深くあけられている 表は一部削削と縱方向の研磨がみられる	a:灰褐色 花崗岩を7つ隠す 下端の面には3ヵ所貫通しない孔があり中心の孔が一番深くあけられている 表は一部削削と縱方向の研磨がみられる	
									a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	
5-6	26	土製品	ロクロ かわらけ	1/4	7.0	3.8	2.0	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	
									b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	
5-7	28	土製品	輪羽口	小片	-	-	(3.6)	a:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	a:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	
									b:山野年鑑Ⅲ類 龍泉窯系 被熱	
5-8	30	土製品	丸瓦		長10.6	幅0.7	厚0.7	a:断面四角形に鍛造	a:断面四角形に鍛造	
									b:断面四角形に鍛造	
5-9	36	土製品	釘		長(3.8)	幅0.7	厚0.7	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	
									b:山野年鑑Ⅳ類 龍泉窯系 被熱	
5-10	37	陶器	窓戸 器種不明		-	(14.0)	(2.3)	a:ロクロ底き成形 外底回転系切り b:灰褐色 微砂 良土 c:灰褐色付がけか 混灰綠色透明 純厚有り 内外面施塗 上部底土 基材付着	a:ロクロ底き成形 外底回転系切り b:灰褐色 微砂 良土 c:灰褐色付がけか 混灰綠色透明 純厚有り 内外面施塗 上部底土 基材付着	
									b:山野年鑑Ⅴ類 龍泉窯系 被熱	
5-12	38	土製品	丸瓦		-	-	厚(1.7 - 2.1)	a:凸面 横ナデ 四面布目直 b:灰褐色 黑色粒 白色粒 雪母 良土 c:灰褐色 c:良好	a:凸面 横ナデ 四面布目直 b:灰褐色 黑色粒 白色粒 雪母 良土 c:灰褐色 c:良好	
									b:山野年鑑Ⅵ類	
5-13	39	土製品	ロクロ かわらけ(大)		2/3	12.2	6.6	3.2	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 全黒母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 c:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 全黒母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 c:良好
									b:山野年鑑Ⅶ類	
5-14	40	土製品	ロクロ かわらけ(小)		1/3	(7.8)	6.2	1.6	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 全黒母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 c:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 全黒母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 c:良好
									b:山野年鑑Ⅷ類	
5-15	43	土製品	白口鉢 かわらけか	底底部片	-	6.4	(1.0)	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 白色粒 やや粗土 c:灰褐色 c:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 白色粒 やや粗土 c:灰褐色 c:良好	
									b:山野年鑑Ⅸ類	
5-16	44	陶器	常滑 片口跡 1期	底底部片	-	(10.4)	(8.3)	a:粘土組輪のみ技法 脱り付け高台 高台墨グリザ 体部ナデ有り b:灰褐色 長石 石英 小石粒 c:灰褐色 d:自然崩降灰 c:良好	a:粘土組輪のみ技法 脱り付け高台 高台墨グリザ 体部ナデ有り b:灰褐色 長石 石英 小石粒 c:灰褐色 d:自然崩降灰 c:良好	
									b:山野年鑑Ⅹ類	
5-17	45	土製品	土器質火鉢	小片	-	-	(4.6)	a:内外面コナデ b:微砂 雪母 赤色粒 白色粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好 f:内外面付着着 河内分類 I C類	a:内外面コナデ b:微砂 雪母 赤色粒 白色粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好 f:内外面付着着 河内分類 I C類	
									b:山野年鑑Ⅺ類	
5-18	46	土製品	ロクロ かわらけ(大)		1/6	(13.4)	8.0	3.2	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 やや粗土 c:微砂 e:良好 f:火照墨黒	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 やや粗土 c:微砂 e:良好 f:火照墨黒
									b:山野年鑑Ⅻ類	
5-19	47	土製品	ロクロ かわらけ(小)		1/2	7.3	5.1	1.5	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好
									b:山野年鑑Ⅼ類	
5-20	48	土製品	ロクロ かわらけ(小)		1/4	(6.8)	(4.4)	1.8	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り b:微砂 雪母 黒母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り b:微砂 雪母 黒母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好
									b:山野年鑑Ⅽ類	
5-21	49	土製品	ロクロ かわらけ(小)		1/2	(6.6)	(4.6)	1.4	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 黒母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 黒母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好
									b:山野年鑑Ⅾ類	
5-22	50	土製品	ロクロ かわらけ(小)		1/5	(7.0)	(4.2)	1.9	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り b:微砂 雪母 黑母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り b:微砂 雪母 黑母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好
									b:山野年鑑Ⅿ類	
5-23	51	土製品	手づくね		1/8	-	-	1.8	a:手捏ね成形 内底ナデ 外底回転系切り b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好	a:手捏ね成形 内底ナデ 外底回転系切り b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰褐色 e:良好
									b:山野年鑑ⅰ類	
5-24	52	陶器	窓戸縁袖小瓶	口縁部小片	-	-	(2.5)	a:ロクロ底き成形(右回転) b:灰褐色 白色粒 黑色粒 真土 c:灰褐色 d:灰褐色付がけ 灰褐色 e:良好	a:ロクロ底き成形(右回転) b:灰褐色 白色粒 黑色粒 真土 c:灰褐色 d:灰褐色付がけ 灰褐色 e:良好	
									b:山野年鑑ⅰ類	
5-25	53	陶器	窓戸縁袖小瓶	口縁部小片	-	-	(2.2)	a:ロクロ底き成形(右回転) b:灰褐色 白色粒 黑色粒 真土 c:灰褐色 d:灰褐色付がけ 灰褐色 e:良好	a:ロクロ底き成形(右回転) b:灰褐色 白色粒 黑色粒 真土 c:灰褐色 d:灰褐色付がけ 灰褐色 e:良好	
									b:山野年鑑ⅰ類	
5-26	54	陶器	常滑	口縁部片	-	-	(3.6)	a:粘土組輪のみ技法 b:黑褐色 長石 石英 赤色粒 小石粒 c:暗赤褐色 赤褐色 d:自然崩降灰 黑褐色 e:良好 f:中野年鑑第2段階	a:粘土組輪のみ技法 b:黑褐色 長石 石英 赤色粒 小石粒 c:暗赤褐色 赤褐色 d:自然崩降灰 黑褐色 e:良好 f:中野年鑑第2段階	
									b:山野年鑑ⅰ類	
5-27	55	陶器	常滑	底底部片	-	(5.5)	-	a:粘土組輪のみ技法 b:灰褐色 長石 石英 赤色粒 c:黑褐色 d:内面崩灰 e:良好	a:粘土組輪のみ技法 b:灰褐色 長石 石英 赤色粒 c:黑褐色 d:内面崩灰 e:良好	
									b:山野年鑑ⅰ類	
5-28	56	石製品	砥石か		長(5.4)	幅(3.8)	厚(0.9)	a:灰褐色 表裏に一部朱色の付着物	a:灰褐色 表裏に一部朱色の付着物	
									b:灰褐色 表裏に一部朱色の付着物	
5-29	57	土製品	拂手瓦	小片	-	-	1.9 0.8	a:手捏ね成形 内区幅 (1.9) b:手捏ね成形 内区幅 (0.8)	a:手捏ね成形 内区幅 (1.9) b:手捏ね成形 内区幅 (0.8)	
									b:手捏ね成形 内区幅 (1.9) b:手捏ね成形 内区幅 (0.8)	
5-30	58	銅製品	鏡	直径25	内孔0.6	-	重さ 30g	成年元寶 北宋 909年	成年元寶 北宋 909年	
									b:成年元寶 北宋 909年	
5-31	59	銅製品	鏡	直径25	内孔0.7	-	重さ 30g	皇宋通寶 北宋 1039年	皇宋通寶 北宋 1039年	
									b:皇宋通寶 北宋 1039年	
6-32	60	土製品	ロクロ		2/3	14.4	8.4	3.8	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状底灰 b:微砂 雪母 黑母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	a:ロクロ底き成形 内底ナデ 外底回転系切り(

規 番号	出上 面	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			範囲内容
						上口径	底径	器高	
6-34	1面	構成 土	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2 (12.4)	7.4	3.3		α:成形始土 c:色調正他調 c:後成土備考 β:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:やや甘い
6-35			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	8.8	5.4	2.5	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:やや甘い
6-36			土製品	ロクロ かわらけ(小)	略完形	8.4	5.0	2.5	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:やや甘い
6-37			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	8.0	5.0	2.2	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c: 良好
6-38			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形品	7.6	4.2	2.5	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:やや甘い
6-39			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.6	5.2	2.0	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:良好
6-40			土製品	ロクロ かわらけ(小)	略完形	7.4	5.2	2.4	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:良好
6-41			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.4	4.8	2.0	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:良好
6-42			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2 (7.3)	5.2	1.8		α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c:黄褐色 c:やや甘い
6-43			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4 (7.2)	(4.2)	1.7		α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 c:良好
6-44			土製品	白ロクロ かわらけ	1/3	-	(6.0)	(2.4)	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 白雲母 良好
6-45			磁器	青磁 碗	底部片	-	高台 4.0		bx:灰白色 黑色 精良堅厚 正灰青色半透明 勃留痕 貫入有り 高台部は施釉せず 在用室系 来地と釉の境が茶褐色に発色
6-46			磁器	青磁 壺	口縁部片	-	-	(1.9)	bx:灰白色 黑色 精良堅厚 正灰绿色半透明 勃留痕 貫入あり 気泡有り △山本編年記題? 在用室系环
6-47			磁器	白磁壺	底部片	經	26	横 28 厚 0.2	△型押 h:白色 精良堅厚 在白色明 勃留薄い
6-48			陶器	壺	口縁部小片	-	-	-	bx:黄白色 黑色粒 良好 c:黑褐色 勃留薄い
6-49			陶器	壺	口縁部小片	-	-	(2.0)	bx:灰白色 黑色粒 白色粒 良好 c:赤褐色及び黒褐色 内外面とも に施釉 勃留薄い
6-50			陶器	天目茶碗	底部片	-	-	-	bx:暗灰色 長石 石英 小石粒 c:暗褐色 c:良好
6-51			陶器	常滑 壺	口縁部片	-	-	(5.7)	bx:暗褐色 長石 石英 小石粒 c:茶褐色 c:良好
6-52			陶器	常滑 片口跡Ⅰ類	口縁部片	-	-	(5.7)	bx:暗褐色 長石 石英 小石粒 c:茶褐色 c:良好
6-53			陶器	常滑 片口跡Ⅱ類	底部片	-	-	(5.7)	α:粘土練輪積み技術 貼り付け高台 bx:灰白色 黑石 石英 小石粒 白色粒 底内面自然崩降灰 黑褐色 c:良好
6-54			陶器	山茶碗	口縁部小片	-	-	(3.1)	α:ヨコダ h:灰白色 黑色粒 白色粒 やや粗土 c:灰色 c:良好 △南部形
6-55			土製品	瓦器質火鉢	口縁部片	-	-	(4.2)	α:粘土練輪積み bx:灰白色 微妙 番号 黑雲母 赤色粒 白色粒 黑色粒 黑色粒 明灰黄色 土河野分類類似 口縁部外側直下に三つ巴文
6-56			土製品	瓦質火鉢		(17.6)	-	(6.4)	△外端みがき bx:灰褐色 微妙 番号 赤色粒 白色粒 黑色粒 良好 △暗灰色 c:良好 h:薄青上面に菊花のスタンプ及び貫通した孔 錐部に 文様 破片の為詳細不明 E:河野分類C類
6-57			土製品	丸瓦	縦 (5.8)	横 (5.8)	厚 1.6		△粘土練輪積み bx:灰褐色 微妙 番号 黑雲母 赤色粒 白色粒 や や粗土 c:灰色 c:やや甘い △内面墨か
6-58			土製品	伊勢系土鍋	口縁部片	-	-	高 (2.4)	△粘土練輪積み bx:灰褐色 微妙 番号 黑雲母 赤色粒 白色粒 や や粗土 c:灰色 c:やや甘い
6-59			火打石	火打石か 鉄製品	小片	幅 2.8	-	厚 3.10	△石块 加工有り
6-60			火打石	鉄打(角)		長 5.5	幅 0.5	厚 0.4	△断面四角形に鍛造
6-61			火打石	鉄打(角)		長 5.5	幅 0.5	厚 0.5	△断面四角形に鍛造
6-62			火打石	鉄打(角)		長 4.5	幅 0.7	厚 0.5	△断面四角形に鍛造
6-63			火打石	鉄打(角)		長 6.1	幅 0.5	厚 0.7	△断面四角形に鍛造
6-64			火打石	鉄打(角)		長 (8.5)	幅 0.5	厚 0.5	△断面四角形に鍛造
6-65			火打石	鉄打(角)		長 9.4	幅 0.5	厚 0.6	△断面四角形に鍛造
9-1	2面	57	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.8 (5.6)	1.7		α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:やや甘い
9-2		58	土製品	ロクロ かわらけ(小)	略完形	7.6	4.8	21~22	α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:やや甘い
9-3		59	石材	石斧 刃片	縦 22	横 13	厚 0.9		△片側に削痕のある刃部を作り出しているが不明瞭
9-4		60	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2 (10.8)	6.0	3.1		α:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 bx 微 妙 番号 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 c:やや甘い

回 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆存度	法量			調査内容
						口径	底径	器高	
95	2面	60	土製品	白口クロ かわらけ	口縁部片	-	-	(3.0)	a: 形成口 b: 土 c: 色調 在軸 c: 焼成上参考
96		63	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.8)	(4.6)	1.8	a: ロクロ形成 b: 微薄 赤色粒 白色粒 真土 c: 黄白色 c: 良好
97		64	石製品	瑪瑙	-	長 (3.6)	幅 (3.6)	厚 (1.5)	b: 中縦 上野
98		65	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(14.0)	(8.8)	3.3	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微薄 黑母 色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
99		66	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	12.8	(7.6)	3.1 ~ 3.2	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微薄 黑母 色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
9-10			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	7.8	5.6	1.8	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 赤色粒 白色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
9-11		70	磁器	青磁 折筋皿	口縁部小 片	-	-	(2.5)	b: 白色 精良堅薄 c: 青灰色半透明 離層厚い 真入あり 気泡有り
9-12		71	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.8)	(5.0)	1.5	b: 上山本編 鹿島窯系赤端皿型
9-13			陶器	常滑 甕	胴部小片	-	-	-	a: 粘土組輪のみ技法 b: 灰色 長石 石英 白色粒 真土 e: 付着有り
9-14		73	陶器	楕円 広口瓶?	口縁部片	-	-	(2.9)	a: 突変を指標で調整 b: 白灰色 白色粒 黑色粒 d: 斜褐色
9-15		75	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.8)	(8.4)	3.6	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 黑雲母 金雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 や や粗土 c: 橙色 c: 良好
9-16			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	8.6	5.6	2.7	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 黑雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
9-17			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.8	4.6	2.2	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
9-18			磁器	白磁 口口瓶	底部片	-	(6.0)	(0.8)	b: 白灰色 黑色粒 精良堅薄 d: 淡青色半透明 細肩薄い t: 山本編 白磁直腹瓶
9-19			陶器	甕	直径 25	内孔 0.7	重さ 3.1 g	-	b: 黑寒元寶 北宋
9-20	遺構 外		土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	13.6	8.5	3.1	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 赤色粒 白色粒 泥岩粒 真土 c: 橙色 c: 良好
9-21			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	8.2	4.4	2.3	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
9-22			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.8	5.6	1.8	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微薄 黑母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: やや甘い
9-23			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.8	5.0	1.8 ~ 1.9	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 淡黄 橙色 c: やや甘い t: 灯明皿
9-24			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.6	4.6	2.2	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
9-25			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	7.6	5.8	1.6	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微薄 黑母 色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
9-26			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.4	5.4	1.9	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b: 微薄 黑母 黑雲母 金雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥 岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好
9-27			土製品	ロクロ かわらけ(大)	底部片	-	-	高 (1.2)	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微薄 黑母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 真土 c: 暗灰黄色 c: やや甘い t: 底部穿孔有り
9-28			磁器	白磁口元か 刺繍片	-	-	高 (4.8)	-	b: 白灰色 黑色粒 精良堅薄 d: 暗緑色透明 細肩薄い
9-29			陶器	深美 甕	小片	-	厚 0.9	高 (3.4)	b: 白灰色 疊砂 白色粒 c: 灰色 c: 壁面全周に推積 印文有り
9-30			陶器	常滑 片口跡皿類	口縁部~ 同部位	-	-	高 (11.2)	a: 粘土組輪のみ技法 片口部ユビで押し出している 内外面ヨコナデ ケズリ t: 斜褐色 長石 石英 小石粒 c: 斜褐色 c: 良好
9-31			陶器	常滑 片口跡皿類	底部片	-	釐大径 (17.4)	高 (3.9)	a: 粘土組輪のみ技法 脊付付け高見 t: 灰色 石英 小石粒 c: 灰白色 内面のみ暗灰色 c: 良好
9-32			陶器	戸口 片口跡皿類	口縁~同 部片	-	-	(4.6)	b: 黄白色 黑色粒 白色粒 真土 c: 暗褐色半透明 細肩薄い 内面下 部に膨らみが残っている箇所あり 外面下部は露胎
9-33	構成 土		石製品	砾石	長 (4.4)	幅 (3.3)	厚 (1.3)	-	t: 仕上げ砥 嘴吹 向田?
9-34			石製品	薬(角)	長 5.7	幅 0.4	厚 0.3	-	t: 斜面四角形に鍛造
9-35			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(15.7)	(9.6)	4.3	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微薄 黑母 色粒 海綿骨針 真土 c: 橙色 c: 良好
9-36			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(14.0)	10.0	3.4	a: ロクロ形成 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b: 微薄 黑母 色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 c: 良好

固 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			観察内容
						上径	底径	器高	
9-37	2面	構成 土	土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	13.0	7.8	3.7	□成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 黄灰色 e やや甘い
9-38									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 黄褐色 e 良好
9-39			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(12.8)	7.0	3.4	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 淡黄褐色 e 良好
9-40									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c 黄褐色 e やや甘い
9-41			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(12.5)	(7.2)	3.2	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 良土 c 淡褐色 e 良好
9-42									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c 黄褐色 e 良好
9-43			土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3	(10.4)	(5.8)	2.8	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 e 良好
9-44									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 黄灰色 e やや甘い ±灯明皿
9-45			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.2	4.6	2.4	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 e 良好 ±灯明皿
9-46									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 e 良好
9-47			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.7)	(3.7)	1.9	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c 黄灰色 e やや甘い ±灯明皿
9-48									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 黄灰色 e やや甘い
9-49			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	7.8	6.0	1.7	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 黄灰色 e やや甘い ±灯明皿
9-50									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 黄灰色 e 甘い
9-51			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.4)	(5.4)	1.5	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 e 良好
9-52									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c 橙色 e 良好
9-53			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.7)	(5.6)	1.8	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c 黄灰色 e やや甘い
9-54									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 黄灰色 e やや甘い
9-55			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.4	5.5	1.8	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 黄灰色 e やや甘い
9-56									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 黒雲母 赤色粒 白色粒 良土 c 淡黄褐色 e やや甘い
9-57			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.0	5.4	1.5	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 微 砂 雲母 黒雲母 赤色粒 白色粒 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 e 良好
9-58									□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 黒雲母 赤色粒 白色粒 泥岩粒 良土 c 淡黄褐色 e 良好
9-59			土製品	白ロクロ つまみ部 かわらけ蓋	1/4	(6.3)	(5.6)	1.4	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 e 良好
9-60									□ロクロ成形 白ロクロ つまみ部 かわらけ蓋
9-61			土製品	手づくね 白かわらけ 片	-	-	(4.1)	□手づくね成形 外底指頭痕 一段ナデ bc 微 砂 雲母 白色粒 良土 c 乳白色 e 良好	
9-62									□手づくね成形 外底指頭痕 一段ナデ bc 微 砂 雲母 白色粒 良土 c 乳白色 e 良好
9-63			土製品	手づくね 白かわらけ 片	-	-	(3.2)	□手づくね成形 外底指頭痕 一段ナデ bc 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 良土 c 乳白色 e 良好	
9-64									bc 灰白色 黑色粒 精良堅致 bc 灰绿色 半透明 触感厚い 氣泡有り 貫入口 ±山本編下龍宮系構造Ⅱ類A類
9-65			土製品	白ロクロ 口縁部 かわらけ	8.2	-	(1.3)	bc 灰白色 精良堅致 bc 灰青色 白色粒 半透明 触感厚い 口縁部露筋 ±山本編下 白山編下	

回 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆存度	法量			調査内容
						口径	底径	器高	
10-66	2面	構成土	青磁 鍋邊有文鏡	口縁部片	-	-	(43)		a:成形口 c:胎土 c:色調 d:焼成 d:備考 b:灰白色 精良堅緻 d:灰緑色半透明 軸屈薄い 古本編年 龍泉窯系瓶皿類
10-67			青磁 鍋邊有文鏡	脇部~底 部片	-	5.2	(4.2)		b:灰色 黒色 d:精良堅緻 d:灰緑色透明 軸屈薄い 貫入有り 王山本編年 II型 龍泉窯系 内底に幾何文有り
10-68			青白磁 刻花文鏡	底部片	-	(5.4)	(1.3)		b:白色 精良堅緻 d:青白半透明 軸屈薄い 口面は露胎
10-69			青白磁 器種不明	底部小片	-	-	(1.4)		b:灰白色 精良堅緻 d:青白色透明 軸屈薄い
10-70			青白磁 器種不明	小片	-	-	(3.1)		b:灰白色 精良堅緻 d:青白色透明 軸屈薄い
10-71			陶器	瓶口入子	1/4	(4.8)	(2.6)	12	b:灰白色 砂粒 白色粒 良土 c:灰白色 e:旅行土 純付着
10-72			陶器	瓶口入子	1/2	8.8	4.8	29	a:クロカ形 底部側板斜切り(右回転) b:灰白色 白色粒 黑色粒 良土 c:灰白色 d:自然軸降灰 灰緑色
10-73			陶器	瓶口 折筋里	口縁部片	16.2	-	(3.3)	b:灰白色 黑色粒 白色粒 良土 c:内外面明褐色の灰釉 施釉薄い d:軸の付いている箇所明褐色 e:良好
10-74			陶器	常滑 甕	口縁部片	-	-	高 (10.3)	a:粘土組輪削み技法 b:灰色 長石 小石粒 c:暗赤褐色 d:自然軸降灰 灰緑色 e:良好
10-75			陶器	常滑 甕	口縁部片	-	-	高 (3.8)	a:粘土組輪削み技法 b:暗褐色 石英 小石粒 c:赤褐色 d:自然軸降灰 灰緑色 e:良好 中野編年5型式か
10-76			陶器	常滑 甕	口縁部片	-	-	高 (3.0)	a:粘土組輪削み技法 b:黒褐色 灰色 長石 石英 白色粒 c:黒褐色 d:自然軸降灰 e:良好 玉中野編年7型式か
10-77			陶器	片口跡1型	口縁部片	-	-	(4.1)	a:粘土組輪削み技法 脊り付け高台 b:灰色 長石 小石粒 c:灰 色 d:自然軸降灰 灰緑色 e:良好
10-78			陶器	片口跡1型	口縁部片	-	-	高 (3.5)	a:粘土組輪削み技法 内外面ヨコナデ b:黒褐色 長石 石英 小石粒 c:暗褐色 e:良好
10-79			陶器	片口跡1型	底部片	-	-	高 (4.8)	a:粘土組輪削み技法 脊り付け高台 体部ヨコナデ b:灰白色 長石 石英 小石粒 c:灰白色 d:自然軸降灰 灰緑色
10-80			陶器	片口跡1型	底部片	-	-	(2.5)	a:粘土組輪削み技法 脊り付け高台 b:灰色 長石 石英 小石粒 c: 灰褐色 e:良好
10-81			陶器	常滑 甕	底部片	-	高台 0.7	高 (2.6)	a:粘土組輪削み技法 台け高台 b:灰白色 長石 石英 小石粒 c: 灰白色 d:自然軸降灰 灰緑色 e:良好
10-82			陶器	片口跡1型	底部片	-	-	(3.3)	a:粘土組輪削み技法 底部離れ跡 底部脇カラケズリ b:灰褐色 長石 石英 小石粒 c:暗褐色 e:良好
10-83			陶器	磨り常滑		長 7.0	幅 5.1	厚 1.1	b:灰白色 灰色 白色粒 c:黒褐色 e:良好 玉側面4面に擦 り痕
10-84			土製品	土器質火鉢	口縁部~ 剥離片	-	-	高 (9.6)	a:内外面ヨコナデ 底部及び底部脇カラケズリ b:淡赤褐色 喜母 赤色粒 白色粒 小石粒 c:黒褐色 玉河野分類1B類か
10-85			土製品	瓦質火鉢 輪	口縁部片	-	-	高 (6.3)	b:灰白色 微粉 素赤色 白色粒 海綿骨片 小石粒 c:黒褐色~灰白 色 玉河野分類Ⅲ類
10-86			土製品	瓦質火鉢	口縁部小 片	-	-	(4.5)	a:口縁部みがき b:殆ど暗灰色 漆程色 黑墨母 赤色粒 白色 粒 小石粒 c:暗灰色 玉河野分類 瓦質火鉢1類
10-87			土製品	瓦質火鉢	底部片	-	-	(3.9)	a:底部離れ跡 b:殆ど暗灰色 漆程色 黑墨母 赤色粒 白色粒 c:灰褐色 玉河野分類 瓦質火鉢1類
10-88			土製品	平瓦		-	-	厚 2.0	a:凸面平行格子目 刃引目 口引目 平瓦目直 b:灰褐色 黑色粒多 多雲母多 やや粗土 c:灰褐色 e:甘い
10-89			石製品	滑石溝	口縁部片	(18.5)	-	(3.5)	外表面摩耗 玉面ノミ痕あり
10-90			石製品	鏡	長 (8.5)	幅 (5.7)	厚 1.2	玉内面は凹状沈度を施し四隅には波頭文を隕刻 鏡面及び背面に 横筋 留出部も一部調節痕が残る 魚鱗底若王子方観音形 積層品	
10-91			石製品	鏡	小片	長 (3.7)	幅 (3.0)	厚 (0.8)	a:産地 喬場 工人・赤錆、項岩 玉径 3mm. 外底部は調離している
10-92			石製品	磨石	長 1.8	幅 1.5	厚 0.3	b:黒色	
10-93			石製品	鏡石	長 (6.1)	幅 (4.9)	厚 (3.6) ~ 2.5	c:灰白色 素赤色 黑色粒 玉中研 静岡県 大仁町役 岩灰岩	
10-94			鉄製品	釘	-	長 (5.0)	幅 (0.6)	厚 0.6	E断面四角形に鍛造
10-95			鉄製品	釘		長 4.5	幅 1.0	厚 1.0 ~ 0.4	E断面四角形に鍛造
10-96			鉄製品	釘		長 7.5	幅 0.4	厚 0.3	E断面四角形に鍛造
10-97			鋼製品	釘		直径 2.5	内孔 0.6	重さ 29g	E成平原寶
10-98			鋼製品	釘		直径 2.5	-	重さ 2.1g	E玉持元寶
10-99			鋼製品	釘		直径 2.4	内孔 0.6	重さ 3.3g	E不明
10-100			鋼製品	釘		直径 2.4	-	重さ 2.3g	E景徳元寶
10-101			鋼製品	釘		直径 2.4	内孔 0.6	重さ 2.8g	E景徳元寶
10-102			鋼製品	釘		直径 2.4	-		E無年元寶
10-103			木製品	棒状		長 (13.6)	幅 (1.0)	厚 (0.95)	
10-104			陶器	須恵器 甕	小片	-	-	-	c:淡灰白色 玉古代 8世紀? 湖西 神印文有り

器 番号	出土 場 所	遺 物 番 号	材質	種別	遺存度	法量			觀察内容
						上径	底径	器高	
13-1	3面	84	土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	11.8	7.8	3.2	□成形 □胎土 □色調 □底調 □焼成 □備考 □ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 赤母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄褐色 □やや甘 い
13-2		85	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	7.8	6.4	1.4	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 赤母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄褐色 □良好
13-3			陶器	常滑 片口跡!顎		-	-	高(3.4)	□粘土輪轉込み技法 □灰色 □灰白色 □長石 □石英 □小石粒 □淡灰色 □自然 釉降灰
13-4		87	木村	形状	-	-	高(5.5)	厚1.5	土削り加工の棒状加工品 両端は火を受け炭化
13-5		88	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	7.6	(5.2)	1.6	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (左回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄褐色 □やや甘い
13-6			磁器	青磁 鍋底文鏡		-	-	(2.4)	□灰色 黒色粒 精良堅致 □灰绿色半透明 軸肩厚い 気泡有り 貴人あり □天皇御座
13-7		91	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/6	(13.2)	(7.0)	3.4	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □褐色 □良好 一部焼きムラ 有り
13-8			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(7.0)	1.5	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄褐色 □甘い
13-9			土製品	ロクロ かわらけ(極小)	1/4	(5.0)	4.4	0.9	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (左回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 金雲母 海綿骨針 小石粒 灰土 □浅黃褐色~白灰色 □良 好
13-10			磁器	白磁 口九里		-	-	高(2.4)	□灰白色 黑色粒 精良堅致 □灰白色半透明 軸肩薄い □山本編年直 削
13-11		92	磁器	白磁 口九里		-	(6.0)	(0.7)	□灰白色 黑色粒 精良堅致 □灰白色半透明 軸肩薄い □山本編年直 削
13-12		93	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.8)	(5.0)	1.5~ 1.8	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □褐色 □良好
13-13		94	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(12.8)	7.6	3.0	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 灰土 □褐色 □良好
13-14		97	土製品	ロクロ かわらけ(小)	略定形品	(7.8)	5.9	1.8	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 □黄褐色 □良 好 □灯明皿
13-15			陶器	不明 国産陶器	脚部小片	-	-	(4.8)	□赤褐色 微妙 異母 白色粒 小石粒 □内面暗赤褐色 外面黒褐色 □良好
13-16			陶器	常滑 片口跡!顎	口縁部片	-	-	(6.0)	□粘土輪轉込み技法 片口部ユビで押し出している □黒褐色 長石 石英 小石粒 □暗赤褐色
13-17		102	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.6)	9.4	3.1	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 灰土 □灰黄色 □甘い □灯 明皿
13-18			土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(3.5)	□淡黄褐色 圓窓 異母 黑雲母 赤色粒 白色粒 □淡黄褐色~灰 色 □土河野分類 I B類型
13-19		103	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.4)	7.8	3.8	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 灰土 □淡黄褐色 □良好
13-20		105	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.8	4.6	2.4	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 黒雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄褐色 □良 好
13-21			土製品	瓦質火鉢	脚部片	-	-	(7.2)	□内外面ナデ・ミガキ □黄褐色 微妙 黑雲母 赤色粒 白色 粒 小石粒 粗土 □灰黑色 □良好
13-22		106	土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/4	(10.2)	6.4	3.0	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 黒雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □や や甘い
13-23			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.4)	(6.6)	1.6	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □赤褐色 □良好 □被熱か る
13-24			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(6.0)	1.7	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄褐色 □甘い
13-25			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形品	7.2	4.0	1.7	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □甘い
13-26		108	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	最大径 (7.9)	最大径 6.0	最大高 (1.4)	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 □赤褐色 □良好 □被 熱か □口縁部少しあり
13-27			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	8.0	5.0	1.6	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄褐色 □やや 甘い
13-28			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.4)	5.6	1.8	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微妙 異母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 □灰黄色 □やや 甘い
13-29			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形品	7.6	5.8	1.6	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 □微 妙 異母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □赤褐色 □良好

回 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆積度	法量			範囲内容
						口径	底径	器高	
13-30	3面	108	土製品	ロクロ かわらけ (極小)	1/4 (4.0)	2.6	0.8		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:淡黄褐色 e:良好
13-31		110	土製品	ロクロ かわらけ (大)	1/5 (13.0)	(7.0)	3.2		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:淡黄褐色 e:良好
13-32			陶器	常滑 片口跡I型	底部小片	-	-	(4.7)	a:粘土組織み技法 粘り付け高台 外底輪ケズリ b:灰白色 長石 石英 c:灰白色 小土塊物降灰 e:良好
13-33		113	土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/3 (8.0)	5.8	1.5		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
13-34		114	土製品	ロクロ かわらけ (大)	1/4 (11.2)	(6.8)	3.7		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
13-35		120	磁器	青磁 黒釉	胸部片	-	-	(5.8)	b:灰白色 黑色粒 精良堅盤 在青白色半透明 素輪すい 気泡有り 人有り有り
13-36		122～ 124	土製品	ロクロ かわらけ (小)	完形品	8.0	4.6	2.2	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:目立
13-37			土製品	ロクロ かわらけ (極小)		2/3	4.4	3.4	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 c:淡黄褐色 e:やや目立
13-38			石製品	基岩		長2.2	幅1.8	厚0.5	b:黑色
13-39		125	土製品	ロクロ かわらけ (小)	略完形	7.2	4.8	2.0	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 紫色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:赤熱感
13-40		199	土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/3 (6.8)	4.6	1.6		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:目立
13-41			土製品	ロクロ かわらけ (小)	2/3 (6.8)	4.4	1.5		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 紫色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや目立
13-42			石製品	滑石 加工品		最大長 (7.9)	最大幅 4.8	厚さ1.5	b:滑石の再加工品
13-43		128	土製品	ロクロ かわらけ (大)	1/4 (13.3)	(8.0)	3.6		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 紫色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好
13-44			側面品	瓶		直径2.4	内孔0.6	重さ 3.4g	b:天元生實 北宋 1023年
13-45		130	磁器	青磁 窓透文鏡	口縁部小 片	-	-	(3.0)	b:灰白色 精良堅盤 在灰綠色半透明 素輪薄い t:山本福年 龍泉窯系青磁鏡皿類
13-46			陶器	常滑 片口跡I型	口縁部片	-	-	(8.9)	a:粘土組織み技法 ヨコナメ b:暗灰色 長石 石英 小石粒 c:暗褐色 e:良好 f:目立 II期の土使用したか
13-47		132	土製品	ロクロ かわらけ (小)	完形品	7.3	4.8	2.0	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや目立
13-48		135	土製品	ロクロ かわらけ (大)	1/3 (12.6)	(7.8)	3.0		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 紫色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:一部焼きムラがある
13-49			陶器	常滑 片口跡I型	口縁部片	-	-	(8.2)	a:粘土組織み技法 ヨコナメ b:暗灰色 長石 石英 小石粒 c:暗褐色 e:良好 f:全土に焼付着
14-50		136	陶器	常滑 壺	底部片	-	-	(4.8)	a:粘土組織み技法 ヨコナメ b:暗灰色 長石 石英 小石粒 c:黒褐色 e:良好
14-51		137	土製品	ロクロ かわらけ	1/2 (8.0)	(4.8)	1.7		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 紫色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:やや目立
14-52		138	本製品	著	長20.0	幅0.75	厚0.5		面取り加工 上端部破損 斜面指円形の六角形
14-53			磁器	青磁 窓透文鏡	口縁部片	-	-	(3.0)	b:灰白色 精良堅盤 在暗緑色透明 素輪薄い t:器盤に円形の変色有り
14-54		139	土製品	ロクロ かわらけ (大)	1/2 (12.4)	7.4	3.2		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 全雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや目立
14-55		141	土製品	ロクロ かわらけ (小)	2/3 (8.0)	4.8	2.2		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 良土 c:灰黄色 e:目立
14-56		143	土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/2 (7.8)	(6.8)	2.0		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 紫色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好 f:外壁に軋土付着
14-57			土製品	ロクロ かわらけ (小)	1/3 (7.1)	(5.5)	1.6		a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
14-58			土製品	ロクロ かわらけ (小)	完形品	7.2	5.4	1.6	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:暗茶褐色 e:良好 f:とけべか
14-59			土製品	ロクロ かわらけ (小)	底部3/4	-	5.0	1.8	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
14-60		144	土製品	ロクロ かわらけ (小)	3/4 (4.8)	7.4	5.1	1.9	a:ロクロ成形 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 紫色粒 白色粒 海綿骨針 良土 c:灰黄色 e:良好 f:一部焼きムラがある 烙熱
14-61			土製品	ロクロ かわらけ (極少)	1/4 (4.8)	(3.4)	1.0	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 海綿骨針 良土 c:灰黄色 e:やや目立	

器 番号	出土 場 所	遺構 番号	材質	種別	遺存状	法量			範囲内 容
						上径	底径	高	
14-62	3面	145	土製品	平瓦	破片	-	-	(2.1)	a:成形 b:始土 c:色調 d:施調 e:焼成 f:備考 a:陶器表面磨耗 b:直板 c:赤褐色 d:凸面構方向のタクキ目 e:側面ケズリ b:砂粒 c:白色 d:小石粒 e:良好 f:産地不明
14-63		146	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.4)	(6.2)	1.6	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや青い
14-64			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(5.8)	1.7	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:青い
14-65		147	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.2)	(6.8)	1.6	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
14-66		149	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	(4.6)	1.6	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
14-67			土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(4.5)	a:外底体部指頭 b:口縁部ヨコナメ d:体部内面ナメ有り e:黒灰色 微細 白色粒 c:内面暗茶灰色 外面淡赤褐色 f:河野分類 1 b:駕か 口縁部下に穿孔 g:熱感
14-68			鋼製品	鉄	直径 22	内孔 0.6	重さ 25g		f:光沢通透 青銅 1086年
14-69		151	土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(39)	a:外底体部指頭 b:口縁部ヨコナメ d:体部内面ナメ有り e:黒灰色 微細 白色粒 c:内面淡茶灰色 外面淡赤褐色 f:河野分類 1 b:駕か g:熱感 h:21 10と同一個体
14-70		152	陶器	寸リ常滑	-	底 33	横 5.8	厚さ 1.0	b:黄褐色 長石 石英 白色粒 c:暗茶褐色 e:複数面 3面 外面擦痕見込み中央に朱漆で「〇」を一つ描くのみ、外面には文様なし、高台内側には漆がない
14-71			木製品	黒漆瓶	-	12.9	6.0	3.9	
14-72		153	木製品	箸	-	長 (14.3)	幅 (0.65)	厚 (0.6)	
14-73			木製品	箸	-	長 (12.6)	幅 (0.75)	厚 (0.3)	
14-74			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(5.4)	1.9	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
14-75			土製品	瓦器質 黒絞繩	口縁部小 片	-	-	(2.6)	b:灰白色 石英 真土 c:口縁部淡黒褐色 体部白黄色
14-76			陶器	常滑 片口錐 1類	口縁部片	-	-	(3.2)	a:粘土輪轉積み技術 肩張り台付 b:灰 淡黄褐色 長石 石英 小石粒 c:灰褐色 d:自然崩壊灰 e:外底燃付着
14-77		155	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.1)	(4.6)	1.3	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
14-78		159	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.5)	(5.0)	1.6	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り (右回転) c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:青い
14-79			石製品	滑石漏	口縁部片	-	-	(2.4)	e:外底燃付着 f:外面ノミ痕あり
14-80		161	木製品	黒漆瓶	-	-	高 (2.9)	d:文様なし	
14-81		162	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(11.0)	6.0	3.2	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り (右回転) c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:深橙色 e:良好
14-82			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(6.0)	1.7	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:暗茶褐色 e:良好 f:被熱
14-83		163	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	5.3	1.4	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り (左回転) c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:光灯明
14-84		166	土製品	瓦器質 黒絞繩	口縁部小 片	-	-	(3.5)	b:灰白色 白色粒 真土 c:口縁部淡黒褐色 体部白黄色
14-85			鉄製品	釘	-	長 (4.9)	幅 (0.4)	厚 (0.6)	f:四角形に鍛造
14-86		174	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.0	6.0	1.7	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り (右回転) c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好
14-87		177	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.2)	(5.6)	1.5	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 白色粒 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
14-88			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(6.4)	1.7	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 金雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:赤橙色 e:良好
15-89		170	陶器	常滑 甕	-	(22.5)	(26.7)		a:粘土輪轉積み技術 底部輪廻ケズリ 外底部磨耗e:内底ハケ目指頭
15-90		203	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.0)	7.2	3.3	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:口縁部燃付着 灯明置か
15-91			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	6.2	1.6	a:ロクロ成形 b:底内ナメ d:外底回転条切り (右回転) c:板状圧痕 d:微細 e:雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:自然崩壊灰
15-92		204	陶器	常滑 甕	肩部?	-	-	(4.7)	a:粘土輪轉積み技術 b:灰褐色 c:微細 d:灰褐色 e:良好 f:自然崩壊灰
15-93		205	土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(3.6)	a:内面ノケ目直 b:芯粘墨黒褐色 砂粒 白色粒 やや粗土 c:外面暗赤褐色 d:真好 e:河野分類 1 b:駕 15.91と同一個体かと思われる

図 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆積度	法量			範囲内容
						口径	底径	器高	
15-94	3面	205	土製品	土器質火葬	底部片	+	-	(48)	a:口クロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 金雲母 雪母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
15-95									a:外底わきガコナデ 外底回転系切り b:赤茶色 黒褐色 砂粒 やや粗土 c:内面暗黒灰色 e:良好 t:河野福年1号
15-96	206	木製品	箸		長 (156)	幅0.6	厚0.4		a:上端部から三分の二ほど、背面が炭化している
15-97									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 金雲母 雪母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
15-98	土製品	ロクロ かわらけ(大)	略定形		13.3	8.0	3.7		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 黒雲母 雪母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
15-99									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 金雲母 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
15-100	土製品	ロクロ かわらけ(大)	定形		13.1	8.2	3.55		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 金雲母 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
15-101									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 金雲母 白色粒 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
15-102	土製品	ロクロ かわらけ(大)	略定形		13.5	8.0	3.55		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 金雲母 黒雲母 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
15-103									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い
15-104	土製品	ロクロ かわらけ(大)	略定形		13.4	7.2	3.0		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
15-105									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
15-106	土製品	ロクロ かわらけ(大)	略定形		11.0	7.3	3.3		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
15-107									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い
15-108	土製品	ロクロ かわらけ(小)	略定形		7.4	4.7	2.5		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い
15-109									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
15-110	土製品	ロクロ かわらけ(小)	略定形		7.4	4.8	2.3		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
15-111									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
15-112	土製品	ロクロ かわらけ(小)	略定形		7.4	4.5	2.2		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好 t:灯明里
15-113									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い
15-114	土製品	ロクロ かわらけ(小)	略定形		7.6	4.6	2.0		a:ロクロ成形 内底ナデ b:微砂 金雲母 雪母 赤色粒 海綿骨針 や士 c:淡橙色 e:良好 t:外底部摩滅
15-115									a:ロクロ成形 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 や士 c:黄褐色 e:良好
15-116	土製品	ロクロ かわらけ(小)	定形		7.8	5.0	1.95		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 や士 c:黄褐色 e:良好
15-117									t:四角形に覗き
16-118	遺物 集 1	土製品	ロクロ かわらけ(大)		長6.3	幅0.3	厚0.3		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 や士粗土 c:淡橙色 e:やや甘い
16-119									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 や士 c:淡橙色 e:やや甘い t:灯明里
16-120		土製品	ロクロ かわらけ(小)	定形品	7.4	5.0	2.4		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 や士 c:黄褐色 e:やや甘い

編 番号	出土 場 所	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			
						上径	底径	器高	
16-121	3面 遺構 集中	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.2	4.6	1.4		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
16-122		土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	6.2	3.8	2.2		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 黒雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
16-123		磁器	青磁 透過外文鏡	口縁部片	-	-	高(2.6)		□灰白色 黑色粒 精良原鏡 □淡灰青色半透明 杜相薄 □気泡有り 土上本編半皿類か 龍泉窯系
16-124		骨角製品	サイコロ		長辺 0.95	短辺0.8	厚0.75		
16-125		土製品	ロクロ かわらけ(特大)	1/2	(14.8)	10.0	3.5		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 黒雲母 金雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
16-126		土製品	ロクロ かわらけ(特大)	3/4	(14.0)	8.0	4.0		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
16-127		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.0)	(6.0)	1.5		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
16-128		陶器	戸口鉢墨	底部小片	-	-	(1.0)		□灰黄色 黑色粒 素土 □灰灰褐色無い □良好
16-129		土製品	土器火葬		-	-	(2.3)		□微砂 霧母 色白粒 素土 □淡黄灰色 □良好 □河原分類Ⅲ類
16-130		土製品	丸瓦		長9.8	-	厚2.3		□凸面側面のナデ 四面面目直 五灰白色 □微砂 霧母 小石粒 粗土 □黄灰色 □甘い □古代10c
16-131	周辺 遺構 外	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片	-	-	(4.5)		□粘土練輪積み技術 外底回転ヘラケツリ □ヨコナデ 貼り付け高台 □灰白色 長石 石英 □灰白色 素土 内面部一部隣底 □良好
16-132		石製品	滑石調滑石	底部片	長(8.8)	-	-		□灰色 □外底擦付着、加工部に削付着
17-133		土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	13.6	7.4	4.0		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 素母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い □外底粘土くず付着
17-134		土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(13.2)	8.4	3.2		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い □外底粘土くず付着
17-135		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	12.0	7.0	3.5		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □良好
17-136		土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	11.8	7.0	3.4		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
17-137		土製品	ロクロ かわらけ(中)	完形品	11.7	6.9	3.6		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 □赤橙色→橙色 □良好
17-138		土製品	ロクロ かわらけ(中)	1/2	10.4	6.0	3.0		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 金雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 良土 □淡黄灰色 □やや甘い □モ-38の前にとている 灯明墨
17-139		土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	8.2	6.0	1.7		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄橙色 □良好
17-140		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.6)	4.8	2.0		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 良土 □赤橙色 □良好 □被熱化
17-141		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.4)	(5.6)	1.5		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 黑雲母 金雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 □黄橙色 □やや甘い
17-142		土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.4	5.0	1.7		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
17-143		土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形品	7.2	4.2	2.2		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い □灯明墨
17-144		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	7.0	5.6	1.8		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
17-145		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	6.8	5.2	1.5		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
17-146		土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	6.8	4.0	2.0		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
17-147		土製品	かわらけ 異形品	胴部～底 部片	-	(13.0)	(5.3)		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い
17-148		土製品	ロクロ かわらけ	小片	-	-	高(2.6)		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □黄灰色 □やや甘い □穿孔あり 穿孔を中心とした放射状の網み有り
17-149		土製品	ロクロ かわらけ	1/3	(13.2)	(6.4)	4.2		□クロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □微砂 霧母 赤色粒 白色粒 良土 □白黄色 □良好 □内底に押印有り

固 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	有無	法量			調査内容
						口径	底径	器高	
17-150	3面	遺構外	磁器	青磁 迦文碗	口縁部小片	-	-	高(27)	a:成形 口:胎土 c:色調 d:釉調 e:焼成不良考 b:灰白色 黑褐色 精良堅緻 d:灰青色透明 釉層薄い 気泡有り e:山本年号 II類か 龍泉窯系
17-151			磁器	青白磁 梅瓶	胴部小片	-	-	高(30)	b:灰白色 黑褐色 精良堅緻 d:青白色半透明 釉層薄い 気泡有り
17-152			磁器	青白磁 香炉	底部片	-	-	(27)	a:脚部貼付有り b:灰白色 精良堅緻 d:淡青色半透明 釉層薄い e:入有り 気泡有り一部脚部露殆 ハ香炉か? 台付か
17-153			陶器	圓戸 鋸皿		-	-	高(32)	b:灰色 白色粒 良土 c:灰土 d:灰釉ハケ重り 釉層薄い e:やや 甘い
17-154			陶器	常滑 甕	口縁部片	-	-	高(66)	a:粘土経輪機成形 b:灰褐色 長石 石英 小石粒 c:暗褐色 d:自然 輪跡 E:中野編年式か
17-155			陶器	常滑 甕	底部片	-	-	(63)	a:粘土経輪機成形 d:底部離れ跡 底部輪ハケザギ 内面へ調整 b:橙色 長石 石英 小石粒 c:外面橙色 内面褐色 d:内面自然輪 跡斑
17-156			土製品	瓦器質 黒線鏡	2/3	11.2	4.8	3.4	a:クロア成形 内底ナデ 底部回転糸切り b:微砂 白色粒 良土 c: 明灰白色 e:良好
17-157			土製品	瓦器質火鉢	脚部片	-	-	高(33)	a:ケツナリ ナデ d:淡黄赤~淡灰色 微砂 雪母 赤色粒 白色粒 粗土 c:灰黑色
17-158			石製品	石碗		長(4.9)	幅3.6	厚0.7	E:仕上げ砥 喚魂
17-159			石製品	水輪	3/5	径16.7	-	最大厚 9.3	E:安山岩?
17-160			鉄製品	釘?		長(6.1)	幅0.5	厚0.3	E:断面四角形に鍛造
17-161			鉄製品	釘?		長5.2	幅0.4	厚0.3	E:断面四角形に鍛造
17-162			鉄製品	釘?		長(4.2)	幅0.8	厚0.4	E:断面四角形に鍛造
17-163			鋼製品	鉢		直径2.5	内孔0.7	重さ25 g	E:開元通宝
18-164	構成 土		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(142)	(8.0)	29	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状压痕 b:微砂 雪母 黒雲母 企葉母 赤色粒 黑褐色 海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好
18-165			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(126)	7.5	4.0	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微砂 黒雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e: 良好
18-166			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(125)	(7.4)	3.6	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 黑雲母 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 一部焼ムラがある
18-167			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(126)	(7.0)	3.8	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 黑雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e: 良好 ト器形がみゆき
18-168			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(122)	(7.8)	3.8	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好 一部崩れ?
18-169			土製品	ロクロ かわらけ(小)		(8.0)	(6.2)	2.1	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 黑雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
18-170			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.0)	(5.8)	1.8	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状压痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c:非橙色 e:良好
18-171			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.8	5.6	1.6	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い
18-172			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.3)	(5.6)	1.6	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状压痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:良好
18-173			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(5.8)	1.5	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状压痕 b:微砂 雪母 黒雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e: 良好 ト上端下に空隙
18-174			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(5.6)	1.5	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状压痕 b:微砂 雪母 企葉母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:良好
18-175			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	4.6	1.6	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
18-176			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(6.9)	(5.2)	1.7	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e: 良好
18-177			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.7)	(6.0)	1.8	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状压痕 b:微砂 雪母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
18-178			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(6.7)	(5.2)	1.7	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状压痕 b:微砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:暗赤褐色 e:良好 f:被熱か
18-179			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.1	5.0	2.1	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや良 好
18-180			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(6.7)	(5.1)	1.5	a:クロア成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状压痕 b:微 砂 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好

器 番号	出土 場 所	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			範囲内容
						上口径	底径	器高	
18-181	3面 構成 土	土製品	ロクロ かわらけ(小)			(7.0)	(4.8)	1.8	a:成形灰土 c:色調正施調 e:焼成土参考 a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘 い E灯明鑑か
18-182		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.2)	(4.6)	2.3		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色 海綿骨針 灰土 c:黄橙色 e:良好
18-183		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.2)	(4.2)	1.4		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
18-184		土製品	ロクロ かわらけ(小)		(7.8)	4.7	1.6		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 E墨書き有り
18-185		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(4.6)	(3.6)	0.8		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色 海綿骨針 灰土 c:橙色 e:良好 E墨書き有り
18-186		磁器	青磁 蓮弁文鉢	底部片	-	(9.0)	(2.3)		b:灰白色 精良堅緻 c:底緑色平透明 施調厚い 埋始部分と施塗の 境が茶褐色に発色している 上山本編 幕室京系環豆類
18-187		磁器	青白磁 瓶腹	口縁部小 片	-	-	(2.0)		b:灰白色 黑色斑 精良堅緻 c:青白色平透明 施調薄い 気泡有り E E被熱?
18-188		磁器	白磁	剥落~底 部片	-	-	(2.0)		a:文様押押し b:白色 精良堅緻 c:白色透明 施調薄い 気泡有り E 精良と素地の境が淡褐色に発色 在文様
18-189		陶器	常滑 甕	口縁部小 片	-	-	(2.4)		b:長石 石英 小石粒 c:暗褐色 d:自然釉降灰 E良好 E中野編年 5型か
18-190		陶器	器種不明	胴部片	-	-	(2.9)		b:暗褐褐色 精良堅緻 E黒褐釉 施調薄い 上駆載
18-191		陶器	瓶	口縁部~ 洗	-	-	(5.6)		b:灰褐色 白色粒 灰土 E在灰釉 ハケ底り 黄緑灰色透明 E 良好 E藤岡編年前期
18-192		土製品	瓦器質土器 皿	底部辺	-	-	(1.1)		b:灰褐色 雲母 白色粒 c:暗褐色
18-193		土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(3.8)		a:口縁部ヨコナデ 内面斜めナデ b:微妙 雲母 黒雲母 白色粒 や や粗土 c:灰褐色 e:良好 E内面に付着 河野分類I型
18-194		土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(3.6)		a:口縁部ヨコナデ 内面斜めナデ b:微妙 雲母 赤色粒 白色粒 泥 岩粒 やや粗土 c:暗褐色 e:良好 E被熱か 空孔り 河野分類 I B類
18-195		土製品	土器質火鉢	底部片	-	-	(4.5)		a:底部墨ケズリ 外底部離れ砂 内外面ヨコナデ b:微妙 雲母 赤色 粒 白色粒 やや粗土 c:暗褐色 e:良好 E河野分類B類
18-196		土製品	土器質火鉢	底部片	-	-	(6.9)		a:底部ヨコナデ ケズリ 外底部離れ砂 E離砂 雲母 白色粒 小石 粒 泥岩粒 灰土 c:淡褐色 e:良好 E河野分類I B類
18-197		土製品	かわらけ質 火鉢	脚部	-	底部辺 (5.5)	(6.3)		a:底部ヨコナデ 脚ケズリ ナデ 脚部底面ケズリ後みがき E黄褐色 微妙 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い E河野分類II型
18-198		石製品	碁石?		長2.1	短1.6	厚0.4		
18-199		銅製品	鉢	直様23	内孔.0.7	重さ 35g		E元通寶(行書)	
18-200		木製品	墨漆桶		-	底6.0	高(2.6)		
18-201		骨製品	笄	長13.4	幅1.4	厚0.35			
18-202		木製品	箸	長24.6	幅0.65	厚0.65			
18-203		木製品	杓文字	長	幅(4.1)	厚(1.0) (23.3)			
18-204		木製品	曲物	長	幅(9.3)	厚(1.0) (27.4)			
18-205		木製品	部材	長24.3	幅6.8	厚(6.0) (納 1+21.2)		ほぼ四角うち2面は破損 1面上一カ所鉄釘がうたれている 上端は 不偏い多角形に加工	
21-1	4面	211	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(5.2)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微妙 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e:やや甘い E底面墨と底辺に指痕有り
21-2		214	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	(5.5)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-3			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	(4.4)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡褐色 e:良好
21-4			銅製品	鉢	直様23	内孔 0.65	重さ 20g		E元通寶(行書)
21-5		216	木製品	木箸	長	幅0.6	厚0.5		面取り加工 上端部破損
21-6		220	磁器	青磁 蓮弁文折縫鉢	底部片	-	-	(1.7)	b:灰白色 精良堅緻 底部灰色不透明 施調厚い 気泡有り 豊作 露助 E山本編年 幕室京系青磁環豆類 高台基盤の地日が茶色
21-7		224	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.5)	(5.4)	1.7	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
21-8			陶器	常滑 片口鉢I類	底部片	-	(15.0)	(7.1)	a:粘土練輪積み技術 ヨコナデ 貼り付け高台 外底輪回転ラケズリ b:灰褐色 長石 石英 小石粒 c:灰白色 e:良好 E内外面暗黒褐色 に変色
21-9 ~ 11		226	木製品	唐椀		全て破 片			全て墨面で外側面にも朱墨で文様を描く、植物文か E 9と10はお そらく同一個体だが接合しない。9、10ともに底部付近か 12も同一 個体の可能性あり
21-12		227	土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	12.6	(7.6)	3.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄 褐色 e:良好

国 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆積度	法量			調査内容
						口径	底径	器高	
21-13	4面	227	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3 (11.8)	(6.2) (5.7)	3.9 (5.7)	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-14									
21-15		228	陶製品	瓦	口径24 内孔5.5 3.2g	直徑24 内孔5.5 3.2g	重さ 15	a:粘土經輪機み挂法 ヨコナデ b:灰白色 長石 石英 小石粒 c:灰 白色 e:良好	a:粘土經輪機み挂法 ヨコナデ b:灰白色 長石 石英 小石粒 c:灰 白色 e:良好
21-16									
21-17		229	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3 (12.9)	(8.2) (6.4)	3.2 3.4	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-18									
21-19									仁宗通寶(篆書)
21-20		230	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3 (13.1)	(7.7) (5.2)	3.4 1.7	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 真土 c:淡黃橙色 e: 良好	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 真土 c:淡黃橙色 e: 良好
21-21									
21-22									手づくね かわらけ(小)
21-23									手づくね形 内底ナデ 外底指痕 一段面取り b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e: やや甘い
21-24									陶器 常滑 瓦 底部小片 - - (3.3)
21-25									a:粘土經輪機み挂法 防止部ヘラナデ ヨコナデ 外底離れ痕 b: 長石 石英 小石粒 c:外側暗褐色 d:自然釉降灰 黃褐色 e:良好
21-26									仁政和通寶
21-27		232	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2 (11.6)	7.3 (7.8)	3.4 1.9	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-28									土製品 ロクロ 略定形 7.8 5.1 1.8 a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-29		232	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4 (7.8)	(4.6) (5.9)	1.9 1.6	a:ロクロ成形 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	a:ロクロ成形 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-30									土製品 ロクロ 完形品 7.8 5.2 1.6 a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-31									土製品 ロクロ 4.5 8.2 1.8 a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-32									土製品 ロクロ 完形品 7.8 5.2 1.6 a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
21-33		233	土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3 (12.2)	6.6 (5.4)	3.6 1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e: やや甘い a:外底部粘土ずり付着	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e: やや甘い a:外底部粘土ずり付着
21-34									土製品 ロクロ 4.5 8.2 1.8 a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e: やや甘い a:外底部粘土ずり付着
21-35									土製品 ロクロ 4.5 8.2 1.8 a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e: やや甘い a:外底部粘土ずり付着
21-36		234	木製品	黒漆椀 甕状	- 長7.0 (16.6)	高(1.4) 幅(1.8) 厚(0.4)	0.6	破損のため文様は不明	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 金雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-37									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-38		235	木製品	ロクロ かわらけ(中)	1/3 (10.0)	(5.0) (4.6)	3.0 2.0	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-39									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-40		236	木製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5 (7.4)	(4.6) (5.8)	1.7 2.0	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-41									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-42		237	木製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4 (7.7)	(5.8) (5.0)	1.6 1.7	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-43									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-44		238	木製品	黒漆椀 甕状	高(1.6) 長(17.8)	横(2.3) 幅(0.6) 厚(0.4)	0.5	内外面ともに朱漆による文様を施す。植物文。モチーフは異なる	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好
21-45									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 黑雲母 赤色粒 真土 c:淡黄褐色 e:良好

規 番号	出土 場 所	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			範囲内容 a:成形 b:胎土 c:色調 d:施調 e:焼成土備考
						上径	下径	厚	
21-45	4面	243	木製品	著		長 (17.5)	幅 (0.5)	厚 (0.3)	
21-46						長 (16.7)	幅 (0.7)	厚 (0.4)	
21-47						長 (15.2)	幅 (0.7)	厚 (0.4)	
21-48						長 (13.2)	幅 (0.7)	厚 (0.5)	
22-49	237	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.0)	(5.2)	20	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 球母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e:良好	
22-50									a:ロクロコナデ b:灰色 精良堅致 d:施薄い 綠灰色
22-51									表面に孔3つ、内面から外面向けて穿孔しているようである。高台 内面には溝を1条引いたような造り
22-52									
22-53	244	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.2)	(8.0)	3.7	a:ロクロ成形 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e: やや甘い	
22-54									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e: やや甘い
22-55									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 球母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e: 良好 f:被 熱少
22-56									
22-57	245	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.8	5.8	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 球母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e: 良好	
22-58									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 球母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:褐色 e:良好
22-59									b:灰白色 良土 d:青灰赤手透明 施薄い e:山本編年 龍泉窯系青 磁碗口または皿類か
22-60									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e: やや甘い
22-61	250	土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(12.2)	7.4	3.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 球母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:褐色 e: 良好	
22-62									a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 球母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 d:施きらり有り
22-63									面取り加工 断面は円形
22-64									上端部面取り 下端部破損
22-65	251	木製品	不明木製品	著	長 (16.0)	幅 0.55	厚 0.6	面取り加工 断面は円形	
22-66									
22-67									上端部破損
22-68									
22-69	253	木製品	漆塗り部材	約文字か	長 (11.8)	幅 1.8	厚 0.8	3側面に漆が残存	
22-70									
22-71									上端部破損
22-72									
22-73	257	木製品	ロクロ かわらけ(小)	小片	-	-	2.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:褐色 e: 良好	
22-74									
22-75									
22-76									
22-77	255	土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	8.2	6.0	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:褐色 e: 良好 f:一部焼成ムラ有り	
22-78									
22-79									
22-80									
22-81	256	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	(5.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄灰色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-82									
22-83									
22-84									
22-85	258	木製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	7.6	5.2	1.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: 良好	
22-86									
22-87									
22-88									
22-89	259	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-90									
22-91									
22-92									
22-93	260	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(7.0)	幅 0.5	厚 0.4	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-94									
22-95									
22-96									
22-97	261	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(10.5)	0.6	0.4	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-98									
22-99									
22-100									
22-101	262	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-102									
22-103									
22-104									
22-105	263	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(7.2)	(5.4)	1.9	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り(右回転) 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-106									
22-107									
22-108									
22-109	264	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(7.0)	幅 0.7	厚 0.55	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-110									
22-111									
22-112									
22-113	265	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-114									
22-115									
22-116									
22-117	266	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-118									
22-119									
22-120									
22-121	267	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-122									
22-123									
22-124									
22-125	268	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-126									
22-127									
22-128									
22-129	269	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-130									
22-131									
22-132									
22-133	270	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-134									
22-135									
22-136									
22-137	271	木製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(8.0)	(6.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底糸切り 板状圧痕 b:微 砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い 上一部焼成ムラ有り	
22-138									

国 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆存度	法量			調査内容
						口径	底径	器高	
22-77	4面	260	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.2)	7.2	3.4	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
22-78				ロクロ かわらけ(小)	1/3	7.8	5.6	1.4	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
22-79	262	陶器 片口縁I類	底部片	-	(15.6)	(6.3)	-	-	a:粘土練輪組み技法 貼り付け高台 内外面ヨコナメ 底部輪回転ヘラケズリ b:灰褐色 白色粒 石英 小石粒 c:灰褐色 e:良好
23-80				ロクロ かわらけ(大)	1/2	12.8	8.3	3.5	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
23-81	277	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.3)	(7.8)	3.05	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好
23-82			ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(5.6)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:淡橙色 e:良好	
23-83	土製品	ロクロ かわらけ(極少)	略定形	4.8	4.0	0.8	-	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好
23-84		土製品	ロクロ かわらけ(極少)	2/3	(4.6)	3.4	0.9	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い 上外底部に粘土くず付着
23-85	陶器 片口縁	剥離片	-	-	-	(6.1)	-	-	a:粘土練輪組み技法 貼り付け高台 外面横ナメ 内面磨耗 b:灰白色 砂粒
23-86	本製品 (器種不明)	器形	底部片	長(3.1)	幅(2.9)	高台厚 0.3	-	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 c:暗灰土 d:自然陶灰 暗灰綠色 e:良好
23-87	木製品 舟形加工品	-	-	長17.7	幅4.6	高2.1	-	-	底部左右面取り。中は削り抜いたノミ痕が残る ほぼ中心に四角形の貫通しない穴あり
23-88	木製品	著	-	長(20.4)	幅(0.7)	厚0.5	-	-	-
23-89	木製品	著	-	長(17.0)	幅(0.6)	厚(0.5)	-	-	-
23-90	木製品	著	-	長(11.3)	幅(0.7)	厚(0.5)	-	-	-
23-91	木製品	著	-	長(13.9)	幅(0.7)	厚(0.5)	-	-	-
23-92	木製品	著	-	長(13.3)	幅(0.6)	厚(0.4)	-	-	-
23-93	木製品	折敷	-	長17.9	幅18.1	厚0.09	-	-	-
23-94	木製品	折敷	-	長6.5	幅18.15	厚0.09	-	-	-
23-95	木製品	不明品	-	長(4.65)	幅(9.9)	厚0.5	-	b:2列の穿孔あり	-
23-96	木製品	不明品	-	長(11.5)	幅(1.7)	厚0.4	-	-	-
23-97	木製品	蓋の把手か	-	長(14.35)	幅(1.7)	厚1.6	-	-	-
23-98	278	土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	13.3	7.2	4.1	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:やや甘い
23-99			ロクロ かわらけ(大)	略定形	13.2	7.7	3.5	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:灰褐色 e:やや甘い
23-100	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(12.9)	6.4	4.5	-	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い
23-101		ロクロ かわらけ(大)	1/2	(12.8)	8.0	3.2	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	
23-102	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(12.4)	(8.3)	3.25	-	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い
23-103	土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	12.3	6.8	3.5	-	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
23-104	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.2)	(6.8)	1.6	-	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
23-105	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.7	5.3	1.6	-	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 霾母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:外底無
23-106	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(6.0)	1.6	-	-	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微砂 霾母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:二次焼成受けている 灯明細か

規 番号	出上 面	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			範囲内容
						上径	底径	器高	
23-107	4面	278	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.5	5.6	1.6	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:甘い
23-108				ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	(5.8)	1.8	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:甘い
23-109		278	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.2	5.3	1.55	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
23-110				ロクロ かわらけ(小)	2/3	(7.5)	(5.4)	1.65	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
23-111		279	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	(4.8)	2.0	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
23-112				ロクロ かわらけ(小)	1/2	(6.6)	(4.8)	1.5	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:橙色 内面一部焼き跡有り e:良好
23-113		279	土製品	ロクロ かわらけ(小) (手づくね)	1/4	(3.8)	(2.8)	0.9	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好
23-114				手づくね かわらけ(小)	1/4	(9.5)	-	1.6	□ 手づくね成形 内底ナデ 外底指頭刺 板状圧痕 一段ナラ面取り風 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好
23-115		279	鉄製品	刀子 刃先・柄 欠損	(20.4)	(2.4)	-	-	■ 刃に穿孔あり
24-116				ロクロ かわらけ(大)	略完形	12.7	6.6	3.6	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 燒き跡有り
24-117		279	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.8)	(8.4)	3.1	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い
24-118				ロクロ かわらけ(大)	1/4	(12.4)	(7.0)	3.6	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
24-119		279	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/6	(9.2)	(6.0)	1.8	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:やや甘い □ 灯明皿
24-120				ロクロ かわらけ(小)	2/3	8.0	5.3	1.75	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □ 口縁に内側に折り曲げている b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:甘い □ 灯明皿
24-121		279	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/6	(8.4)	(7.0)	1.8	□ ロクロ成形 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い
24-122				ロクロ かわらけ(小)	2/3	8.0	5.3	1.6	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好
24-123		279	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(7.8)	(5.2)	1.8	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 一端焼き跡有り
24-124				ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(4.6)	1.6	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:甘い
24-125		279	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.7)	5.7	1.5	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好
24-126				ロクロ かわらけ(小)	略完形	7.4	5.4	1.6	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好
24-127		279	土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形品	7.2	3.8	2.4	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 □ 38の割土と似ている
24-128				ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.0)	(5.4)	1.6	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
24-129		279	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	(4.9)	1.4	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:やや甘い
24-130				手づくね かわらけ(小)	1/2	(8.4)	-	1.9	□ 手づくね成形 外底指頭刺 一段ナラ面取り b:微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:灰黄色 e:甘い □ 全面削離
24-131		279	土製品	ロクロ かわらけ(大)	底部片	最大長	最大幅	(1.1)	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 □ 底部に穿孔
24-132				耳置状ロクロ かわらけ	小片	最大長 (5.4)	最大幅 (2.7)	2.1	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 □ 内側に口縁が折り込まれている b:微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:甘い
24-133		280	陶器	風呂恵婆	小片	縦(2.7)	横(2.7)	厚(0.4)	□ 灰色 白色粒 c:灰白色 e:良好 □ 印押有り
24-134				ロクロ かわらけ(大)	2/3	(12.8)	8.0	3.7	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い □ 灯明皿
24-135		280	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(12.7)	(7.6)	3.4	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好
24-136				ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.4)	(7.0)	3.3	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い
24-137		280	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.2)	(8.0)	3.1	□ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:甘い

固 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆存度	法量			調査内容
						口径	底径	器高	
24-138	4面	280	土製品	ロクロ	1/4	(12.2)	(6.6)	32	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:橙色 e:良好
24-139				ロクロ	1/4	(12.0)	(7.2)	36	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 黒雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:橙色 e: 良好 一部黒きみうら色
24-140			土製品	ロクロ	1/4	(8.4)	(6.4)	15	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:橙色 e: 良好
24-141				ロクロ	1/3	(8.2)	(6.4)	16	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 黑雲母 赤絵紋 白色紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c: 黄褐色 e:やや甘い
24-142			土製品	ロクロ	2/3	(8.2)	5.4	19	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 黒雲母 赤絵紋 白色紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:橙色 e: 良好
24-143				ロクロ	3/4	8.0	6.3	17	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 黒雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:黄褐色 e: 良好
24-144			土製品	ロクロ	7.6	5.9	15	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:黄褐色 e: 良好	
24-145				ロクロ	3/4	7.6	5.6	16	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 黑雲母 赤絵紋 海綿骨針 小石紋 泥岩紋 粗土 c:橙色 e: 良好
24-146			土製品	ロクロ	4/5	7.6	5.2	16	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 黑雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:黄褐色 e: やや甘い
24-147				ロクロ	7.5	5.5	17	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e: 良好	
24-148			土製品	ロクロ	3/4	7.6	5.2	15	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 口縁部を内側に 折り込む b:微渺 雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:橙色 e: 良好
24-149				ロクロ	1/2	(7.4)	(5.5)	18	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 口縁部 を内側に折り込む b:微渺 雲母 黑雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:橙色 e:良好
24-150	常滑 壺	剖断片	-	幅9.1	-	-	-	-	a:粘土組織痕及び法 b:灰色 白色紋 小石紋 E:漆付有り
24-151	木製品	木箸	長	幅0.6	厚0.5	E面	取り加工 上端部破損	-	
24-152	木製品	櫛板	幅340	横17.6	厚9.5 -6.2	E面	全面面取り	-	
24-153	282	土製品	ロクロ	2/3	7.8	4.8	17	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 黒雲母 赤絵紋 海綿骨針 小石紋 泥岩紋 やや粗土 c:橙色 e: 良好 上面に薄くスズ付着	
24-154			ロクロ	1/4	(6.6)	(5.0)	16	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 白色紋 海綿骨針 小石紋 泥岩紋 粗土 c:橙色 e: 良好	
24-155		土製品	ロクロ	1/2	(4.6)	(3.6)	0.8	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 海綿骨針 良土 c:黄褐色 e:やや甘い 一部焼ムラで橙色	
24-156			石製品	礫石	破片	長2.1	幅1.4	厚0.25	c:薄緑かかった灰白色 E:仕上げ済 晴焼
24-157		土製品	平瓦	破片	-	幅7.7	厚(1.9)	-	a:(四面) 褐縞移・履甲面(凸面) 格子の明き目・縞移移 b:灰色 白色 紋 小石紋 やや粗土 c:(四面) 帽灰色(凸面) 灰色 e:良好 8輪鎧 型
24-158			土製品	ロクロ	1/4	(6.6)	(4.4)	1.4	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 白色紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:黄褐色 e:やや甘い E外底部に粘土くず付着
24-159		土製品	ロクロ	かわらけ(極少)	4.5	3.1	0.9	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 海綿骨針 良土 c:灰褐色 e:やや甘い E:外底部粘土くず付 着	
25-160			ロクロ	かわらけ(大)	4/5	12.6	6.4	3.7	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 白色紋 海綿骨針 小石紋 泥岩紋 粗土 c:黄褐色 e:良好
25-161		土製品	ロクロ	かわらけ(大)	1/2	(12.4)	(8.2)	3.2	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:橙色-橙色 e:良好
25-162			ロクロ	かわらけ(大)	1/5	(12.4)	(6.8)	3.2	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 海綿骨針 泥岩紋 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 E: 外壁面付着
25-163		土製品	ロクロ	かわらけ(大)	完形品	12.0	6.6	3.9	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 白色紋 海綿骨針 泥岩紋 粗土 c:内面赤繪付 外壁面橙色 e:良好 E:外底部に粘土くず付着
25-164			ロクロ	かわらけ(大)	1/2	(12.0)	(6.6)	3.4	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 海綿骨針 小石紋 泥岩紋 やや粗土 c:黄褐色 一部赤絵 e:やや甘い
25-165		土製品	ロクロ	かわらけ(大)	略完形	11.8	7.2	3.3	a:ロクロ成形 内底ナマ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤絵紋 白色紋 海綿骨針 小石紋 泥岩紋 粗土 c:黄褐色 e:やや甘い

規 番号	出上 面	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			範囲内容
						上径	底径	器高	
25-166	4面	281	土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	11.8	7.2	3.3	α:成形始土 c:調色 d:施調 e:焼成 f:備考 α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:や がい
25-167			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.9)	(5.4)	1.4	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e: やがい
25-168			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(7.8)	(5.8)	1.5	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e: やがい
25-169			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(5.4)	1.6	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e: やがい
25-170			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.8)	(5.2)	1.8	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e: 良好
25-171			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.7	5.1	1.8	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やがい b:外底輪郭・下底痕有り 外底部転付土
25-172			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(5.2)	1.7	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:微 妙 良好
25-173			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(5.0)	1.5	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:微 妙 良好
25-174			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.5)	(5.6)	1.5	α:ロクロ成形 内底ナメ (一部口縁まで延びる) 外底回転条切り 板 状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗 土 c:良好 e:良好
25-175			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.5)	(4.8)	1.5	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: やがい
25-176			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形品	7.4	4.5	1.7	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:やがい b:灯明
25-177			土製品	ロクロ かわらけ(小)	一部欠損	7.3	5.3	1.4	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
25-178			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.0)	(4.6)	1.5	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:微 妙 良好
25-179			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(6.6)	(5.0)	1.5	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:微 妙 良好
25-180			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.8)	(5.0)	1.4	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:微 妙 良好
25-181			磁器	白磁 口凡皿	底部片	-	(5.8)	(0.9)	b:灰白色 黑色粒あり 磁具壓痕 d:空きを帯びた灰白色 半透明 軸 肩や厚い 質有り 底部黒斑 e:良好 f:山本編白磁盤黒皿
25-182			土製品	柱状高台	脚部~底 部片	-	(5.8)	(3.2)	a:脚部~全体を貼り付けている 内底ナメ 外側側面ヨコナメ 外底系切 り痕 (右回転) b:微 妙 雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 淡黄褐色 e:良好
25-183			土製品	不明	完形か?	横 5.0	幅 3.0	2.9	a:手でねた後有り b:微 妙 雲母 黑雲母 赤色粒 やや粗土 c: 赤褐色~部黒色 両申で剥した孔あり 貨通してない
25-184	284		土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	12.2	7.7	3.6	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: 良好 f:底部第一部削離 外底部に貼りくず付着
25-185			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(11.8)	(6.4)	3.6	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:良好
25-186			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.7)	(5.4)	1.8	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:微 妙 良好
25-187			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	(4.6)	1.4	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:微 妙 良好
25-188			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.4	4.0	2.4	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精良土 c:淡橙色 e:良好
25-189			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	4.7	3.4	0.9	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 良土 c:淡黄褐色 e:やがい
25-190			本製品	棒状		長 (14.2)	幅 (1.15)	厚 (0.7)	
25-191			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.0)	(5.6)	4.1	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:やがい
25-192			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(4.8)	1.7	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c:淡橙色 e:良好
25-193			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(6.0)	1.7	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:淡橙色 e:良好
25-194			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.6)	(3.8)	1.5	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り (右回転) 板状圧痕 b:微 妙 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:淡橙色 e:良好
25-195			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.4)	(5.8)	1.5	α:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転条切り 板状圧痕 b:微 妙 黑雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e: 良好

固 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆積度	法量			範囲内容
						口径	底径	器高	
25-196	4面	285	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.4)	(5.4)	1.4	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やがい E外底部に粘土くず付着
25-197			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.9)	(4.8)	1.7	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やがい
25-198			土製品	ロクロ かわらけ(極少)	1/3	(4.4)	(3.4)	1.0	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 F外底部に粘土くず付着
25-199			土製品	ロクロ かわらけ(極少)	2/3	(4.3)	(3.4)	0.8	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:灰黄色 e:良好 F一部くず付着
25-200			土製品	かわらけ質 不明品	-	横4.0	幅2.0	厚さ0.7	a:ロクロ成形 系切り痕 I縁部を棒状のもので内側に捻り曲げている b:微渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 F耳付掘
25-201			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.4)	(5.4)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 黑 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 F灯明皿
25-202			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(7.2)	(6.0)	1.5	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡褐色 e:良好
25-203			磁器	青磁 蓮瓣文碗	I縁部部分	-	-	(3.5)	b:灰白色 黑色粒 精良堅板 d:緑色半透明 織物や厚い L山本分 類 II-2c
25-204			磁器	青磁 刻花文碗	底部	-	4.2	(1.7)	b:灰白色 黑色粒 精良堅板 d:緑色半透明 施釉や厚い 気泡有 り 高台のみ施釉 L内面見込みに幾何文様花文 山本編年 II-c
25-205			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	(5.8)	1.4	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:赤褐色 e:良好
25-206			土製品	瓦盤用品	-	横9.1	幅5.6	厚さ2.5	a:黑色處理 b:灰白色 白色粒 小石粒 粗土 L永福寺二期 (13世紀 中) と同様
25-207		289	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(13.6)	(7.2)	2.8	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) b:微渺 雲母 黒色粒 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 c:淡褐色 e:良好
25-208			土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(12.2)	7.8	3.1	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e: 良好
25-209			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(4.8)	1.2	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) b:微渺 雲母 黒色粒 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 c:淡褐色 e:良好
25-210			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(6.8)	(3.8)	2.4	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微渺 雲母 良土 c:淡褐色 e:良好 F全体に黒付着 バレット か?
25-211			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.8)	(3.6)	2.1	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 白色粒 良土 c:橙色 e:良好
25-212			陶器	常滑 壺	I縁部部分 片	(7.6)	-	(3.6)	a:粘土練成上昇成形 c:暗灰色 長石粒 石英粒 c:暗灰色 灰褐色 の降灰 e:良好 F横帶幅0.8cm 中山編年6a ~ 6b 5型式
25-213			陶器	常滑 壺	I縁部部分 片	-	-	(5.4)	a:粘土練成上昇成形 c:灰褐色 微渺 長石粒 石英粒 小石粒 c:灰 色 I縁部内面にごく少量の灰褐色の降灰 e:良好 F内面減 中山編年5型式
25-214			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(8.0)	(6.0)	1.7	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微 渺 雲母 泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 F灯明皿 (燐光有)
25-215			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(5.4)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:やがい
25-216			磁器	青磁 蓮瓣文碗	I縁部部分 片	-	-	(2.8)	b:灰褐色 精良堅板 d:暗黃褐色 半透明 織物薄い 気泡有り L山本 編年鑑泉堂青磁蓮瓣口2c類似
25-217			磁器	青磁 鉢	I縁部部分 片	-	-	(2.6)	b:灰白色 黑色粒 精良堅板 d:青褐色 不透明 施釉厚い 貫入有 り F被膜が認められる L山本編年鑑泉堂青磁鉢類似
25-218			磁器	青白磁 香炉	底部片	-	-	(2.0)	b:灰白色 黑色粒 精良堅板 d:青褐色 不透明 施釉薄い 貫入有り 内面一部崩落 E熟熱が認められる 篦跡認めか?
25-219		295	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(6.0)	(4.2)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好
25-220			木製品	荷物品	坪3.1	高1.8	孔径1.3	-	上面と下面に傷が付着 孔の内部及び側面は漆を塗っていない
25-221			土製品	ロクロ	1/3	(8.2)	(5.4)	1.7	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微 渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 良土 c:橙色 e:良好
25-222			陶器	常滑 片口鋸口壺	I縁部部分 片	-	-	(3.3)	a:粘土練成上昇成形 c:淡灰色 微渺 長石 石英粒 c:淡褐色 e:良好 F中野編年 5型式
25-223			磁器	青磁 蓮瓣文碗	小片	-	-	(2.7)	b:淡灰色 精良堅板 d:淡黃褐色 半透明 施釉薄い 気泡有り 貫入 有り L山本分類 3c
25-224			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/8	(13.1)	(7.4)	3.5	a:ロクロ成形 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 海 綿骨針 泥岩粒 良土 c:淡黃褐色 e:甘い
25-225			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(12.4)	(7.2)	4.0	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
25-226			土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	12.1	7.8	3.5	a:ロクロ成形 内底ナメ 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
25-227			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	(12.5)	(8.4)	3.8	a:ロクロ成形 内底ナメ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微渺 雲母 黒雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好

規 番号	出上 面	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			範囲内容
						上径	底径	器高	
26-228	4面	297	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.4)	(6.0)	4.4	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 淡黄灰色 c 良好
26-229				ロクロ かわらけ(大)	1/6	(12.0)	(5.6)	3.7	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 淡黄灰色 c 良好
26-230		土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/5	(12.4)	7.6	3.5		□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b 微 砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 淡黄灰色 c 良好 □やや甘い
26-231			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(12.3)	(6.4)	3.6	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b 微 砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 内面橙色-黄灰 色 c やや甘い
26-232		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	(11.8)	7.0	3.1	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b 微 砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 淡黄灰色 c 良好	
26-233			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(7.4)	(4.6)	1.6	□クロコ成形 外底回転系切り 板状圧痕 b 微 砂 雲母 小石粒 泥岩粒 精良土 c 淡黄灰色 c やや甘い
26-234		土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(7.4)	(5.4)	1.6	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 淡黄灰色 c や 甘い □外底部に粘土寸付着	
26-235			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.4)	(4.6)	1.7	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り b 微 砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 淡黄灰色 c 良好
26-236		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.0)	(5.2)	1.6	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 淡黄灰色 c や 甘い	
26-237			金属製 品	刀子+柄	長21.8	幅1.9	厚0.05 ~0.4		左鉄刀子 打孔 本製の柄が残存
26-238		木製品	黒漆碗	-	底6.2	高(3.5)	器壁 0.1~0.2	(内面) 朱後にによる拂の文様。(外面) 2面に所に朱漆による平行斜線あり。 上部破損のため文様の全体像は不明(拂の枝か?)	
26-239			木製品	籠打の丸	径3.8	長47		片面は取りおり、正円ではなく丸方形に近い。1面は銀組か 側縁部一部破損 後端部衣鉢一部剥離	
26-240		木製品	進函下駄	長21.3	幅9.3	厚1.5		前端部一部破損、僅かに前縫の一部剥離の剥離部→後端部一部破損	
26-241			木製品	進函下駄	長	最大幅 (30.2)	10.4		
26-242		木製品	進函下駄	長18.8	幅8.6	厚1.2		前縫一部欠損 横縫一カ所破損 中心部に近いところに鉄釘がうたれ ている	
27-243			土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(12.6)	6.8	4.3	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 金雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 橙色 c 良好
27-244		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	(12.2)	6.2	3.3	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 c やや甘 い □内面暗褐色灰褐色に変色	
27-245			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.4)	(6.8)	3.7	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 c 良好
27-246		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(11.0)	(6.2)	3.5	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精良土 c 橙色 c 良好	
27-247			土製品	ロクロ かわらけ(中)	3/4	(10.6)	6.0	3.2	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 金雲母 赤色粒 精良土 c 淡黄灰色 c 良好
27-248		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.8)	(7.2)	3.7	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c 内面淡黄褐色 外面灰褐色 c 良好	
27-249			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(12.0)	(7.8)	2.8	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c 黄 褐色 c 灰褐色 c 良好
27-250		土製品	ロクロ かわらけ(大)	4/5	(12.0)	7.2	3.3	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 黄 褐色 c や甘い	
27-251			土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	(12.0)	7.8	3.1	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 精良土 c 橙色 c 良好
27-252		土製品	ロクロ かわらけ(大)	略定形	12.0	6.8	3.5	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 精良土 c 橙色 c 良好	
27-253			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.0)	(5.8)	1.6	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 c 良好
27-254		土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(8.6)	(6.8)	1.5	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 c 良好	
27-255			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.8)	(6.0)	1.5	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 c 良好
27-256		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.8)	(5.8)	1.5	□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 c 良好	
27-257								□クロコ成形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b 微 砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c 橙色 c 良好	

固 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆積度	法量			範囲内容
						口径	底径	器高	
27-257	4面	遺構外	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(6.0)	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黒雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い
27-258			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.6	5.6	1.3	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
27-259			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(5.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好
27-260			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	(5.8)	1.7	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
27-261			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	5.6	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好
27-262			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.0)	(5.4)	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好 f:無熱
27-263			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	(5.8)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
27-264			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.2)	(5.6)	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
27-265			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.8)	(5.8)	2.2	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
27-266			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.8)	(4.8)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:やや甘い
27-267			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	(4.8)	1.7	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
27-268			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(7.4)	(4.4)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好
27-269			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	(4.6)	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:赤褐色 e:良好
27-270			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.4)	(5.4)	1.9	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:やや甘い
27-271			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(6.8)	(4.6)	2.0	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c:淡黄色 e:やや甘い f:も38 g:粘土似
27-272			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.0)	(5.8)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好
27-273			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.8)	6.2	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:やや甘い
27-274			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5	7.6	5.8	1.7	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色~灰黄色 e:やや甘い f:内底中央部ひび
27-275			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(7.6)	(4.6)	1.7	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霧母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
27-276			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.4)	4.8	1.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霾母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好
27-277			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(8.2)	(4.7)	1.4	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霾母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:燒きムラ有り
27-278			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(5.0)	1.3	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霾母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好
27-279			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.8)	(5.3)	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霾母 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好
27-280			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.8)	(5.0)	1.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霾母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:無熱
27-281			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.6)	(6.0)	1.8	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霾母 細色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:灰黄色 e:やや甘い
27-282			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	5.6	1.6	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霾母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c:淡黄色 e:良好 f:無熱
27-283			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.4)	(5.6)	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霾母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い
27-284			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(6.8)	5.0	1.5	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り 板状圧痕 b:微砂 霾母 黑雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:一部燒きムラ有り
27-285			土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.0	5.2	1.7	a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切り (右回転) 板状圧痕 b:微砂 霾母 細色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:やや甘い

器 番号	出土 場 所	遺構 番号	材質	種別	遺存度	法量			範囲内容
						上径	底径	器高	
27-286	4面 遺構 外	土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(6.8)	(5.0)	1.5		¤ 成形 ± 埋土 c 色調 ± 動調 e 残成土参考 ¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c 黄灰色 c やや甘い
27-287		土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.1	4.4	2.0		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c 橙色 c 良好
27-288		土製品	ロクロ かわらけ(小)	略定形	7.4	4.3	1.7		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c 黄灰色 c やや甘い
27-289		土製品	ロクロ かわらけ(極少)	1/3	(4.4)	(3.6)	0.9		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c 黄色 c 良好 f 一部焼けムラがある
27-290	土製品	ロクロ かわらけ(極少)	1/2	4.8	3.5	0.8		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 全表面 赤色粒 白色粒 粗土 c 淡黄褐色 c 良好	
27-291		土製品	ロクロ かわらけ(極少)	2/3	4.6	3.6	1.0		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c 淡黄褐色 c 良好
27-292		土製品	ロクロ かわらけ(極少)	1/3	(5.0)	(3.8)	1.0		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c 黄灰色 c やや甘い
27-293	土製品	ロクロ かわらけ(極少)	略定形	4.4	3.5	0.8		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c 黄灰色 c やや甘い	
27-294		土製品	ロクロ かわらけ(極少)	1/3	(4.2)	3.0	0.9		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c 黄褐色 c 良好
27-295	土製品	ロクロ かわらけ(極少)	1/3	(3.8)	(3.0)	0.8		¤ ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切り(右回転) 板状圧痕 bx 微妙 空母 赤色粒 白色粒 粗土 c 橙色 c 良好	
27-296		磁器	青磁 蓮瓣文鏡	附脚片	-	-	(3.4)		bx 白色 黑色粒 精良堅致 在灰绿色半透明 勒刷厚い E山本分類 Ⅲ類能登窓
27-297	磁器	青磁 折鉢	口縁部片	-	-	(2.0)		bx 灰白色 黑色粒 精良堅致 在灰绿色半透明 勒刷厚い 気泡有り 貫入有り E龍泉窓	
27-298		青磁 蓮弁文鏡	底部片	-	4.0	(1.9)		bx 灰白色 黑色粒 精良堅致 在灰绿色半透明 勒刷厚い 気泡有り 垂付きの部分細胞に変色 E山本分類 Ⅲ類能登窓	
27-299	磁器	青磁 器種不明	底部片	-	-	(1.2)		bx 灰白色 黑色粒 精良堅致 在灰绿色半透明 勒刷厚い 貫入有り E龍泉窓 有熱點	
27-300		白磁 合子の蓋	少片	-	-	(1.4)		¤ 文化一一部が剥かに残る bx 灰色 精良堅致 在灰白色透明 勒刷薄い 気泡有り	
27-301	磁器	青白磁 器種不明	少片	縦(1.9)	横(2.6)	厚(0.2)		¤ 壓押しし bx 灰白色 精良堅致 bx 青白色透明 勒刷薄い 気泡有り	
27-302		陶器	常滑 美	口縁部片	-	-	(7.9)	緑帯幅2.3	¤ 黏土練輪積み技法 bx 黑褐色 長石 石英 白色粒 c 喻褐色 止自然釉降灰 E中野編年6b型式か
27-303	陶器	常滑 美	口縁部片	-	-	(5.25)		bx 黑褐色 長石 石英 小石粒 c 喻茶褐色 c 良好 E中野編年6a型式か	
27-304		常滑 美	縁部片	-	-	(2.2)	緑帯幅2.1	bx 喻褐色 長石 白色粒 c 喻褐色 灰黄色の自然釉	
27-305	陶器	常滑 壺	胴部小片	-	-	(2.4)		bx 灰色 長石粒 白色粒 小石粒 c 喻褐色 止自然釉降灰 E胴部に一絆の違ね有り	
27-306		常滑 壺	底部小片	-	-	(2.4)		bx 黑褐色 長石 石英 黑色粒 白色粒 c 黑褐色	
27-307	陶器	常滑 片口縁1類	口縁~胴 部片	-	-	(8.0)		¤ 黏土練輪積み技法 外面 ヨコナデ bx 灰白色 長石 石英 小石粒 c 喻白色 c 良好	
27-308		常滑 片口縁1類	口縁部片	-	-	(6.9)		¤ 黏土練輪積み技法 内外面ヨコナデ bx 灰白色 石英 小石粒 c 喻白色 内外輪廻付着	
27-309	陶器	常滑 片口縁1類	口縁部片	-	-	(4.8)		bx 灰白色 微妙 色白粒 白色粒 黑色粒 石英 c 灰白色 E底地不明	
27-310		常滑 片口縁1類	底部片	-	(14.0)	(5.8)		¤ 黏土練輪積み技法 貼り付け高台 底部脇ケズリ 体部ヨコナデ bx 灰白色 長石 石英 白色粒 c 喻白色 c 自然釉降灰 灰黄色	
27-311	陶器	常滑 片口縁1類	口縁部片	-	-	(4.0)		bx 灰白色 長石 石英 白色粒 c 喻灰色 c 自然釉降灰 灰黄色	
27-312		土製品	山茶碗 墨	口縁部小 片	-	-	(3.2)		bx 灰白色 黑色粒少 白色粒多 石英少 c 灰白色 c 自然釉降灰 c 良好質 E南部系
27-313	土製品	山茶碗	口縁部片	-	-	(2.0)		bx 灰白色 黑色粒少 白色粒多 石英少 c 灰白色 c 自然釉降灰 c 良好 E南部系	
27-314		土製品	山茶碗	底部片	-	(6.0)	(1.4)		¤ 外底あたり痕 貼り付け高台 bx 灰白色 長石 石英 白色粒 c 灰白色 c 良好 E南部系 外底部に剥離痕
27-315	陶器	瀬戸 洗	口縁部片	-	-	(5.7)		bx 灰白色 白色粒 真土 在灰褐色付けがけ bx 灰綠色 貫入有り c 良好 E瀬戸窓編年前	
28-316		土器質火鉢	口縁部片	-	-	(6.1)		bx 喻灰色 空母 白色粒 小石粒 c 喻灰色 空母下に穿孔有り 河野分類 I C類似	
28-317	土器質火鉢	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(5.9)		bx 黑灰色 微妙 空母 黑空母 白色粒 海綿骨針 小石粒 粗土 c 喻褐色 E口縁部下に貫通しない穿孔有り (ふさがれていらる) E河野編年 I B類	

固 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆存度	法量			範囲内容
						口径	底径	器高	
28-318	4面	遺構 外	土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(4.4)	a:成形 b:胎土 c:色調 在軋調 c:焼成上備考 a:口縁部コナデ 内底斜めナデ b:微細 雪母 赤色粒 白色粒 泥岩粒 やや粗土 c:暗赤色 e:良好 b:被熱か 空孔有り 河野分類 I-B型
28-319			土製品	土器質火鉢	口縁部片	-	-	(4.4)	a:内外面コナデ b:微細 雪母 黒雲母 小石粒 やや粗土 c:灰黄色 e:河野分類 I-C型 暗付着 空孔有り
28-320			土製品	かわらけ質 火鉢か	口縁小片	-	-	(4.5)	b:微細 雪母 赤色粒 良土 c:淡黄灰色 e:良好 e:河野分類 II類か
28-321			土製品	擦りかわらけ	底部片	径 4.6	-	厚 0.7	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微細 雪母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い 上半部底面を擦っている
28-322			土製品	かわらけ質 不明品		-	-	2.1	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 やや粗土 c:微細 e:良好 e:底部端から裏面に立ち上がる
28-323			土製品	不明品		長 4.5	-	厚 1.4	a:手で捏ねた後有り b:微細 雪母 黑雲母 赤色粒 やや粗土 c:赤褐色一部黒色 上半で削った丸があり 貫通していない
28-324			陶器	擦り常滑		横 3.0	縦 3.5	厚さ 1.0	b:黄灰色 長石 石英 小石粒 c:灰色 一層降灰
28-325			土製品	用途不明品		横 2.2	縦 2.3	厚さ 0.6	b:微細 雪母 黑雲母 金雲母 赤色粒 白色粒 c:全面摩擦
28-326			土製品	平瓦		横 8.1	縦 9.9	厚 1.8	a:凸面タキ目不明 (横のナデにより消えている) 凸面舟目一部残る 端部のクリナケ消えている b:暗灰色 雪母 白色粒 小石粒 良土 c:暗灰色 水縁模写 I期と同等
28-327			石製品	礫石		長 (8.8)	幅 5.0	厚 3.2	c:明灰黄色 中底灰 塗抹か
28-328			石製品	礫石		長 (5.2)	幅 (3.0)	厚 (3.5)	在中底 天草 3面を使用
28-329			陶器			直径 2.3	内孔 0.6	重さ 2.8g	在土和型實
28-330			本製品	部材		縦 30.7	横 7.8	穴? 径 2.8 深 1.8	在正面中心部一部破損
28-331			木製品	木箸		長 21.3	幅 0.6	厚 0.5	在上端部若干破損
28-332			木製品	木箸		長 22.5	幅 0.7	厚 0.8	在上端部破損
28-333			木製品	ヘラ状加工品		長 19.5	幅 1.6	厚 0.5 ~ 1.0	在上端部断面六角形、下端部断面や丸みを帯びた三角形
29-334			構成 土	土製品 かわらけ (大)	略定形	13.1	8.4	3.8	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微細 雪母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:やや甘い
29-335			土製品	クロロ かわらけ (大)	1/2 (11.7)	7.6	3.7		a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡橙色
29-336			土製品	クロロ	1/3 (11.7)	7.0	3.4		a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:赤橙色
29-337			土製品	クロロ かわらけ (小)	1/4 (7.6)	(5.6)	2.0		a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色
29-338			土製品	クロロ かわらけ (小)	1/4 (7.6)	(5.4)	1.6		a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好
29-339			土製品	クロロ かわらけ (小)	3/4 (7.6)	4.6	2.3		a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り (右回転) 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:やや甘い
29-340			木製品	漆器 皿		9.0	6.0	1.4	在黒漆で無文、底部平坦
29-341			木製品	黒漆椀		-	底 6.6	高 (0.8)	外側朱漆による文様有り 外面底部付近に朱漆が少量付着
29-342			木製品	黒漆椀		11.8.6	-	高 1.4	器壁 0.4 器壁無し
30-1	5面	300	土製品	クロロ かわらけ (小)	1/2	8.2	5.6	1.8	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 少量 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色 e:良好
30-2			土製品	クロロ かわらけ (小)	1/2	(8.0)	(5.4)	1.7	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c:灰黄色
30-3			土製品	クロロ かわらけ (小)	1/3	(7.8)	(5.2)	1.8	a:クロア形 内底ナデ (口縁付迄までナデ上げ) 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色
30-4			土製品	クロロ かわらけ (小)	2/3	7.6	5.5	1.6	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良好 一部焼きムラがある e:良好
30-5			土製品	クロロ かわらけ (小)	1/3	(7.5)	(5.6)	1.6	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c:灰黄色 - 棕色 e:良好 f:不明黒か
30-6			土製品	クロロ かわらけ (小)	2/3	(8.2)	(5.2)	2.2	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良好 一部焼きムラがある e:良好 f:明瞭か
30-7			土製品	クロロ かわらけ (小)	3/4	7.9	5.9	1.5	a:クロア形 内底ナデ 外底回転系切り 板状圧痕 b:微細 雪母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良好 c:灰黄色 e:やや甘い

器 番号	出土 場 所	遺構 番号	材質	種別	遺存状	法量			範囲内容
						上径	底径	器高	
30-8	5面	300	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3 (7.8)	5.4	1.8		□成形 □始土 □色調 □地調 □焼成 □備考
									a ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 黒雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-9			土製品	ロクロ かわらけ(小)	4/5 (7.6)	5.4	1.7		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母
30-10			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2 (8.2)	5.2	1.6		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 粗土 □橙色 □暗灰色 □良好
30-11			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4 (7.8)	5.0	1.8		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-12			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4 (7.8)	6.0	1.5		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 黑雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-13			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3 (7.7)	5.8	1.7		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-14			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2 (7.6)	5.4	1.6		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □赤色 □良好 一部燒き跡がある
30-15			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3 (7.3)	5.4	1.9		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-16			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3 (8.1)	5.8	1.8		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 □灰黄色 □暗灰色 □良好
30-17			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3 (7.8)	5.8	1.9		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □暗灰色 □良好
30-18			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3 (7.7)	5.4	1.6		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-19			土製品	ロクロ かわらけ(小)	略定期	7.6	5.0	1.7	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □橙色 □良好
30-20			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3 (7.2)	5.6	1.6		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □暗黄色 □良好
30-21			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4 (8.1)	5.2	1.7		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-22			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3 (7.8)	5.4	1.5		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-23			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/6 (7.6)	5.6	1.7		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 □灰黄色 □良好
30-24			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2 (7.6)	5.6	1.7		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 □灰黄色 □良好
30-25			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4 (7.2)	5.0	1.3		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 □灰黄色 □良好
30-26			木製品	箸か	長 19.3	幅 0.6	厚 0.6		□表面加工 断面は△内形
30-27			木製品	不明木製品	長	幅 (1.9)			□板状に加工
30-28			木製品	器種不明	長 (6.1)	幅 6.3	厚 1.0		□上端部取り加工 下部破損 約文字の先か
30-29			木製品	部材	長	幅 8.0	厚 0.5		□板状部材 上端部 下端部ともに破損
30-30			木製品	部材	長	幅 6.2	厚 0.9		□板状部材 上端部 下端部ともに破損
30-31	重構 外	董製品	鉢		直徑 2.4	内孔 0.6	重さ 3.1	E 至道元寶(行書)	
31-1	3面 以下	陶器	瓶 水注	注口のみ 欠損	-	8.5	20.5		□底部付り付け高台 水注の注ぎ口1も貼り付けている □灰白色 良土 □灰白色 □黑色 □暗灰色 □半透明 □物語薄い □良好
31-2	7~8 面相当	土製品	手づくね かわらけ(小)	3/4	8.4		1.9		□手づくね成形 内底ナデ 外底部指頭痕 板状圧痕 一段ナ面取り風 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 小石粒 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
31-3		陶器	渥美 壺	胴部片	-	-	(3.8)		□黏土経輪積み技法 内面ヨコナデ □灰色 粘粒 良土 □灰色 □茶色 □緑色自然粘輪厚 □良好
31-4		陶器	渥美 壺	胴部片	-	-	(6.2)		□粘土経輪積み技法 内面 うっすら指頭痕 スタンプ有 □灰色 白色粒 小石粒 やや粗土 □灰色 □良好 E 印押記印 内面スズ付着
31-5	4面 以上	近代I	土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.7	4.9	2.2	□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 □灰黄色 □良好
31-6			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2 (7.5)	5.0	1.8		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 黑雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
31-7			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4 (7.7)	5.2	1.7		□ロクロ成形 内底ナデ 外底回転条切り(右回転) 板状圧痕 □微妙 宝母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 □灰黄色 □良好
31-8		磁器	青磁 刻花文瓶	体部小片	横 (4.2)	縦 (2.8)	-		□ I 期
31-9		磁器	青磁 刻花文瓶	体部小片	横 (4.2)	縦 (2.6)	-		□ II 期
31-10		磁器	青磁 蓮弁文瓶	体部小片	横 (2.6)	縦 (2.5)	-		□ III 期

図 番号	出土 面	遺構 番号	材質	種別	堆存度	法量			
						口径	底径	器高	
31-11	4面 以上	近代1	磁器	青磁 窓文碗	口縁部小片	-	-	(2.8)	a:成形 b:胎土 c:色調 d:施釉 e:焼成 f:備考 b:灰白色 黒色絞 精良堅緻 d:淡緑色半透明 施釉厚い 気泡有り 上山本編年 麗京窯系青磁窓Ⅱ類
31-12			磁器	青磁 無文碗	口縁部片	(10.0)	-	(2.45)	
31-13			磁器	青磁 器種不明	口縁部小片	-	-	(1.6)	E:Ⅲ類
31-14			磁器	青磁 窓文折線鉢	底部片	-	-	(2.3)	b:灰白色 黑色絞 精良堅緻 d:淡緑色半透明 施釉厚い 気泡有り 登付き露胎 上山本編年 麗京窯系环皿類 双魚文 高台基盤の堀日が茶色に発色
31-15	5面 以上	近代1	磁器	青磁 無文环	底部片	-	-	(2.6)	b:灰白色 黑色絞 精良堅緻 d:淡緑色半透明 施釉厚い 気泡有り 上山本編年 麗京窯系环皿類 高台基盤の堀日が茶色に発色
31-16			磁器	青磁 器種不明	体部小片	縦(1.5) 横(2.8)	-	-	E:Ⅲ類
31-17			磁器	青白磁 水注付	小片	縦(3.0) 横(3.0)	-	-	b:白色 精良堅緻 d:淡水色半透明 施釉やや厚い 気泡有り 上被熱を受ける
31-18			磁器	白磁 器種不明	体部小片	縦(2.4) 横(3.9)	-	-	
31-19	6面 以上	近代1	白磁	四耳壺	耳部	-	横(3.1)	(1.4)	
31-20			磁器	青白磁 梅瓶	小片	縦(2.9) 横(2.8)	-	-	b:灰白色 精良堅緻 d:淡灰緑色半透明 施釉薄い 貫入有り 気泡有り E:溝書き文
31-21			陶器	窓戸	口縁部片	-	-	(5.5)	b:灰白色 精良土 d:灰黄色~灰緑色 施釉薄い 施釉ハケ垂り e:良好 F:藤沢編年前期か
31-22			陶器	窓戸	肩片	-	-	(4.2)	b:淡黄色 良土 d:淡緑色 施釉薄い e:良好 F:藤沢編年前期~中期か
31-23	7面 以上	近代2	陶器	窓戸	口縁部	-	-	(2.1)	
31-24			陶器	窓戸	底部片	-	-	(2.2)	a:底部脇ヨコナデ 外底回転糸切り痕 b:灰白色 良土 d:薄い灰緑色 施釉薄い e:良好
31-25			陶器	器種不明	底部片	-	(5.4)	(1.3)	a:底部脇ヨコナデ 外底回転糸切り痕 b:灰白色 良土 d:緑灰色 施釉薄い 内面施釉ハケ垂り e:良好 F:内底に重ね焼きの痕跡有り
31-26			陶器	深美 甕	肩部片	-	-	(3.4)	
31-27	8面 以上	近代1	陶器	常滑 甕	体部小片	縦(4.6) 横(4.4)	-	-	E:スタンプ有
31-28			陶器	常滑 甕	体部小片	縦(6.3) 横(8.1)	-	-	E:スタンプ有
31-29			陶器	常滑 片口跡 1類	口縁部小片	-	-	(3.1 ~ 3.3)	
31-30			陶器	常滑 片口跡 1類	口縁部片	-	-	(2.0)	a:粘土組輪積み技法 b:灰色 長石 石英 小石粒 c:灰褐色 d:自然釉 開灰 灰色
31-31	9面 以上	近代1	陶器	常滑 片口跡 1類	口縁部片	-	-	(5.3)	a:粘土組輪積み技法 b:暗灰色 長石 石英 小石粒 c:暗褐色 e:良好 F:上部脇部に指彫痕
31-32			陶器	常滑 片口跡 1類	底部小片	-	-	(3.1)	a:粘土組輪積み技法 内側ヨコナデ 底部脇へラケズリ F:底部離れ跡 b:暗灰色 長石 石英 小石粒 c:外側橙色 内面暗黄褐色 e:良好
31-33			鉄製品	刃		長(3.8) 幅1.0 厚0.8 - 0.5			F:断面四角形に鍛造
31-34			近代2 石製品	碁石か	完形	長2.0 幅1.9 厚0.7			c:黄灰白色
31-35			石製品	石製品		長2.0 幅1.7 厚0.7			d:白碁石であろうが、色は付着せず

表2 中世遺構計測表（単位：m）

遺構番号	遺構種類	上端最大幅	上端レベル	底面レベル	遺構番号	遺構種類	上端最大幅	上端レベル	底面レベル	遺構番号	遺構種類	上端最大幅	上端レベル	底面レベル
1面														
1 ピット	0.36	7.39	7.11		77 土坑	7.28	1.08	7.14		157 ピット	0.43	7.05	6.89	
2 ピット	0.33	7.37	7.22		81 ピット	0.44	7.16	6.93		158 ピット	0.37	7.04	6.65	
3 ピット	0.30	7.40	7.22		82 ピット	0.48	7.16	6.86		159 ピット	0.47	7.04	6.85	
4 ピット	0.46	7.41	7.02		83 ピット	0.55	7.16	6.47		160 ピット	0.58	7.01	6.84	
5 ピット	0.80	7.39	6.91		84 ピット	0.45	7.14	6.67		161 ピット	0.62	6.98	6.73	
6 ピット	0.45	7.39	6.95		85 ピット	0.58	7.14	6.75		162 ピット	0.45	6.88	6.46	
7 ピット	0.55	7.40	7.00		86 ピット	0.44	7.14	6.70		163 ピット	0.40	6.78	6.63	
8 ピット	0.45	7.39	7.07		87 ピット	0.35	7.06	6.62		164 ピット	0.30	6.79	6.40	
9 ピット	0.36	7.41	7.11		88 ピット	0.40	7.09	6.57		165 ピット	0.45	6.90	6.64	
10 ピット	0.46	7.42	7.11		89 ピット	0.36	7.06	6.78		166 ピット	0.30	6.94	6.70	
11 ピット	0.32	7.42	7.02		90 ピット	0.36	7.06	6.78		167 ピット	0.45	6.92	6.78	
12 ピット	0.36	7.40	7.16		91 ピット	0.57	7.07	6.75		168 ピット	0.30	6.97	6.61	
13 ピット	0.39	7.37	6.87		92 ピット	0.47	7.08	6.82		169 ピット	0.27	6.98	6.61	
14 ピット	0.48	7.40	7.14		93 ピット	0.38	7.07	6.41		170 土坑	1.05	7.10	6.36	
15 ピット	0.46	7.41	7.09		94 ピット	0.71	7.15	6.93		171 ピット	0.53	7.05	6.69	
16 ピット	0.21	7.41	7.20		95 ピット	0.25	7.17	6.88		172 ピット	0.35	7.04	6.61	
17 ピット	0.46	7.38	6.88		96 ピット	0.48	7.09	6.75		173 ピット	0.48	7.05	6.78	
18 ピット	0.48	7.42	7.06		97 ピット	0.67	7.15	6.72		174 ピット	0.30	7.04	6.83	
19 ピット	0.62	7.41	7.21		98 ピット	0.45	7.14	6.72		175 ピット	0.65	7.05	6.80	
20 ピット	0.42	7.40	7.29		99 ピット	0.40	7.11	6.94		176 ピット	0.65	7.05	6.80	
21 ピット	0.46	7.39	7.21		100 ピット	0.44	7.10	6.63		177 ピット	0.37	6.92	6.81	
22 ピット	0.54	7.35	7.06		101 ピット	0.35	7.07	6.76		178 ピット	0.35	7.03	6.85	
23 ピット	0.30	7.37	7.20		102 ピット	0.39	7.09	6.79		179 ピット	0.25	6.99	6.88	
24 ピット	0.34	7.41	7.06		103 ピット	0.46	7.12	6.75		180 ピット	0.42	6.96	6.73	
25 ピット	0.36	7.39	7.26		104 ピット	0.49	7.11	6.75		181 ピット	0.36	6.94	6.72	
26 ピット	0.42	7.35	7.35		105 ピット	0.53	7.03	6.77		182 ピット	0.41	6.78	6.69	
27 ピット	0.41	7.39	7.08		106 ピット	0.53	7.05	6.67		183 ピット	0.45	7.05	6.72	
28 ピット	0.46	7.39	7.28		107 ピット	0.46	7.08	7.00		184 ピット	0.47	6.92	6.78	
29 ピット	0.46	7.41	7.15		108 ピット	0.58	7.07	6.63		185 ピット	0.43	7.08	6.94	
30 ピット	0.41	7.41	7.13		109 ピット	0.36	7.05	6.75		186 ピット	0.54	7.12	6.87	
31 ピット	0.40	7.40	7.09		110 ピット	0.56	7.06	6.76		187 ピット	0.42	7.06	6.84	
32 ピット	0.40	7.41	7.14		111 ピット	0.47	7.07	6.75		188 ピット	0.55	7.14	6.83	
33 ピット	0.41	7.38	7.26		112 ピット	0.37	7.04	6.95		189 ピット	0.60	7.09	6.78	
34 ピット	0.41	7.38	7.15		113 ピット	0.51	7.02	6.58		190 ピット	0.37	7.15	6.90	
35 ピット	0.37	7.37	7.06		114 ピット	0.35	7.00	6.61		191 ピット	0.30	7.14	6.96	
36 ピット	0.40	7.36	6.97		115 ピット	0.38	6.79	6.86		192 ピット	0.39	7.12	6.96	
37 ピット	0.35	7.37	7.00		116 ピット	0.63	7.04	6.65		193 ピット	0.48	7.14	6.98	
38 ピット	0.39	7.36	7.00		117 ピット	0.14	7.04	6.98		194 ピット	0.42	7.15	6.93	
39 ピット	0.48	7.40	6.89		118 ピット	0.30	7.12	7.01		195 ピット	0.38	7.11	6.82	
40 ピット	0.50	7.26	7.01		119 ピット	0.50	7.12	6.89		196 ピット	0.32	7.04	6.77	
41 ピット	0.45	7.34	7.21		120 ピット	0.53	7.10	6.61		197 ピット	0.45	7.03	6.89	
42 ピット	0.45	7.39	7.10		121 ピット	0.47	6.99	6.69		198 ピット	0.42	6.87	6.72	
43 ピット	0.45	7.32	6.93		122 ピット	0.52	7.08	6.82		199 土坑	0.42	6.99	6.88	
44 ピット	0.38	7.39	7.21		123 ピット	0.43	7.07	6.82		200 土坑	0.20	7.05	6.95	
45 ピット	0.39	7.42	7.26		124 ピット	0.65	7.08	6.85		204 土坑	0.75	7.03	6.82	
46 ピット	0.48	7.40	7.17		125 ピット	0.35	6.99	6.76		205 土坑	1.22	6.99	6.77	
47 ピット	0.32	7.38	7.25		126 ピット	0.45	7.03	6.64		206 土坑	1.15	7.06	6.75	
48 ピット	0.41	7.40	7.19		127 ピット	0.40	6.98	6.21		207 墓		7.03	6.89	
49 ピット	0.49	7.40	7.11		128 ピット	0.67	7.08	6.72		4面				
50 ピット	0.45	7.38	7.16		129 ピット	0.44	7.03	6.91		208 ピット	0.30	6.87	6.70	
51 ピット	0.30	7.37	7.04		130 ピット	0.60	7.05	6.68		209 ピット	0.22	6.87	6.73	
52 ピット	0.27	7.40	7.32		131 ピット	0.50	7.03	6.91		210 ピット	0.45	6.89	6.78	
53 土坑	1.05	7.36	7.32		132 ピット	0.55	7.03	6.66		211 ピット	0.56	6.88	6.76	
54 土坑	0.82	7.40	7.24		133 ピット	0.50	7.04	6.74		212 ピット	0.47	6.84	6.68	
55 土坑	0.68	7.39	7.21		134 ピット	0.68	7.01	6.72		213 ピット	0.43	6.86	6.73	
2面														
56 ピット	0.37	7.29	7.06		135 ピット	0.52	7.04	6.73		214 ピット	0.50	6.86	6.77	
57 ピット	0.35	7.25	7.01		136 ピット	0.61	7.01	6.82		215 ピット	0.35	6.80	6.69	
58 ピット	0.43	7.34	7.06		137 ピット	0.55	7.00	6.62		216 ピット	0.60	6.87	6.71	
59 ピット	0.44	7.31	7.05		138 ピット	0.50	7.02	6.87		217 ピット	0.68	6.88	6.72	
60 ピット	0.52	7.30	7.03		139 ピット	0.57	7.02	6.69		218 ピット	0.76	6.41	6.67	
61 ピット	0.72	7.26	6.9		140 ピット	0.53	7.02	6.85		219 ピット	0.77	6.35		
62 ピット	0.59	7.31	7.03		141 ピット	0.44	6.97	6.72		220 ピット	0.74	6.32	6.73	
63 ピット	0.46	7.32	7.17		142 ピット	0.46	7.02	6.65		221 ピット	0.78	6.32	6.73	
64 ピット	0.42	7.3	6.91		143 ピット	0.52	6.99	6.58		222 ピット	0.78	6.22	6.73	
65 ピット	0.59	7.31	7.09		144 ピット	0.40	6.95	6.56		223 ピット	0.76	6.35	6.49	
66 ピット	0.60	7.36	6.91		145 ピット	0.44	6.98	6.78		224 ピット	0.77	6.42	6.56	
67 ピット	0.62	7.32	6.78		146 ピット	0.34	6.96	6.70		225 ピット	0.79	6.50	6.63	
68 ピット	0.52	7.3	6.93		147 ピット	0.42	6.98	6.72		226 ピット	0.81	6.63	6.77	
69 ピット	1.23	7.35	7.11		148 ピット	0.38	6.93	6.72		227 ピット	0.81	6.63	6.77	
70 ピット	0.69	7.26	6.91		149 ピット	0.42	6.98	6.57		228 ピット	0.79	6.67	6.55	
71 ピット	0.45	7.32	7.01		150 ピット	0.46	7.01	6.74		229 ピット	0.79	6.67	6.55	
72 ピット	0.43	7.21	7.09		151 ピット	0.50	6.99	6.62		230 ピット	0.79	6.73	6.49	
73 ピット	0.41	7.26	6.91		152 ピット	0.71	7.04	6.63		231 ピット	0.77	6.53	6.65	
74 ピット	0.34	7.32	7.17		153 ピット	0.57	7.04	6.52		232 ピット	0.78	6.62	6.46	
75 土坑	1.30	7.3	7.18		154 ピット	0.43	7.02	6.90		233 ピット	0.77	6.47	6.69	
76 土坑	1.12	7.32	7.18		155 ピット	0.50	7.03	6.90		234 ピット	0.77	6.40	6.62	
5面														
77 ピット	0.57	6.68	6.53		156 ピット	1.00	7.05			235 ピット	0.62	6.50		
上端														
78 ピット	0.82	6.50	6.60		157 ピット	0.43	7.05	6.89		236 ピット	0.62	6.50		
79 ピット	0.86	6.30	6.66		158 ピット	0.37	7.04	6.65		237 ピット	0.62	6.50		
80 ピット	2.10	6.88	6.58		159 ピット	0.47	7.04	6.85		238 ピット	0.62	6.50		
81 ピット	1.75	6.83	6.67		160 ピット	0.58	7.01	6.84		239 ピット	0.62	6.50		
82 ピット	1.42	6.81	6.69		161 ピット	0.62	6.98	6.73		240 ピット	0.60	6.48		
83 ピット	2.13	6.79	6.57		162 ピット	0.45	6.88	6.46		241 ピット	0.63	6.57		
84 ピット	1.55	6.70	6.62		163 ピット	0.47	6.88	6.47		242 ピット	0.63	6.57		
85 ピット	1.05	6.88	6.65		164 ピット	0.40	6.88	6.46		243 ピット	0.64	6.57		
86 ピット	0.90	6.87	6.73		165 ピット	0.47	6.88	6.47		244 ピット	0.64	6.57		
87 ピット	1.14	6.77	6.60		166 ピット	0.50	6.88	6.45		245 ピット	0.67	6.57		
88 ピット	0.79	6.88	6.63		167 ピット	0.40	6.88	6.46		246 ピット	0.67	6.57		
89 ピット	1.25	6.89												

第7節 近代遺構

1.近代に属する遺構

調査区のほぼ中央から東側にかけて、中世第3面まで掘りこむ大型の方形の遺構が検出された。出土遺物より近代に属する遺構であり、異なる3基の遺構が検出された。

遺構1(図32)

調査区の東側ほぼ全域にわたる。北側がやや突出するがほぼ方形を呈する土坑。規模は東西7.1m、南北5.1mを測るが、南側は調査区外に伸びており全体の正確な規模は不明である。検出レベルは海拔7.5m、底面レベルは海拔6.8m。西南には大型の松杭が3本検出された。また北側の壁沿いには長大な木材が2本並べて置かれ、木材に隣接して大型の曲げ物が検出されている。本来地下蔵のような構造物であった可能性があるが、詳細は不明。遺構の埋土は5層に分かれ(図3)、第3層、第5層には木片、竹片や茎状有機物が大量に混入し、特に第5層に顕著である。第2層には泥岩塊が多く含まれ、沈み込み防止のために整地をしたが、その後第2層を掘りこみ、第1層の上面に泥岩塊を敷き詰めることで再度整地をしたものと想定される。第3層、第5層中からは大量の陶磁器、ガラス製品、木製品、石製品、金属製品が放棄された状態で検出した。それぞれの遺物は多くは破碎し、ゴミとして放棄されたと考えられる。遺構西南部から東南部にかけて特にまとめて出土している(写真図版5-3~7)。

遺構2(図32)

調査区東北側に位置する。遺構1に隣接しており、大部分は調査区外にあたるため正確な規模等は不明だが、おそらく方形を呈すると考えられる。検出範囲の規模は東西4.1m、南北1.0m。検出レベルは海拔7.5m、底面レベルは海拔7.05m。近代に属する遺物が出土し、遺構1の出土遺物と接合するものがあるため、同時期の遺構と判断できる。

遺構3(図32、33)

遺構1の東南部上層から木組みの構造物が検出された。原位置を保っているかどうかは不明瞭であるが、遺構1とは別の構造物と捉えておく。木枠の規模は70×40cm。検出レベルは海拔7.38m。背の低い箱状の木組が地面上に置かれており、東側には側板が見られない。東側には木組に接して陶製のタイルが2枚並べられた状態で検出された(写真図版4-7)

第8節 近代遺構出土遺物

遺構1、遺構2より大量の遺物が検出された。遺構1の第3層、第5層からの出土がほとんどであり、上述のとおり遺構1、2間で接合する遺物が見られ、両遺構間の時期差はなく同時廃棄と考えられる。また遺構2の出土遺物は少量であるので、近代遺構出土遺物として一括で取り扱う。以下素材、器種別に出土遺物について述べる。

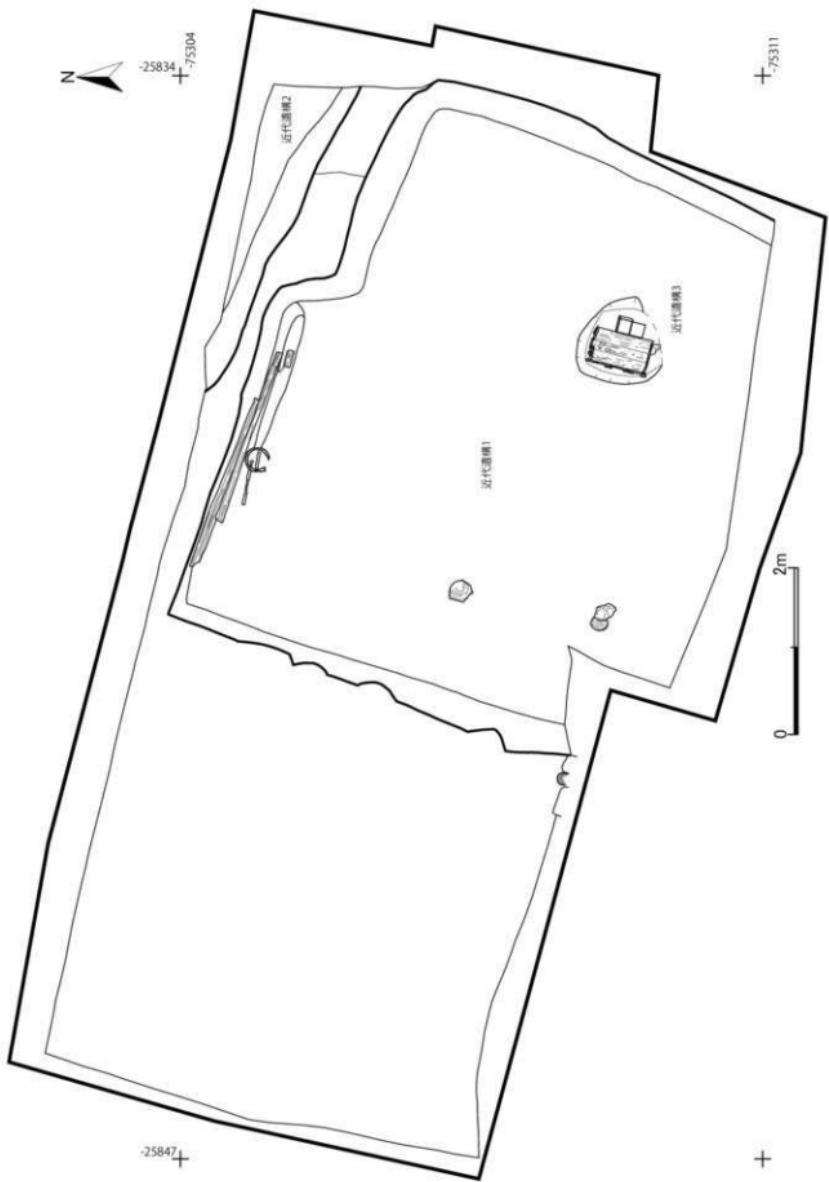


图32 近代遺構全体図

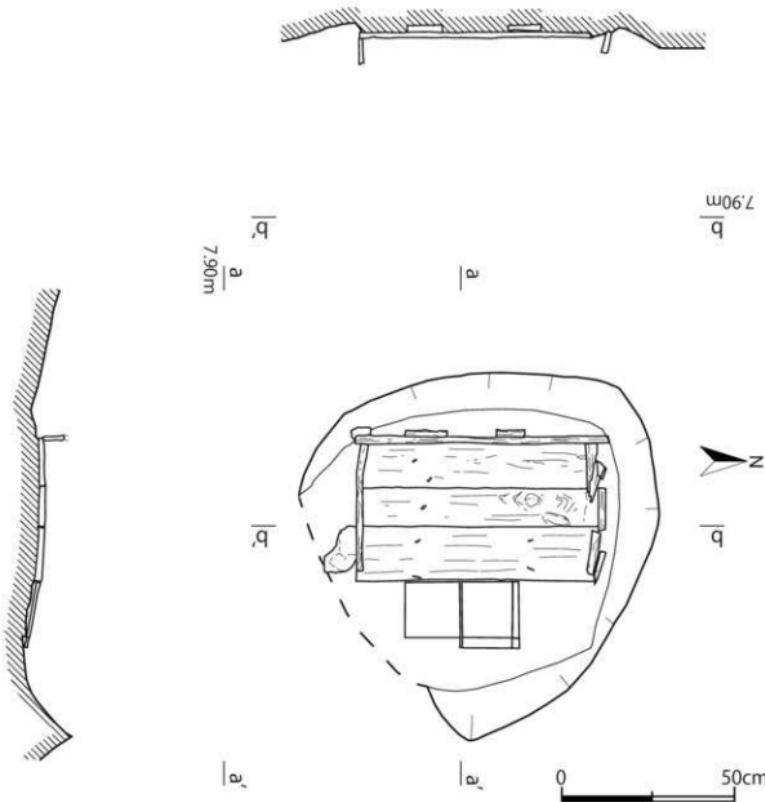


図33 木組み遺構平面・断面図

8-1. 磁器(図34~71)

碗(図34~37)

磁器碗は復元可能なものが69点で、型紙摺絵は5点、銅版転写が30点、手描きその他が34点となり、銅版転写の比率が多い。碗の蓋は18点であるが、碗身との対応は明確ではない。型紙ではなく、銅版転写が7点、手描きその他が9点、色絵2点である。

1~5は型紙摺絵による絵付け。1~3は丸碗、4~5は平碗である。1と2には見込みに松竹梅の文様あり。その他はなし。

6~15、16~35は銅版転写による絵付け。6は丸碗、ほかは平碗である。6~16は酸化コバルトによる銅版転写のみの絵付け、17~30は銅版転写による文様に加えてコバルトのダミによる彩色を一部施して

いる。

27、31は青、茶2色の組み合わせ、28～30は青、緑2色の組み合わせにより文様をほどこす。

29、30は同一文様でセットでの購入品と考えられる。32～33は口縁部に吹墨により彩色。33は銅版の文様は緑色を用いてほどこす。34は完全な透明ではなく、やや緑がかった釉である。35はコバルトによる銅版転写の模様に、青、緑2色のダミによる彩色が見られる。

36～58は手描きにより文様をほどこす碗類。36～52は平碗である。48～51は同一文様でセット購入品。53は丸碗、54はやや内碗する平碗で、高台外面は面取りをしている。56は濃藍色の顔料で施文し、吹き墨を施す。57、58は同一文様で、手書きとともにイッチンを施す。59～61は外面下半に抉りを入れている。63～66は同一文様であり、外面には褐色釉、内面にはコバルトにより蕨のモチーフを描く。

子供茶碗(図37、38)

不確定なものもあるが、子供用の茶碗と考えられる小型の碗が出土している。67は色絵による。東京都首谷遺跡や小田原城筋達橋II地点などで同様のモチーフの碗が出土している。68、69は褐色釉にて絵付け。首谷遺跡に類例がある。71はイッチンと色絵により文様を施す。72～75は多色の釉と金彩により文様をほどこし、「肥」の文字が金彩によって施されている。4点以上のセット品である。76～79は詳細は異なるが類似したモチーフ、施文法である。小田原城三の丸堀、雜司ヶ谷遺跡に類例が見られる。81、82は赤・緑2色で植物を描く。肥前系。83は緑色釉の地の上に金彩で文様をほどこしている。

碗蓋類(図38、39)

84～101は碗の蓋類。84～89は銅版転写による。88、89は同一文様、同一銘。90は吹き墨。96、97は手描きに加えイッchinを使用。100～101は色絵。

小杯(図40、41)

小杯で復元可能なものは55点出土している。銅版転写23点、手描きその他が9点、クロム青磁が21点である。102～123は銅版転写で釉の色調、モチーフともに多様。105、106と107、108はそれぞれ同一文様のセットと思われる。

124～131は手描きを基調とする。128は首野遺跡に類例が見られる。135～147、150～156はクロム青磁。135～147はほぼ同じモチーフの文様であり、セット品と思われる。150、151はややモチーフが異なる。152は胴部外面下半に抉りを入れる。153～156は胴部外面に飛び鉢。

湯呑(図42)

湯呑は23点。そのうち筒形は22点である。多くは高台見込みに銘が見られる。銅版転写が8点、手描きが10点、色絵が2点であり、銅版がやや多めである。

銅版、手描きとともに文様には多色を使用するものが多い。168、169は器形が違うが文様は題材、描き方が共通しており、セット品かと思われる。170～172は器形、文様、高台銘「香山」が共通し、やはりセット品である。174～175は色絵、179は小型の湯呑かと思われる器種。

盃類(図43、44)

盃の類である。181～194は祝杯。金泥を主体として店名などが描かれ、ほとんどは鎌倉のものである。「かど正」「三河屋本店」「松岡」などは店の位置もほぼ確定可能である。196、197は軍杯、195、198～207は特にそうした性格のない一般の盃である。208～211は小型の紅猪口か。208～210は金泥で三巴文が描かれる。210は内面に紅が厚く残存している。212～215は小型の筒形盃か。213は金泥で萬文を施す。

皿類(図45～50)

皿類は小型の平面真円形の丸皿が多い。復元し図示可能なものは73点、うち型紙摺絵が7点、銅版転写が38点、手書きその他が30点である。216～222は型紙摺絵によるもので、221以外は酸化コバルトによる。216と217、218と219、220と221はそれぞれ同じモチーフであり、セット品。220、221は静岡県のいせう陶器店跡出土品に同様のものがある。222は大皿。223～266は銅版転写による。ほとんどは酸化コバルトによる絵付けであるが、緑色釉によるものや複数の顔料を使用したもの、ダミとの併用などみられる。237・238、249・250、251・252、257・258、261・262はそれぞれ同じモチーフ。246・247は大皿。

267～279は手書きその他による絵付け。バリエーションはさまざまである。270は多色顔料で吹墨により朝顔を描く。272、273は横長形でイッチンを施す。272には見込みに「魚かん」の文字がある。坂の下にある同名店のもの可能性がある。

276～279は色絵皿。いずれも薄くて作りがよい。277は焼継ぎによる補修品か。底部に文字が見られるが判読できない。

鉢類(図51～54)

食器の鉢類と考えられる個体は29点である。うち型紙摺絵は2点、銅版転写は8点、手書きその他は19点である。器形のバリエーションは様々。型紙摺絵の283、284は全体の器形が不明。287は幅広大型の鉢。281、282は井形の鉢で、285、286の蓋がそれぞれ対応する蓋付の鉢と思われる。288は外面に漢詩を書く。289は吹き墨により筆を描く。「深川製」の高台銘があり、肥前製。291～293は同一モチーフのセット品。297は補修の跡が見られる。302はイッチンを施す。304は小型鉢。305～309は色絵によるもの。肥前製が多いようである。305は破片のため全体の器形は不明であるが、深型の鉢かと思われる。

土瓶、急須、銚子(図55～59)

大型の水注器として、土瓶、急須、銚子がある。土瓶は12点で手書きによるもののみ。313は緑色釉の上にイッチンを施している。310、313は底部付近の露胎に炭化物が付着。321～323は乳白色半透明の釉の上に褐色釉などをかけ流して文様としている。316、322、323は身と蓋がセットで出土しているが他は対応関係が不明である。

急須は12点(324～335)。絵付けはすべて手書きによるもので、コバルト単色が多い。325はイッチンと多色顔料により文様を描く。「清水」の銘あり。334はイッチンと金彩を使用。

銚子は349と350の2点のみ出土している。いずれも銅版転写によるもの。

蓋は確実に組み合わせが明確なのは3点のみ。身との対応関係が不明なものが13点あり、径が小型のものが大多数で、すべて急須の蓋と思われる。銅版転写は336の1点のみで、他は手書きである。336と341は蓋内面の銘が同じ。346はイッchinを施す。

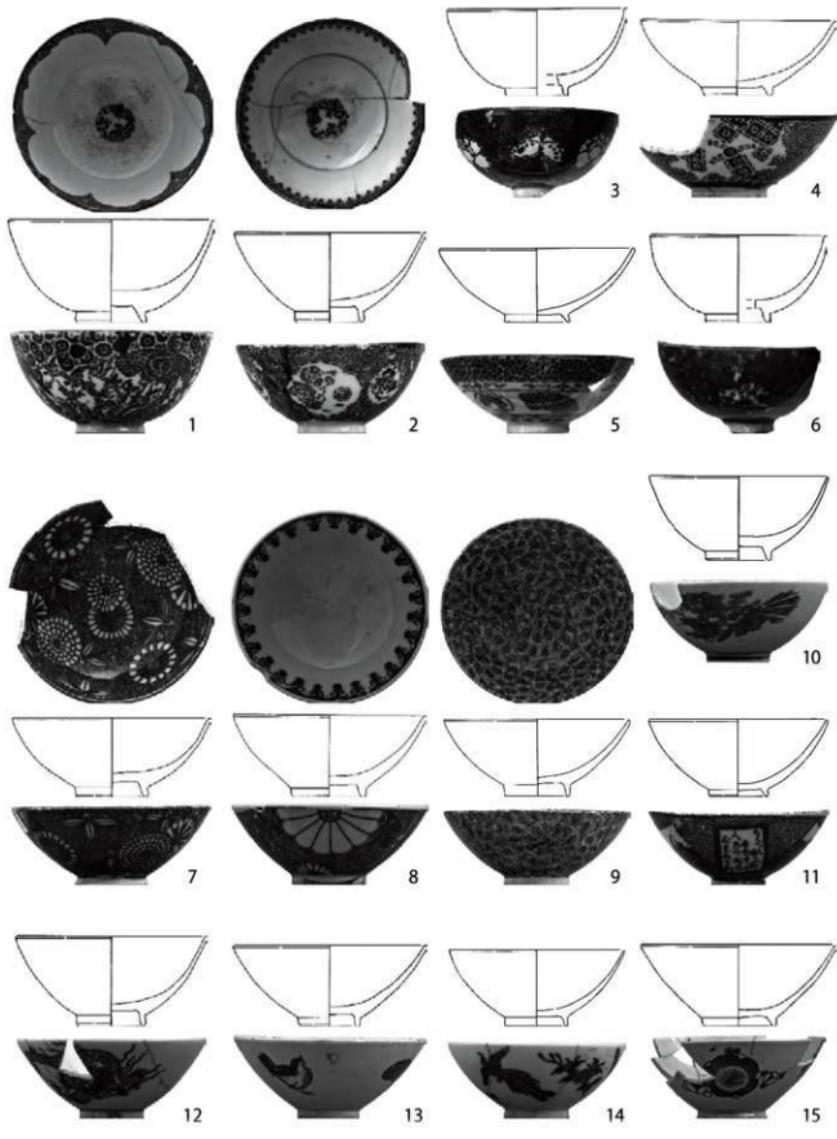


図34 近代遺構出土磁器碗(1)

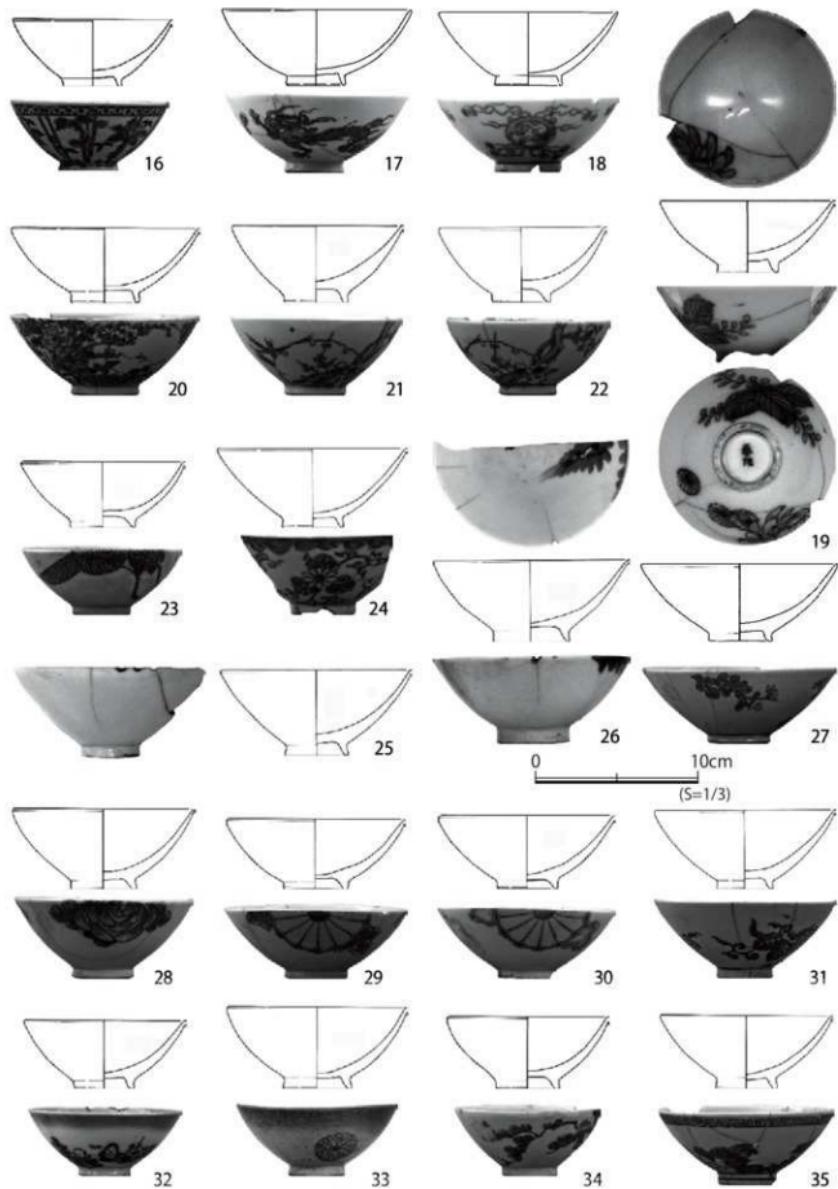


图35 近代遗构出土磁器碗(2)

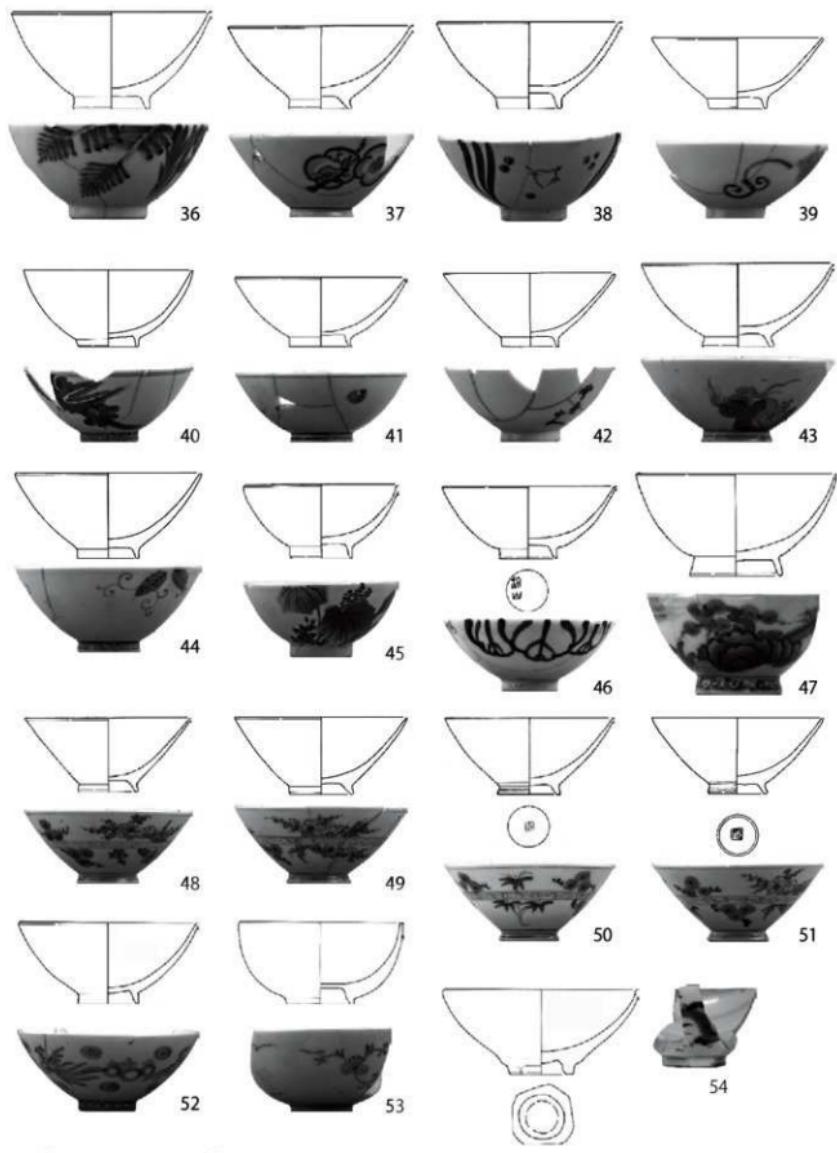


図36 近代遺構出土磁器碗 (3)

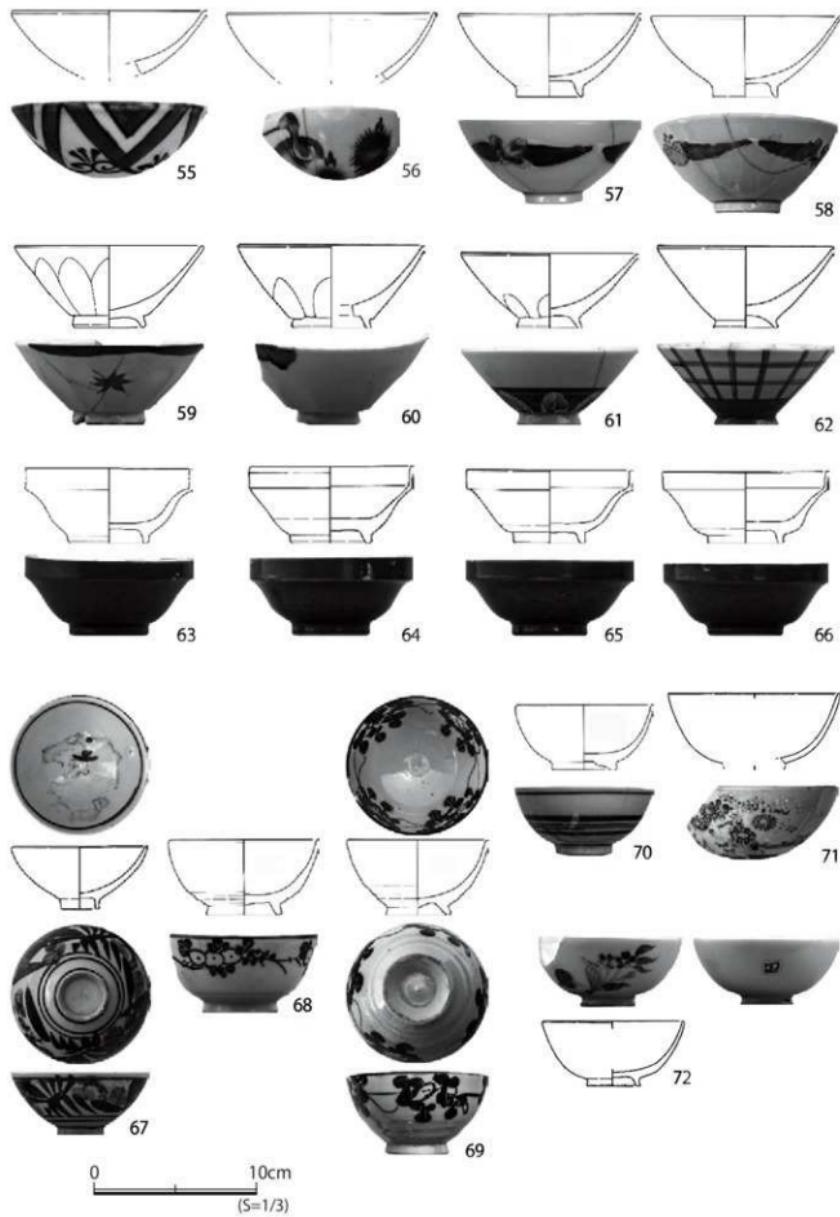


图37 近代遗构出土磁器碗(4)

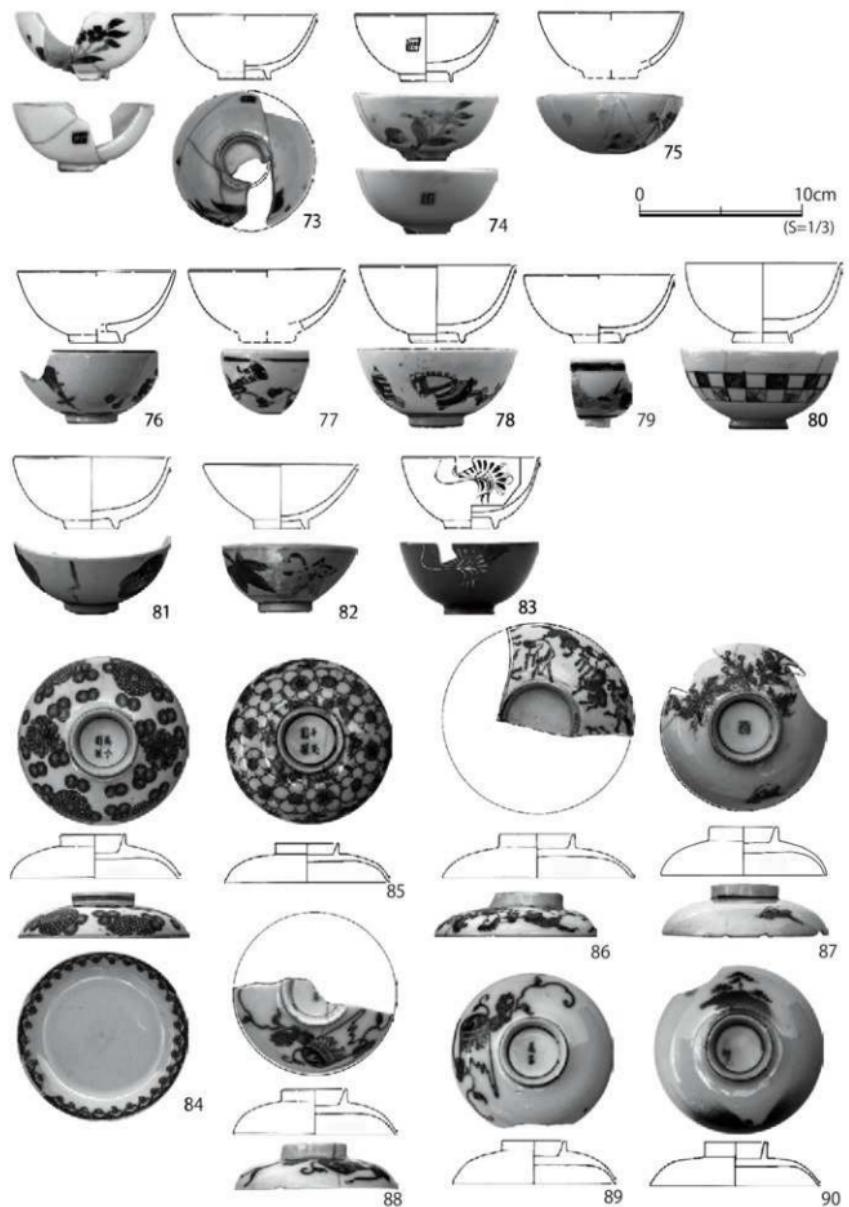


図38 近代遺構出土磁器碗(5)

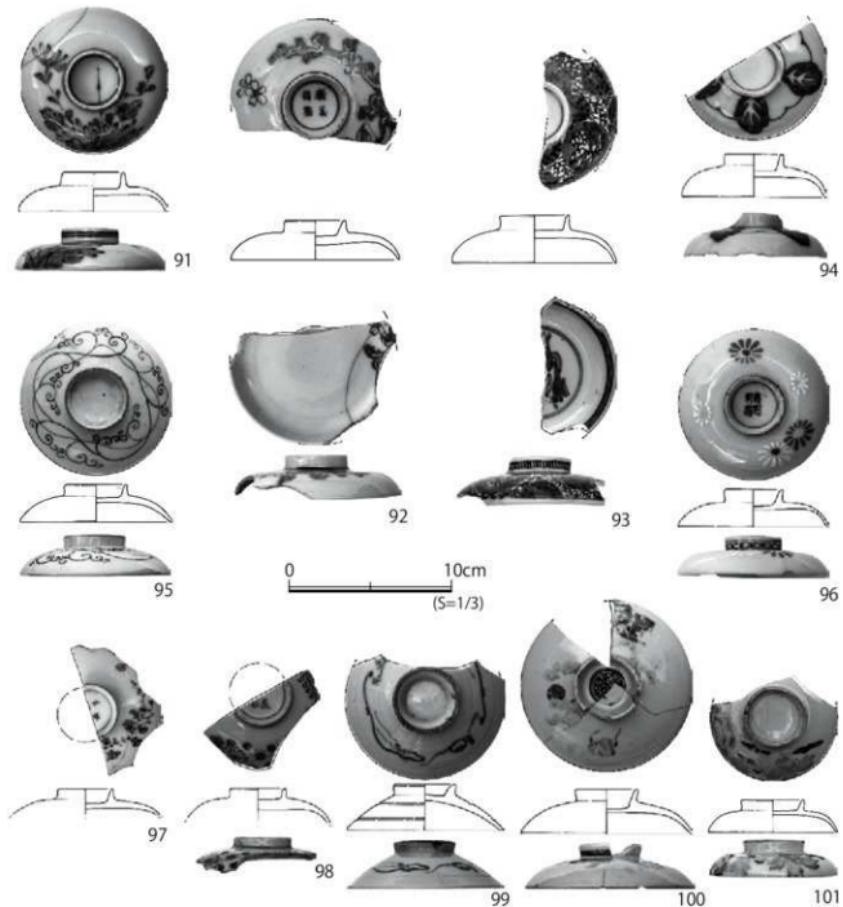


図39 近代遺構出土磁器碗蓋

段重(図59)

段重は円形、方形の2種類がある。確実なものは5点で、351～353は蓋、354、355が身である。身と蓋が対応するものは出土していない。絵付けは、型紙描絵1点(354)、銅版転写2点(351、355)、手描き2点(352、353)である。351は破碎してしまったが、焼継により補修して使用したものである。

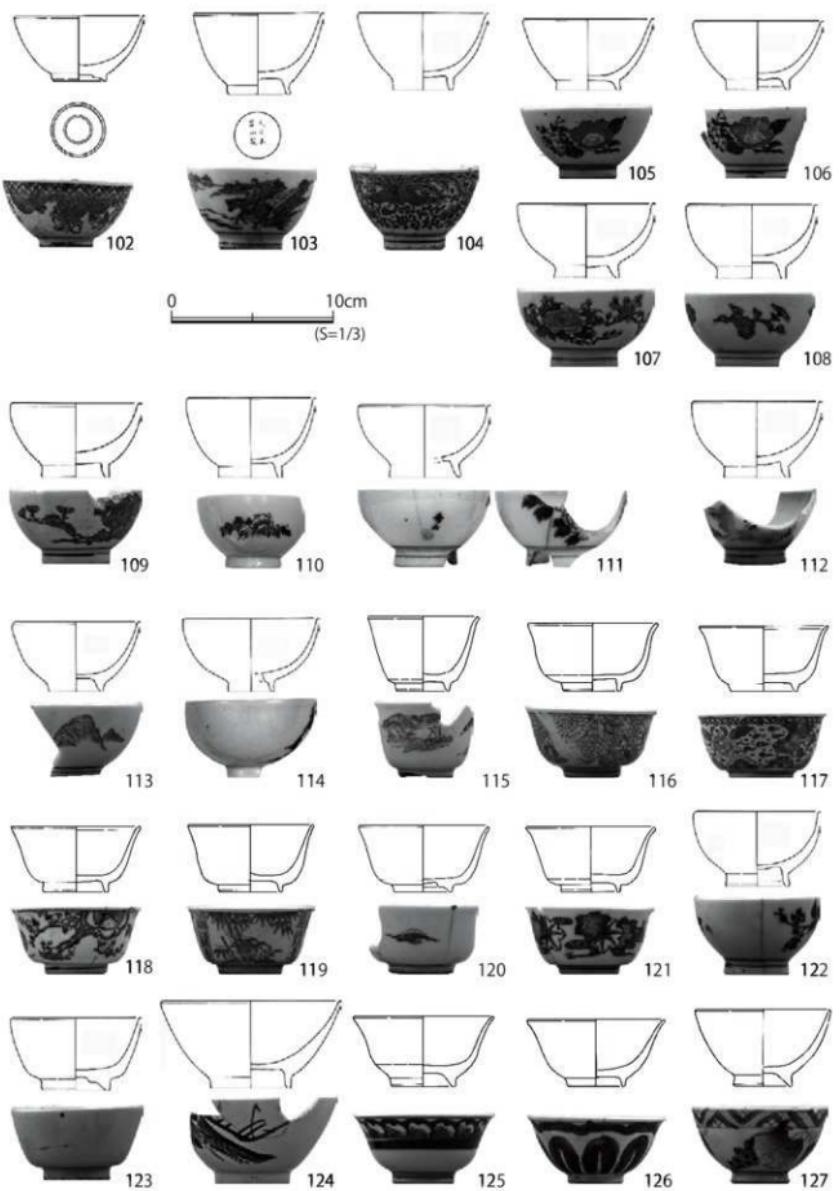


図40 近代造構出土磁器小杯(1)

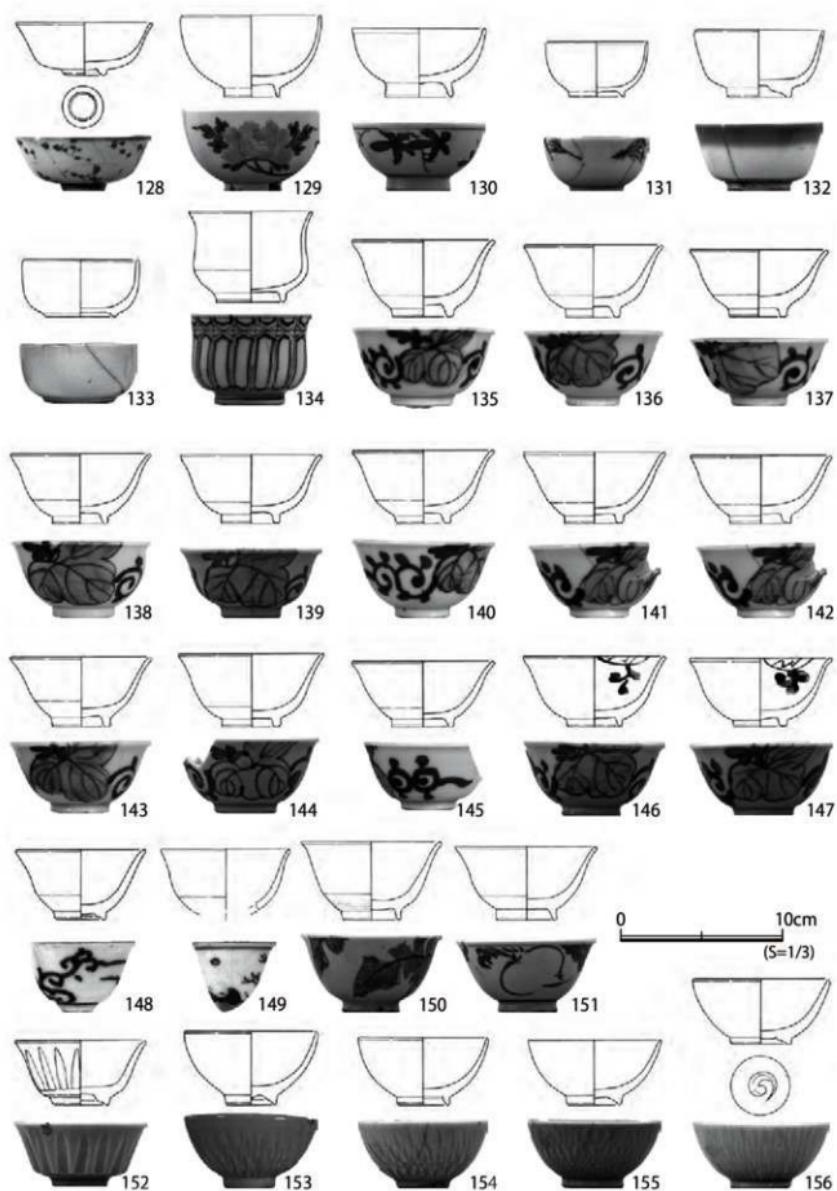


图41 近代遗構出土磁器小杯(2)

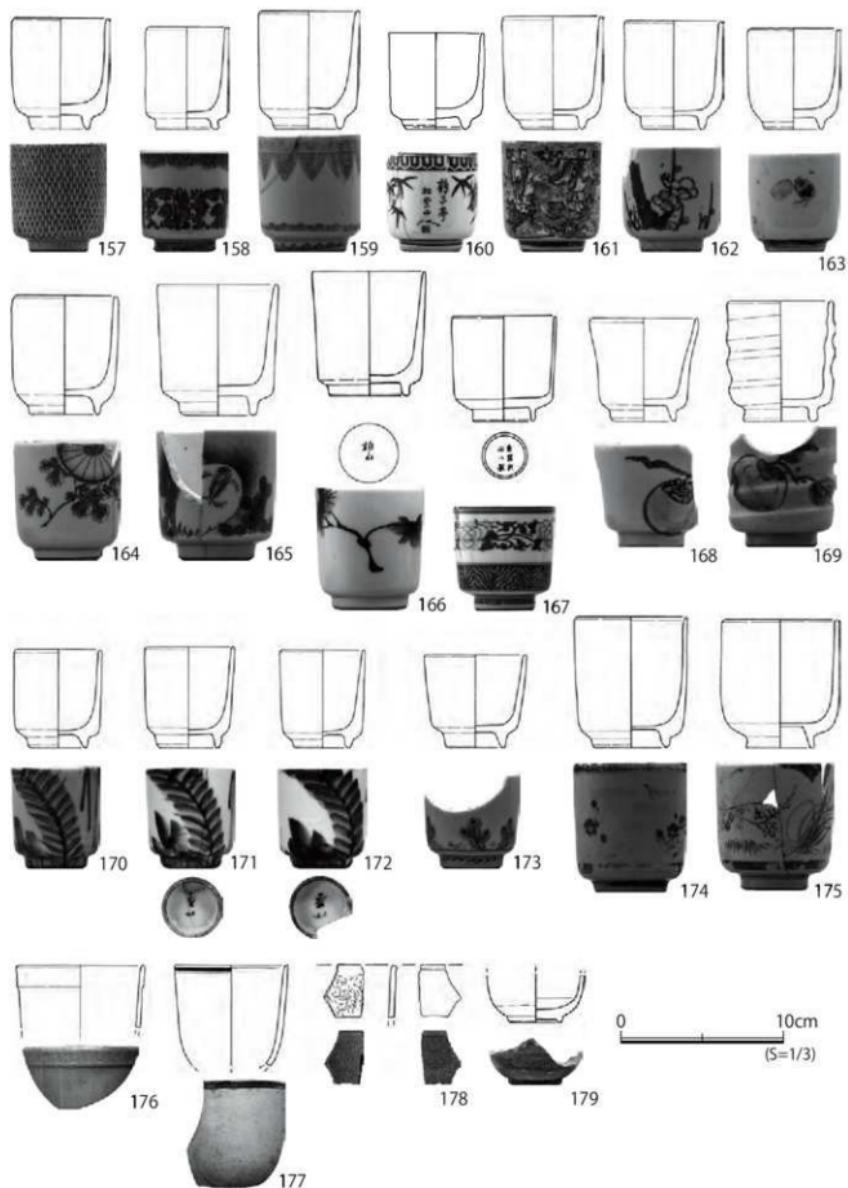


図42 近代遺構出土磁器筒形湯呑

水注類(図60)

小型の水注類。356～358は醤油差しの類である。いずれも銅版転写による絵付け。長方形の小型の水滴が2点(359、360)、いずれも銅版転写で頂部に小さな孔がある。361は円形の水滴で、手描きによる絵付け。

徳利類(図60～63)

磁器、陶器をまとめて述べる。磁器は20点で、御神酒徳利が4点、爛徳利が16点である。御神酒徳

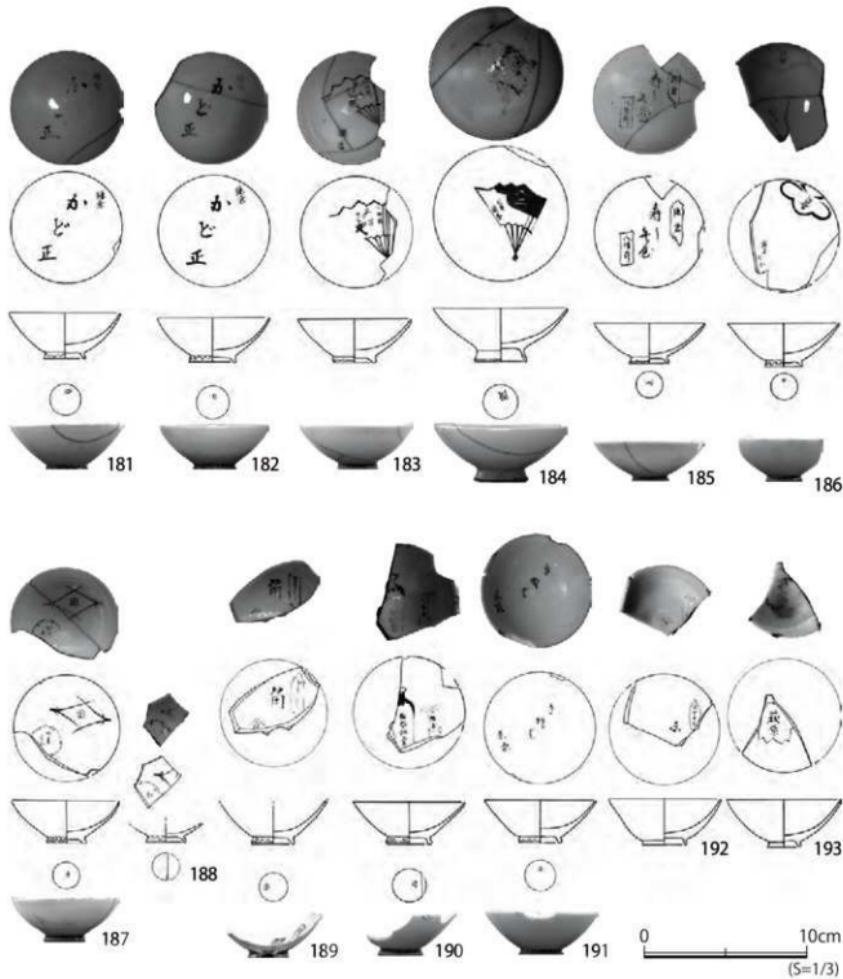


図43 近代遺構出土磁器盃(1)

利は銅版転写が1点(364)、瑠璃釉のみのものが1点(365)、上絵付けによる小型品(380、381)が2点である。

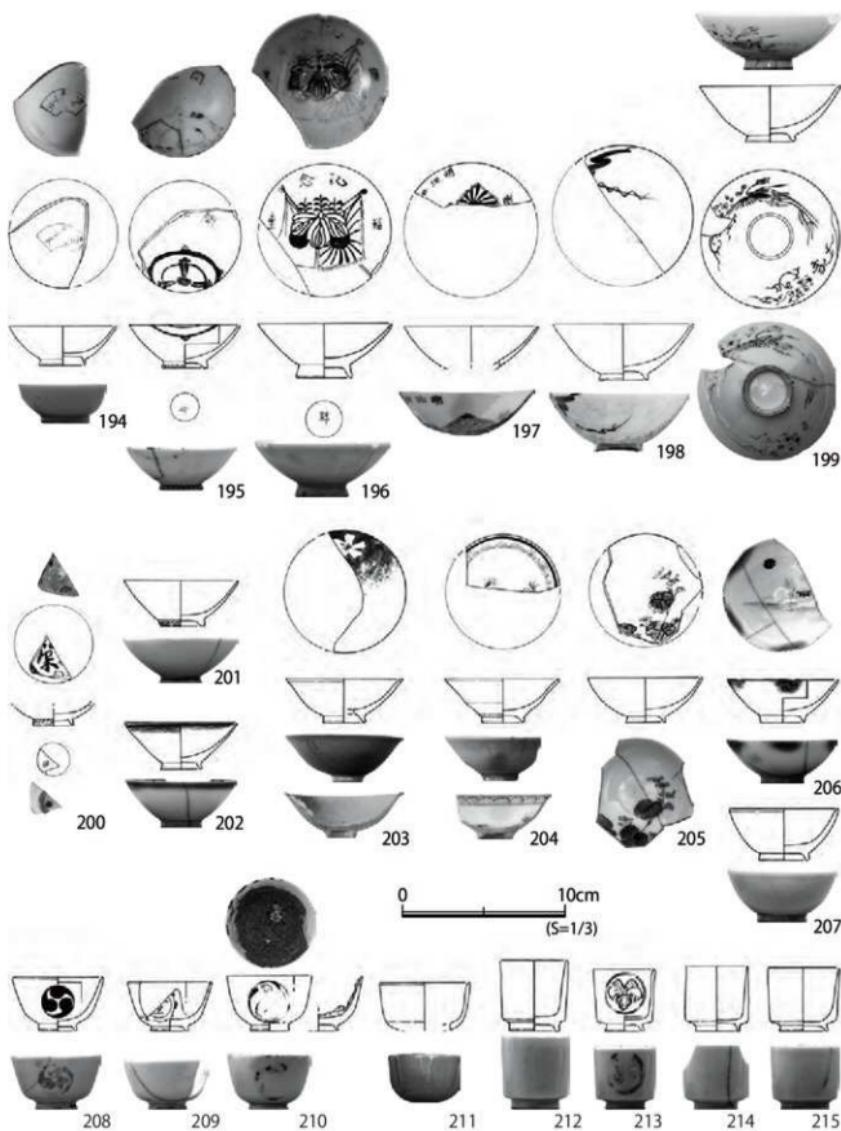


図44 近代遺構出土磁器盃(2)

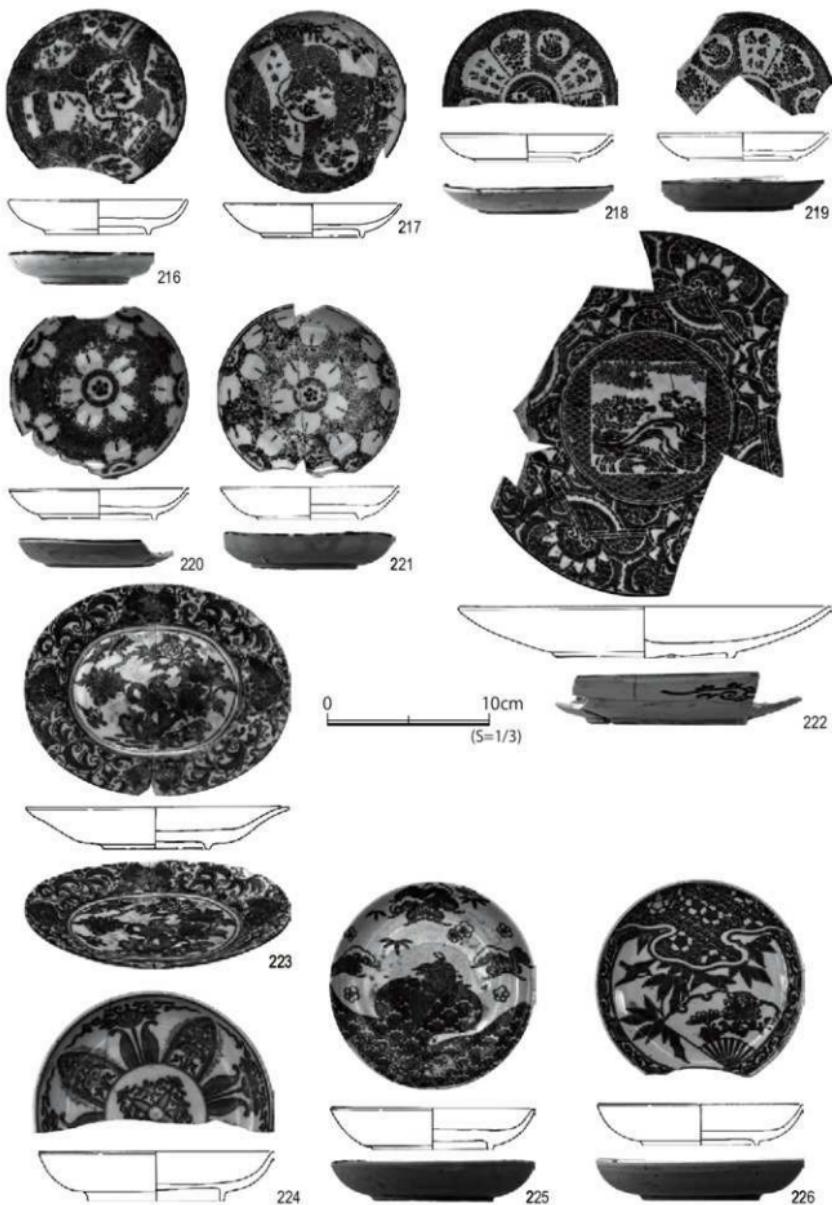


图45 近代遗构出土磁器皿(1)

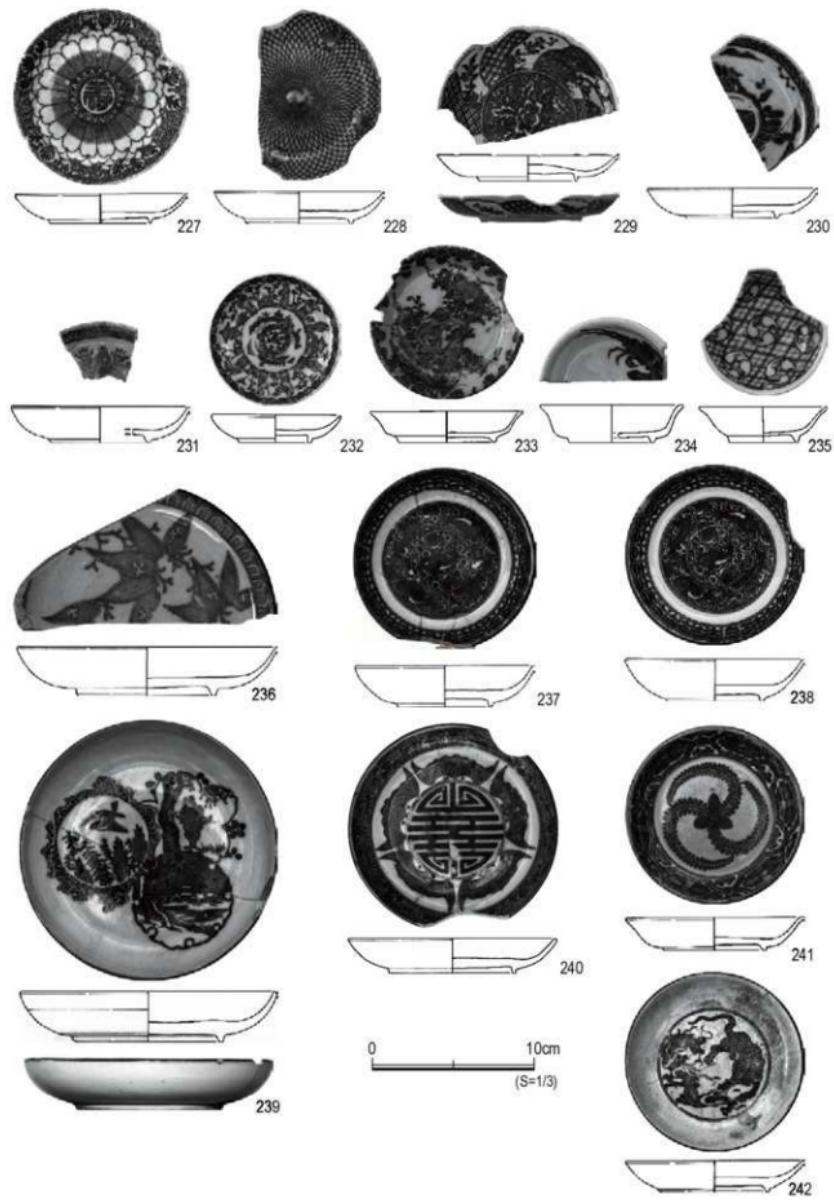


図46 近代遺構出土磁器皿(2)

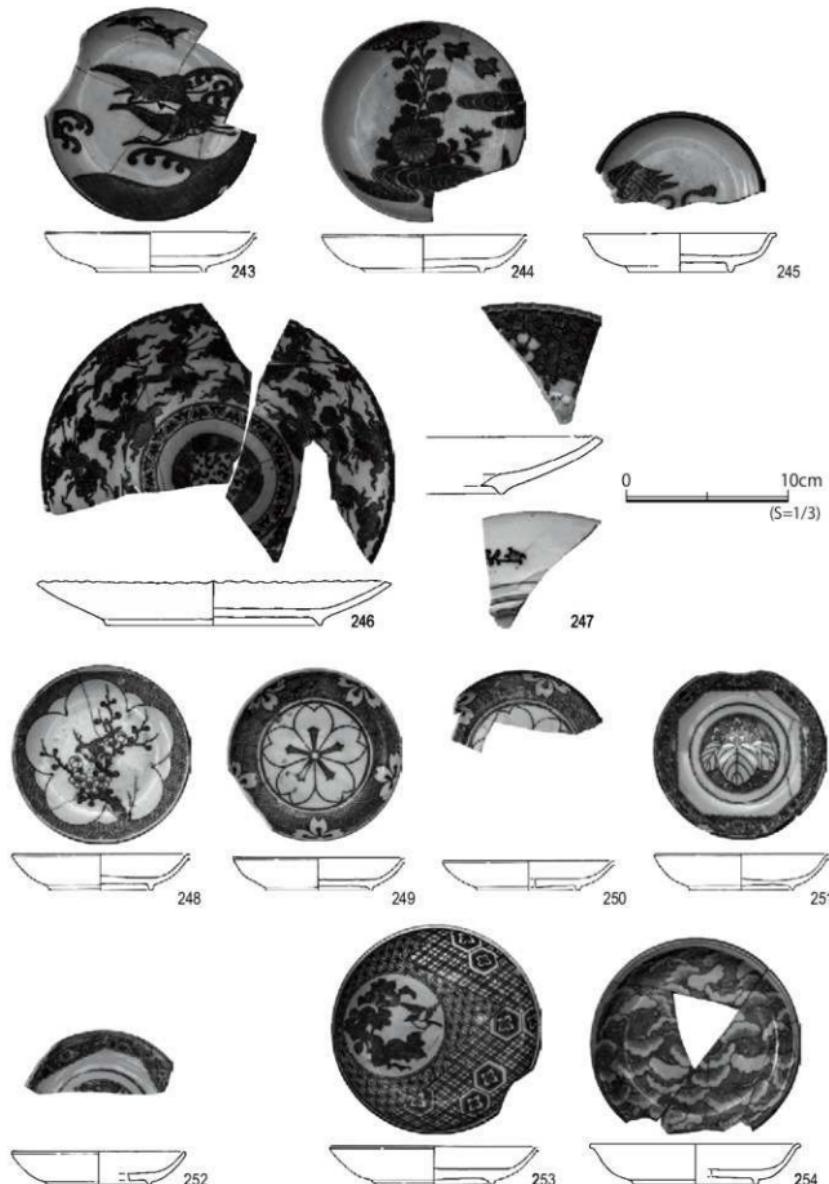
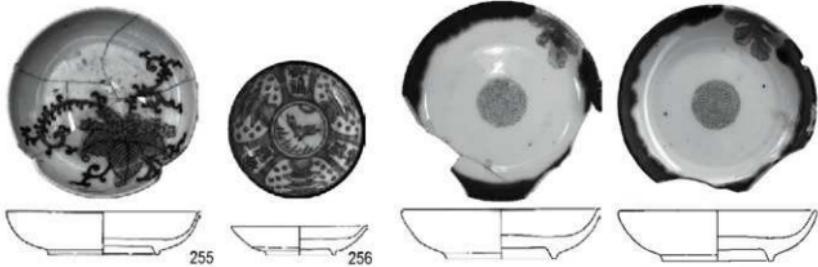


图47 近代遗构出土磁器皿(3)



0 10cm
(S=1/3)

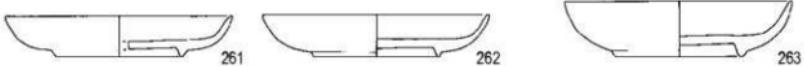


図48 近代遺構出土磁器皿(4)

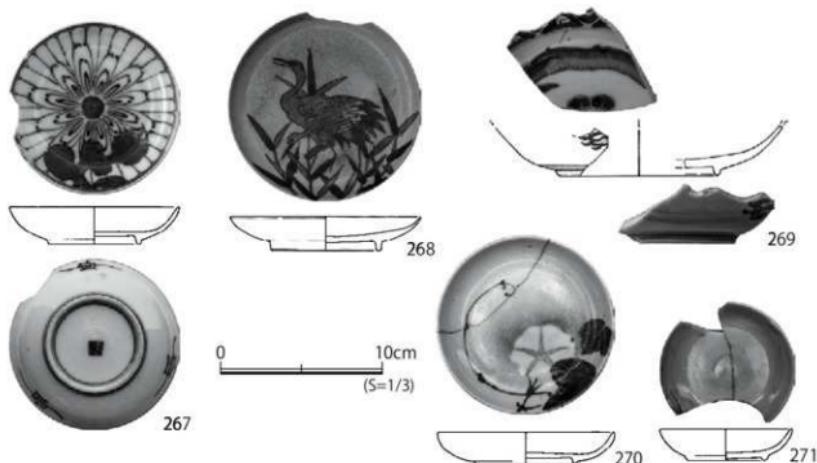


図49 近代遺構出土磁器皿(5)

燐徳利は銅版転写によるものが11点、手描きが3点、吹墨が1点である。370～372は同じモチーフのセツト品で、「相州藤澤大坂町陸軍御用大石酒店」の銘がある。モチーフはやや異なるが、369には「明治廿五年■有功賞 相州藤澤大坂町 陸軍御用大石酒店」の銘があり、この4点は藤澤にあった大石酒店からの購入品である。378は金彩による「長谷」の銘が確認でき、鎌倉の酒店のものだと思われるが、店名は不明である。

陶器の徳利はやや大振りのいわゆる貧乏徳利である(図62、63)。完形品が2点(382、386)で、いずれも「長谷舛富」の店名と屋号と思われる記号が描かれる。舛富は現存しないが、明治末には長谷にあった酒屋である。ほかにやや残りの良い破片が8点ある。383～385は同一店のものであろう。388は舛富か。387、389、390はそれぞれ店名と思われるが、判読できない。

洋食器類(図64)

洋食器と考えられる器が11点出土。皿が8点、小型の鉢1点、カップ2点である。392、393は刻文があり、西洋の製品かと思われる。393は高台見込みに窯印があるが、メーカーは不明。394は高台見込みに日本硬質陶器の銘あり。395～397は薄手で洋食器風の皿。399は小型の皿。400は薄手の無文の皿。398は鉢。401はティーカップ。402はマグカップ。

植木鉢(図65)

磁器製の植木鉢。全体を復元できる例はない。長胴形(404、407、408)と背の低いもの(403、405、406)の2種類か。絵付けは型紙摺絵と手描きの2種。404と408は同一個体の可能性もあるが、接合はしない。

灯明皿(図65)

磁器の灯明皿は2点のみ。409は灯明皿、410は台付油受皿。

機械栓 (図65)

清酒瓶などの機械栓。8点出土。形態は3種類に分類できる。多くは針金が付随したままの状態で出土しているが、瓶との対応関係は不明。

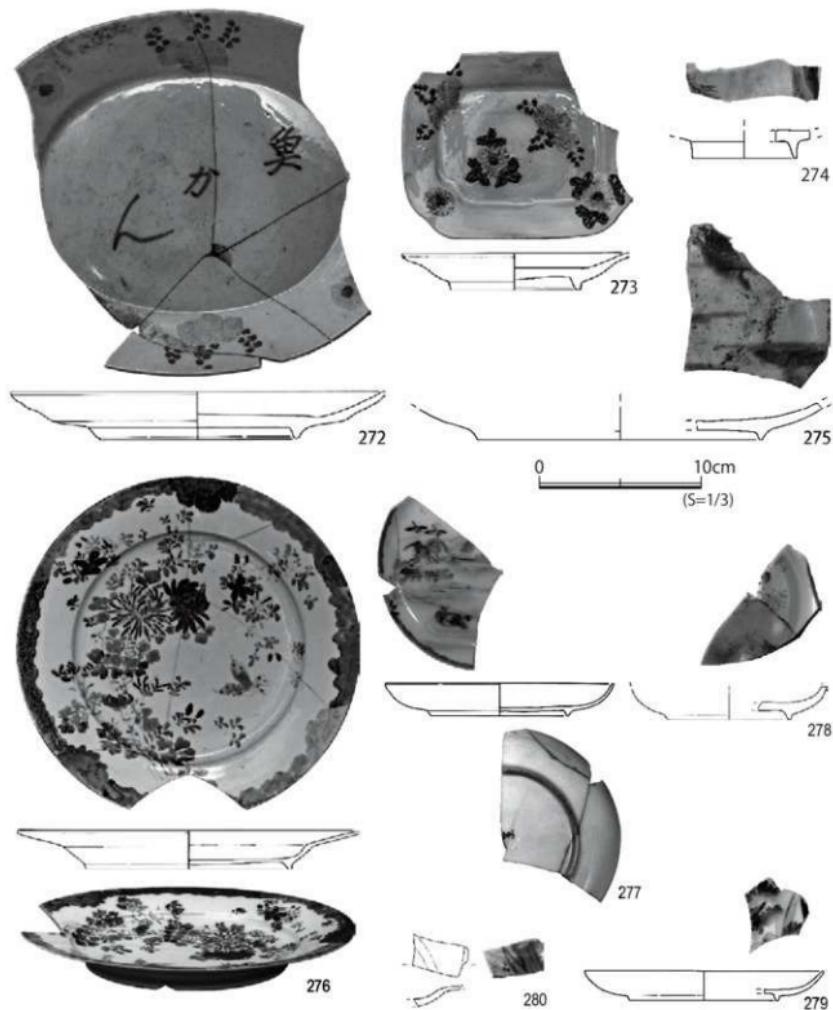
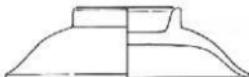
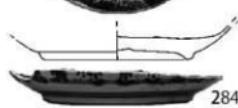
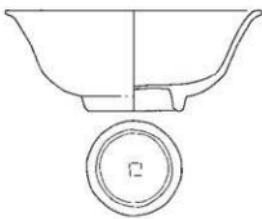
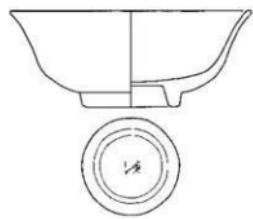


図50 近代遺構出土磁器皿 (6)



287

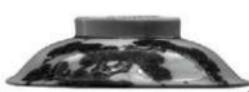


图51 近代遗构出土磁器鉢(1)

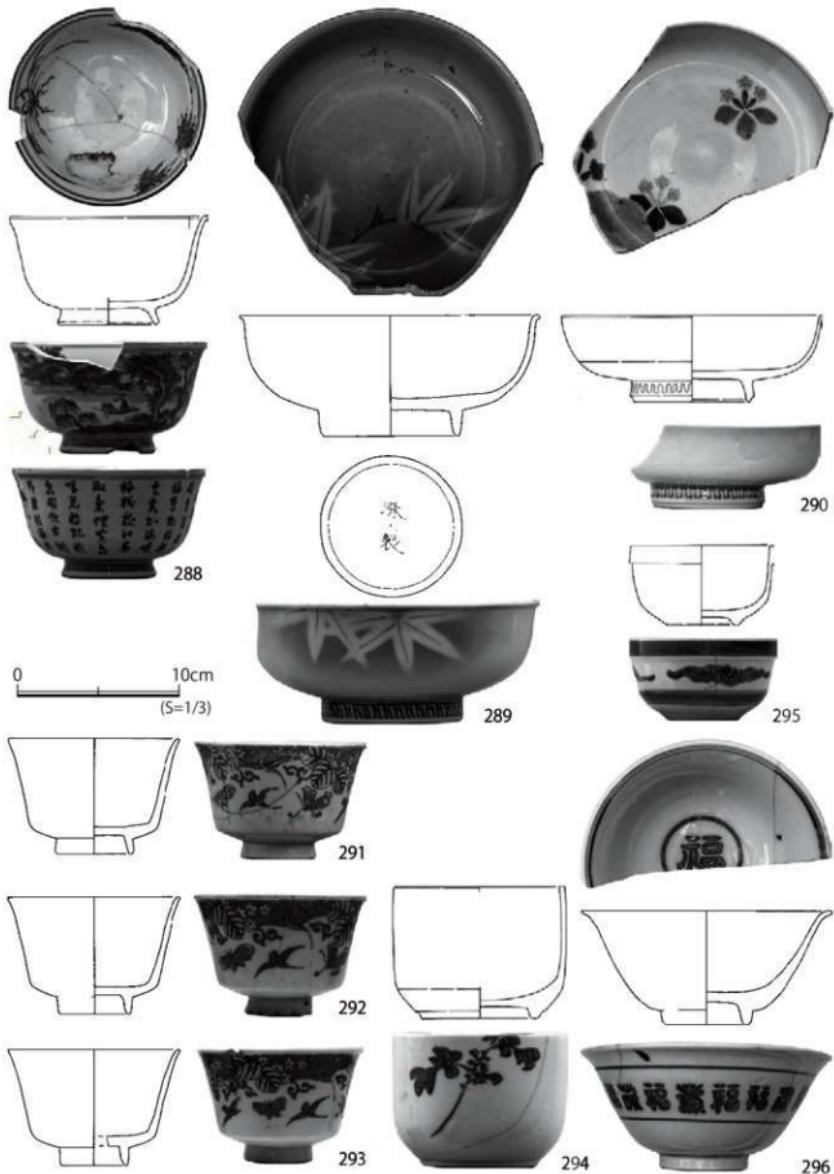


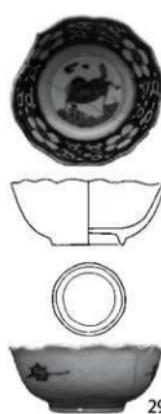
図52 近代遺構出土磁器鉢（2）



297



298



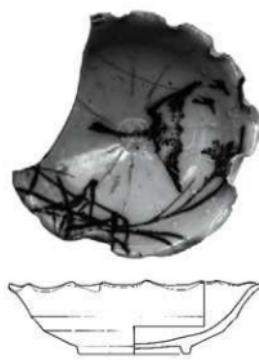
299



300



301



302



303

0 10cm
(S=1/3)

図53 近代遺構出土磁器鉢(3)



図 54 近代遺構出土磁器鉢 (4)

その他容器類等(図66、67)

数量が少ないものをその他として一括する。容器では合子(427~429)、向付類(420~421)が少数、花生(436~437)などがある。文具としては輸入品の絵具入れ(438)や筆洗い器(439)がある。筆洗い器の底面には墨書があり、地名か人名と思われるが、詳細は不明。

建材では戸車が2点(440、441)。電気関連では碍子がある(444~453)。444にはマークがあるが、メーカーは不明。棒状の碍子は6点出土している。

色絵類(図68)

色絵、上絵付の類で小破片、数量の少ないもの。454は小型の鉢類か。455~457は杯。458は碗か皿と思われる。461と462は器種不明。463は仮飯器かと思われる。



図55 近代遺構出土磁器土瓶(1)

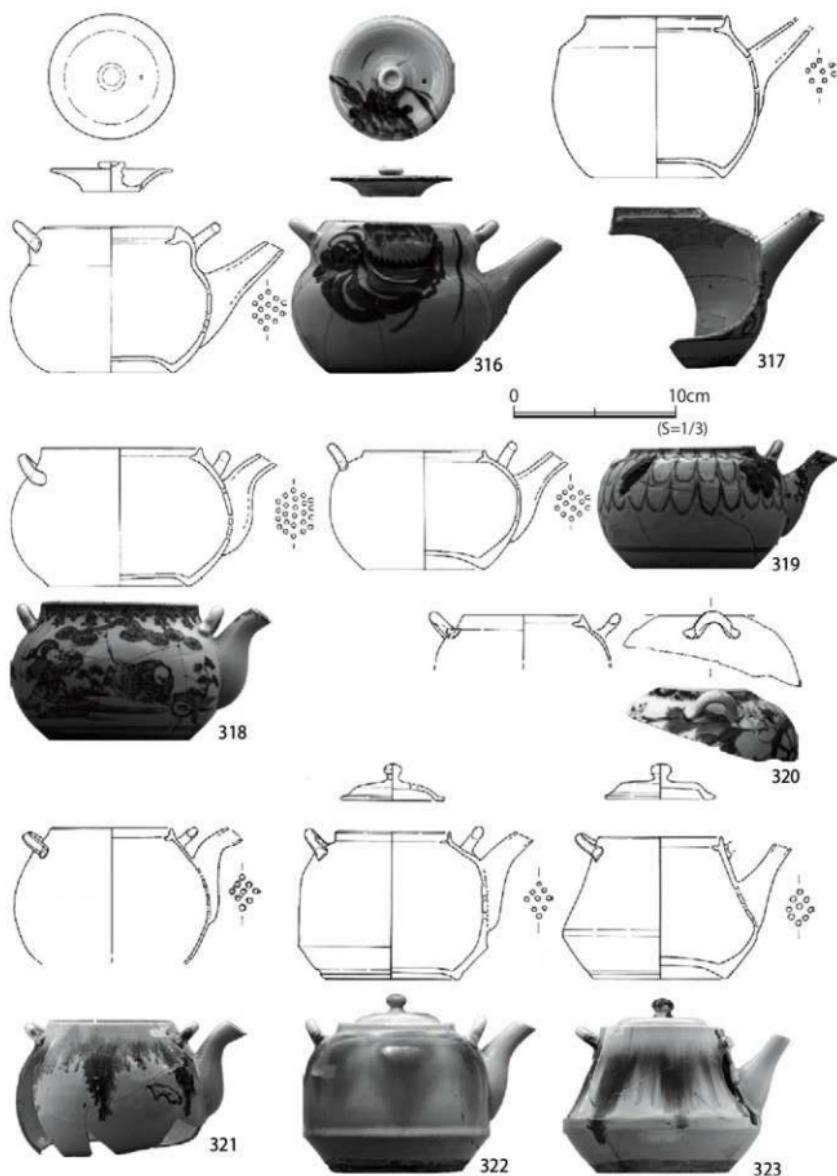


圖56 近代造構出土磁器土瓶 (2)

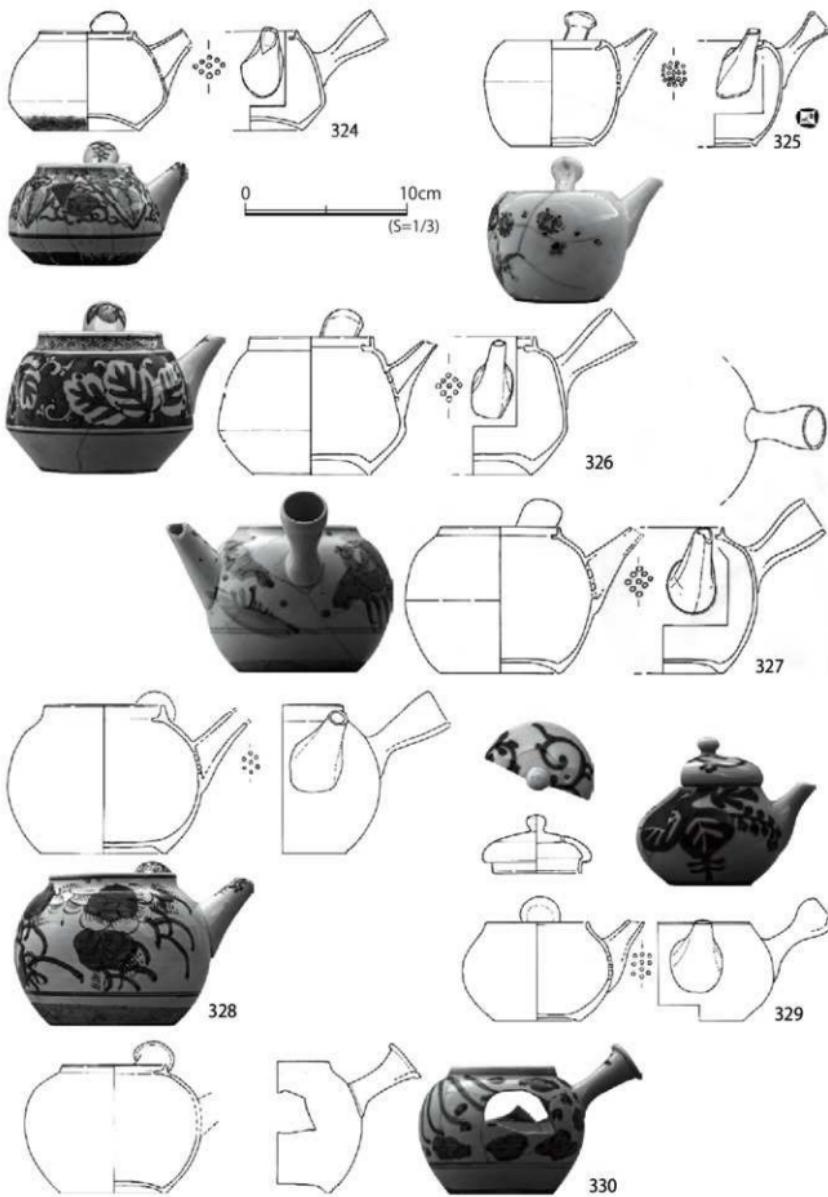


図57 近代遺構出土急須 (1)

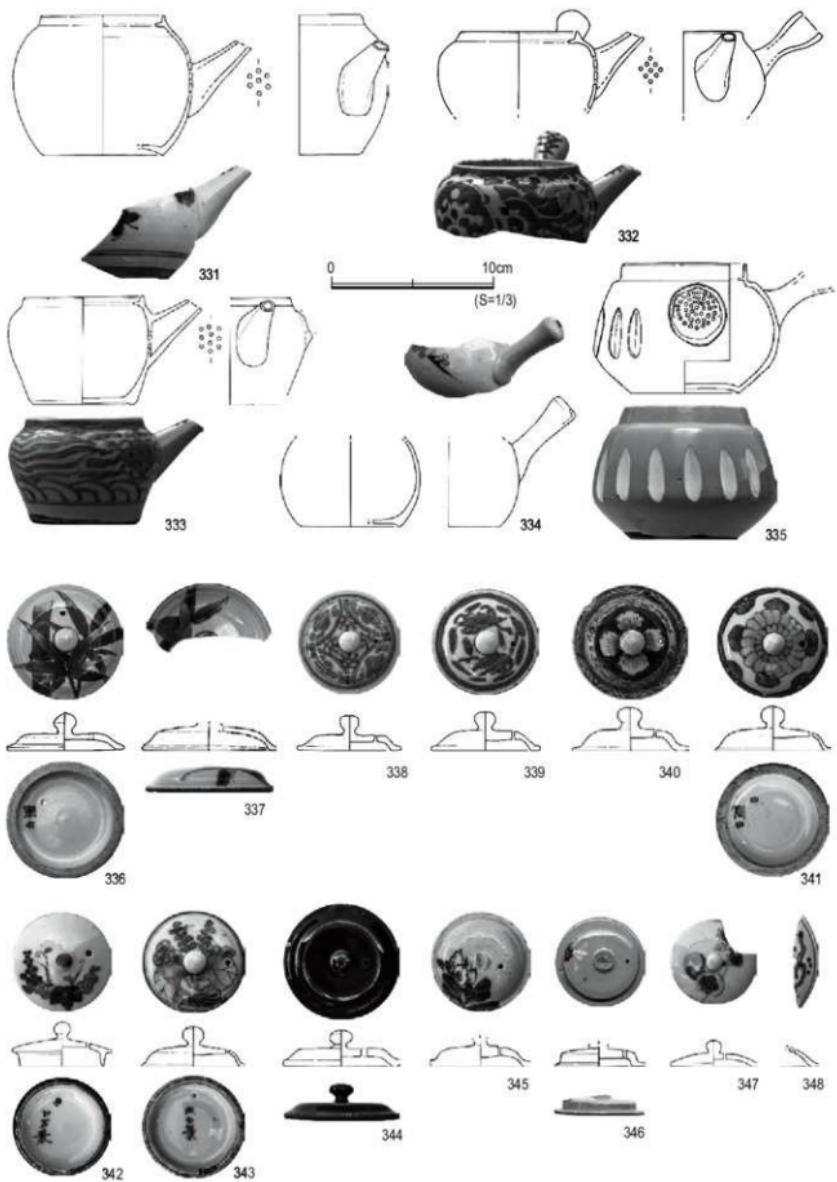


図58 近代遺構出土急須(2)

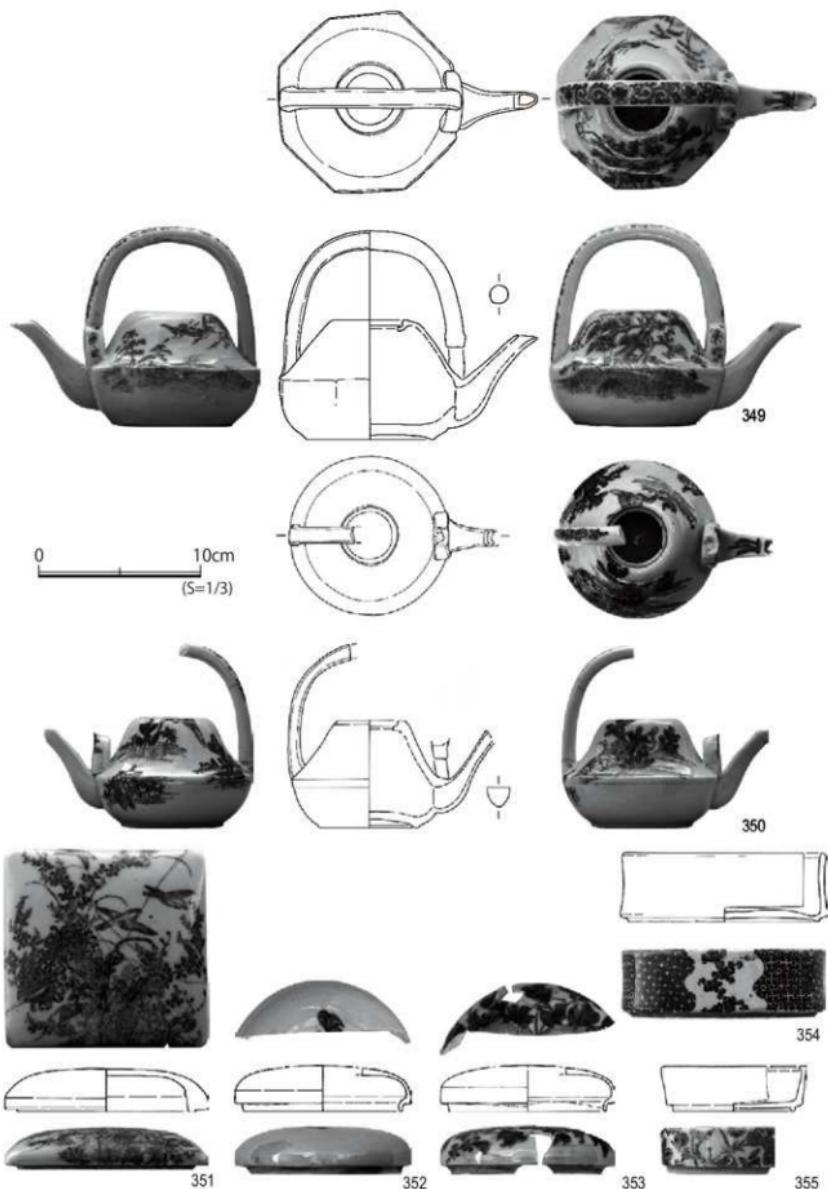


图59 近代遗构出土磁器銚子・段重

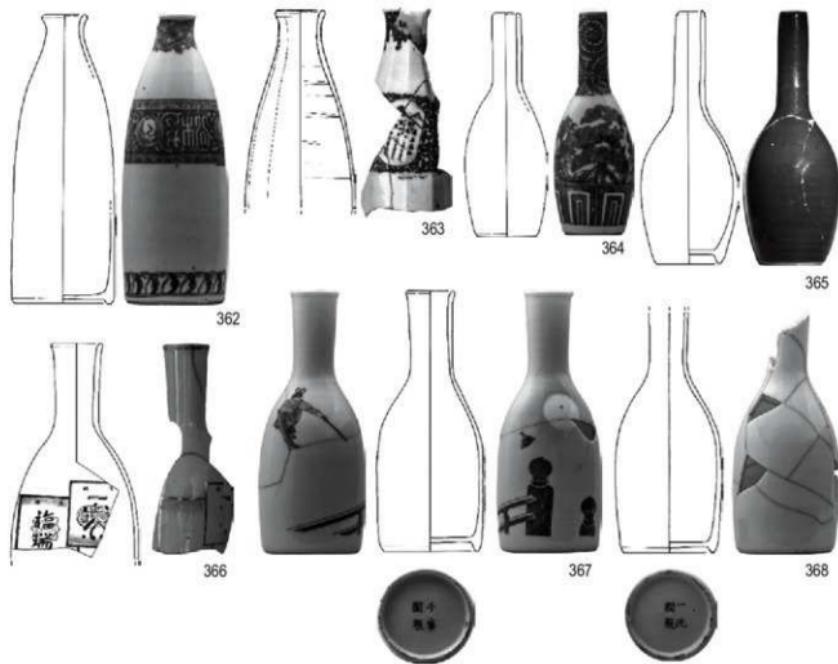
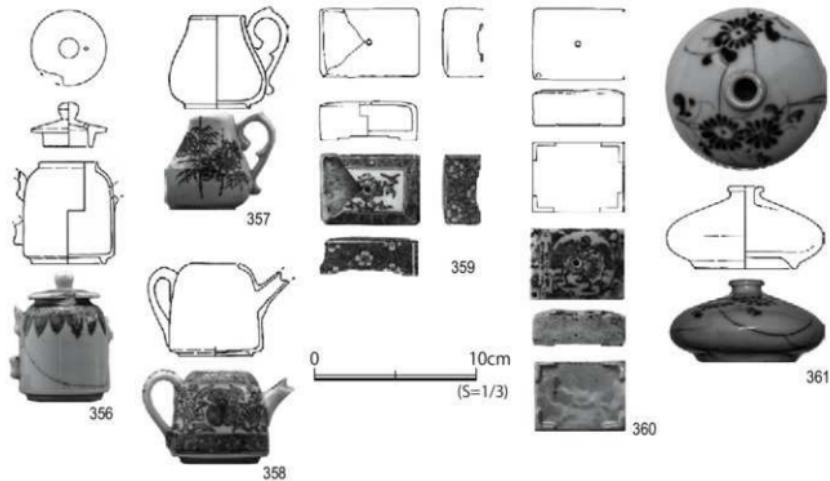
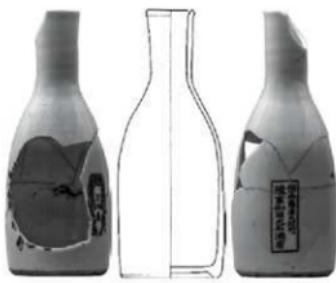


圖60 近代遺構出土磁器水注·德利(1)



369



370



371



372



0 10cm
(S=1/3)



373



375



376



374



375



377



378



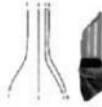
379



379



380

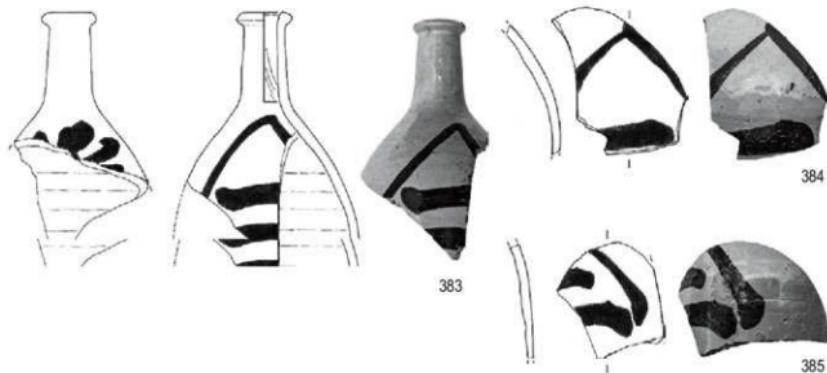


381

图61 近代遗构出土磁器德利(2)



382



383

384

385

図62 近代造構出土磁器德利 (3)

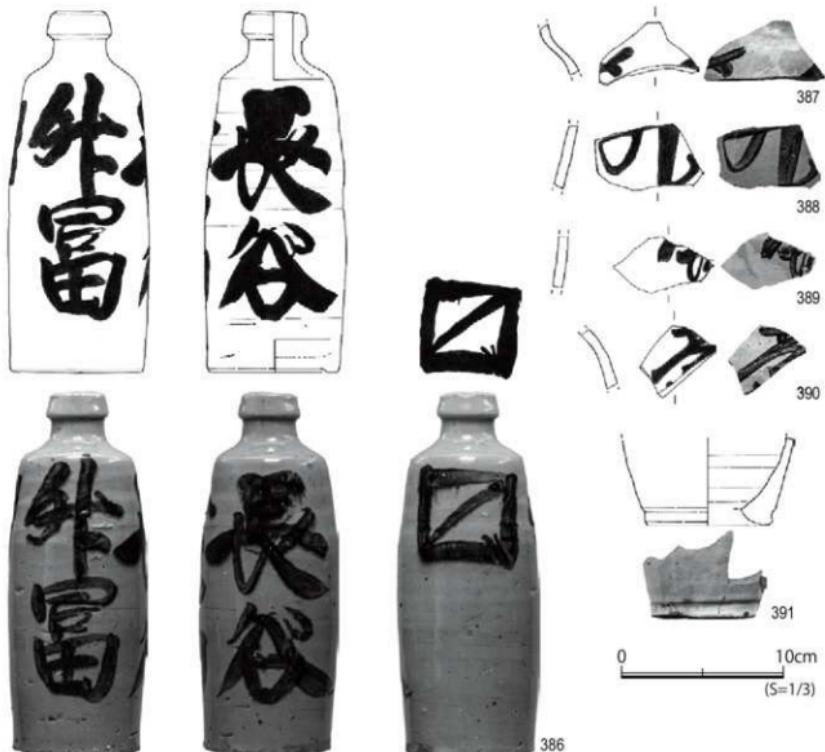


図63 近代遺構出土磁器徳利(4)

中国製磁器(図68)

464は中国製と思われる皿の破片。465は景德鎮産の鉢。口唇は釉が剥離し虫食い状。伝世品と思われる。

近世磁器(図68)

碗(469、471)、碗蓋(466～468)、筒形湯呑(469)、皿、德利(474)などがあるが、ほとんどが小破片。18世紀後半～19世紀初頭のものが多く、肥前産と推定される。466には「乾」、468には「青」の銘があり、いずれも有田の窯銘。467には「道光庚子年製」銘があるが、肥前産と考えられる。

蓮華(図69)

磁器製の蓮華が8点。482は手書き、ほかは銅版転写による。479～481は類似したモチーフであり、セットと思われる。

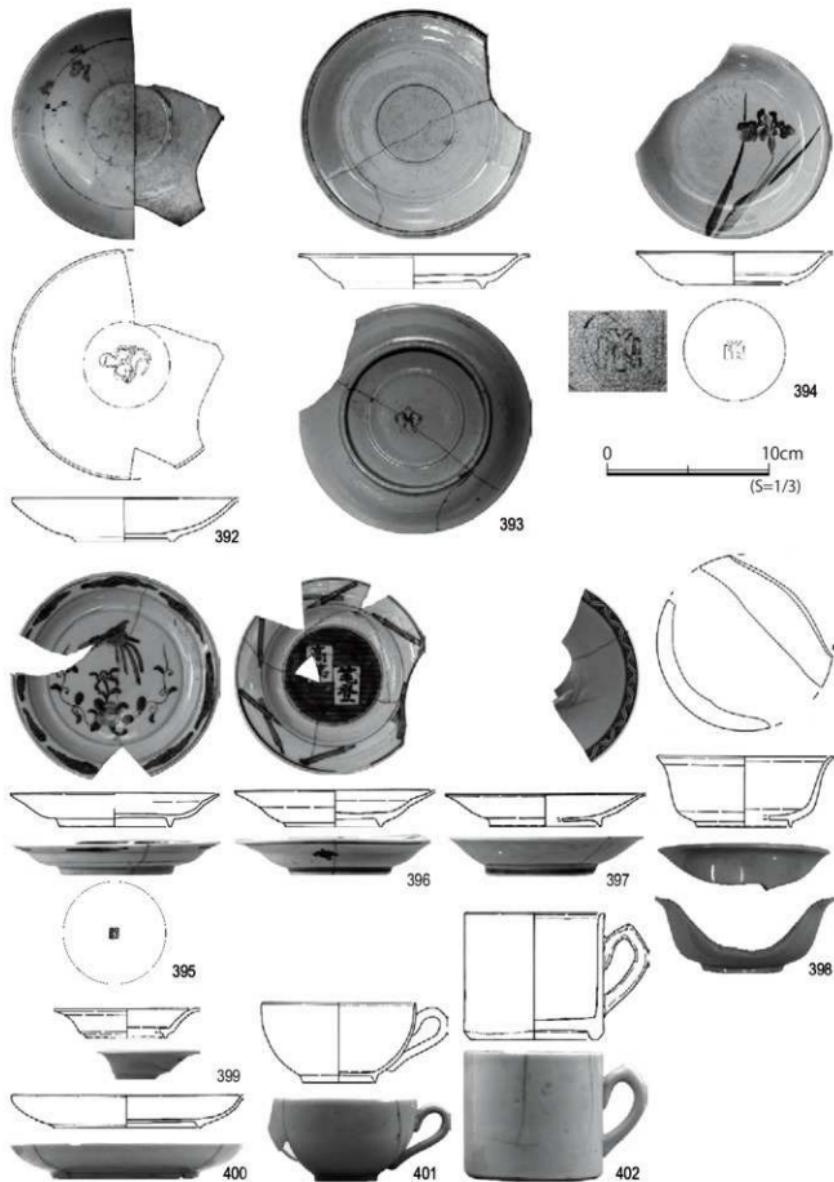


图64 近代遗构出土洋食器

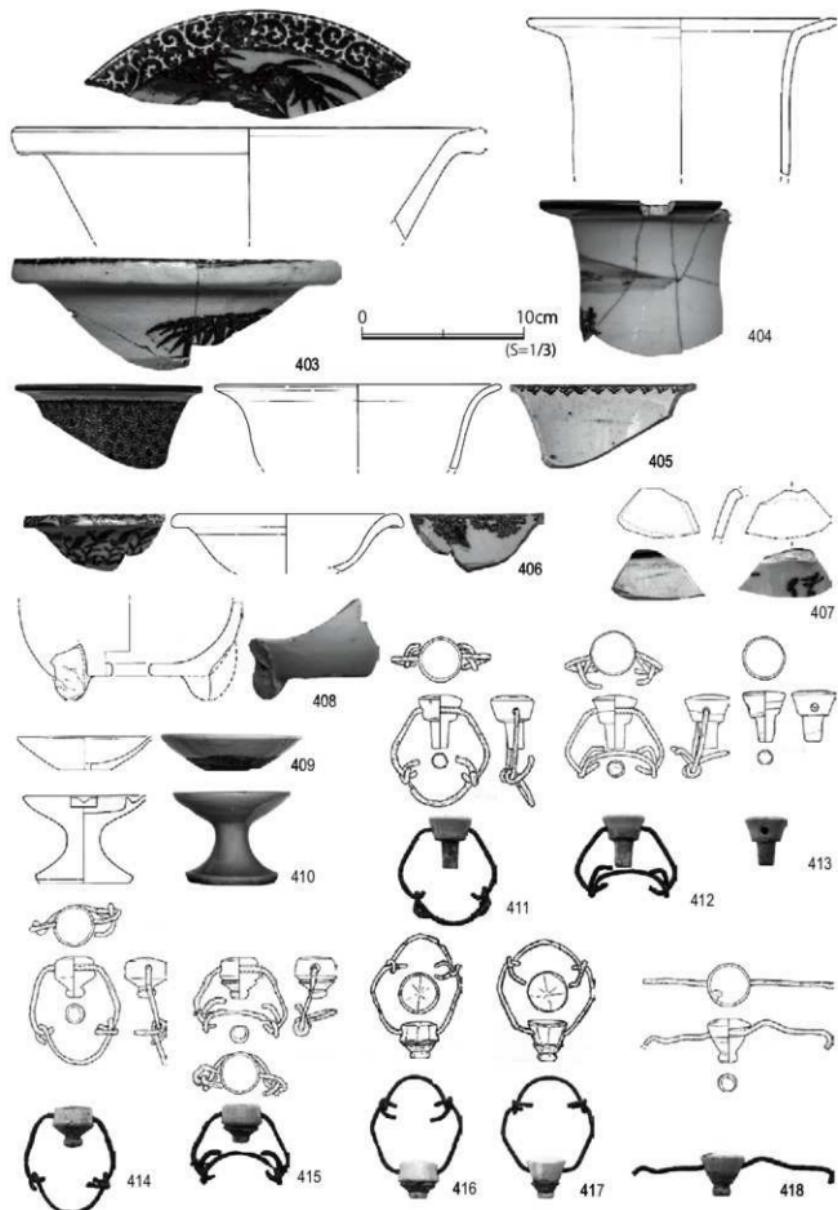


図65 近代遺構出土植木鉢・灯明・機械栓

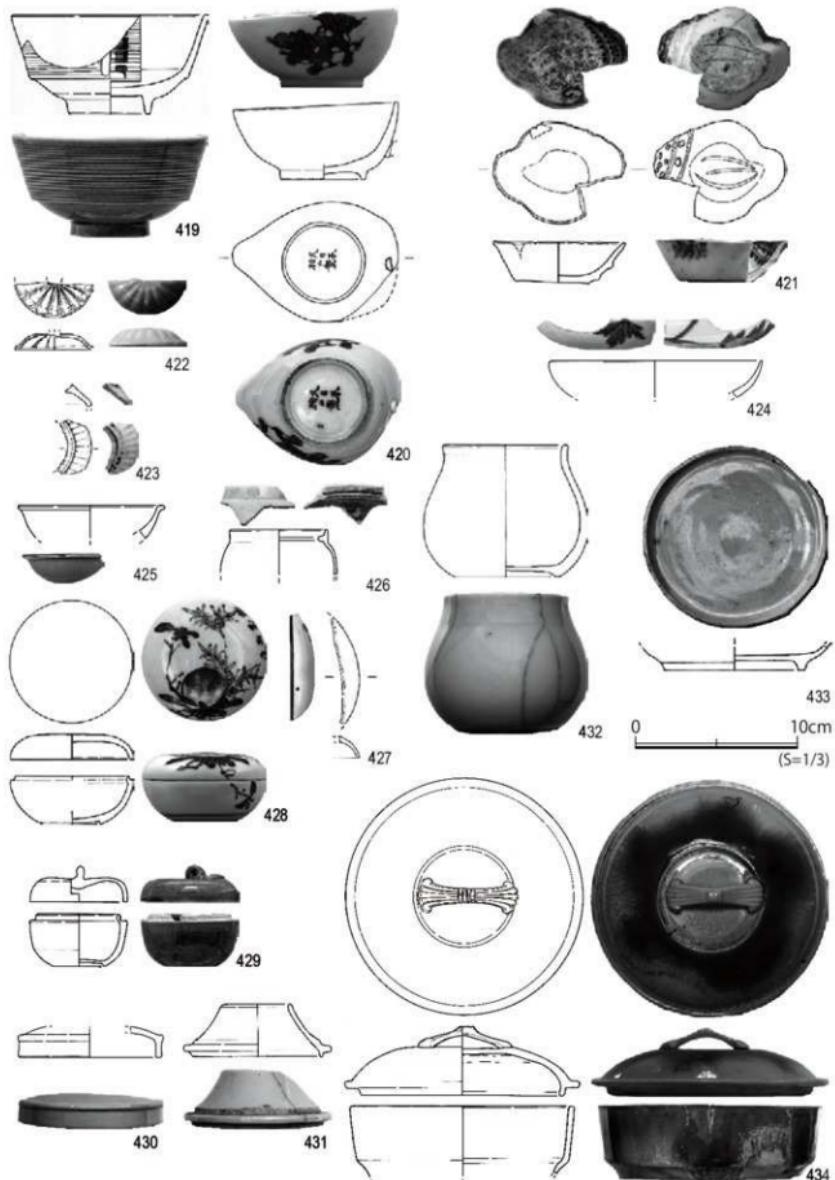


図66 近代遺構構造器その他(1)

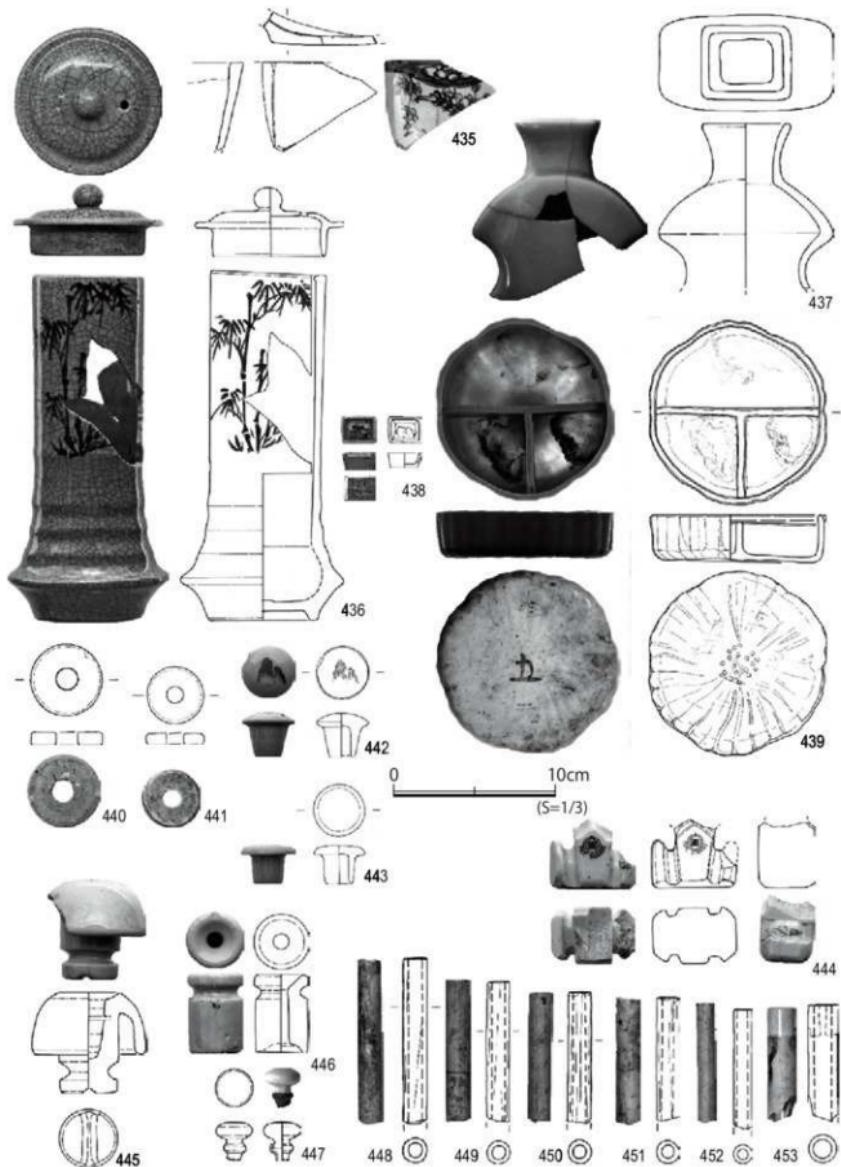


図67 近代遺構磁器その他(2)

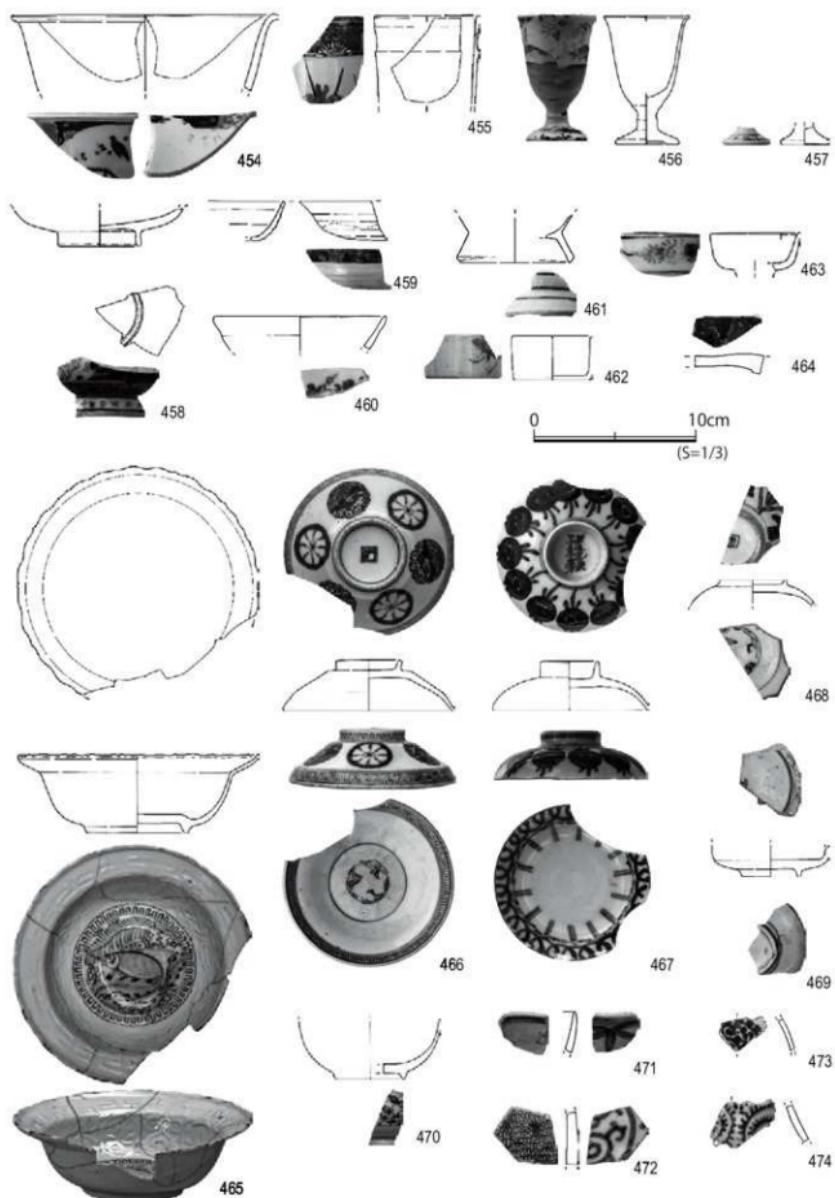


図68 近代遺構磁器その他（3）

ミニチュア、ままごと道具(図69)

ままごと道具の類であるミニチュアが23点出土。陶器製・土器製もあるが、一括しておく。磁器製は485～489が小型の碗・鉢で、485、486は銅版転写、ほかは色絵。490～493が方形の段重。色絵と銅版転写がある。490は2段に積みかねるようになっており、本来さらには何段かあった可能性もある。483は土瓶で絞胎、484は壺形の容器、494は色絵の皿、495は膳、496は色絵による火鉢。499、500は蓮華で499の底面には墨書が見られる。497は鳥居で金泥により「正一」と記す。498は「小放光堂」の陰刻がある。器種は不明だが、絵具皿の可能性がある。

501は陶器の片口鉢、502は底部のみの破片だが同様のものか。503は陶器、504は土器で箱のような形態であるが器種は不明。504は中央付近に穿孔が見られる。

タイル(図70、71)

遺構3に付隨し配列した状態で発見された硬質タイル(505)のほか、何点かタイルが出土している。表面はいずれも白色釉をほどこすのみである。背面には製造者名およびマークが見られ、3種類が確認できる。残存状態がよいのは6点で、他に細片が何点かある。

「NTK TILE-WORKS」長谷川製陶所(505～507)

「THE SATO」「TILEWORKS」佐藤工業(508)

「YOKKAICHI JAPAN」「KAWAMURAGUMI」川村組(509、510)

505には細かく分割した他の3片がセメントで接合した状態で出土した。ほかのタイルもセメントが背面に付着しており、整理時にそれを除外してある。506には数字の「4」のような鉛筆書きあり。設置時の目印か。507にはマークの周辺に「赤火ヤケ?」との刻字がある。焼成前に刻んだもの。510は半分に分割したうえに孔を穿っている。

8-2. 陶器(図72～83)

陶器類も多種多様な器種が数多く出土している。以下それぞれの概要を述べる。

鉢(図72)

1はやや大きめの鉢。黄色釉をほどこす。

小碗(図72)

小型の碗。2は色絵および金彩で乗馬する武士を描く。胴部に「競馬」の字あり。高台銘もみられるが判読不能。3は2と同様な製品と思われるが文様は確認できない。

小杯(図72)

4～9は丸みを帯びた小杯。4～13はイッチンと顔料により文様を描く。4、5は同様のモチーフのセット品か。10～14はやや端反気味で、14は口縁下が窄まる。15は胴縮形。

湯呑(図72)

4点出土。17、18は形態が違うが釉薬の色調や掛け方から同一窯の製品と思われる。19は高台疊付きに「相馬」の刻印。相馬焼か。

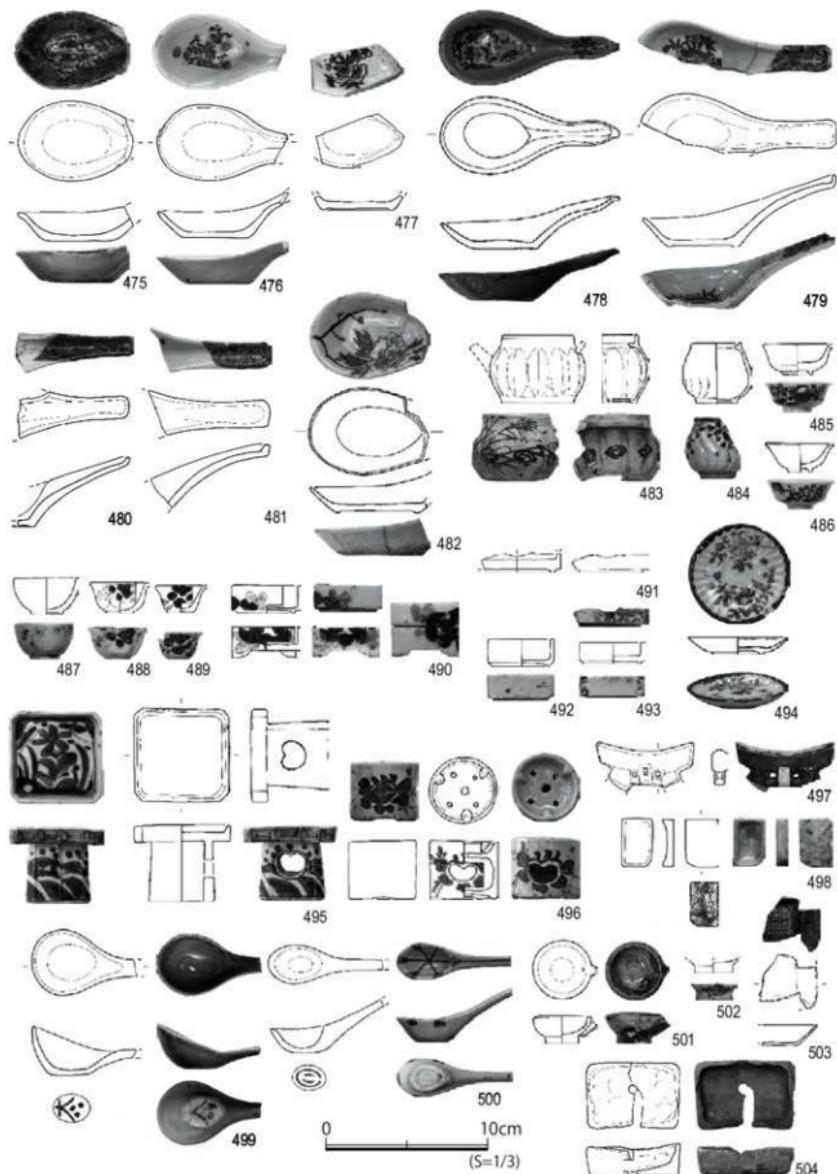
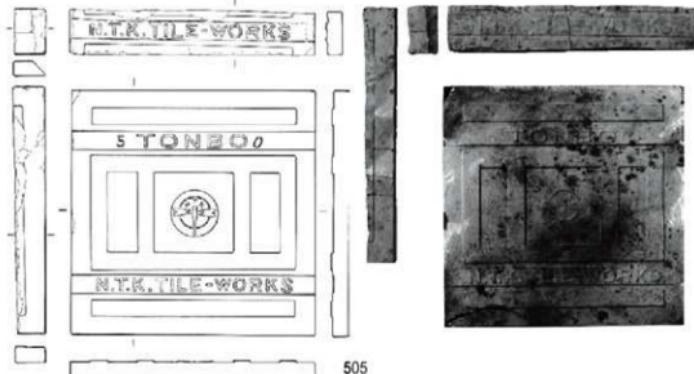
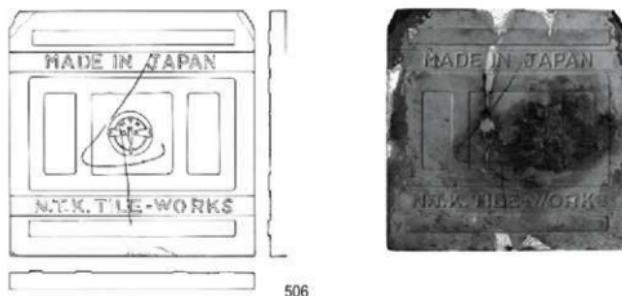


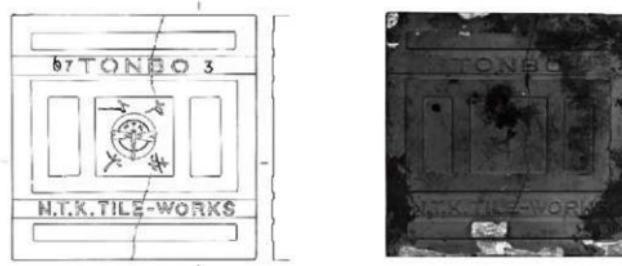
図69 近代遺構磁器蓮華・ミニチュア



505



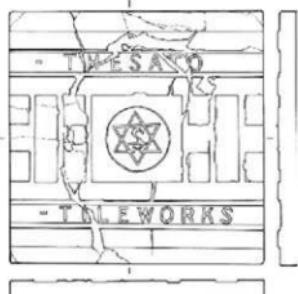
506



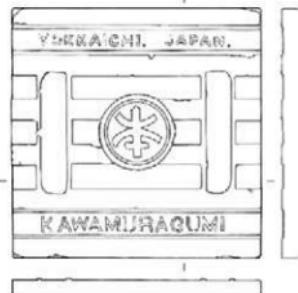
507

0 10cm
(S=1/3)

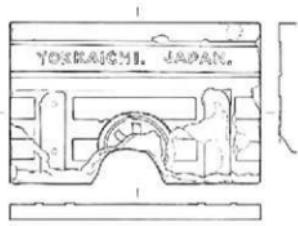
図70 近代遺構器タイル(1)



508



509



510

0 10cm
(5=1/3)

図 71 近代遺構磁器タイル (2)

猪口 (図 72)

22は口縁部を欠くが、小型の猪口の類と思われる。

蕎麦猪口 (図 72)

3点出土 (23 ~ 25)。

そのほか容器類として鉢 (26)、蓋物 (27 ~ 31)、小鉢 (32)、器種不明 (33 ~ 35)、向付 (36) などがある。

徳利(図73)

破片のみ(37、38)。39、40も徳利か。

仏飯器(図73)

脚部のみ残存(41)。瑠璃釉。

不明容器(図73)

33～35は口縁部片。42は雑司ヶ谷遺跡で同様のものが出土しているが、用途は不明。45は大型の蓮華の可能性があるが不明。内面に龍とおぼしき陰刻あり。

蓮華(図73)

いずれも龍の陰刻がある。48、49はおそらく同一モチーフのセット品。

醤油瓶(図74)

ほぼ同型のものが2点。いずれも胴部下半に「大日本常國土浦町色川氏釀造之證」の刻印がある。50には底部に「大・田中余三郎」、51には「大」のみ刻印が見られる。器自体は備前焼か。

うるか容器(図74)

52は把手のある小型の容器で、胴部に「大船軒名産」、蓋には「うるか」の筆書きがある。鎌倉市史に資料があり、明治39年頃に駅で発売開始したようである。20銭で販売された小壺か。

鉢皿(図74)

53は陶製の鉢皿。7列の鉢目が刻まれる。

土瓶(図74、76)

6点出土。器形、絵付けとも様々。55、56は汽車土瓶。梅花文のみ施し駅名はない。益子焼か。湯呑は付随せず。72は山水土瓶の蓋の破片。対応する身の部分は出土せず。

急須(図75、76)

15点出土。小型。釉掛けの陶器は58、59の2点。粒状に凹凸をつけたものが71の1点。ほかは焼き縮めで、素焼きが70の1点である。62、63、65は「萬古」、68、69は「鉄山」の銘。64は胴部に「■石試茶/新」とある。66、67は急須の破片と思われる。73～81は急須の蓋。73～75は焼き縮め、76は暗褐色の釉掛けによる。77は朱泥。78～81は灰白色の釉を施す。いずれも蓋と身の対応は不明。

調理具(図77～79)

大型の羽釜が2点。1点は破片のため図示せず。82は鍔上に屋号の刻印があるが詳細は不明。鍔以下は全面に炭が付着し、被熱により器表が一部剥離。

土鍋は復元可能なものが5点(83～87)、また蓋が1点(88)あり、87と対応するかと思われる。いずれも底部から胴部下半にかけて炭が付着す。

行平鍋は復元可能なものが7点(89～95)、94が暗褐色の釉を施す以外は灰釉である。胴部下半には炭が付着。96、97は破片。

98は片口鉢か。99は櫃。深い鍋型で把手が付き、外面には梅花文が描かれる。底部には炭が付着。100は蒸し板か。小型の穿孔が多数ある。炭が付着。

貯蔵具(図80、81)

102～105は梅干壺。106～111は甕。完形の例はない。112は壺類の蓋、113は甕の蓋か。

すり鉢(図82～83)

大型のすり鉢が2点(118、119)、笠間焼か。片口をもつものが1点(117)、小型のものが3点(114～116)。

灯明皿(図83)

陶器の灯明皿。瀬戸製か。120～122は受皿。131、132は台付受皿。120のみ褐釉、他は灰釉。

8-3.人形類(図84～87)

人形類も多数出土している。陶器製、磁器製をまとめて掲載する。

人物像は4点。2は陶器製、他は磁器製。1の項には「168 510」と刻字されている。5は三猿。鎌倉焼の可能性が高い。6は土製の置物か。7は磁器製の栗型。8～10は磁器製の馬。背には騎乗者が付くであろうが出土せず。11は素焼きの猫。12は鳩の著置き。尾部に「新案特許」とある。13～23は達磨の置き人形。大小2種類がある。底部にバラストがあり、起き上がり小法師となっている。24は犬張り子か。25は桃太郎の水滴か。26～27は鳩の笛である。29～52は浮き人形。29～34は鶴。35、36は桃太郎と思われる。37は鯉。38は不明だが魚か。39は亀。図示していないが、破片がもう1点ある。40～54は金魚。大中小の3種類か。

8-4.土製品(図88～95)

土製品は焜炉類、植木鉢、土管などである。

角焜炉(図88～93)

ほぼ復元できるのは2点、ある程度接合したのは8点で、ほかにも破片が多数出土。正確な個体数は不明。厚手大型と薄手小型の2タイプがある。1は大型。残存状態はかなり良い。引き戸裏には「三河名産製造組合角谷音吉」の押印がある。上面には炭が、漏斗状の内部は白色の灰が付着。2、3は器壁が薄めでやや小型のタイプ。2はかなり残存状態がよく、引き戸の裏には「三河名産製造組合■仙■■」の押印がある。破損のため職人名は不明。3は2に類似。いずれも上部に吹きこぼれや炭痕が見られる。なお13は引き戸裏部分の破片で、他と接合しないが、「三河名産製造組合齊藤半次郎」の押印が確認できる。いずれも愛知県の高浜周辺で製造されたもの。その他4～12は角焜炉外面部の破片。14は引き戸裏部の破片。15～16、18～23は焜炉の内筒部の破片。17と24～27は内部に入れるサナ。17は16とセットと考えられる。

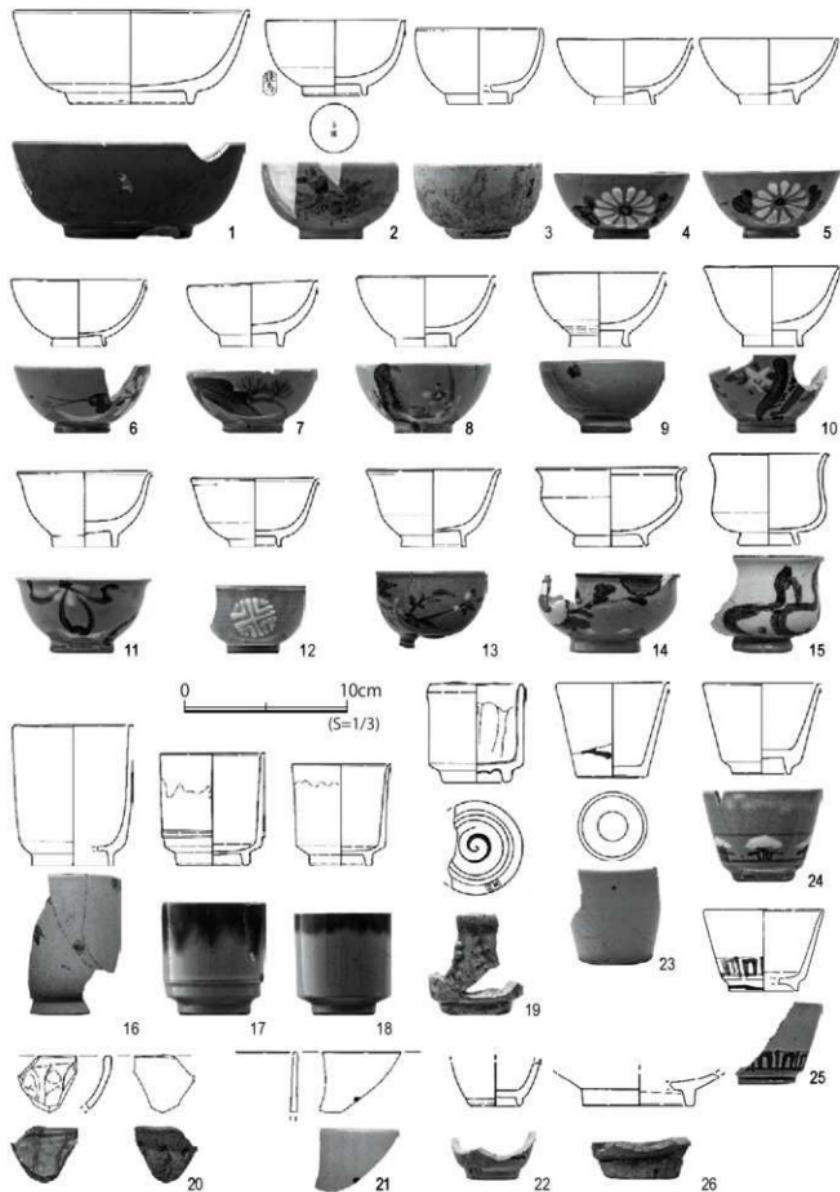


図72 近代遺構陶器(1)

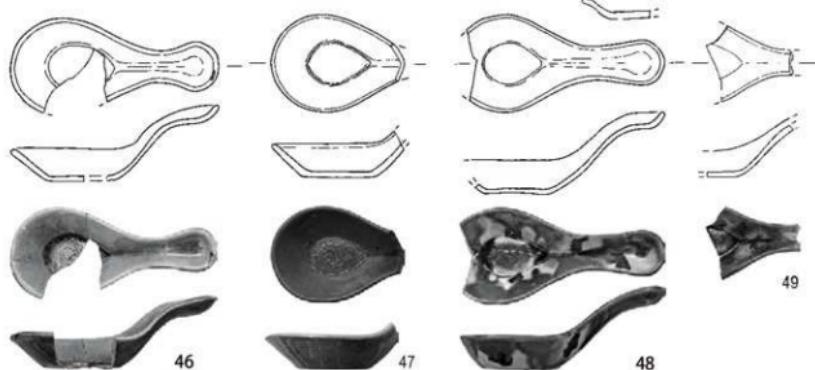
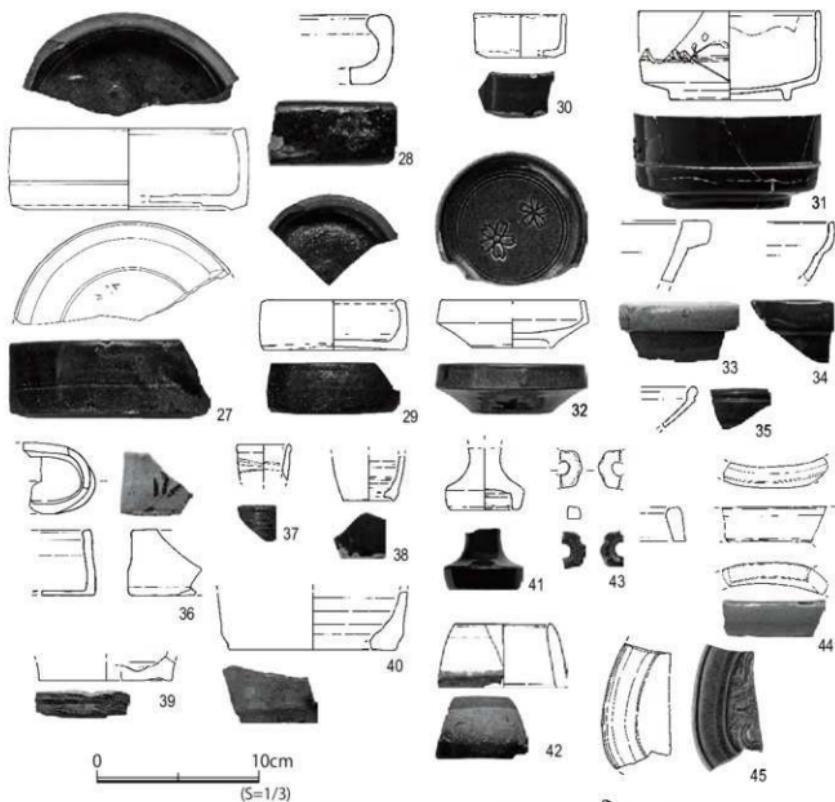


图73 近代遗构出土陶器 (2)

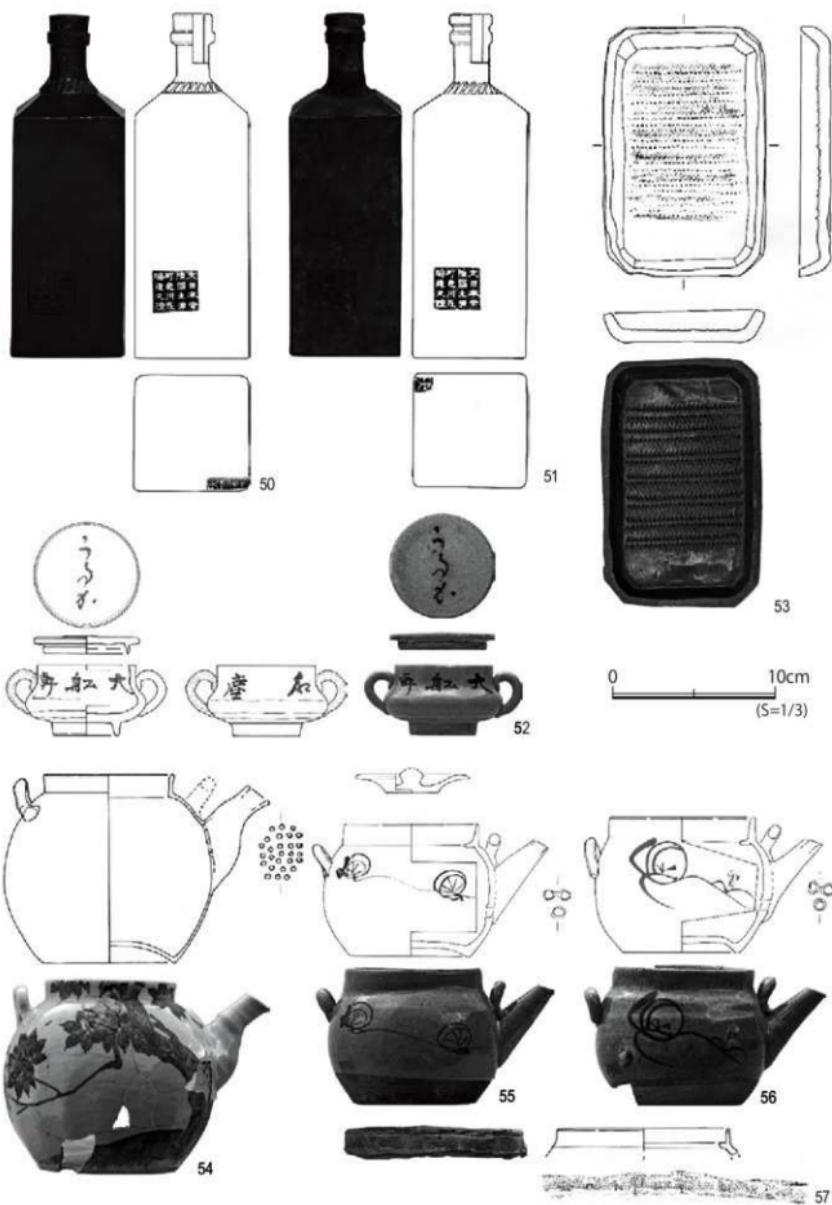


図74 近代遺構出土陶器 (3)

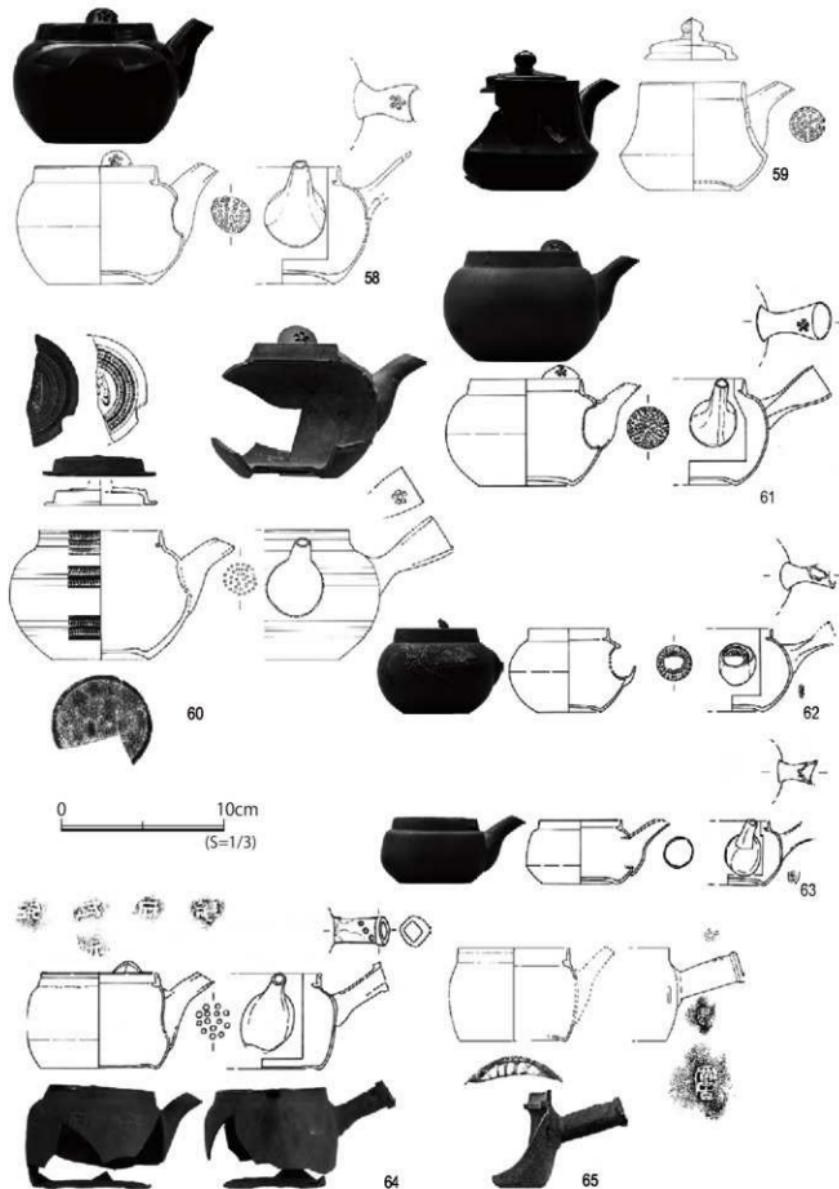


图75 近代遗构出土陶器土瓶·急須(1)

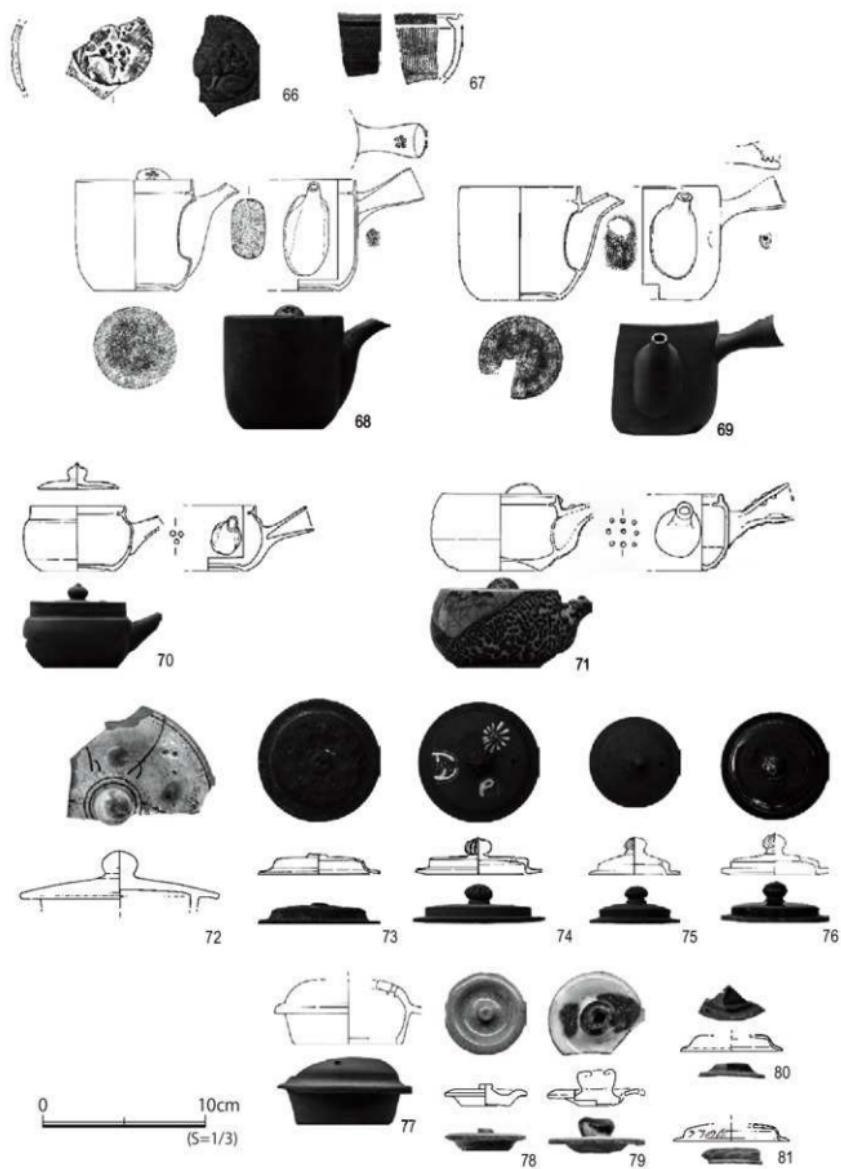
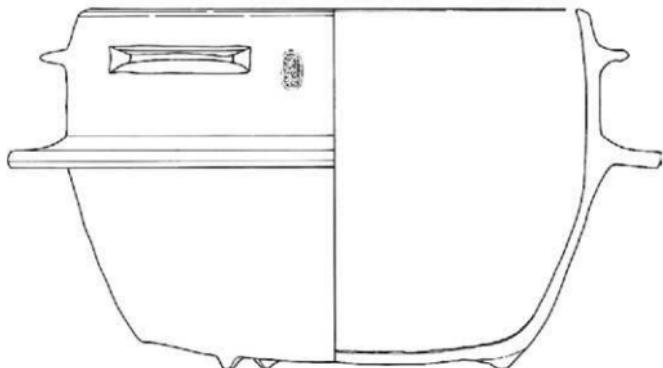


図76 近代遺構出土陶器土瓶・急須(2)



0
10cm
(S=1/3)

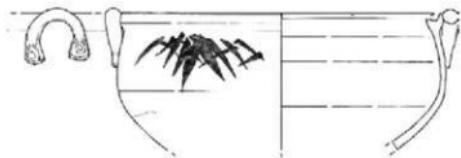
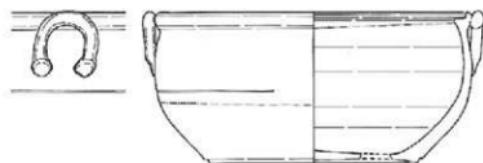
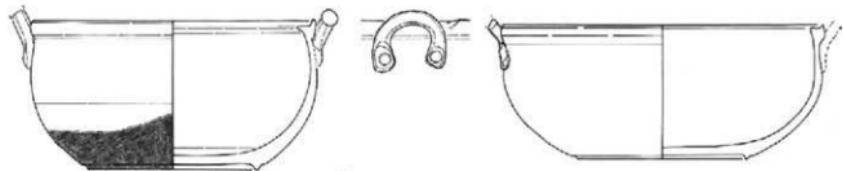


図 77 近代遺構出土陶器土鍋



0
10cm
(S=1/3)

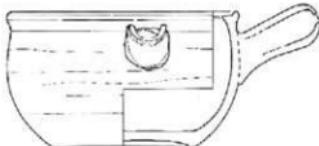
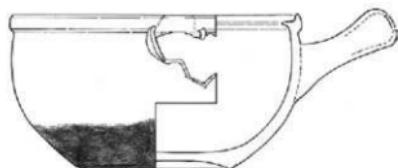
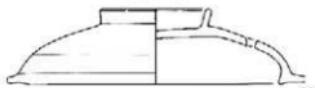


图78 近代遗构出土陶器鍋類(2)

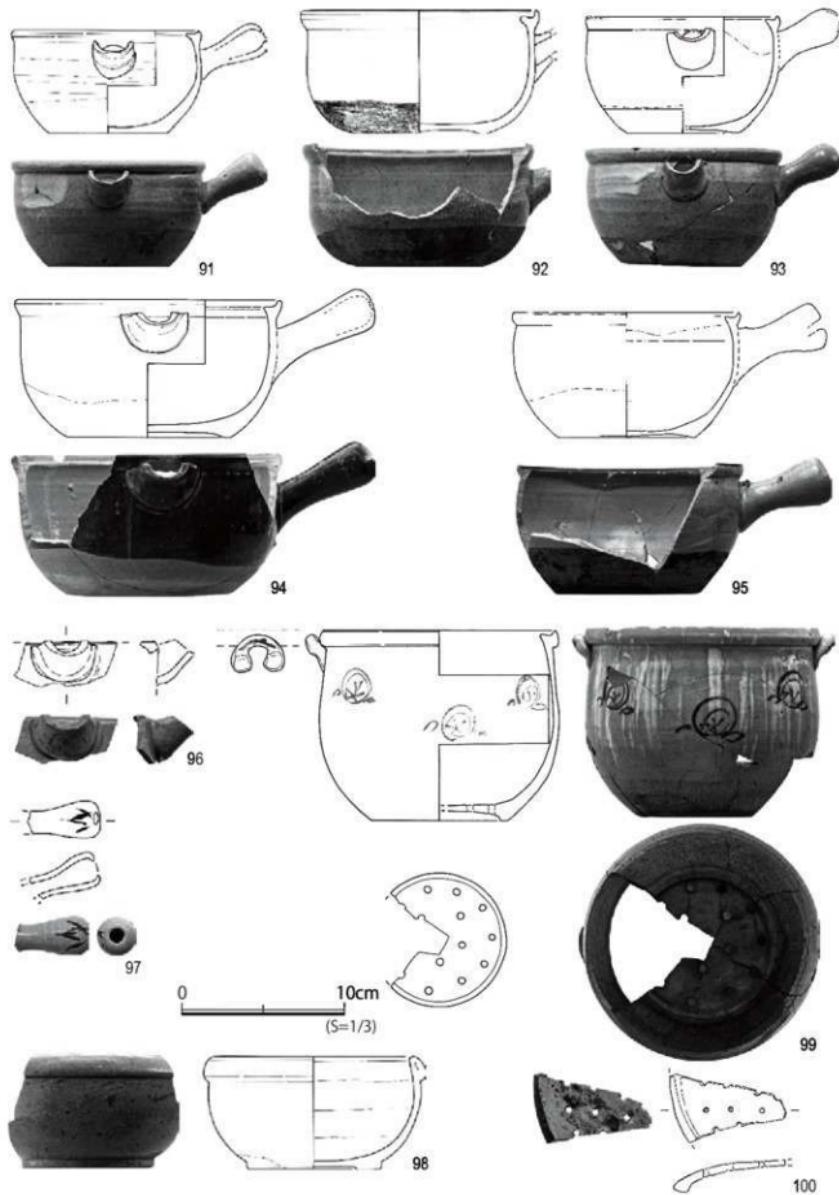
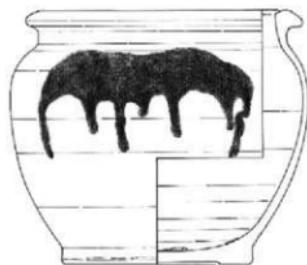
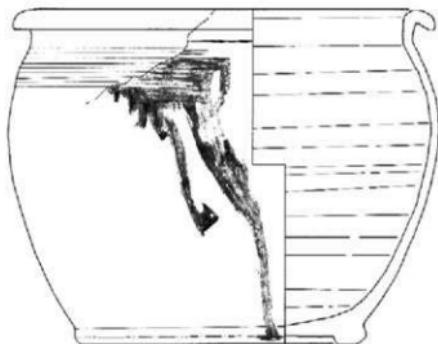


図79 近代造構出土陶器鍋類 (3)



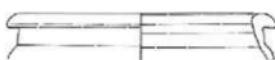
101



102



103



104



105



图80 近代遗构出土陶器壹类 (1)

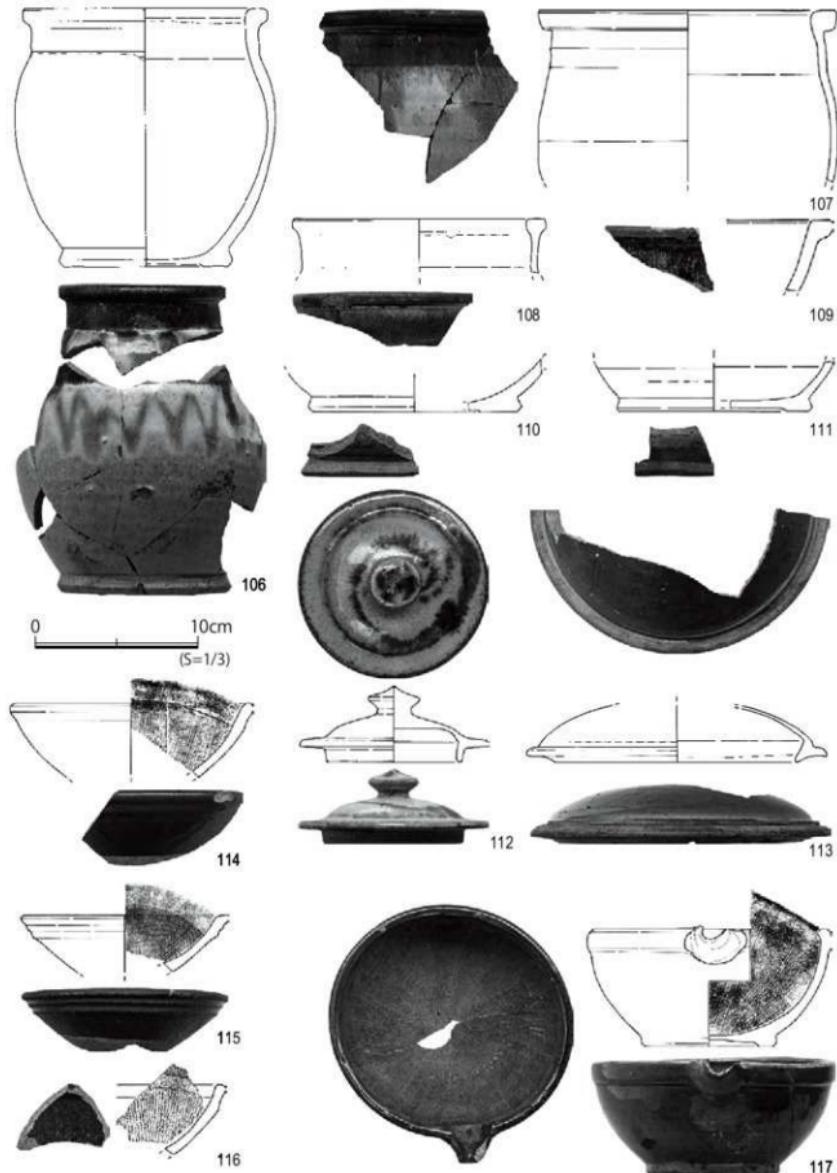


圖81 近代造構出土陶器壹類 (2)

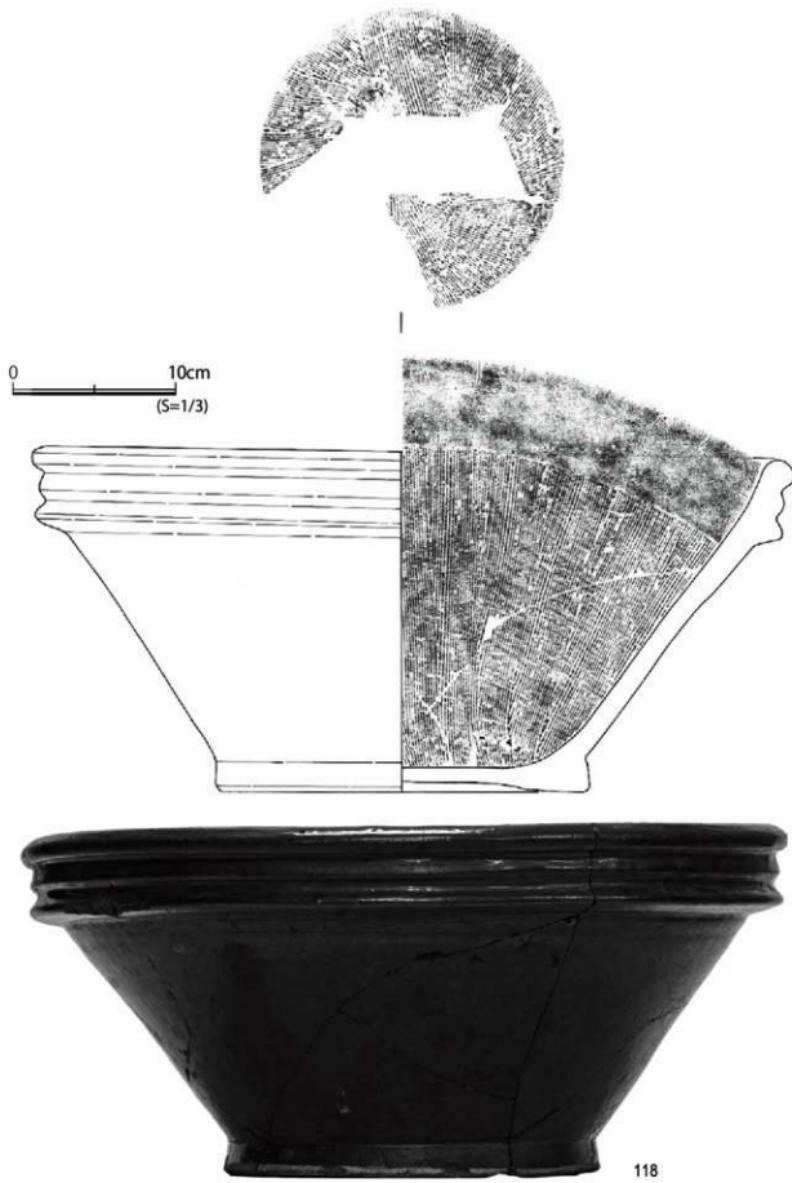


图82 近代遗构出土陶器擂钵

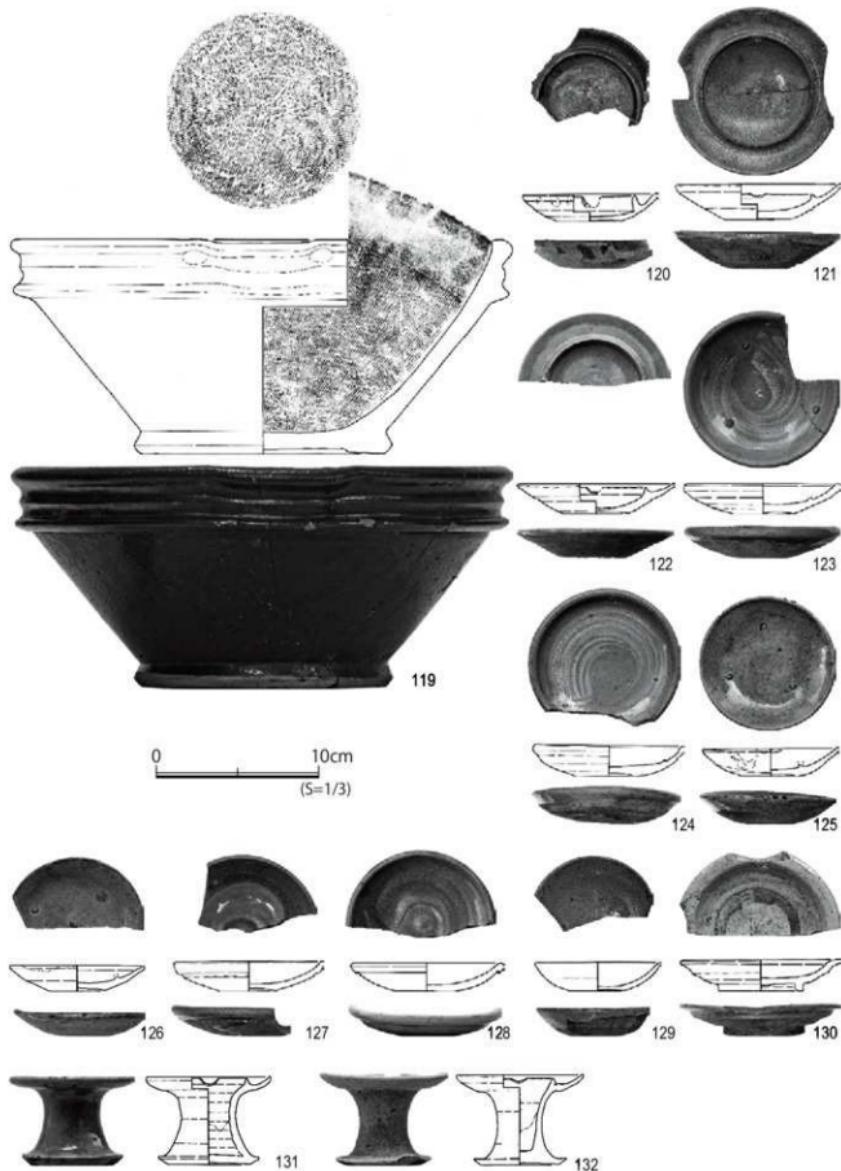


図83 近代遺構出土陶器擂鉢他

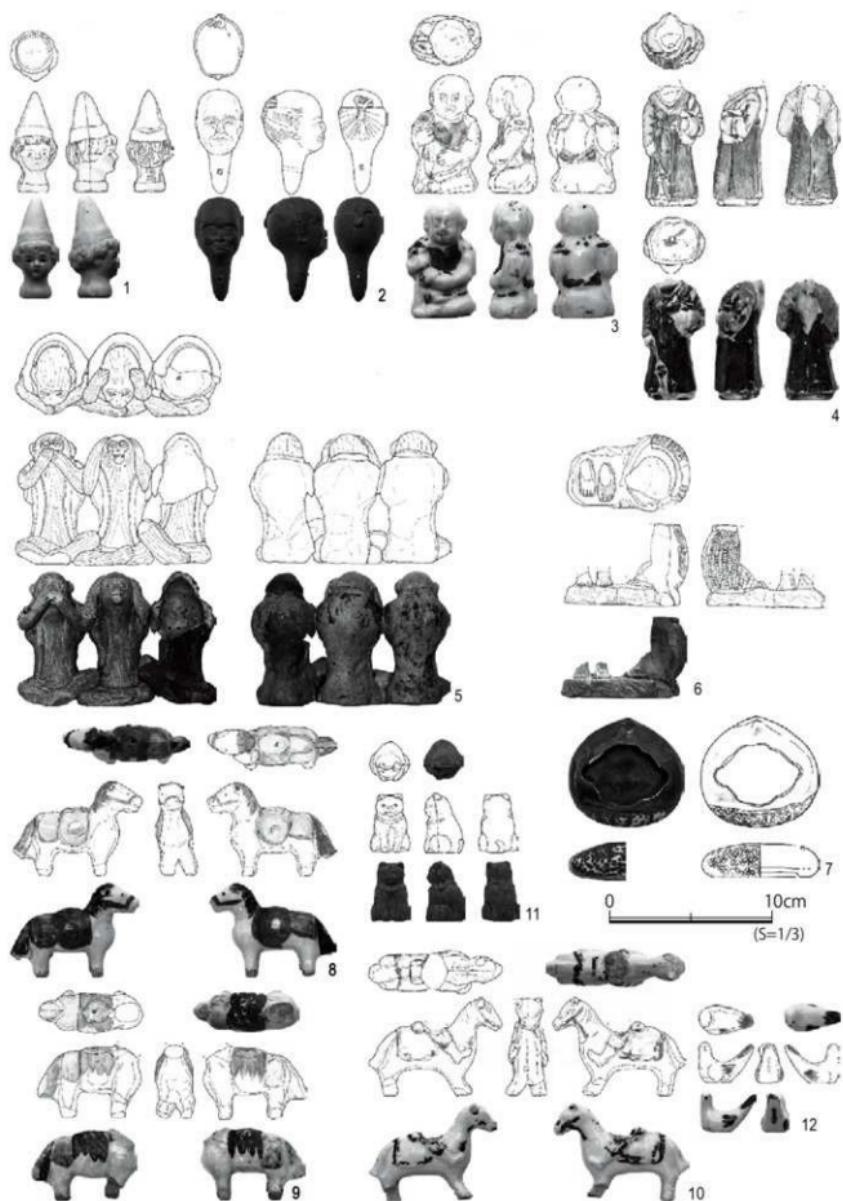


図84 近代遺構出土人形類（1）

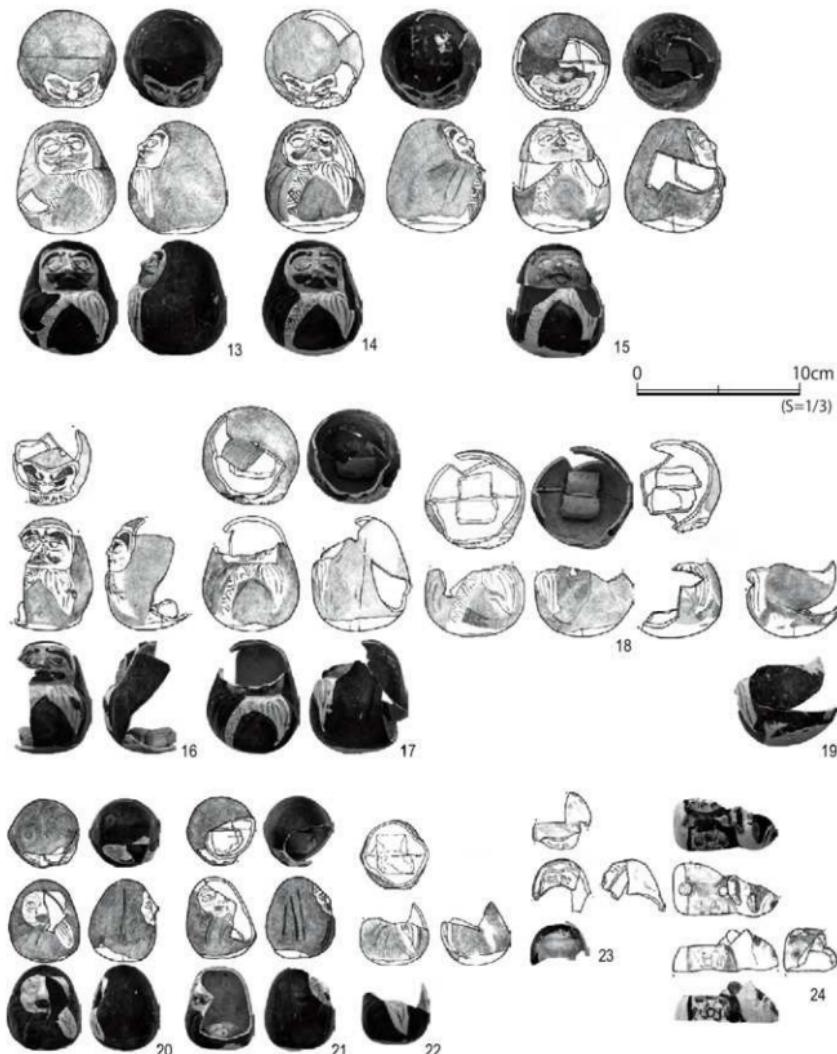


図85 近代遺構出土人形類（2）

ワッパ（図93）

28～31は角焜炉の上に乗せるワッパ。胴部に穿孔のあるものとないものがある。図示していないが、ほかにも小破片が数点出土している。

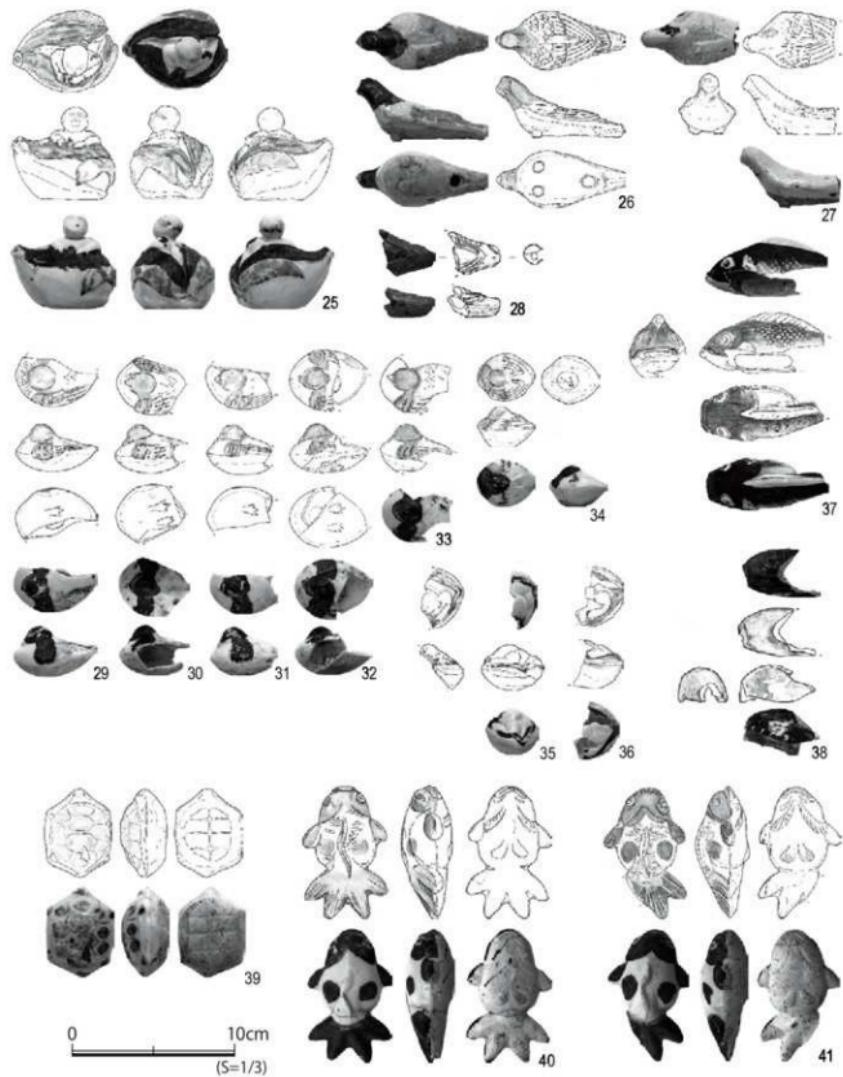


図86 近代遺構出土人形類(3)

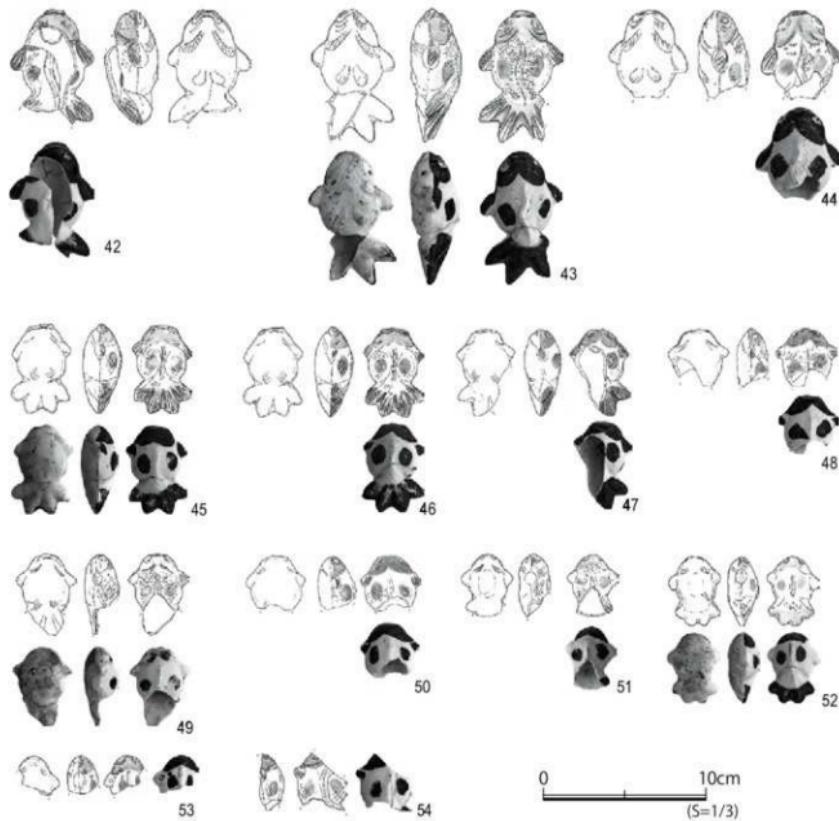


図87 近代遺構出土人形類(4)

植木鉢(図94)

1～7は赤褐色を呈する素焼きの植木鉢。単純な筒形と口縁下部が段をなすものの2種類がある。11～18も植木鉢の類か。炭素吸着による黒色の土器である。

土管類(図95)

陶製も含む。22～27は土管。黒色系の釉薬をかける。19～21は炭素吸着による用途不明の土製品。

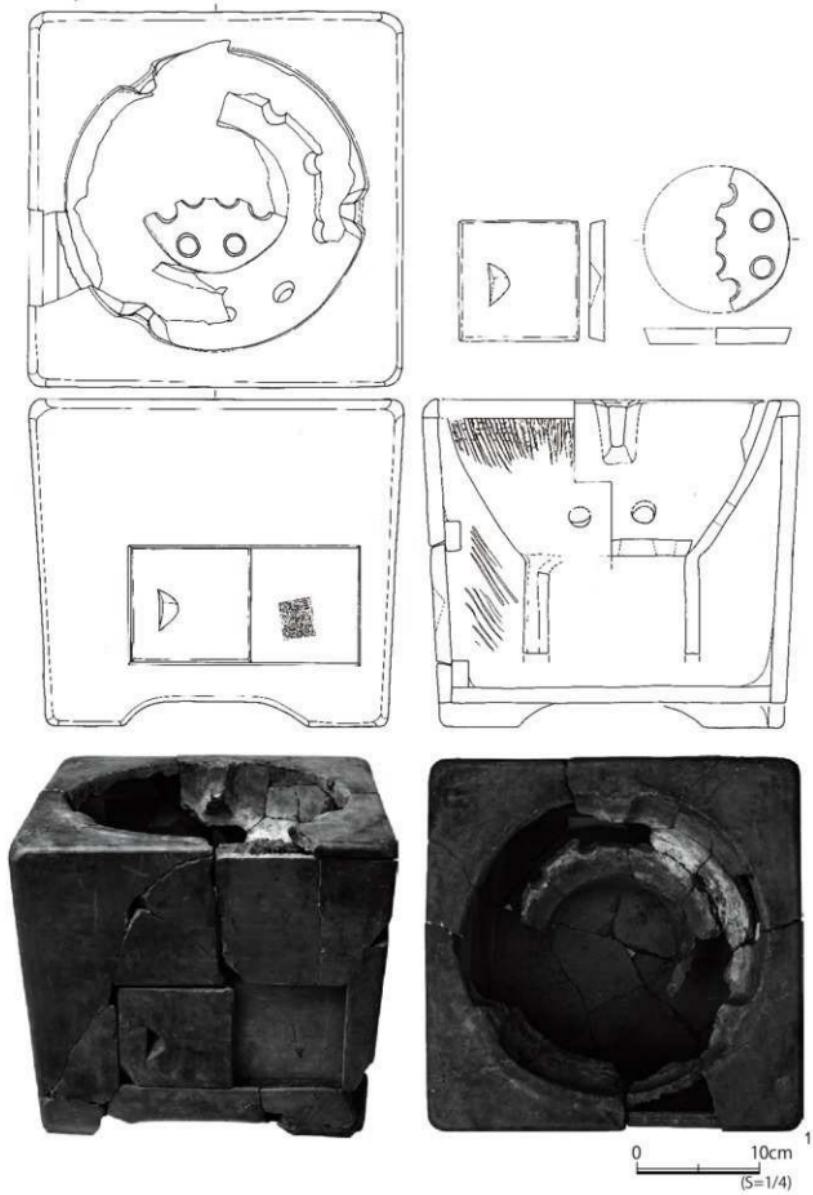


图88 近代遗构出土土器焜炉(1)

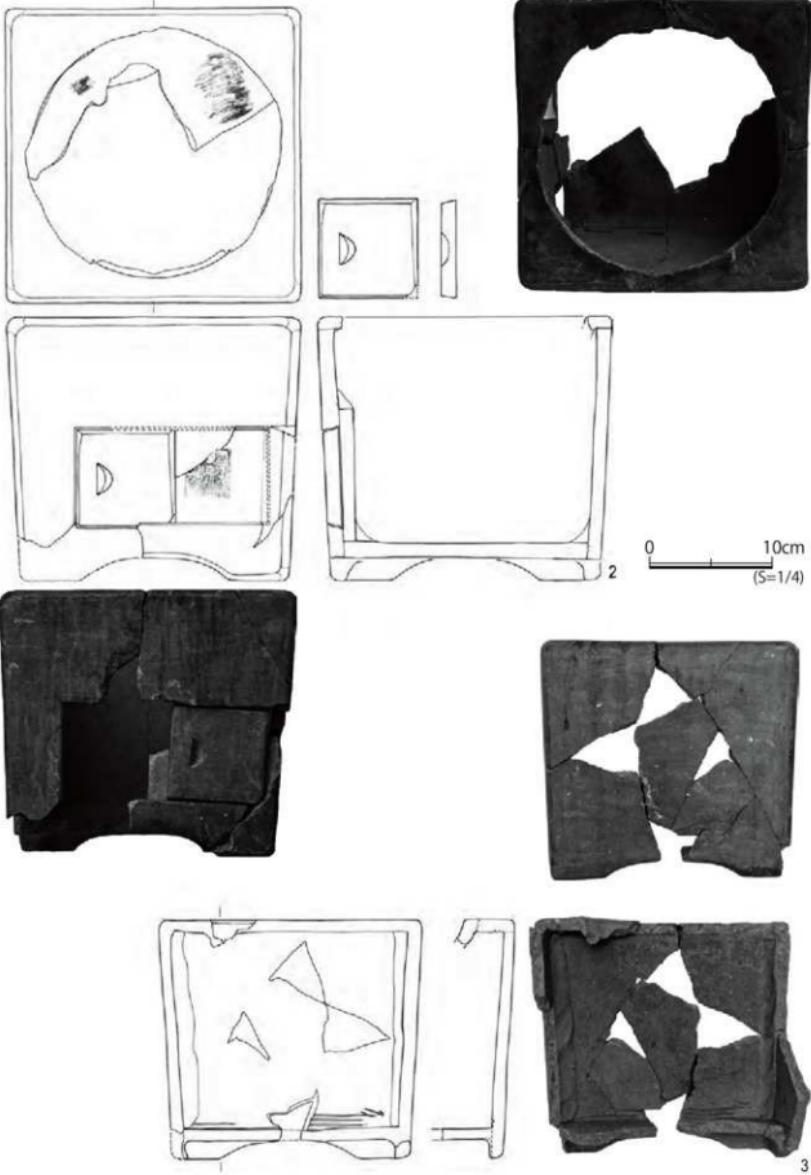


图 89 近代造構出土土器焜炉 (2)

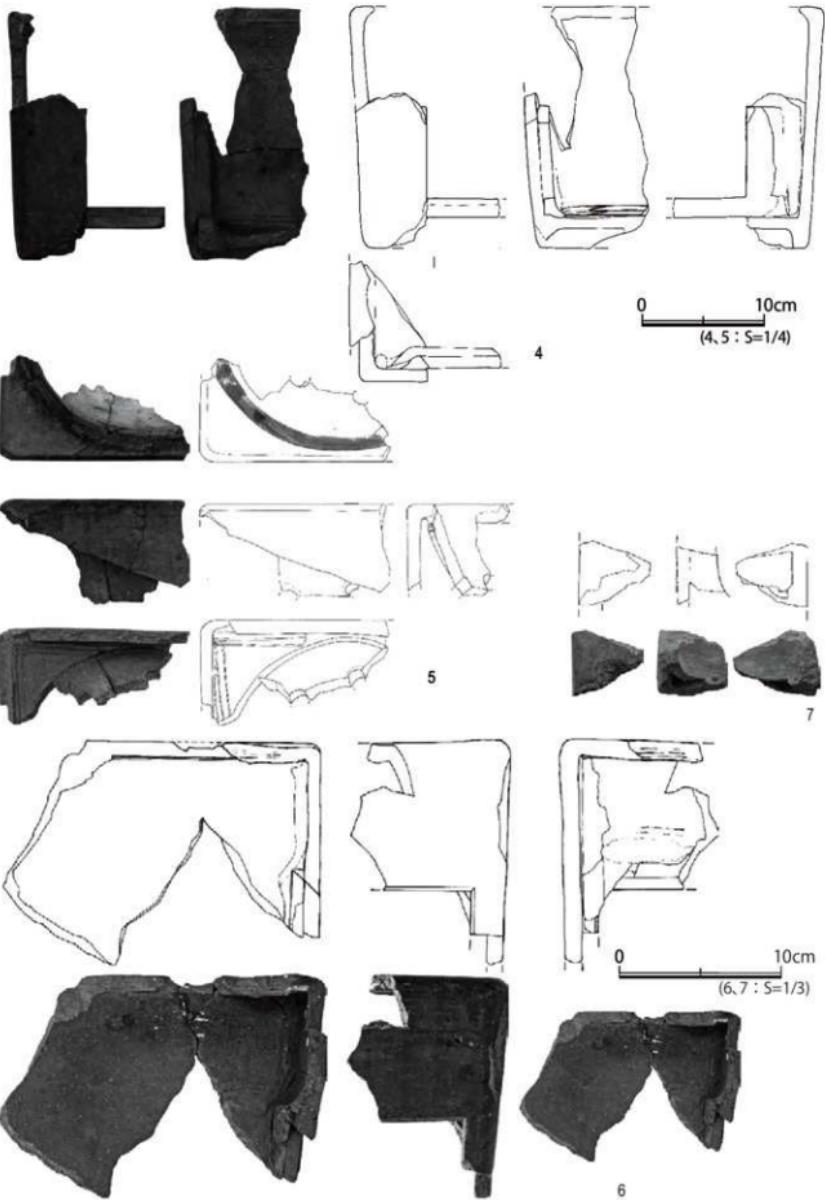


图90 近代遗構出土土器焜炉(3)

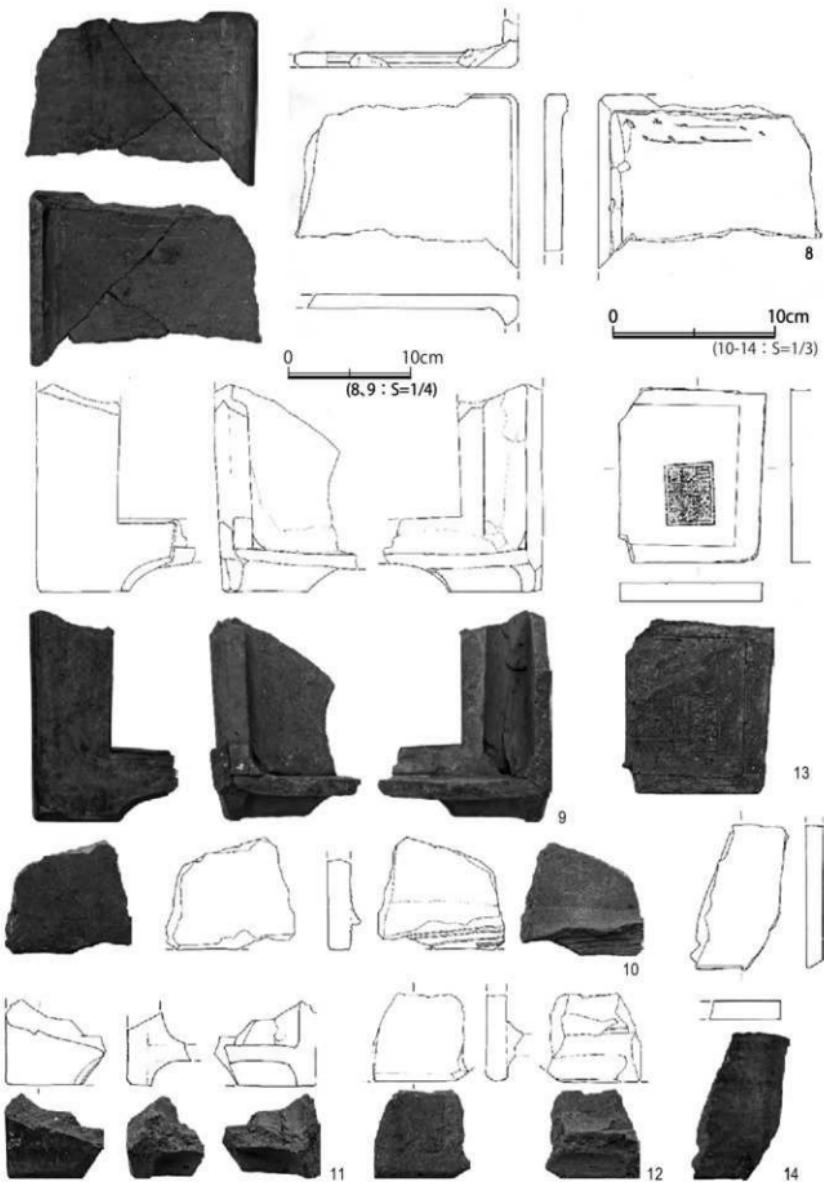


図91 近代造構出土土器焜炉(4)

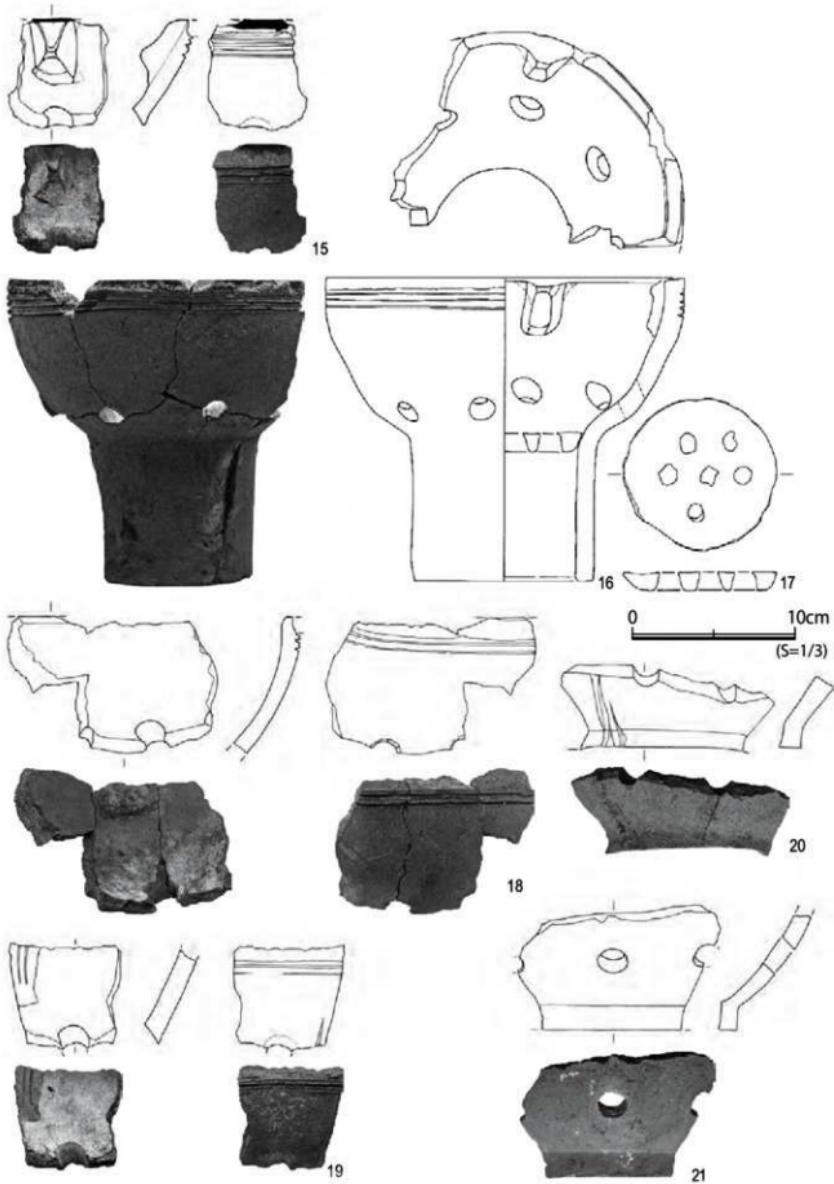
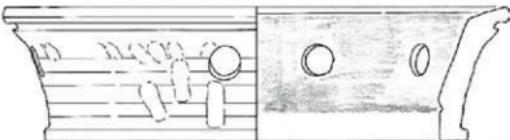


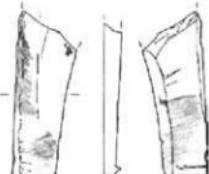
图92 近代遗构出土土器焜炉(5)



22



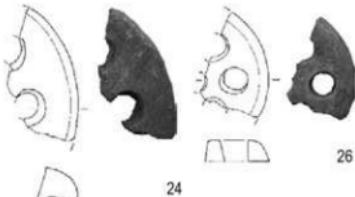
28



23

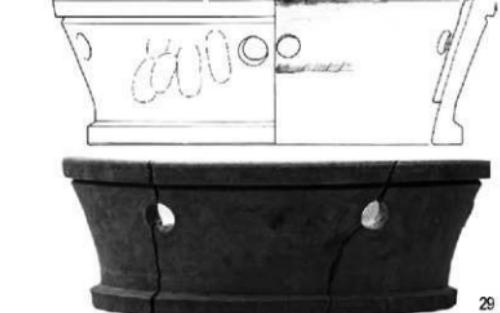


29

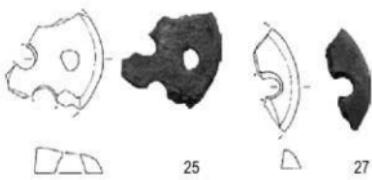


24

26

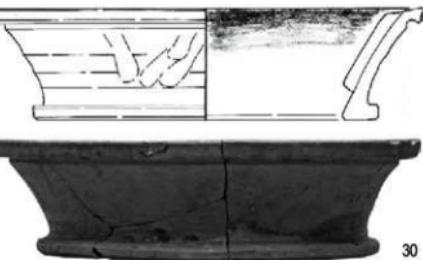


30



25

27



31

0 10cm
(S=1/3)

図93 近代遺構出土土器ワッパ

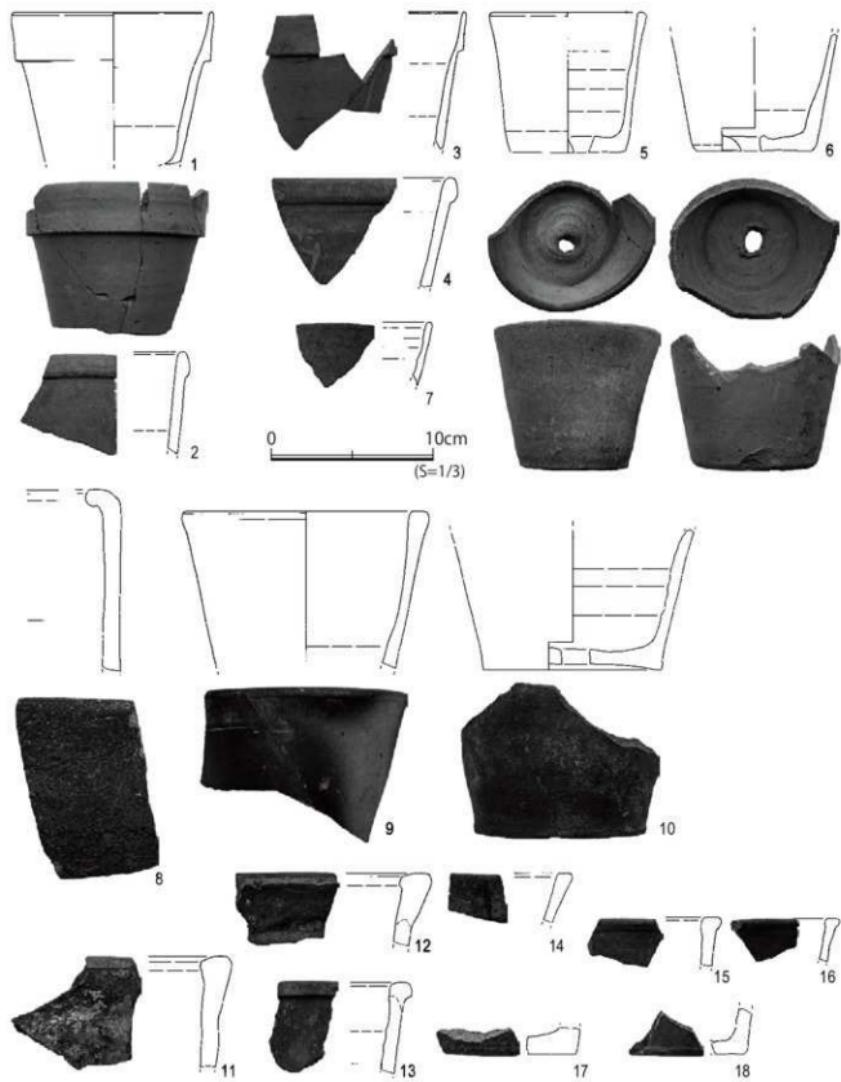


図94 近代遺構出土土器植木鉢

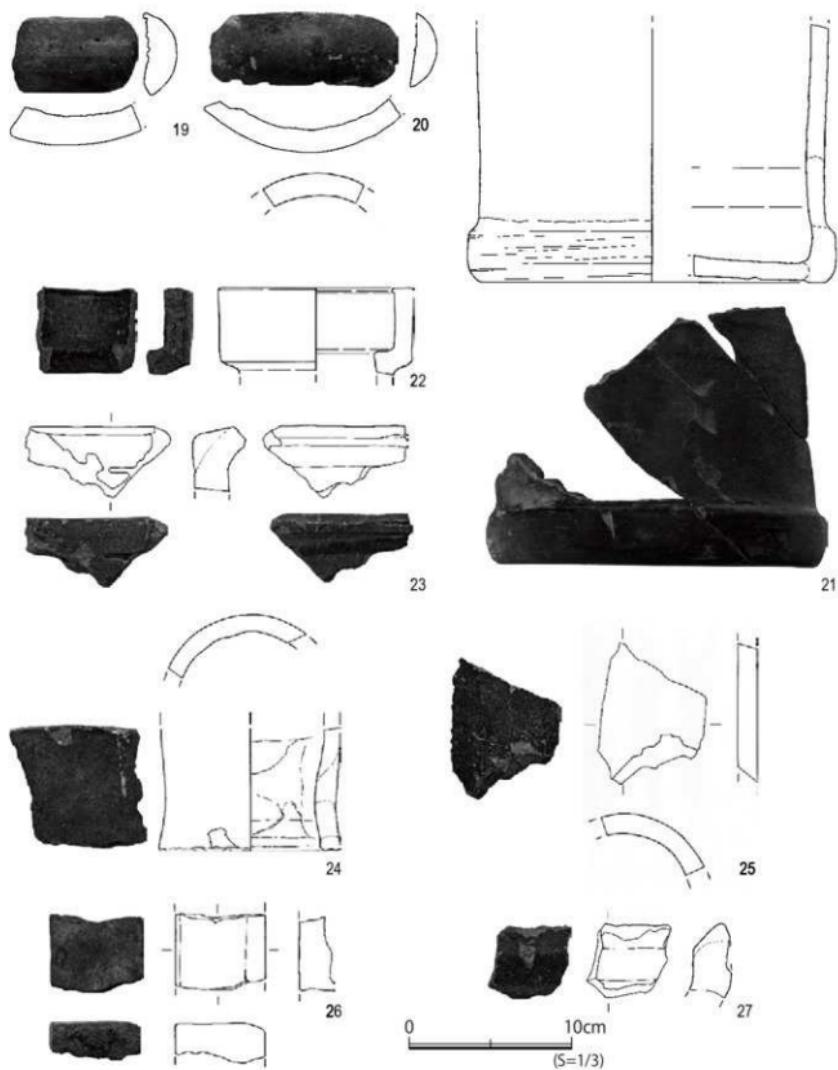


図95 近代遺構出土土管

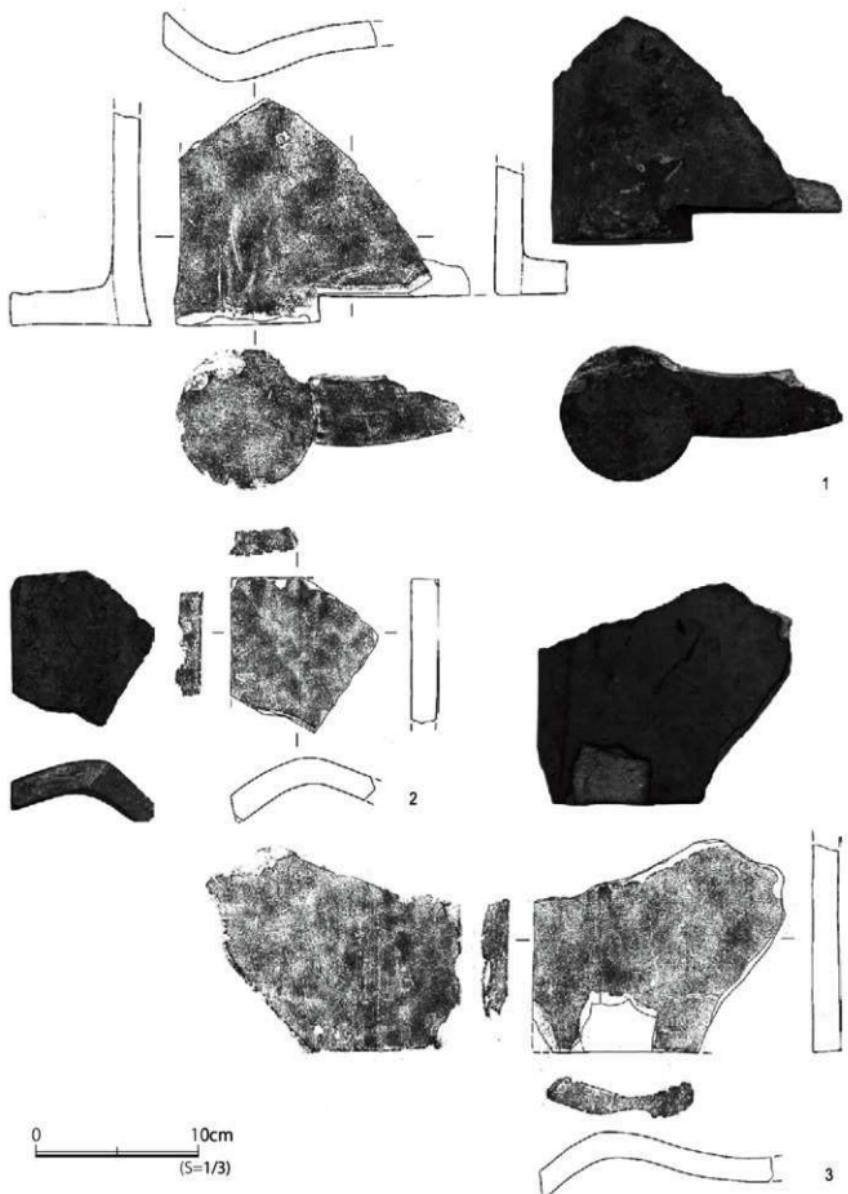


图96 近代遗构出土瓦 (1)

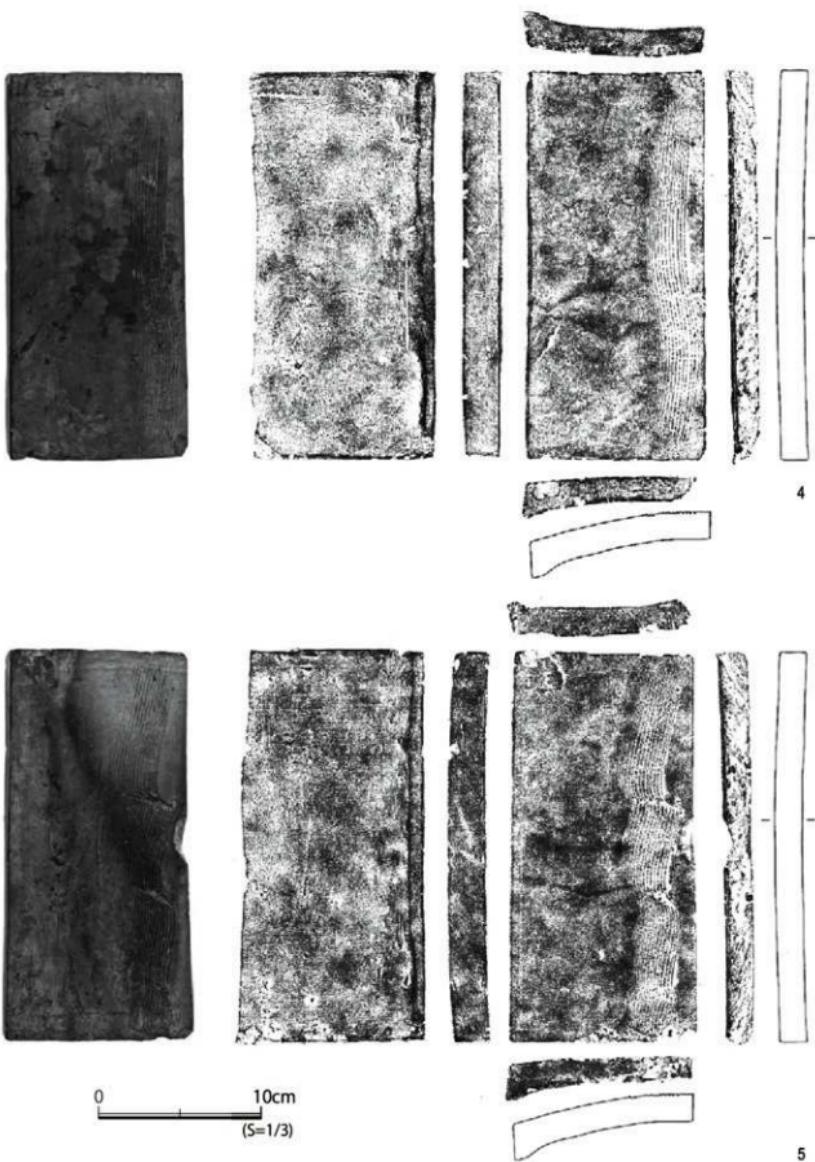


図97 近代遺構出土瓦(2)

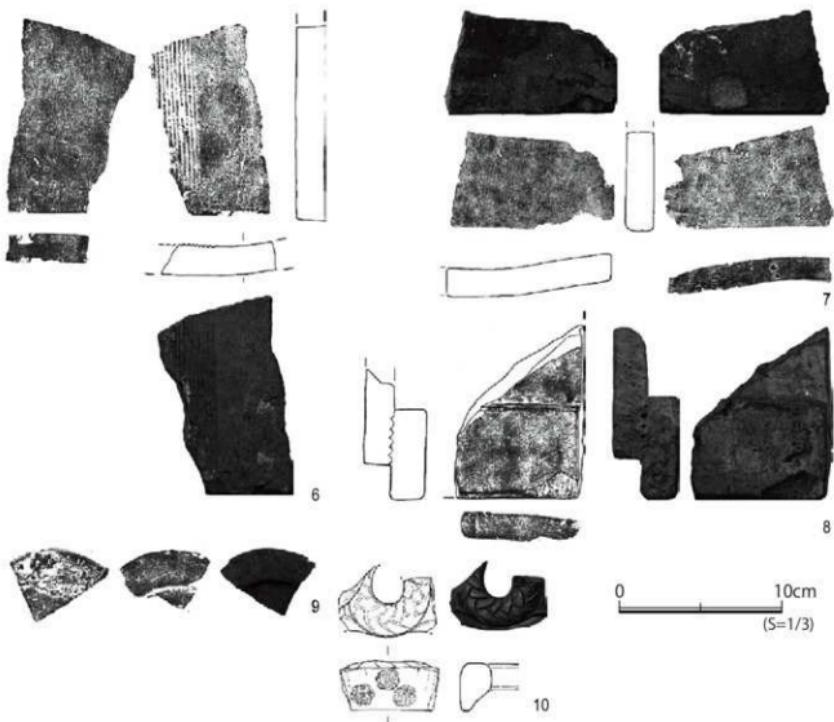


図98 近代遺構出土瓦 (3)

8-5. 瓦 (図96～98)

数がさほど多くはない。1は軒棟瓦、2、3は軒棟瓦。4～5は駁斗瓦、6～7は平瓦、8は道具瓦、9は軒丸瓦。10は瓦かと思われるが、小破片で詳細不明。

8-6. ガラス製品 (図99～112)

瓶を主として大量のガラス製品も出土している。それぞれ器種別に述べる。

飲料水瓶 (図99～101)

1～5はビール瓶。1は底部に「R&CO 40」のエンボスがあり、輸入ビールである。2は肩部が明瞭に屈曲しているが、3から5はなで肩。エンボス等はないが国産品か。6～10は内容物は不明だが飲料水瓶と思われる。11はサントリーオールドの瓶。遺構1の第1層出土。13はワイン瓶か。14は清酒瓶。15～17は牛乳瓶。4は「(特) 別上等 全乳」「柴崎」のエンボスがあり、現在も長谷にある柴崎牛乳店の

特注瓶。5は「全乳」のエンボスがあるが、店名などはみられない。17は明治牛乳の瓶だが遺構からの出土状況は不明。18は「志水」と読めるエンボスあり。ひょうたん型の小瓶で、ニッキ水の瓶か。

調味料瓶(図102)

19は「SCOTT'S EMULSION」のエンボス。舶来品の肝油瓶。20は形態からカレー粉瓶と思われる。21、22は底部にエンボス。味の素の中瓶。22は栓のコルクが残存したままで出土。23も舶来品のソース瓶。蓋のみで瓶は不明。

化粧品瓶(図103～105)

白粉、水白粉の瓶などが多い。24は平尾賛平商店の「乳白色水レート」瓶、25は同じく平尾の「レート水白粉」瓶。いずれもエンボスあり。26は形態より「御園四季能は奈」の瓶かと推定される。27～35はブランドなどを示すエンボスはないが、白粉などの化粧品の瓶か。36は桃谷順天堂の「白水美顔水」瓶。37は36に形態が類似し、同様の化粧品瓶と思われる。38～45は円筒形の胴部に細長い首のタイプで化粧品瓶と思われる。42は御園の月、43は板橋百花堂の白粉水瓶の可能性あり。44、45は形態から香油瓶かと思われる。46～48はやや小型で同様に化粧品瓶と推定される。

49～53、54～57は背が低く胴部が広めの瓶で、御園白粉かそれに類する製品の瓶と思われる。白色沈殿物の残る例がある。蓋と身がそろって残る例が多い。54は胴部がやや高いが類似した形態の瓶。58～64は同様のフォルムで小型の瓶。胴部の高低の差がある。65、66は金属製の蓋付の瓶。蓋に「御園」とマークのエンボスがあり、御園白粉の支給品の瓶と思われる。

67は香水瓶の類か。底にA.F.のエンボスあり。68は桃谷順天館の「白色美顔水」瓶。69は舶来品の香水瓶。70は「MUSK」のエンボスあり。やはり舶来品か。

75～81は乳白色ガラス瓶。75は大学白粉のエンボスあり。76はエンボスがないが75と形態が類似し同種の白粉瓶であろう。71、72は同一形態。壽美禮白粉の瓶か。73、74は底部に平尾分店のエンボスあり。パール練香油の瓶か。77はレートクレームタイプの瓶。78、79はその小型。レートクレームの類似品化粧品瓶と思われる。80、81については不明だが、クリーム類の浅い瓶か。

文房具(図106)

82～92はインク瓶。82は底面エンボス「Carters」。舶来品。スポットが付属した状態で出土。83～85は胴部エンボス「Caw's Ink」。同じく舶来品。エンボスはすべて同じで形態は微妙に異なり、85のみやや背が低い。86～89は丸善インク。すべて底部に「M」のエンボス。90は胴部エンボス「帝国インキ」。91、92はメーカー不明。91はコルク栓で密封され、内部にインクが固化して残存。93～94は用途不明だがインク瓶の可能性も。95も不明。96～103は糊瓶か。99～102は形態、エンボスともほぼ同じ。色調には違いがあるが、同一メーカー品と思われる。103は浅いが糊瓶の類か。

薬瓶(図107、108)

104～116は計量瓶。いずれもエンボスによる目盛りがある。106は新井醫院、107は中鶴見科院のエンボスあり。不確定だが新井醫院は鎌倉の病院、中鶴見科院もその可能性がある。108～109は病院名はなし。110～116は小型。113はコルク栓で蓋をしたままである。

117、118はシリンダー。サンドブラストにより目盛りや文字が入れられる。文字については詳細不明。



図99 近代遺構出土ガラス製品 瓶(1)



図100 近代遺構出土ガラス製品 瓶(2)

119もシリンドラーか。120はスポット。

121～126、131～134は家庭用薬品の瓶。121は神戸精々薬館、122は丹平商會製の「健脳丸」。123は「大木製剤」、124は東京尾澤製の「全治水」、125は田尻クレヲソートである。126はエンボス無しのため不明だが125の形態とほぼ同じ。

127～130は小型の計量瓶に類似し、薬瓶の類と推定されるが、薄くてエンボスもない。131、132は

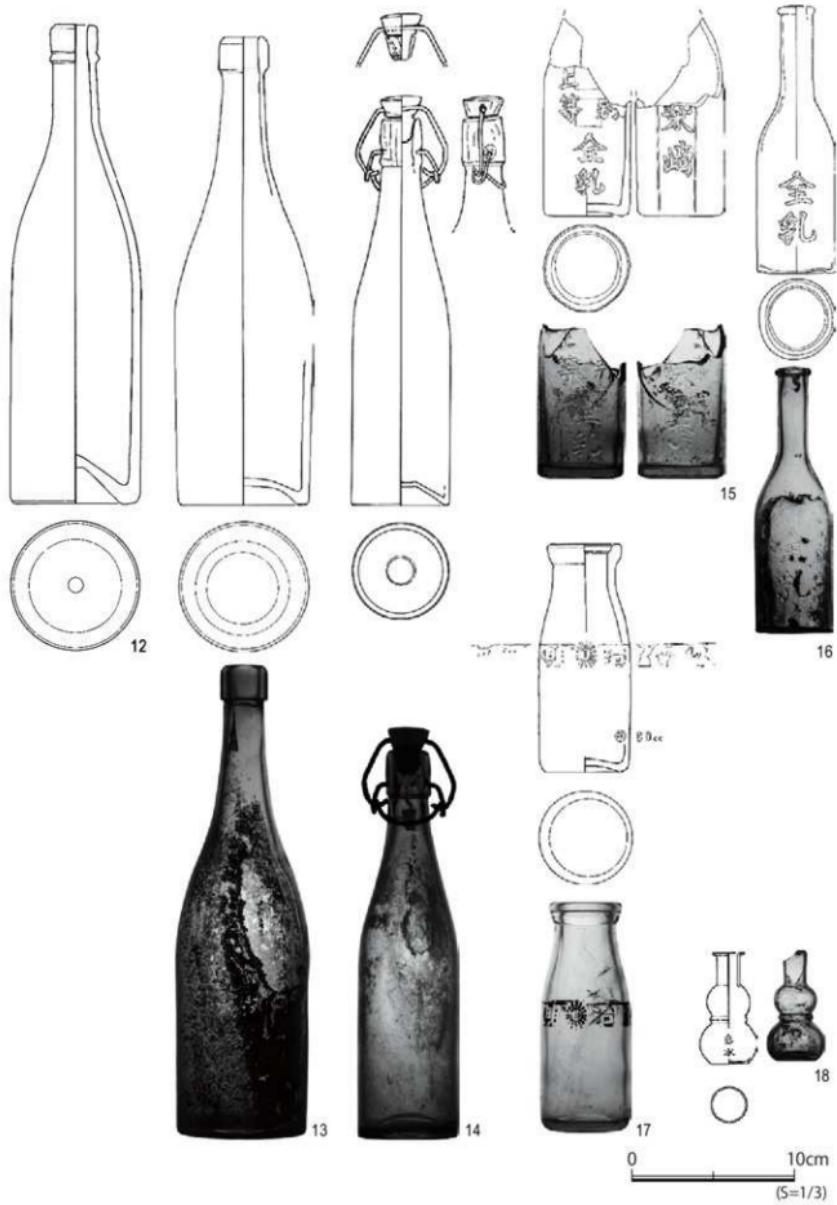
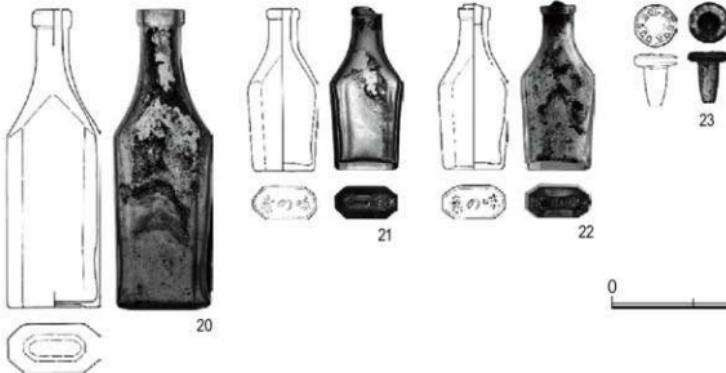


図101 近代遺構出土ガラス製品 瓶(3)



19



21

0 10cm
(5=1/3)

図102 近代遺構出土ガラス製品 瓶(4)

参天堂薬坊の「大学目薬」、133は山田安民の「ロート目薬」。134は丸薬入れか。135は深い青色のガラス瓶でおそらく薬瓶。半円筒形の木製品を2つ合わせた木製の瓶入れにはめ込んだ形で出土。

家具等(図108~110)

136~140はプレスガラス。136、137は入れ物。138、139は小型の入れ物。140は皿。141は砂糖入れの蓋か。142はランプシェードか。143、144はコップ。144はサッポロビールのマークのプリントがある。145はプラスチック製のボトルか。メーカー不明。150、151は小型の入れ物。146~149はグラス。146はサンドプラストによる文様がある。152、153はランプシェード。154もランプの一部か。155、156は豆ラン

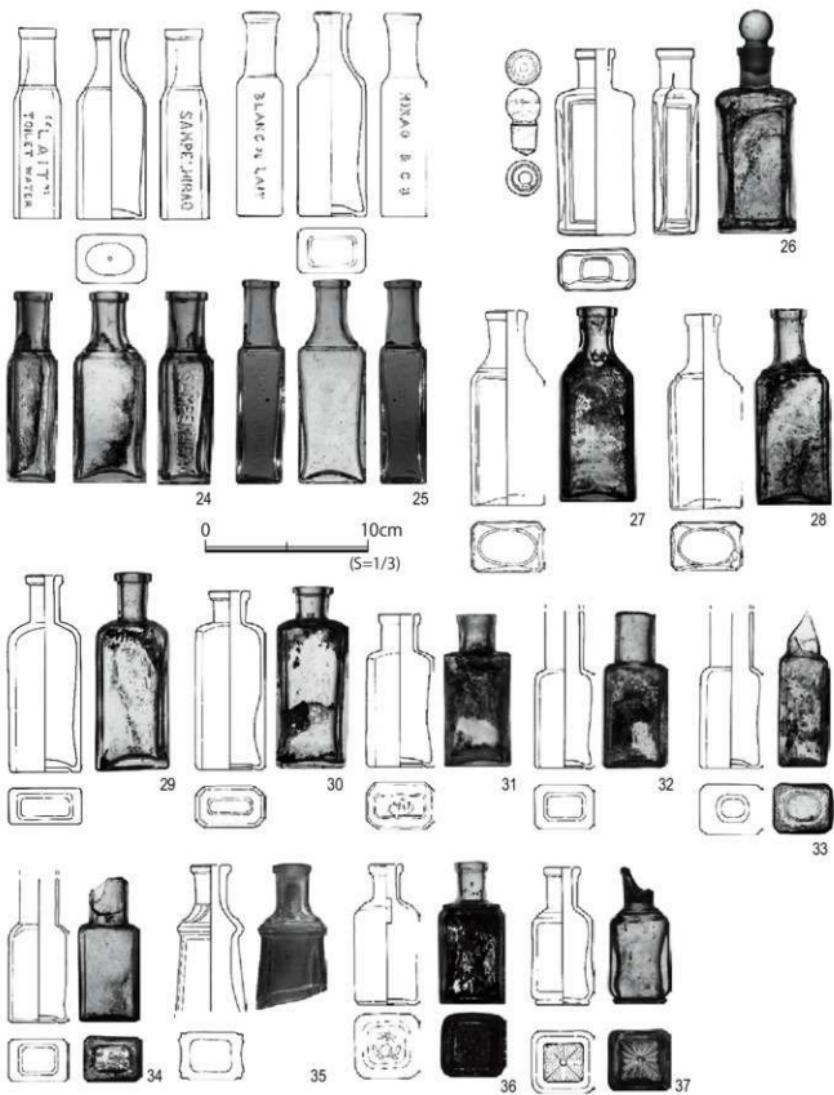


図103 近代遺構出土ガラス製品 瓶(5)

のホヤ。157は不明だがランプにかかわるものか。158～160は豆ランプの油壺。161～164はねじりのあるガラス棒。ガラス製の箸か簾と思われる。165～167は蓋か。165は書生。166は達磨、167は犬。

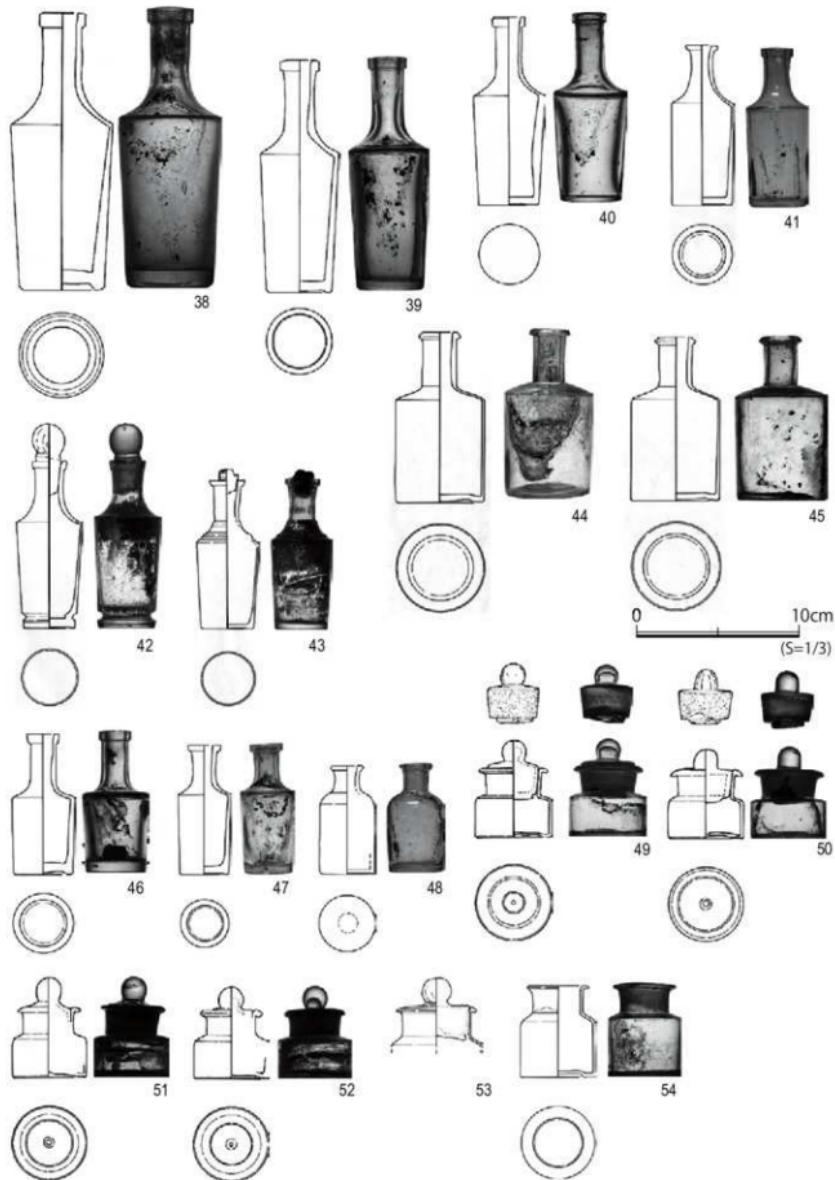


図 104 近代遺構出土ガラス製品 瓶 (6)

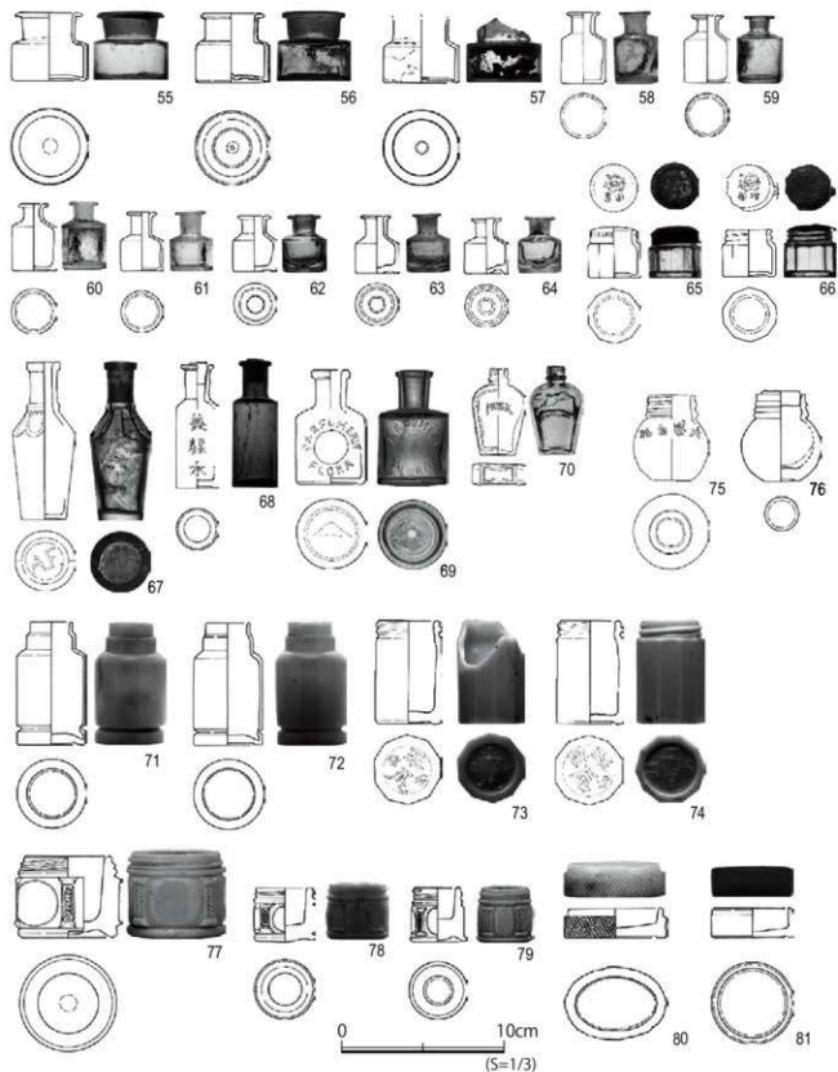


図105 近代遺構出土ガラス製品 瓶(7)

いずれも背面に小松崎製のエンボスあり。166と167には下部にスクリューが付く。内部がスス状付着物で汚れており、ランプに関係するもの可能性もあるが詳細は不明。

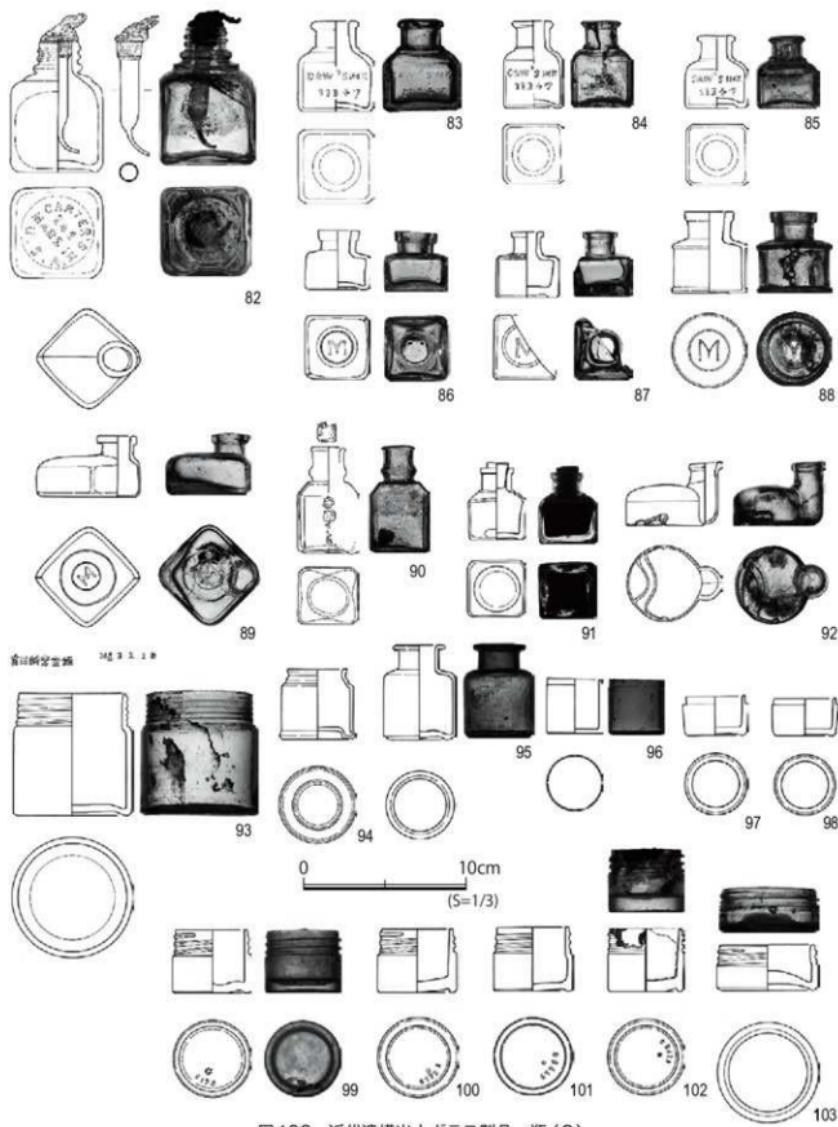


図 106 近代遺構出土ガラス製品 瓶 (8)

遊具 (図 110、111)

168～184は石蹴り。168～176は大型。177～180は中型。181～184は小型。模様は10種類。168、

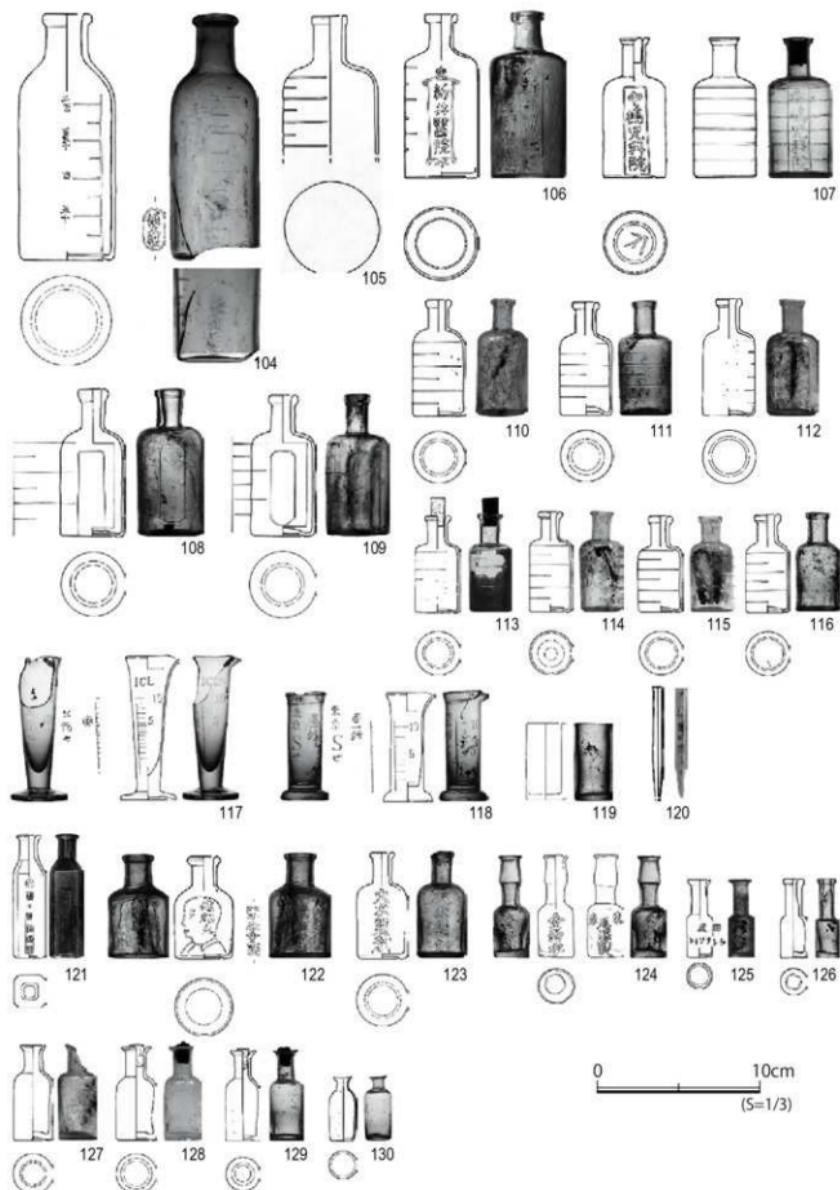


図107 近代遺構出土ガラス製品 瓶(9)

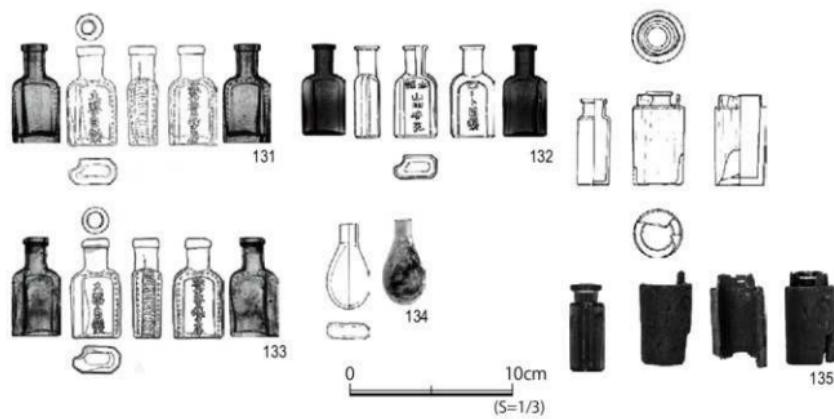


図108 近代遺構出土ガラス製品 瓶(10)、食器、家具

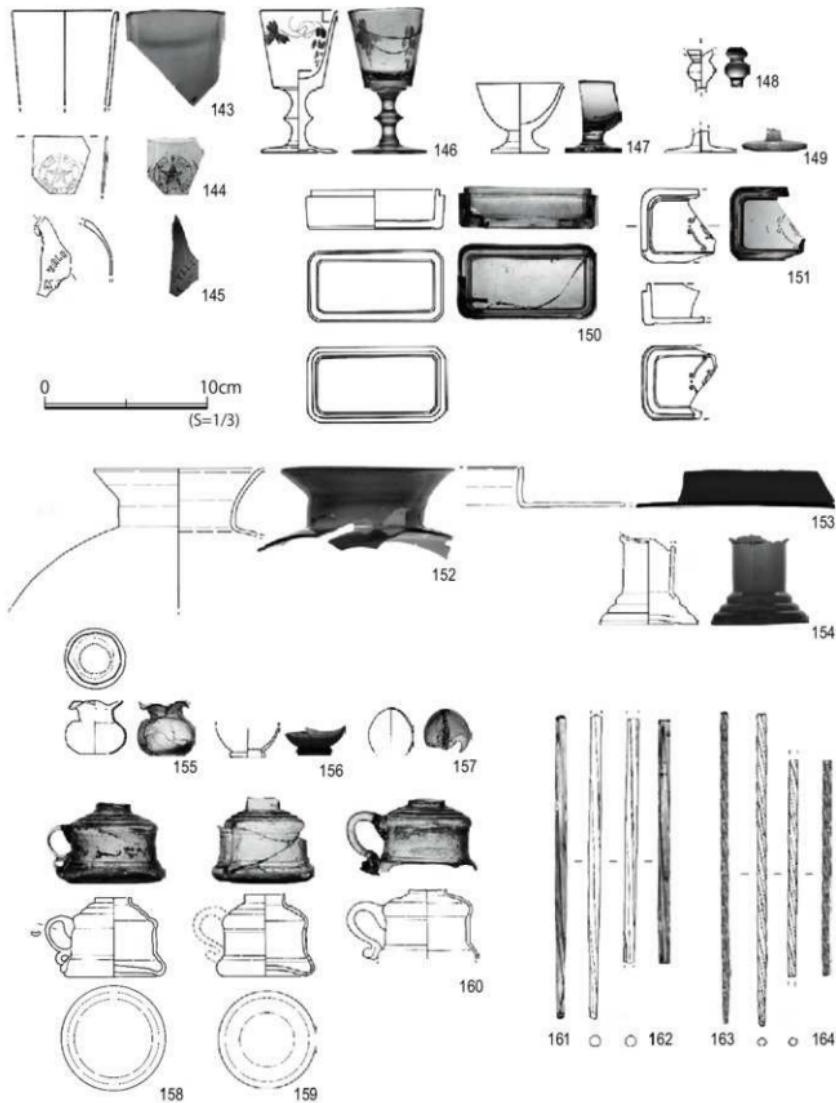


図109 近代遺構出土ガラス製品 食器、家具類

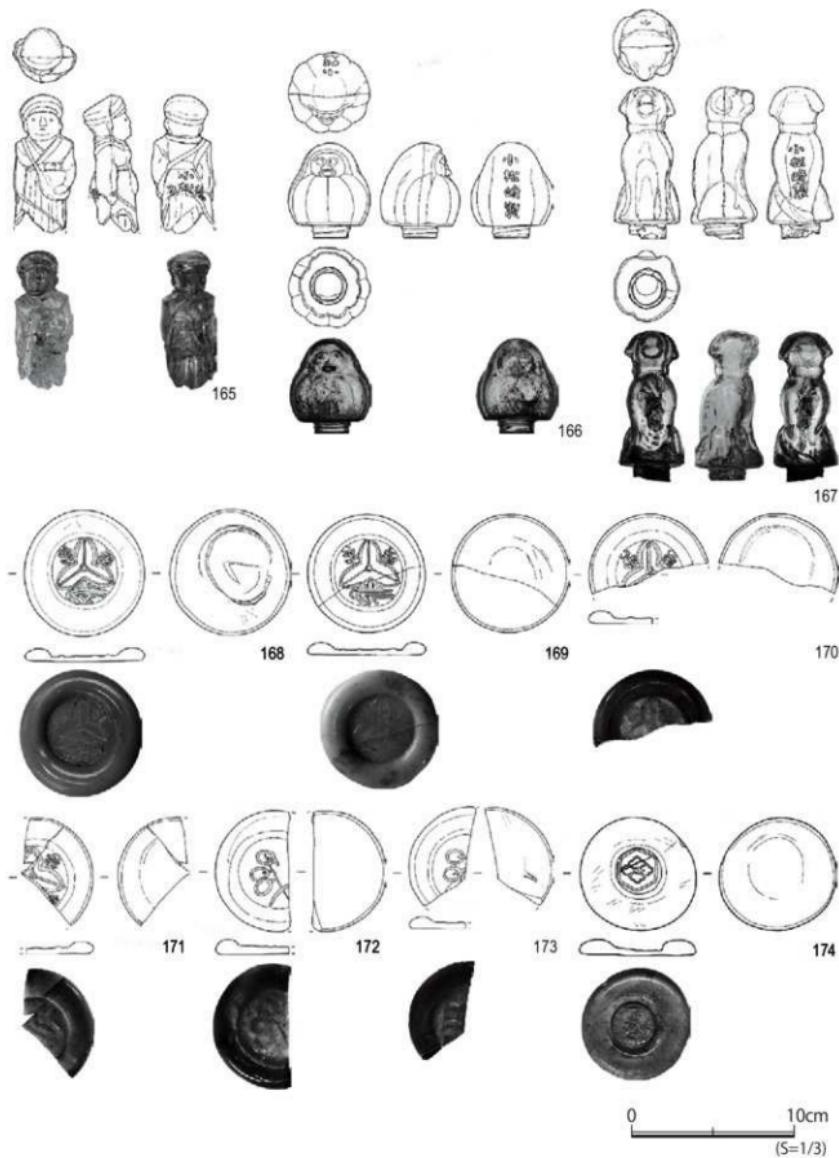


図110 近代遺構出土ガラス製品 遊具

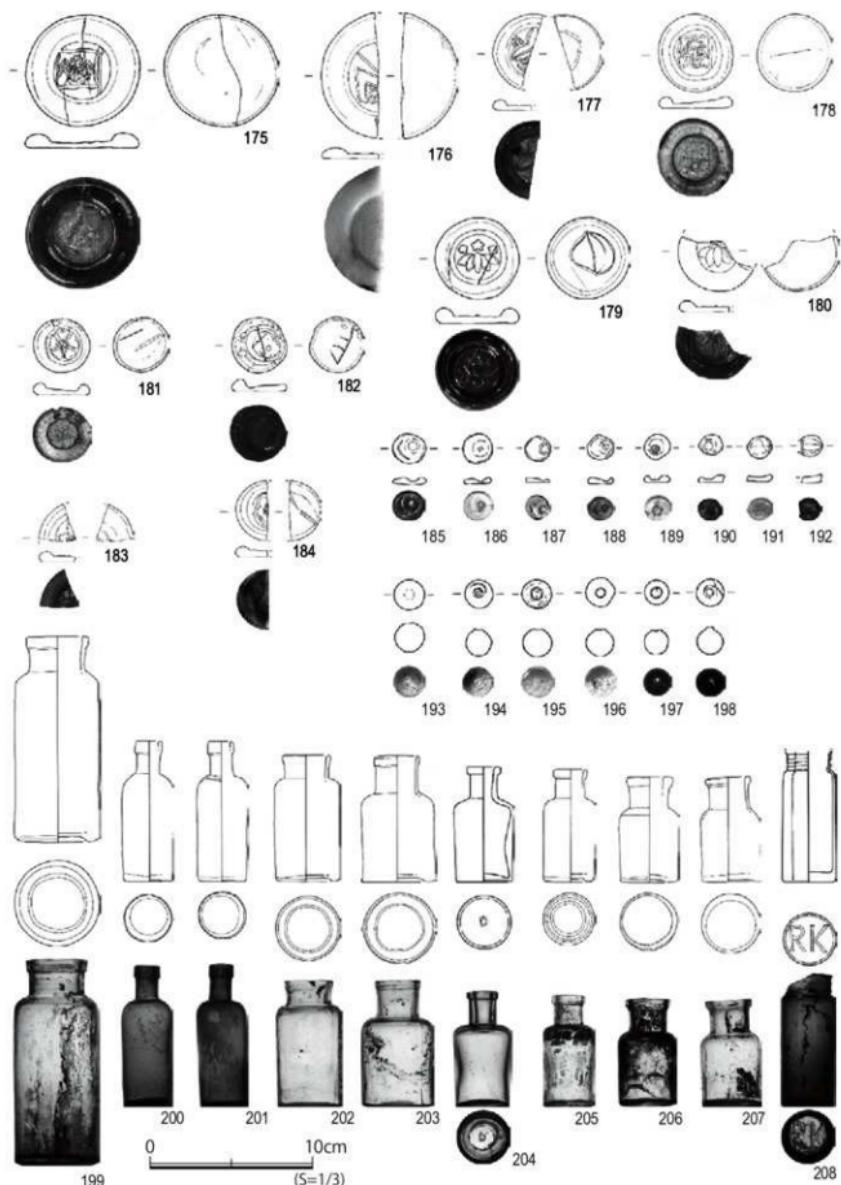


図111 近代遺構出土ガラス製品 遊具、その他

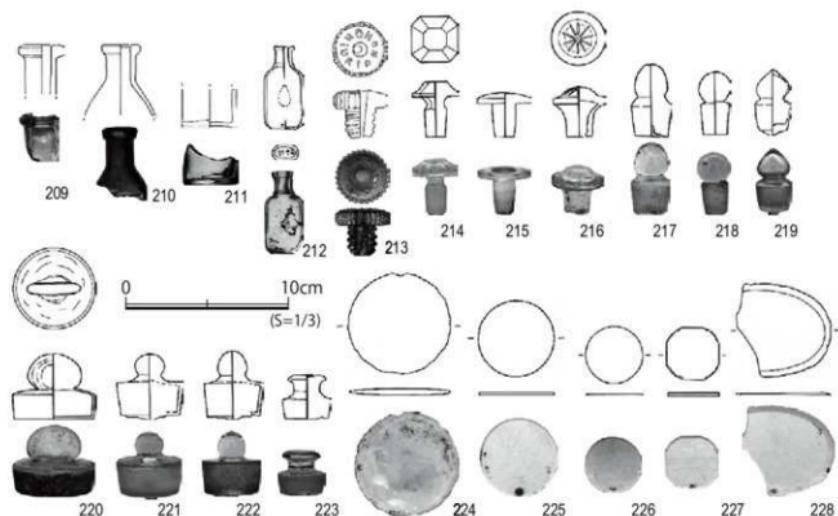


図112 近代遺構出土ガラス製品 その他

168～172、180は同一文様。172と173、175と178、179と180も同一である。185～192はおはじき。193～198はビー玉。193は作りがよいいわゆる「A玉」。

その他ガラス製品(図111、112)

199～208は用途不明の小瓶。208には底面に「R.K.」、212には「1176」のエンボスあり。213～223は瓶の栓。213は唯一スクリュー栓で「HONIUKI」のエンボスがあり、哺乳瓶の栓。214～219は化粧品瓶の栓だが対応する瓶の身が不明。220～223は御園白粉瓶に類似の白粉瓶の蓋と思われる。身とは合わない。栓には擦れた跡がある。

224～228は加工ガラス板。ほとんどは正円形に加工している。透明度はやや低い。用途不明。

8-7.石製品(図113、114)

出土量は少ない。1、2は硯。いずれも破損。2の海には朱墨が付着している。3～9は碁石。3～5は黒、6～8は白。9は碁石の可能性あり。10は鹿角製の遊戯道具か。11、12は大理石の球体。用途は不明。

13、14は荒砥。15、16、18は中砥。16～18は合掌寺産。17、19～21は仕上げ砥。上野、鳴滝産。22～24は端材石。26～28は工業用の石材。加工痕あり。29は蠅石か。30は摺り痕のある石材。31は鉛筆状に先端の尖った石。

8-8.金属製品(図115～125)

金属製品は数量、種類ともにやや多い。器種毎に分けて述べる。

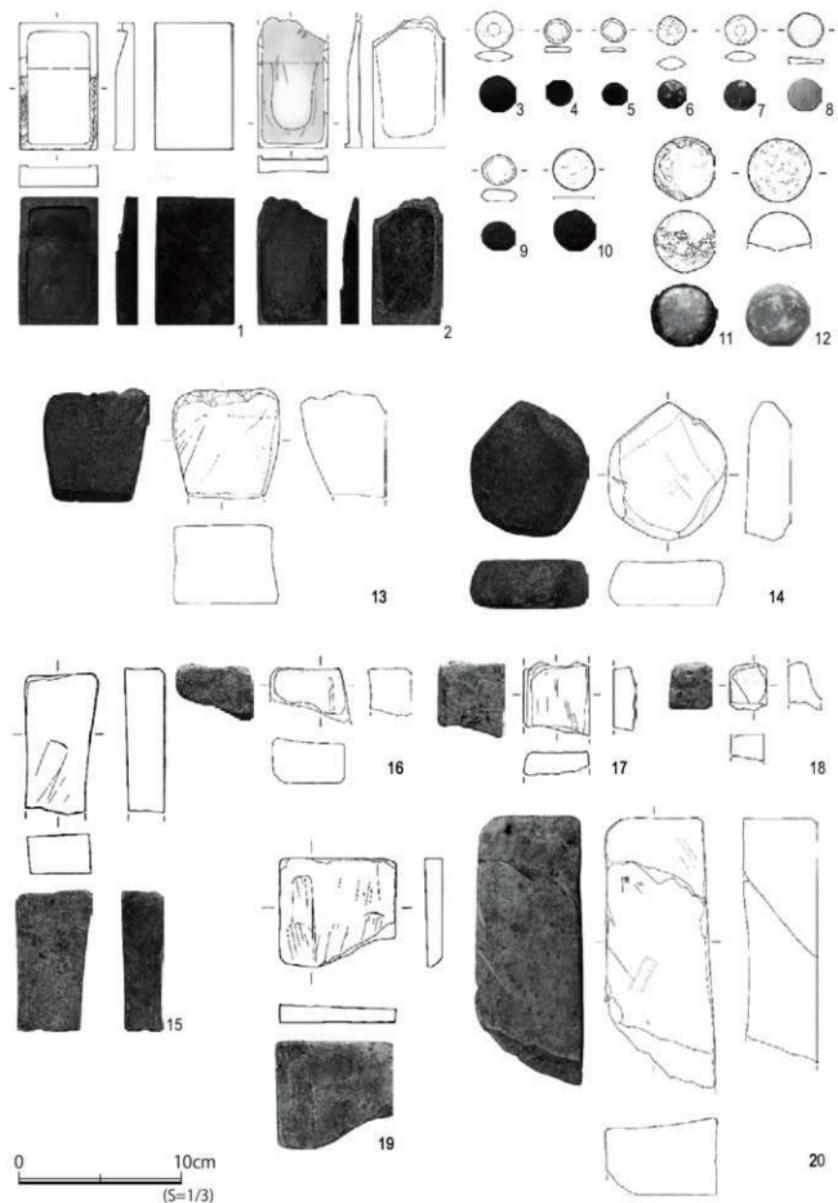


図113 近代遺構出土石製品(1)

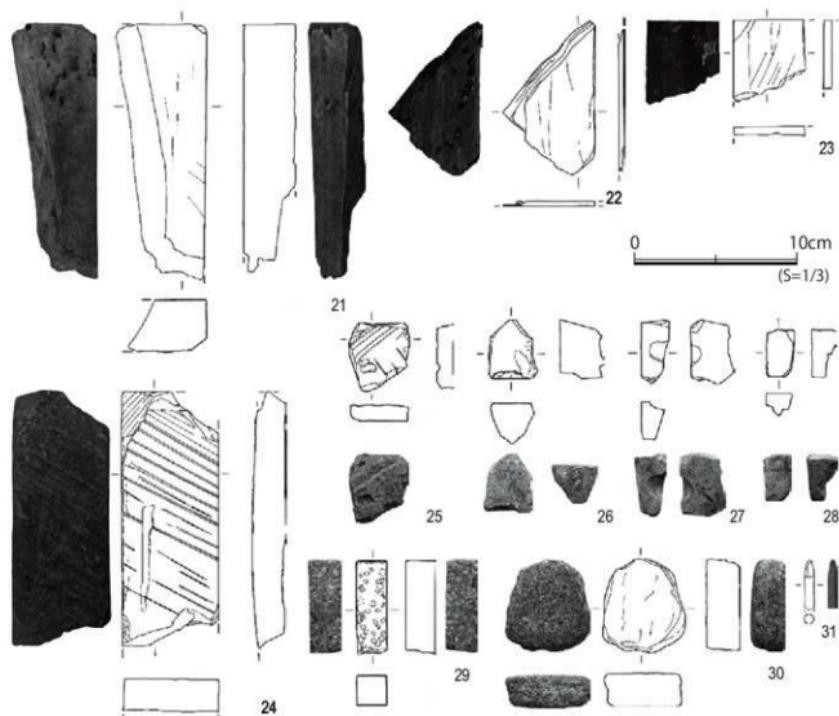


図114 近代遺構出土石製品(2)

ホーロー製容器(図115、116)

1、2は鍋。1は底部が残存せず。4、5は鍋の把手か。3、6、7、9は丸底の皿状製品。3は8点の穿孔あり。用途不明。8は漏斗状製品。10はスコップ形製品。11、12は容器の蓋。13は円錐状製品、14はフラスコ状製品。

五徳類(図117、118)

21は五徳。16は平行の火皿。17～19は放射状の火皿。20は方形のスノコか。22は把手付き。15もスノコ的な用途のものか。いずれも鉄製。

小物類(図118～120)

23、24は一銭銅貨。25は銅製のメダル。背面に「明治三十七八年戦没 救護記念章 日本赤十字社」とある。日露戦争時のもの。26、27は海軍の制服のボタン。28、29もボタンか。30、31はアルミ製「寶丹」の容

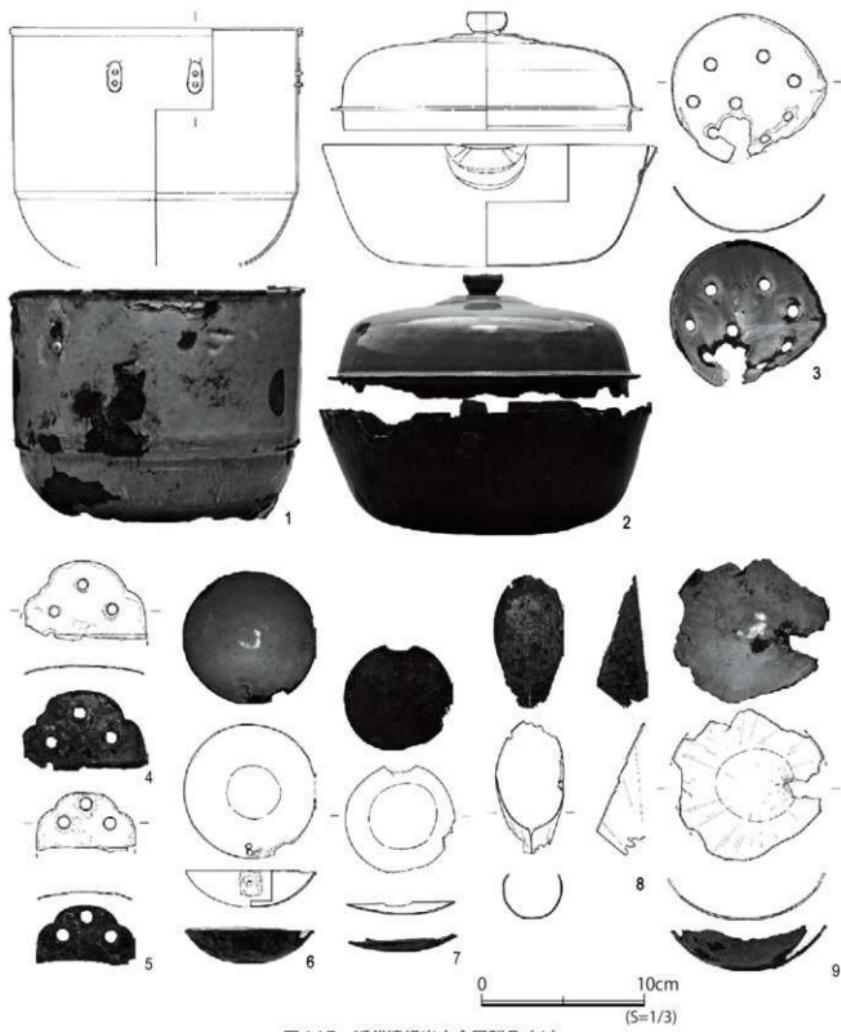


図115 近代遺構出土金属製品(1)

器。「大日本 登録商標 起死回生 寶丹 守田氏製」の陰刻あり。大きさに差があり。31は身、蓋が描っている。32は扇子をあしらった飾り。「JAPAN」の陽刻あり。33、34は王冠。33は一部文字が確認できるが、メーカーなどは特定不可。35、36は財布のガマ口。35は3重になっており、口が2つになる。36は二重。37～39は薬莢でいずれも舶来品。40、41はキセルの吸い口。42は寒暖計の板。撰氏と華氏の目盛りを刻む。43はハーモニカ。44は腕時計の部品図。メーカーなどは不明。45は足袋の小鉤。46、47は鉄製鍼。

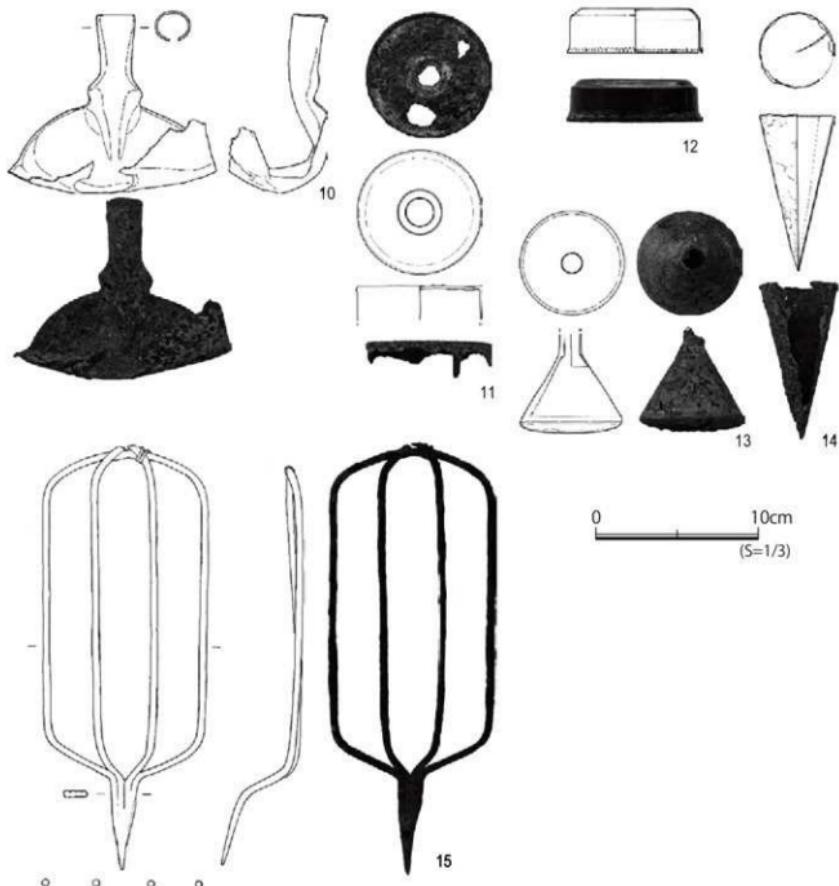


図116 近代遺構出土金属製品(2)

48は留め具、49は蓋か。50は車輪状金具。51はバネ状金具。52、53は用途不明である。

54、55は2本軸の脛。56は1本軸の脛。57はアルミニウム製の計量匙。59は銅製スプーン。60はホーローの蓮華。61はナイフの柄か。62はピンセットか。63は南京錠。64、65は鍵のバーツか。66は小箱の蓋。67、68はふすまの引手。69～72は真鍮製、鉄製の小箱。

73は穿孔のある銅片で用途不明。74は一端にネジのある筒。75は自転車のハンドル支え、77はペダル。76も自転車の部品か。78、79はコンクリートの付着した棒。80は用途不明。金属製の棒に円形の輪が付く。81、82はやはり用途不明。ゴム製の円環に棒状部品をネジで差し込む。82は棒状部品が失われたものと思われる。83は鉄製の環状製品。84は鉄製板。一端が折れ曲がる。85は真鍮の部材でドアの部品か。

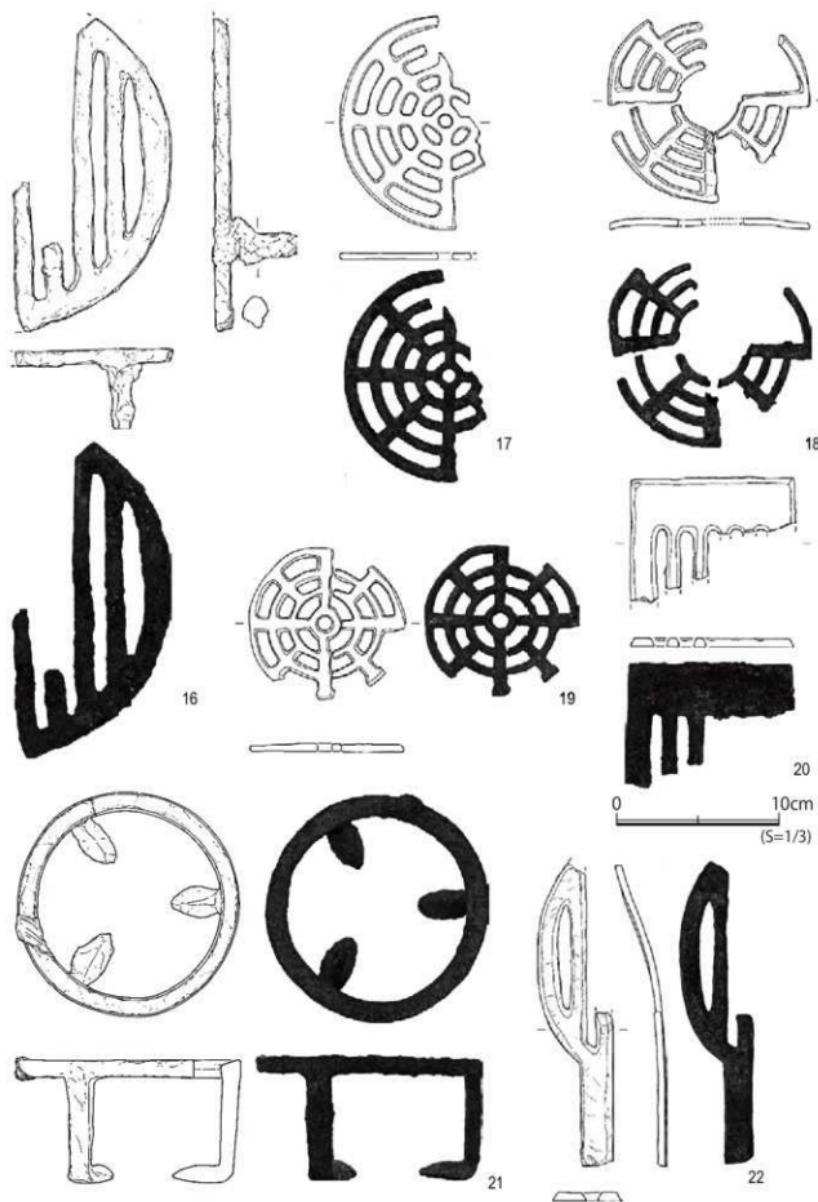


图117 近代遗构出土金属制品(3)

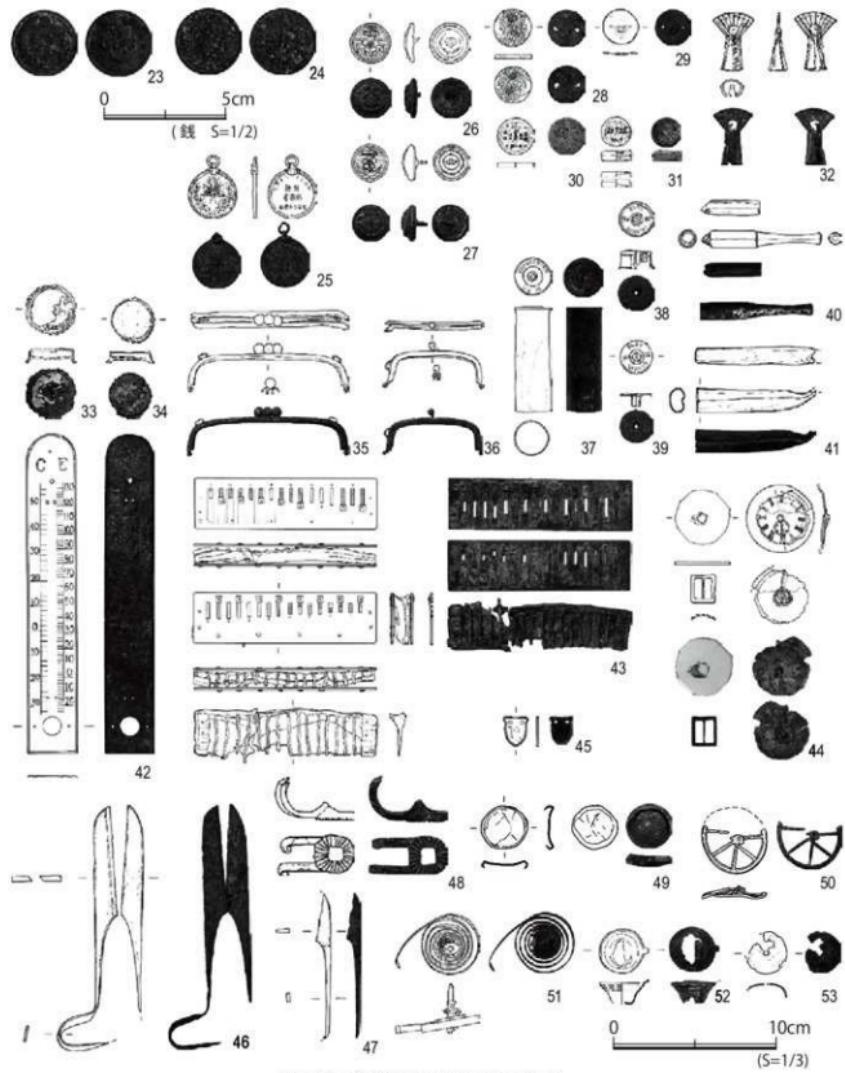


図 118 近代遺構出土金属製品 (4)

正確な用途は不明。小孔が4点あり、一点はビス留めされた鉄板が付着している。86は銅輪で巻き付けた針金が残存。87は鉄輪。88は穿孔のある鉄片を木に差しこんだもの。用途不明。89は鉄輪に細い鉄片を折り曲げてつけたもの。90は銅製の短い穿孔のある棒に銅輪を通したもの。91は鉄製の管状部品。

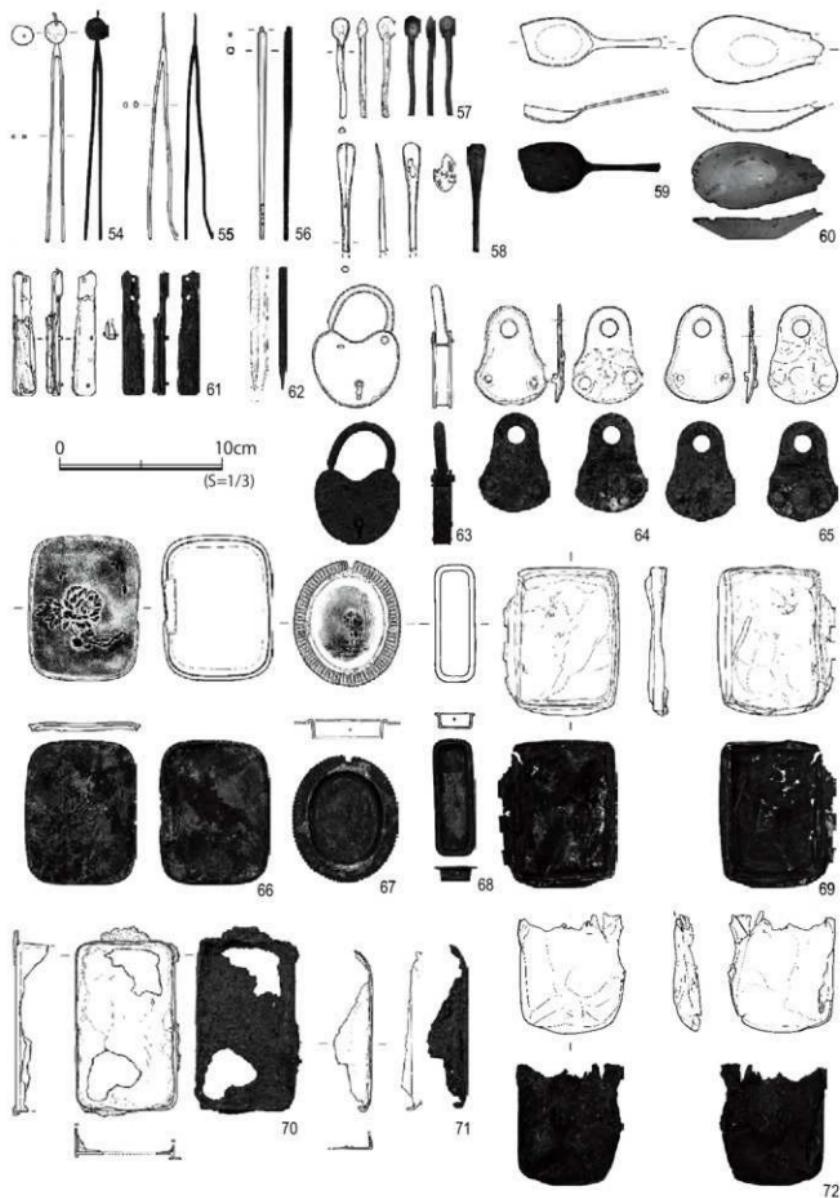


图119 近代遗构出土金属制品(5)

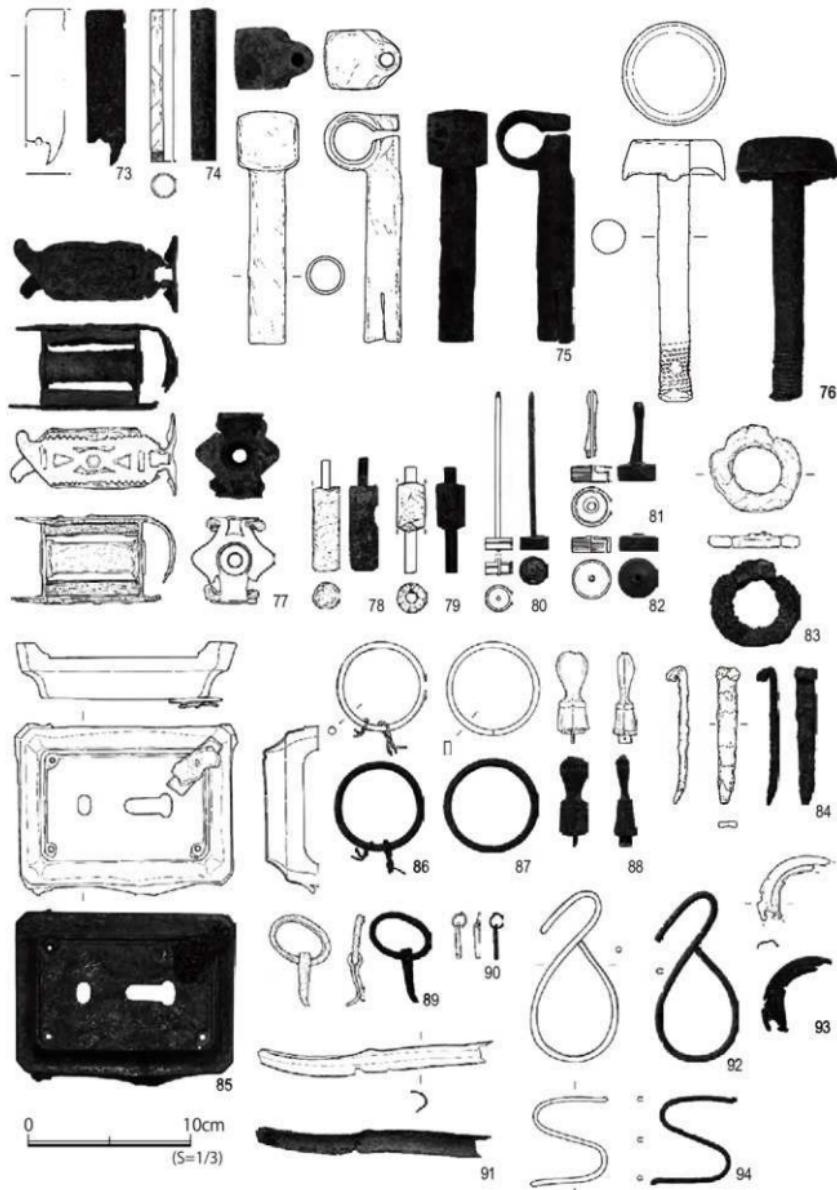


図 120 近代遺構出土金属製品 (6)

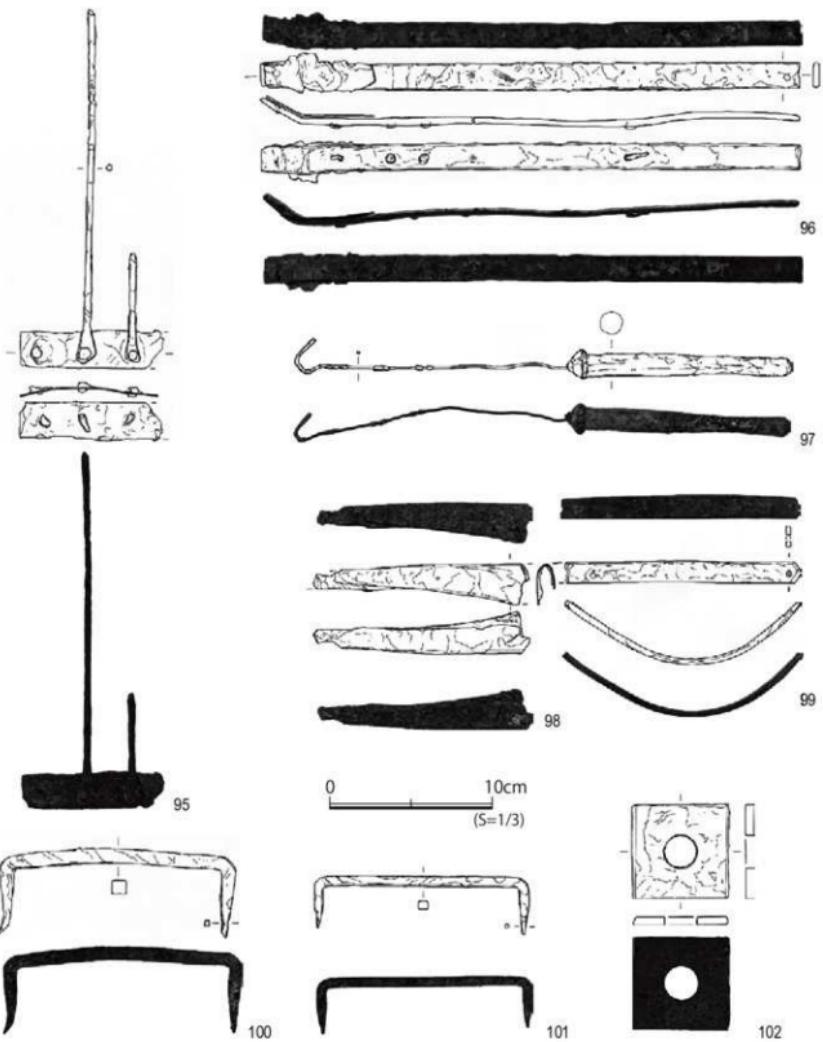


図121 近代遺構出土金属製品(7)

92、94は鉄銭を折り曲げたもの。93は銅製で円形の部品。用途不明。

部材(図121)

95は用途不明。鉄製の長方形の板に棒状製品を鋲止め。96は長方形の鉄板。一端がくの字に折れ曲がり、

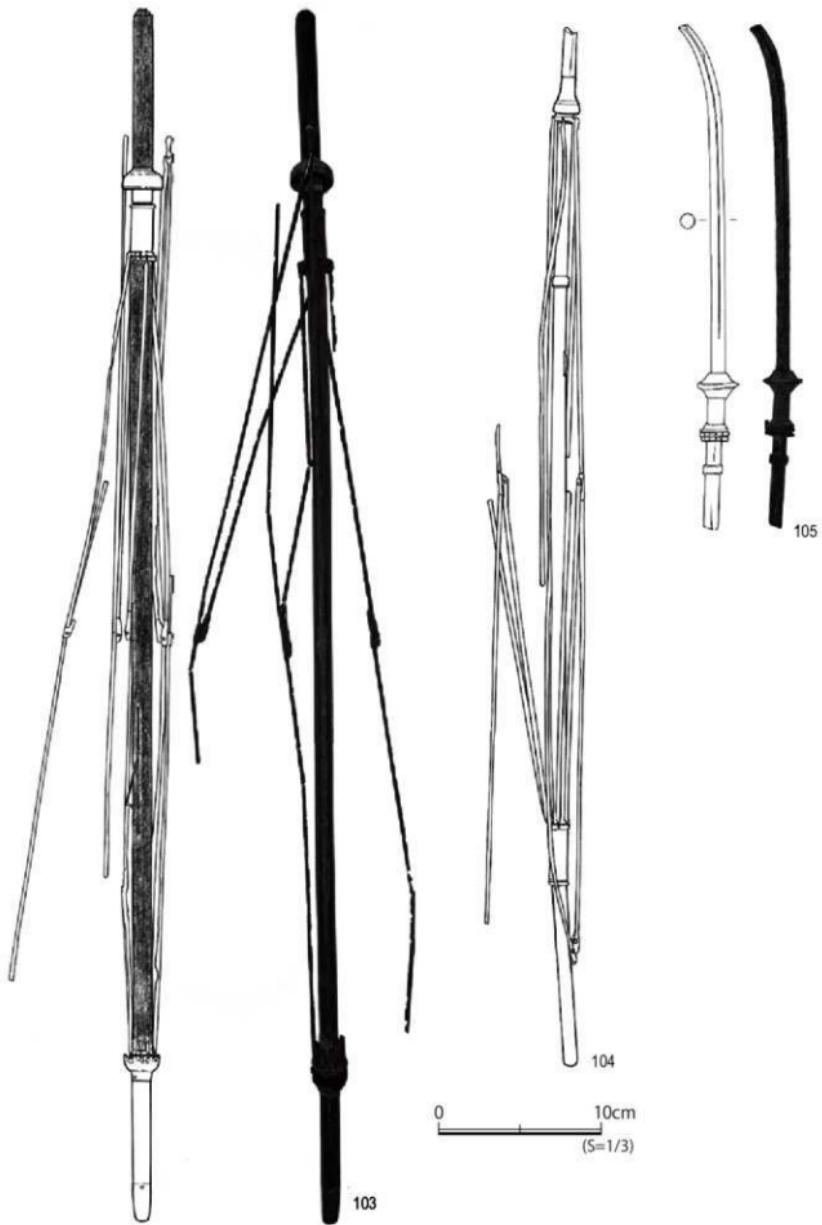


図 122 近代遺構出土金属製品 (8)

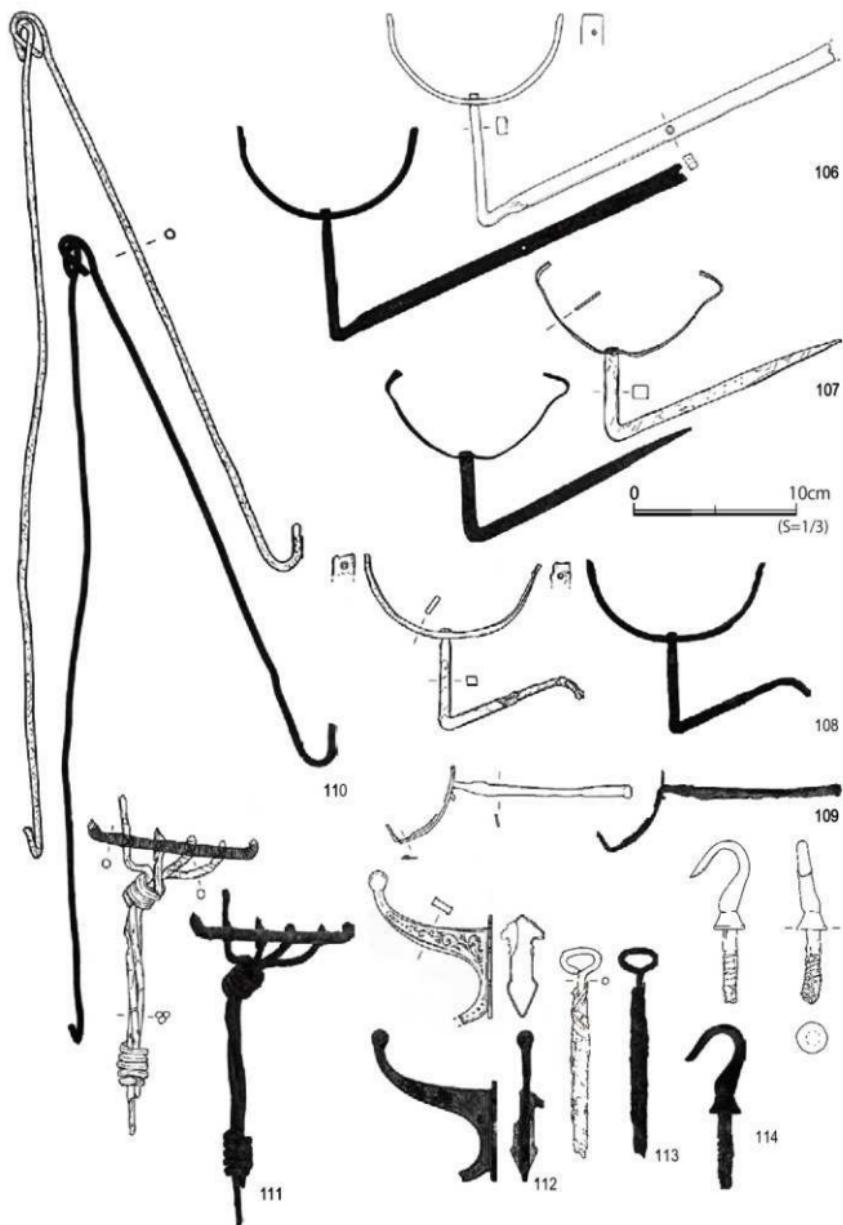


图 123 近代遗构出土金属制品 (9)

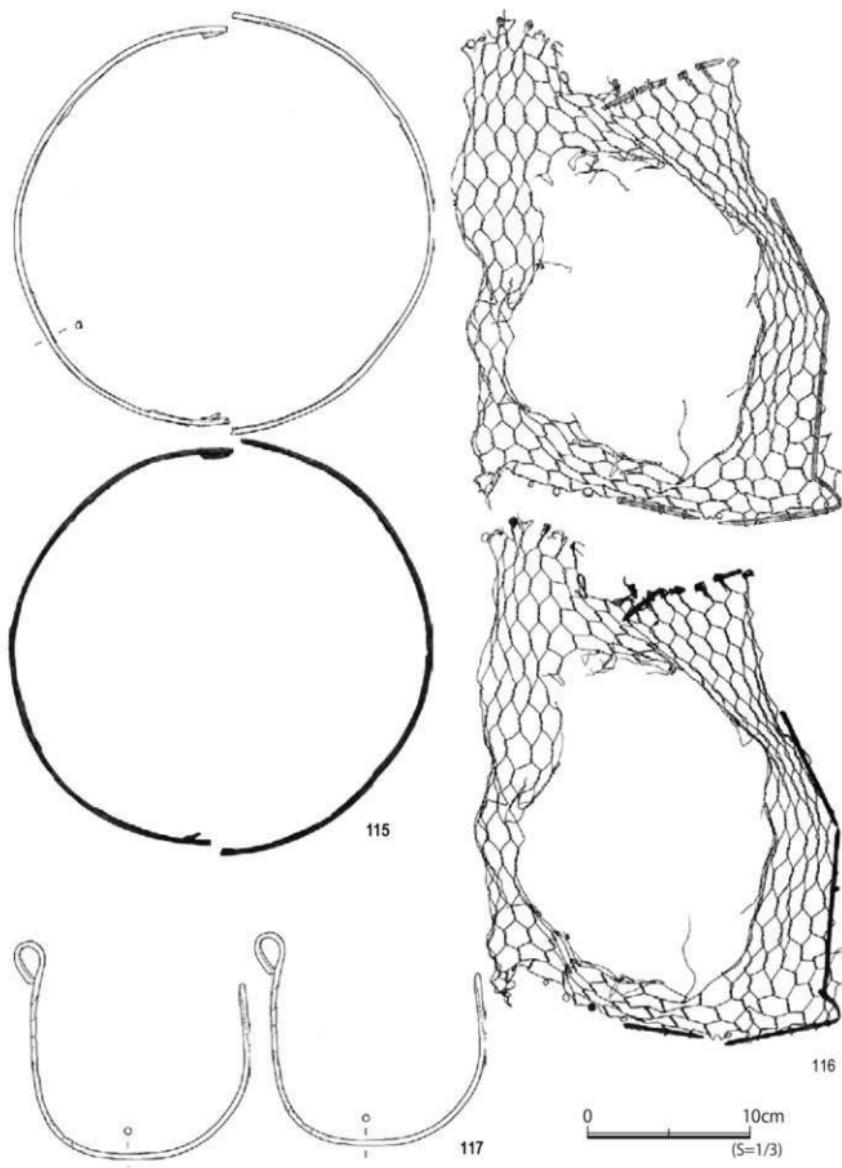


图 124 近代遗构出土金属制品 (10)

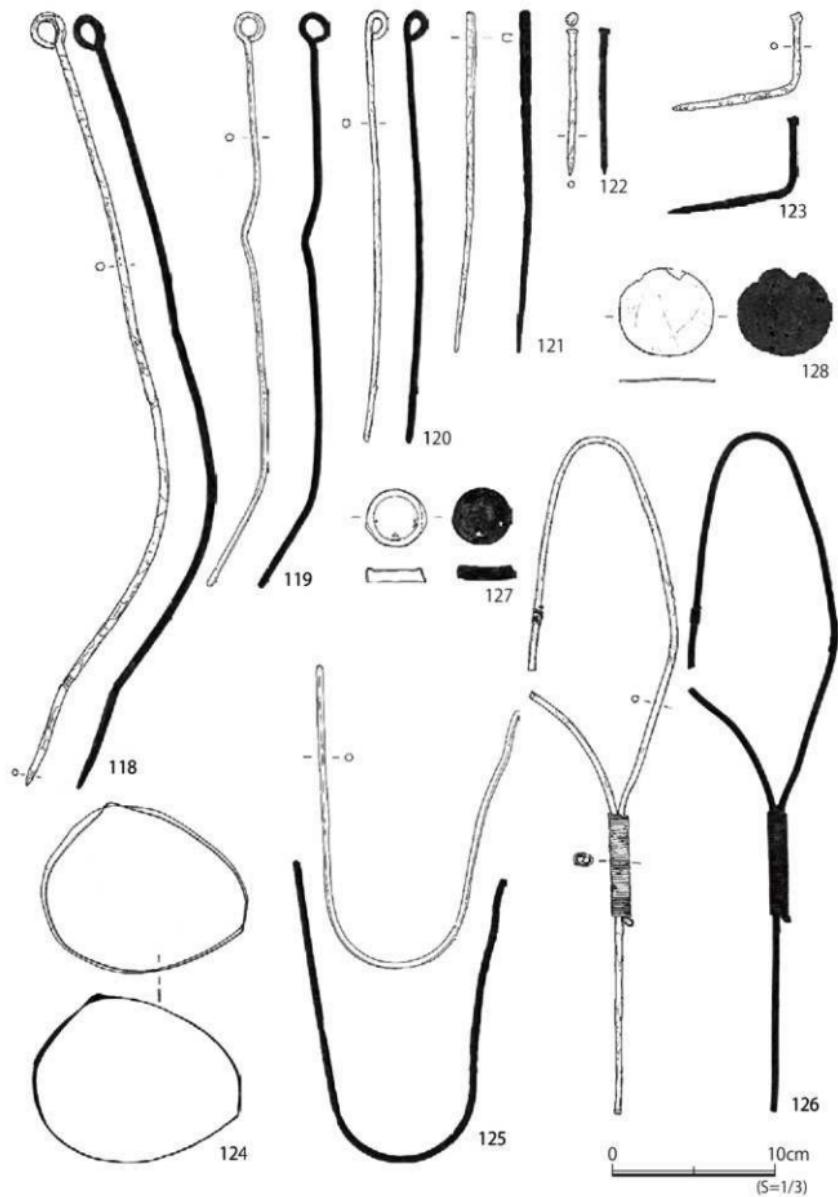


図125 近代遺構出土金属製品(11)

別の薄い板を鉛止めしている。97は銅製。用途不明。98は薄い鉄板を折り曲げたもの。99は弧状に曲がった長方形の鉄板。一端は山形で小孔が1点ある。100、101は鉄製の鏡。102は正方形の鉄板で中央に大型の孔。

傘(図122)

103と104は真鍮製のロクロや鉄製の骨が比較的良好な状態で残っている。103は木製の中棒。104は鉄製の中棒。105は傘の中棒と思われる。鉄製。

その他(図123~125)

建築部材などをその他としてまとめた。106~109は鉄製の雨樋受け。110は鉄線。111は鉄線をねじり合わせて熊手状にしたものか。112は銅製のフック。113はコルク抜きの類か。114はネジ付きのフック。フックは銅、ネジ部は鉄製。115は鉄製、薄い板を折り曲げて半円状の管にしたもの。116は網。117は鉄線を折り曲げたもの。用途不明。118~120は一端を折り曲げて環状にした鉄線。火箸の類か。121も火箸か。122、123は鉄釘。125は環状の薄い銅板。124は鉄線の一端を環状に折り曲げたもの。用途は不明。127は蓋か。128は鉄製の円形板。

8-9.木・竹製品(図126~177)

木製品にも非常に多種多様な器種が出土している。竹製品は少数であり、木、竹製品として一括する。以下それぞれ種別に述べる。

墨書類(図126~128)

墨書が確認できたものを特に選別してまとめた。

1は長方形で長辺両端に2孔ある。ややかすれてしまっているが、一面に「相州鎌倉町扇ヶ谷觀音山脇 本多家御別荘ニテ 本多正忠殿 志太郡広幡村水守 菊川晋一」と墨書がある。2はやはり長方形の板で、長辺の右側やや下に1孔見られる。一面に墨書で「相洲鎌倉 扇ヶ谷 斯波忠三郎様 行キ」とある。3も同様に長方形の板で、長辺の右側ほぼ中央に1孔見られる。一面には墨書で「相州鎌倉扇ヶ谷 木村重■ 清水■■」と見える。下半部は消えてしまつており判読できない。4は長方形の木板で、長辺の右上方に1孔が見られる。一面の上端に朱書で「ハマ」、その下に屋号「キ」。漢数字「三」があり、その下に「大■ 青茶バラ東■■茶 四百入 ■ 内■■■瓢六百■入り 八新井」と墨書で書かれる。5はやや小型の長方形の板。長辺上端部に1孔ある。一面に墨書で「鎌倉」と書かれ、その左下にもう2文字ほど書かれているようであるが、判読できない。背面にも墨書があると思われるが、こちらも判読不能。6は長方形の板で、中央付近で割れている。両面に墨書が見られるが、どちらも内容は判読できない。7は横長の長方形の板。下部は破損している。中央右に1孔がある。墨書は一面に3行、それぞれ2文字ずつ残存しているが判読不能。もう一面にも墨書の痕跡があるが、内容は不明。8は長方形の板。上部は焼けて炭化し、下部は折れて破損している。墨書の残存からすると右側も破損しているようである。3文字ほどの墨書があるようだが、判読できない。9は小型の長方形の板。上端中央に1孔見られる。墨書は一面に2文字か3文字あるようだが判読不能。10は小箱の部材で、2片のみが組み合わさった状況で出土した。板同士は鉄釘で留めている。一面に墨書で「玩具車」と書かれており、玩具を収納する箱であろう。11はやや不整形な長方形の板。被熱しているか。左上に小孔が1点見られる。墨書の痕跡があるが内容は判読できない。12は長方形の板。ほぼ中央で割れ破損していると思われる。上部



図126 近代遺構出土木製品 墓書(1)

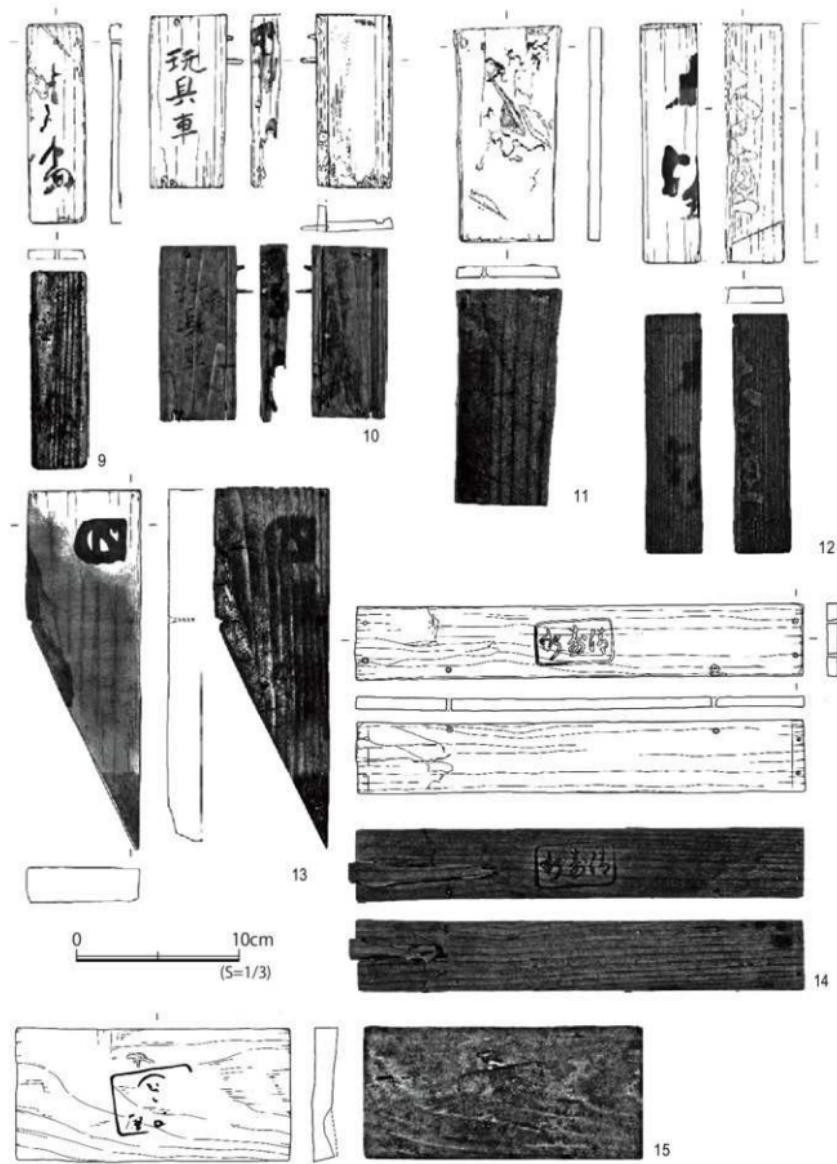
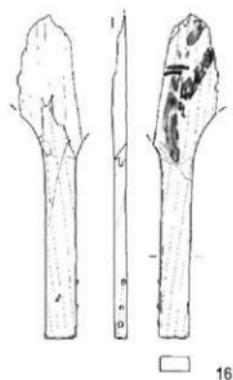


图127 近代遗构出土木制品 墨书(2)



16

17

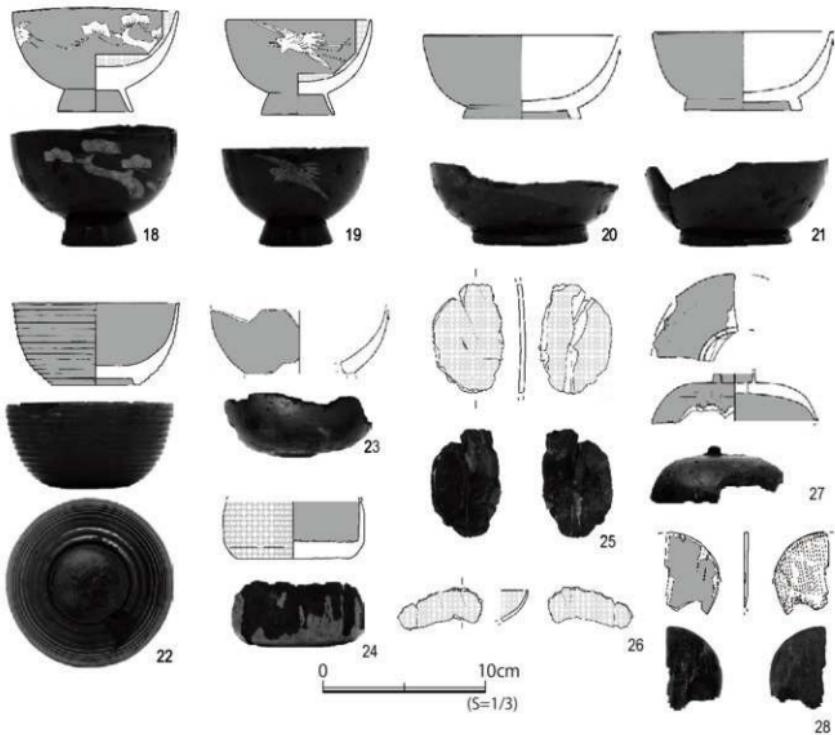


図128 近代遺構出土木製品 墨書(3)、漆器(1)

中央に小孔が1点。一面には墨書による文字が2文字、背面には削り取りによって文字がおそらく2文字表されている。同じ内容を表裏に別の方法で記したと思われるが、内容は判読不能。13は一方がとがるように加工されたやや厚めの板。縁には釘穴が見られ、左と下は被熱により炭化している。右側に3文字ほど墨書があるようだが詳細は不明。16はへら状形の木製品。破損している。柄状部には釘が打たれている。上部にわずかに朱書が確認できるが、判読不能。17は方形の板で一部漆が残る。墨書の痕跡が残るが内容不明。漢字の「二」か。

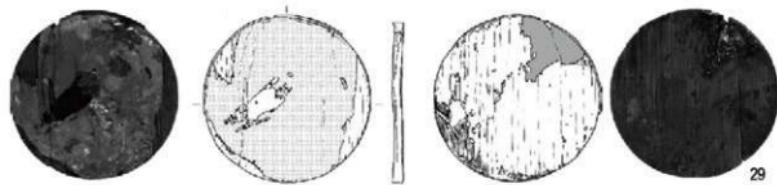
墨書ではないが焼印の入った木材が2点。14は横長の長方形の板。縁には釘穴がみられる。中央に「御寿新」の焼印がある。寿司桶の部材と思われる。15は長方形の板。穿孔などは見られない。中央に焼印があるが、判読できない。

穿孔があり小型であることから、多くは荷札であると思われる。残りがよく、すべて判読できるのはわずかに3点のみである。

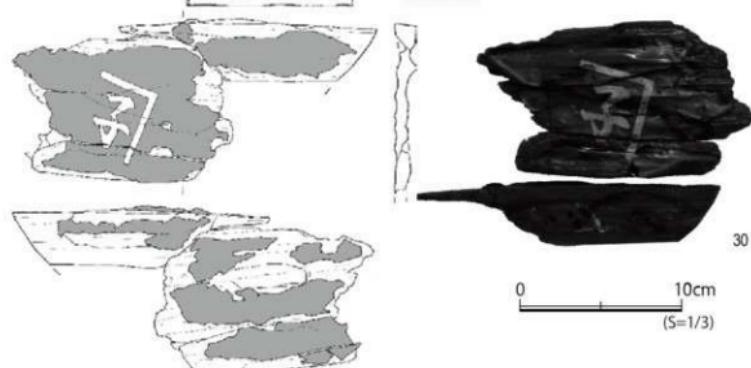
漆器(図128～131)

漆器は器種のバリエーションが比較的多い。なお漆塗りの下駄も出土しているが、下駄の項で一括して述べる。

18、19は黒漆地に蒔絵で松、鶴、亀を外面に描く椀。内面は朱漆。大きさがやや違うが、セット品か。それぞれのモチーフは表現にやや差がある。20、21は高台付きの椀、セット品か。外面黒漆、内面朱漆。22は外面に複数の棱を作り出して装飾としている。内外面黒漆地。棱の先端は黒漆を剥ぎ、朱色の顔料を塗っているようである。高台はくり抜き。23は碗類の破片、外面黒漆、内面朱漆。24は容器。口縁が内窓し、かなり薄くなる。外面朱漆、内面黒漆。25、26は碗類の破片か。残存状態が不良である。内外面とも紫がかかった朱漆。27は碗の蓋か。内外面とも紫がかかった朱漆。28、29は曲げ物の底。28は片面のみに黒漆。29は片面が黒漆、背面は朱漆。30は残存状態がよくないが、本来は円形の板であり曲物や結桶の蓋類かと思われる。一面に黒漆をほどこし、蒔絵で屋号を記す。31は木具膳。一辺が破損しているほかはほぼ完全である。脚は2枚の板をはめ込んだもので背は低い。全体に黒漆を施す。32は大型の正方形板。一面の半分ほどに黒漆が残存する。用途は不明。33は長方形の板。やや湾曲する。一面には黒漆地に蒔絵と朱漆で雀と植物文様が描かれる。背面は黒漆のみである。用途は不明。34、35は細い長方形板の片面に朱漆と黒漆で植物の葉を描く。用途不明。36～38は棒状の木製品で両端を削ってやすばめる。両端以外には朱漆を施す。39～42は長方形の板。用途不明だが箱の部材か。39～41は黒漆地に赤漆で模様を描く。42は黒漆が剥離したか。43は黒漆地に全体に蒔絵を施す。44は一面に段を作り出す。箱ものの部材かと思われる。段のある面に黒漆をほどこしているが、剥離が激しい。45はやや整形の粗い長方形の板。一面に黒漆を施すが、剥離が激しい。46～50は扇の柄。46は朱漆。挿柄の先端は丸型。47は黒漆で、柄は直線的でなく波打つ。挿柄の先端は三つ葉型。48～50はいずれも黒漆。48は46と同型で、49も同様か。50は47と同型であろう。

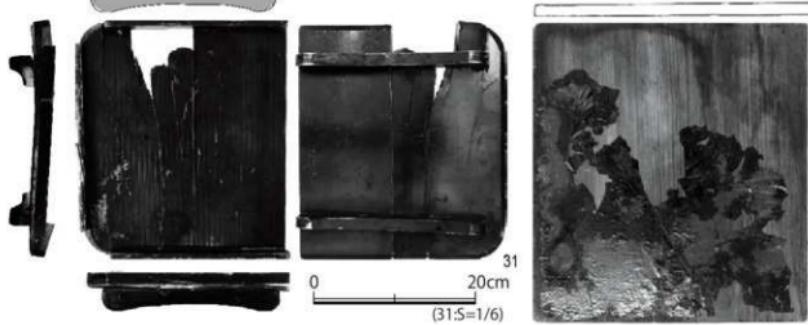
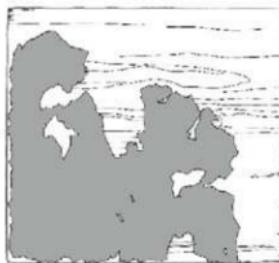
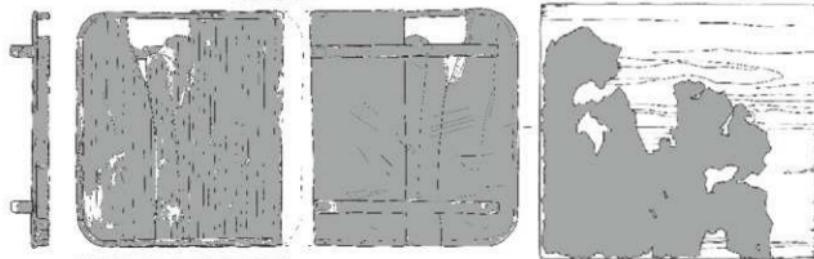


29



30

0 10cm
(S=1/3)



31

0 20cm
(31:S=1/6)

32

図129 近代遺構出土木製品 漆器(2)

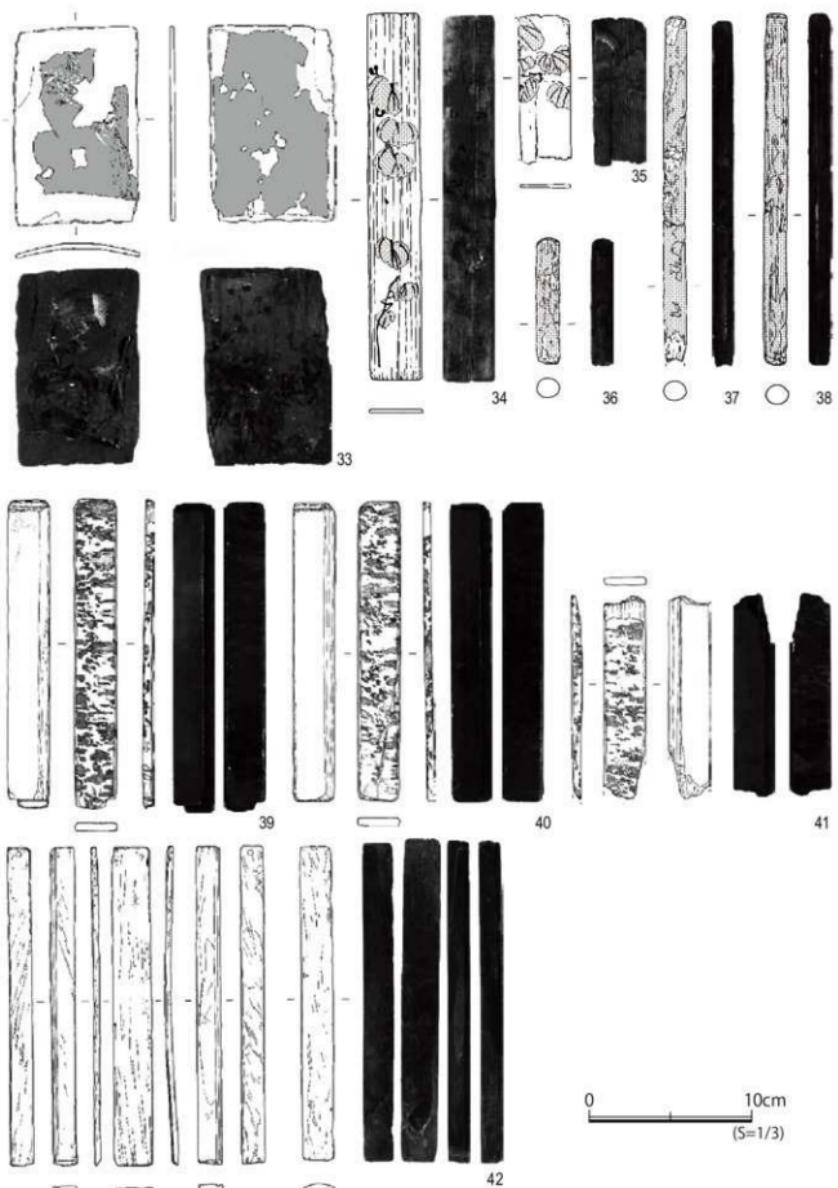


図130 近代遺構出土木製品 漆器(3)

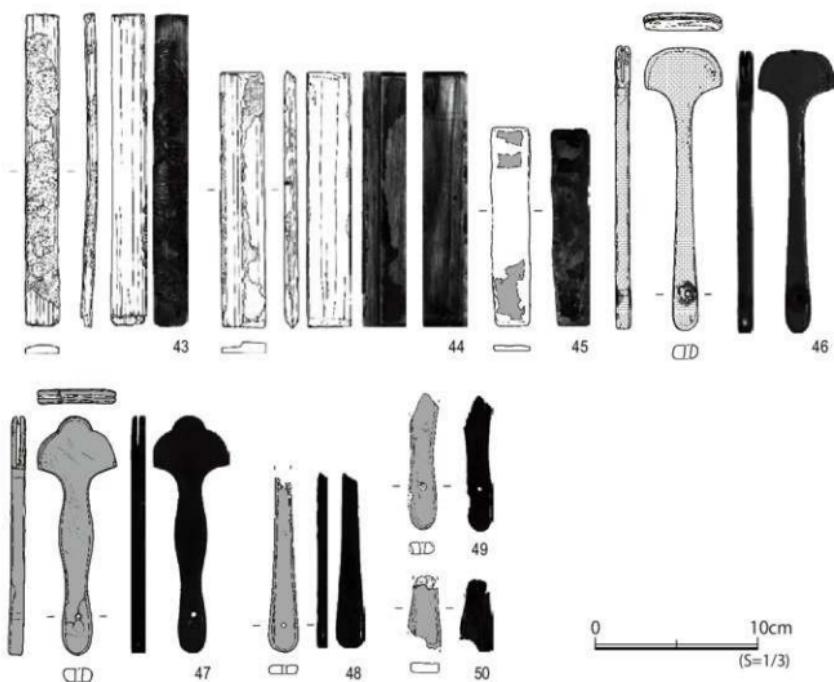


図131 近代遺構出土木製品 漆器(4)

曲物(図132、133)

51は遺構1の北側床面直上で大型の柱材に隣接して出土した(図32)。完全な形では残存しておらず、何らかの用途でその場所に設置したとは考えにくい。比較的大型。側面はやや厚めの板と薄い板を2重を巡らせ、内にむかって凹まないように支えの板が入れられていた。残存していたのは1本だけだが、内面には支えの板をはめ込むくぼみがあり、おそらくさらに数本はめ込んでいたと考えられる。外側の薄板には留め具の桜皮が多数残存している。また麻紐が1条外側の板に穿孔して通した状態で残っていた。底板は残存せず。52はやや小型。ほぼ完全な形で残存。底部、蓋とともに残っていた。胴部は一枚の薄板を丸め、桜皮によって留めている。側板の先端は両端を削り細くしている。底板、蓋とともに中央に小孔が1つみられる。蓋には持ち手用の桜皮も付随していた。53は蓋が不明だが、胴部、底部は残存。胴部の薄板は同じ幅で一周し、やや長めの桜皮で留める。内面ほぼ全体に漆喰が塗られ、紫色の塗料が付着する。54はやや背の高い曲げ物である。胴部には留め具の桜皮が見られる。黒漆を塗布しているようであるが、剥離が激しい。さらに黒漆の上に口縁から内面全体にかけて漆喰がほどこされ、梢円形につぶれた状態で硬化している。漆喰の上には赤色、青色塗料などがランダムに付着している。底部に

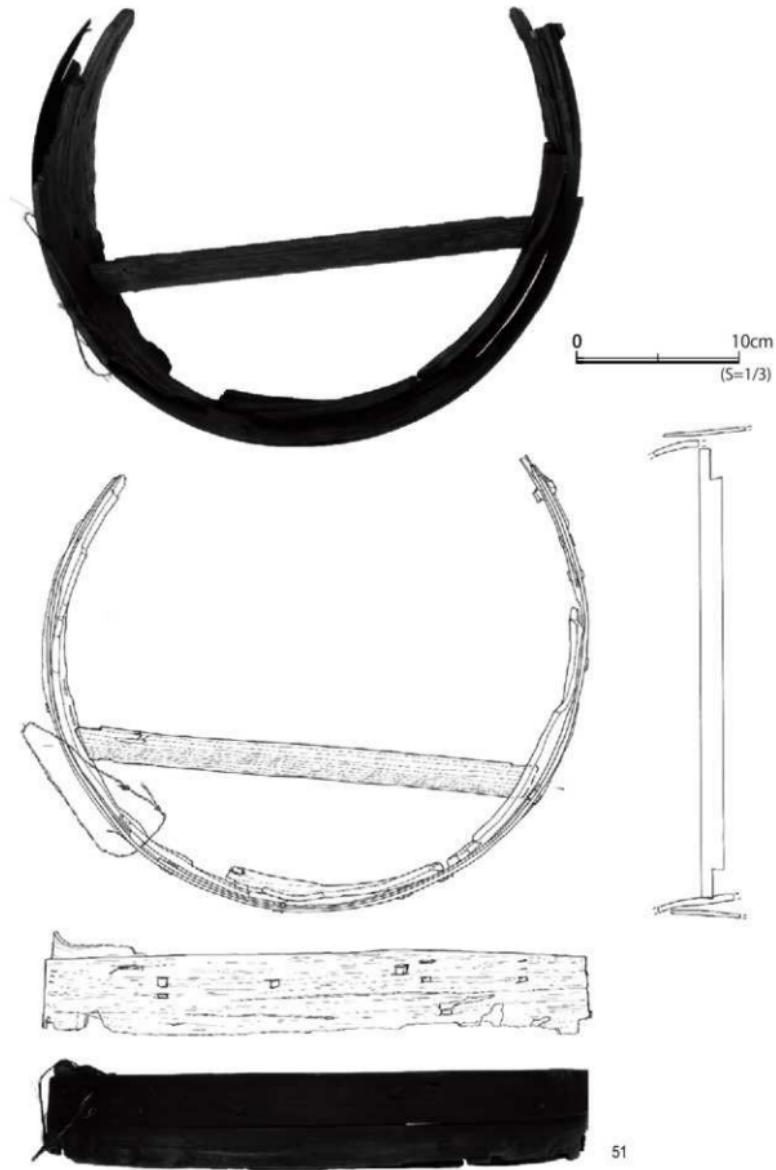


图132 近代遗構出土木製品 曲物(1)

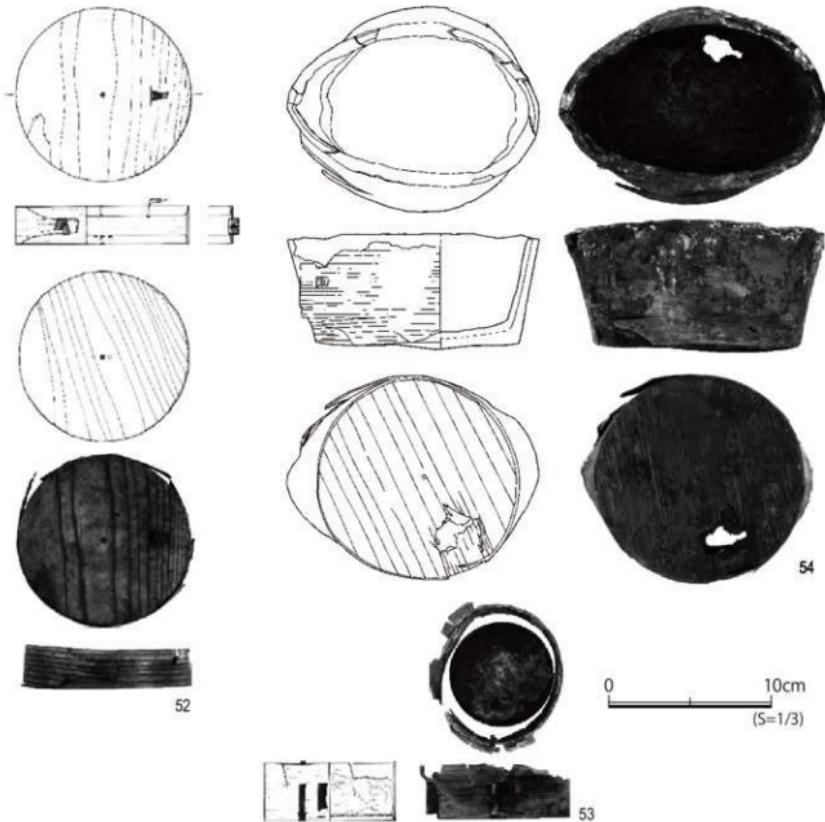


図133 近代遺構出土木製品 曲物(2)

は中央に小孔が1つ見られる。53、54は塗料の容器として使用されたものか。

結物類(図134、135)

結物は完全な形で残存しているものはほとんどない。55は小型の桶。側部と底板の部材がすべて残存していた。底面の3か所に抉りを入れて、脚部を作り出している。外面には籠の痕跡が明瞭に残るが、籠自体は残存せず。56、57は同様の結桶の部材。56は外面に籠の痕跡が残る。内面に底板の圧着痕が残っている。57は内面に朱漆。底板の圧着痕が残る。外面には黒色の付着物があり、籠痕と考えられる箇所は木の地肌が露出している。58、59は長筒型の結物の部材と考えられる。59は上部が一部抉り取られている。下部は籠をはめ込むためかと思われる溝が1条みられる。60、61なども結物の部材と考えられるが、籠痕などは明瞭ではない。61には墨書が書かれている可能性があるが不明瞭。62は外面に2条

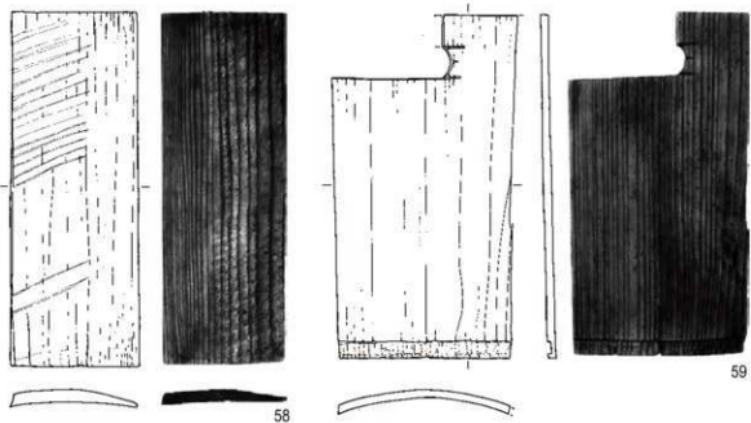
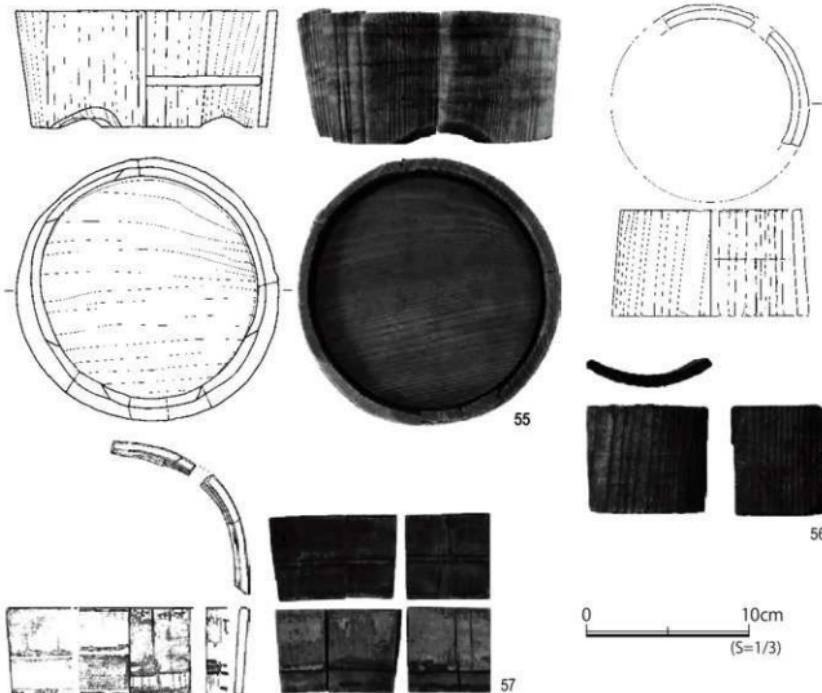


図134 近代遺構出土木製品 結物(1)

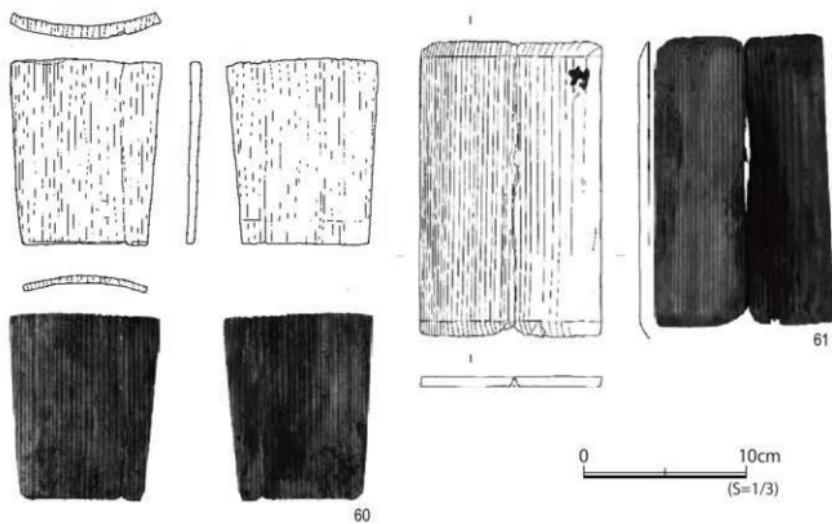
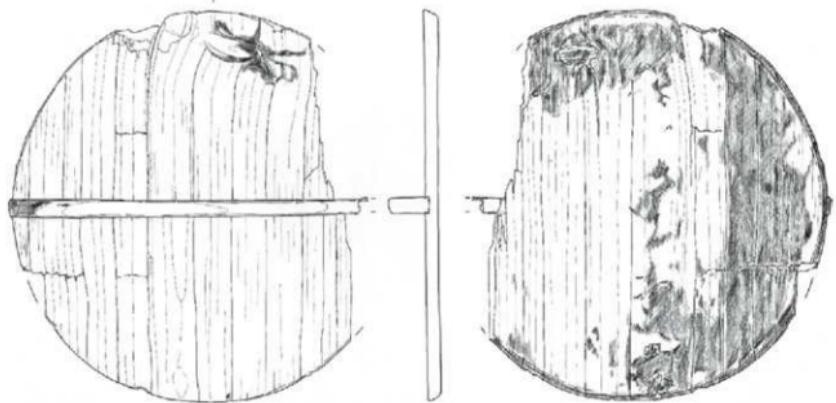


図135 近代遺構出土木製品 結物(2)

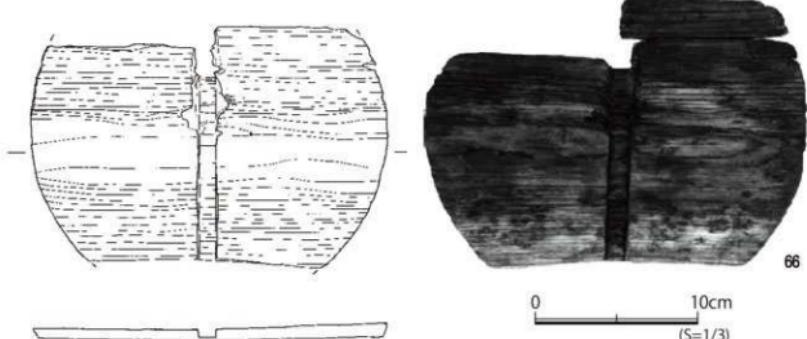
太めの箋痕が見られる。被熱により内面は炭化している。63は竹製の結物。内面は節を利用して段を作り出しているようであるが、底はない。上部は凹状に抉りを入れる。外面には箋跡がやや明瞭にみられる。64は結物ではないが、竹製の筒で節をくりぬいている。

曲物・結物の蓋底類(図136~144)

組み合わせが明らかでない蓋板や底板が多数出土している。



65



66

图 136 近代遗构出土木製品 蓋類 (1)

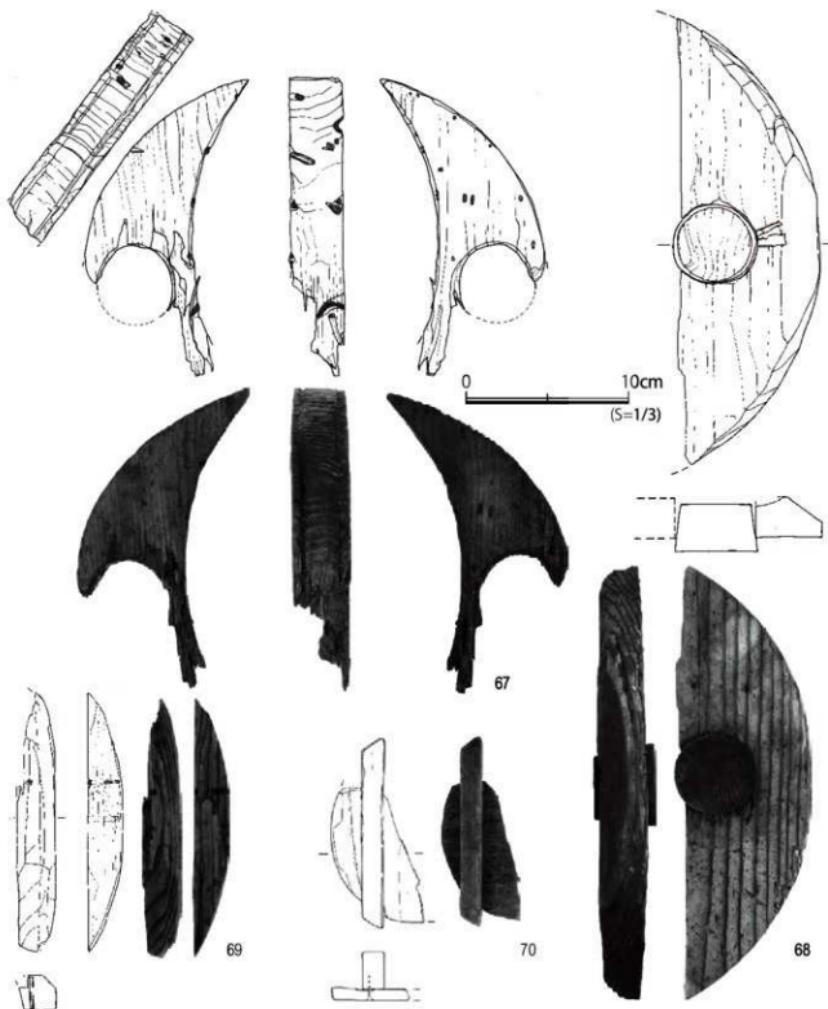
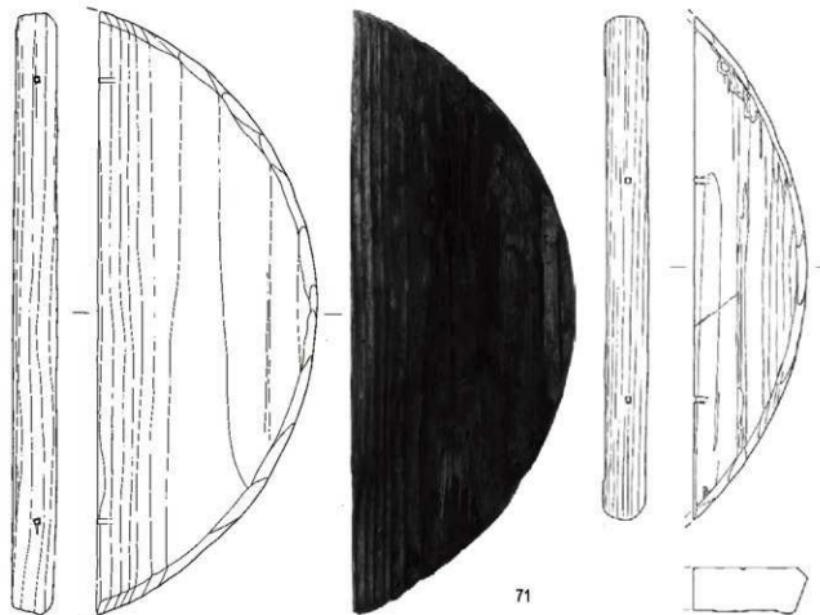


図137 近代遺構出土木製品 蓋類(2)

65はやや大型の蓋で半月形板の持ち手が付く。66は持ち手が失われているが、持ち手をはめ込む溝がみられる。67は蓋かと思われるが、三目月形であり不確定である。栓をはめ込むためと考えられる孔がある。70は破損しているが、本来は円形の蓋と思われる。木の栓がはめ込んだ状態である。68は蓋の一部分か。釘が打たれている。69は小型の蓋。木製の持ち手を釘で打ち付けている。

図138～144は板材のみ。71、72は半月形で大型。73はやや小さいが、いずれも側面に木製の目釘跡



0 10cm
(S=1/3)

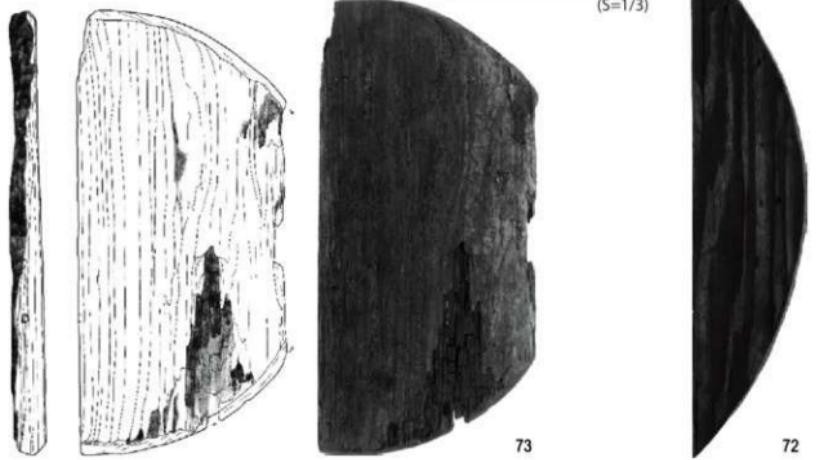
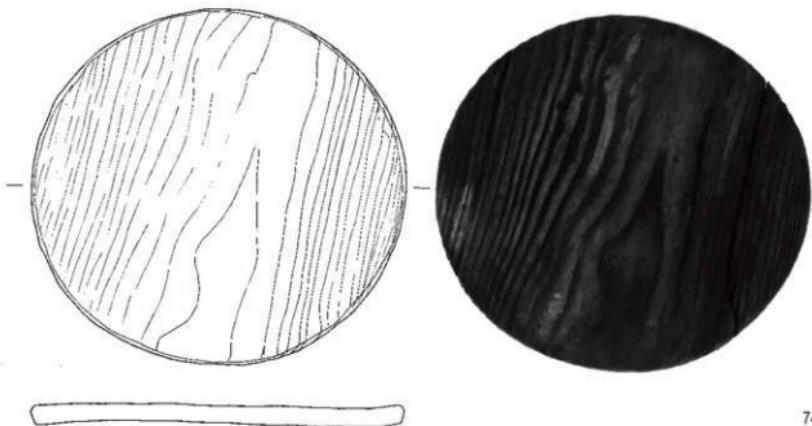
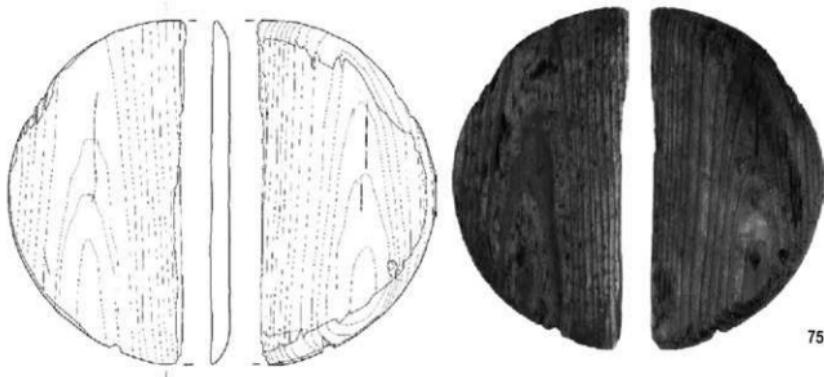


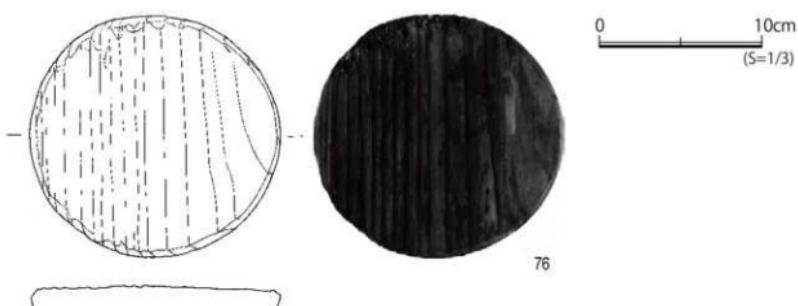
图 138 近代遺構出土木製品 蓋類 (3)



74



75



76

図139 近代遺構出土木製品 蓋類(4)

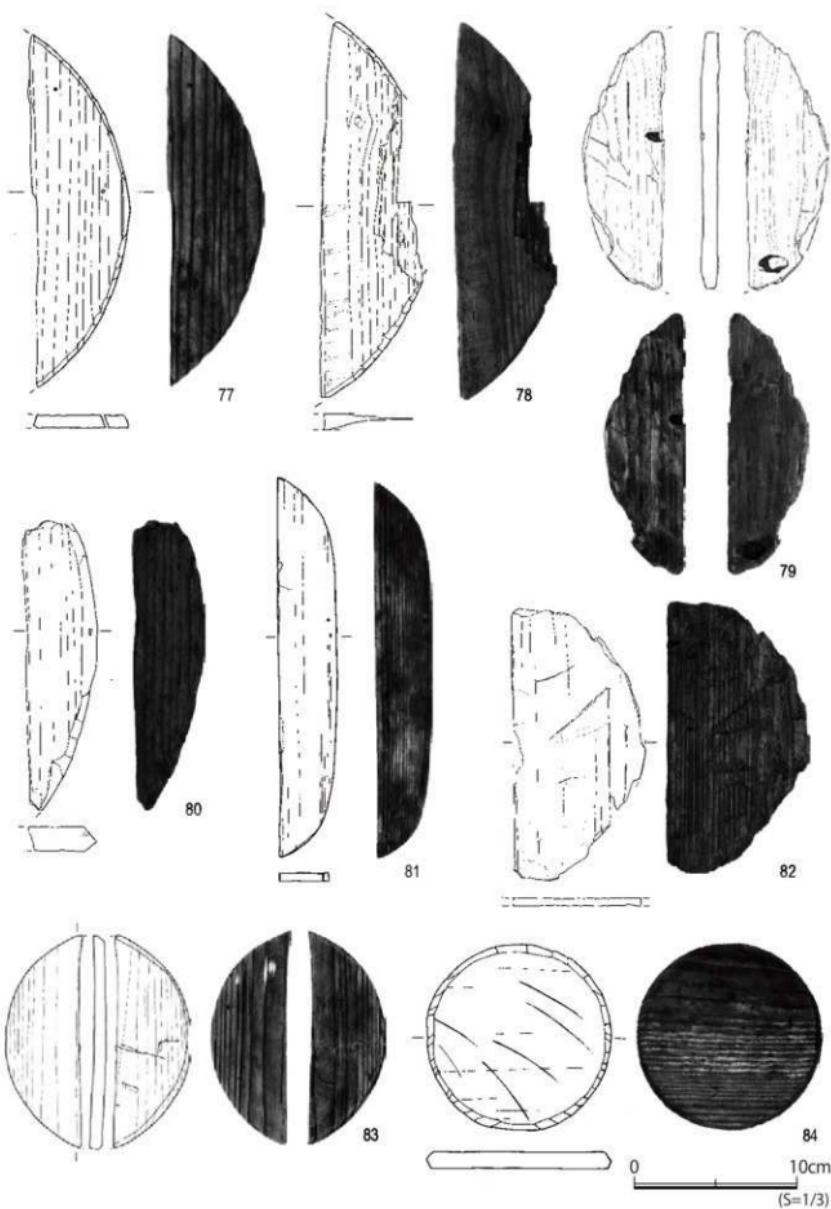


図140 近代遺構出土木製品 蓋類(5)

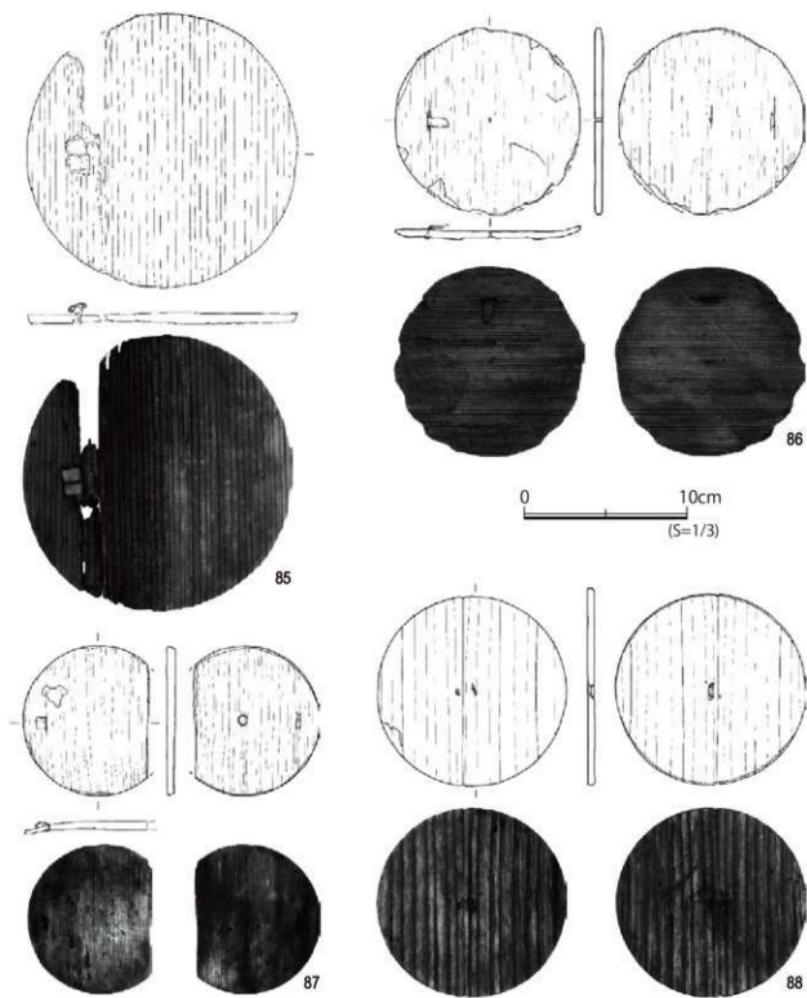


図141 近代遺構出土木製品 蓋類(6)

が残る。別の部材で作成したものを組み合わせるタイプか。74、76は完形。断面はやや三角形状に棱ができる。75は断面は台形。半分しか残存せず。77～83はいずれも破損。77には釘穴が残る。81は隅丸台形。破損しているが、持ち手の部材か。84は小型の完形品。表面に何条か刃物傷が見られる。

85は曲げ物の蓋。持ち手の桜皮が残存する。86、87も同様。88は桜皮は見られないが、中央に曲げた鉄釘を打ち込んでいる。89は底板か。91は持ち手の桜皮が残存。92～96はいずれも中央付近で削れ

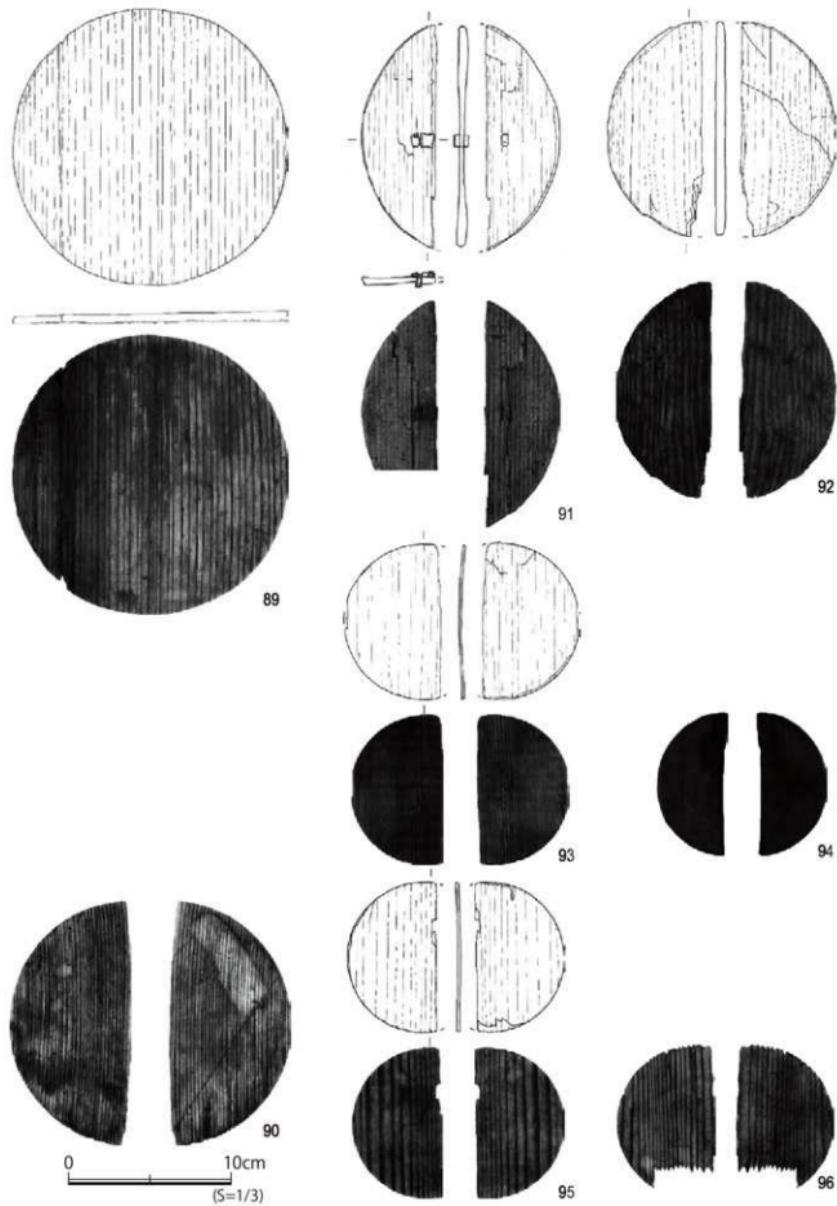


図142 近代遺構出土木製品 蓋類(7)

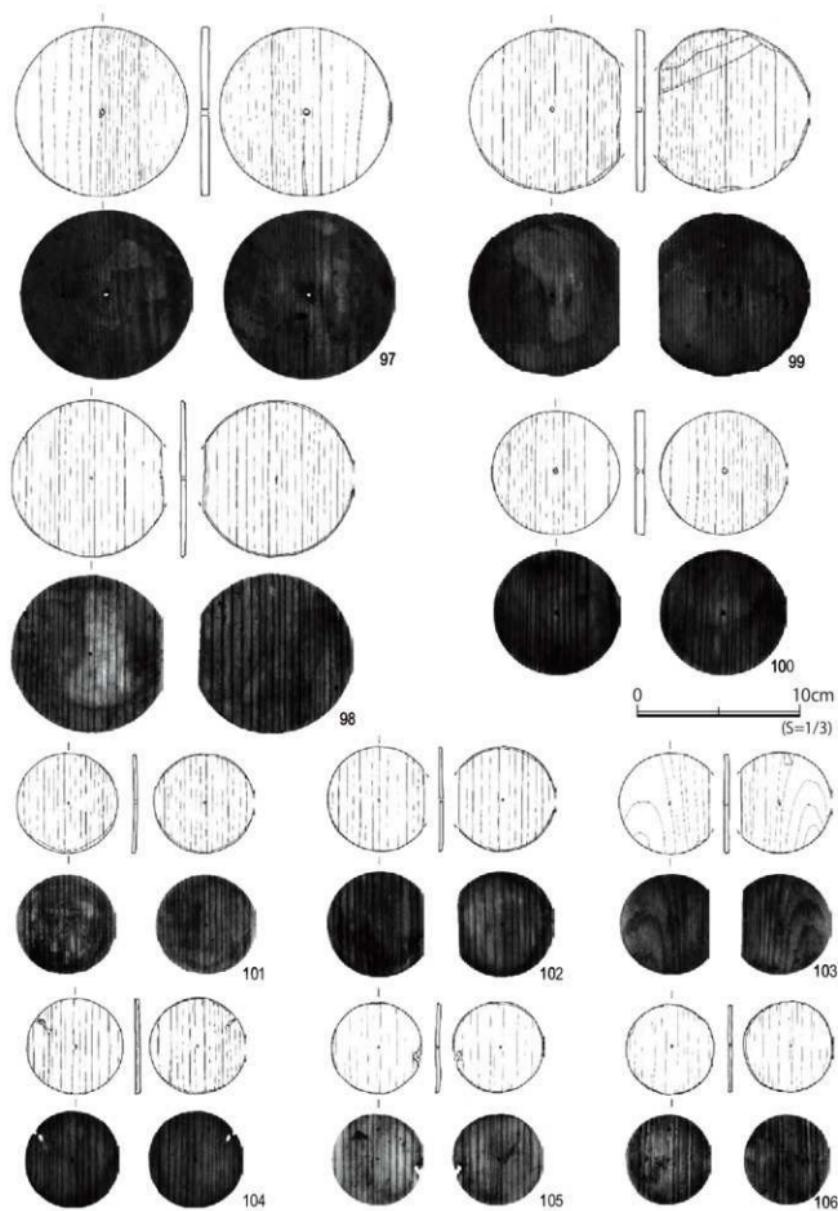


図143 近代遺構出土木製品 蓋類(8)

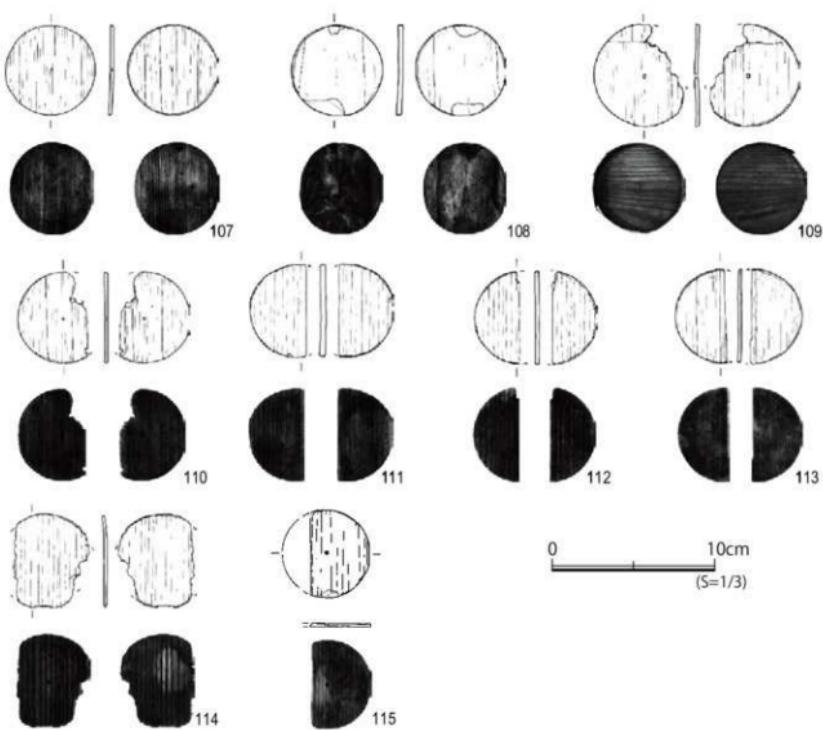


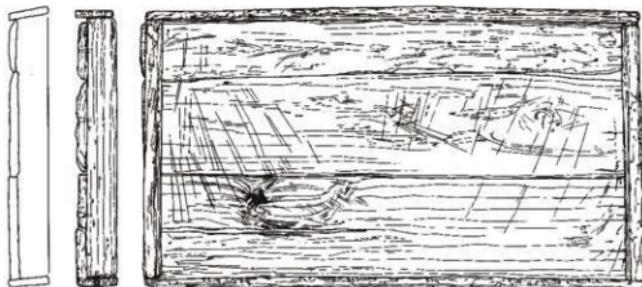
図144 近代遺構出土木製品 蓋類(9)

ている。底板と思われる。97～106は小型薄手の製品。ほとんどは完形で、中央に小孔が1点ある。107～115は最小のタイプ。径はほぼ同じ。中央に小孔があるものとないものがある。

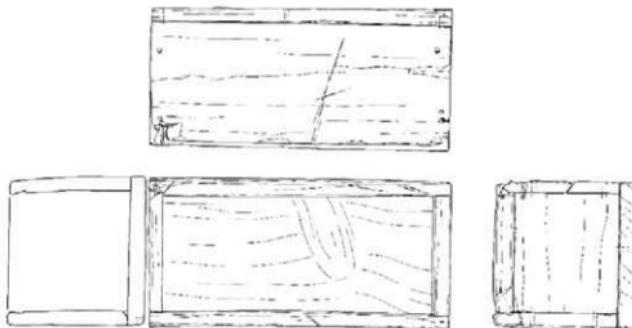
箱物(図145～149)

116は背の低い盆状の箱。それぞれの板材を鉄釘で留める。117はやや深めの長方形の箱。鉄釘で組み合わせる。117～120は解体されているが、箱の部材であろう。いずれも鉄釘の跡が残る。121～123は小型の箱の部材。

124～130は台形の部材を組み合わせた箱物部材。124、125はほぼ同形。短辺に切れ込みが入る。124は切れ込みの外側が破損してしまっている。側面には釘跡が見られる。126は周囲に多数の釘穴が残る。127にはハート形の孔が穿たれる。128はやや小さい円孔がある。2辺が破損。129はやや大型で、破損して一部しか残存せず。130はおそらく1個体となる部材である。一片に横長長方形の穿孔があり、対応する一片は破損して残っていないがおそらく同様の穿孔があったと考えられる。底板はほぼ正方形。側面の板は多数の釘痕が残り、鉄釘で固定している。箱枕の可能性があるが断定できない。



116



116



117

0 10cm
(5=1/3)

図145 近代遺構出土木製品 容器(1)

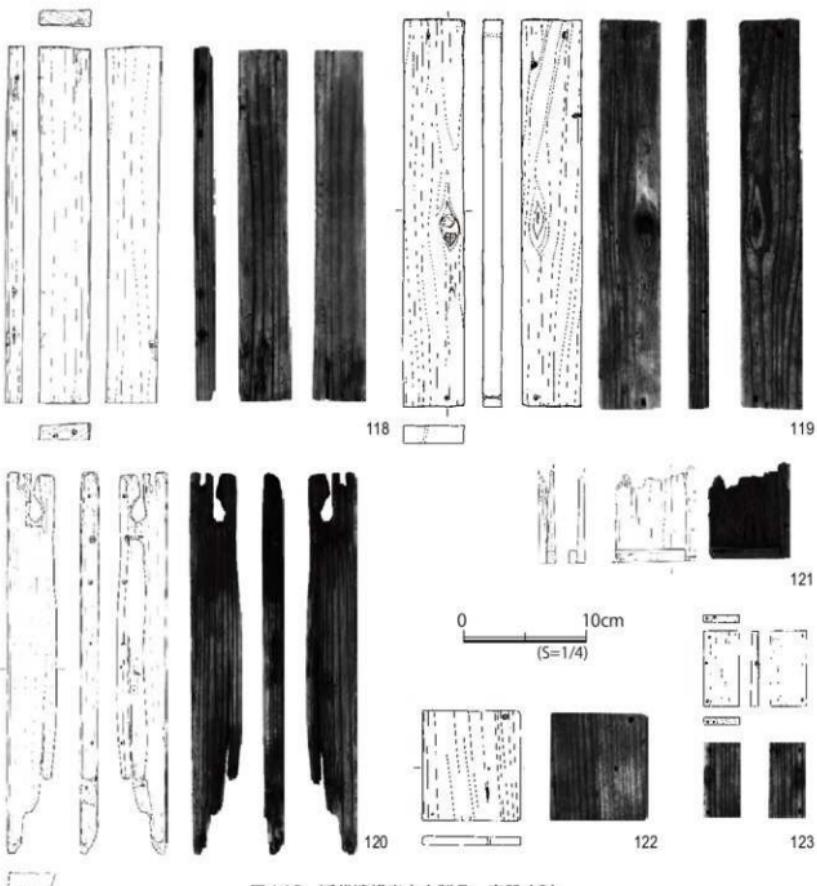


図146 近代遺構出土木製品 容器(2)

下駄(図150~159)

下駄はかなりの数量が出土し、形体のバリエーションもいくつかのパターンが見られる。下駄の細分については沙留遺跡IIIの分類案を基準とした。

差歎下駄(図150~152)

歎を別材で作成し、本体に差し込む差歎下駄。平面形は隅丸長方形がほとんどである。132は鼻緒が残存したまま出土した。134と135は作りの類似度から一対と考えられる。136、137も同様か。138は黒漆塗りの差歎下駄。背面にも一部に黒漆が残存しているが、大部分は剥落している。140、141は表面に黒漆、背面には朱漆が一部に残存している。歎は残存せず。漆の施し方や形体的な類似よりこれらも

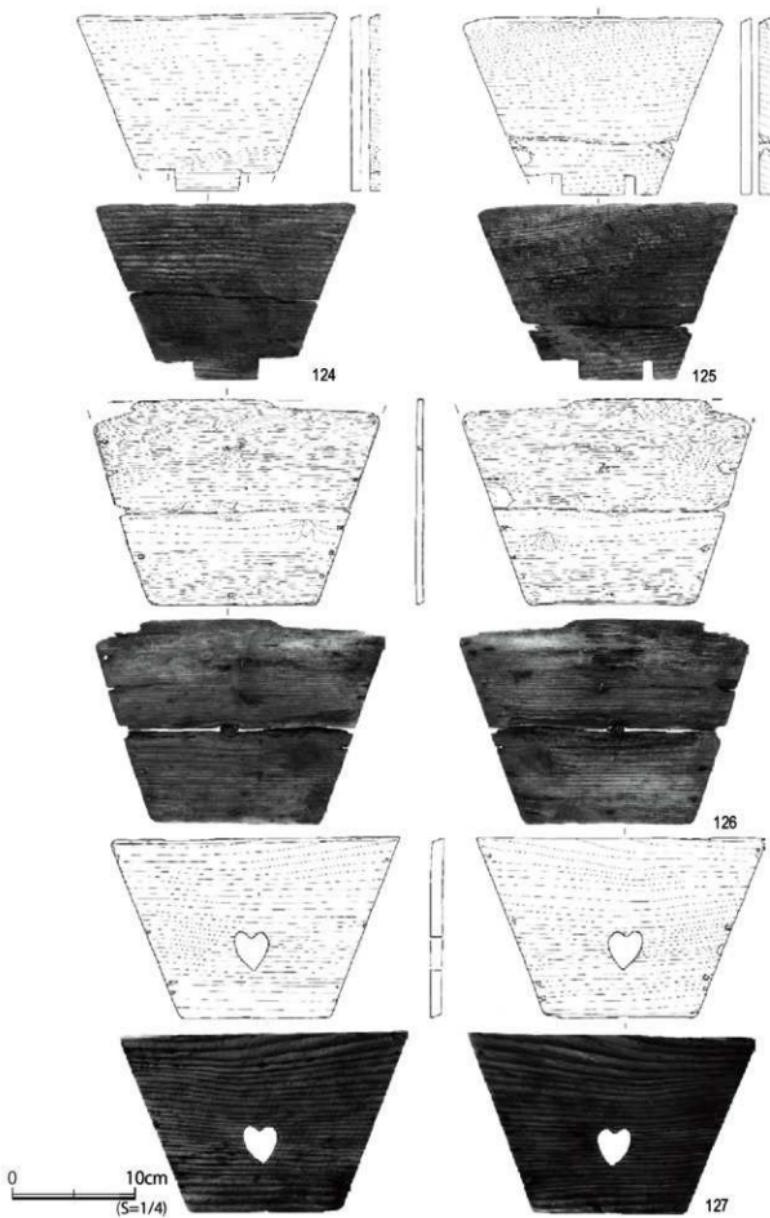


図147 近代遺構出土木製品 容器(3)

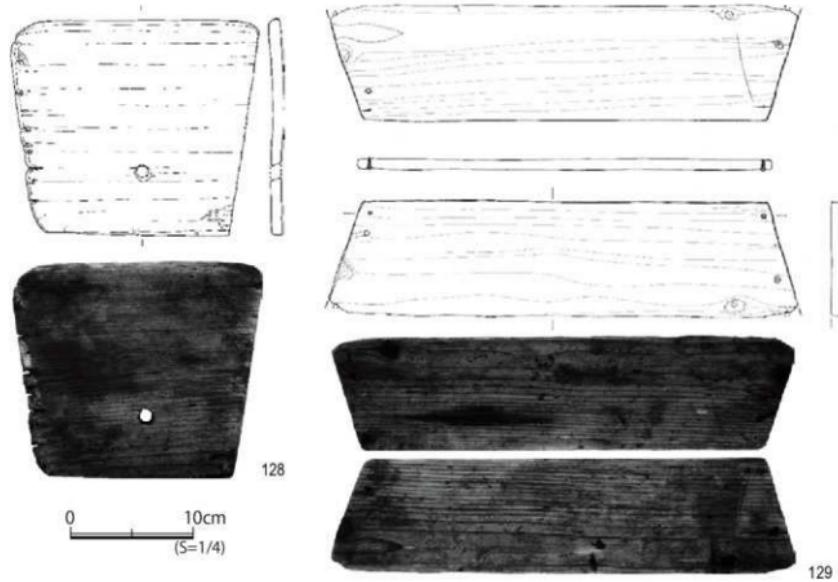


図148 近代遺構出土木製品 容器(4)



図149 近代遺構出土木製品 容器(5)

一对と考えられる。139、142、143は残存状況が悪い。142は側面にわずかに黒漆が付着。歯は1枚残存しているが摩滅によりほとんど残っていない。

連歯下駄(図152～154)

同一の材から歯を割り出した連歯下駄。143は前の歯は連歯だが後ろの歯が差し歯を作る折衷形態である。後ろの歯は摩滅してほとんど残っていない。144は破損が激しく状態が悪いが、連歯下駄と考えられる。145～156はいずれも連歯下駄。歯はやや幅広に割り出される。145と1467は一对と思われる。147～149はやや残存状態がよくない。150～160は小型で子供用下駄と考えられる。ほとんどはカーブの緩い隅丸長方形を呈するが、154、156は端部がやや丸みが強い。

草履下駄(図155～159)

明確に飛び出た歯を作りださないタイプの下駄。草履下駄として一括する。157～160はいずれも下駄背面の中央部をくり抜いている。丸盤状工具でくり抜いた工具痕が残り、連弧状にゆるいカーブを描く。形体から157、158は一对であると考えられる。161～170もすべて同様の歯の割り出しをしている。165、167、168は後部の割り出しがあまり明瞭ではなく、全体的に薄い。168、169は前穴の周囲にかなりの錯が付着。座金の痕跡か。

172と173はおそらく一对。表は全面に赤漆が施されるが、裏は漆の痕跡が見られない。歯は中央部をほぼ平行に割り抜いて作りだしているが、連歯のようには独立していない。174もほぼ同様である。176もこのタイプである。

176と177は子供用か。178～182は破損して残りが悪い。179、180は草履下駄。180は草履下駄の亞種。181は差歛下駄。182は平坦な板に鼻緒の前穴と思しき孔があるもの。歯が存在していないので下駄ではないかもしれない。

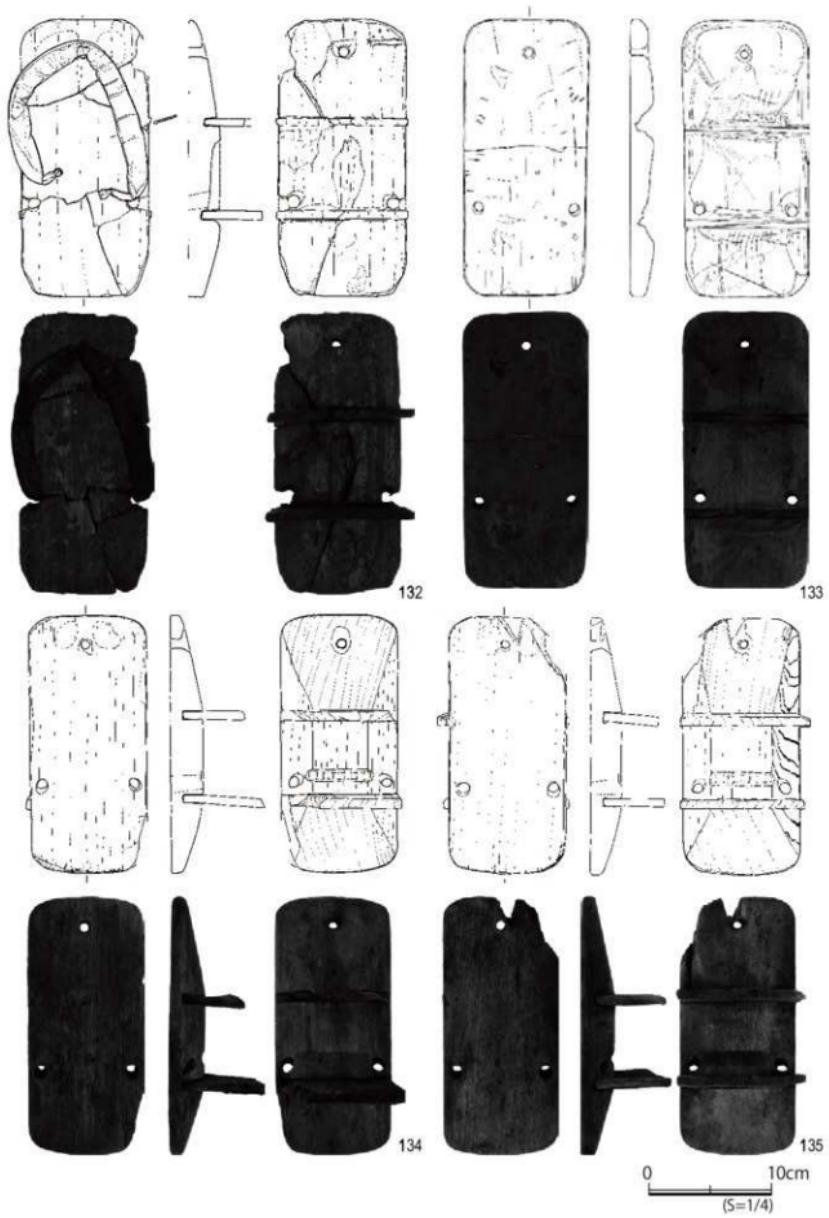
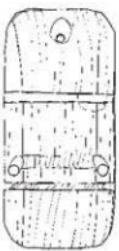
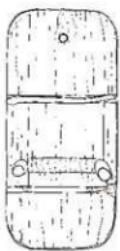
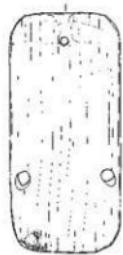
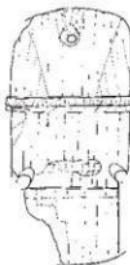
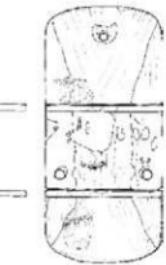


图150 近代遺構出土木製品 下駄(1)



136



138

139

0
10cm
(S=1/4)

図151 近代遺構出土木製品 下駄(2)

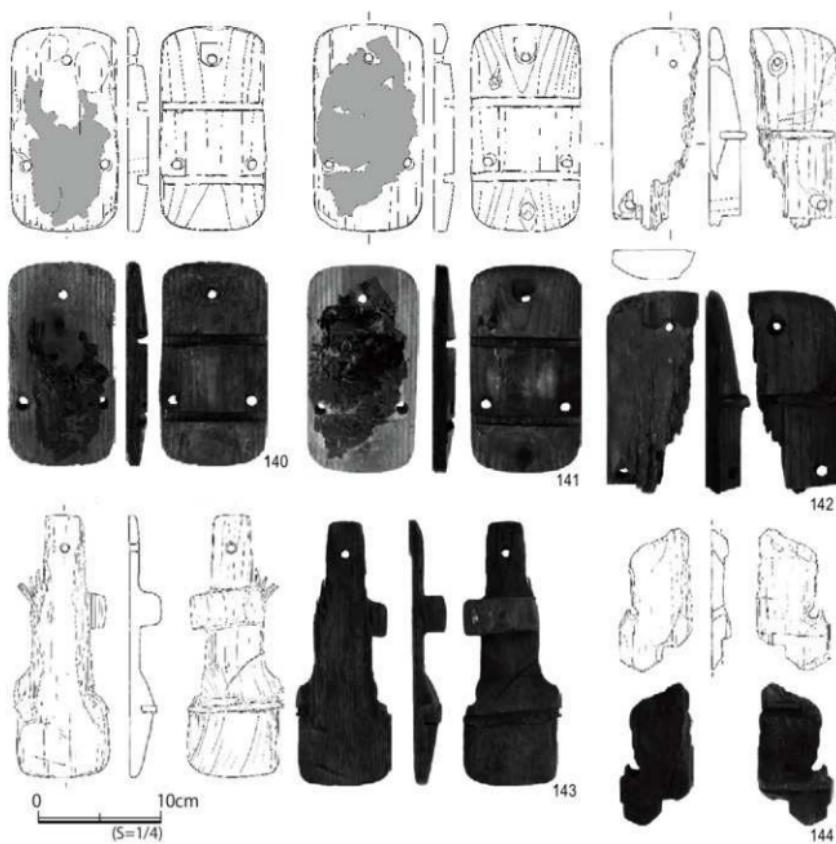


図152 近代遺構出土木製品 下駄(3)

削り下駄(図158)

171は削り下駄。製作技法的には草履下駄とほぼ同じく、中央をくり抜いて両側を歯とする。草履下駄との違いは中央部のくり抜きが大きく、方形となることで、端部は同様に丸鑿状工具でくり抜くが、連弧状にもせずにかなり整えている。結果、歯は明確に「コ」の字状に削り出されている。

トイレ用履物(図160)

汐留遺跡より出土しているトイレ用草履との類似より、同様の履物と判断した。183は半円形の板材を両端とし、長方形の板材を間に挟む。完全な形では残存していないが、これをつなぎ合わせたものであろう。表裏に釘と鉢が多く打ち込まれている。185、186は半円形の革製品で多くの孔がみられ、おそらく、この履物の両端に張り付けた皮と思われる。

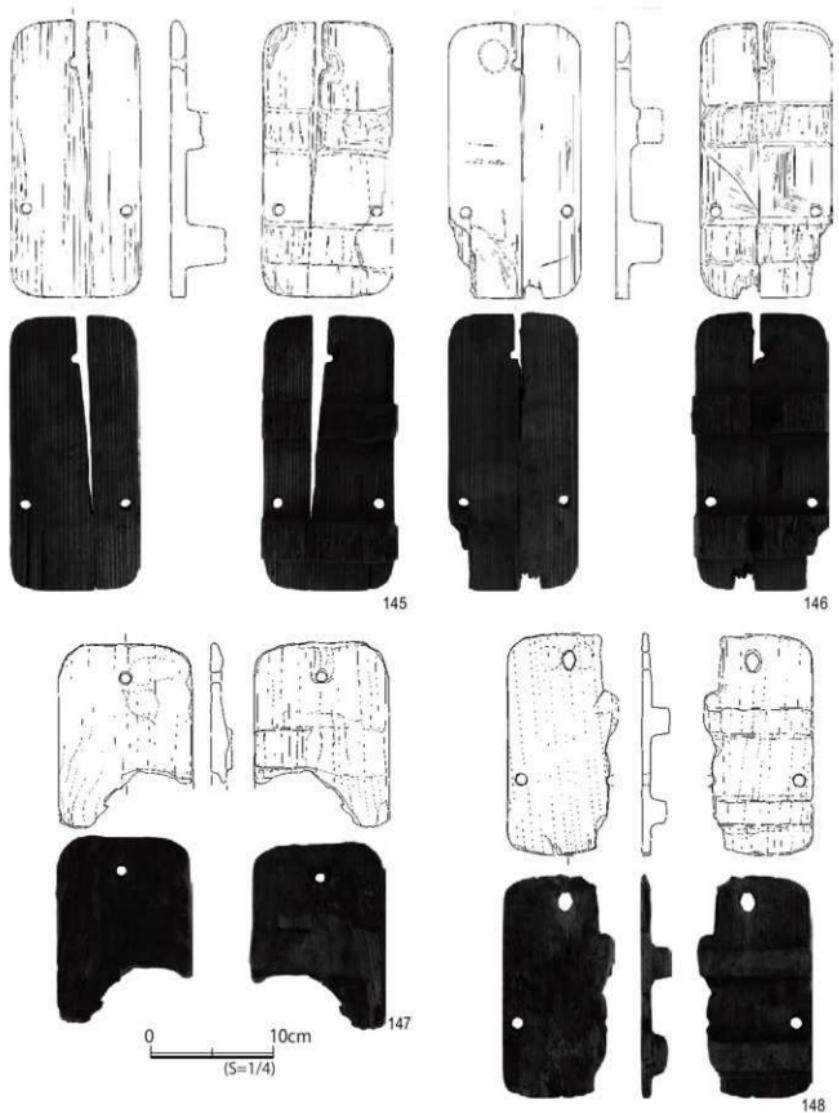


図153 近代遺構出土木製品 下駄 (4)

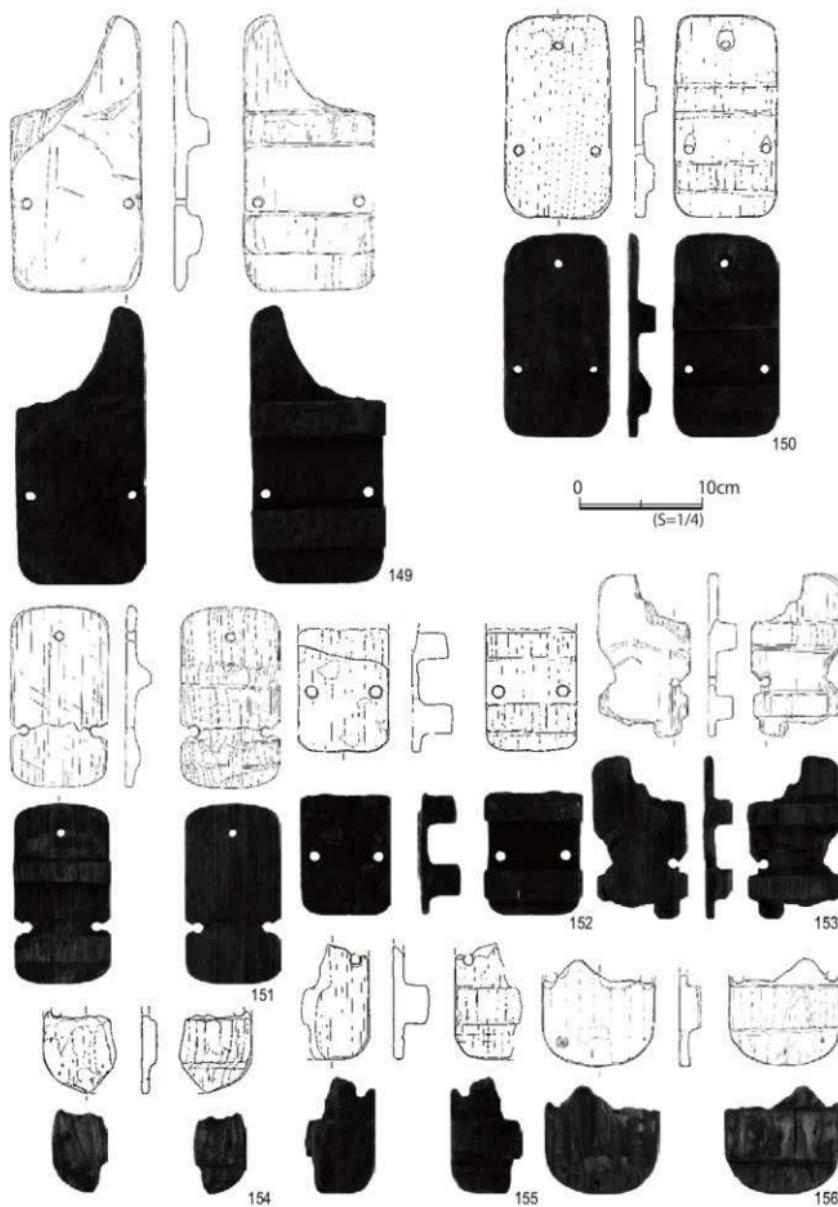


图 154 近代遺構出土木製品 下駄 (5)

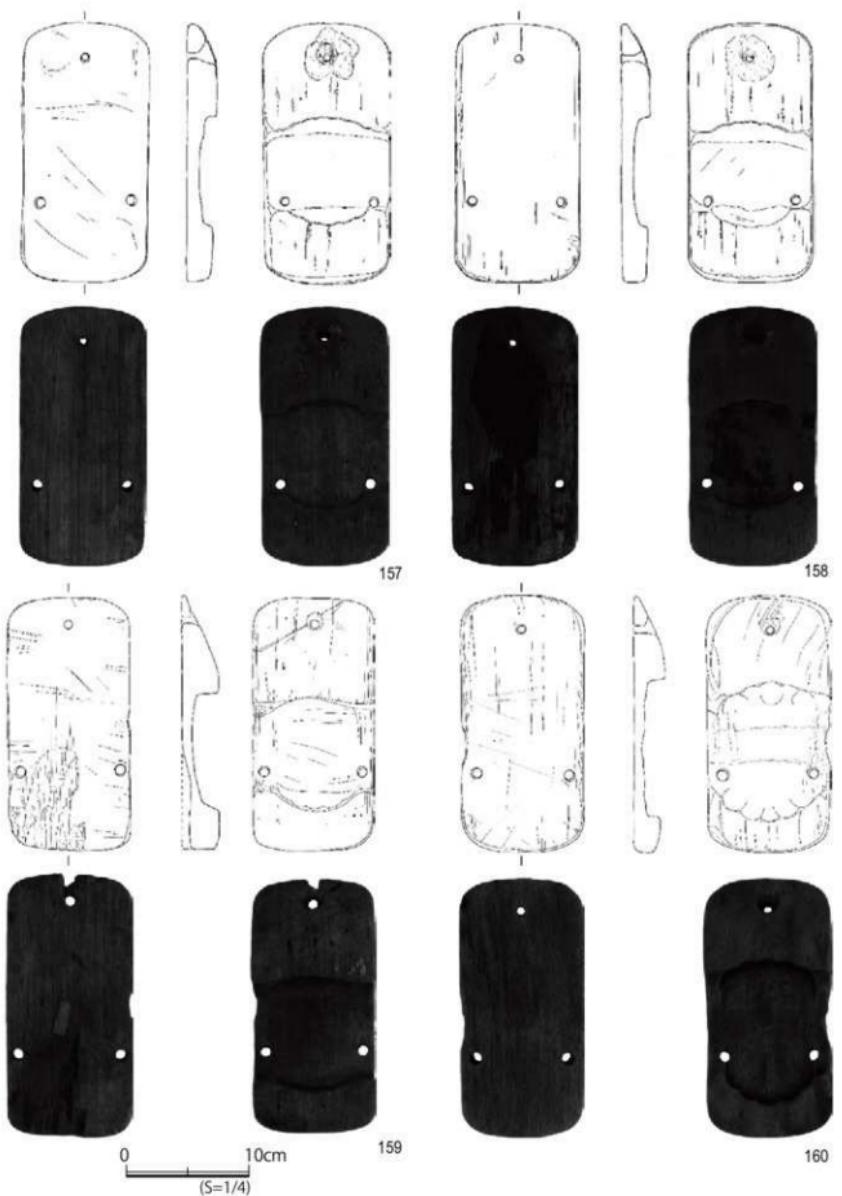


図 155 近代遺構出土木製品 下駄 (6)

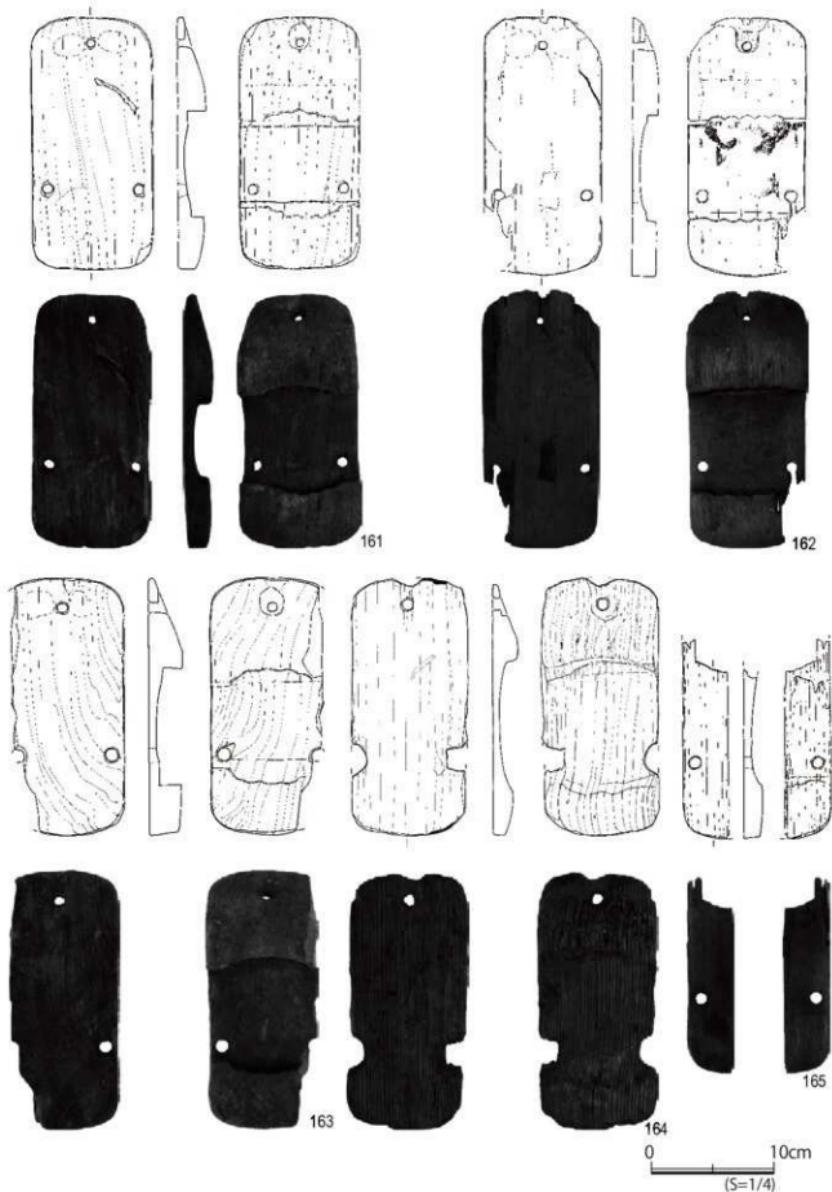
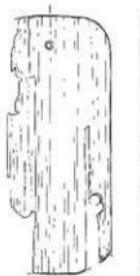


图 156 近代遺構出土木製品 下駄 (7)



166

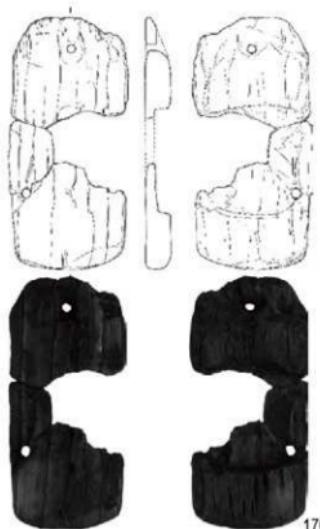
167



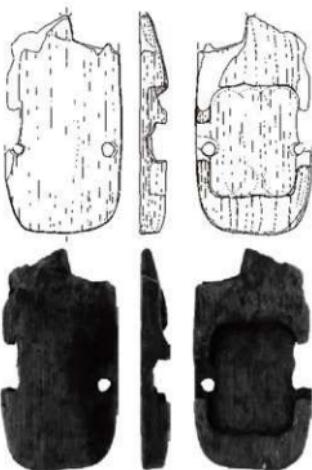
168

0
10cm
(S=1/4)

図157 近代遺構出土木製品 下駄(8)



170



171

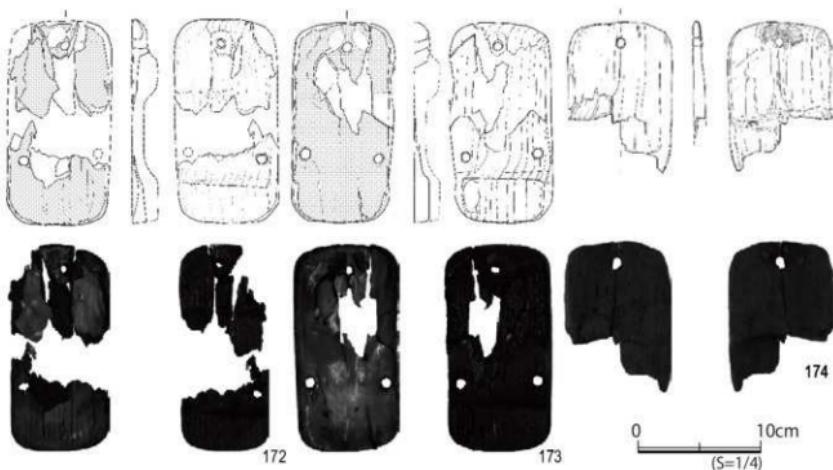


図158 近代遺構出土木製品 下駄(9)

箸類(図160)

箸類は塗り箸が一部見られる(186～189)以外は木を削り出したのみで表面加工をしないものである。186、187は黒漆地に赤漆で文様を描く。188、189は黄漆を施すのみで、作りからは一対と思われるが長さにかなり差があり、それぞれ別に対になる箸があると考えられる。190、191には先端部に噛み締めたような突みが見られる。やや長さに差があるが、一対か。

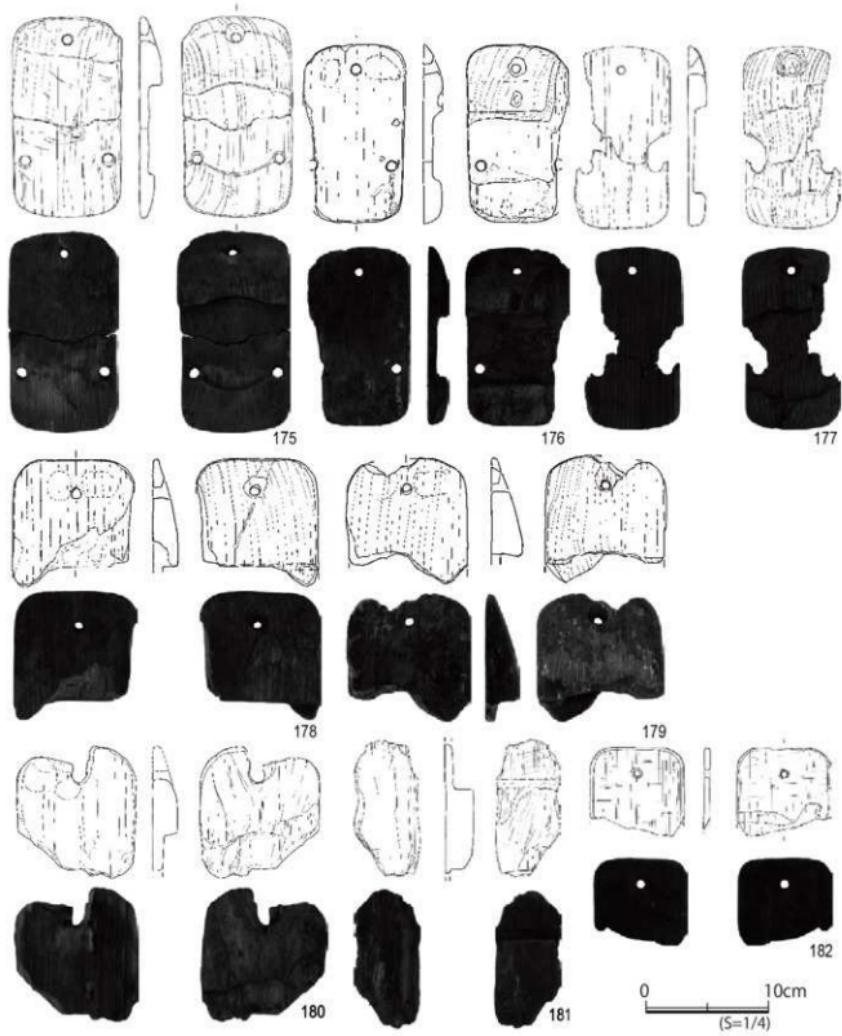


図 159 近代遺構出土木製品 下駄 (10)

208、209のように両端が細くなる形態、190～193のように著先が細くなる形態のほかは、扁平な板状に近く先端がさほどとがらない形態のものがほとんどである。明らかに破損しているものを除くと、長さはほぼ同じである。

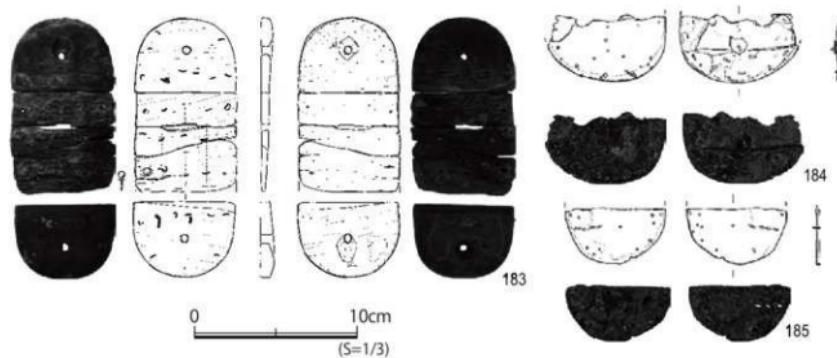


図160 近代遺構出土木製品 履物・箸

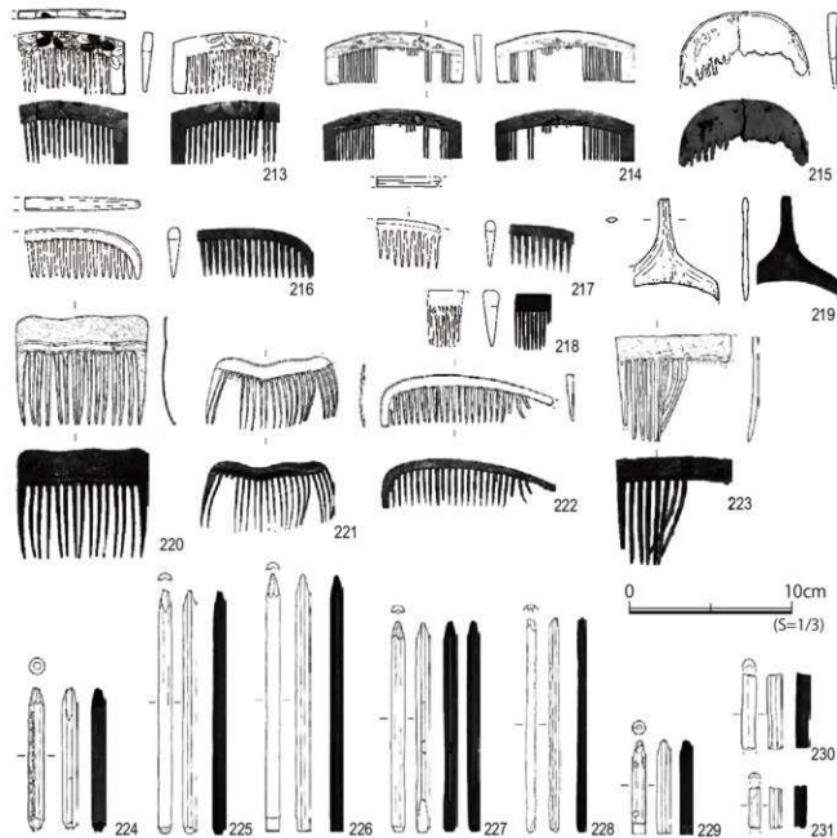


図161 近代造構出土木製品 櫛・鉛筆

櫛(図161)

櫛は木製以外の材質もあるが全体の数量が少ないため一括しておく。213は木製、214は骨製。213は赤漆に蒔絵。214は地に何も施さず直接蒔絵で文様を描く。215は赤漆、216～218は漆を塗布せず歯の粗いタイプで解かし櫛。219は結櫛か。220～223は樹脂製の櫛。221と223は被熱により変形している。

鉛筆(図161)

鉛筆も数点出土している。224は金文字で「Johann Faber.Bavaria.Manufacturer」とありドイツのFaber Castell社製と思われる。中央で割れているが、両側が残って接合する。両端を使用しているようであり、かなり短くなってしまっている。225～231はそうした社名のないもの。226は端が本来の形で

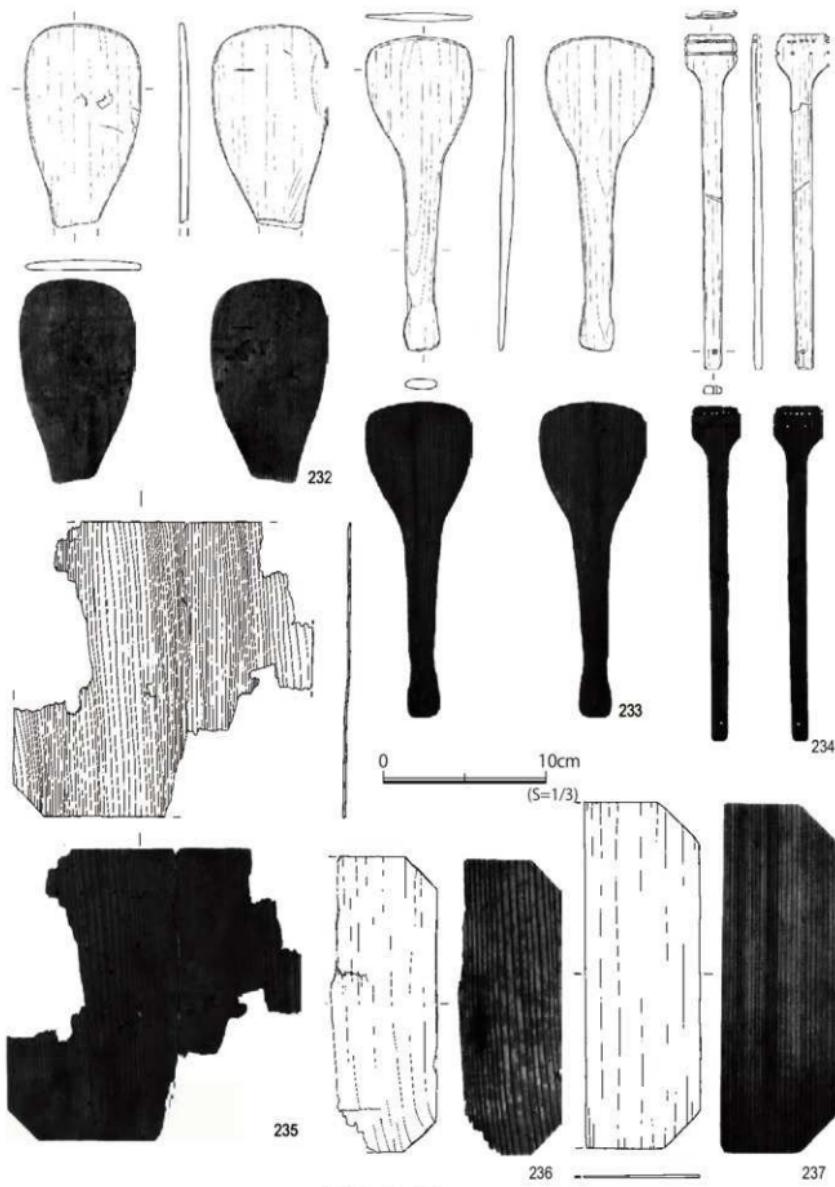


図162 近代遺構出土木製品 廚房具類



図163 近代遺構出土木製品 栓類(1)

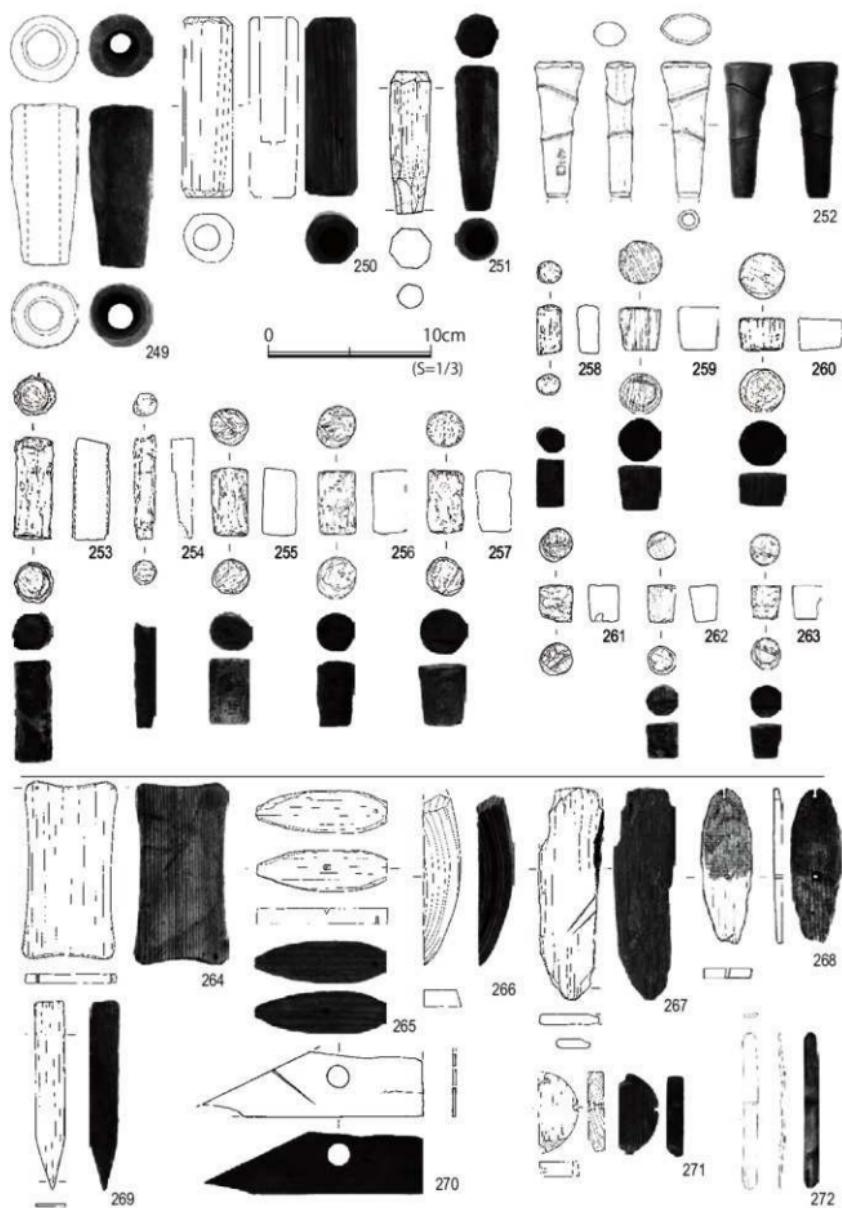


図164 近代遺構出土木製品 栓類(2)

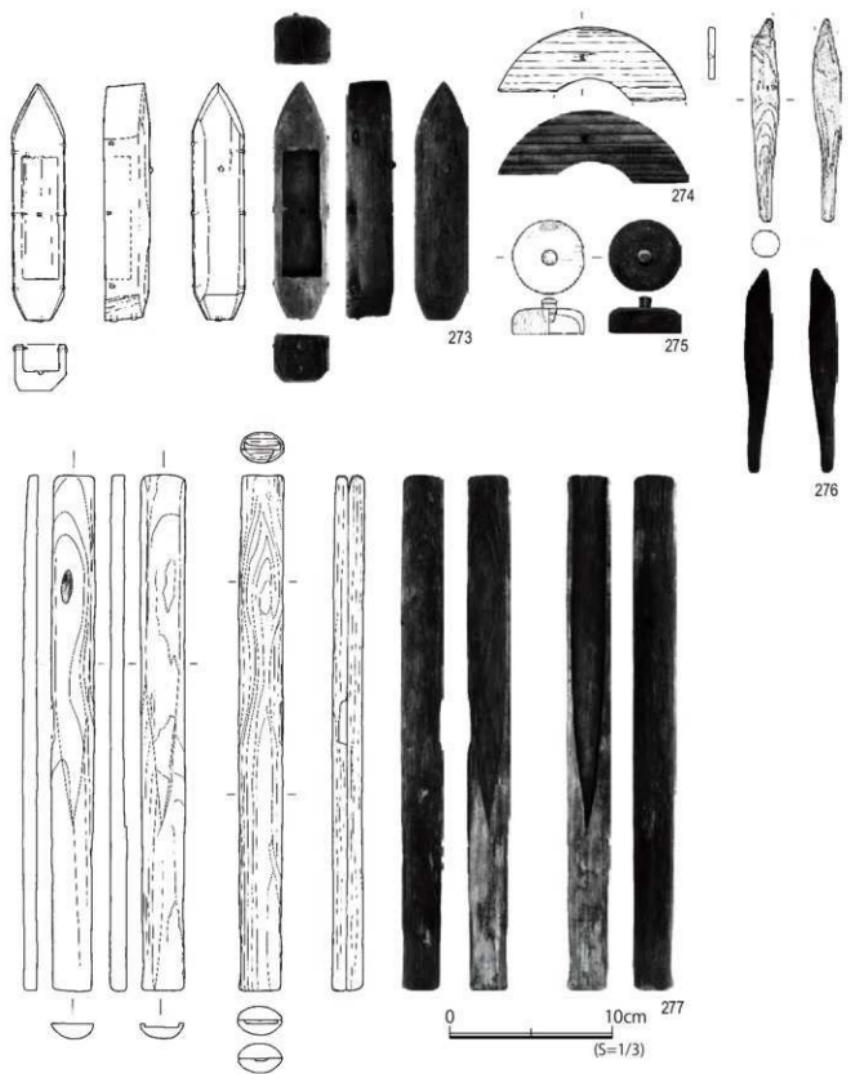


図165 近代遺構出土木製品 その他

残存しているが、他の3点は両端を削って使用したようである。227は芯がそのまま残った状態で出土した。いずれも半分のみで、対応する残り半分は未発見。229～231は非常に短いもの。229は端部が残存しており、ほぼ限界まで使用している。230、231は破碎したもの。



278



279

0 10cm
(S=1/3)

図166 近代遺構出土木製品 板材(1)



図162



図163



280



281

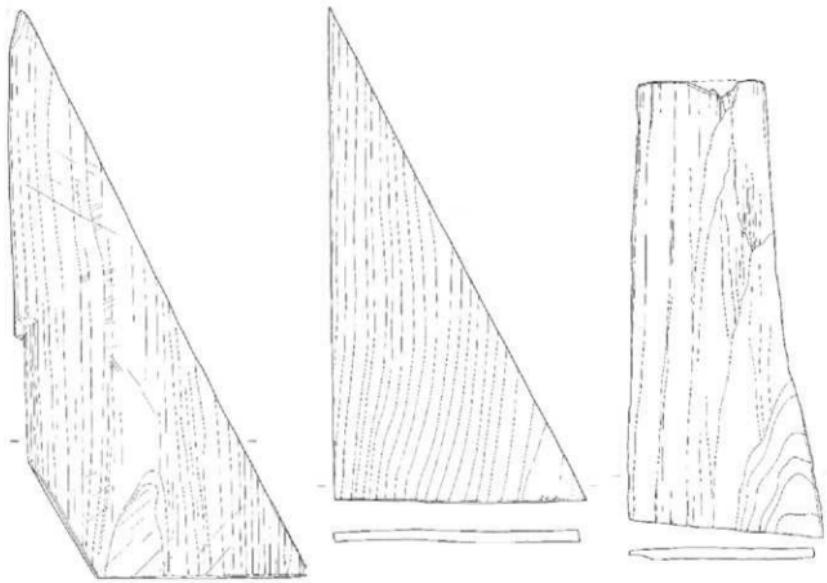
0 10cm
(S=1/3)

図167 近代遺構出土木製品 板材(2)

台所用品類(図162~164)

炊事などにかかわる木製品を一括する。232、233は杓文字。232は柄が破損している。234は刷毛の柄と思われる。235~237は折敷。角を大きく切り落とした八角形。薄い板だが作りはかなりしっかりしている。

238ははめ込み式の三脚を持つ円形の環状木製品。何らかの台に使用したと考えられるが正確な用途は不明。239~241は円形の板。240は一面をくり抜き、もう一面は縁を削り落す。何かの蓋か。240は縁から約3cm内側に両面ともに一条の溝を彫りこむ。241は小型の円形の板で、中央およびその付近に細い孔をあける。242は側面が中央が窄まる形態で、中央には細い孔を1点あける。車輪状の工具か。244は中央に不整形の穴があく。245は背が低いが栓である。246は中央にやや大きめの穿孔あり。用途



0
10cm
(S=1/3)

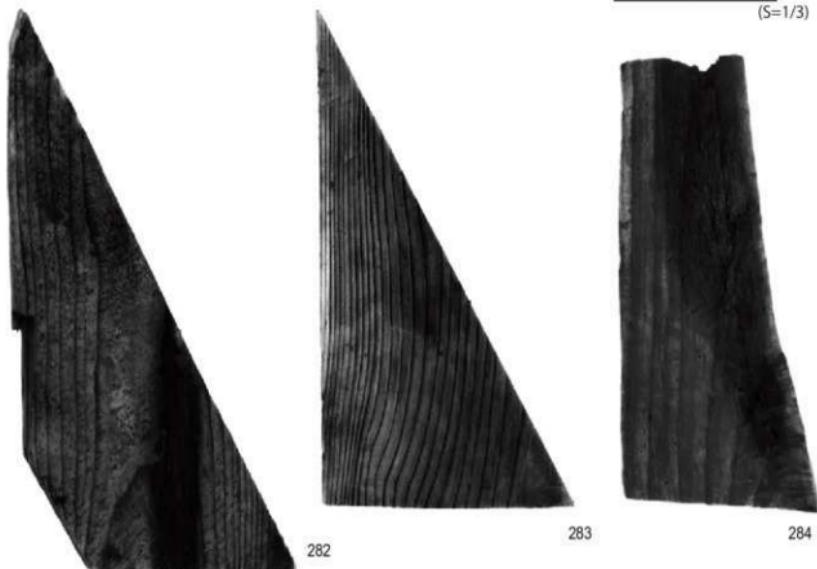


图168 近代遗構出土木製品 板材(3)

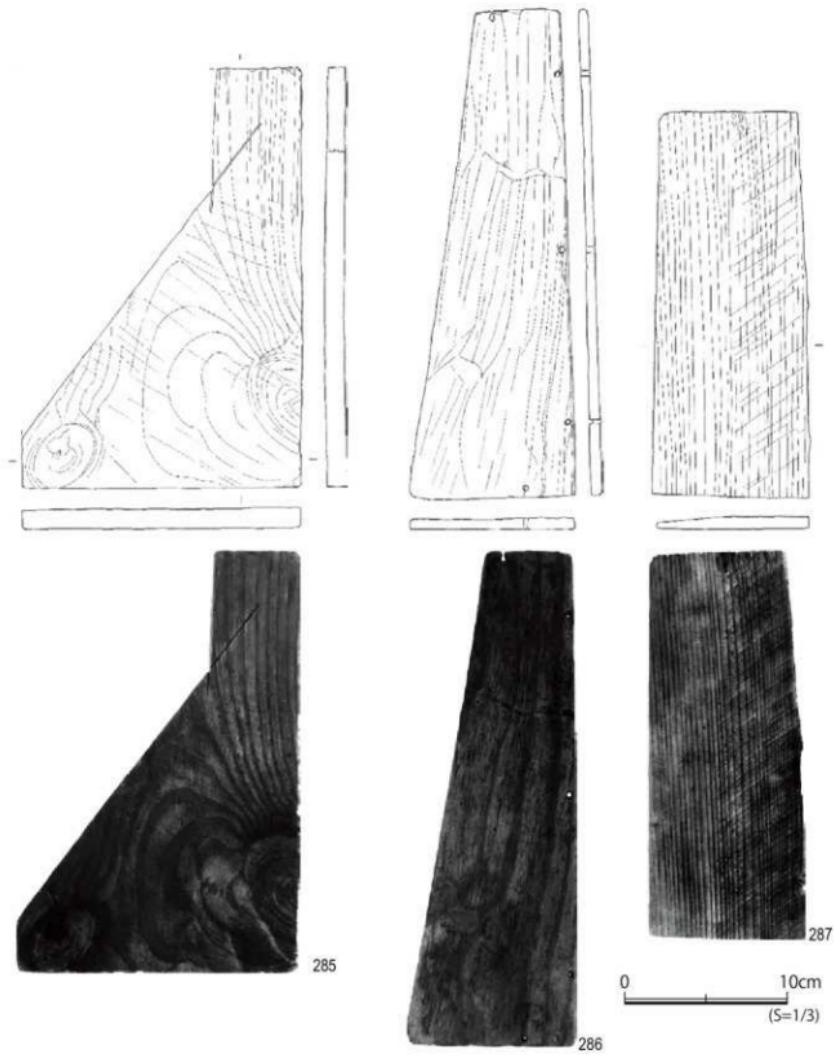


図169 近代遺構出土木製品 板材(4)

は不明。243は側面の面取りをしており、下方がすぼまる。栓か捕粉木か。247、248は一方の端が尖る。栓と思われる。249は中央に穿孔あり。栓か。250は円柱状の木製品。一端から孔を開けるが、中ほどで止まり貫通しない。把手の部品か。251は栓。両端削りで面取り。252は竹製品。一端に穿孔あり。

身に「花山」の2文字と「山」形の角銘が陰刻される。用途は不明だが柄か。258～263はコルク栓。大きさは様々。

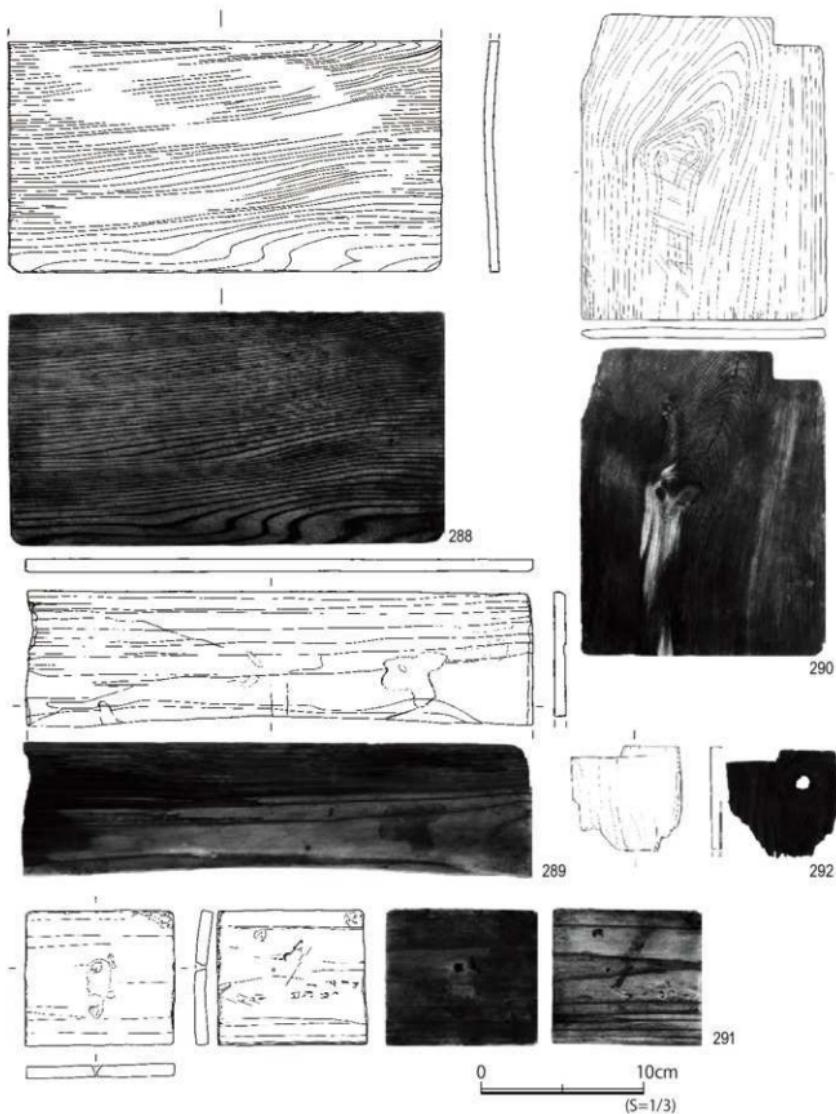


図170 近代遺構出土木製品 板材(5)

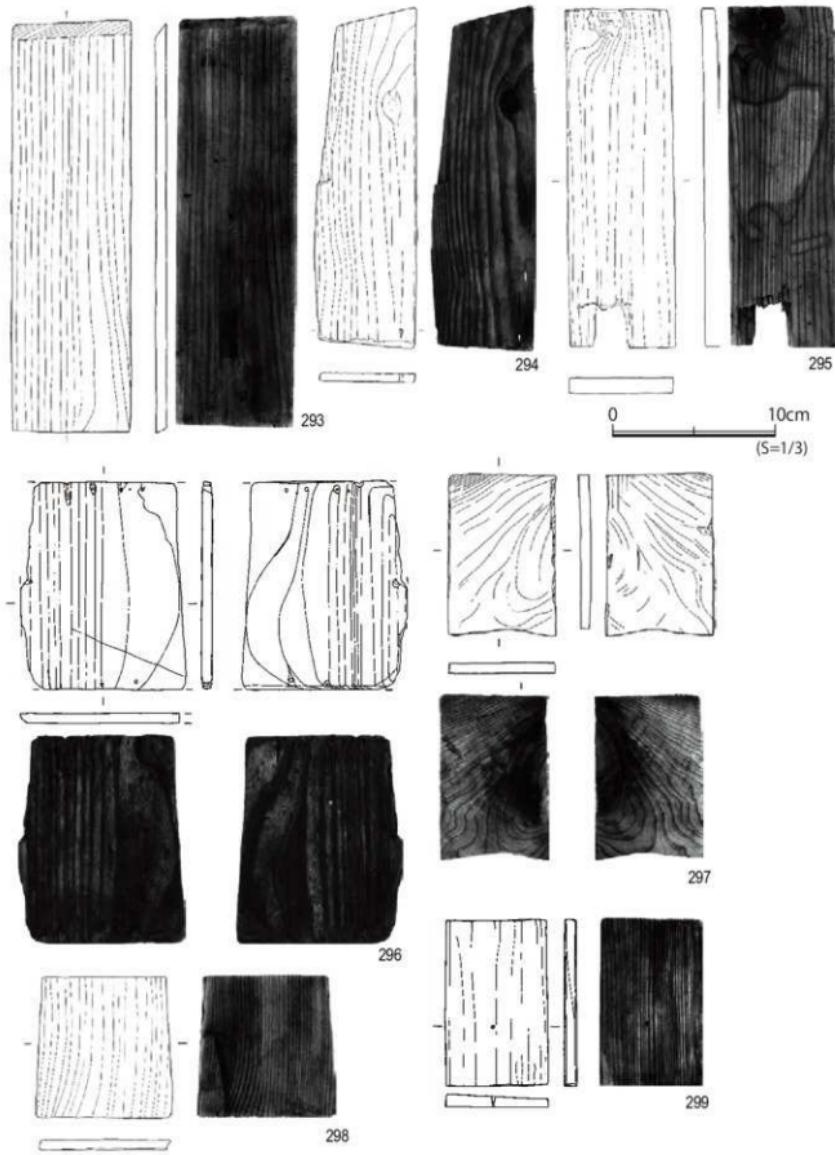


図171 近代遺構出土木製品 板材(6)

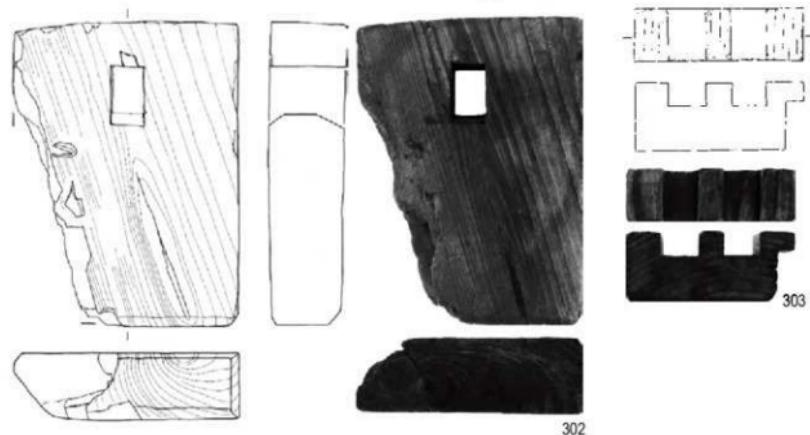
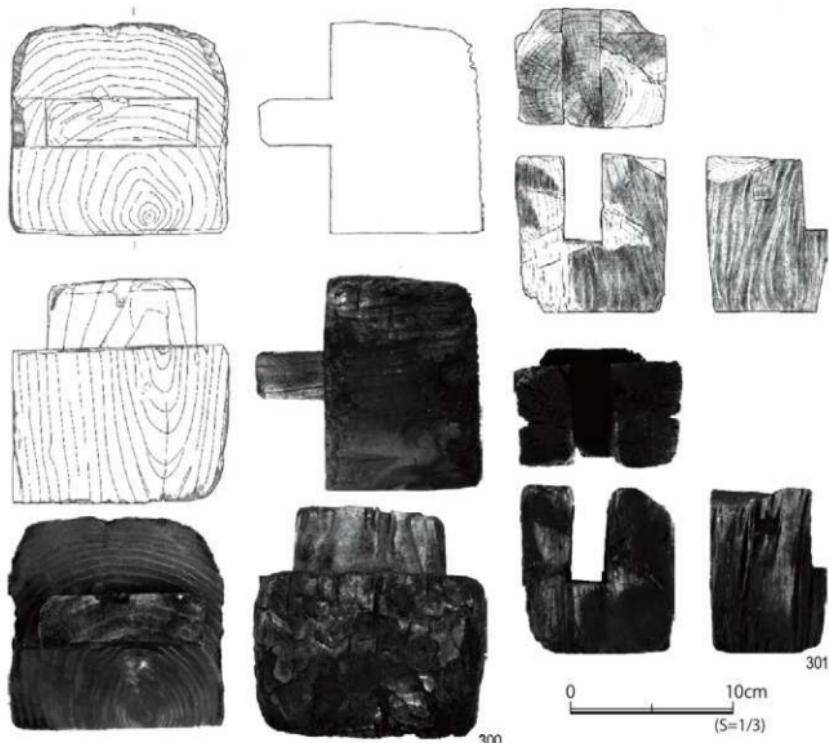


图 172 近代遗构出土木制品 部材 (1)

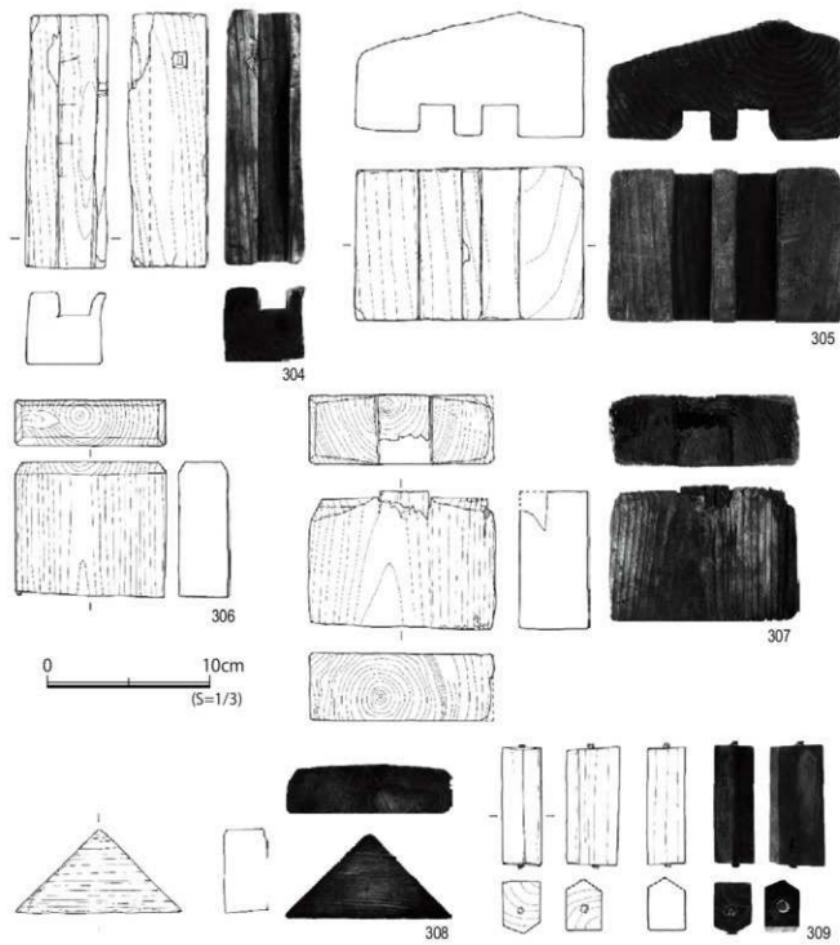


図173 近代遺構出土木製品 部材(2)

その他部材類(図164、165)

加工木材が一定数出土している。264は、板の四周を内部に削った板材。短辺の1辺に2箇所釘穴が残る。269は板状の木製品で、一端を鋭角に削り出す。265は隅丸梢円形に近い。中央に1点、反対側の端部に1点釘穴が残るがいずれも貫通しない。266は半円形で、破損している。267は端部を削って形を調整したもの。一面に刃物による切跡が見られる。一部被熱により炭化。268は形態は265に類似。中央に穿孔あり、また一端に切れ込みが入る。半分は被熱により炭化している。271は半円形の部材。円形の頂部に抉り、平坦面には溝を一条刻む。用途不明。272は竹製の籠か。273は7角形に木材を加工し、

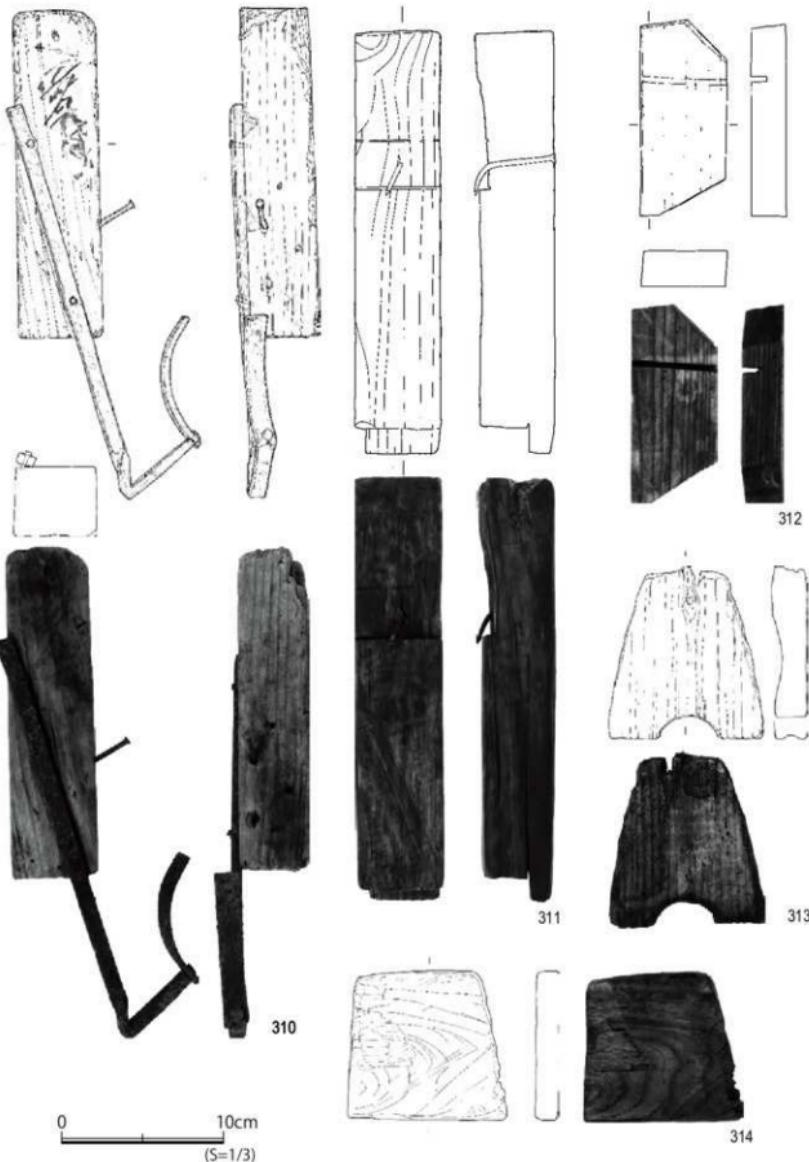


图174 近代遺構出土木製品 部材(3)

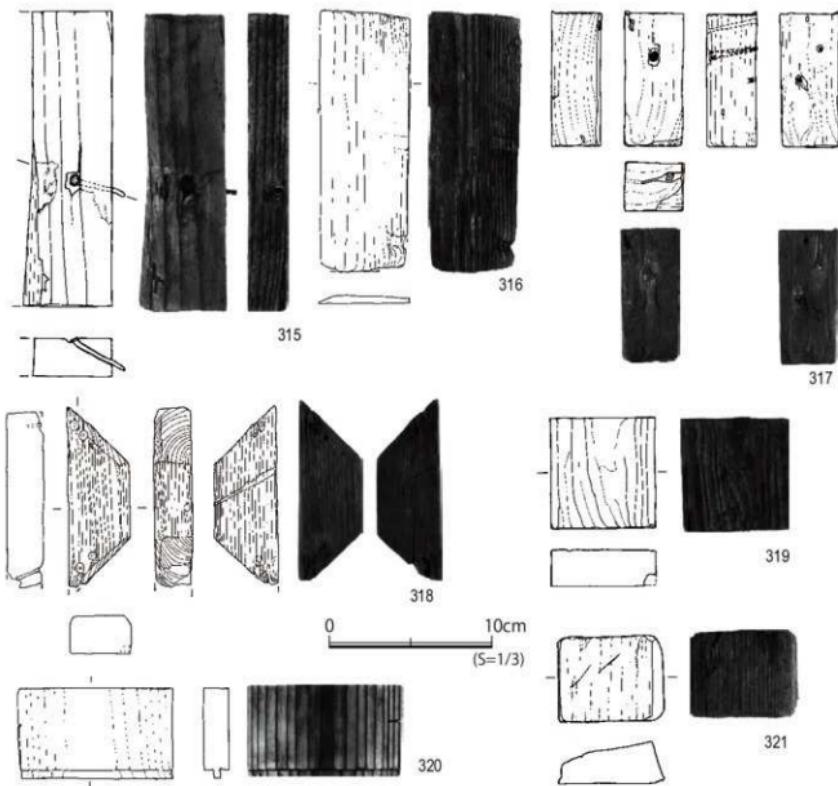


図175 近代遺構出土木製品 部材(4)

中央を箱型に掘り込む。反対側は端部を斜めに削りやや丸みを帯びており。側面にはそれぞれ3本、ほかにも小型の釘が打たれている。用途は不明。274は半円形の板材。275は器蓋。金属製の摘みがつく。276は棒状製品で先端を細く削る。被熱により炭化している。277は刀物の鞘と思われる。

板材(図166～171)

用途不明だが方形を呈する板材を一括する。278は箱の部材か短片に釘穴が多数残る。279、280は長方形の部材。281はほぼ正方形の部材。282は三角形の角を切り落とした形を呈する。283は三角形の板。284は不整形の板。285は鋸痕の残る板。286は3片に釘穴の残る板。287は鉋痕の明瞭に残るほぼ長方形の板。288、289は隅丸方形の板。破損している。290は1角を切り取った方形の板。鉋痕がわずかに残る。292は鋸痕のある板の小片。291はほぼ正方形の小型板。293は長方形板材。短片の1端を斜めにカットする。294は不整形の板材。295は長方形の板材。一部破損。296～299はおよそ長方形の板材。296は2辺に釘穴がみられ、破損しているが、箱の部材か。

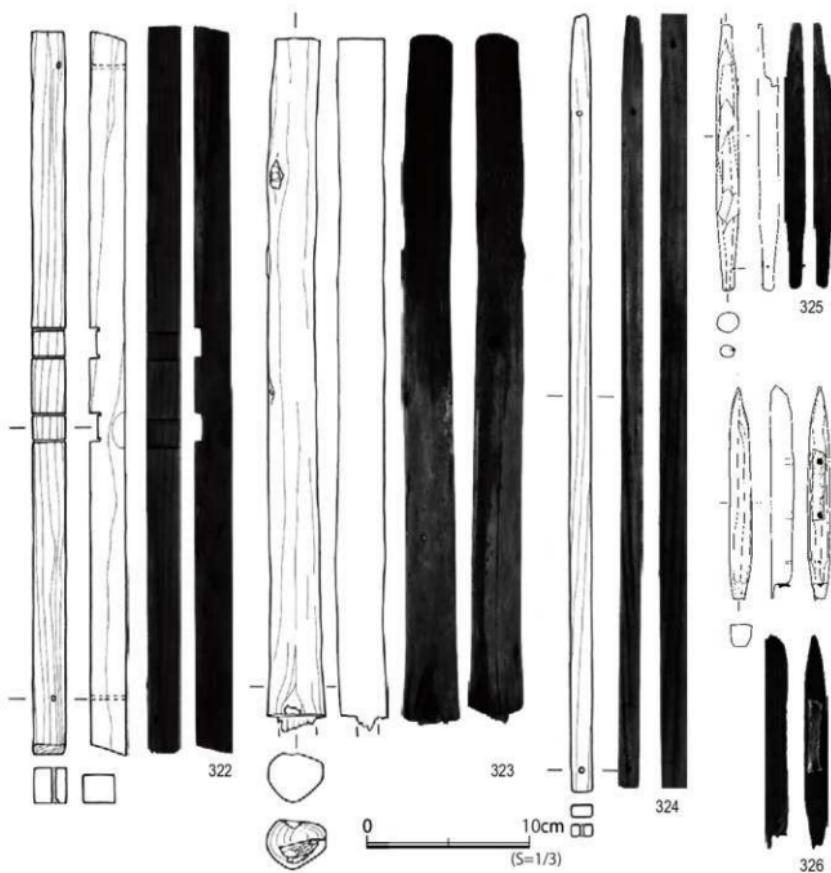


図176 近代遺構出土木製品 部材(5)

その他の部材(図172～177)

その他柱材などと思われる様々な形態の部材を一括する。300はほぞをもつ柱材か。ほぞ面には工具痕が見られる。被熱により下部は炭化してしまっている。301は溝を1条掘りこんだ材。302は方形の孔を掘りこんだ厚めの板材。303は2条の溝を掘りこんだ材。304は1条の溝を掘りこんだ角柱。305は2状の溝を掘りこんだ材。306は端部を面取りした厚めの材。307は加工途中の材か。308は小型の三角形の材。309は断面5角形を呈する材。両端に釘が1本ずつ打たれている。310は金具を打ち付けた方形の柱材。遺構1北壁隅の大型柱材の傍から出土。金具の形状は雨樋の受け具か。311は加工のある長方形の柱材。鉄釘が1本打たれている。312は6角形の端材。切り込みが1条みられる。313、314は台形状を呈する板材。313は長辺を半円形に抉る。315は方形の端材。釘が1本打たれている。316は長方形を呈す

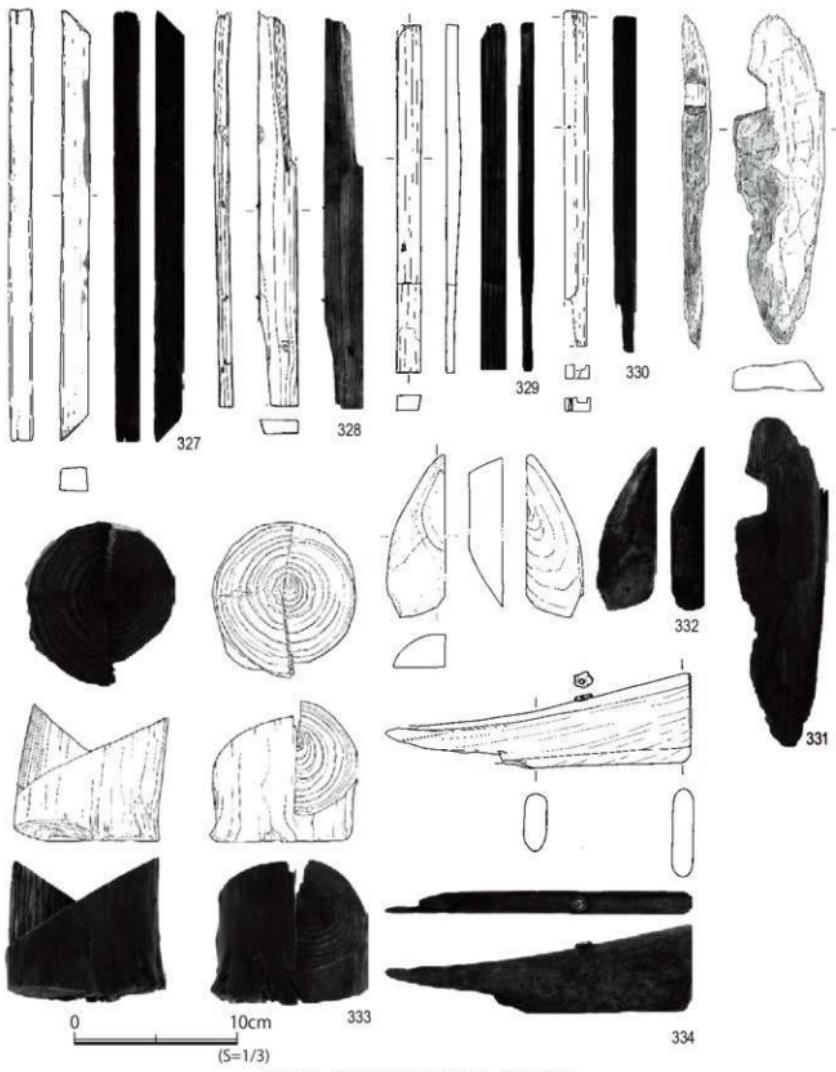


図177 近代遺構出土木製品 部材(6)

る板材で、溝状の凹みは2条みられる。317は角材。318は台形の端材。釘穴が左右に2つずつ残る。320は継手のある板材。319は方形の端材。321はほぼ方形の端材。322は中央に仕口のある柱材。両端を斜めに面取りするし、端部付近にはそれぞれ釘が1本打たれる。323は円形の柱材。切り取る際に折り取ったのか端部が平坦にされていない。324は細長い長方形の角材。端部付近に釘穴が1点ずつみられる。

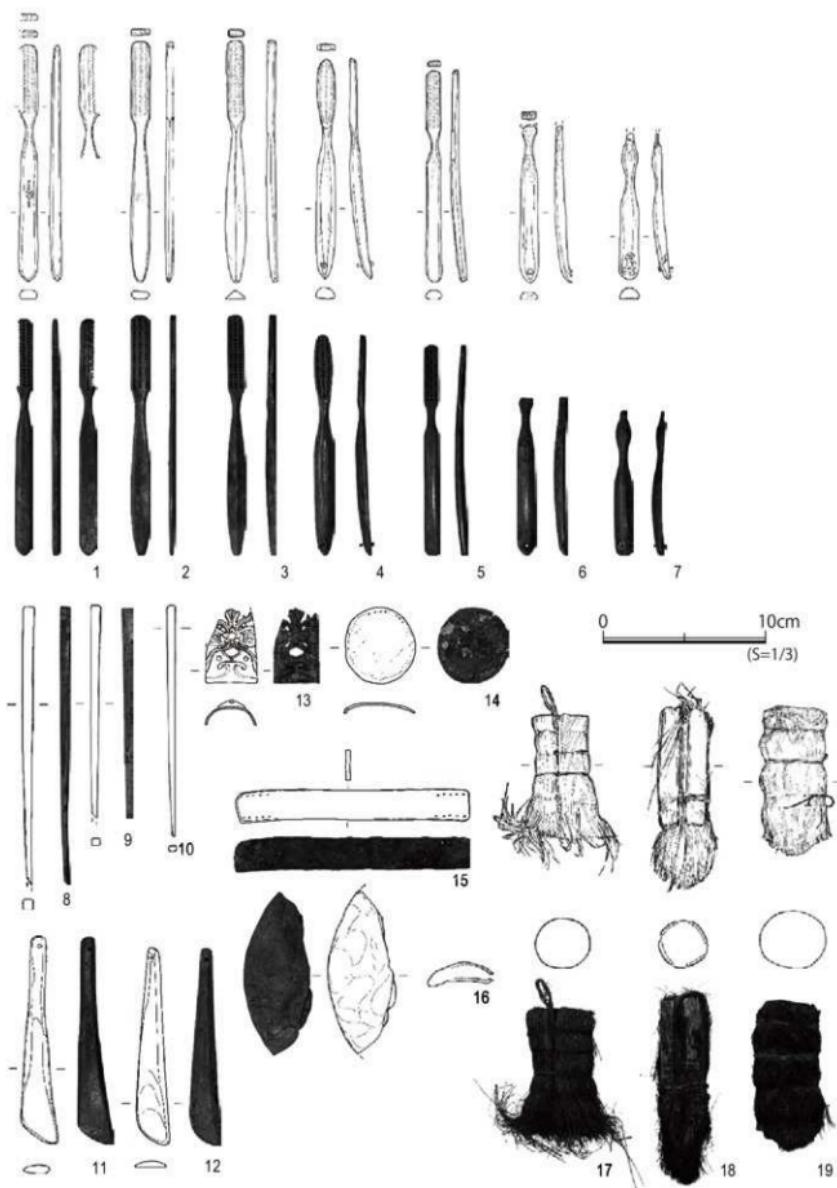


図178 近代遺構出土骨製品他

325は両端を削りすぼめた棒状部材。1端に釘が打たれている。329も類似する形態だが、一面の中央付近に金属の小板を釘で留めている。327は両端を斜めに削った角材。328は破損しているが、長方形板材で釘穴が1点みられる。329は長方形板材。330も長方形板材で一条溝が切ってある。331は被熱による炭化が激しく本来の形状が不明。方形の抉りがみられる。332、333は加工された円柱。334は銑床状の板材。破損している。

8-10. 骨角製品ほか(図178)

骨角製品も少量出土しており、一括して述べる。1～7は骨製の歯ブラシ。いずれも台部に3列の植毛孔がみられる。6、7は台部が欠損していて不明であるが、1～5は上部の端側面に3つの穿孔が施され、側穴型植毛技法によるものである。1には柄部に「TRADE K MARK」の刻印がみられる。柄の形状はそれぞれ差がある。断面は1、2は隅丸長方形、3は三角形、4～7は蒲鉾形である。4、6、7は柄の端部に穿孔があり、4、6は釘が残存している。おそらく舌苔除去具が付属していたものと推定される。

8～10は骨製箸。8、9は断面方形で先端が窄まる。破損しており長さが不明であり、一对かどうかも確認できない。10は断面円形。1本のみ出土している。11、12は範状の骨製品。いずれも端部に穿孔を1つ施す。13は骨製の装飾品。草花を彫刻したものか。14～16は革製品。14は円形で小孔が縁に沿って7点確認できる。何かに縫い付けたものと思われるが詳細不明。8はベルト状の革製品。両端に小孔が5点ずつみられる。16はボールか。17～19はさら。棕櫚を針金で束ねたもので、18は持ち手として竹板を4枚添えてある。いずれも使用感が激しい。

第9節 自然遺物について（写真図版30）

近代の遺構からは多数の自然遺物が出土している。貝類ではアカガイ、アサリ、イタヤガイ、ウチムラサキガイ、クロアワビ、コナカニシ、サザエ、サトウガイ、ハマグリ、チョウセンハマグリ、ツメタガイ、トコブシ、ボウシュウボラ、マガキ、マダカアワビなどで、海生がほとんどである。なおハマグリ、アサリ、サザエの個体数が多く、サザエが最多である。動物骨、魚骨は少ない。ウシとブタの骨が1点ずつのほかは、ニワトリの骨がほとんどで、魚骨も不明の擬鎖骨が1点のみである。加工骨としてはウマウシ類の大脛骨を切断したものが2点、肋骨を切断したものが1点出土している。

なお中世の自然遺物は貝類としてアワビ、アカニシ、バティラ、ハマグリ、チョウセンハマグリ、マガキ、キサゴ、イボキサゴなどがみられる。動物骨はイス、ウマ、ウシ、シカ、イノシシ、ノウサギ。鳥類は不明なものが多いが、マナヅルが含まれる。魚骨はマダイが出土している。数量については特に突出したものはない。

貝類がどちらも多いが、貝種には差があり、中世に特徴的なアカニシは近代にはみられない。一方中世には一般的ではないアサリ、サザエが近代では多い。ハマグリ、カキ、アワビはどちらでも共通してみられるが、当調査地点出土の近代のチョウセンハマグリは中世のものと比べても非常に大型である。近代で鳥類にニワトリが多数みられるのも食生活の変化の反映と考えられよう。

第10節 鎌倉焼について（図179～181）

近代の遺構1から出土した遺物のうち、三猿の焼物（図86-5）はその胎土や仕上げから鎌倉焼の可能性が高いと思われる。かつて長谷郵便局前近辺で大量の鎌倉焼の製品が出土しており、その地点が鎌倉焼の店舗跡と考えられる。近代鎌倉の焼物資料として非常に価値のある資料であり、本稿にて特別に代表的なものを掲載しておく。

1～5は小型の杯。1は胴部の丸い碗。乳白色の釉を施し、外面は指頭により起伏をつける。2～5は形態や施文に細かな差があるが、口縁から高台まで直線的に收敛する形態の杯で全て素焼きである。2はスタンプにより胴部情報に草花様文、底部立ち上がりに菊花文を施す。3は底部立ち上がりに菊花文のスタンプのみ。4は口縁付近を指頭でなでつけている。5は草木を陰刻している。いずれも高台見込みに「鎌倉」の陰刻あり。6、7は伴出品で、瀬戸美濃製の杯。本遺跡出土品と同じ時期のものである。6は手書きで吉祥文を描くか。高台見込みに銘があるが判読不能。7は飛び鉢によるクロム青磁杯で図43-156にフォルムがほぼ同じ。8は盃か、流鏑馬の的として使用されたものかもしれない。素焼きで背がやや低い。高台は底部を削り取る。見込みには弓矢の絵と「鎌倉 八幡宮 鶴岡 弓術会」という陰刻が見られる。高台見込みには「鎌倉」陰刻あり。9はハマグリのような貝殻を模した杯。いずれも素焼き。10～12は筒形湯呑。10、11は表面を指頭にて凹凸をつけ、10は「夏卯哉つはもの共か夢のあと」11は「夏卯哉徒者ものとも可夢のあ登」といずれも外面に芭蕉の俳句を刻字している。12は単純な筒形の湯呑で、底部の立ち上がりの屈曲部まで淡緑色の釉をほどこし、以下高台までは露胎である。いずれも高台見込みに「鎌倉」陰刻あり。

13は水注。ドーナツ形の胴部に高台と注口がつく。全体に褐色釉がかかるが、高台見込みは露胎で「鎌倉」陰刻あり。14はタイを模した皿。目の周囲のみ乳白色釉が付着するが全体的に露胎している。15、16は同一モチーフで急須の蓋か。いずれも内部が凹状に落ち込み、松笠形の摘みが付く。15は素焼き、16は濃い褐色の釉をランダムに流した上に淡橙色の釉を掛けた。「鎌倉」の陰刻は見られない。17は素焼きの調徳利。外面は指頭で凹凸をつける。「鎌倉」陰刻あり。18、19は蓮華。18は外面にわずかに乳白色の釉を施すがほとんどは露胎。見込みに「大佛」と陰刻がある。19は素焼き。底面は指で強くなでつけている。いずれも「鎌倉」陰刻あり。

20はウサギをかたどった皿か。耳や顔の輪郭などには黄色釉、目には褐色釉、全体には乳白色釉を施す。底部の接地面のみ露胎。「鎌倉」陰刻あり。21は龍型容器の型。素焼き。外面は指頭で調整されている。22は飾りか。凸面は鬼、凹面はお多福のモチーフ。釉掛けをせず、顔料にて鬼面は顔を眉に、お多福面は髪、目、鼻頭、唇にのみ彩色を焼成前に施している。23、24は艶形香炉のミニチュア。23は素焼き。24は焼成前彩色で地に橙色、口縁から胴部中央にかけて褐色で彩色している。由比ガ浜中世集団墓地出土品。いずれも「鎌倉」陰刻あり。25は軒丸瓦のミニチュア。2羽の鳥が向かい合う瓦当文。背面には布目痕を施す。表は橙色釉を地にし、鳥の目と周囲の円点に褐色釉。背面は布目の範囲にのみ橙色釉をかける。「鎌倉」陰刻なし。26は印。狛犬形鉢か。印の文字は篆書体で判読できず。印字部以外は白色釉を施す。27は急須のミニチュア。白色釉を地に緑、黄、赤の三色釉をポイント的に施す。底部は露胎。由比ガ浜中世集団墓地出土品。「鎌倉」陰刻なし。28は容器のミニチュアか。上半に白色釉をほどこし、下半は炉体。29は鳩の置き。乳白色釉を地とし羽部に褐色釉をかける。30は形か。用途不明。幾何学的な文様を施す。背面は強いナデ痕がみられる。わずかに乳白色釉が付着。31は勾玉。表面は調整があらい。黒色顔料で幾何学的な文様を描き、乳白色釉を施す。片面の穿孔付近には褐色釉が掛かる。

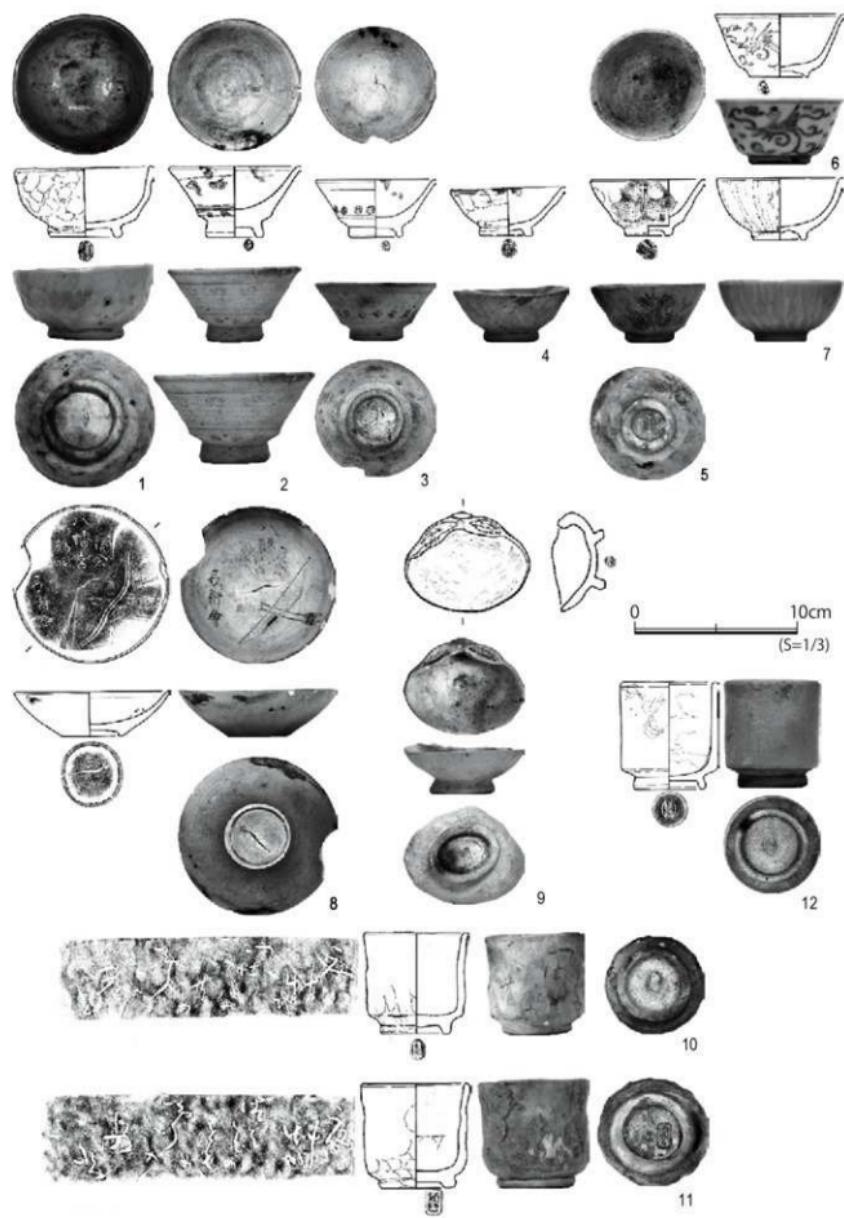


図179 鎌倉焼(1)

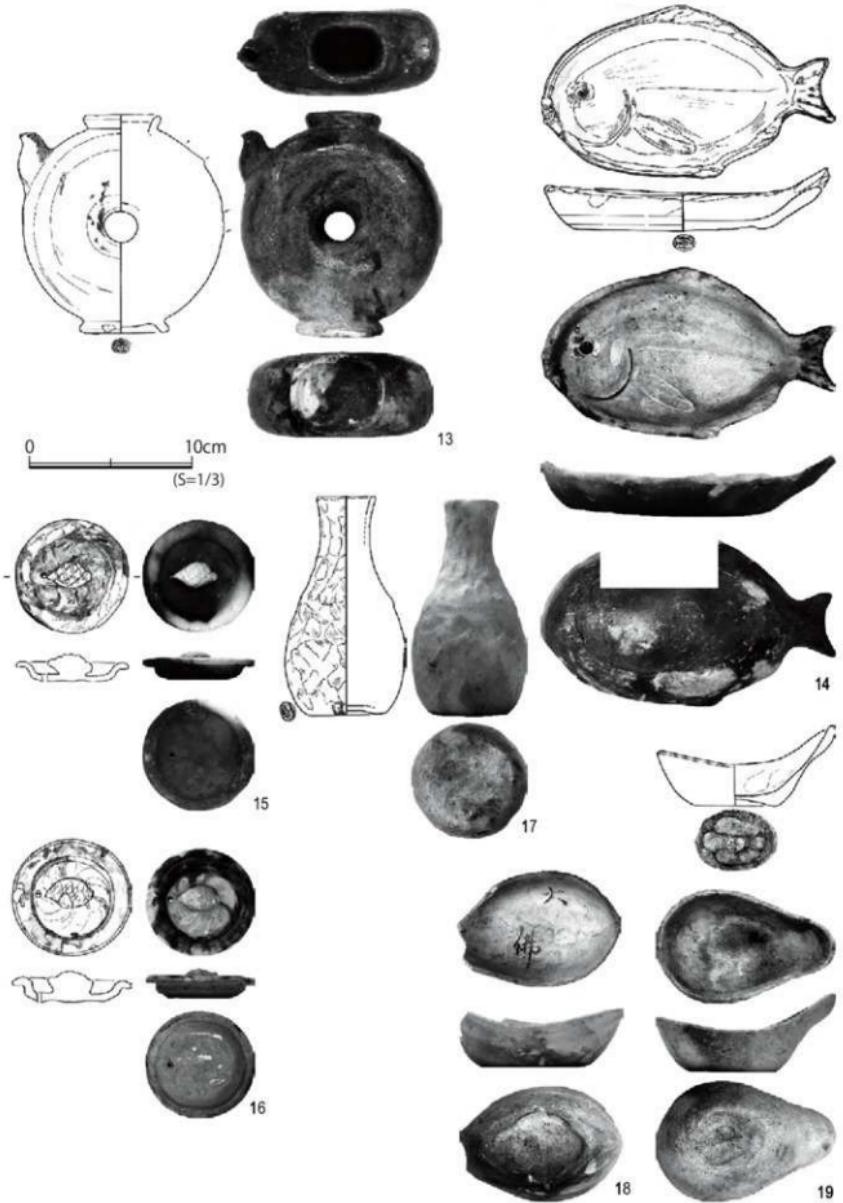


図180 鎌倉焼(2)

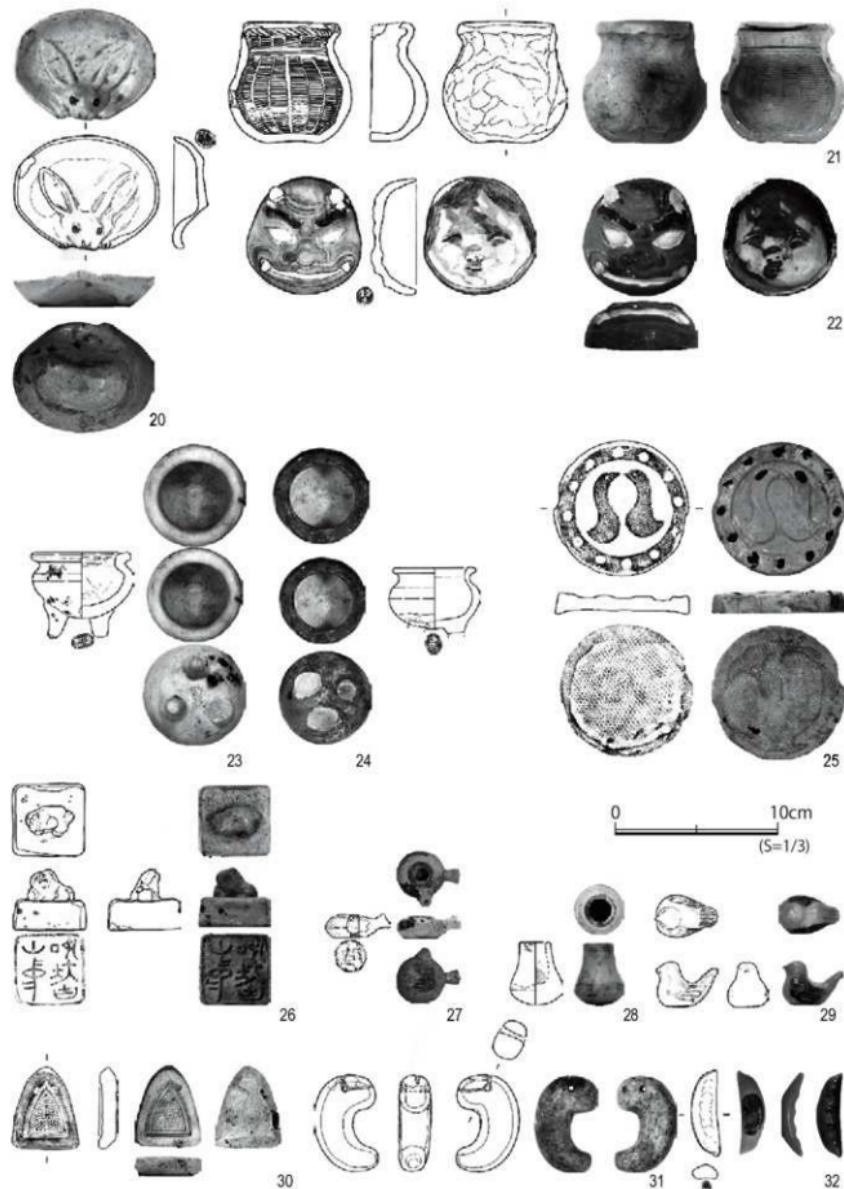


図181 鎌倉焼(3)

32は枝豆形の箸置きか。暗緑色の釉を施し、接地面は露胎で平坦。「鎌倉」陰刻あり。

その他図示はしていないが、「法要記念 西来庵」の文字のある容器、三鱗文のある容器、瓢箪形徳利、茄子形徳利、俳句、和歌を記したと思われる碗や湯呑、急須、皿などの容器類、そして武人や獅子、熊や鶏、蟹などの像、仏像、観音像や像を作るための型が多数出土しており、様々な器種を製作していたことがうかがえる。

第三章 考察とまとめ

第1節 検出した遺構と遺物

中世は生活面が5面検出され、それぞれに建造物が確認された。面の地業は第1面、第2面はかなり泥岩を多用してしっかりとした面を構築している。確認用の深掘の結果を合わせると少なくともあと2面の生活面が存在していることは確実であるが、中世地山は確認できなかった。

1期（第1面）

第1面での検出遺構は少なくとも3期の切り合いがある。耕作土や現代の掘りこみ、特に近代遺構によって東半分は削平されてしまっており、確認されたピット数に比して建物址を推定することはできていない。礎板はほとんど残存していないかった。遺物の出土量はさほど多くはないが、中世遺物が出土している。1期はおおむね14世紀後半と考えられる。

2期（第2面）

第2面も近代遺構により東半分は削平されてしまっている。ピット、土坑は少なく、凝灰質砂岩石列が主体となる建造物である。ピットには底部に礎板を有するものがわずかにあるが、建物の推定は困難である。石列もおそらく破壊されて完全な状態では残存しておらず、遺構の性格をつかみ難いが、東側に破碎泥岩を緊密に敷き詰めた地業が存在しており、南側では大型の土坑が集中していることから、石列によって場の区画がなされていることが明らかである。構成土からは多数の白かわらけが出土しており、本地点周辺は比較的検出例が多い地域であり、同様の傾向が見られる点が興味深い。2期はおよそ14世紀前半と考えられる。

3期（第3面）

第3面は東半分は近代遺構によって上部が削平されている可能性があるが、調査区全体で中世の遺構が確認されている。南北を走る溝は狭く浅く、南北軸は第2面の凝灰質砂岩にはほぼ等しい。建造物の基本軸が変化していないことが分かる。溝は火災をうけて側板が炭化しているが、そのほかに明確な火災の痕跡は認められてなかった。礎板は柱穴底部、地業面上に数多く検出されており、柱穴数も多いが、やはり建築址は推定は困難である。溝の西側には大型の泥岩塊を敷き詰めた地業面が存在しているが、いかなる目的によるものかは不明である。溝を埋めた後にその直上に柱穴が掘りこまれており、この時期にも建物の頻繁な建て替えが想定される。3期はおおむね13世紀後半～14世紀初頭と考えられる。

4期（第4面）

第4面は調査区全域にわたって中世の遺構が確認された。東側からは柱穴底部や地業面上に多数礎板が確認されたが、建築址の推定は難しい。東側は建物が繰り返し建築されたエリアで、西側は土坑が集中しており、東西で土地利用に差があると思われる。南東には板壁建物らしき建築址が検出されたが、詳細は不明である。4期はおよそ13世紀後半と考えられる。

5期（第5面）

第5面は面としてほとんど捉えられておらず、建築址の推定などは不明である。4期とあまり時期差はないと推定される。

第6面、第7面ともにトレンチでの確認であり、遺構、遺物についてはほとんど不明である。第7面は13世紀後半以前。

近隣の調査事例と比較すると、御成町171番1外地点（図1-4）では大規模な建築址や道路跡が検出されており、扇ガ谷1丁目74番9地点（図1-18）では東西方向の道路跡、扇ガ谷1丁目74番8・10地点（図1-19）では東西方向の凝灰質砂岩による石列が発見されている。道路や建物の軸をみると、ややすれはあるものの、主軸はほぼ共通している。本調査地点で検出された溝や石列もほとんど同様の主軸方向であり、この一帯の道路構築とそれによる区画は同一の基準軸によって構築されている可能性が高い。調査地点数や調査面積がさほど豊富ではないので一概には言えないが、その基準は現在の今小路を超えて広がっており、また今小路に沿ったり直行する形ではなされていない。今小路については未検出であるため当時の道と現在の道が同一方向かどうかは不明であるが、同一方向であるとすれば、大通りの軸を無視して屋敷地の区画が設定されることになる。また若宮大路に沿ったものでもない。この一帯の主軸は御成小学校地点（図1-7、8）と類似するもののややすれが大きく、南側一帯とも異なることになる。周囲の丘陵にはやぐらが多数残存しており、地形的には中世から大幅に変更は受けていないと思われるが、それらとの有意な関係も現在のところ見出し難い。この一帯は多くの御家人が集住する武家地であり、御成町171番1外地点は安達氏の宿所の可能性が指摘されている。本調査地点はそうした武家地の中の一角であることを示唆するものであるが、全体像の解明は今後の資料増加によって検証していく必要がある。

第2節 近代遺構の年代、出土遺物

近代遺構は全体の規模は明らかではないが、検出された部分に限定しても大型で深さもあり、長方形に近い幾何学形の大型土坑である。遺構1の北壁で検出した木材については構造物の1つかと思われるが、特出する加工痕などもなく、どのような機能を果たしていたのかは不明である。南側で検出した松杭は調査深度では抜き出すことができないほど深く打ち込まれており、建物の基礎であって土坑とは別のものである可能性もある。構築時期はこれらの構造物から近世にまでさかのばる可能性もあるが、主たる出土遺物は近代のものである。

出土遺物について、年代を推定できるものについて検証し、遺構の構築年代を検討する。

紀年資料

紀年を持つものは1銭銅貨である。明治19（1886）年の龍一銭と明治34（1901）年の福一銭がそれぞれ1枚出土している。赤十字紀念章は日露戦争の戦傷病者の救護担当者に授与された徽章で、明治38（1905）年以降のものとなる。

陶磁器

統制陶器はみられず、少なくとも第二次大戦以前と言える。最も古くさかのばるのは景德鎮製の鉢で江戸初期に相当するが、1点のみ突出して古く伝世品か骨董品と考えられる。近世磁器は17世紀末から

幕末に相当する肥前産が数点、また近世の陶器片がわずかに出土しているが、いずれも小破片であり主体をなすものではない。磁器は型紙摺絵、銅版転写、吹墨、イッチンの技法がみられるがゴム印判は明確ではない。型紙は比率的に少なく、銅版転写が卓越している。碗は丸碗がほとんどなく、ほぼ平碗である。

なお、徳利では日本の高山について記載した例（図60-357）が出土しているが、それには「新高山」が含まれている。玉山を新高山と改称したのは明治30年である。他に大石酒店の徳利があるが（図61-363～366）、住所が藤沢大坂町となっており、この表記は明治42年以前に使用されたものである。大船軒のうるか容器（図74-52）は明治39年に申請がなされており、この時期以降に販売されたものである。

出土磁器の様相については東京都の音谷遺跡D1廃棄坑や雑司ヶ谷V遺跡に類似しており、ほぼ同じ製品も見受けられる。音谷遺跡D1は明治28～33年、雑司ヶ谷V遺跡4区3号遺構は明治末から大正年間と推定されている。また大正5年に廃業した静岡県のいせう陶器店遺跡と類似する資料もある。本遺跡の出土磁器についても明治後半から大正年間に属するものが大半と考えられる。

陶器について色川醸造は江戸時代より明治まで続くため、瓶の年代そのものは限定できない。日本硬質陶器は明治39年以降の製造である。

土器について角焜炉は愛知県高浜市一帯で製造されたものであるが、角コンロ製造名産組合の名称は明治23～43年に使用されたものであり、製作時期はこの期間に限定される。

ガラス製品

上限が限定できる資料を取り上げると、底部に「R&CO 40」のエンボスを持つビール瓶はReed & Companyの輸出用ビールで、このタイプのロゴは1892～1902年に製造されたと推定されている。そのほか化粧品瓶、薬瓶などについて、にきび取り美顔水は明治18年以降、横田精々薬局は明治19年以降、帝国インキは明治24年以降、柴崎牛乳店は明治24年の開業、健能丸は明治29年以降、大学目薬は明治32年以降でこの称号は明治40年～大正10年まで使用されたものである。御園白粉は明治36年以降、乳白色化粧水レート、丸善センチュリーインキは明治38年以降、大学白粉、味の素は明治40年以降、丸善新角インキは明治45年以降、レート水白粉、ロート目薬は明治42年以降、白色美顔水は大正2年以降、機械栓の清酒瓶は大正年間である。また雪印牛乳は昭和2年、サントリーオールドは昭和25年以降であるが、いずれも遺構1の出土品とは言えないため除外できよう。

タイル

複数のタイルが出土しているが、確認されている背面のマークは3種類であり、日本タイル工業、川村組、佐藤化粧煉瓦工場のものである。日本タイル工業は昭和21年以降、川村組は昭和初期、佐藤化粧煉瓦工場は大正5年～昭和戦前までのようである。出土状況が確実に把握できるのは遺構3のタイルで日本タイル工業のものであり、遺構1、2とは時期を異にすると考えられる。

調査時の制限より全ての遺物の出土状況を記録しているわけではないが、遺構1の出土遺物は基本的には下層に集中して見つかっており一括廃棄である。遺物の多くは比較的完形に近いものが多く、小破片でしかない近世遺物は混入品か一部伝世品と思われる。年代は明治19年が最古であり、明治20年代後半から40年代が主体的で大正時代のものも含まれる。大正時代では年を推定できるものが少ないので一定数含まれていると考えられる。遺構の上限は少なくとも大正2年までは引き上げることができ、下限については断定しづらいが、大正年間に収まると推定される。

鎌倉に関連する遺物

磁器祝杯、ガラス瓶、貧乏徳利などに当時鎌倉にあった店舗名が確認できる例がある。現在まで営業

している店舗は長谷の柴崎牛乳店(明治22年創業)、岡本の大船軒(明治31年創業)。雪ノ下三河屋本店(八幡前みかわや酒店)である。ほかに「かど正」は鶴岡八幡宮の三の鳥居前の角にあった角正旅館。「松岡」は雪ノ下、若宮大路沿いにあった料亭で関東大震災で焼失。「舛富」は長谷にあった酒屋。「八幡前陶器販賣鎌倉八幡前」とあるのは吉田庄次郎の店舗か。「八幡前糀屋」は米酒荒物麹屋、「きそば東屋」は雪ノ下にあった東屋かと思われる。「鎌倉寿し喜屋八幡前」、「かまくら角倉」については詳細不明。新井醫院は大町にあった可能性がある。

墨書について

近代の墨書資料は17点ほど出土しているが、全体が判読できるものは2点(図128-1, 2)であり、人名が書かれているが大半が判断不能(図128-3)のものが1点である。書かれた人名について整理しておく。

まず図128-1の内容を再度掲載しておく。

「相(州)鎌倉町扇ヶ谷観音山脇

本多家別荘ニテ

本多正憲殿 志太郡廣幡村水守

菊川晋一」

上下に1点ずつ穿孔があり、付け札的なものと想定される。

観音山は本調査地点のすぐ北にある小高い丘陵であり、近代にはここの頂上に望夫岩という岩があつて名所の1つとなっており、現在ではその名残はないが隣接して茶屋が設けられていたようである。

本多正憲の略歴を記す。安房長尾藩第2代知藩事で、正重系本多家10代。嘉永2(1849)年6月21日に大身旗本・菅沼正貞(駿河田中藩主・本多正意の次男)の長男として生まれる。明治3(1870)年に叙任し、同年12月14日、叔父で養父の正納の隠居により、その後を継いで知藩事となる。明治4(1871)年7月、廃藩置県で免官され、同年9月に東京へ移っている。明治17(1884)年に華族令で子爵に叙せられる。明治23(1890)年7月、帝国議会開設に伴い貴族院子爵議員に選出され、明治30(1897)年7月まで在任。大正15(1926)年7月に隠居し、婿養子で元肥前平戸藩主松浦詮の六男の正復に家督を譲った。昭和12(1937)年5月に89歳で卒。

本多正憲がいつから鎌倉に別荘を構えたかは不明だが、明治45年刊行の『現在の鎌倉』には記載があり、また『鎌倉震災誌』には本多邸は破損とある。「鶴岡八幡宮年表」大正8(1919)年9月16日に「神幸祭を執行す、本多正憲子爵・土井利与子爵・小笠原清道等の尽力により流鏑馬神事を鎌倉時代の旧儀に復して執行す」とあり、文化財保護的な活動にもかかわっていたようである。関東大震災の罹災者救済金の寄付者にも名があり、鎌倉同人会の名簿にも名が見られる。

本多邸は『現在の鎌倉』には「扇ヶ谷180」とある。表記は地番かと思われるが、土地宝等や旧公園などで確認すると、寿福寺の総門を入って右手のあたりになる。現状正確な位置の確認を取れていないが、その位置が正しいとしても「観音山脇」であることには大きな矛盾はないと思われる。

もう1人の人名について、志太郡廣幡村水守は現静岡県藤枝市水守である。大正2(1913)年の『静岡県志太郡広幡村誌』に、江戸時代の駿河田中藩において藩境を示すために建てた「従是西田中領」榜示石が明治の廃藩置県にともない撤去されたが、明治33年頃に菊川晋一宅にあることが確認されたという記述が確認できる。史蹟保存会による東側の榜示石の説明文には、「田中城主本多正憲が家臣の書家、藪崎彦八郎に命じて書かせたもの」とあり、西側の榜示石も同様のもの推測される。しかし西側榜示石の説明文では弘化年中の幕府の布令によって建てられたとあるので、正憲ではなく父正意の統治時によるものと思われる。その真偽はさておき、本多正憲と菊川晋一の繋がりは駿河田中藩の榜示石が背景に

あったものと思われ、それに関連して菊川晋一が扇ヶ谷の本多邸を訪問して墨書を記したものと考えられる。

しかし住所表記から本調査地点が本多正憲別邸であった可能性は低い。

図128-2も同様に再度掲載しておく。

「相洲鎌倉扇ヶ谷

斯波忠三郎

行き」

この記述は簡明で、荷札であろう。斯波忠三郎についても略歴を記す。1872年生まれで明治から昭和時代前期の工学者である。東京帝国大学教授となり、ヨーロッパに留学。帰国後、川崎造船技師、海軍大学校教授となり、わが国最初の海底電線敷設船の設計にあたった。のち貴族院議員、航空研究所所長。昭和9(1934)年10月3日死去。

父親の斯波蕃(1843-1907)は加賀藩士津田正矩の長男。初名は津田正邦。1861年に家老津田内蔵助正行の養嗣子となり、藩主前田慶寧の側近、1865年に家老となる。1868年の北越戦争には家士106名を率いて出兵、会津若松城陥落後に藩へ凱旋。1869年に金沢藩少参事、権大参事。1900年には、戊辰戦争の功により男爵位。1907年に鎌倉の別邸にて病没。忠三郎は蕃の長男である。

斯波蕃別邸はやはり『現在の鎌倉』に扇ヶ谷297とある。忠三郎は父親の別荘を引き継いだか、少なくとも父親が亡くなるまでは鎌倉に別荘があったと考えられる。正確な位置が確定困難であるが、地番から判断すると窟堂付近ではないかと推定される。したがって斯波別邸も本調査地点にあった可能性は低い。

第3節 本調査地点の土地所有者と遺構の性格

本調査地点の所有者がどのような人物であるかについて、決定的な証拠は現在未確認である。出土遺物から、時期は明治後半～大正期を主体としており、明確に昭和期と判断できるものがないこと、大量の出土品があり、その埋没状況などをみても一時に大量廃棄したと考えられ、またおそらく一世帯以上のものが含まれている可能性が高いこと、墨書の内容も直接本地点と関係せず、複数の人物の木札が含まれていることから、住宅で出たゴミを廃棄したというよりもさらに大掛かりなものだと考えられる。時期的なことから判断すれば、関東大震災時の後始末で一度に廃棄した性格のものである可能性が高い。震災で出た近隣のゴミを集めて捨てたとすれば、やや離れた地点の別荘に関わるものが含まれていることの説明にもなる。

近代の鎌倉が海水浴場の開設や横須賀線の開通に伴い、東京近郊の別荘地として発展したことはよく知られている。それらの形成過程などについては個別研究が現在推し進められているようである。本調査地点の扇ヶ谷一帯も多くの別荘が存在していたことは『現在の鎌倉』に多数別荘が掲載されていることから明白で、著名なものとしては本地点西北の無量寺谷にあり、敷地の一部が現鎌倉歴史文化交流館となっている岩崎小弥太邸や、現在も大正時代の洋館が残る古我邸(旧莊清次郎邸)などがある。岩崎邸、莊清次郎邸とともに大正5年に建造されたものでやや新参である。なお岩崎邸は門のみ成蹊大学の一角に移転され、現在も残っている。扇ヶ谷に別荘を持っていたのは海軍関係が非常に多く、銀行関係の人物も多い。本調査地点に近在していたと思われるものは土浦の会社員大鹽一正、海軍主計大監の鶴田重式の別荘である。上述の本多邸、斯波邸はやや北側の離れた箇所にあったと考えざるを得ない。

旧土地台帳によると本調査地点一帯を明治期後半に所有していたのは初代神奈川県知事である沖守固である。沖守固は鎌倉の別荘地発展にも影響があり、また鎌倉保勝会を設立するなど史跡保存についても力を尽くしている。沖は大正元（1912）年10月に鎌倉で亡くなっている（横浜貿易新報大正元年10月8日付）。翌大正2年には所有していた土地は分筆され、一部は岩崎小弥太、莊清次郎の所有となる。沖の屋敷は印鑑に記された住所などから扇ヶ谷84にあったことが分かるが、これは現古我邸にあたる。江戸時代末までは興禅寺があった谷戸と推測され、その後明治28（1895）年に沖の所有地となっている。したがって本調査地は沖の所有地ではあったが、別荘本邸のあった箇所ではなかったと考えられる。

該地の詳細な地図はこの時期は確認できていないが、明治15年の迅速図を見ると周辺には建物が記されておらず、道路も調査地点の北側の道が描かれるのみである。大正8年および昭和2年の鎌倉同人会による地図では道路は南側も描かれており、現状と大差なくなっている。調査地点の西側、現在無くなってしまったが鎌倉市景観重要建築物であった高野邸のあたりまで広大な壁に囲まれた屋敷が描かれしており、確定はしていないが柳家本店の外池五郎三郎の屋敷の可能性がある。この屋敷の西隣で、南北道路が交差する角にある指月庵には外池五郎三郎が三菱の岩崎から土地を入手したといういわれを記した看板が掲げられている。

地図では調査地点はこの大屋敷の東の外側に該当し、大正8年では空白地帯となっているが、昭和2年にはほぼ接する形でやや大きな家屋が描かれている。その位置や規模については現在の地図ほどではないであろうが、大正8年の地図は軍人である中田時懋によるもので、ある程度正確と思われる。土地台帳では大正14年頃は田畠となっており、震災後に一時宅地ではなかったようであり、その点も同人会地図と比較的一致する。したがってこうした資料と近代遺構からの出土遺物を照らし合わせると、やはりこの遺構は関東大震災の際に構築された可能性が最も高いと考えられる。土地はその後当調査地点の所有者である人物の宅地となったのであろう。

第4節 鎌倉焼資料

近現代の鎌倉における地域的な窯業は個人的なものばかりで、鎌倉焼、名越焼、住友無為庵、北大路魯山人の星岡窯などが存在していた。鎌倉焼についてはさほど詳細な記録がないが、確認できたものをまとめておく。

長谷で鎌倉焼を作っていたのは加藤景勝太兵衛である。「日本陶窯史 濱戸系統編卷二」に系譜とともに業績が掲載されている。それによると、景勝は愛知県瀬戸市の赤津窯正高の系譜に連なり、良慶、春正、春慶と号していたという。天保11（1840）年赤津生まれ。安政2（1855）年に窯を継ぎ、國主御前に孝子の置物を造る。明治14（1881）年に東京に移り、江戸川製陶所の工場長に就任。浅草の五重塔に五百羅漢を製作している。そのうち根岸で陶業を営み、明治25（1892）年に鎌倉に移っている。明治31（1898）年に皇太子（大正天皇）が鎌倉に来訪した折に陶業を披露している。明治42（1909）年に鎌倉にて69歳で卒。

五百羅漢については1886年4月15日付の郵便報知新聞に「四月十四日より、東京浅草公園にて、陶器製の五百羅漢の見世物」の記事に「…此五百羅漢製造は今戸なる小野義真氏の創意に出でて、去る十六日八月中芝増上寺の什物なる五百羅漢の画像を借受けて、其真を写し取り、尾州及び伊万里等より土を取寄せ、金張の名工加藤太衛なる者を雇ひ、向島の八洲園に於て之を製造せしめ、其粉色の如きは丸谷より職工を雇ふて装飾せしめ、三年の久しきを経て漸く落成するに至れり。像の高さは凡そ二尺よ

り三尺までにて、其顔容衣紋等皆古画に則とりしものなれば、精妙いふばかりなし。聞く、一体の費用、平均十円なりといふ」とある。

『としよりのはなし』には、鎌倉焼は加藤次郎吉の父親によるもので、長谷郵便局の反対前通りに店舗があり、明治30年頃より京都から土を取り寄せて瀬戸物を焼き、三猿の自在鉤のようなものや抹茶茶碗などを焼いていたという。通りに面した縁台の上で作品を乾燥していたそうであり、明治39年か40年頃に辞めてしまったという。その後は他所で焼いていたものをならべていたのか、大正までまだ瀬戸物がならんでいたらしい。

『近世・近代の茶陶窯場名工名鑑』には、明治29年に星野天知の勧めで長谷に開窯し、茶器、置物などを作り鎌倉焼と称した。景勝は生来無欲で清雅を楽しむ気風が強く日常生活は貧困を極めた、とある。子息については関東大震災で行方不明になったとする。

景勝と交流のあった星野天知の日記には長谷大仏通りの加藤春慶翁を訪ねるくだりがある。そこでは浅草の五百羅漢について触れられているほか、加藤景勝が横浜工芸展覧会に天龍寺浮牡丹青磁華瓶を出展し一等を獲得したと述べられている。なお景勝を長谷に招いたのは横瀬文彦と記されている。

『現在の鎌倉』の営業一覧には長谷の陶器商として加藤喜助の名がある。これが景勝の子息か。

以上整理すると、瀬戸出身の陶工加藤景勝太兵衛が1892年に52歳で鎌倉に移り、横瀬文彦の招きで1896年頃に長谷で開窯し、亡くなる数年前まで鎌倉焼と名付けた焼き物の製作を行っていたようである。したがって製作年代は1896～1906年頃の約10年間に限定されよう。景勝が亡くなり製作自体は行われなくなったのちも子息が陶器の販売を行っており、関東大震災前までは店舗として存在したいた可能性がある。

今回掲載した鎌倉焼資料は長谷郵便局付近で出土したものであり、鎌倉焼の店舗にほど近い箇所からの出土であると考えられる。なお、焼成窯については不明だが、大通り沿いに窯を設営することは想定しづらいので、付近の丘陵近くに構築していたのではないかと推定される。

資料には、湯呑、茶碗(杯)、皿、徳利、急須、土瓶、水差し、蓮華などの生活用具のほか、武士、大仏、大黒、觀音、着物を着た女性などの人形、獅子、熊、狐、ウサギ、ニワトリ、鶴、鳩、蟹などの鳥獸類の像やそれをあしらった器、瓦や印鑑、勾玉などの土産物的な製品など多様な製品が含まれている。また鶴岡八幡宮やおそらく建長寺に関わる製品も見られることから寺社の記念品なども製作していたようである。抹茶茶碗については「茶陶窯場名工名鑑」に1点写真が掲載されており、赤楽梅絵茶碗と記載されている。垂みのある口縁の茶碗で、顔料で梅の絵を描いたもので、色調は不明である。試掘資料でも茶碗は出土しているが、同様の形態のものは含まれていない。

胎土は非常に緻密で粘性の高い粘土を使用し、細かな長石粒が混入している。記録に見られるように、京都や瀬戸など外部より取り寄せた粘土であると考えられる。胎土の焼成後の色調は淡灰色を呈し還元状態での焼成であるが、やや焼けムラが目立つものもある。釉薬は乳白色が基本で、全体に施していないものの多く、釉薬がかかっていないものも多数みられる。ほかに人形や鳥獸像の型が多数含まれており、製作にはロクロ、粘土紐、型作りを器種によって使い分けている。器類の器表は指ナデで凹凸をつけているものが多い。

出土状況については詳細な状況が不明であるが、型や無釉の器など商品ではないものが多数含まれていること、窯は別の箇所にあると推定されることもあり、物原ではなく店舗のそばに捨てられたゴミ穴ではないかと推測される。製品ではない型が含まれていることもあり、製作をやめた明治末年に廃棄したか、あるいは関東大震災時にまとめて廃棄された可能性も考えられよう。

本調査地点で出土した三猿像は自在鉤ではなく置物であるが、胎土や造りから鎌倉焼の可能性が高い。長谷の資料にはほとんどに「鎌倉」「かまくら」の押印があり、いくつかのバリエーションが確認できる。この三猿にはその押印がないが、他にも押印がみられない製品もあり、必ずしもすべてに押印を施していたわけではないようである。

鎌倉焼は小規模かつ短期間のものであり、長く鎌倉に伝統を持つものでもないが、これらの製品は近代の鎌倉における地域産業の実態を示す物的資料として非常に特徴的である。

おわりに

調査面積は限られており、調査地点の様相を詳細にとらえることは困難であるが、4期にわたる生活面より、13世紀後半から14世紀後半にいたるまで、複数期にわたって破碎泥岩による地業の造成を行っていた様子が確認できた。14世紀以降については水田耕作などによって削られており、近世には興禅寺の門前にあたる地域ではあるが、その時期については不明瞭だが耕作地であったのかもしれない。建物址については明確な規模や構造を捉えることができなかったが、掘立柱による建物群が主体となる時期と、凝灰質砂岩の石列を伴う建物が主体となる時期があり、小規模な溝による区画も一時期にしきみられず、場の機能が頻繁に移り変わっていることが判明した。本調査地点において検出された柱穴は底面に礎板が依存するピット、土坑ともに比較的浅く、短期間における造構の切り合いも多いため、やや簡易な掘立柱建物の建て替えが繰り返されたと考えられる。溝や石列の軸は、厳密にはややぶれがあるかもしれないが、本調査地点の周辺における調査で確認された道路、溝、石列、建物の軸とほぼ同一であり、南方の御成小学校地点の軸とは異なる。この一帯の区画原理はほぼ共通していたと考えられる。当時の今小路そのものは周辺においては検出例がないが、本調査地点の南北軸は現在の今小路には平行しておらず、主要道路との関係は今後の調査事例の蓄積によって検討すべき課題であろう。

引用・参考文献

- 愛知県2012『愛知県史 別編窯業3 中世・近世常滑系』
蘆田伊人編1958『大日本地誌大系21 新編鎌倉志 鎌倉擅勝考』雄山閣
蘆田伊人編1998『大日本地誌大系22 新編相模国風土記稿』雄山閣
大橋良平編1912『現在の鎌倉』通友社
奥山伸治「鎌倉の別荘地形成過程における沖守園の動向について」「鎌倉」118
小野賢一郎編1928『日本陶窯史 潟戸系統編卷二』陶器全集刊行会
鎌倉市教育委員会1971『鎌倉市文化財資料第7集 としよりのはなし』鎌倉市教育委員会
鎌倉市教育委員会1993『鎌倉の古絵図 2』鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館
鎌倉町福1930『鎌倉震災誌』鎌倉町
神谷良信2009『だるま窯の頃の瓦屋と刈谷の瓦屋』
菊川英政2008『今小路西遺跡(No.201)発掘調査報告書』齊藤建設
黒田和哉2011『近世・近代の茶陶窯場名工名鑑』淡交社
齊木秀雄2010『御成・甘綱と今小路』『かまくら考古』17
桜井掌也2006『ガラス瓶の考古学』六一書房
島本千也1993『鎌倉別荘物語:明治・大正期のリゾート都市』
宗臺秀明2005『中世鎌倉の土器・陶器』『全国シンポジウム 中世窯業の諸相~生産技術の展開と編年~資料集』
鶴岡八幡宮1996『鶴岡八幡宮年表』八木書店

- 鳥取県立博物館1999「資料調査報告書 第二十六集-旧鳥取藩士・男爵 沖守固資料-」
- 浪川幹夫2001「明治二十年代都人士による土地所有(上)」「鎌倉」93
- 浪川幹夫2002「明治二十年代都人士による土地所有(下)」「鎌倉」94
- 藤枝市史編さん専門委員会編2000『静岡県志太郡広幡村誌』藤枝市教育委員会
- 藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 星野天知著・日本近代文学館編1999『文学者の日記4 星野天知』博文館新社
- 松吉大樹2016『中世都市鎌倉の宿所について-文献と考古の事例から-』『かまくら考古』29

表3 中世出土遺物集計表

面	かわらけ						舶載陶器								
	系 縄 大	系 縄 中	名 切 小	系 縄 内 折	手 綱 ね 大	手 綱 ね 中	手 綱 ね 小	白	青 磁	青 磁 碗	白 磁	青 磁 瓶	緑 釉	黄 釉	褐 釉
1面合計	431	0	253	0	1	0	1	2	9	5	0	1	0	0	0
2面合計	1239	0	277	0	0	0	0	10	7	3	8	5	0	0	3
3面合計	2284	0	670	6	0	0	0	10	15	2	6	13	0	0	2
4面合計	3106	5	1060	16	2	0	3	2	21	8	6	27	0	0	1

面	陶製品										土製品						石製品										
	繩 目	繩 目 入 子	繩 目 綱	繩 目 縄	繩 目 体	繩 目 壺	常滑 窯																				
1面合計	11	2	2	4	2	3	95	5	6	4	1	0	0	0	0	0	5	1	2	3	0	2	1	2	0	1	
2面合計	5	2	0	2	1	1	69	2	12	17	3	0	0	0	0	0	1	3	0	15	3	1	1	4	0	1	8
3面合計	11	1	0	0	0	1	96	6	30	7	6	0	0	1	0	5	3	1	44	0	5	1	1	5	4	3	
4面合計	32	1	0	0	0	2	130	6	39	1	5	2	0	0	1	12	4	0	27	0	6	2	6	1	1	3	

面	金属製品				骨角				木製品				自然遺物				
	釘	鍼	銀 鋳	その 他の 金屬	骨	角	木	竹	加工 品	漆器	漆器 底	部材	加工 品	骨	川	木	皮化 物
1面合計	2	3	0	1	0	0	0	0	10	13	4	1	0	0	0	0	0
2面合計	10	1	2	0	0	0	0	0	4	3	60	0	0	0	1	0	0
3面合計	5	7	0	0	1	2	0	0	1	22	32	4	3	7	0	0	0
4面合計	1	6	0	3	3	9	1	43	125	26	8	9	23	0	0	0	0

表4 自然遺物集計表

出土層位	種別・部位	1面	1面 1面耕水溝	1面 1面下 <small>↓</small> 2	2面	2面 2面下 <small>↓</small> 3	3面	4面	4面下 <small>↓</small>	チ	深掘トレン	不明	近代遺構 1
本製品	不明											1	1
貝	アカガイ											1	1
	アカニシ?								1				1
	アサリ	左										5	5
		右										13	13
	アサリ(放射状内側無)											2	2
	アサリ(放射状内側無)	左										1	1
		右										1	1
	アワビ		1										1
	イタヤガイ											4	4
	イボキサゴ										32		52
	ウチムラサキガイ											5	5
	キサゴ								1				1
	クロアワビ?											3	3
	コナカニシ?											1	1
	サザエ	蓋							1			31	32
	サザエ(有輪)											86	86
	サザエ(無輪)											6	6
	サトウガイ											1	1
	ショウセンハマグリ	左										4	4
		右									2		6
	ショウセンハマグリ?(2枚)											2	2
	ツメタガイ											3	3
	トコブシ											3	3
	ハシナガニシ?											1	1
	バティラ?								1				1
	ハマグリ								3				3
	ハマグリ	左										10	10
		右										12	12
	ハマグリ(小型)											5	5
	ハマグリ不明	左										3	3
		右										3	3
	ボウシユウボラ											1	1
	ボウシユウボラ?											1	1
	マガキ											1	1
	マガキ?											1	1
	マダカアワビ											5	5
	不明(貝)												1
	不明(貝)											1	1
骨	イヌ	上腕骨			1								1
	イヌ?	頭椎					1						1
		肩甲骨?		1									1
		軸椎							1				1
		大腿骨			1								1
		寛骨				1							1
		不明	1	1								2	
	イノシシ	肩甲骨							1				1
	ウシカウガ	頭蓋骨	1	1								2	
	ウシ	大腸骨(左後尾)										1	1
	ウマ	下顎骨							1				1
		肩甲骨							1				1
		大腸骨(右?)		1									1
		中趾骨			1								1
		歯		1				3					4
	ウマ?	肩甲骨		2								2	
		上腕骨				1						1	
	シカ	肩甲骨							1				1
		尺骨							1				1
		角					1	1					2
		頭骨						1					1
	シカ?	歯骨							1				1
	鳥	大腿骨											1
	鳥?	上腕骨?			2								2
		脛足根骨				1							1
		肋骨										1	1

	不明			1						1	2
人間	歯				1						1
ニワトリ	尺骨									4	4
	上腕骨									4	4
	人脚骨									2	2
	桡骨									1	1
ニワトリ?	脛尺板骨									3	3
ノウサギ	脛骨				1					1	
	不明							1		1	
ブタ?	桡骨								1	1	
マナヅル?	上腕骨				1					1	
不明(イヌ?)	不明			1						1	
不明(ウマ?)	不明						1	1		2	
不明(骨)	肋骨			2		1				3	
	頭骨?			2						2	
	上腕骨?			1						1	
	桡骨?			1						1	
	肋骨?			1	1	1				3	
	肩甲骨?					3				3	
	不明	2	7	7	12		14	5		1	48
	骨片					8片		1片			0
鰐骨	マダイ	前上顎骨(右)		1							1
		上顎蓋骨(右)						2			2
	マダイ?	前歯蓋骨(右)					1				1
	不明	擬距骨							1		1
その他	炭					1	4	1			6
	炭化米塊						1				1
	木片						1片	1片			0
	種子					2	7	1	2		12
合計		2	2	9	11	32	0	31	38	2	56
										1	240
											427

写真図版	出土地点	写真図版	出土地点
30-1	4面道橋外	30-34	4面道橋外
30-2	3面道橋集中1	30-35	4面道橋 298付近
30-3	3面道橋集中1	30-36	4面道橋 250
30-4	2面道橋外	30-37	4面道橋 256
30-5	3面道橋 173	30-38	近代道橋 1
30-6	2面道橋 58	30-39	近代道橋 1
30-7	2面橋成土	30-40	近代道橋 1
30-8	2面橋成土	30-41	近代道橋 1
30-9	4面道橋 210	30-42	近代道橋 1
30-10	4面道橋外	30-43	近代道橋 1
30-11	4面道橋外	30-44	近代道橋 1
30-12	1面橋成土	30-45	近代道橋 1
30-13	4面道橋 217	30-46	近代道橋 1
30-14	3面道橋 205	30-47	近代道橋 1
30-15	4面道橋 236	30-48	近代道橋 1
30-16	2面橋成土	30-49	近代道橋 1
30-17	2面道橋外	30-50	近代道橋 1
30-18	1面橋成土	30-51	近代道橋 1
30-19	3面道橋集中1	30-52	近代道橋 1
30-20	2面橋成土	30-53	近代道橋 1
30-21	4面道橋 210	30-54	近代道橋 1
30-22	2面橋成土	30-55	近代道橋 1
30-23	4面道橋外	30-56	近代道橋 1
30-24	2面橋成土	30-57	近代道橋 1
30-25	2面橋成土	30-58	近代道橋 1
30-26	2面橋成土	30-59	近代道橋 1
30-27	2面橋成土	30-60	近代道橋 1
30-28	4面道橋 279	30-61	近代道橋 1
30-29	4面道橋 292	30-62	近代道橋 1
30-30	5面道橋 300	30-63	近代道橋 1
30-31	2面橋成土	30-64	近代道橋 1
30-32	4面道橋 232	30-65	近代道橋 1
30-33	深堀トレンチ	30-66	近代道橋 1

表5 近代遺構出土磁器觀察表 (単位: cm)

番号	出土 遺構	器種	給付け方 法	法量			断面・釉色調: 耐 土	技法 / 文様 / その他	備考	推定生産地	推定期代	產着度
				口径	底径	器高						
34-1	遺構1	碗	型模壓繪	12.4	4	6.3	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 草花・鳥文様				完形
34-2	遺構1	碗	型模壓繪	11.6	4	5.5	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 薄陶文、外外面: 黑・ 明釉: 白色粘質土		肥前	ほぼ完 形	
34-3	遺構1	碗	型模壓繪	10.8	3.8	5.3	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 薄陶文、外外面: 文 様不明		不明	1/2	
34-4	遺構1	碗	型模壓繪	11.8	4	4.6	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 薄陶文、外外面: み じん草文			1/2	
34-5	遺構1	碗	型模壓繪	11.8	3.8	4.5	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 草花・鶯・みじん 草文		肥前	1/2	
34-6	遺構1	碗	鋼版転写	10.6	3.8	5.3	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 茜草・牡丹・蘭子、 牡丹蘭子		肥前?	1/3	
34-7	遺構1	碗	鋼版転写	12	4.2	4.8	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 草花文		肥前?	ほぼ完 形	
34-8	遺構1	碗	鋼版転写	11.6	4.2	4.9	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 薄陶文、外外面: 菊・ 明釉: 白色粘質土		肥前?	完形	
34-9	遺構1	碗	鋼版転写	11.2	3.9	4.7	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 草文・唐草		肥前?	明治後半	完形
34-10	遺構1	碗	鋼版転写	10.8	-	5.2	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 薄陶文		肥前?	明治	ほぼ完 形
34-11	遺構1	碗	鋼版転写	10.8	3.4	5.7	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 六歌仙			1/2	
34-12	遺構1	碗	鋼版転写	12.2	4	5.1	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 蕉	高台館「貫上圓製」	鹿江美濃	明治~大正	ほぼ完 形
34-13	遺構1	碗	鋼版転写	11.6	3.4	4.9	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 茜草・茶		肥前?	完形	
34-14	遺構1	碗	鋼版転写	10.6	3.8	4.6	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 椿風・花		肥前?	明治後半	完形
34-15	遺構1	碗	鋼版転写	11.8	4.2	5.0	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 海花		肥前?	3/4	
35-16	遺構1	碗	鋼版転写	9.6	3.6	4.1	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 竹・梅		肥前	完形	
35-17	遺構1	碗	鋼版転写	4.4	3.5	4.7	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 蔵			ほぼ完 形	
35-18	遺構2	碗	鋼版転写	11.0	4.0	4.4	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 蔵			1/2	
35-19	遺構1	碗	鋼版転写	10.6	3.2	4.4	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 菊・蘭	高台館「春組」		ほぼ完 形	
35-20	遺構1	碗	鋼版転写	11.4	4.0	4.5	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 花鳥文	高台館「清陶園製」		ほぼ完 形	
35-21	遺構1	碗	鋼版転写	10.3	3.7	4.7	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 蘭・蘭	高台館「春組」		ほぼ完 形	
35-22	遺構1	碗	鋼版転写	10.1	3.5	4.6	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 蘭・蘭	高台館「春組」		ほぼ完 形	
35-23	遺構1	碗	鋼版転写	9.9	3.9	4.0	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 蘭 1羽	高台館「角路」		完形	
35-24	遺構1	碗	鋼版転写	11.5	4.6	4.8	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 草花文	高台館「清玉園製」		1/3	
35-25	遺構1	碗	鋼版転写	11.6	3.8	5.2	緑・桃色・透明釉 白色粘質土	外外面: 植物文			1/2	
35-26	遺構1	碗	鋼版転写	11.8	4.5	5.0	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 人物、外外面: 不明	高台館「深山園製」		1/2	
35-27	遺構1	碗	鋼版転写	11.8	3.7	4.7	黒化コバルト: 緑 褐色・透明釉: 白 色粘質土	外外面: 蕉			ほぼ完 形	
35-28	遺構1	碗	鋼版転写	10.9	3.9	4.9	黒化コバルト: 緑 透明釉: 白色粘質 土	内外面: 草花文			ほぼ完 形	
35-29	遺構1	碗	鋼版転写	10.8	3.9	4.3	黒化コバルト: 緑 黃褐色: 透明釉: 白色粘質土	外外面: 蕉花			完形	
35-30	遺構1	碗	鋼版転写	10.6	3.6	4.5	黒化コバルト: 緑 黃褐色: 透明釉: 白色粘質土	外外面: 蕉花			完形	
35-31	遺構1	碗	鋼版転写	10.9	3.3	4.8	黒化コバルト: 基 褐色: 透明釉: 白 色粘質土	外外面: 蕉花文			ほぼ完 形	
35-32	遺構1	碗	鋼版転写	9.8	3.5	4.2	黒化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外外面: 松竹梅、男女像 脚部外侧面: 路「甲○?○? 且」と角路			ほぼ完 形	

番号	出土：	器種	繪付け方 法	注意			細料：釉色調：施 土	技法：文様／その他の 外観：花	参考	検定生産地	検定年代	進存度
				口径	底径	器高						
35-33	遺構 1	碗	網版転写・ 吹墨	9.9	4.0	5.0	黒化コバルト・緑 透明釉：白色粘質 土	内外面：淡文（コバルト）	高台路（判読不明）			1/2
35-34	遺構 1	碗	網版転写	9.8	4.9	4.4	黒化コバルト：淡 緑釉：白色粘質土	内外面：淡文（コバルト）	高台路（判読不明）			1/1未定形
35-35	遺構 1	碗	網版転写・ ダメ	10.4	3.7	4.5	黒化コバルト・緑 透明釉：白色粘質 土	内外面：淡文・草花				1/1未定形
36-36	遺構 1	碗	手描き	12.2	4.6	5.9	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	外面：草本文				1/1未定形
36-37	遺構 1	碗	手描き	11.2	3.8	5.1	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	内外面：梅、高台内外に 團扇				1/1未定形
36-38	遺構 1	碗	手描き	11.2	3.8	5.3	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	外面：鳥・草				1/2
36-39	遺構 1	碗	手描き	10.4	3.4	4.3	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	外面：草文				1/1未定形
36-40	遺構 1	碗	手描き	10.4	3.6	4.7	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	外面：不明	高台路「白神團扇」			1/2
36-41	遺構 1	碗	手描き	10.4	3.8	4.2	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	内外面：人物像・口唇部・ 鼻部				1/2
36-42	遺構 1	碗	手描き・ 吹墨	10.4	3.4	4.5	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	内外面：雪舟山人の文字	高台路「柏山」			1/2
36-43	遺構 1	碗	手描き	11.6	4.2	5.1	黒化コバルト・淡 紅色：透明白：白 色粘質土	内外面：不明	高台路「柏山■■■」			1/1未定形
36-44	遺構 1	碗	手描き	11.2	3.6	5.2	黒化コバルト・淡 紅色：透明白：白 色粘質土	内外面：草花 高台内外に 團扇、高台外面：波状文	高台路「貞■團扇」			1/1未定形
36-45	遺構 1	碗	手描き	9.4	3.6	4.5	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	外面：草文	高台路「松■」			完形
36-46	遺構 1	碗	手描き	10.6	3.4	4.4	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	外面：植物文	高台路「柏山」			完形
36-47	遺構 1	碗	手描き	11.8	5.2	6.1	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	内外面：見込みに草花、外 面：草花・高台外面： 團扇				1/2
36-48	遺構 1	碗	手描き	10.2	3.6	4.5	黒化コバルト・淡 紅色：透明白：白 色粘質土	外面：草文・松竹梅 高 台内外に：團扇				1/1未定形
36-49	遺構 1	碗	手描き	10.5	3.8	4.7	黒化コバルト・淡 紅色：透明白：白 色粘質土	外面：草文・松竹梅 高 台内外に：團扇	高台路「角鉢」			完形
36-50	遺構 1	碗	手描き	10.4	3.8	4.7	黒化コバルト・淡 紅色：透明白：白 色粘質土	外面：草文・松竹梅 高 台内外に：團扇	高台路「松■」			完形
36-51	遺構 1	碗	手描き	10.4	3.6	4.7	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	外面：草文・松竹梅 高 台内外に：團扇				1/2
36-52	遺構 1	碗	手描き	10.9	3.7	5.0	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	外面：楓葉、花	高台路「■毎軒御」			3/4
36-53	遺構 1	碗	手描き	9.9	4.0	5.0	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	内外面：草花 高台内外に	高台路「春假團扇」			2/3
36-54	遺構 1	碗	手描き	11.2	3.8	5.1	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	内外面：龍・高台：八角形	高台路「秀才」			1/3
37-55	遺構 1	碗	手描き	11.8	-	-	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	内外面：三角幾何文				1/3
37-56	遺構 1	碗	手描き・ 吹墨	(12.8)	-	-	黒色：透明白：白 色粘質土	外面：鶴・松文				1/6
37-57	遺構 1	碗	手描き・ イッテン	(11.0)	-	-	黒化コバルト：透 明釉：白色粘質土	内外面：羽根・高台内外に				1/2
37-58	遺構 1	碗	手描き・ イッテン	14.5	3.9	5.0	黒化コバルト・淡 紅色：透明白：白 色粘質土	内外面：羽根・高台内 部：團扇				1/2
37-59	遺構 1	碗	イッテン	11.4	4.2	5.0	黒化コバルト・淡 紅色：透明白：白 色粘質土	口唇部外面：黑色點綴 どり 外面胴部下半：面 取り 外面：楓	高台路「延平精製」			1/1未定形
37-60	遺構 2	碗		11.4	4.6	5.1	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	内外面胴部下半：面取 り 白色粘質土				1/2
37-61	遺構 1	碗	手描き・ イッテン	10.8	4.6	3.8	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	内外面胴部下半：面取 り 外面：花弁 高台内外に 團扇				完形
37-62	遺構 1	碗	手描き	10.8	3.8	4.9	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	内外面：三本格子	高台路「春壽精製」			完形

図 番号	出土 遺構	器種	給付方 法	法華			断面・釉色調・胎 土	技法 / 文様 / その他	備考	推定生産地	推定年代	進年度
				口径	底径	器高						
37-63	遺構 1	碗	手描き	10	4.6	4.6	磨化コバルト・褐色、透明釉・白色 粘質土	内面：素				18世紀 形
37-64	遺構 1	碗	手描き	9.8	4.6	4.7	磨化コバルト・褐色、透明釉・白色 粘質土	内面：素				18世紀 形
37-65	遺構 1	碗	手描き	10	4.2	4.5	磨化コバルト・褐色、透明釉・白色 粘質土	内面：素				18世紀 形
37-66	遺構 1	碗	手描き	10	4.4	4.4	磨化コバルト・褐色、透明釉・白色 粘質土	内面：素				18世紀 形
37-67	遺構 1	子供茶碗	色絵	8.3	2.3	3.8	多色・透明釉・白色 粘性質	内面：文字跡、圓盤 外 面：植物文 高台骨付露 胎				完形
37-68	遺構 1	子供茶碗	手描き	8.9	4.4	4.6	褐色・透明釉・白色 粘質土	内外面：植物文				1/2
37-69	遺構 1	子供茶碗	手描き	8.4	4.8	4.6	褐色・透明釉・白色 粘質土	内外面：植物文				完形
37-70	遺構 1	子供茶碗	手描き	8.3	3.8	4.0	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土	内外面：多重露胎 胎の 高台				18世紀 形
37-71	遺構 1	子供茶碗	色絵	(10.5)	—	—	多色・透明釉・白色 粘質土	外 面：草花		瀬戸美濃?		1/5
37-72	遺構 1	子供茶碗	色絵	8.7	3.2	3.9	多色・金彩・透 明釉・白色粘質土 露胎	外 面：模花文 高台骨付 胎の 露胎				18世紀 形
38-73	遺構 1	子供茶碗	色絵	8.8	3.2	4.0	多色・金彩・透 明釉・白色粘質土 露胎	外 面：模花文 高台骨付 胎の 露胎				3/4
38-74	遺構 1	子供茶碗	色絵	8.6	3.0	4.1	多色・金彩・透 明釉・白色粘質土 露胎	外 面：模花文 高台骨付 胎の 露胎				完形
38-75	遺構 1	子供茶碗	色絵	(8.7)	—	—	多色・金彩・透 明釉・白色粘質土 露胎	外 面：模花文 高台骨付 胎の 露胎				1/3
38-76	遺構 1	子供茶碗	鋼版転写・ 色絵	9.4	3.0	4.7	多色・透明釉・白色 粘質土	外 面：人形・宝箱・馬・ ダンゴ・達摩 高台骨付 露胎				完形
38-77	遺構 1	子供茶碗	鋼版転写・ 色絵	(9.5)	3.3	4.4	多色・透明釉・白色 粘質土	外 面：人形・宝箱・馬・ ダンゴ・達摩 高台骨付 露胎		瀬戸美濃		1/3
38-78	遺構 1	子供茶碗	鋼版転写・ 色絵	(9.5)	—	—	多色・透明釉・白色 粘質土	外 面：茶器		瀬戸美濃	口縁部 片	
38-79	遺構 1	子供茶碗	鋼版転写	(9.2)	(3.0)	4.2	赤・緑・透明釉 白色粘質土	外 面：人物文 高台骨付 胎の 露胎		瀬戸美濃?		1/5
38-80	遺構 3	子供茶碗	手描き	9.5	3.6	4.7	磨化コバルト・赤 透明釉・白色粘質土	外 面：格子状 高台骨付 胎の 露胎		両西か瀬戸口 美濃	明治以降	完形
38-81	遺構 1	子供茶碗	色絵	(9.6)	(3.5)	4.4	赤・緑・黃色・透 明釉・白色粘質土	外 面：模花文		肥前系	明治～大正	2/3
38-82	遺構 1	子供茶碗	色絵	(9.5)	(4.4)	3.9	赤・緑・透明釉 白色粘質土	内面：團扇 外面：紅葉 文		肥前系	明治～大正	1/3
38-83	遺構 1	子供茶碗	色絵	8.4	3.0	4.4	全彩・青・白・緑 釉・白色粘質土	外 面：菊と流星文様 高 台骨付露胎 跡込み成形 ではない		瀬戸・美濃?	明治～大正	18世紀 形
38-84	遺構 1	器皿	鋼版転写・ ダミ	10.2	2.7	2.7	ワマミ径 3.8	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文	内面：透文 外面：菊 高台路「就峰撰製」	瀬戸美濃	明治後半～ 大正	完形
38-85	遺構 1	器皿	鋼版転写・ ダミ	10	2.4	2.4	ワマミ径 3.8	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文	外 面：竹竹梅 高台路「千瓣團扇」			18世紀 形
38-86	遺構 1	器皿	鋼版転写	11.6	2.7	2.7	ワマミ径 4.6	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文	外 面：菊	肥前		1/3
38-87	遺構 1	器皿	鋼版転写	10.0	3.0	3.0	ワマミ径 4.1	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文	外 面：アザミと雀 内鉢	肥前?	明治～大正	18世紀 形
38-88	遺構 1	器皿	鋼版転写	(10.0)	(2.8)	2.8	ワマミ径 (4.0)	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文	外 面：茶器と植物 高台路「■■■」	瀬戸		1/2
38-89	遺構 1	器皿	鋼版転写	7.8	2.8	2.8	ワマミ径 3.6	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文	外 面：茶器と植物 高台路「團扇」			18世紀 形
38-90	遺構 1	器皿	手描き(染 付)	10.3	2.7	2.7	ワマミ径 3.8	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文	外 面：富士・松原・拂 高台路「拂」			18世紀 形
39-91	遺構 1	器皿	手描き(染 付)	9	2.4	2.4	ワマミ径 4.8	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文		肥前小西口	明治～大正	18世紀 形
39-92	遺構 1	器皿	鋼版転 写?	10.3	2.4	2.4	ワマミ径 3.8	磨化コバルト・透 明釉・白色粘質土 花文	外 面：草花文 摺み：團 扇	瀬戸	明治～大正	2/3

番号 番号	出上 道場	器種	給付け方 法	注意			細科: 色調: 組 合	找法: 文様・その他の 特徴	参考	新定生産地	新定年代	進存度
				口径	底径	器高						
39-93 道場 1	器蓋	手描き	10		29	ツマミ付 42	黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	内面: 薩・唐草・花 面: 植物文		肥前	幕末~明治 頃 19世紀後 半	1/3
39-94 道場 1	器蓋	手描き	8.8		26	ツマミ付 36	黒化コバルト・青 紅色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 植物文 描み: 蔷 薇		肥前	明治~大正	1/2
39-95 道場 1	器蓋	手描き	8.2		23	ツマミ付 37	黒化コバルト・黒 色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 植物文		肥前	明治~大正	はは元 形
39-96 道場 1	器蓋	手描き・ イッサン	9.1		23	ツマミ付 36	黒化コバルト・青 紅色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 菊花 描み: 蔷薇 面: 植物文		肥前	明治~大正	はは元 形
39-97 道場 1	器蓋	手描き・ イッサン	-		-	ツマミ付 (34)	黒化コバルト・青 透明釉: 白色粘質 土	外面: 草花文	高台路「千尋御殿」?	肥前 or 国西		1/3
39-98 道場 1	器蓋	手描き	-		-	ツマミ付 (34)	黒化コバルト・青 紅色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 菊花 描み: 蔷薇	高台路「千尋御殿」?	肥前	明治~大正	1/3
39-99 道場 1	器蓋	手描き	9.6		28	ツマミ付 37	黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 蘭文, 薔薇		肥前?	明治~大正	2/3
39-100 道場 1	器蓋	色絵	(10.2)		26	ツマミ付 (36)	多色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 鶴・松 描み: 内部 全彩			明治頃	はは元 形
39-101 道場 1	器蓋	色絵	(7.7)		2	ツマミ付 36	多色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 花		肥前 or 国西	明治~大正	2/3
40-102 道場 1	小坪	鋼版転写	7.9	3.2	4		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 菊・鮎の日高台				完形
40-103 道場 1	小坪	鋼版転写	7.8	3.6	5		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 鳥・魚・外側・高台				完形
40-104 道場 1	小坪	鋼版転写	(7.8)	(3.6)	(4.8)		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 鳥・鳳凰・唐草文・被	高台路「春山」			3/4
40-105 道場 1	小坪	鋼版転写	7.8	3.8	4.4		黒化コバルト: 透 明白: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 草花文				完形
40-106 道場 1	小坪	鋼版転写	(7.8)	(3.8)	4.3		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 草花文				1/2
40-107 道場 1	小坪	鋼版転写・ 手描き	8.2	3.8	4.6		黒化コバルト・綠 色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 花・蘭文	高台路「苔山」			完形
40-108 道場 1	小坪	鋼版転写	(7.8)	(4.0)	4.5		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 草花文	高台路			1/2
40-109 道場 1	小坪	鋼版転写	(7.8)	(4.0)	(4.6)		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 菊介? 高台内外	高台路「苔介」			はは元 形
40-110 道場 1	小坪	鋼版転写・ 手描き	7.7	3.8	4.9		黒化コバルト・綠 色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 山	高台路「■■■北山製」			1/2
40-111 道場 1	小坪	鋼版転写・ ダミ	(7.8)	(4.3)	4.5		黒化コバルト・青 紅色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 植物文 高台内外 脇部: 鶴「秀山」、「水野」				2/3
40-112 道場 1	小坪	鋼版転写・ ダミ	(7.8)	(3.9)	4.7		黒化コバルト・綠 色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 鳥・山 高台内外 脇部: 「泉石生」、「泉石」, 「神■」 高台路「秀山」?				2/3
40-113 道場 1	小坪	鋼版転写	(7.6)	(3.2)	4.3		黒化コバルト・黑 色: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 山・家 高台内外	高台路「大日本友製」			1/2
40-114 道場 1	小坪	手描き	8.3	2.7	4.5		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 植物文				1/3
40-115 道場 1	小坪	鋼版転写	6.6	3.2	4.6		黒: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 海・帆船				2/3
40-116 道場 1	小坪	鋼版転写	7.8	3.4	4.2		黒: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 唐草・草花文 高 台内外: 蘭文				1/2
40-117 道場 1	小坪	鋼版転写	7.8	3.8	4.0		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 唐草文・獅子・雷				はは元 形
40-118 道場 1	小坪	鋼版転写	8.0	3.8	4.0		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 松竹梅・鳥 高台				はは元 形
40-119 道場 1	小坪	鋼版転写	7.6	3.8	4.1		黒: 透明釉: 白 色粘質土	外面: 松竹梅 内面: 脇部 脇部: 「細縫寿」				完形
40-120 道場 1	小坪	鋼版転写	7.8	3.4	4.1		黒化コバルト: 透 明白: 白色粘質土	外面: 不明 高台外面:				1/3
40-121 道場 1	小坪	鋼版転写・ 手描き	7.8	3.6	4		黒化コバルト・綠 透明釉: 白色粘質 土	外面: 草花文 高台外面: 脇部				はは元 形

図 番号	出土 遺構	器種	給付方 法	法盤			頬料・釉色調：胎 土	技法／文様／その他	備考	推定生産地	推定年代	進程度
				口径	底径	器高						
40-122	遺構 1	小环	側面転写	7.6	3.8	4.6	黒化コバルト薄紅 色：透明釉：白色 粘質土	外面：縦線・植物 高台内 外：圓窓				1/2
40-123	遺構 1	小环	側面転写	7.8	4	4.5	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	外面：無文 細の目高台	内底鋸「露屋」			完形
40-124	遺構 1	小环	手描き	10.8	4.8	5.4	黒色：透明釉：白 色粘質土	外面：不明				1/3
40-125	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.8	4.3	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	外面：縦線 緑部外面 に帶状の文様 高台内 外：圓窓				ほぼ完 形
40-126	遺構 1	小环	手描き	8.4	3.3	4.1	藍色：淡緑色釉： 白色粘質土	外面：透脊文				完形
40-127	遺構 1	小环	手描き	8.2	3.4	4.7	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	外面：草花文				完形
41-128	遺構 1	小环	手描き	8.2	2.4	3.2	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	内外面：草				1/2
41-129	遺構 1	小环	手描き・ ダメ	8.4	3.8	5.0	黒化コバルト・綠・ 黄色：薄紅色：透 明釉：白色粘質土	外面：牡丹文				ほぼ完 形
41-130	遺構 1	小环	手描き	7.9	4.0	4.2	藍色：クロム：白 色粘質土	外面：植物文 高台内： 圓窓				完形
41-131	遺構 1	小环	手描き	6.1	3.4	3.4	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	口縁部内側輪溝有 外面：植物文				ほぼ完 形
41-132	遺構 1	小环	吹墨	(7.8)	3.8	4.1	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	口縁部の外面：吹墨 外 面：圓窓 文：蛇の目高台				ほぼ完 形
41-133	遺構 1	小环	吹墨	7.0	4.3	3.5	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	外面：吹墨				2/3
41-134	遺構 1	小环	手描き	7.4	4.2	5.6	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	外面：幾何学文 高台内 外：圓窓	高台鋸「三瓣團」			1/2
41-135	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.6	4.7	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-136	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.2	4.5	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-137	遺構 1	小环	手描き	8.5	3.4	4.1	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				完形
41-138	遺構 1	小环	手描き	8.4	3.4	4.3	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-139	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.4	4.2	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				完形
41-140	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.2	4.5	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-141	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.4	4.4	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-142	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.6	4.2	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-143	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.4	4.3	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				2/3
41-144	遺構 1	小环	手描き	8.8	3.6	4.5	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-145	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.2	4.0	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				1/3
41-146	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.2	4.3	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-147	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.2	4.2	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				ほぼ完 形
41-148	遺構 1	小环	手描き	7.8	4.0	4.3	藍色：淡青釉：白 色粘質土	外面：植物文 蛇の目高 台				1/4
41-149	遺構 1	小环	手描き	7.8	-	(3.8)	黒化コバルト・透 明釉：白色粘質土	口部：基面色で着色 内面：不明 外面：人物 文・葉紋		口縁部 小片		
41-150	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.4	4.8	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	内外面：植物文				完形
41-151	遺構 1	小环	手描き	8.6	3.6	4.5	黒化コバルト：ク ロム：白色粘質土	外面：藍				完形
41-152	遺構 1	小环		8.4	3.2	4.0	クロム：白色粘質 土	外面：縫隙有り 蛇の目高 台				2/3
41-153	遺構 1	小环		8.0	3.0	4.5	クロム：白色粘質 土	外面：縫隙有り 出し白				完形
41-154	遺構 1	小环		7.8	3.0	4.1	クロム：白色粘質 土	外面：縫隙有り 出し白				ほぼ完 形
41-155	遺構 1	小环		8.2	3.2	4.0	灰青釉：白色粘質 土	外面：縫隙有り 出し白				ほぼ完 形
41-156	遺構 1	小环		8.2	3.5	4.0	クロム：白色粘質 土	外面：縫隙有り 出し白				完形

番号	出土・遺構	器種	繪付け方 法	注意			網目: 色調: 細 土	找法・文様・その他の 特徴	参考	検定生産地	検定年代	進存度	
				口径	底径	器高							
42-157	遺構 1	扇形湯呑	繩版軸写	5.8	3.3	6.8	細化コバルト: 透 明軸: 白色粘質土	外縁: 網目文				完形	
42-158	遺構 1	扇形湯呑	繩版軸写	4.8	3.6	6.2	細化コバルト: 透 明軸: 白色粘質土	外縁: 錦・雲 高台外縁: 高台路「御」				完形	
42-159	遺構 1	扇形湯呑	繩版軸写	5.9	4.0	7.2	淡紅色: 透明軸: 白色粘質土	外縁: 文書など 高台外 部: 草花文	草花文			11世紀完 形	
42-160	遺構 1	扇形湯呑	繩版軸写	5.6	3.4	5.9	細化コバルト: 透 明軸: 白色粘質土	口部に赤褐色の着色 外縁: 竹・側面文 高台 部外縁: 圓錐	銅部鉢「鶴子亭 松山由 人、角路」			3/4	
42-161	遺構 1	扇形湯呑	繩版軸写	5.9	3.6	6.9	細化コバルト: 透 明軸: 透明軸: 白色 粘質土	内面: 風景・人物 外縁: 青面文・人物 高台外縁: 吳文	高台路「■■■■■」			11世紀完 形	
42-162	遺構 1	扇形湯呑	繩版軸写	5.8	3.6	6.6	細化コバルト: 透 明軸: 透明軸: 白 色粘質土	外縁: 俗				11世紀完 形	
42-163	遺構 1	扇形湯呑	繩版軸写・ ダミ	(5.4)	(3.4)	6.1	金彩・多色: 透明 軸: 白色粘質土	外縁: 小割文・縦 高台 部: 圓錐				2/3	
42-164	遺構 1	扇形湯呑	繩版軸写・ ダミ	6.6	4.0	7.3	緑・淡赤茶色: 透 明軸: 白色粘質土	外縁: 菊花文				11世紀完 形	
42-165	遺構 1	扇形湯呑	手描き・ ダミ・吹 墨	(7.6)	(4.4)	8.0	灰・綠・薄紫 色: 透明軸: 白色粘質 土	外縁: 俗・鶴文	高台路「月山」				11世紀完 形
42-166	遺構 1	扇形湯呑	手描き	6.8	4.4	7.6	藍色・黒・薄紫 色: 透明軸: 白色粘質 土	外縁: 菊花文	高台内「柏山」				11世紀完 形
42-167	遺構 3	扇形湯呑	手描き	6.2	3.6	6.6	細化コバルト: 肝 紅色・輪裏墨: 透 明軸: 白色粘質土	内面: 人物・風景画 外 面: 牡丹・木目 高台外 部: 蓼芽	高台路「東陽軒八槻」	廻戸・肥前	明治~大正	完形	
42-168	遺構 1	扇形湯呑	手描き	(6.4)	(3.8)	(6.3)	細化コバルト: 黄 紅・綠色: 透明軸: 白色粘質土	外縁: 植文	高台内面、文字か?				2/3
42-169	遺構 1	扇形湯呑	手描き	(6.1)	4.3	7.3	細化コバルト: 肝 紅・綠色: 透明軸: 白色粘質土	外縁: 植	高台内面、文字か?				3/4
42-170	遺構 1	扇形湯呑	手描き	(5.2)	(3.5)	6.0	細化コバルト: 透 明軸: 白色粘質土	外縁: 植物文	高台路「香山」				11世紀完 形
42-171	遺構 1	扇形湯呑	手描き	5.3	3.6	6.1	細化コバルト: 透 明軸: 白色粘質土	外縁: 植物文	高台路「香山」				11世紀完 形
42-172	遺構 1	扇形湯呑	手描き	(5.0)	(3.3)	5.9	細化コバルト: 透 明軸: 白色粘質土	外縁: 植物文	高台路「香山」				1/2
42-173	遺構 1	扇形湯呑	手描き	(5.9)	(3.4)	5.6	細化コバルト: 透 明軸: 白色粘質土	外縁: 植文 高台外縁: 不明文様	高台路「西菴」				2/3
42-174	遺構 1	扇形湯呑	色絵	(6.7)	(4.4)	(8.0)	多色・金色: 透明 軸: 白色粘質土	外縁: 花・鶴文・渦巻文 高台外縁: 金彩					1/2
42-175	遺構 1	扇形湯呑	色絵	(6.8)	(4.0)	(7.8)	多色: 透明軸: 白 色粘質土	外縁: 菊花文					11世紀完 形
42-176	遺構不明	型押し		(7.8)	-	-	透明軸: 白色粘質 土	口部當文の型押し					口縁部 小片
42-177	遺構 1	湯呑	手描き	6.8			細化コバルト: 透 明軸: 白色粘質土	内外縁: 口縁部に細化コ バルトの網錐					1/4
42-178	遺構 1	端丸湯呑	無文	-	-	-	灰白不透明素地 軸: 白色粘質土	内面: 貞人					口縁部 小片
42-179	遺構 1	湯呑	無文	-	3.0	(2.7)	淡灰褐色不透明 軸: 灰色粘質土	高台部~底部: 審磨					底部部
43-181	遺構 1	瓶	手描き	6.7	2.5	28	細化コバルト: 金 彩・朱色: 透明軸: 白色粘質土	高台外縁: 文様	高台路: 角錐見込み器「藤 食(赤字)かど正(金字)」				11世紀完 形
43-182	遺構 1	瓶	手描き	6.7	2.8	27	細化コバルト: 金 彩・朱色: 透明軸: 白色粘質土	高台外縁: 文様	高台路: 角錐見込み器「藤 食(赤字)かど正(金字)」				11世紀完 形
43-183	遺構 1	瓶	手描き	6.9	2.5	27	細化コバルト: 金 彩・朱色: 透明軸: 白色粘質土	内部: 瓶子と文字 E 軸部全色 高台外縁: 透影文様	見込入路「八幡前(金字) 軸部全色 みかわや 酒店(金字)」				2/3
43-184	遺構 3	瓶	手描き	8.2	3.1	3.3	細化コバルト: 金 彩・朱色: 透明軸: 白色粘質土	内底部: 瓶子と文字 E 軸部全色 高台外縁: 透影文様	高台路: 角路 見込入路「八幡前(金字) 軸部全色 みかわや 酒店(金字)」				11世紀完 形
43-185	遺構 1	瓶	手描き	6.8	2.3	25	細化コバルト: 金 彩・朱色: 透明軸: 白色粘質土	内底部: 瓶子と文字 E 軸部全色 高台外縁: 透影文様	高台路: 角路 見込入路「藤食 寿し 喜屋 八幡前(金字)」				11世紀完 形

国 番号	出土 遺構	器種	絵付け方 法	法量			網目：緑色調：筋 土	技法／文様／その他の 特徴	備考	推定生産地	推定年代	進度
				口径	底径	器高						
43-186	遺構 1	盃	手描き	6.8	2.3	2.7	簡化コバルト・金 彩・朱色・透明釉・ 白色粘質土	内面：文字と文様（松 か？）口唇部：金色わ ずかに残る 高台外側： 波形文様	高台路：角路 見込み路：壽司（金字） かまくら（朱色）			1/2
43-187	遺構 1	盃	手描き	6.5	2.4	2.6	簡化コバルト・金 彩・緑色・透明釉・ 白色粘質土	内面：絵葉（緑色） 口 部：金色 高台外側： 波形文様	高台路：角路 見込み路：角路、かまく ら（金字）			2/3
43-188	遺構 1	盃	手描き	-	2.4	(1.3)	簡化コバルト・金 彩・緑色・透明釉・ 白色粘質土	内面：絵葉（緑色） 口 部：金色 高台外側： 波形文様	高台路：角路 見込み路：角路、かまく ら（金字）			底部小 片
43-189	遺構 1	盃	手描き	-	2.6	(2.7)	簡化コバルト・金 彩・透明釉・白色 粘質土	内面：文字と文様（松 か？）口唇部：金色 面：波形文様	高台路：角路 見込み路：「かまくら 角 合」			1/3
43-190	遺構 1	盃	手描き	6.8	2.8	2.6	簡化コバルト・金 彩・朱色・透明釉・ 白色粘質土	内面：文字と脚器 彩・朱色・透明釉・ 高台外側：波形文様	高台路：角路 見込み路：八幡舎（朱色） 陶器款（金字）			1/1
43-191	遺構 1	盃	手描き	6.7	2.7	2.6	簡化コバルト・金 彩・透明釉・白色 粘質土	内面：文字 高台外側： 波形文様	高台路：角路足見込み路： 「き薺葉 東屋（金字）」			ほぼ完 成
43-192	遺構 1	盃	手描き	6.8	2.7	2.8	簡化コバルト・金 彩・透明釉・白色 粘質土	内面：文字と脚器 彩・透明釉・白色 金色	見込み路：「かまくら 東？」（金字）			1/4
43-193	遺構 1	盃	手描き	7.0	1.0	2.9	簡化コバルト・金 彩・透明釉・白色 粘質土	内面：文字と脚器 彩・透明釉・白色 粘質土	見込み路：萩原、 見込み路：萩原、			1/5
44-194	遺構 1	盃	手描き	6.6	2.8	2.4	簡化コバルト・金 彩・透明釉・白色 粘質土	内面：文字と文様	見込み路：■■■■■ ■■（朱色）			1/3
44-195	遺構 1	盃	手描き	6.8	2.7	2.6	簡化コバルト・金 彩・朱色・透明釉・ 白色粘質土	内面：文字と不明文様 高台外側：波形文様	高台路：角路 見込み路：「記念 ■■」			2/3
44-196	遺構 1	軍持	手描き	8.2	3.3	3.3	簡化コバルト・金 彩・緑色・透明釉・ 白色粘質土	内面：文字と文様（瓶口 部・日本国旗・桜の花）	高台路：「鏡」 見込み路：「記念 ■■」			ほぼ完 成
44-197	遺構 1	軍持	手描き	(8.2)	-	(2.5)	簡化コバルト・金 彩・透明釉・白色 粘質土	内面：文字と文様（瓶口 部）	内面：「明治四（金色）」「鏡 (金色)」			口縁部 片
44-198	遺構 1	盃	手描き	8.6	3	3.4	橙色・褐色・透明 釉・白色粘質土	内外面：不明文様				1/2
44-199	遺構 1	盃	色絵	8.4	2.8	3.2	簡化コバルト・金 彩・朱・緑色・透 明釉・白色粘質土	外側：瓶風と雲				ほぼ完 成
44-200	遺構 1	盃	手描き	-	2.4	(1.3)	簡化コバルト・金 彩・透明釉・白色 粘質土	内底面：文字と文様 高 台外側：波形文様	高台路：「角路」			底部板 小片
44-201	遺構 1	盃	手描き	7.0	2.4	2.8	簡化コバルト・金 彩・透明釉・白色 粘質土	高台外側：波形文様				ほぼ完 成
44-202	遺構 1	盃	吹墨	6.8	2.5	2.8	簡化コバルト・薄 青色・白色粘質土	口縁部内外に吹墨				ほぼ完 成
44-203	遺構 1	盃	手描き・ 吹墨	7.2	2.6	2.7	簡化コバルト・薄 紅色・透明釉・白 色粘質土	内面：花				1/3
44-204	遺構 1	盃	手描き	3.5	2.6	3.7	簡化コバルト・蘭 色・透明釉・白色 粘質土	内面：不明文様				1/4
44-205	遺構 1	盃	手描き	7	2.4	2.7	簡化コバルト・薄 紅色・透明釉・白 色粘質土	内面：植物文様（秋海棠 紅色・透明釉・白 色粘質土）				2/3
44-206	遺構 1	盃	色絵	6.8	2.6	2.6	多色・金彩・透明 釉・白色粘質土	口縁部：輪花 口唇部： 金彩 内面：風景				2/3
44-207	遺構 1	盃		6.6	3.0	3.1	透明釉・白色粘質 土	内外面：無文				ほぼ完 成
44-208	遺構 1	盃	手描き	5.4	2.4	3.3	金彩・透明釉・白 色粘質土	外側：右回りの三つ巴文				2/3
44-209	遺構 1	盃	手描き	5.0	2.3	3.0	金彩・透明釉・白 色粘質土	外側：文様不明				1/2
44-210	遺構 1	盃	手描き	5.2	2.4	3.4	金彩・透明釉・白 色粘質土	内面：左回りの三つ巴文 付着物				完形

件 番号	出上 道機	器種	給付方 法	注意			網料：無色調・白 土	技法：文様／その他	参考	新定生産地	新定年代	進存度
				口径	底径	器高						
44-211	道機 I	豆		(3.4)	-	(3.0)	透明釉：白色粘質・白 土	内外面：無文				1/5
44-212	道機 I	豆		4.0	3.0	4.8	透明釉：白色粘質・白 土	内外面：無文				1112年定 形
44-213	道機 I	豆	手捺き	3.6	2.4	3.8	透明釉：白色粘質・白 土	内外面：丸に鳥				完形
44-214	道機 I	豆		3.8	2.7	4.0	透明釉：白色粘質・白 土	内外面：無文				3/4
44-215	道機 I	豆		4.2	2.9	3.9	透明釉：白色粘質・白 土	内外面：無文				1112年定 形
45-216	道機 I	瓶	壓紙捺印	10.8	6.3	21	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・植物	内面：みじん唐草・人物・ 明輪：白色粘質・植物				1112年定 形
45-217	道機 I	瓶	壓紙捺印	10.6	6	21	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・植物	内面：みじん唐草・鳥・ 明輪：白色粘質・植物・人物・文字				1112年定 形
45-218	道機 I	瓶	壓紙捺印	10.4	6.3	17	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・植物	内面：草花・人物・文字				1/2
45-219	道機 I	瓶	壓紙捺印	10.4	6.6	17	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・植物	内面：草花・人物・文字				1/4
45-220	道機 I	瓶	壓紙捺印	10.8	6.8	19	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・植物	内面：花				1112年定 形
45-221	道機 I	瓶	壓紙捺印	10.8	6.4	2	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・白 色粘質土	内面：花				1112年定 形
45-222	道機 I	瓶	壓紙捺印	22	10.2	31	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・植物	内面：青海波・波・ウサギ・ 明輪：白色粘質・土・月・花 外面：草花・龍 の森・苔台				2/3
45-223	道機 I	瓶	鋼版転写	長径 16.2 短径 13.0	6.4	26	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：植物・鳥 外面： 明輪：白色粘質・土				1112年定 形
45-224	道機 I	瓶	鋼版転写	14.3	8.3	3	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：アゲメ・菊・唐草 洋風文様 口唇部：圓輪 高台内外面：圓輪				1/2
45-225	道機 I	瓶	鋼版転写	12.4	7.2	25	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：兔・青海波・松竹 明輪：白色粘質・土				完形
45-226	道機 I	瓶	鋼版転写	12.5	7	25	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：花・青海波・鳥・竹 明輪：白色粘質・土・菊・唐草				1112年定 形
46-227	道機 I	瓶	鋼版転写	10.4	6.4	18	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：寿文・植物				1112年定 形
46-228	道機 I	瓶	鋼版転写	10.4	6.5	2	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：鯉口と金魚 外面： 明輪：白色粘質・土				2/3
46-229	道機 I	瓶	鋼版転写	11	6	16	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：口唇部輪花 内外面：社會 明輪：白色粘質・土	高台路：【■■■■■】			1/2
46-230	道機 I	瓶	鋼版転写	10.4	5.6	18	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	外側：圓輪 内面：人物・ 明輪：白色粘質・土				1/2
46-231	道機 I	瓶	鋼版転写	10.8	6	22	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：植物文様				1/5
46-232	道機 I	瓶	鋼版転写	7.8	4.4	17	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：石燈籠・人物・風景 明輪：白色粘質・土				完形
46-233	道機 I	瓶	鋼版転写	9.4	5.9	19	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：荷輪子牡丹・植物				1112年定 形
46-234	道機 I	瓶	鋼版転写	8.8	5.2	23	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：海老				1/2
46-235	道機 I	瓶	鋼版転写	7.8	4.2	22	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：格子と三つ巴				3/4
46-236	道機 I	瓶	鋼版転写	15.8	8.4	3	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：竹と上向と側道文 書 外面：鳳凰・口唇部：				1/3
46-237	道機 I	瓶	鋼版転写	10.9	5.8	26	焼化コバルト・褐色 色：透明釉：白色 粘質土	内面：草花・魚・水波 口唇部：褐色				1112年定 形
46-238	道機 I	瓶	鋼版転写	10.7	5.7	25	焼化コバルト・褐色 色：透明釉：白色 粘質土	内面：草花・魚・水波 口唇部：褐色				1112年定 形
46-239	道機 I	瓶	鋼版転写	15.6	8.8	31	焼化コバルト：透 明釉：白色粘質・土	内面：人・鳥・植物・風 景 外面：圓輪 高台内 外面：圓輪				1112年定 形
46-240	道機 I	瓶	鋼版転写	12.6	7.7	21	焼化コバルト・褐色 周色：透明釉：白 色粘質土	内面：「寿」文・植物文様 口唇部：茶褐色				1112年定 形

図 番号	出土 遺物	器種	絵付け方 法	法華			絵料・色彩調：胎 土	技法／文様／その他	備考	推定生産地	推定年代	進年度
				口径	底径	器高						
45-241	追拂1	皿	鋼版転写	10.6	6.2	2.0	施化コバルト淡茶 色：透明釉：白色 粘質土	内面：植物文・三つ巴 外縁：團扇				完形
45-242	追拂1	皿	鋼版転写	10.8	6.5	1.9	施化コバルト：淡 綠色釉：白色粘質 土	内面：度・龍 口部部： 褐色				完形
47-243	追拂1	皿	鋼版転写	12.7	6.6	2.5	施化コバルト：褐 色：透明釉：白色 粘質土	内面：鳥・渡の音海波 口部部：褐色				ほぼ完 形
47-244	追拂1	皿	鋼版転写	12.4	7	2.3	施化コバルト：褐 色：透明釉：白色 粘質土	内面：水流・舟・千鳥 口部部：褐色				ほぼ完 形
47-245	追拂1	皿	鋼版転写	11.7	6.4	2.4	施化コバルト：透 明釉：白色粘質土 色	内面：文様不明 外面： 高台見込み：團扇 口部 部：施化コバルト				1/2
47-246	追拂1	皿	鋼版転写	21	13.2	2.7	施化コバルト：褐 色：透明釉：白色 粘質土	内面：鳥・雷・龜 口部部： 褐色 口縁：イグ鉢				1/2
47-247	追拂1	皿	鋼版転写 デミ	(15.7)	10	(3.5)	施化コバルト：褐 色：透明釉：白色 粘質土	内面：楕・圓巻 外面： 植物文・團扇 口部部： 褐色 口縁：イグ鉢				口縁部 小片
47-248	追拂1	皿	鋼版転写	10.7	6.2	2.2	緑色・褐色：透明 色：白色粘質土 色	内面：梅・度・龍 口部部： 褐色				完形
47-249	追拂1	皿	鋼版転写	10.4	6.4	2.0	緑色・淡茶色：透 明釉：白色粘質土 色	内面：楕・葉形 口部部： 淡茶色				ほぼ完 形
47-250	追拂1	皿	鋼版転写	10.4	6.2	1.8	緑色・淡茶色：透 明釉：白色粘質土 色	内面：楕・葉形 口部部： 淡茶色				1/4
47-251	追拂1	皿	鋼版転写	10.6	6.4	2.2	緑色・褐色：透明 色：白色粘質土 色	内面：楕・度・唐草 口 部：褐色				ほぼ完 形
47-252	追拂1	皿	鋼版転写	10.6	6.2	2.0	緑色・褐色：透明 色：白色粘質土 色	内面：楕・度・唐草 口 部：褐色				1/5
47-253	追拂1	皿	鋼版転写	12.6	7.1	2.4	緑色・褐色：透明 色：白色粘質土 色	内面：花菱・菊・斜格子 口部部：褐色				ほぼ完 形
47-254	追拂1	皿	鋼版転写	12.9	7.6	2.5	施化コバルト：綠 色：透明釉：白色 粘質土	内面：楕 外面：團扇 口部部：施化コバルト				1/2
48-255	追拂1	皿	鋼版転写 デミ	11.8	6.6	2.7	施化コバルト：透 明釉：白色粘質土 色	内面：植物文 外面： 高台見込み：團扇				ほぼ完 形
48-256	追拂3(手描版)	鋼版転写	8.3	4.2	1.7	施化コバルト：褐 色：透明釉：白色 粘質土	内面：「母」・月・光 水玉 外面：團扇 口部 部：褐色		廻江・美濃	明治・大正	完形	
48-257	追拂1	皿	鋼版転写	12.2	6.8	3.1	茶葉文・緑・黄灰 色：透明釉：白色 粘質土	口縁部：植物文 内面見 込み 文様不明 黒込み による致射状の痕跡	肥前?	明治後半 大正	4/5	
48-258	追拂1	皿	鋼版転写	12.2	6.8	3.1	茶葉文・緑・黄灰 色：透明釉：白色 粘質土	口縁部：植物文 内面見 込み 文様不明 黒込み による致射状の痕跡	肥前?	明治後半 大正	1/2	完形
48-259	追拂1	皿	色刷	11.2	6	2.6	施化コバルト：綠 色粘質土 白色粘質土	内面：松竹梅 高台内外 青紅色：透明釉：白				ほぼ完 形
48-260	追拂1	皿	手描き	12	6.4	2.5	施化コバルト：薄 紅色：透明釉：白 色粘質土	内面：植物・池・水鳥 外縁：團扇				1/2
48-261	追拂1	皿	鋼版転写 デミ	(14.0)	(7.6)	2.5	施化コバルト：薄 紅色：透明釉：白 色粘質土	内面：植物文 外面：高 台見込み：團扇	廻江美濃		1/3	
48-262	追拂1	皿	鋼版転写 デミ	(14.0)	7.7	2.6	施化コバルト：薄 紅色：透明釉：白 色粘質土	内面：植物文 外面：高 台見込み：團扇	廻江美濃		1/2	
48-263	追拂1	皿	鋼版転写	(14.0～ 13.7)	7.7	3.4	施化コバルト：薄 紅色：透明釉：白 色粘質土	内面：植物 口部部：褐 色 外縁：高台見込み：團 扇	廻江美濃		1/2	
48-264	追拂1	皿	鋼版転写 デミ	12.6	7.2	2.65	施化コバルト：赤 色：透明釉：白色 粘質土	内面：鶴と松 外面：高 台見込み：團扇	廻江美濃		1/2	
48-265	追拂1	皿	鋼版転写 デミ	12.1	6.5	3.2	施化コバルト：赤 色：透明釉：白 色粘質土	内面：海と人物 外面： 高台見込み：團扇	廻江美濃		1/2	
48-266	追拂1	皿	鋼版転写 デミ	11	5.3	2.2	施化コバルト：薄 紅色：透明釉：白 色粘質土	内面：植物・三つ巴集 合外縁：團扇	廻江美濃		完形	

番号 番号	出土 遺跡	器種	縦付け方 法	注意			網目: 色調: 細 土	技法 / 文様 / その他の 特徴	参考	新定生産地	新定年代	遺存状 態	
				口径	底径	器高							
49-267 遺跡 I	鉢	乗付手捺 き	10.5	5.6	2.3		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 菊の花 外面: 雜 文: 不明(模)	高台路: 角路	瀬戸美濃	はは元 形		
49-268 遺跡 I	鉢	手捺き	11.6	6.6	2.1		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、鳥 外面: 高台外面: 圖案			はは元 形		
49-269 遺跡 I	鉢	手捺き		(9.6)	(3.0)		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 文字不明(謹?)			成部片		
49-270 遺跡 I	鉢	乗付手捺 き吹墨	10.9	6.2	2.0		緑、桃、黄色・金 彩: 透明釉: 白色 粘質土	内面: 朝顔 口部: 金 彩			完形		
49-271 遺跡 I	鉢			8.2	5.0	1.9	透明釉: 白色粘質 土	内外面: 無文		瀬戸美濃	3/4		
50-272 遺跡 I	鉢	手捺き	長径 短径 23.0	12.0	2.9		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、植物、文字 外面部: 圖案	見込み路: 「魚かん」		1/3		
50-273 遺跡 I	鉢	イッキン	長径 短径 13.8	7.8	7.8		織化コバルト: 基 色・緑: 透明釉: 白色粘質土	内面: 植物文(解・葉) 外面部: 圖案			4/5		
50-274 遺跡 I	鉢	乗付手捺 き	—	(6.4)	(1.7)		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物文			成部片		
50-275 遺跡 I	鉢	手捺き	—	(37.4)	(2.3)		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 文様不明 外面: 被熱			成部片		
50-276 遺跡 I	鉢	色絵	21.0	12.6	2.4		金彩・茶・青・系 黄・緑: 透明釉: 白色粘質土	内面: 花鳥文			はは元 形		
50-277 遺跡 I	鉢	色絵	—	(7.6)	—		金彩: 透明釉: 白 色粘質土	内面: 植物文 色の済 苦しい			成部小 片		
50-278 遺跡 I	鉢	色絵	(14.7)	(9.2)	1.8		金彩・黒・緑・赤 織化コバルト: 漆 黄褐色: 透明釉: 白色粘質土	内面: 植物文		肥前?	明治~大正	小片	
50-279 遺跡 I	鉢	色絵	—	(9.1)	(2.0)		金彩・黒・緑・赤 織化コバルト: 漆 黄褐色: 透明釉: 白色粘質土	内面: 植物文	高台見込み路: [■]	肥前、京都、明治~大正 瀬戸美濃、 周西系		小片	
50-280 遺跡 I	鉢	色絵	—	—	—		織化コバルト: 緑 淡青褐色: 透明釉: 白色粘質土	内面: 山水文				小片	
51-281 遺跡 I	鉢	網版転写	14.8	5.9	5.9		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、鳳凰、雜 文: 高台見込み: 圖案	高台路: 角路	肥前系	明治~大正	完形	
51-282 遺跡 I	鉢	網版転写	15.8	5.8	6.2		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 茶文甲・青海波 明釉: 白色粘質土	高台路: 角路 ほか: 内外面、高台見込み 点: 圖案	肥前系	明治~大正	11/2完 形	
51-283 遺跡 I	鉢	壁紙模写 ダミ	—	(6.0)	(1.5)		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、鳳凰、雜 文: 高台		瀬戸美濃系	成部片		
51-284 遺跡 I	鉢	壁紙模写 ダミ	—	9.2	(2.1)		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 不明文様 外面: 壁紙		肥前	明治	成部片	
51-285 遺跡 I	鉢	網版転写	14.7	—	4.4	ツマミ付	織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、鳩、亀甲・唐草 文: ツマミ付: 内外面: 雜 文	ツマミ路: 「陶時園製」	瀬戸美濃	明治~大正	はは元 形	
51-286 遺跡 I	鉢	網版転写	14.8	6.3	6.2		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、鳳凰、雜 文: ツマミ付: 内外面: 雜 文	ツマミ路: 「陶時園製」			完形	
51-287 遺跡 I	鉢	網版転写	19.6	11.2	6.1		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物文、雜 文: 青草・植物、風景、舞 鳥・水車・蛇の目高台				はは元 形	
52-288 遺跡 3	鉢	手捺き	12.0	6.0	6.7		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、鳩、亀甲・唐草 文: 高台外面: 波状文		瀬戸美濃	はは元 形		
52-289 遺跡 1	鉢	手捺き・ 吹き墨	(18.4)	8.4	7.4		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、外側: 高台 底邊: 地文: 外面: 鳥・舞 鳥・高台外面: 波状文	高台路: 【深川製】	有田	明治~大正	3/4	
52-290 遺跡 1	鉢	手捺き	15.8	7.0	5.3		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物、外側: 不規 則色・緑: 透明釉: 白色粘質土	高台部手書きの文様			2/3	
52-291 遺跡 1	鉢	網版転写 ダミ	10.5	3.0	7.1		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 草花・鳥・蝶		瀬戸美濃系		完形	
52-292 遺跡 1	鉢	網版転写 ダミ	10.6	4.4	7.2		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 草花・鳥・蝶		瀬戸美濃系	はは元 形		
52-293 遺跡 1	鉢	網版転写 ダミ	10.6	4.2	7.1		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 草花・鳥・蝶		瀬戸美濃系	1/3		
52-294 遺跡 3	鉢	手捺き	10.5	7.1	8.3		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 植物			はは元 形		
52-295 遺跡 1	鉢	手捺き	8.6	4.2	4.9		織化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	内面: 圖案、不明文様			はは元 形		

国 番号	出土 遺構	器種	給付方 法	法華			頬料・釉色調・胎 土	技法・文様・その他	備考	指定生産地	指定年代	進年度	
				口径	底径	器高							
52-296	遺構1	鉢	手描き風 糊版刷写	(15.4)	15.3	7	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	内面:團扇、内底團扇の 間に「開口」外面:茶色 の團扇の間に「落相輪」 「福壽」 外面部:團扇 内面:水鳥 外面:文様 不明:白色胎質上 部:褐色	高台路:「開口」 外面部:「福壽」	肥前系	明治後半~ 大正	1/2	
53-297	遺構1	小鉢	手描き	12.2	5.1	4.6	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	内面:團扇、外面部: 文様不明:「白須直し」燒 きつけの技法		肥前	明治~大正	ほぼ完 形	
53-298	遺構1	鉢?	手描き	-	(6.5)	5.5	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	内面:團扇				1/3	
53-299	遺構1	小鉢	手描き	9.4	3.8	4.1	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	口羽唇:桜花 内面:海 馬文、花、團扇 外側:文様より 高台内外:團 扇		肥戸	明治~大正	ほぼ完 形	
53-300	遺構1	鉢	手描き	縦11.6 横11.4	5.2	5.3	黒化コバルト:綠 色:クロム:白色 胎質上	内面見込み:薔薇文外面部: 千鳥、波文か ら				完形	
53-301	遺構1	鉢	手描き	12.1	5.7	5.8	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	内面:水草文 外面:車 輪文、文様不明				ほぼ完 形	
53-302	遺構1	鉢	手描き・ イッヂン	15.5	6.8	4.5	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	内面:通の間に雁 形		周西系?京 都系	明治~大正	3/4	
53-303	遺構1	鉢?	手描き	15.4	7.4	4.0	藍色・灰緑色:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	高台内外部:團扇 明治:白色胎質上 部:褐色		肥戸美濃系		ほぼ完 形	
54-304	遺構1	小鉢	手描き	長8.2 幅8.3	(4.2)	(2.6)	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	内面:海、松 外面:竹 輪文				ほぼ完 形	
54-305	遺構1	鉢?	手描き	(8.6?)	-	(3.4)	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	内面:團扇 外面:理塘 明治:白色胎質上 部:褐色		肥戸美濃系	口輪部 片		
54-306	遺構1	鉢	色絵	18.2	8.7	6.8	黒化コバルト:本 銅緑・青緑色:透明 釉:白色胎質上 部:褐色	内面:松竹梅、團扇 口 縁内面部:花文文 外面部: ●:吹雲文、團扇 高台 登付軽刷		肥前		ほぼ完 形	
54-307	遺構1	鉢	手描き	(14.3)	(7.6)	4.7	黒化コバルト:茶 褐色:透明釉:白 色胎質上	内面見込み:植物文			肥前	明治~大正	口輪~ 底付小 片
54-308	遺構1	鉢	手描き・ 色絵	17.6	9.6	6.0	金色・朱・酸性コ バルト:緑・綠 青:透明釉:白色 胎質上	内面:風景文 外面:團 扇・宝物(図など、八宝文) 蛇の目高台	高台 18世紀、やや質は 悪い	肥前系	明治	4/5	
54-309	遺構1	小鉢	手描き・ 色絵	(13.3)	(5.7)	4.8	金色・黒化コバル ト:緑・黃色・朱 透明釉:白色胎質 上	内面:植物文 外面:植 物と雲		肥前	明治~大正	1/3	
55-310	遺構1	土瓶	手描き	9	9	11.4	最大径 14.5	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	植物文				ほぼ完 形
55-311	遺構1	土瓶	手描き	(7.7)	(7.5)	9.8	最大径 (12.3)	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	植物文・菊の施				1/2
55-312	遺構1	土瓶	手描き	(7.4)	(7.1)	8.2	最大径 (10.6)	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	植物文・牡丹の施				1/2
55-313	遺構1	土瓶	手描き・ イッヂン	7.6	7.8	9.2	最大径 12.0	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	口縁下部:團扇文・脚部: 緑色地に白色のイッヂン				ほぼ完 形
55-314	遺構1	土瓶	手描き	7.8	8.4	8.2	最大径 12.5	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	植物文				5/4
55-315	遺構1	土瓶	手描き	7	7.0	6.4	最大径 10.3	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	風、雲その他の 施				3/4
56-316	遺構1	土瓶蓋	手描き プラスチ ック底部	1.8 1.6 3.5			最大径 7.5	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	大海老文 内底:【■山】				完形
56-316	遺構1	土瓶	手描き	8.1	7.6	8.8	最大径 12.3	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	大海老文				ほぼ完 形
56-317	遺構1	土瓶	手描き	(8.8)	(8.0)	(9.9)	最大径 (7.7)	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	植物文 満文文				3/5
56-318	遺構1	土瓶	手描き	9.8	8.5	8.2	最大径 13.4	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	團扇文 植物文・松の 施				ほぼ完 形
56-319	遺構1	土瓶	手描き	7.5	7.4	7.3	最大径 7.7	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	大海老文 内底:重ね透鏡圖 植物文・菊花				3/4
56-320	遺構3	土瓶	手描き	(7.4)	-	(2.7)	-	黒化コバルト:透 明釉:白色胎質上 部:褐色	植物文・牡丹文・草輪 文				口輪部 片
56-321	遺構1	土瓶	留込み	7.4 (6.4) (8.1)	-		最大径 12.0	黑色・洪灰褐色: 灰白色胎質上 部:褐色	内外面:施輪 口縁部露 出				3/5
56-322	遺構1	土瓶	留込み	身6.8 蓋外径 64 内径5.2	8.2	身9.1 蓋2.2	最大径 11.4	綠色・青色:灰白 色:白色胎質上 部:褐色	内外面:施輪 口縁部・ 底部露輪				ほぼ完 形

科 番号	出上 道耕	器種	給付方 法	注意			細科: 色調: 基 土	找法/文様/その他の 特徴	参考	標定生産地	標定年代	進存度
				口径	底径	器高						
56-323	道耕 1	土瓶	留込み	身 7.4 (6.4)	8	身 8.7 蓋 22	最大径 12.0	基色: 淡黄灰白色 灰白色粘質土	内外面: 施釉 口縁部。 外面下部、底部露胎			3/4
57-324	道耕 1	急瓶	手焼き	5.8	6.4	6.1	最大径 9.6	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文			ほぼ完 形
57-325	道耕 1	急瓶	手焼き	7.4	7.2	8.5	最大径 11.6	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文 下部・脚部 に網目			完形
57-326	道耕 1	急瓶	色絵・イッ チン	6	5.2	6.5	最大径 8.5	灰・緑・褐色・金色 に彩色	植物文、梅・水仙 往き 透明釉: 白色粘質土	路「清水」		完形
57-327	道耕 3	急瓶	手焼き	(7.2)	(7.4)	9.0	最大径 12.0	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文	肥前?	明治一大正	1/2
57-328	道耕 1	急瓶	手焼き	7.4	7.8	9.1	最大径 11.9	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文 口縁部、肩部下 部に網目			ほぼ完 形
57-329	道耕 1	急瓶	手焼き	マツミ径 (5.4)	3.5	—	最大径 (6.5) (1.2)	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文			1/2
57-329	道耕 1	急瓶	手焼き	6.3	5.2	6.0	最大径 10.2	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文			ほぼ完 形
57-330	道耕 1	急瓶	手焼き	6.5	6.3	7.8	最大径 9.6	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文 脚部下部に網目			3/4
58-331	道耕 1	急瓶	手焼き	(7.5)	(7.4)	8.5	最大径 —	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文 脚部下部に網目			1/4
58-332	道耕 1	急瓶	手焼き	7.1	—	(5.0)	最大径 —	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文、花			3/4
58-333	道耕 1	急瓶	手焼き	7.4	6.2	6.5	最大径 9.4	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文			4/5
58-334	道耕 1	急瓶	色絵	—	(6.2)	(5.2)	最大径 —	金・銀化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文、板枝文			1/5
58-335	道耕 1	急瓶	手焼き	7.4	6.4	8.1	10.6	倒り模様・灰色 灰色	倒り模様・灰色 倒りの部分に白色釉			4/5
58-336	道耕 1	釜	手焼き	7.2	—	23	マツミ径 1.4	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文、竹	路「南山」		完形
58-337	道耕 2	釜	手焼き	(8.0)	—	(1.4)	—	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文、竹 内面: 文様 緑色釉: 白色粘質土 不明			1/2
58-338	道耕 1	釜	手焼き	6.2	—	20	マツミ径 1.2	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文、幾何文			完形
58-339	道耕 1	釜	手焼き	6.6	—	22	マツミ径 1.4	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	透共文			完形
58-340	道耕 1	釜	手焼き	7.1	—	26	マツミ径 1.5	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文、花 幾何学文			ほぼ完 形
58-341	道耕 1	釜	手焼き	6.8	—	26	マツミ径 1.2	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文、菊花	路「南山」		完形
58-342	道耕 1	釜	色絵	5.0	—	26	マツミ径 1.0	金・銀化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文	路「■■■」		完形
58-343	道耕 1	釜	手焼き	6.0	—	24	マツミ径 1.3	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文、鳥	路「■■■」		完形
58-344	道耕 1	釜		外径 5.6 6.4	内径 2.2	—	—	— 基本色: 白 紅褐色・綠色: 透 明釉: 白色粘質土	内外面: 無文 内面: 白 色釉			完形
58-345	道耕 1	釜	手焼き	最大径 6.0	底部 5.3	—	マツミ径 —	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外表面: 植物文			ほぼ完 形
58-346	道耕 1	釜	手焼き・イッ チン	外径 5.6 4.0	内径 (1.1)	—	白色・綠色: 灰色 輪: 淡白釉粘質土 部始	内面: 灰色 輪: 淡白釉粘質土 部始	内外面: 灰色 輪: 淡白釉粘質土 部始			ほぼ完 形
58-347	道耕 1	釜	鋼版転写	5.0	—	1.6	マツミ径 0.9	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土 — 紅色: 透明釉: 白 色粘質土 — 綠色: 透明釉: 白 色粘質土	植物文、刻 二つ巴・そ の他			ほぼ完 形
58-348	道耕 1	釜	手焼き	—	—	(0.9)	—	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	植物文			小片
59-349	道耕 1	鍋子	鋼版転写	3.8	7.2	7.0 (取っ 手まで 12.2)	最大径 10.0	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土 — 手前面: 茶草文 往き口: 上面: 茶草文 往き口: 上面: 茶草文	植物文、紙・竹・施 手前面: 茶草文 往き口: 上面: 茶草文 往き口: 上面: 茶草文			完形
59-350	道耕 1	鍋子	鋼版転写	3.5	6	6.6 (把 手まで (11.2))	最大径 9.8	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土 — 取っ手上面: 茶草	植物文、飛鳥・龜・松・竹 5片に 覆られたものを施ガラスで 焼跡修復を施している			ほぼ完 形
59-351	道耕 1	方形收口	鋼版転写	横 12.6	縦 12.1	26	—	微化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	無	鹿戸美濃		完形

国 番号	出土 遺構	器種	繪付け方 法	法書			顔料・色彩調：胎 土	技法／文様／その他	備考	推定生産地	推定年代	進年度	
				口径	底径	器高							
39-352	遺構 2	壺	手書き	(97)	—	(2.6)	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	植物文				1/4	
39-353	遺構 2	壺物 壺	手書き	(97)	—	(2.6)	黒化コバルト・薄 紅色・透明白	植物文				1/4	
39-354	遺構 1	円形容重 型長柄鉢	12.3	11.6	5.3	—	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	植物文・七宝文・幾何学 文		瀬戸美濃?		完形	
39-355	遺構 1	円形容重蓋 剥版転写	(8.9)	(7.4)	2.8	—	黒化コバルト・薄 紅色・透明白	植物文		瀬戸美濃		1/4	
60-356	遺構 1	醬油差し?	剥版転写	(薫) 4.6	3.1	2.7	フマモ怪 絵色・透明白・白 色胎質土	書文 その他の 文				ほぼ完 形	
60-357	遺構 1	醬油差し?	剥版転写	3.2	3.8	5.7	—	黒化コバルト・綠 色・透明白・白色 胎質土	植物文・菊・瓶			1/2	
60-358	遺構 1	醬油差し?	剥版転写	2.9	4.5	5.7	—	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	植物文・幾何学文		瀬戸美濃?		完形
60-359	遺構 1	水滴	剥版転写	横 4.2	横 5.8	2.4	—	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	植物文・桜・板 書文				4/5
60-360	遺構 1	水滴	剥版転写	横 4.3	横 5.4	2.2	—	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	貴人と平安 文字				完形
60-361	遺構 1	水滴	手書き	2.1	6.2	5.1	最大径 9.6	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	植物文・菊花				完形
60-362	遺構 1	網利	剥版転写	2.5	6	17.7	—	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	植物文 烏 書文 その 他の文				ほぼ完 形
60-363	遺構 1	御神酒酌利	剥版転写	3.0	—	(12.2)	最大径 6.8	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	瀬戸焼 萩原 文字 刻 「名古山一」瀬戸新山 郡11面に取扱られている 一方二十八百五十五尺 甲斐 飯河富士山一万二千三百 七十尺				1/3
60-364	遺構 1	御神酒酌利	剥版転写	1.8	3.5	13.7	最大径 5.0	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	植物文・松竹梅 その他の 文				完形
60-365	遺構 1	御神酒酌利	無文	1.7	4.0	15.5	最大径 5.9	—	黒化コバルト・灰褐色 胎質土				2/3
60-366	遺構 1	利	色絵・ 吹墨	32	—	13.3	胴部径 7.8	企部・青背・淡緑 褐色・透明白	口縁部全彩 金彩の掛 花 登録商標 酒招 桜 色胎質土	植物文・松竹梅 その他の 文			1/4
60-367	遺構 1	利	剥版転写・ 吹墨	3	5.8	16	最大径 6.5	墨・朱・緑・灰 色・透明白	脚干 砂 若武者(牛若 丸か)	脚干 砂 若武者(牛若 丸か)	北部鉢「干峯開製」		ほぼ完 形
60-368	遺構 1	利	無文	—	5.6	14.7	最大径 6.5	—・透明白	白 純白	北部鉢「一洗開製」			ほぼ完 形
61-369	遺構 1	利	剥版転写	2.9	5.8	16.4	最大径 6.5	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	植物文 その他の文	明治廿五年? 有功賞 相 州藤沢大坂町 陣屋御用 大石酒店			2/3
61-370	遺構 1	利	剥版転写・ 吹墨	27	5.2	15.6	最大径 6.8	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	人物 鳥 風景	相州藤沢大坂町 陣屋御用 大石酒店、(底部) 底部鉢 「香山」			ほぼ完 形
61-371	遺構 1	利	剥版転写	27	5.2	15.2	最大径 6.7	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	人物 鳥 風景	相州藤沢大坂町 陣屋御用 大石酒店、(底部) 底部鉢 「香山」			4/5
61-372	遺構 1	利	剥版転写	26	5.2	15.8	最大径 6.8	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	人物 鳥 風景	相州藤沢大坂町 陣屋御用 大石酒店、(底部) 底部鉢 「香山」			4/5
61-373	遺構 1	利	手書き	(3.2)	—	(2.8)	最大径 —	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	外面 純文				口縁部 片
61-374	遺構 1	利	手書き	(24)	—	(2.0)	最大径 —	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	外面 文様不明				口縁部 小片
61-375	遺構 1	利	無文	—	6.0	(2.0)	最大径 —	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土		底部鉢「乾山精製」			底面部
61-376	遺構 1	利	吹墨	—	6.9	(4.0)	最大径 —	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土		底部鉢「不明」			底面部
61-377	遺構 1	利	剥版転写	—	(6.0)	(4.4)	—	黒化コバルト：透 明釉・白色胎質土	文様不明				底面部
61-378	遺構 1	利	手書き	長 (4.0)	幅 (3.1)	厚 (0.2)	—	金彩・透明白	金彩・透明白	脚部鉢「■長谷」			脚部少 片
61-379	遺構 1	利	手書き	—	3.7	(2.5)	最大径 —	緑色・朱・緑・灰 色・透明白	外面 7条の蘭				底面部少 片
61-380	遺構 1	利	色絵	—	2.6	(9.8)	最大径 4.0	緑色・朱・緑・灰 色・透明白	外面 文様不明				3/4
61-381	遺構 1	利	色絵	—	—	(5.3)	胴部径 1.4	金彩・朱・緑・黄 色・透明白	外面 文様不明				脚部片

器 番号	出上 道機	器種	繪付け方 法	注意			絵料：釉色調：焰 土	技法／文様／その他	参考	新定生産地	新定年代	遺存状
				口径	底径	器高						
62-382	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	2.8 (3.8)	8.9	最大径 103	鉄輪：灰輪：黄灰 色焰土		胴部輪：「長谷」〔外款〕			完形
62-383	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	3.4	—	—	鉄輪：灰輪：黄灰 色焰土		胴部輪：不明			口縁～ 胴部片
62-384	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	長 (8.4)	幅 (6.7)	厚 (0.4～ 0.6)	鉄輪：灰輪：灰色 焰土		胴部輪：不明			胴部片
62-385	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	長 (6.9)	幅 (6.5)	厚 (0.4～ 0.5)	鉄輪：灰輪：灰色 焰土		胴部輪：不明			胴部片
63-386	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	3.7 (4.0)	8.3	最大径 87	鉄輪：灰輪：黄灰 色焰土		胴部輪：「長谷」〔外款〕			完形
63-387	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	長 (3.7)	幅 (4.5)	厚 (0.7)	鉄輪：白色：灰輪： 灰焰土		胴部輪：不明			胴部少 片
63-388	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	長 (3.8)	幅 (6.5)	厚 (0.6)	鉄輪：灰輪：灰色 焰土		胴部輪：不明			胴部少 片
63-389	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	長 (3.1)	幅 (6.2)	厚 (0.6)	鉄輪：白色：灰輪： 灰焰土		胴部輪：不明			胴部少 片
63-390	道機 I	鉢	手描き・ 鉄輪	長 (3.5)	幅 (5.3)	厚 (0.6)	鉄輪：白色：灰輪： 灰焰土		胴部輪：不明			軸～胴 部片
63-391	道機 I	鉢	手描き	—	(8.0)	(5.3)	鉄輪：灰焰土					底部片
64-392	道機 I	皿	手描き	14.1	6.0	27	全彩：透明輪：灰 色焰土	口縁部・内面：團扇 紋：文様不明　底部：ハ マ柄有り		日本製か	明治～大正	3/4
64-393	道機 I	皿	手描き	14.3	8.6	21	全彩・緑：透明輪： 灰白色焰土	高台見込みに團扇 紋：文様不明　底部：ハ マ柄有り	高台見込みに團扇 紋：文様不明　底部：ハ マ柄有り	輸入品？	明治～大正	はは完 形
64-394	道機 I	皿	手描き	12.0	6.8	20	朱・青・黃色・緑： 透明輪：白色焰土	内面：蒸文　足付きハ マ柄あり	底部日本被質陶器株式会 社社印		明治～大正	4/5
64-395	道機 I	皿	手描き	12.9	6.9	21	黒化コバルト：透 明輪：白色焰土	内面：植物文・飛雲文 團扇 外面：飛雲文・團 扇 高台付輪露筋	高台見込み：角鉢	團扇美濃？	明治前半	4/5
64-396	道機 I	皿	手描き	12.2	5.7	23	黒化コバルト：透 明輪：白色焰土	内面：團扇・筆・足込み の内文中に四角の区画。 外側：宝文・團扇 高台 付輪露筋	内面見込み：「高■（第 カ？）」「筆」	團扇美濃	明治前半	完形
64-397	道機 I	皿	手描き・ 吹墨	(12.1)	(6.8)	20	黒化コバルト：透 明輪：白色焰土	内面：口縁部に明青色と 黒色の波形文 内面見込 み・吹墨 外面：團扇 高台付輪露筋		不明		1/3
64-398	道機 I	杯	手描き	(10.9)	(5.9)	45	明青色・黒色：透 明輪：白色焰土	内面：口縁部に明青色と 黒色の波形文 内面見込 み・吹墨 外面：團扇 高台付輪露筋		不明		1/3
64-399	道機 I	皿	白磁	9.0	4.9	18	透明輪：白色焰土	透明輪：白色焰土 無文		不明		口縁～ 成都小 片
64-400	道機 I	ソーサー	白磁	14.2	9.0	20	透明輪：白色焰土	内面：無文 高台付輪 露筋		肥前？	明治～大正	はは完 形
64-401	道機 I	ティーカップ グ	白磁	9.4	4.4	49	透明輪：白色焰土	透明輪：白色焰土 内面：無文 取手付 輪露筋		不明		2/3
64-402	道機 I	マグカップ	白磁	8.6	7.9	88	淡青色輪：白色焰 土	内面：無文 取手付 輪露筋				完形
65-403	道機 I	植木鉢	網版転写	(29.0)	—	—	黒化コバルト：透 明輪：白色焰土	内面口縁部：植物文 (唐 草文？) 内面：竹文				口縁部 片
65-404	道機 I	植木鉢	手描き	(18.7)	—	(9.5)	黒化コバルト：透 明輪：透明輪：白	口縁部：網版現に着色 外面：風景画 内面露筋 色焰土：白				口縁部 片
65-405	道機 I	植木鉢	型紙捺繪	(17.5)	—	(5.0)	黒化コバルト：透 明輪：白色焰土	口縁部：黒化コバルトで 青色輪：白色焰土 内面：墨文		肥前	明治～大正	口縁部 片
65-406	道機 I	植木鉢	型紙捺繪	(14.2)	—	—	黒化コバルト：透 明輪：白色焰土	物文 (ススキ文)				口縁部 片
65-407	道機 I	植木鉢	手描き	長 (3.0)	幅 (5.0)	厚 (0.5)	黒化コバルト：透 明輪：白色焰土	内面：一部黒化コバルト で着色。施露筋 外面： 黒化コバルトで文字	銅部輪：判読不能			銅部片
65-408	道機 I	植木鉢	—	—	(9.5)	—	透明輪：白色焰土	外側無地 内面：外族部 露筋				底部片
65-409	道機 I	灯明皿	フケガケ	8.2	(3.1)	20	白色：透明輪：白	内面：無文 底部露筋				3/4
65-410	道機 I	台付灯明受	皿	外径 7.5,	5.4	54	白色：透明輪：白	内面：無文 底部、受 け部露筋				はは完 形

国 番号	出土 遺物	器種	給付け方 法	法縫			綴料・袖色調・紺 土	技法・文様・その他	備考	推定生産地	推定年代	遺存度
				口径	底径	器高						
65-411	遺構 1	機械栓		Ø 2.6		3.3	透明感：白色粘質 土	栓頭部に鉄錐が貫通				
65-412	遺構 1	機械栓		Ø 2.8		3.3	透明感：白色粘質 土	栓頭部に鉄錐が貫通				
65-413	遺構 1	機械栓		Ø 2.6		3.1	透明感：灰白色粘 質土	栓頭部に孔 貫土				
65-414	遺構 1	機械栓		Ø 2.6		2.6	透明感：白色粘質 土	栓頭部に鉄錐が貫通 株 底部にゴム				
65-415	遺構 1	機械栓		Ø 2.5		2.5	透明感：白色粘質 土	栓頭部に鉄錐が貫通				完形
65-416	遺構 3	機械栓		Ø 2.5		2.6	透明感：白色粘質 土	栓頭部に鉄錐が貫通 株 底部にゴム				完形
65-417	遺構 3	機械栓		Ø 2.2		2.2	透明感：白色粘質 土	栓頭部に鉄錐が貫通 株板 部はゴム				完形
65-418	遺構 1	機械栓		Ø 2.6		2.7	透明感：白色粘質 土	栓頭部に鉄錐が貫通 補強 は破損の跡か直角気 味				
66-419	遺構 1	鋸か		11.8	4.8	6.1	鉄錐：黄緑：灰白 色粘質土	外面：曲面を意識した筋 形 曲げ物の腹側の部分 を鉄錐で表現している				4/5
66-420	遺構 1	变形碗	鋼板転写	10.2	5.1	4.6	簡化コバルト：茶 褐色・透明感：白 色粘質土	器形：片口には変形 外 高台路：「大日本柏山製」 裏手：高台置付蓋 取手と見しきれ口 あり	裏手の み欠損	裏手の み欠損		
66-421	遺構 1	手縫瓶	手縫き・ 吹墨	長 8.1	底径 6.3	2.5	簡化コバルト：茶 褐色・透明感：白 色粘質土	内面：不明 外面：豊作 し・文様不明 外底露 出：豊作	底部：豊作	裏手の み欠損	ほぼ完 形	
66-422	遺構 1	壺	白緑	(4.8)	-	-	透明感：白色粘質 土	器形：豊作口唇部：露 出				1/2
66-423	遺構 1	不明品	色船	縦 (3.4)	横 (1.8)	厚 (0.3)	赤・緑・透明感： 白色粘質土	外面：赤で縁取り 一部 露む				小片
66-424	遺構 1	壺	手縫き	(13.2)	-	-	簡化コバルト：薄 紅色・緑色・白色・ 透明感：白色粘質 土	内外面：植物文 内外面：薄紅色				口縫部 片
66-425	遺構 1	堆瓦	手縫き・ イッテン	8.6	-	-	暗灰・褐色・緑 灰色・透明感・灰 色粘質土	内面：支撑不明 口唇部： 緑灰色で染り				口縫部 小片
66-426	遺構 1	袋物		-	-	(2.8)	白色：白色粘質 土	内外面：無文 内底露 出				口縫部 小片
66-427	遺構 1	合子	手縫き	-	-	(1.4)	緑色・薄紅色・褐 色・茶色・透明感・ 白色粘質土	外面：植物文 口唇部： 褐色				口縫部 小片
66-428	遺構 1	合子	手縫き	(蓋) 7.6 (身) 6.9	1.6 3.0	7.6	簡化コバルト：透 明感：白色粘質土	(蓋) 外面：植物文と文 字（身）開襻・枝葉 文（蓋）（身）内面： 無文	侧面 [■■寺桃]	裏口尖底？		完形
66-429	遺構 1	合子		蓋 6.0 身 4.8	3.2	2.2	緑色・紫色・透 明感：白色粘質土	器形：リンゴのような形 内外面：無文				ほぼ完 形
66-430	遺構 1	合子		(身) 8.9	-	-	白色：白色粘質 土	内外面：無文 口唇部一 部露む				1/4
66-431	遺構 1	器種不明		口 4.5 身 9.1	最大径 底径 8.0	-	白色：白色粘質 土	内外面：無文 口唇部一 部露む				1/2
66-432	遺構 1	器種不明		7.5	6.2	8.2	クロム・灰白色： 白色粘質土	内面：灰白色に着色 口 縫部露む 外面：クロム 青緑				ほぼ完 形
66-433	遺構 1	器種不明			8.5	(1.4)	白色：白色粘質 土					底部の み
66-434	遺構 1	蓋物	ツケガケ 巻り？	(蓋) □ 12.7 (把手) 長 6.1 (身) 13.8 幅 0.9 ~ 2.0 (4.1)	(蓋) 12.7 最高 4.2 (把手) 高 1.2 (身) 13.8 幅 0.9 ~ 2.0 (4.1)	(底) 14.4 高 1.2 (把手) 高 1.2 (身) 13.8 幅 0.9 ~ 2.0 (4.1)	白色・灰緑：透明 感：白色粘質土	器形：蓋と身に分かれる 蓋・身とも口縫部無 内面：無文、白色、外面： 緑釉の上に淡黄色の釉				2/3
67-435	遺構 2	此糞鉢	手縫き	-	-	-	簡化コバルト：透 明感：白色粘質土					小片
67-436	遺構 1	壺	ツケガケ か	最大径 9.2	8.6	21.4	灰灰色粘 質土	貫入りあり 内面露 出：部孔が空たれてい る				完形
67-436	遺構 1	花生	ツケガケ か・手縫 き・鉄錐	7.1	6.8	10.0	最大径 10.0	鉄錐：灰色：黃 灰色粘質土	内外面：施錐 内面：無 文 外面：竹文、貫入あ り 鮎付露む			4/5
67-437	遺構 1	花生	ツケガケ か	長 4.6 幅 5.6	-	(10.2)	クロム・透明感： 白色粘質土	内外面：無文 内面：白 色 外面：クロム				1/3

国 番号	出土 場所	器種	耐材け方 法	法量			細料: 柄色調: 耐 土	技法 / 文様 / その他	備考	推定生産地	推定年代	進度
				口径	底径	器高						
67-438 遺構 1	船具入れ		横 20	縦 0.9	0.9		透明軸: 白色粘質 土	内面外: 無文 外底部: 刮削 内面に有機物付着	外底削削: [W&N LONDON]			完形
67-439 遺構 1	羊革器		10.6	8.9	2.8		透明軸: 白色粘 質土	透明軸: 白色粘質 土 が墨画のリーフ 裝飾 内面: 手が握った感じ 様子物質が残る	外底削削、外底全体 外底削削不能			完形
67-440 遺構 1	戸車		外径 4.4	内径 1.3	厚 0.8		透明軸: 白色粘 質土	側面のみ施釉、施薙筋 中央部に孔が穿たれてい る				完形
67-441 遺構 1	戸車		外径 3.5	内径 1.0	厚 0.7		透明軸: 白色粘 質土	側面のみ施釉、施薙筋 中央部に孔が穿たれてい る				完形
67-442 遺構 1	栓	鍍版軸写	Ø 3.2		2.7		黒色 透明軸: 白 色粘質土	天端に山笠型 上部のみ 施釉、下部露胎				ほぼ完 形
67-443 遺構 1	栓		Ø 3.2		2.3		透明軸: 白色粘質 土	上部のみ施釉、下部露胎				完形
67-444 遺構 1	舟子	鍍版軸写	幅 5.3	厚 3.5	(4.2)		赤緑色: 透明軸: 白色粘質土	翌作より 下端面露胎 前 標マーク 文字を赤緑色 で出す	商標マーク 銘辯文字 [PAT.504625]			4/5
67-445 遺構 1	舟子		上端径 3.6 下端径 3.4		6.2	最大径 7.0	透明軸: 白色粘質 土	上端面露胎				4/5
67-446 遺構 1	舟子	ツケガケ か	上端径 2.8 下端径 3.2	孔径 1.0	4.8		透明軸: 白色粘質 土	下端面露胎				完形
67-447 遺構 1	錫つまみ	ツケガケ か	長 2.35	つまみ 径 2.2			透明軸: 白色粘質 土	組器類小型円形容つまみ下 部に斜削の接続全形あり				完形
67-448 遺構 1	荷賀 (中)	ツケガケ か	径 1.4	中空径 0.8	長 (10.2)		透明軸: 白色粘 質土	中空管表面から中空内に 施釉 表面露胎				ほぼ完 形
67-449 遺構 1	荷賀 (中)	ツケガケ	径 1.4	中空径 0.8	長 (8.6)		透明軸: 白色粘 質土	中空管表面から中空内に 施釉 表面露胎				ほぼ完 形
67-450 遺構 1	荷賀 (中)	ツケガケ	径 1.4	中空径 0.75	長 (8.1)		透明軸: 白色粘 質土	中空管表面から中空内に 施釉 表面露胎				2/3
67-451 遺構 1	荷賀 (中)	ツケガケ	径 1.4	中空径 0.75	長 (7.6)		透明軸: 白色粘 質土	中空管表面から中空内に 施釉 表面露胎				2/3
67-452 遺構 1	荷賀 (中)	ツケガケ	径 1.1	中空径 0.6	長 (7.3)		透明軸: 白色粘 質土	中空管表面から中空内に 施釉 表面露胎				2/3
67-453 遺構 1	荷賀 (太)	ツケガケ	径 1.8	中空径 1.1	長 (7.2)		透明軸: 白色粘 質土	表面の一部から中空内に 施釉 表面露胎				1/2
68-454 遺構 1	鉢	手描き	(16.4)	-	-		金彩: 磁化コバル ト・赤: 透明軸: 白色粘質土	内面: 不明文様 外面: 植物・鳥	済州美濃?			口縁部 片
68-455 遺構 1	向日葵舟	色絵・イッ チン	6.3	-	-		金彩: 磁・茶褐色 黄: 透明軸: 白 色粘質土	外表面: 植物文 外面口縁 部: 茶褐色で朱り				口縁部 片
68-456 遺構 1	高台杯	色絵	-	2.8	8.0		磁化コバルト・赤: 緑色・緑色・桃色 金彩: 透明軸: 白 色粘質土	外表面: 山本文・花 付根 葉山脚片 山容客■ 根■上落方 半面目■ 半身之聲■	内面磁刻文字による漢詩			完形
68-457 遺構 1	高台杯	色絵	-	2.8	-		赤・緑・黄: 透 明軸: 白色粘質土	外表面部: 色の織羅に を朱色に朱り、緑色で点 文 外底露胎				底面部
68-458 遺構 1	鉢?	手描き	-	5.0	-		磁化コバルト・赤: 透明軸: 白色粘質 土	内面: 無文 外面: 離河 学文・達舟・植物文 高台 杯露胎				底面部
68-459 遺構 1	皿	色絵	-	-	-		赤: 透明軸: 白 色粘質土	口縁部内外: 赤色で緑染 外底露胎				口縁部 片
68-460 遺構 1	不明品	色絵	(10.6)	-	-		金彩: 磁・茶褐色 淡青色軸: 白色粘 質土	内面: 植物文				口縁部 小片
68-461 遺構 1	瓶?	手描き	-	6.7	-		赤褐色: 透明軸: 白色粘質土	外表面: 茶褐色の織羅 高 台杯露胎				底面部
68-462 遺構 1	器?	手描き	(5.0)	(4.8)	2.7		赤褐色: 透明軸: 白色粘質土	外表面: 植物文 底部と口 部: 金彩				1/3
68-463 遺構 2	伝承器	色絵	(5.4)	-	-		赤褐色: 透明軸: 白色粘質土	外表面: 図案: タコ吹草 口部: 金彩				口縁部 片
68-464 遺構 1	皿	手描き					金彩: 磁柄: 白 色粘質土	内面: 色: 春秋 吹草: 春秋吹奏: 古楽的 か?	中國製朝鮮 小片	18~19世紀		底面部

国 番号	出土 場所	器種	絵付け方 法	法華			絵料・色彩調：胎 土	技法／文様／その他	備考	指定生産地	指定年代	進年度
				口径	底径	器高						
68-465	道場1	輪花鉢	染付+色 絵	14.8	5.7	4.8	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	輪花型口縁部： 虫喰い：内面：(壓押し) 花は少：内面足込み中 央：無草文	豊應期 末～	江戸初期 (1590～ 1630)	残存 80%	
68-466	道場1	器蓋	手描き	10.4	-	3	ツマミ透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	ツマミ既：「乾」(清乾既 より)、井をアレンジした 碗、珍しい器形	有田	1820～1860	4/5
68-467	道場1	器蓋	手描き	9.5	-	3	ツマミ透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	高麗の花：透付き蓋筋 高麗文：團羅、透付き蓋筋 中央：対読不識文字	肥前 or 西 明治期	4/5	
68-468	道場1	器蓋	手描き	長(5.2)	幅(3.0)	厚(0.4)	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：松竹梅、外 面：高台路：「貴」有田窯各 本	有田	1820～1860	底部片
68-469	道場1	筒形湯呑	手描き	長(4.2)	幅(3.5)	厚(0.5)	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：團羅、内面足込み 中央：対読不識文字、外 面：五介蓮、團羅、登付 蓋筋	肥前	1780-1820	底部小 片
68-470	道場1	皿	手描き	-	(4.4)	-	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	外輪：慈子文 高台山形 登付蓋筋	肥前	1780～19 世紀第1四 半期	底部片
68-471	道場1	碗?	手描き	長(2.6)	幅(2.4)	厚(0.4)	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：團羅、外輪：竹葉 青色：透明釉：白 色胎質上	肥前系	18世紀後半	口縁部 小片
68-472	道場1	皿	手描き	長(3.3)	幅(3.3)	厚(0.7)	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：麗子(みじん)唐 青色：透明釉：白 色胎質上	有田	19世紀初期 または後半	脚部少 片
68-473	道場1	瓶、物詰	手描き グミ	長(2.0)	幅(2.9)	厚(0.3)	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	外輪：苔草	有田	17世紀後～ 18世紀初	脚部少 片
68-474	道場1	他判	手描き	長(2.3)	幅(3.3)	厚(0.4)	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	外輪：一筆つまご苔草	肥前	江戸後期、 18世紀末～ 幕末	小片
69-475	道場1	蓮華	銅版転写	長(7.1)	幅(4.9)	底部長径 3.7	厚0.6～ 0.3	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：花・苔草、底部露 出			2/3
69-476	道場1	蓮華	銅版転写	長(8.1)	高(2.8)	幅3.7	底部長径 4.0	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：植物文(菊)、底 部露筋			2/3
69-477	道場1	蓮華	銅版転写	長(5.3)	幅(2.7)	厚0.4	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：植物文(松竹梅) 底部露筋			1/4
69-478	道場1	蓮華	銅版転写	長11.0	幅4.7	厚0.5	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：植物文、底部露筋 青色：苔灰色：明 青色胎質上			完形
69-479	道場1	蓮華	銅版転写	長(12.0)	幅3.1	底部長径 4.2	厚0.5～ 0.3	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	内面：植物文(松竹梅) 柄：植物文、底部露筋			2/3
69-480	道場1	蓮華	銅版転写	長(6.9)	幅2.2	厚0.5～ 0.3	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	柄：植物文			1/3
69-481	道場1	蓮華	銅版転写	長(7.4)	幅2.7	厚0.2	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	柄：植物文			1/3
69-482	道場1	蓮華	手描き	長(4.8)			多色：透明釉：白 色胎質上	多色：透明釉：白 色胎質上	内面：植物文(牡丹) 底部露筋			
69-483	道場1	土匂	手描き	4.4	4.4	4.2	厚0.2～ 0.1	輪輪・緑・金線 白色：黄灰色胎質 上	型成形：口縁部：白色と 金彩、外輪：秋草文、絞 筋による墨書き(褐色)	ミニチュア		1/2
69-484	道場1	?	色絵	(3.0)	(2.4)	3.7	朱・菊・青・黃 色：透明釉：白 色胎質上	口沿部：朱色で絞織り 外輪：植物文、外底部露 筋	ミニチュア			1/3
69-485	道場1	环	銅版転写	4.2	1.4	1.8	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	外輪：花蝶文	ミニチュア		完形
69-486	道場1	环	銅版転写	4.2	1.8	1.9	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	外輪：花蝶文	ミニチュア		完形
69-487	道場1	碗	色絵	3.8	1.8	2.2	金彩・朱・緑・透 明釉：白色胎質上 面	金彩・朱・緑・透 明釉：白色胎質上 面	外輪：花か?	ミニチュア		ほぼ完 形
69-488	道場1	环	色絵	3.6	1.7	1.9	赤葉輪・緑・透 明釉：白色胎質上 面	赤葉輪・緑・透 明釉：白色胎質上 面	器形：六角形 外面：文 字 口縁部：赤褐色で緑 健	ミニチュア		完形
69-489	道場1	环	色絵	3.2	1.5	1.7	朱・緑・透 明釉：白色胎質上 面	朱・緑・透 明釉：白色胎質上 面	外輪：花文	ミニチュア		18世紀 後
69-490	道場1	段重	色絵	底4.2	横4.2	高1.9	金彩・朱・緑・透 明釉：白色胎質上 面	金彩・朱・緑・透 明釉：白色胎質上 面	外輪：花文	ミニチュア		残存 90%
69-490	道場1	段重	色絵	底4.2	横4.2	高1.7	朱・緑・透 明釉：白色胎質上 面	朱・緑・透 明釉：白色胎質上 面	外輪：花文	ミニチュア		2/3
69-491	道場1	段重	銅版転写	縱(4.6)	横(4.7)	高(1.0)	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	酸化コバルト：透 明釉：白色胎質上 面	外輪：唐草文	ミニチュア		1/4
69-492	道場1	段重	色絵	縱(4.1)	横(4.0)	高(1.7)	金彩・青・緑・透 明釉：白色胎質上 面	金彩・青・緑・透 明釉：白色胎質上 面	外輪：文様不明	ミニチュア		1/4

件 番号	出土 遺跡	器種	黏付け方 法	注意			材料: 色色調: 組 土	技法: 文様・その他の 特徴	参考	検定生産地	検定年代	進存度
				口径	底径	器高						
69-493 遺跡 1	段塗	色絵?	縦 (4.0) 横 (4.0) 高 (1.3)				朱色? 透明釉: 白色粘質土	外側: 四隅に装飾の横縞 有り	ミニチュア			1/2
69-494 遺跡 1	■	色絵	6.2	3.0	1.0		多色: 透明釉: 白 口唇: 邪魔褐色 器形: 色粘質土 菊花型の彫り 内面: 草 文様	口唇: 邪魔褐色 器形: 色粘質土 菊花型の彫り 内面: 草 文様	ミニチュア			完形
69-495 遺跡 1	■	手焼き	(上部) 縦 5.7 横 5.7	(底面) 縦 4.2 横 4.0	高 4.7		焼化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外側: 花文文 口部 4 個の 内 3 面にハート型の窓有 び付き面飾	ミニチュア			ほぼ完 形
69-496 遺跡 1	火鉢	手焼き	4.1	4.1	3.6		金彩: 朱・緑色? 透明釉: 白色粘質土	外側: 花文 底部露胎	ミニチュア			完形
69-497 遺跡 1	鳥居	色絵	幅 (5.6)	厚 (1.0)			朱色・黒・黄色・ 金彩: 透明釉: 白 色粘質土		ミニチュア 中央部: 「正 一」			
69-498 遺跡 1	絵具瓶?		縦 (2.9)	横 (2.0)	厚 (0.7~ 0.4)		透明釉: 白色粘質 土	外側面: 無文	ミニチュア 底部露胎: 「小鉢光堂」			
69-499 遺跡 1	墨壺		長 (6.4)	幅 4.0	厚 0.5		クロム: 白色粘質 土	外底部: 墨壺 底部露胎 有	ミニチュア。底部に墨壺 有			1/2
69-500 遺跡 1	墨壺	手焼き	長 (7.0)	幅 2.4	厚 0.5		焼化コバルト: 透 明釉: 白色粘質土	外側面: 植物文 底部露 胎有	ミニチュア。底部に露胎 有			ほぼ完 形
69-501 遺跡 1	片口鉢		口 3.5 底大径 3.9	底 2.0	高 1.7	底:	銀: 黄色釉: 底白 色粘質土	外側面: 無文 内面: 色粘質土	ミニチュア。陶器			完形
69-502 遺跡 1	片口鉢		口 ~ 底大径 ~	底 1.3	高 (0.9)	銀:	黄褐色釉: 白灰色 粘質土	底裏のこぶ 底部の一部、底部 黄色の着色 外底部 露胎 有	ミニチュア。陶器			成都片
69-503 遺跡 1	器	垂り	長 (3.5)	幅 (2.8)	厚 (0.2~ 0.3)		銀輪: 黄色粘質 土	底裏形容: 角型 内面: 銀文文 底部露胎	ミニチュア。陶器			1/3
69-504 遺跡 1	器		口幅 縦 4.0 横 4.0		厚 0.7~ 0.3		淡茶褐色粘質土	底部: 孔。内面: 銀波 状	ミニチュア。土器			4/5
70-505 遺跡 3	タイル		縦 14.8	横 14.8	厚 1.0		白色釉: 白色粘質 土	表面以外施釉、貫入有 表面に凸筋、露胎	表面露胎「STONBOO 」、面標マーカー、 [N.T.K.TILE-WORKS]			完形
70-506 遺跡 3	タイル		縦 14.8	横 14.8	厚 0.9		白色釉: 白色粘質 土	表面以外施釉、貫入有 表面に凸筋、露胎、露 胎の上から露胎で「4」と 書かれている	表面露胎「MADE IN JAPAN」、面標マーク、 [N.T.K.TILE-WORKS, 露胎で「4」]			完形
70-507 遺跡 3	タイル		縦 14.8	横 14.8	厚 0.9		白色釉: 白色粘質 土	表面以外施釉、貫入有 表面に凸筋、露胎	表面露胎「TONBO 3」、 面標マーク、「赤矢印」、 [N.T.K.TILE-WORKS]			完形
71-508 遺跡 3	タイル		縦 15.4	横 15.4	厚 0.9		白色釉: 白色粘質 土	表面以外施釉、貫入有 表面に凸筋、露胎	表面露胎「THE SATO」、面標マーク、 [TILE WORKS] (赤番 工室)			ほぼ完 形
71-509 遺跡 3	タイル		縦 15.0	横 15.0	厚 0.9		白色釉: 白色粘質 土	表面以外施釉、貫入有 表面に凸筋、露胎	表面露胎「YOKKAICHI JAPAN」、面標マーク、 [KAWAMURAGUMI] (川村組)			完形
71-510 遺跡 3	タイル		縦 9.8	横 15.1	厚 1.0		白色釉: 白色粘質 土	表面以外施釉、貫入有 表面に凸筋、露胎	表面露胎「YOKKAICHI JAPAN」、面標マーク (川 村組)			1/2

表6 近代遺構出土陶器觀察表 (単位: cm)

図版 番号	出土 遺構	器種	給付 技法	法量			組料: 褐色調: 灰 土	模法 / 文様 / その他	備考	想定 生産地	想定 年代	遺存度
				口径	底径	器高						
72-1	遺構 I	鉢		14.3	7.5	5.7	褐色系: 灰白色粘 土質土	青付露胎				4/5
72-2	遺構 I	小杯	色絵	8.4	3.8	4.6	金彩・多色: 褐色系: 灰白色粘質土	外面: 鎌馬文 貫入 付胎 筋	高台見込み箇所: ④■■ (赤 字)、銅鏡底: ⑤鎌馬 (赤 字)			4/5
72-3	遺構 I	小杯		(7.6)	(3.6)	3.7	白色系: 灰白色粘 土質土	外面: 無文 付胎露胎				1/2
72-4	遺構 I	小杯	手焼き・ イッヂン	8.2	3.5	4	青・白・褐色・茶色: 灰白色系: 灰色粘質 土	外面: 植物文 付胎露胎				ほぼ完形
72-5	遺構 I	小杯	手焼き・ イッヂン	8.4	3.4	4	青・白・褐色・茶色: 灰白色系: 灰色粘質 土	外面: 植物文 付胎露胎				2/3
72-6	遺構 I	小杯	手焼き・ イッヂン	8.2	3.3	4.1	青・白・褐色・茶色: 灰白色系: 灰色粘質 土	外面: 植物文 付胎露胎				1/2
72-7	遺構 I	小杯	手焼き	7.8	3.8	3.9	青・灰綠色・褐色: 灰綠色系: 白色粘質 土	外面: 植物文 (鉛) 付胎露胎				ほぼ完形
72-8	遺構 I	小杯	手焼き・ イッヂン	8.2	3.6	4.3	青・灰綠色・褐色: 白色: 灰 色粘質土	外面: 植物文 付胎露胎				ほぼ完形
72-9	遺構 I	小杯	手焼き	8	3.6	4.5	青・緑灰系: 褐色系: 灰白色粘質土	外面: 文様不明				1/2
72-10	遺構 I	小杯	手焼き・ イッヂン	8.2	3.7	4.9	青・白・褐色: 黃 色: 灰色粘質土	外面: 植物文 外面高台部: 圓錐 貫入 付胎露胎				2/3
72-11	遺構 I	小杯	手焼き・ イッヂン	8.2	3.9	4.6	緑褐色・褐色・白色: 灰白色系: 灰色粘質 土	外面: 植物文 付胎露胎				ほぼ完形
72-12	遺構 I	小杯	手焼き・ イッヂン	7.6	3.1	4.2	白色・灰白色・白色: 灰白色粘質土	内面: 白色 贏入 外面: 文 様不明 付胎露胎				2/3
72-13	遺構 I	小杯	手焼き	8	4	4.7	青・灰褐色・白色: 灰白色系: 灰色粘質 土	内面: 灰褐色 贠入 有 付胎露胎				1/3
72-14	遺構 I	小杯	手焼き	9	4.4	4.8	青・白・綠・灰綠 色・茶色: 灰褐色: 灰白色粘質土	外面: 植物文 口沿部: 茶色 付胎露胎				4/5
72-15	遺構 I	小杯	手焼き	7	3.6	5.6	青・褐色・灰綠色: 白色: 灰白色粘質 土	内面: 負入 外面: 文様不明 口沿部: 帽褐色 付胎露胎				1/3
72-16	遺構 I	筒形湯呑	手焼き	7.2	5	8.6	褐色・棕褐色: 褐色系: 灰白色粘質土	外面: 植物文 (叢葉) 内外面: 負入 付胎露胎				1/4
72-17	遺構 I	筒形湯呑	手焼き	6.2	4.3	6.9	褐色: 褐色系: 黄白 色粘質土	外面: 口縁・側部褐色ボカシ 内外面: 負入 付胎露胎	廻口美 濃?			4/5
72-18	遺構 I	筒形湯呑	手焼き	5.9	3.8	6.2	褐色: 黄褐色: 黄白 色粘質土	外面: 口縁・側部褐色ボカシ 内外面: 負入 付胎露胎	廻口美 濃?			4/5
72-19	遺構 I	湯呑	壓押し型	5.44	4	6.1	灰綠色・灰白色粘 質土: 黒鉛(少) 灰白色粘質土	内面: 負入 底部に壓痕目 付胎露胎	外底部: 「相馬」 相馬			1/3
72-20	遺構 I	湯呑	壓押し型	-	-	-	灰綠色: 灰白色粘 質土: 黑鉛(多) 灰白色粘質土	内面: 負入	相馬	口縁部小 片		
72-21	遺構 I	湯呑	手焼き	-	-	-	褐色: 淡黃褐色: 白色粘質土	内面: 文様不明 付胎露胎		口縁部小 片		
72-22	遺構 I	盃	手焼き	-	2.8	-	暗褐色・綠色: 淡 褐色白色: 白色粘質 土	内面: 文様不明 付胎露胎			底部片	
72-23	遺構 I	両支口	手焼き	6.8	4.2	5.8	暗褐色: 灰綠色: 灰白色粘質土	内面: 負入 外面: 文様不 明 付胎露胎				1/2
72-24	遺構 I	両支口	手焼き・ イッヂン ・吹墨	7.0	3.4	5.5	青・白・灰褐色: 灰白色系: 灰色粘質 土	内面: 口縁 外面: 文様不 明 付胎露胎				2/3
72-25	遺構 I	両支口	手焼き	(7.2)	(4.1)	4.9	新褐色: 灰白色: 灰白色粘質土	内面: 蓋身 内底: 負入 付 胎露胎				1/3
72-26	遺構 I	鉢?		(6.6)	-	(1.9)	黄褐色: 灰色粘 質土	内面: 植物文 付胎露 胎			底部分	
73-27	遺構 I	小鉢		14.3	14.5	5.0	新褐色: 茶褐色: 灰白色粘質土	内面: 植物文 底部露 胎				1/3
73-28	遺構 I	盃?		-	-	4.3	暗褐色系: 淡黃褐色: 灰色粘質土	内面: 植物文 内面口 緣部以外露胎			小片	
73-29	遺構 I	鉢		8.1	8.4	3.1	新褐色系: 褐色粘 質土	内面: 植物文 外底部 露胎				1/4

調査 番号	出土 遺構	器種	組付け 技法	法華			細部：輪色・筋 質	技法／文様／その他	備考	測定 生産地	測定 年代	測定 深度
				口径	底径	器高						
73-30	遺構 I	猪子?		(54)	(40)	27	系色輪：灰白色粘質土	内外面：施釉、無文、外底部露胎			1/5	
73-31	遺構 I	蓋物	手描き・イッパン	(112)	70	55	緑・褐色（外面） 灰白色（内部・外部底込み）：灰白色粘質土	外面：文様不明 外面部脚部下部：開窓 口縁部・呑付露胎			3/4	
73-32	遺構 I	杯		87	48	29	黄褐色輪：灰白色粘質土や粗土	内外面：施釉 内底：壓押し			4/5	
73-33	遺構 I	不明		-	-	(38)	灰白色輪：灰黄色粘質土	内外面：施釉、無文		口縁部片		
73-34	遺構 I	不明		-	-	-	黄褐色輪：灰白色粘質土	内外面：施釉、無文		口縁部小片		
73-35	遺構 I	不明		-	-	(40)	明系色輪：赤茶色粘質土	内外面：施釉、無文		口縁部小片		
73-36	遺構 I	向付	手描き	-	-	40	暗褐色：深灰褐色 灰白色粘質土や粗土	内外面：施釉、外底：文様不明 底部露胎		口縁・底部の一部残存		
73-37	遺構 I	慈利		(32)		(22)	雨点色輪：赤茶色粘質土	内外面：施釉、無文		口縁部小片		
73-38	遺構 2	批判		-	-	-				底部少片		
73-39	遺構 I	批判?		(82)	(12)	-	灰青色輪：淡黄色 粘質土や粗土	外面：文様不明 外底部内底： 露胎 内面：輪タテ				
73-40	遺構 I	批判?		-	(104)	(35)	無輪：暗灰白色粘質土	淡黃褐色の素地で無輪		底部少片		
73-41	遺構 I	仏頭器?		-	48	(38)	環状輪：灰白色粘質土	内面・外底部露胎		底部片		
73-42	遺構 2	不明	上絵色輪	-	-	-	緑色・若灰・白	外面：着色 施釉で全体露胎 内底：灰白色粘質土		残存率不明		
73-43	遺構 I	不明		-	-	-	暗褐色・青・白 白色輪：灰白色 土黒色粒状物	全体施釉		残存率不明		
73-44	遺構 I	不明		-	-	21 厚10	段状～黄色輪：淡 黄褐色粘質土	内外面：施釉、無文		残存率不明		
73-45	遺構 I	不明				(14)	緑輪：淡黄色粘質土	内外面施釉、底の文様か		残存率不明		
73-46	遺構 I	蘿草		長128	幅(5.4)	4.4	黄輪：淡黄色粘質土	内外面：施釉 内面：壓押し			4/5	
73-47	遺構 I	蘿草		長(8.1)	幅(6.0)	(2.7)	レモン色輪：淡黃 色粘質土	内外面：施釉 内面：壓押し			2/3	
73-48	遺構 I	蘿草		長(12.1)	幅6.0	5.0	緑・黄・褐・白 淡黄色粘質土	内外面：施釉 ど	丸72と同型?		3/4	
73-49	遺構 I	蘿草		長(5.3)	幅(4.3)	(3.4)	緑・黄・褐・白 淡黄色粘質土	内外面：施釉 (三彩) 内面： 壓押し、文様不明			1/3	
74-50	遺構 I	角型鋸油瓶		2.4	71	21.0	赤褐色	内外面：無文 角形瓶 頸部 脇・底部に割れ	胴部施釉剤「大日本常陸國土浦町田川氏顕達之 譜」、底部施釉「大」「田 中全三郎」		完形	
74-51	遺構 I	角型鋸油瓶		2.5	70	21.0	灰褐色～灰白色	内外面：無文 角形瓶 頸部 脇・底部に割れ	胴部施釉剤「大日本常 陸國土浦町田川氏顕達之 譜」、底部施釉「大」		完形	
74-52	遺構 I	うるか骨器	色鉢	(蓋) 径 62 (上) (器身) 口徑6.0	(蓋) 径 51 (下) (器身) 底径4.0	(高) 11.3 74 (器身) 高4.4	褐色：灰鉢：淡黃 色粘質土	内面露胎、外面施釉：開 色輪で文字、身：高台基から 底部露胎、外面部施釉。口唇 部露胎、外面部色輪で文字 蓋：「うるか」、身：「名前」 「大船軒」	蓋戸	明治	完形	
74-53	遺構 I	鉢		幅15.0	横9.5	1.8	暗赤褐色：暗灰色 粘質土	外面から底部露胎、布目模有 り 暗赤褐色の鉢が底部に付 着			完形	
74-54	遺構 I	土瓶	色鉢	口徑178 大径128	8	11.5	暗灰褐色・朱・褐 色・淡褐色：灰白色 粘質土	外面：植物文様（紅葉） 内 面：施釉 外底部：布目模 口縁部、外下面下部底部：露胎			4/5	
74-55	遺構 I	汽車上瓶	手描き	身8.0 臺外径 7.0 内径3.2	身8.1 臺1.5	10.4	暗緑褐色：暗綠 色・灰褐色	内面：ほぼ露胎 外面：文様 不明 口縁部、底部露胎			完形	
74-56	遺構 I	汽車上瓶	手描き	8.8	7.2	8.3	最大径 10.6 灰色	口縁部・内面：一部露胎 外 面：文様不明 口縁部、底部 露胎			3/4	
74-57	遺構 I	土瓶口縁			10.8	-	(1.6)	印押：口縁褐色：暗褐色	口縁部文		-	
75-58	遺構 I	急須	手描き	6.8	6.4	7.2	最大径 10.2 灰白色粘質土	内面：口縁部、底部露胎 萬古系		萬古系	4/5	

図版	出土 場所	器種	給付 技法	法量			陶料：褐色調・胎 土	技法 / 文様 / その他	備考	測定 生前地	測定 年代	遺存度	
				口径	底径	器高							
75-59	道橋 I	急須	手焼き	外径 57	内径 44	2.5	鐵釉：灰白色粘質 土	内面露胎		高古系		完形	
75-59	道橋 I	急須	手焼き	6.2	5.4	6.6	最大径 9.0	金彩：暗基褐色；内面：灰白色粘質 土		高古系		2/3	
75-60	道橋 I	急須	手焼き、 イッチン	(6.9)		(1.2)		金彩：白色；暗基褐色；外面：文 色粘質土	器表面：淡茶褐色；外面：文 樣不明。側面による文様			1/2	
75-60	道橋 I	急須		7.3	5.8	7.9	最大径 9.8	暗灰色粘質土	器表面：淡系褐色；外面：側 面による文様。把手に壓印模	高古？		2/3	
75-61	道橋 I	急須			6.8	5.8	6.5	赤褐色；暗紫褐色 粘質土	口縁・注ぎ口・把手に光沢の ある赤褐色；外側・風景 印刷部・把手：金彩；外底部： 布目模；把手：桜の達かし形 なり	高古系		1112完形	
75-62	道橋 I	急須	手焼き	4.9	7.2	4.0	最大径 7.2	金彩・黒彩：暗基 褐色粘質土	口縁・注ぎ口・把手に光沢の ある赤褐色；外側・風景 印刷部・把手：金彩；外底部： 布目模；把手：桜の達かし形 なり	高古		4/5	
75-63	道橋 I	急須			5	4.5	3.9	最大径 6.6	暗基褐色粘質土	口縁・注ぎ口・把手に光沢の ある赤褐色；外側・風景 印刷部・把手：金彩；外底部： 布目模	高古		1112完形
75-64	道橋 I	急須			7	7.2	(5.8)	最大径 8.4	暗基褐色粘質土	口縁・注ぎ口・把手に光沢の ある赤褐色；把手に三孔有 り；内外面：布目模；外面部： 無輪	高古系		3/4
75-65	道橋 I	急須		(6.8)	(6.5)	(5.7)		暗基褐色粘質土	口縁・把手に光沢のある赤褐 色；把手に板文；内外面： 布目模；外面部：無輪	高古		1/5	
76-66	道橋 I	急須		-	-	-		暗茶褐色粘質土	外縁：松と家の模様を押押し した粘土を全体に貼り付け			側部小片	
76-67	道橋 I	急須		-	-	(3.5)		茶色釉：淡黃灰褐色 粘質土	口縁部露胎；内外面露胎；外 面部：側面による文様			口縫部片	
76-68	道橋 I	急須		7.0	5.0	6.8		赤褐色；暗紫褐色 粘質土	口縁・注ぎ口・把手に光沢の ある赤褐色；外側・削き 底内面：露胎；外底：布目 模；把手に桜の達かし形	高古？		完形	
76-69	道橋 I	急須		(7.2)	4.8	7		赤褐色；暗紫褐色 粘質土	口縁・注ぎ口・把手に光沢の ある赤褐色；外側・削き 底内面：露胎；外底：布目 模；把手に桜の達かし形			1/2	
76-70	道橋 I	急須		身・外径 5.8 蓋径 5.0 内径 4.8	4.5	身 4.0 蓋 1.6	最大径 6.6	褐色	内外面：無釉 硝目：擬宝珠 朱泥か	青滑？	蓋： 完形 身： 3/4		
76-71	道橋 I	急須	イッチン	7.0	5.0	4.7	最大径 8.4	茶色・緑・青：灰 白色粘質土	外面：脚輪（著）；内面：灰綠 色的藍施釉 外底露胎	相馬燒（胸 燒）		1112完形	
76-72	道橋 I	土瓶蓋	手焼き	(10.2)				緑色・栗色・白色：灰 白粘質土	外面：文様不明、白色釉貫入 有り；内面露胎	益子		1/4	
76-73	道橋 I	急須蓋	印判	内径 6.4	外径 7.4	1.2		茶色粘質土	外面部：無輪 外面：植物文 様刻む；内面：墨書き			完形	
76-74	道橋 I	急須蓋	イッチン	内径 5.8	外径 7.6	2.1	最大径 7.6	金彩・白色・緑色： 暗茶褐色粘質土	脚輪：花形（12瓣）；葵花樣 足底型；内外面：無輪；外面： 文様（縮文は少）			完形	
76-75	道橋 I	急須蓋		外径 5.6	内径 4.0	2.2		暗茶褐色粘質土	脚輪：花形（15瓣）；葵花樣 足底型；硝目頭部：暗緑灰色 釉 内外面：無輪			完形	
76-76	道橋 I	急須蓋		外径 6.6	内径 5.0	2.5		茶褐色；灰白色 粘質土	脚輪：花形（12瓣）；葵花樣 足底型；硝目頭部：暗緑灰色 釉 内外面：無釉 内外面： 無文			完形	
76-77	道橋 I	土瓶蓋？		外径 9.0	内径 2.8	(3.9)		淡赤褐色粘質土	内外面：無釉 表面研ぐ	常滑		1/3	
76-78	道橋 I	急須蓋		外径 5.0	内径 2.8	1.3		鐵灰 色：灰褐色 粘質土	内面：一喜善胎 内外面：無 文			完形	
76-79	道橋 I	急須蓋	捺込み	外径 6.0	内径 3.5	2.2		鐵：白色；黃基 色粘質土	内面：露胎；把手：捺込み（鐵） 色粘質土			2/3	
76-80	道橋 2	蓋	捺込み	-	-	-		茶色・褐色：黃灰 色粘質土	内面：露胎；布目模 外面： 绿色と褐色の混み		蓋小片		
76-81	道橋 2	蓋	捺込み					綠灰色・褐色：灰 色粘質土	内面：露胎；布目模 外面： 綠色と褐色の混み		蓋小片		

測定 番号	出土 遺構	器種	組付け 技法	法華			細部：輪色調：胎 土	技法／文様／その他	備考	測定 生産地	測定期 年代	測定期 度
				口径	底径	器高						
77-82	遺構 1	羽茎		224	176	165	最大径 300	透明釉：純い橙色 白色粘合む	跡が巡る、把手が2箇所、底部：胴部擦り：〔 ■ ■ 製〕			ほぼ完形
77-83	遺構 1	土鍋	手描き	188	108	90		淡黃綠色胎：淡黃 色粘質土	内外面：施釉、貫入、胴部中央 から底部、口縁部：漏胎 外面：植物文様（茎）			2/3
77-84	遺構 1	土鍋	手描き	195	-	(88)		黃褐色胎：淡橙色 粘質土	内外面：施釉、外腹下部から 外底部：口縁部：漏胎、外面： 植物文（茎）			1/3
78-85	遺構 1	土鍋（蓋）	手描き	186	100	82		暗灰色：灰黃綠色 (内側)灰綠色（外 面）淡黃色粘質土	内外面：施釉、外面：文様不 明、口縁部漏胎			完形
78-86	遺構 1	土鍋	手描き	172	104	91	(取子合 む器高) 9.5	褐色胎：淡黃褐色 （右器高） 淡黃色粘質土	内外面：施釉、貫入、外面： 不明文様、胴部下部、口縁部： 漏胎			3/4
78-87	遺構 1	土鍋	手描き	182	154	4.5		綠褐色：灰綠色胎： 淡黃色粘質土	内外面：施釉、外面：植物文 外腹下部から底部、口縁部： 漏胎			1/2
78-88	遺構 1	土鍋	手描き	188	126	9.2		綠褐色：黃綠灰色 胎：灰褐色粘質土	内外面：施釉、貫入、外面： 植物文、外腹下部から底部、 口縁部：漏胎、外腹下部から 底部：保付着			3/5
78-89	遺構 1	行平鍋	手描き	174	9.3	9.4		白色：灰綠色胎： 灰褐色粘質土	内外面：施釉、貫入、外面： 文様不明、胴部下部から底部、 口縁部：漏胎			ほぼ完形
78-90	遺構 1	行平鍋	手描き	142	8.8	8.2		黑色：黃白色胎： 淡橙色粘質土	内外面：施釉、貫入、外面下 部から底部、口縁部：漏胎 外面：植物文（茎）外底部： 保付着			ほぼ完形
79-91	遺構 1	行平鍋	手描き	118	7.3	6.4		白色胎：灰綠色 淡黃色粘質土	内外面：施釉、口縫、外面下 部から底部：漏胎、外面：一 部白色胎			完形
79-92	遺構 1	行平鍋	手描き	142	7.8	7.5		白色胎：灰綠色 灰褐色粘質土	内外面：施釉、貫入、口縫、 外面下部から底部：漏胎、外 面：一部白色胎、外底部：保 付着			4/5
79-93	遺構 1	行平鍋		117	6.7	7.1		灰黃綠色：淡橙色 粘質土	内外面：施釉、口縫、外面下 部から底部：漏胎、外面下 部から底部：漏胎、外底部： 保付着			ほぼ完形
79-94	遺構 1	行平鍋		164	10.0	8.4		(内側)透明釉、(外 面)茶褐色：淡黃 色粘質土	内外面：施釉、口縫、外面下 部から底部：漏胎、外面下 部から底部：漏胎、外底部： 保付着			4/5
79-95	遺構 1	行平鍋	手描き	138	8.2	7.7		白色胎：灰黃綠色： 淡橙色粘質土	内外面：施釉、貫入、口縫、 外面下部から底部：漏胎、外 面：一部白色胎、外底部：保 付着			3/5
79-96	遺構 1	行平口付		-	-	(2.7)		黃綠色：淡橙色粘 質土	内外面：施釉			口縁部小 片
79-97	遺構 1	行平把手	手描き	-	-	-		黑色：淡黃色胎： 淡黃色粘質土	外面：植物文（茎）			把手小片
79-98	遺構 1	口向外		(12.3)	(8.0)	6.9	最大径 (13.5)	綠褐色：黃灰色胎 質土	内外面：施釉、外底部：漏胎			2/3
79-99	遺構 1	瓶	手描き	141	8.2	11.6		白・黒・綠灰色 胎：灰褐色粘質土	内外面：施釉、貫入、口縁部、 外底部：漏胎、外面：不明 文様、一部白色胎、外底部： 10の孔			4/5
79-100	遺構 1	黒し板		-	-	2.0		灰綠色：黃灰色胎 質土	片面：施釉、画面に保付着、8 つの孔			残存率不 明
80-101	遺構 1	甕	面込み	23	7	20.5	最大26.4	褐色・青：紺茶褐色 胎：灰褐色粘質土	内外面：施釉、底部露胎、墨 書き有り、内底面：重ね焼きの 痕残る（トランше）、外面上部 に8状の窓、清	外底部：墨書き有り判読で きず		3/4
80-102	遺構 1	梅干皿	面込み	17.0	10.7	15.5		黑色：茶褐色胎： 灰褐色粘質土	内外面：施釉、外面：詰込み 部黒、内底面：重ね焼きの痕 残る（トランше）、外底部：漏 胎			3/5
80-103	遺構 1	梅干皿	面込み	16.1	10.7	14.1		灰綠色：茶褐色胎： 粉白粘質土	内外面：施釉、外面：詰込み 部灰褐色、外底部：漏胎			ほぼ完形
80-104	遺構 1	甕		(16.6)	-	(2.8)		茶褐色胎：暗褐色 粘質土	内外面：施釉			口縁部小 片

回版	出土 番号	器種	給付け 注法	造形			材料：陶色・胎 土	技法 / 文様 / その他	備考	断定 生産地	断定 年代	遺存度
				口径	底径	器高						
80-105	道佛 I	盃		-	(9.0)	(2.4)	茶褐色・灰色粘質 土	内面：施釉 外底部：露胎				底部片
81-106	道佛 I	甌	酒込み	14.7	10	15.9	褐色・綠色・白色： 茶色（内面）・（口 縁～腹部）黑色（鋼 部）灰青色：灰色 ～棕色粘質土	内外面：施釉 外面：不明文 様 外底部：露胎			1/3	
81-107	道佛 I	甌	酒込み	18.0	-	-	綠色（内面）茶色、 （口縁～腹部）黒～ 褐 茶褐色（底部）淡 茶褐色・（腹部）灰 青色：灰色～茶色 粘質土	内外面：施釉 外面：文様不 明	益子や笠 岡	近代	口縁部分	
81-108	道佛 I	甌	酒込み	15.3	-	-	（内面）茶褐色・（口 縁～腹部）白・青、 茶褐色・（腹部）灰 青色：暗灰色粘質 土	内外面：施釉			口縁部分	
81-109	道佛 I	甌	?	-	-	(4.1)	（内面）茶色・（口 縁～腹部）茶～黑 色：灰色粘質土	内外面：施釉			口縁部分小 片	
81-110	道佛 I	盃？		-	-	(3.1)	灰綠色：棕色粘 質土	内外面：施釉 外底部：露胎			底部片	
81-111	道佛 I	甌		-	11.6	-	（内面）茶褐色・（内 面）灰褐色・（腹 部）灰褐色	内面：露胎 外底部露胎			底部片	
81-112	道佛 I	盃	桂116		高47		茶色・緑色（三彩）： 緑灰色：茶褐色	内面：露胎 外面：施釉			定形	
81-113	道佛 I	盃		18.5			（外側）灰褐色・ （内面）淡黄色釉： 黃灰色粘質土	内外面：施釉 口縁部：露胎			1/3	
81-114	道佛 I	瓶体	(14.8)	-	(4.5)		茶色：灰白色粘質 土	内外面：施釉 外面下部：露 胎			口縁部分	
81-115	道佛 I	瓶体	(12.7)	-	(3.5)		茶色：灰白色粘質 土	内外面：施釉 外面下部：露 胎			2/3	
81-116	道佛 I	瓶体	-	-	-		茶色：灰白色粘質 土	内外面：施釉			胴部小片	
81-117	道佛 I	瓶体 片口付	15.0	8.3	7.2		茶褐色：棕色粘 質土	内外面：施釉 外底部：露胎			ほぼ定形	
82-118	道佛 I	瓶体	35.0	17.3	15.6		茶色：暗灰色粘質 土	内外面：施釉 外底部：露胎			1/2	
83-119	道佛 I	瓶体 片口付	30.8	15.8	13.2		茶色：暗灰色粘質 土	内外面：施釉 外底部：露胎			ほぼ定形	
83-120	道佛 I	灯明受皿	(8.1)	受部桂 (5.5) 底4.0	1.7		茶色：灰色粘質土	内外面：茶色粘質			1/2	
83-121	道佛 I	灯明受皿	10.0	受部桂 (6.5) 底4.1	2.1		透明釉：淡黃色粘 質土	内面：施釉 外面：露胎			ほぼ定形	
83-122	道佛 I	灯明受皿	(4.8)	受部桂 (6.0) 底4.0	1.8		灰釉：灰色粘質土	内面：施釉 外面：露胎			1/2	
83-123	道佛 I	灯明皿 手括き	9.2	3.6	1.8		白色釉：灰釉：灰 色粘質土	内面：施釉，一部白色釉 外面： 露胎 内面：足付ハマ痕（3ヶ 所）			ほぼ定形	
83-124	道佛 I	灯明皿 手括き	9.0	3.5	1.9		白色釉：灰釉：灰 色粘質土	内面：施釉，一部白色釉 外面： 露胎 内面：足付ハマ痕（3ヶ 所）			ほぼ定形	
83-125	道佛 I	灯明皿	8.2	3.4	1.7		灰釉：灰色粘質土	内面：施釉 外面：露胎 内面： 足付ハマ痕（3ヶ所）	廻戸美 造？	定形		
83-126	道佛 I	灯明皿 手括き	(8.2)	3.3	1.6		白色釉：灰釉：灰 色粘質土	内面：施釉 外面：露胎 内面： 足付ハマ痕（2ヶ所）	廻戸美 造	1/3		
83-127	道佛 I	灯明皿 手括き	(9.0)	(3.2)	1.7		白色釉：灰釉：灰 色粘質土	内面：施釉，一部白色釉 外面： 露胎 内面：足付ハマ痕（1ヶ 所）		1/4 程 残存		
83-128	道佛 I	灯明皿 手括き	9.0	3.6	1.7		白色釉：灰釉：淡 黃色粘質土	内面：施釉，一部白色釉 外面： 露胎			1/2	
83-129	道佛 I	灯明皿	(7.6)	3.5	1.8		灰釉：棕色粘質 土	内面：施釉 外底部：削出し高台 内面見 込み：瓶口潤滑部	廻戸美 造？	1/3		
83-130	道佛 I	灯明皿	(9.8)	5.2	1.8		灰釉：淡黃色粘質 土	内面：施釉 外底部：削出し高台 内面見 込み：瓶口潤滑部	廻戸美 造	18～19 世紀	1/2	

国版 番号	出土 遺構	器種	釉付け 技法	法量			組別：輪色調：胎 土	技法／文様／その他	備考	測定 生産地	測定 年代	遺存度
				口径	底径	器高						
83-131	遺構 I	台付灯明受皿		7.5	4.7	5.4	灰輪：青褐色粘質土	外底・内底部：露胎 外面：施釉				完形
83-132	遺構 I	台付灯明受皿		7.6	4.2	5.5	灰輪：淡黄色粘質土	口縁部のみ施釉 他ほぼ露胎				ほぼ完形

表7 近代遺構出土磁器（人形類）観察表（単位：cm）

国版 番号	出土 遺構	材質	器種	釉色	胎土	法量			技法／文様／その他	備考	測定 生産地	測定 年代	遺存度
						口径	底径	高さ					
84-1	遺構 I	磁器	女子頭部	白色粘質土		最大幅2.7	6.0		塑作り 素焼きに着色（頭髪部：黒、色、帽子：白色、肌：ピンク色、額、口元：赤色、瞳：青）	うなじに「168510」か番号印字			完形
84-2	遺構 I	土製品	人頭	茶色粘質土		最大幅2.9	6.4		塑作り 首部：孔が空たれでいる				完形
84-3	遺構 I	磁器	人形	透明釉	白色粘質土	最大幅4.2	7.1		塑作り 着色（緑、黄色、薄紅色、黒）両肩に孔有り				完形
84-4	遺構 I	磁器	人形	透明釉	白色粘質土	最大幅3.6	(7.1)		塑作り 着色（緑、褐色、青、黒）底部露胎 底部に穿孔有り				3/4
84-5	遺構 I	土製品	三輪	灰白色粘質土		最大幅12.3	8.0		塑作り 素焼き 着色（緑、赤、褐色、黒）				4/5
84-6	遺構 I	土製品	人形	灰色粘質土		最大幅7.8	4.8		塑作り 素焼き 一部着色（淡桃色）				不明
84-7	遺構 I	磁器	架盤	透明釉	灰白色粘質土	最大幅7.1	2.0		塑作り 着色（黒、茶色）底部露胎	RE			ほぼ完形
84-8	遺構 I	磁器	馬	白色釉	白色粘質土	全長7.8	最大幅2.2	5.6	塑作り 着色（黒、黄色、緑、茶色、金）背中に穿孔有り 腹部露胎				完形
84-9	遺構 I	磁器	馬	白色釉	白色粘質土	全長6.1	最大幅2.2	4.3	塑作り 着色（黒、緑、茶褐色、桃色）背中に穿孔有り 腹部露胎				4/5
84-10	遺構 I	磁器	騎馬	白色釉	白色粘質土	全長8.0	最大幅2.0	5.3	塑作り 着色（褐色、茶色、緑色）腹巻に穿孔 孫の四股の紋のみ露胎				4/5
84-11	遺構 I	土製品	圓	茶色粘質土		最大幅2.1	3.4		塑作り 素焼き				完形
84-12	遺構 I	磁器	丸	白色釉	白色粘質土	全長3.2	最大幅1.6	2.3	塑作り 着色（暗緑褐色、青）底部露胎 外底部分穿孔有り	尻尾「新安特許（青字）」			完形
85-13	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅6.0	6.8		塑作り 着色（暗褐色、暗灰色、淡黃褐色、暗朱色、全、銀）底部露胎 内底に重り				ほぼ完形
85-14	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅6.1	6.8		塑作り 着色（暗褐色、暗灰色、淡黃褐色、暗朱色、全、茶色）底部露胎 内底に重り				3/4
85-15	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅6.0	6.9		塑作り 着色（暗褐色、暗灰色、淡黃褐色、暗朱色、全、茶色）底部露胎 内底に重り				3/4
85-16	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅4.5	6.6		塑作り 着色（暗褐色、暗灰色、淡黃褐色、暗朱色、全、茶色）底部露胎 内底に重り				1/3
85-17	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅5.8	6.9		塑作り 着色（暗褐色、暗灰色、淡黃褐色、暗朱色、全、茶色）底部露胎 内底に重り				3/5
85-18	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅6.1	(4.1)		塑作り 着色（暗褐色、暗灰色、暗朱色、全、茶色）底部露胎 内底に重り				1/3
85-19	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅5.3	(4.3)		塑作り 着色（暗褐色、暗灰色、淡黃褐色、暗朱色、全、茶色）底部露胎 内底に重り				1/4
85-20	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅4.2	5.0		塑作り 着色（暗褐色、暗灰色、淡黃褐色、暗朱色、全、茶色）底部露胎 内底に重り				ほぼ完形
85-21	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅4.2	4.8		塑作り 着色（暗褐色、淡黃褐色、暗朱色、茶色、淡綠色）底部露胎 内底に重り				2/3
85-22	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土	最大幅4.0	3.8		塑作り 着色（暗褐色、淡黃褐色、暗朱色、茶色）底部露胎 内底に重り				1/2
85-23	遺構 I	磁器	達磨	透明釉	白色粘質土		最大幅3.4	4.0	塑作り 着色（暗褐色、淡黃褐色、暗朱色、茶色）底部露胎 内底に重り				1/4
85-24	遺構 I	磁器	ミニチュア 大張子	透明釉	白色粘質土	全長6.3	最大幅3.0	(2.6)	塑押し 着色（黒、青、茶色、緑） 内面布目模				不明

図版 番号	出土 遺構	材質	器種	釉薬	胎土	法量			技法／文様／その他	備考	遺存度
						上径	底径	高さ			
86-25	道橋 1	磁器	水滴（桃太郎）	白色釉	白色粘質土	全長 6.3	最大幅 4.7	5.4	壓押し 2ヶ所に穿孔 外底部露胎 着色（緑・褐色・茶色・薄紅色）	完形	
86-26	道橋 1	磁器	笛（鳩）	灰白色	灰白色粘質土	全長 7.9	最大幅 3.2	3.7	製作り 2ヶ所に穿孔 着色（緑・ 茶褐色・褐色・白色）	完形	
86-27	道橋 1	磁器	笛（鳩）	白色釉	白色粘質土	全長 (5.4)	最大幅 3.2	3.6	製作り 着色（茶色・緑）	2/3	
86-28	道橋 1	土製品	笛（鳩）	茶色粘質土	全長 (2.9)	最大幅 2.2	(1.7)	箆か？ 1ヶ所に穿孔 素焼き 一 部焼成かくる	不明小片		
86-29	道橋 1	磁器	鶴	白色釉	白色粘質土	全長 4.9	最大幅 (2.8)	2.9	製作り 着色（茶褐色・緑・茶色） 底部露胎 内底に重り	2/3	
86-30	道橋 1	磁器	鶴	白色釉	白色粘質土	全長 (4.1)	最大幅 (3.3)	3.0	製作り 着色（茶褐色・緑・茶色） 底部露胎 内底に重り	2/3	
86-31	道橋 1	磁器	鶴	白色釉	白色粘質土	全長 (4.1)	最大幅 (2.7)	3.1	製作り 着色（茶褐色・緑・茶色） 底部露胎 内底に重り	2/3	
86-32	道橋 1	磁器	鶴	白色釉	白色粘質土	全長 (4.7)	最大幅 3.7	3.1	製作り 着色（茶褐色・緑・茶色） 底部露胎 内底に重り	3/4	
86-33	道橋 1	磁器	鶴	白色釉	白色粘質土	全長 (4.1)	最大幅 (3.0)	2.9	製作り 着色（茶褐色・緑・茶色）	3/5	
86-34	道橋 1	磁器	鶴	白色釉	白色粘質土	全長 3.5	最大幅 2.7	2.3	製作り 着色（茶褐色・緑・茶色） 底部露胎（墨書き） 内底に重り	此部墨書き「第」 完形	
86-35	道橋 1	磁器	桃太郎	白色釉	白色粘質土	全長 (2.9)	最大幅 (3.2)	(2.0)	製作り 内面布目模 着色（暗褐色）	1/3	
86-36	道橋 3	磁器	桃太郎	白色釉	灰白色粘質土	全長 (2.2)	最大幅 (3.4)	(3.1)	製作り 内面布目模 外底部露胎 着色（緑色・茶色・茶褐色・淡橙色）	1/2	
86-37	道橋 1	磁器	蟹	白色釉	灰白色粘質土	全長 (7.6)	最大幅 3.1	3.3	製作り 外底部露胎 内底に重り 着色（黒・淡褐色・金・淡緑色）	3/5	
86-38	道橋 1	磁器	蟹？	白色釉	白色粘質土	全長 (4.6)	最大幅 2.8	(2.1)	製作り 内面布目模 着色（暗灰色・ 金）	不明	
86-39	道橋 1	磁器	亀	白色釉	白色粘質土	全長 3.3	最大幅 4.0	2.7	製作り 底部露胎 着色（金・銀・ 緑色・茶・暗褐色）	ほぼ完形	
86-40	道橋 1	磁器	金魚（大）	白色釉	白色粘質土	全長 8.1	最大幅 5.1	3.0	製作り 底部露胎 着色（茶褐色・ 金色・茶色）	完形	
86-41	道橋 1	磁器	金魚（大）	白色釉	白色粘質土	全長 8.1	最大幅 4.9	3.1	製作り 底部露胎 着色（暗褐色・ 茶色・淡緑色・金・黒）	ほぼ完形	
87-42	道橋 1	磁器	金魚（大）	白色釉	白色粘質土	全長 (7.0)	最大幅 4.9	3.1	製作り 底部露胎 内底に重り 着 色（暗褐色・茶色・朱色・金色）	3/4	
87-43	道橋 1	磁器	金魚（大）	白色釉	白色粘質土	全長 8.3	最大幅 5.1	3.0	製作り 底部露胎 内底に重り 着 色（茶褐色・茶色・朱色・金）	ほぼ完形	
87-44	道橋 1	磁器	金魚（大）	白色釉	白色粘質土	全長 (5.2)	最大幅 4.9	3.0	製作り 底部露胎 内底に重り 着 色（茶褐色・茶色・金）	2/3	
87-45	道橋 1	磁器	金魚（中）	白色釉	白色粘質土	全長 5.3	最大幅 3.5	2.2	製作り 底部露胎 前色（暗褐色・ 茶色）	完形	
87-46	道橋 1	磁器	金魚（中）	白色釉	白色粘質土	全長 5.3	最大幅 3.5	2.1	製作り 底部露胎 着色（暗褐色・ 茶色）	完形	
87-47	道橋 1	磁器	金魚（中）	白色釉	白色粘質土	全長 5.3	最大幅 3.5	2.1	製作り 底部露胎 内底に重り 着 色（暗褐色・茶色）	2/3	
87-48	道橋 1	磁器	金魚（中）	白色釉	白色粘質土	全長 (3.4)	最大幅 3.5	2.0	製作り 底部露胎 内底に重り 着 色（暗褐色・茶色）	2/3	
87-49	道橋 1	磁器	金魚（中）	白色釉	白色粘質土	全長 (4.9)	最大幅 3.5	2.0	製作り 内面に布目模 底部露胎 内底に重り 着色（暗褐色・淡褐色）	3/4	
87-50	道橋 1	磁器	金魚（中）	白色釉	白色粘質土	全長 (3.3)	最大幅 3.5	2.1	製作り 底部露胎 内底に重り 着 色（茶褐色・茶色）	1/2	
87-51	道橋 1	磁器	金魚（小）	白色釉	白色粘質土	全長 (3.8)	最大幅 3.0	1.9	製作り 底部露胎 内底に重り 着 色（茶褐色・茶色）	4/5	
87-52	道橋 1	磁器	金魚（小）	白色釉	白色粘質土	全長 4.1	最大幅 3.1	1.8	製作り 底部露胎 着色（朱色・茶 色・金）	ほぼ完形	
87-53	道橋 1	磁器	金魚（小）	白色釉	白色粘質土	全長 (2.2)	最大幅 (2.4)	(1.8)	製作り 底部露胎 内底に重り 着 色（茶褐色・茶色・金）	1/3	
87-54	道橋 1	磁器	金魚（中）	白色釉	白色粘質土	全長 (3.1)	最大幅 (3.1)	(1.2)	製作り 内面布目模 着色（茶褐色・ 茶色・黒色・金色）	1/3	

表8 近代遺構出土土製品（焜爍類）觀察表（單位：cm）

回数 番号	出土 遺構	材質	器種	法量			a:成形 b:粘土 c:色調 d:釉調 e:焼成 参考	参考	遺存度
				口径	底径	器高			
92-21	遺構 1	土製品	角鉢 内筒	-	-	17.2	a3 ヶ所穿孔有 外面:粘土貼り付け痕有り、底部削り b:淡褐色 微移・雲母・金雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色		底部小片
93-22	遺構 1	土製品	角鉢	-	-	12.5	a:外面:縦割り 淡褐色 微移・雲母・金雲母・白色粒 c:淡褐色		銅部小片
93-23	遺構 1	土製品	角鉢	-	-	幅(9.8) 厚1.0	a:外面:底部・側面削り 内面:白色化 b:淡褐色 微移・雲母・金雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色		底部小片
93-24	遺構 1	土製品	火皿 (サナ)	-	-	厚1.4	a:外面:側面削り、一部白色化、2ヶ所穿孔有り b:淡褐色 微移・雲母・金雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色		不明
93-25	遺構 1	土製品	火皿 (サナ)	-	-	厚1.2	a:外面:側面削り、一部白色化、4ヶ所穿孔有り b:淡褐色 微移・雲母・金雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色		不明
93-26	遺構 1	土製品	火皿 (サナ)	-	-	厚1.3	a:外面:側面削り、一部白色化、1ヶ所穿孔有り b:淡褐色 微移・雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色		不明
93-27	遺構 1	土製品	火皿 (サナ)	-	-	厚1.2	a:外面:側面削り、一部白色化、1ヶ所穿孔有り b:淡褐色 微移・雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色		不明
93-28	遺構 1	土製品	ワッパ	30.6	25.8	8.2	a:外面:6ヶ所穿孔有 口縁部・底部:削り・面取り、口縁部下に強い段 内面:滑り止めが4ヶ所(後から貼り付け) b:淡褐色 微移・雲母・金雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色 上 内面:爆付着		4/5
93-29	遺構 1	土製品	ワッパ	27.2	22.8	9.0	a:外面:5ヶ所穿孔有 口縁部・底部:削り・面取り、口縁部下に強い段 内面:滑り止めが2ヶ所(後から貼り付け) b:淡褐色 微移・雲母・金雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色 上 内面:爆付着		3/4
93-30	遺構 1	土製品	ワッパ	26.4	20.4	6.8	a:外面:5ヶ所穿孔有 口縁部・底部:削り・面取り、口縁部下に強い段 内面:滑り止めが2ヶ所(後から貼り付け) b:淡褐色 微移・雲母・金雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色 上 内面:爆付着		1/2
93-31	遺構 1	土製品	ワッパ	(23.0)	(20.2)	7.2	a:外面:穿孔無し 口縁部・底部:削り・面取り、口縁部下に強い段 内面:滑り止めが2ヶ所(後から貼り付け) b:淡褐色 微移・雲母・金雲母・赤色粒・白色粒 c:淡褐色 上 内面:爆付着		1/2

表9 近代遺構出土土器観察表

回番 号	出土 遺構	材質	器種	法量			a:成形 b:粘土 c:色調 d:釉調 e:焼成 参考	参考	遺存度
				口径	底径	器高			
94-1	遺構 1	土製品	植木鉢	12.2	-	(9.2)	a:素焼き 11縁部玉筋状、内面横ナデ 外面:削り・崩き b:淡褐色 微移・雲母・赤色粒・白色粒 c:褐色 e:良好		2/3
94-2	遺構 1	土製品	植木鉢	-	-	(6.2)	a:素焼き 11縁部玉筋状、内面横ナデ 外面:削り・崩き b:淡褐色 微移・雲母・赤色粒・白色粒 c:褐色 e:良好	11縁部小片	
94-3	遺構 1	土製品	植木鉢	-	-	(8.4)	a:素焼き 内面横ナデ 外面:削り・崩き b:淡褐色 微移		11縁部小片
94-4	遺構 1	土製品	植木鉢	-	-	(6.6)	a:素焼き 11縁部玉筋状、内面横ナデ 外面:削り・崩き b:淡褐色 微移・雲母・赤色粒・白色粒 c:褐色 e:良好		11縁部小片
94-5	遺構 1	土製品	植木鉢	(9.2)	6.9	8.7	a:素焼き 内面横ナデ 外面:削り・崩き b:淡褐色 微移・雲母・赤色粒・白色粒 c:褐色 e:良好		2/3
94-6	遺構 1	土製品	植木鉢	-	7.0	(7.0)	a:素焼き 底部左側軸系切り 切底穿孔有 b:淡褐色 微移・白色粒・赤色粒・長石・石英の粒 c:淡褐色 e:良好		1/2
94-7	遺構 1	土製品	素焼き鉢	-	-	-	a:内面横ナデ 11縁部・削り・面取り 外面:難な崩き b:黄灰		
94-8	遺構 1	土製品	植木鉢	-	-	(11.2)	a:内面横ナデ 11縁部・削り・面取り 外面:難な崩き b:黄灰		11縁部片
94-9	遺構 1	土製品	植木鉢	(15.0)	-	-	a:内面横ナデ 11縁部・削り・面取り 外面:崩き b:灰色~黒灰		11縁部片
94-10	遺構 1	土製品	植木鉢	-	-	10.9	a:外面:削り・崩き 底部:穿孔有 b:黑色 細移・雲母・白色粒・白色粒 c:褐色 e:良好		底部定形
94-11	遺構 1	土製品	植木鉢	-	-	(6.8)	a:内面横ナデ 11縁部・削り・面取り 外面:崩き? b:灰色~淡褐色 微移・雲母・白色粒・白色粒 c:褐色 e:良好		11縁部小片

國番号	出土遺構	材質	器種	法量			a:成形 b:胎土 c:色調 d:軸測 e:焼成 f:備考	備考	遺存度
				口径	底径	器高			
94-12	遺構 1	土製品	積木跡	-	-	(4.4)	a:内面横ナギ b:縁部・削り・面取り 外面:磨き c:深鉢底 b:灰色~淡褐色 微妙・雲母・白色粒・赤色粒・黑色粒・小石粒 瓦質 c:灰白色~良好 e:内外面に擦れ付着		縁部小片
94-13	遺構 1	土製品	積木跡	-	-	(5.6)	a:内面横ナギ b:縁部・削り・面取り 外面:磨き b:淡褐色 微妙・雲母・白色粒・赤色粒・黑色粒 土器質 c:黑色~淡褐色 e:良好		縁部小片
94-14	遺構 1	土製品	積木跡	-	-	(3.0)	a:内面横ナギ b:縁部・削り・面取り 外面:磨き b:淡褐色 微妙・雲母・白色粒・黑色粒 土器質 c:黑色~淡褐色 e:良好		縁部小片
94-15	遺構 1	土製品	積木跡	-	-	(2.9)	a:内面横ナギ b:縁部・削り・面取り 外面:磨き b:黑色 微妙・雲母・白色粒・黑色粒 土器質 c:灰黑色~黑色 e:良好		縁部小片
94-16	遺構 1	土製品	積木跡	-	-	(2.6)	a:内外面横ナギ b:縁部・削り・面取り 外面:磨き b:黑色 微妙・雲母・白色粒・黑色粒 土器質 c:灰黑色 e:良好		縁部小片
94-17	遺構 1	土製品	積木跡	-	-	(1.7)	a:内外面横ナギ b:外面:磨き 底部:削り b:灰白色 微妙・雲母・白色粒・赤色粒・黑色粒 土器質 c:黑色 外面:灰色 e:良好		底部小片
94-18	遺構 1	土製品	積木跡	-	-	(2.8)	a:内外面横ナギ b:外面:磨き 底部:削り b:灰色 微妙・雲母・白色粒 土器質 c:画面:灰黑色 外面:灰黑色 e:良好		底部小片
94-19	遺構 1	瓦質土製品	不明品	-	-	(5.1)	a:内面:露胎、圓錐状の工具痕 外面:磨き b:縁部:面取り b:灰色 微妙・雲母・白色粒・黑色粒 土器質 c:内面:灰白色、外面:灰黑色 e:良好		不明
95-20	遺構 1	瓦質土製品	不明品	-	-	(4.6)	a:内面:露胎、圓錐状の工具痕 外面:磨き b:縁部:面取り b:灰白色 微妙・雲母・白色粒・黑色粒 土器質 c:内面:灰白色、外面:灰黑色 e:良好		不明
95-21	遺構 1	瓦質土製品	不明品	-	-	(20.2)	a:内面横ナギ b:外面:雜な磨き 底部脇:丁寧な磨き 外底脇:高台状に成形されている b:灰黄色~黑色 微妙・雲母・白色粒 土器質 c:頗る柔軟 e:良好		不明
95-22	遺構 1	陶器	土管	(116)	-	(3.4)	b:淡赤褐色 微妙・白色粒 真土 c:暗赤褐色 (内外面施釉) e:良好		不明
95-23	遺構 1	陶器	土管	-	-	(5.2)	b:橙色 微妙・雲母・赤色粒・白色粒 黄色粒 止端褐色 (内外面施釉) e:良好 f:被熱か? 猫が剥離している		不明
95-24	遺構 1	陶器	土管	-	(11.0)	(7.5)	a:内面粗面板有り b:淡褐色 微妙・雲母・赤色粒・白色粒 d:施釉色 (内外面施釉) e:良好		不明
95-25	遺構 1	陶器	土管	-	-	(8.7)	b:橙色 微妙・雲母・赤色粒・白色粒 d:暗褐色 (内外面施釉) e:良好 f:被熱か? 猫が剥離している		不明
95-26	遺構 1	陶器	土管	-	-	(4.5)	b:橙色 微妙・雲母・赤色粒・白色粒 d:暗褐色 (内外面施釉) e:良好 f:被熱か? 猫が剥離している		不明
95-27	遺構 1	陶器	土管	-	-	(4.4)	a:両側面:面取り b:表面:圓面:ナギまたは削り b:赤褐色 微妙・雲母・赤色粒 d:暗褐色 e:良好 f:被熱か? 表面白色化、横幅 5.5cm		不明

表10 近代遺構出土瓦観察表 (単位: cm)

國番号	出土遺構	器種	法量			a:成形 b:胎土 c:色調 d:軸測 e:焼成 f:備考		遺存度
			長さ	幅	厚さ			
96-1	遺構 1	軒丸瓦 (鉢瓦)	瓦当径 (10.4)	内区径 (6.1)	外区外縁 高2.1 高0.4	△ 内外区の段差有り b:削り浅い b:胎土:灰色 砂粒・黑色粒 砂質土 c:表面:灰黒色 b:灰白色 c:良好 f:被熱か? 猫が剥離している		1/4
96-2	遺構 1	軒瓦	-	軒瓦部幅 8.6	-	△ 軒当部: 削り技術 軒当背面: 削りタグ 軒丸上部: 削り面取り b:灰色 砂粒・黑色粒・白色粒 砂質土 c:表面:灰黒色~暗褐色のいしむ様様、主に凸面・瓦当面鉛化現象を呈す。		1/4
96-3	遺構 1	瓦	-	-	1.6	△ 瓦瓦作り b:削り・端面へ削り成形後にナギ調整、背面に横状に横状の輪文状のわく/すな瓦有り b:胎土:灰白色 砂粒・白色粒 砂質土 c:表面:灰黒色くすべれ様様に仕上げる。△凸面部分的な鉛化現象		1/6
97-4	遺構 1	平瓦 (模瓦)	-	-	1.8	△ 凹面: 削り線の輪文 (9字文鉛化記) 磨面: ヘラ削り面取り後、ナギ調整 b:胎土: 1/5 灰色 砂粒・白・黑色粒 やしむ様様 c:表面: 暗灰色のくすべれ様様 凸面鉛化現象		1/5
97-5	遺構 1	平瓦	[6.5]	[10.2]	-	△ 削・端面へ削り成形後にナギ調整、凹面に横状に横状の輪文状のわく/すな瓦有り b:胎土:灰白色 砂粒・雲母・白色粒 砂質土 c:表面:灰黒色くすべれ様様に仕上げる。△凸面部分的な鉛化現象		不明
98-6	遺構 1	須瓦 (瓦瓦)	-	-	2.0	△ 横谷部は楕円状の削みを入れ胎り付けている b:胎土:暗灰色 砂粒・白色粒 やしむ様様 c:表面:灰黒色くすべれ様様に仕上げる。△凸面部分的に鉛化現象がみられる		不明
98-7	遺構 1	瓦	-	-	1.7	△ 瓦瓦作り b:胎土:灰黑色 砂粒・雲母・白色粒 砂質土 c:表面:灰黒色のくすべれ様様に仕上げる。△凸面部分的に鉛化現象がみられる c:良好		不明
98-8	遺構 1	契瓦 (模瓦)	23.9	11.0 前後	1.8	△ 烧成前に側面の引き込みを入れ分割面と破面の痕跡がある。契瓦瓦はあらう凸面部位の13条の輪文が波文状に施す。側面・端面ともにヘラ削り成形後にナギ調整を行なう b:灰色 砂粒・黑色粒・白色波文状 砂質土 c:表面は灰黒色のいしむ様様、凸面と側面は鉛化現象		1/2

98-9	道佛 1	箕斗瓦（現瓦）	238	11.0 前後	1.7	α 鋼面に平行して鋸成前に深さ3mm程度の切り込みを施した分割鋸面と鉢底の板跡があり、箕斗瓦として用いられていたものと考えられる。道具瓦（箕斗瓦）凸面に鋸状の12条の鋸目を施す。鋸面・端面：ヘラ削りで取り成形。凹面側面：ヘラ削り成形後に縦に砥目アザを施す。灰色 砂粒・黒色粒・白色文状やや鉢質上・c表面：黑色のいぶし模様。凸面と鉢面は鋼化現象 c.良好	1/2
98-10	道佛 1	装饰瓦か？	[4.3]	[5.8]	[3.0]	α 正面は壁による網代のような横模様。鋸面はスタンプによる文芯 b.胎芯は銀錫色。黒色 c.銀鉛色 d.着色か？	不明

表11 近代遺構出土ガラス製品観察表 (単位: cm)

番号	出土 遺構	亞種・器形	色調	法量			技法/文様/その他の特徴	備考	遺存度
				口径	底径	器高			
99-1	道佛 1	ビール瓶	茶色	26	7.8	29.3	最大径8.0 鋸合せ目 (D縫から底部)	瓶底 [R & CO. 40]	完形
99-2	道佛 1	ビール瓶	茶系色	29	7.7	28.9	合わせ目無し、上口底		4/5
99-3	道佛 1	ビール瓶	系色	26	8.2	29.2	合わせ目無し、上げ底、コルク孔 (5cm、高さ5cmが強留)		完形
99-4	道佛 1	ビール瓶	茶色	29	7.8	28.6	合わせ目無し、上げ底、コルク瓶底に残留		完形
99-5	道佛 1	ビール瓶	茶色	28	7.9	28.6	合わせ目無し、上げ底		ほぼ完形
100-6	道佛 1	飲料水瓶	透明	26	6.5	24.1	合わせ目無し		ほぼ完形
100-7	道佛 1	飲料水瓶	透明	-	6.6	(22.8)	合わせ目無し		4/5
100-8	道佛 1	飲料水瓶	透明	24	4.9	19.1	鋸合せ目 (D縫から底部)		完形
100-9	道佛 1	瓶	淡青透明	24	5.2	16.2	合わせ目無し、上口底		完形
100-10	道佛 1	瓶	淡水透明	26	5.4	15.5	合わせ目無し		完形
100-11	酒瓶	新緑色	30	6.9	19.1	幅12.2	鋸合せ目 (D縫から底部)。金属性の臺付き	正面図解「A BLEND OF THE CHOICE WHISKIES - EST 1899 - SUNTORY WHISKY PRODUCT OF JAPAN」 底面図解「LIQUOR BOTTLE - O-HII - 45 N.Y. - JAPAN」	完形
101-12	道佛 1	ビール瓶	茶色	29	7.9	29.2	合わせ目無し、上げ底		ほぼ完形
101-13	道佛 1	ワイン瓶	透明	25	8.0	28.6	最大径8.5 鋸合せ目無し、上げ底		完形
101-14	道佛 1	酒瓶	淡黄透明 栓上面付 下面部付	瓶底12.3 内20 2.5 0.9	8.28 高さ27 下面部 2.5	高さ28 内20 0.9	合わせ目無し、上口底 淡酒大正末・昭和初期 容器機械部：白輪で施動、下部コルク付着	酒酒大正末～昭和初期	完形
101-15	道佛 1	牛乳瓶	透明	-	5.3	(9.3)	鋸合せ目 (D縫から底部)	正面図解：[瓶]上等三全乳、裏面：[蒙崎]	1/2
101-16	道佛 1	牛乳瓶	透明	18	4.8	16.3	鋸合せ目 (D縫から底部)	正面図解：[全乳]	完形
101-17	道佛 1	牛乳瓶	透明	45	4.5	18.9	最大径5.6 鋸合せ目 (D縫から底部)	正面～裏面：[明治] Meiji 赤色、正面図解：[「のひに正、80cc」]	完形
101-18	道佛 1	飲料水瓶	透明	-	21	6.8	最大径3.5 鋸合せ目 (D縫から底部)	正面図解：[蒸水]	4/5
102-19	道佛 1	调味料瓶	淡水透明	27	6.5	23	合わせ目無し、新油の容器	正面図解：[SCOTT'S EMULSION]、右側 図解：[COD LIVER OIL]、左側図解：[WITH LIME & SODA]、底面図解：[W]	完形
102-20	道佛 1	調味料瓶	透明	24	5.7	18.2	鋸合せ目 (D縫から底部)	カレー粉瓶	完形
102-21	道佛 1	調味料瓶	透明	20	3.8	9.9	最大径4.3 鋸合せ目 (D縫から底部)	底部図解：[桃の花]	ほぼ完形
102-22	道佛 1	調味料瓶	透明	20	3.9	9.9	最大径4.3 鋸合せ目 (D縫から底部)	底部図解：[桃の花]、コルク栓残存	完形
102-23	道佛 1	調味料瓶	透明	26	-	3.2	気泡有り	説明：[HOU BROOKACO]	ほぼ完形
103-24	道佛 1	化粧品瓶	透明	23	4.4	11.6	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部) 乳白色の瓶 (レト) の瓶、平底蓋平底座	右側図解：[LAIT TOILET WATER]、左側 図解：[SAMPPI - HIRAO]、左側図解：[BLANC DE LAIT]	完形
103-25	道佛 1	化粧品瓶	透明	23	4.1	12.4	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)	右側図解：[HIRAO & CIE]、左側図解：[BLANC DE LAIT]	完形
103-26	道佛 1	化粧品瓶	透明	蓋径21 本体24	4.6	11.3	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部) 本体下縁部内側と栓が擦れ切れている	海闊四季巻は登？	完形
103-27	道佛 1	化粧品瓶	透明	25	4.4	11.9	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)		完形
103-28	道佛 1	化粧品瓶	透明	215	4.3	11.9	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)		ほぼ完形
103-29	道佛 1	化粧品瓶	透明	23	4.5	12.0	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)	大學化粧品、化粧水か？	完形
103-30	道佛 1	化粧品瓶	透明	25	4.2	10.9	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)	大學化粧品、化粧水か？	完形
103-31	道佛 1	化粧品瓶	透明	26	4.0	9.3	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)	瓶底エンボス：質誠不謬	完形
103-32	道佛 1	化粧品瓶	透明	26	3.7	9.5	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)		ほぼ完形
103-33	道佛 1	化粧品瓶	透明	-	3.7	(9.5)	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)		4/5
103-34	道佛 1	化粧品瓶	透明	-	3.6	(8.6)	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)		4/5
103-35	道佛 1	化粧品瓶	透明	24	-	(8.6)	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)		1/2
103-36	道佛 1	化粧品瓶	透明	22	4.0	8.6	鋸合せ目 (D縫から底部)、内面に白粉 付着、桃谷天賞館白木美術水	底部エンボス：桃粉	完形
103-37	道佛 1	化粧品瓶	透明	(22)	3.1	(8.4)	鋸合せ目 (D縫から底部)	底部エンボス：花緑様	4/5
104-38	道佛 1	化粧品瓶	透明	29	4.6	16.9	最大径6.2 気泡有り、鋸合せ目無し、重量感有り		完形
104-39	道佛 1	化粧品瓶	透明	24	4.0	14.2	気泡有り、鋸合せ目無し、重量感有り		完形
104-40	道佛 1	化粧品瓶	透明	20	3.7	11.5	最大径2.3 気泡有り、鋸合せ目無し、重量感有り		完形
104-41	道佛 1	化粧品瓶	透明	20	3.6	9.7	最大径2.8 気泡有り、鋸合せ目無し		完形
104-42	道佛 1	化粧品瓶	透明	蓋径2.0 口2.2	-	4.2	最大径4.1 気泡有り、鋸合せ目無し、本体縁部内側と栓が擦れ切れている	化粧品 (御園の月)	完形
104-43	道佛 1	化粧品瓶	透明	22	3.2	10.2			
104-44	道佛 1	化粧品瓶	透明	26	5.4	10.4	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)	化粧品：白粉水瓶 (桜谷天賞館白木粉)	完形
104-45	道佛 1	化粧品瓶	透明	26	5.4	10.0	気泡有り、鋸合せ目 (D縫から底部)		完形
104-46	道佛 1	化粧品瓶	透明	20	3.6	8.6	最大径3.8 気泡有り、鋸合せ目無し、重量感有り	白粉瓶？	完形

固版 番号	出土 遺構	器種・器形	色調	法量			技法 / 文様 / その他	備考	進度
				口径	底径	高さ			
104-47 遺構 1	化粧品瓶	透明	2.0	3.0	7.9	最大径 3.2	気泡有り、堅合わせ口無し。	白粉瓶?	完形
104-48 遺構 1	化粧品瓶	透明	2.0	3.4	6.6		気泡有り、堅合わせ口無し。重蓋有り	完形	
104-49 遺構 1	白粉瓶	透明	堅口 4.2	4.6	4.2		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側と栓が擦れ流れ、外底部中心には突起	化粧品（御園）	完形
104-50 遺構 1	白粉瓶	透明	堅口 4.3	4.5	4.2		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側と栓が擦れ流れ、外底部中心には突起	化粧品（御園）	完形
104-51 遺構 1	白粉瓶	透明	堅口 3.9	4.5	4.3		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側と栓が擦れ流れ、中に白粉が残る（浅 白色）外底部中心には突起	化粧品（御園）	完形
104-52 遺構 1	白粉瓶	透明	堅口 3.8	4.6	4.3		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側と栓が擦れ流れ、中に白粉が残る（浅 白色）外底部中心には突起	化粧品（御園）	完形
104-53 遺構 1	白粉瓶	透明	5.0	-	4.1		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ	化粧品（御園）	1/2
104-54 遺構 1	不明	透明	3.8	4.3	5.5		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ		1/2
105-55 遺構 1	白粉瓶	透明	4.1	4.5	4.2		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側と栓が擦れ流れ、外底部中心には突起	化粧品（御園）	1/2
105-56 遺構 1	白粉瓶	透明	3.9	4.6	4.2		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側と栓が擦れ流れ、中に白粉が残る（浅 白色）。外底部中心には突起	化粧品（御園）	1/2
105-57 遺構 1	白粉瓶	透明	-	4.5	3.9		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側と栓が擦れ流れ、外底部中心には突起	化粧品（御園）	1/3
105-58 遺構 1	化粧品瓶	透明	2.0	2.6	4.3		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ		1/2
105-59 遺構 1	化粧品瓶	透明	2.0	2.7	4.1		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ		1/2
105-60 遺構 1	化粧品瓶	透明	1.9	2.7	4.1		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ		1/2
105-61 遺構 1	化粧品瓶	透明	1.9	2.6	3.6		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ		1/2
105-62 遺構 1	化粧品瓶	透明	2.0	2.6	3.4		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ、底部上げ瓶		1/2
105-63 遺構 1	化粧品瓶	透明	1.8	2.6	3.5		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ、底部上げ瓶		1/2
105-64 遺構 1	化粧品瓶	透明	1.9	2.7	3.4		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ、底部上げ瓶		1/2
105-65 遺構 1	化粧品瓶	透明	堅口 2.9	-	1.0		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ、底部上げ瓶、金属 製の蓋付き。御園白粉、試供品分	蓋陽刻：文様と「御園」	未形
105-66 遺構 1	化粧品瓶	透明	堅口 2.9	-	2.9		気泡有り、堅合わせ口無し。本体口縁部 内側に栓が擦れ流れ、底部上げ瓶、金属 製の蓋付き。御園白粉、試供品分	蓋陽刻：文様と「御園」	ほぼ未形
105-67 遺構 1	香香水瓶?	透明	2.0	2.7	9.6	最大径 3.8	気泡有り、堅合わせ口（口縁から底部）	成都陶軒：「A.F.」	完形
105-68 遺構 1	化粧品瓶	乳	2.0	2.5	7.5		気泡有り、堅合わせ口（口縁から底部） ヨコタ松之助（上絵 1.0 下絵 0.8 高 1.4）	正面陽刻：「美濃水」（桃谷朝天瓶）	完形
105-69 遺構 1	香香水瓶	透明	2.3	4.2	7.0		気泡有り、堅合わせ口（口縁から底部）	正面陽刻：「PARFUMERIE FLORA」底 部陽刻：「山の桜桜枝」	未形
105-70 遺構 1	香香水瓶	透明	1.0	2.2	5.3		気泡有り、堅合わせ口（口縁から底部）	正面陽刻：「MUSK」	完形
105-71 遺構 1	白粉瓶	乳白色	2.6	4.2	7.5		口縁部擦り痕 堅合わせ口（口縁から底部）	壽美禮（白粉）	完形
105-72 遺構 1	白粉瓶	乳白色	2.6	4.2	7.5		堅合わせ口（口縁から底部）	壽美禮（白粉）	完形
105-73 遺構 1	化粧品瓶	乳白色	3.8	4.0	6.4		堅合わせ口（口縁から底部）	底尾分店：「平尾分店」	3/5
105-74 遺構 1	化粧品瓶	乳白色	3.8	4.0	6.3		堅合わせ口（口縁から底部）	平尾分店：（平尾鐵也商店）・n' - 4 横香油分 底尾分店：「平尾分店」	未形
105-75 遺構 1	化粧品瓶	乳白色	2.9	2.6	5.2		堅合わせ口（口縁から底部）	平尾分店：（平尾鐵也商店）・n' - 4 横香油分 白粉瓶	完形
105-76 遺構 1	化粧品瓶	乳白色	3.0	2.9	5.3	最大径 4.8	堅合わせ口（口縁から底部） 底 内 部 に 残 る	白粉瓶	完形
105-77 遺構 1	化粧品瓶	乳白色	5.2	5.6	5.0		堅合わせ口（口縁から底部） 底 部 ト ジ 式 、 制 部 に 列 柱 状 模 様 所 の 立 体 的 な 装 飾 有 り	クリーム瓶	ほぼ未形
105-78 遺構 1	化粧品瓶	乳白色	3.4	3.6	3.3		堅合わせ口（口縁から底部） 底 部 ト ジ 式 、 制 部 に 列 柱 状 模 様 所 の 立 体 的 な 装 飾 有 り	クリーム瓶	完形
105-79 遺構 1	化粧品瓶	乳白色	2.8	3.0	3.3		堅合わせ口（口縁から底部） 底 部 ト ジ 式 、 制 部 に 列 柱 状 模 様 所 の 立 体 的 な 装 飾 有 り	クリーム瓶	完形
105-80 遺構 1	化粧品瓶	黃白色	5.8	6.0	1.8		堅合わせ口（口縁から底部）	切子	ほぼ未形
105-81 遺構 1	不明	黃白色	4.8	5.0	1.8		堅合わせ口無し		完形

番号	出土・遺構	器種・器形	色調	寸法			找法／文様／その他の特徴	参考	進存度	
				口径	底径	器高				
106-82	遺構 I	インク瓶	透明	24	5.6	8.0	スゴイド様 13	気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 スゴイド付(施化してある)、内面 墨黒で汚れてる	「CARTER'S 242 MADE IN U.S.A.」 腹部陽刻	完形
106-83	遺構 I	インク瓶	淡黄透明	25	3.7	5.4		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	側部陽刻「CAWS INK 11347」	14/16 完形
106-84	遺構 I	インク瓶	淡黄透明	25	2.7	5.3		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	側部陽刻「CAWS INK 11347」	完形
106-85	遺構 I	インク瓶	淡黄透明	22	2.8	4.4		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	側部陽刻「CAWS INK 11347」	完形
106-86	遺構 I	インク瓶	透明	25	3.9	3.6		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	側部陽刻「○に M」、丸善	完形
106-87	遺構 I	インク瓶	淡緑透明	20	3.8	4.0		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	側部陽刻「○に M」、丸善	1/2
106-88	遺構 I	インク瓶	淡緑透明	30	4.3	5.0		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	側部陽刻「○に M」、丸善	完形
106-89	遺構 I	インク瓶	透明	23	5.0	3.7		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	側面陽刻：「美濃新案登録」[N23218]、外 部陽刻：「○に M」、丸善	完形
106-90	遺構 I	インク瓶	淡灰色透明	21	3.5	6.5		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 コルク栓付	側部陽刻：「帝国インキ」	完形
106-91	遺構 I	インク瓶	透明	15	4.4	4.4		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 コルク栓付(上部径1.5、高1.6)、内面紫 色インク付着、口縁部及びコルク栓はイ ンクが紫色に染色		完形
106-92	遺構 I	インク瓶	透明	18	4.6	3.8		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 底部=底面部には不明文様が隠し		完形
106-93	遺構 I	インク瓶?	透明	66	6.8	7.5		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 コルク栓付、口部ネジ式		完形
106-94	遺構 I	インク瓶?	透明	36	4.4	4.3		気泡有り、盤合わせ口無し、口縁部内面 が縮り紙		完形
106-95	遺構 I	瓶	茶色透明	32	3.2	5.5		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)		完形
106-96	遺構 I	瓶	茶色透明	34	3.2	3.4		気泡有り、盤合わせ口(口縁部にあり) 上部前面彫り		完形
106-97	遺構 I	瓶	茶色透明	36	3.4	2.4		気泡有り、盤合わせ口無し、上部前面彫 り痕		完形
106-98	遺構 I	瓶	茶色透明	38	3.6	2.3		気泡有り、盤合わせ口無し、上部前面彫 り痕		完形
106-99	遺構 I	瓶	透明	44	4.4	3.9		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 外部陽刻：「花の模様」、[5178]	外部陽刻：「花の模様」、[5178]	完形
106-100	遺構 I	瓶	淡黄緑色	44	4.6	3.9		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 外部陽刻：「★」[5178]「B」	外部陽刻：「★」[5178]「B」	完形
106-101	遺構 I	瓶	透明	44	4.6	3.9		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 口部ネジ式		完形
106-102	遺構 I	瓶	透明	44	4.4	3.9		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 付着物は黒色や粘性で皮 膜状		完形
106-103	遺構 I	瓶	青透明	56	5.4	2.8		気泡有り、盤合わせ口無し、口部ネジ式		完形
107-104	遺構 I	瓶	透明	28	5.5	14.5		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り「二百」「百五十」 「百」「五百」、裏面陽刻：丸開きに社名「植 木屋製」	4/5
107-105	遺構 I	瓶	透明	23	-	(8.5)		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	不明
107-106	遺構 I	瓶	透明	2	4.2	10.0		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：目盛り、「新井製」	完形
107-107	遺構 I	瓶	透明	18	3.6	8.5		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 上部欠け残しているがコルク栓(口徑1.1) 高：15cm	正面陽刻：日盛り、「中嶋光春院」、 瓶部陽刻有り	完形
107-108	遺構 I	瓶	透明	16	3.9	8.8		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	完形
107-109	遺構 I	瓶	透明	18	4.0	8.6		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	完形
107-110	遺構 I	瓶	淡緑透明	16	3.2	7.1		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	完形
107-111	遺構 I	瓶	透明	16	3.2	6.9		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	完形
107-112	遺構 I	瓶	透明	16	3.2	7.1		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	完形
107-113	遺構 I	瓶	淡緑透明	16	2.7	5.9		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 コルク栓(口徑1.0、高：17cm)付き、 内部に黄白色クリアム残存物	正面陽刻：日赤り	完形
107-114	遺構 I	瓶	淡緑透明	15	2.6	6.1		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	完形
107-115	遺構 I	瓶	透明	15	2.7	5.9		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	14/16 完形
107-116	遺構 I	瓶	淡緑透明	15	2.6	6.0		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：日赤り	完形
107-117	遺構 I	メスリソニア ダー	透明	32	3.4	8.8		気泡有り、盤合わせ口無し、サンダブラ スト枝付(日赤・文字)	YATO セ	4/5
107-118	遺構 I	メスリソニア ダー	透明	30	3.6	6.6		気泡有り、盤合わせ口無し、サンダブラ スト枝付(日赤・文字)	「東京 S セ」：[CL]「10」「7」、裏面 「東京 S セ」：■-■	完形
107-119	遺構 I	小瓶	透明	23	2.3	4.7		気泡有り、盤合わせ口無し		完形
107-120	遺構 I	スピゴイド	透明	08	-	(6.8)		気泡有り、盤合わせ口無し	ヨート瓶蓋	1/2
107-121	遺構 I	瓶	蓝色	15	2.0	7.5		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 コルク栓付	正面陽刻：○に K.Y.、「精々楽園■■」	完形
107-122	遺構 I	瓶	透明	20	3.5	6.2		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：人物、「健脳丸」、裏面「大阪」「丹 波商會製」	完形
107-123	遺構 I	瓶	透明	15	3.1	6.5		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：大木解剖	14/16 完形
107-124	遺構 I	瓶	透明	14	2.2	6.2		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：「東京尾津製」、裏面：「全治水」	完形
107-125	遺構 I	瓶	白	09	1.5	4.3		盤合わせ口(口縁から底部)	正面陽刻：「田嶋ケレサソト」	完形
107-126	遺構 I	瓶	淡黄透明	12	1.6	4.8		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)		完形
107-127	遺構 I	瓶	透明	16	2.5	5.8		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)		4/5
107-128	遺構 I	瓶	淡水透明	18	2.4	5.7		気泡有り、盤合わせ口(口縁から底部)、 コルク栓付		完形

固形 番号	出土 遺構	器種・形	色調	法量			技法 / 文様 / その他	備考	進存度
				口径	底径	高さ			
107-129	遺構 1	素瓶	淡黄透明	1.6	2.1	5.5	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)、コルク栓 (径: 0.8、高: 1.1cm) 付		完形
107-130	遺構 1	素瓶	淡緑透明	1.1	1.5	4.9	最大径 1.6	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)、器形や身をむき	完形
108-131	遺構 1	素瓶	透明	1.6	2.9	6.1	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)	正面彌制: 「參天堂樂房」、裏面: 「大學日鑑」	完形
108-132	遺構 1	素瓶	透明	1.6	2.9	6.1	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)	正面彌制: 「參天堂樂房」、裏面: 「大學日鑑」	完形
108-133	遺構 1	口垂瓶	藍色	1.5	2.6	5.6	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)	正面彌制: 「本舗山田友民」、裏面: 「ロート日鑑」	完形
108-134	遺構 1	素瓶	透明	1.0	-	5.2	堅合わせ口 (口縁から底部)	丸蓋入れ	ほぼ完形
108-135	遺構 1	瓶	藍色	1.6	1.8	5.2	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)、本表に繩のようなあわい	木製カバー付	完形
108-136	遺構 1	プレス硝子	淡緑透明	1.3	-	6.1	(蓋) 取っ手部分に堅合わせ口、蓋・身: ダイヤモンド射線で構成された模様		2/5
				身 (12.6)	-	-	(蓋) 取っ手部分に堅合わせ口、蓋・身: 色の意匠、外底: 素朴の意の陽刻		
108-137	遺構 1	プレス硝子	淡黄透明	1.9	2.2	4.1	身 (9.2)	合わせ口無し、ダイヤモンド射線で構成された模様	口縁小片
108-138	遺構 1	プレス硝子	青透明	-	-	(2.6)	合わせ口無し、花と射線で構成された模様		
108-139	遺構 1	プレス硝子	淡水透明	-	-	(2.9)	合わせ口無し、花と射線で構成された模様	底部小片	
108-140	遺構 1	プレス硝子	透明	9.8	5.0	1.6	合わせ口無し、内面: 無文、外面: 射線を基調とした模様		1/2
108-141	遺構 1	ガラス容器 の蓋	透明	8.7	-	5.6	最大径 9.5	気泡有り、合わせ口無し	2/3
108-142	遺構 1	ランプ シェード	-	-	(5.2)	合わせ口無し、無色透明地に白ストライプ模様、縁から内側に向かって赤色のボカシ		不明	
109-143	遺構 1	ガラスコップ	透明	(6.4)	-	(5.2)	気泡有り、合わせ口無し		口縁小片
109-144	遺構 1	グラス	透明	-	-	(1.5)	気泡有り、合わせ口無し、印字有り	金字: 「サッポロビール」、マーク: 「SAPPORO BEER」	口縁小片
109-145	遺構 1	ボトル?	墨透明	-	-	-	気泡有り、合わせ口無し、印字有り	陽刻: 「VALE」「M」後に文字続く可逆性	不明
109-146	遺構 1	グラス	淡緑透明	4.8	4.8	8.8	気泡有り、合わせ口無し、サンドプラス		4/5
109-147	遺構 1	グラス	透明	5.4	3.6	4.4	気泡有り、合わせ口無し、上給付け (模様不明)		1/3
109-148	遺構 1	グラス (脚 部)	透明	-	-	(2.4)	気泡有り、合わせ口無し		不明
109-149	遺構 1	グラス (底 部)	透明	-	4.0	(1.2)	気泡有り、合わせ口無し		不明
109-150	遺構 1	不明 (瓶丸)	透明	7.8	8.0	2.5	気泡有り、合わせ口無し、高台状の底部		完形
109-151	遺構 1	不明 (瓶丸)	透明	-	-	(2.3)	気泡有り、合わせ口無し、高台状の底部	内底部中央: エンボス模様有り	不明
109-152	遺構 1	ランプ シェード	乳白色	10.4	-	-	合わせ口無し		不明
109-153	遺構 1	ランプ シェード	乳白色	-	-	(2.5)	合わせ口無し		不明
109-154	遺構 1	用器不明	乳白色	-	6.0	(5.2)	合わせ口無し		不明
109-155	遺構 1	ランプの部 品	淡緑透明	3.3	1.8	3.3	最大径 3.7	気泡有り、合わせ口無し	2/3
109-156	遺構 1	ランプの部 品	乳白色	-	(2.0)	(1.8)	合わせ口無し、底部ネジ式		不明
109-157	遺構 1	用器不明	淡緑透明	-	-	(2.6)	最大径 2.8	気泡有り、合わせ口有り	不明
109-158	遺構 1	ランプ燃料 入れ	青緑透明	-	-	(4.8)	最大径 6.4	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)、取っ手後付	不明
109-159	遺構 1	ランプ燃料 入れ	淡緑透明	-	-	(5.0)	最大径 (6.0)	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)、取っ手後付	不明
109-160	遺構 1	ランプ燃料 入れ	淡緑透明	-	-	(4.2)	最大径 5.3	気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)、取っ手後付	不明
109-161	遺構 1	棒状ガラス	透明	長 18.4	径 0.7	-	気泡有り、振りあげ、調度品 (すだれ) か		不明
109-162	遺構 1	棒状ガラス	透明	長 14.9	径 0.7	-	気泡有り、振りあげ、調度品 (すだれ) か		不明
109-163	遺構 1	棒状ガラス	透明	長 19.0	径 0.5	-	気泡有り、振りあげ、調度品 (すだれ) か		不明
109-164	遺構 1	棒状ガラス	透明	長 13.2	径 0.5	-	気泡有り、振りあげ、調度品 (すだれ) か		不明
110-165	遺構 1	瓶	透明	-	-	(8.5)	人型、気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)	背面彌制: 「小松」「意登」、小松崎割か	2/3
110-166	遺構 1	瓶	淡緑透明	-	2.3	5.8	透彌制、気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)、底部ネジ式、金属片残存	背面彌制: 「小松崎製」	完形
110-167	遺構 1	瓶	透明	-	2.3	9.3	大態、気泡有り、堅合わせ口 (口縁から底部)、底部ネジ式、金属片残存	背面彌制: 「小松崎製」	完形
110-168	遺構 1	石ケリ	白緑色	径 7.7	-	厚 0.7	表面中央彌制: 剥離に流水文、底部: 剥離		完形

図版 番号	出土 遺構	器種・器形	色調	寸法			找法/文様/その他の 特徴	参考	進存度	
				口径	底径	器高				
110-169	遺構 I	石ケリ	白緑色	径 7.2	-	厚 0.7	表面中央傷剥：粘液に流水文 底部：擦れ痕		完形	
110-170	遺構 I	石ケリ	普通明	径 (7.5)	-	厚 0.8	気泡有り。表面中央傷剥：粘液に流水文 底部：擦れ痕	1/2		
110-171	遺構 I	石ケリ	木透明	径 (7.2)	-	厚 0.7	気泡有り。表面中央傷剥：粘液に流水文 底部：擦れ痕	1/3		
110-172	遺構 I	石ケリ	緑透明	径 (7.4)	-	厚 0.7	気泡有り。表面中央傷剥：不明文様 底部：擦れ痕	2/3		
110-173	遺構 I	石ケリ	薄緑透明	-	-	厚 0.7	気泡有り。表面中央傷剥：不明文様 底部：擦れ痕	不明		
110-174	遺構 I	石ケリ	淡緑透明	径 7.2	-	厚 0.9	気泡有り。表面中央傷剥：花菱文 全面：擦れ痕	完形		
110-175	遺構 I	石ケリ	緑透明	径 6.8	-	厚 0.8	気泡有り。表面中央傷剥：底の中に旋、 桜花・波	完形		
110-176	遺構 I	石ケリ	白緑色	-	-	厚 0.7	表面中央傷剥：粘液に流水文	不明		
111-177	遺構 I	石ケリ	緑透明	径 (4.8)	-	厚 0.7	気泡有り。表面中央傷剥：粘液に流水文 全面擦れ痕	1/2		
111-178	遺構 I	石ケリ	緑かった	径 4.6	-	厚 0.7	気泡有り。表面中央傷剥：底の中に旋、 桜花・波 全面擦れ痕	完形		
111-179	遺構 I	石ケリ	透明	径 5.1	-	厚 0.95	気泡有り。表面中央傷剥：長電鉄 全面：擦れ痕	完形		
111-180	遺構 I	石ケリ	普通明	径 (4.85)	-	厚 0.7	気泡有り。表面中央傷剥：長電鉄か	1/2		
111-181	遺構 I	石ケリ	木透明	径 3.5	-	厚 0.7	気泡有り。表面中央傷剥：15年の花 全面擦れ痕	ほぼ完形		
111-182	遺構 I	石ケリ	緑透明	径 3.3	-	厚 0.7	気泡有り。表面傷剥：文様不明 粗悪品	完形		
111-183	遺構 I	石ケリ	白緑色	-	-	厚 0.65	表面中央傷剥：文様不明	不明		
111-184	遺構 I	石ケリ	透 (4.2)	-	-	厚 0.7	気泡有り。表面中央傷剥：梅 裏面：擦れ痕	1/2		
111-185	遺構 I	おはしき	普通明	長径 2.0	短径 1.8	厚 0.4	気泡有り。表面一部擦む	完形		
111-186	遺構 I	おはしき	淡緑透明	長径 1.4	短径 1.3	厚 0.3	気泡有り。表面一部擦む	完形		
111-187	遺構 I	おはしき	黄緑透明	長径 1.5	短径 1.5	厚 0.3	気泡有り。表面一部擦む	完形		
111-188	遺構 I	おはしき	黄緑透明	長径 1.6	短径 1.5	厚 0.4	気泡有り。表面一部擦む	完形		
111-189	遺構 I	おはしき	黄緑透明	長径 1.6	短径 1.5	厚 0.4	気泡有り。表面一部擦む	完形		
111-190	遺構 I	おはしき	透明	長径 1.5	短径 1.3	厚 0.5	気泡有り。合せ口目無し	完形		
111-191	遺構 I	おはしき	乳白色	長径 1.6	短径 1.4	厚 0.3	気泡有り。合せ口目無し	完形		
111-192	遺構 I	おはしき	透明	長径 (1.3)	短径 1.3	厚 0.4	気泡有り。合せ口目無り	ほぼ完形		
111-193	遺構 I	A玉	透緑透明	径 1.8	-	厚 1.8	気泡有り。全面擦れ痕	完形		
111-194	遺構 I	B玉	透緑透明	径 1.7	-	厚 1.7	気泡有り。加工作時の切削痕	完形		
111-195	遺構 I	B玉	透緑透明	径 1.8	-	厚 1.8	気泡有り。全面擦れ痕、加工時の切削痕	完形		
111-196	遺構 I	B玉	透緑透明	径 1.8	-	厚 1.8	気泡有り。加工作時の切削痕	完形		
111-197	遺構 I	B玉	普通明	径 1.5	-	厚 1.5	気泡有り。全面擦れ痕、加工時の切削痕	完形		
111-198	遺構 I	B玉	透緑透明	径 1.6	-	厚 1.6	気泡有り。加工作時の切削痕	完形		
111-199	遺構 I	瓶	透緑透明	38	52	12.6	気泡有り。合せ口目無し	完形		
111-200	遺構 I	小瓶	透青緑透明	1.5	3.0	8.6	気泡有り。合せ口目無し、頭部歪む	完形		
111-201	遺構 I	小瓶	緑青色透明	1.5	29	8.6	気泡有り。合せ口目無し、頭部歪む	完形		
111-202	遺構 I	瓶	透明	29	39	7.8	気泡有り。塑合わせ口目 (口縁から底部)	完形		
111-203	遺構 I	瓶	透明	27	45	7.8	気泡有り。塑合わせ口目 (口縁から底部)	完形		
111-204	遺構 I	瓶	透明	20	37	7.0	気泡有り。塑合わせ口目 (口縁から底部) 外底部傷剥：「D」	完形		
111-205	遺構 I	小瓶	透明	20	31.5	6.9	気泡有り。塑合わせ口目 (口縁から底部)	完形		
111-206	遺構 I	小瓶	透明	28	35	6.5	気泡有り。塑合わせ口目 (口縁から底部)、 内面部付着	完形		
111-207	遺構 I	瓶	淡黄透明	27	35	6.4	気泡有り。塑合わせ口目 (口縁から底部)	完形		
111-208	遺構 I	瓶	透明	(28)	3.0	(8.0)	気泡有り。塑合わせ口目 (口縁から底部)、外底部傷剥：「BK」	ほぼ完形		
112-209	遺構 I	瓶	淡青緑透明	28	-	(3.0)	気泡有り。塑合わせ口目無し	口縁部小片		
112-210	遺構 I	瓶	茶色	24	-	(4.3)	気泡有り。塑合わせ口目無し	口縁部小片		
112-211	遺構 I	瓶?	透明	-	3.4	(2.3)	気泡有り。塑合わせ口目無し	底部小片		
112-212	遺構 I	瓶	透明	13	1.6	5.1	幅 24 气泡有り、塑合わせ口目 (口縁から底部) 脱部底剥：薄柄様、胴部傷剥：「C」、底部傷剥：「H176」	ほぼ完形		
112-213	遺構 I	哺乳瓶	透明	Ø (3.4)	-	29	塑合わせ口目、底部ボンジ式、中央丸孔有り	上部傷剥：「HONIUKI 今 K」	完形	
112-214	遺構 I	ガラス栓	透黃透明	1.4	下径 1.2	3.4	幅径 2.8 气泡有り、塑合わせ口目無し、脱部底剥クリ	上部傷剥：「HONIUKI 今 K」	ほぼ完形	
112-215	遺構 I	ガラス栓	透明	1.2	下径 1.0	2.7	底径 3.2 气泡有り、塑合わせ口目無し、各頭部円形、脱部底剥クリ	ほぼ完形		
112-216	遺構 I	ガラス栓	透明	Ø 2.0	下径 1.6	3.1	底径 3.2 气泡有り、塑合わせ口目無し、脱部底エンボス有り、脱部に孔が開けられているが貫通していない	ほぼ完形		
112-217	遺構 I	化粧瓶	透黃透明	-	2.0	4.4	幅最大径 2.0 气泡有り、塑合わせ口目無し、脱部底内円形、脱部底中心に凹み、脱部底剥クリ	ほぼ完形		
112-218	遺構 I	化粧瓶	透明	-	1.4	3.8	幅最大径 2.0 气泡有り、塑合わせ口目無し、脱部底剥クリ	ほぼ完形		
112-219	遺構 I	ガラス栓	透明	-	1.8	4.0	幅最大径 2.0 气泡有り、塑合わせ口目無し、脱部底剥クリ	完形		

回収 番号	出土 遺構	器種・器形	色調	法量				技法 / 文様 / その他	備考	進度
				口径	底径	高さ	備考			
112-220	遺構 1	ガラス粒	透明	-	4.8	4.0	袖・横 3.2	気泡有り、堅合わせ目無し、径部擦り痕（密閉型であるが中に液体とビンク状の物質が入る）。检测部半円錐状の構付（後付け）		完形
112-221	遺構 1	白粉軽松	透明	-	3.6	4.1	横最大径 1.8	気泡有り、堅合わせ目無し。检测部球形、粉軽部尖端有り、径部擦り痕		完形
112-222	遺構 1	白粉軽松	透明	-	3.2	4.2	横最大径 1.8	気泡有り、堅合わせ目無し。检测部格門球形、检测部尖端あり、径部擦り痕		完形
112-223	遺構 1	白粉軽松	透明	-	2.6	2.8	横最大径 2.4	気泡有り、堅合わせ目無し。检测部やや丸味を帯びる。检测擦り痕		完形
112-224	遺構 3	板ガラス	浜青緑透明	直径 6.2	-	厚 0.4		気泡無し、中央に向かって厚くなる	円形	完形
112-225	遺構 3	板ガラス	浜青緑透明	直径 4.6	-	厚 0.15		気泡無し、板状ガラス製品	円形	完形
112-226	遺構 3	板ガラス	浜青緑透明	直径 3.5	-	厚 0.1		気泡無し、板状ガラス製品	円形	完形
112-227	遺構 3	板ガラス	浜青緑透明	-	-	厚 0.2		気泡無し、板状ガラス製品	八角形	不明
112-228	遺構 3	板ガラス	浜青緑透明	-	-	厚 0.3		気泡無し、板状ガラス製品	楕円形	不明

表 12 近代遺構出土石製品観察表 (単位 : cm)

回収 番号	出土 遺構	材質	器種	法量				備考	進度
				長さ	幅	厚さ	重さ		
113-1	遺構 1	石製品	鏡	7.8	4.8	高 1.3	101.9g	墨線の縁に朱墨が残る。检测部に凹窓による模様がある。松か?	4/5
113-2	遺構 1	石製品	鏡	17.9	4.3	高 1.0	51.6g	墨丘の中央を斜めくぼく全面に朱墨付着。朱の上に墨。確認済む	3/5
113-3	遺構 1	石製品	碁石(黒)	径 2.2	-	0.6			
113-4	遺構 1	石製品	碁石(黒)	径 1.5 ~ 1.6	-	0.3		無画面取り	未検品
113-5	遺構 1	石製品	碁石(黒)	径 1.4 ~ 1.5	-	0.25		無画面取り	未検品
113-6	遺構 1	土製品	碁石(白)	径 1.7	-	最大 0.75		中央に向かって厚くなる。表面に白色顔料	完形品
113-7	遺構 1	土製品	碁石(白)	径 1.8	-	最大 0.66		中央に向かって厚くなる。表面に白色顔料	完形品
113-8	遺構 1	土製品	碁石(白)	径 1.8 ~ 2.0	-	0.7		赤褐色	未検品
113-9	遺構 1	骨角製品		径 2.6	-	0.15		赤褐色	未検品
113-10	遺構 1	石製品	碁石(白)	径 2.1	-	0.3 ~ 0.4		無画面取り	未検品
113-11	遺構 1	石製品	ボルミル?	Ø 3.7	-			本來球状と思われる。大理石。灰白色。中央は帶状に厚く鉄分付着	
113-12	遺構 1	石製品	ボルミル?	Ø 3.9	-			本來球状と思われる。大理石。灰白色	
113-13	遺構 1	石製品	砥石 不明	6.3	6.3	4.8		荒砥 砂岩 産地不詳 検査済	
113-14	遺構 1	石製品	砥石 扇口	8.4	7	2.8		荒砥 砂岩 岩口 扇研ぎ	
113-15	遺構 1	石製品	砥石 不明	8.7	3.3	2.3		中砥 薙灰岩 (朱色) 前田貢 (アオ) 中研ぎ	
113-16	遺構 1	石製品	砥石 合掌寺	2.9	4.4	2.7		中砥 薙灰岩 静岡県大川町合掌寺 合掌寺のアオ 中研ぎ	
113-17	遺構 1	石製品	砥石 合掌寺	3.8	4	1.8		(仕上砥) 薙灰岩 静岡県大川町合掌寺 合掌寺のシロ 仕上研ぎ	
113-18	遺構 1	石製品	砥石 合掌寺	2.5	2	1.6		中砥 薙灰岩 静岡県大川町合掌寺 合掌寺のアオ 中研ぎ	
113-19	遺構 1	石製品	砥石 上野	6.6	6	1.1		仕上砥 白羽 上野産 田頭研 仕上研ぎ	
113-20	遺構 1	石製品	砥石 上野	14.8	6.8	4.7		仕上砥 薙灰岩 上野産 岐沢砥 中砥ご一仕上研ぎ	
114-21	遺構 1	石製品	砥石 呼吸	15.1	4.8	3.2		仕上砥 白羽 呼吸石 黑殿 (内筒) 仕上研ぎ	
114-22	遺構 1	石製品	砥石 磨片 磨石 呼吸?	8.8	5.6	0.3		鏡? ミラー? 黑色無鉄羽 呼吸石? 若千子?	
114-23	遺構 1	石製品	砥石 磨片	4.3	4.3	0.5		屋根瓦? スレート? 雄勝町 玄昌岩 磨片 白羽	
114-24	遺構 1	石製品	砥石 磨片	15.7	5.7	2		敷石 ステート 牡鹿 稲生石 磨片 白羽	
114-25	遺構 1	石製品	砥石	3.9	3.7	1		穂灰岩	
114-26	遺構 1	石製品	石材	3.3	2.7	2.5		上葉畠石材 石灰岩質 全面に電鋸痕あり 三角錐状	
114-27	遺構 1	石製品	石材	3.8	1.8	2.3		上葉畠石材 石灰岩質 全面に電鋸痕あり 三角錐状	
114-28	遺構 1	石製品	石材	2.9	1.3	1.5		上葉畠石材 石灰岩質 離析	
114-29	遺構 1	石製品	人造石	5.7	1.8	1.8		ロウ石様の波打リ物	
114-30	遺構 1	石製品	石	5.5	4.8	2		貝殻が衝じる	
114-31	遺構 1	石製品	石墨	30.0	徑 0.6			材質不明、端部失る	不明

表13 近代遺構出土金属製品 觀察表 (单位: cm)

119-56	造機 1	金属製品	棒	長 (33.1)	幅 (0.4)	厚 (0.4 ~ 0.5)	脚部六角形を呈す。下部円形に凹部が3つつけられている	不明
119-57	造機 1	アルミ製	スプレー	長 6.1	-	0.5	-	一枚の金属板を加工し成形している
119-58	造機 1	金属製品	形状金属製品	長 (6.7)	径 0.4	-	底面を施す裏面に刷印「METAL FERRF」間に縦のようなマークがある	完形 不明
119-59	造機 1	金属製品	路	長 (8.6)	幅 (3.0)	厚 (0.1)	先端 2ヶ所欠損	2/3
119-60	造機 1	金属製品	座卓	長 (8.2)	幅 (4.2)	(0.9)	内外面白色	1/2
119-61	造機 1	金属製品	属性不明	長 (7.7)	幅最大 1.4	厚最大 1.0	金属に成型り付いている。金属部 2ヶ所無い棒状の部分が飛んでる	不明
119-62	造機 1	金属製品	属性不明	長 22.6	幅 1.4	厚 0.4	ハウジングの金属部、端部に切欠きがある	不明
119-63	造機 1	金属製品	鏡	長 (7.5)	幅 (5.2)	厚 (1.1)	南京錠、引ひかけする部分円柱のみ固定される。鍵穴廻く	完形
119-64	造機 1	金属製品	鏡	長 (6.1)	幅 (4.7)	厚 (1.1)	片面に2ヶ所のこのような突出部有り、1ヶ所孔有り	不明
119-65	造機 1	金属製品	鏡	長 (6.1)	幅 (4.8)	厚 (0.8)	片面に2ヶ所のこのような突出部有り、1ヶ所孔有り	不明
119-66	造機 1	金属製品	器皿	幅 8.9	高 8.6	厚 0.5	牡丹と蝶の彫刻	不明
119-67	造機 1	金属製品	機械手	幅 7.6	高 6.4	厚 1.1	鳥と花の彫刻 上の断面中央に斜めの穴あり	ほぼ完形
119-68	造機 1	金属製品	機械手	幅 7.2	高 2.4	厚 0.9	上の断面中央に斜めの穴あり	ほぼ完形
119-69	造機 1	金属製品	ケース	幅 9.5	高 8.0	1.0	薄い、内外両面の一部分色・朱色残る	不明
119-70	造機 1	金属製品	用途不明品	幅 (11.5)	幅 (6.4)	高 (2.1)	内外面銀面、内面側物多い	不明
119-71	造機 1	金属製品	容器	長 (9.8)	幅 (2.5)	高 (0.9)	内外面銀面、内面側物多い	不明
119-72	造機 1	金属製品	ケース	長 (9.6)	幅 (6.5)	1.6	内外面一部は朱色残る	不明
130-73	造機 1	金属製品	板状小片	長 (9.5)	幅 (2.4)	厚 (0.1)	用途不明、金屬小片	不明
130-74	造機 1	金属製品	ネジ状	直径 1.5	幅 1.3	厚 0.1	用途不明、端部にネジ式有り、内部空洞	不明
130-75	造機 1	金属製品	自転車バーツ	長 (14.2)	幅 (3.7)	(4.5)	全面研ぎ	不明
130-76	造機 1	金属製品	自転車ペダル	長 (10.1)	幅 (5.3)	厚 (5.1)	全面研ぎる。金属部の間にゴム状の物質が挟まれている。金属外側削り、不明	不明
							液状に加工されている	
130-77	造機 1	鉄製品	ネジ	長 16.2	-	6.7	全体研ぎる。下部のみネジ式の軸跡残る	完形
130-78	造機 1	炭素棒?	本体	幅 16	長 -	-	用途不明、ボロボロの砂質状のものに金属棒がとりつけられている	不明
			芯棒	幅 0.5	長 (6.8)	-		
130-79	造機 1	炭素棒?	本体	幅 17	長 -	-	用途不明、ボロボロの砂質状のものに金属棒がとりつけられている	不明
			芯棒	幅 0.7	長 (6.5)	-		
130-80	造機 1	用途不明	金属棒ゴム付	金属部直径 0.3	長 9.7	厚 0.4 ~ 0.3	真鍮管か、先頭部円形のゴムが嵌め込まれて、中央に沈線がある。先端部ネジ式	不明
			ゴム	幅 1.6	-	-		
130-81	造機 1	プラスチック	円形カバー把手	幅 4.2	-	-	直径2ヶ所貫通孔あり、棒の端部と円形の中心部はネジ式で接続できるようになっている	不明
			チャック	手付	カバー直径 2.4	-		
130-82	造機 1	プラスチック	円形カバー	直径 2.4	高 10	厚 0.2	外表面銀面有り。中心部に 0.3mm の貫通孔。内面ネジ式	不明
			チャック	-	-	-		
130-83	造機 1	鉄製品	輪	幅 5.5	内幅 3.0	厚 0.7	内外両面研ぎしている	不明
130-84	造機 1	鉄製品	釘	長 8.4	幅 1.5	1.2	外表面研ぎしている。先端部折り曲げられている	不明
130-85	造機 1	金属製品	カバー?	長 13.5	幅 9.8	3.9	外表面銀面有り。黒同じくに部分が取り付けられていたと思定される乳孔ケ所有り。中央にネジ式。圓形の形のが受けられている。外表面一部は色	不明
			-	-	-	-		
130-86	造機 1	金属製品	輪	直径 5.5	-	厚 0.5	針金で2往。巻きついている	不明
130-87	造機 1	金属製品	輪	直径 5.7	-	厚 0.8	直径 1mm の空孔2つあり	不明
130-88	造機 1	木製品	用途不明品	長 5.6	幅 1.9	厚 1.4	木製品に金属チャップが挟み込まれている。金属片の中央に直径 1mm の穴があり、金属部の一部、一部金色残る	不明
			-	-	-	-		
130-89	造機 1	鉄製品	用途不明	幅 5.5	直径 3.7	厚 0.4	筋毛で化粧している。J字状の金剛に丸を施し金製の輪を通している	不明
			-	-	-	-		
130-90	造機 1	金属製品	用途不明	幅 2.9	幅 0.9	0.25	針金の棒の先端に丸孔有り、孔には細い金属製の輪がつけられている	不明
130-91	造機 1	金属製品	不明	長 (14.5)	幅 (1.2)	1.4	用途不明、薄い板状に山型に曲げられている	不明
130-92	造機 1	鉄製品	5 字状	長 (10.5)	幅 (5.5)	書材 (0.3)	金属の棒を 5 字形に形成したもの	不明
130-93	造機 1	金属製品	専用具	幅 (6.0)	-	厚 (0.05)	内側に 2 つの沈線ある。無色	不明
130-94	造機 1	金属製品	S 状管	長 (5.5)	幅 (4.7)	-	番號と S 字形に加工したものの	不明
121-95	造機 1	鉄製品	用途不明品	幅 (21.5)	直径 (0.3)	厚 0.1	2 本の金属部の端部が、金板に全員で固定されている	不明
			横 (8.6)	-	-	-		
121-96	造機 1	鉄製品	用途不明品	長 33.0	幅 1.5	厚 0.4	用途不明、J 字状の孔に丸を施し金製の輪を通している	不明
121-97	造機 1	金属製品	鉗子 用途不明	全長 30.4	直径 1.4	-	用途不明、細い鉗子の棒が本製の柄に取り付けられている	不明
			端部直径 0.1	-	-	-		
			持手長 13.7	-	-	-		
121-98	造機 1	鉄製品	用途不明品	長 13.1	幅 1.1 ~ 2.5	厚 0.1	用途不明、薄い板状の金属を折り込んでいる。全体縫いでいる	不明
121-99	造機 1	鉄製品	用途不明品	長 -	幅 1.3	厚 0.3	用途不明、先端部丸孔有り、輪状に曲げられている	不明
121-100	造機 1	鉄製品	鏡	長 14.5	幅 0.8	厚 0.8	四角い金属部の両端部を丸めて折り曲げている	完形
121-101	造機 1	鉄製品	鏡	長 13.1	幅 0.5	厚 0.6	四角い金属部の両端部を丸めて折り曲げている	完形
121-102	造機 1	鉄製品	用途不明品	幅 5.7	幅 5.5	厚 0.5	中心孔 2.0	不明
			横 (8.6)	-	-	-		
122-103	造機 1	金属製品	洋傘本体	全長 74.0	-	-	支柱本體、石突きと金製のカバーで覆われている。骨 10 本	不明
122-104	造機 1	金属製品	洋傘本体	全長 (64.5)	支柱の径	-	石突き、下口クロコドイル金製のカバーで覆われている。骨は既存、骨 8 本	不明
			（0.8m）	-	-	-		
122-105	造機 1	金属製品	洋傘の柄	長 (31.0)	幅 (0.9)	最大径 (2.5)	金製部のカバーが付けられている	不明
122-106	造機 1	鉄製品	雨帽の受け	受け : 幅 10.7	高さ : 17.8	-	板状の金属を U 字状に曲げ、軸部の金属（穿孔有り）が取り付けられていない。	不明
			-	-	-	-		
122-107	造機 1	鉄製品	雨帽のえみ	受け : 幅 18.0	高さ : 11.6	-	板状の金属を U 字状に曲げ、軸部の金属（穿孔有り）が取り付けられていない。	不明
122-108	造機 1	鉄製品	雨帽のえみ	受け : 幅 15.0	高さ : 10.5	-	板状の金属を U 字状に曲げ、軸部の金属（穿孔有り）に曲げ、軸部の金属（穿孔有り）が取り付けられている。	不明
			-	-	-	-		
122-109	造機 1	鉄製品	雨帽の支柱	長 (14.8)	-	-	板状の金属を U 字状に曲げ、軸部の金属が取り付けられている。横蓋鐵しきい	不明
			-	-	-	-		
122-110	造機 1	織物製品	-	全長 86.0	-	-	先端部を中心横状に、端部を U 字状に折り曲げている。用途不明	不明
			-	-	-	-		
122-111	造機 1	鉄製品	床ならし	全長 20.0	最大幅 12.2	直徑 0.5	金属棒 4 本を束ね、頭手状にし、範囲の金属をとり付けている	不明
122-112	造機 1	金属製品	衣釦かけ?	掛け幅 0.4	取付部厚 0.2	-	小花と草花文様 裏面に接着痕有り	不明
			取付部長 6.2	-	-	-		

E23-114	造機 I	鉄製品	フックねじ	長 9.9	径 1.9		金属製のフックにネジが取り付けられている	ねじは定形
E24-115	造機 I	全鋼製品	輪	径 25.5	-		輪の内側に閉塞部があり、萬能軸が激しい	小明
E24-116	造機 I	全鋼製品	金網	全長 32.0	幅 22.0		金網丸棒で複数回ねじられれている	小明
E24-117	造機 I	樹脂製品	認證不明	全長 34.0		厚 0.4	金属棒 U字状に加工し、端部を端状に曲げている	小明
I-25-118	造機 I	金屬製品	火箸	長 50.0	径 0.5		先端部環状 先端部突っっている	1/2
I-25-119	造機 I	樹脂製品	火箸	長 27.0	径 0.4		先端部環状 先端部突っている	1/2
I-25-120	造機 I	樹脂製品	火箸	長 27.0	径 0.3		先端部環状 先端部突っっている	1/2
I-25-121	造機 I	鉄製品	火箸	長 20.8	幅 0.5	厚 0.4	西角に鍛造	1/2
I-25-122	造機 I	鉄製品	針	長 10.0	頭部幅 0.35		全体的に錐形で	定形
I-25-123	造機 I	鉄製品	針	長 12.3	頭部幅 0.4		全体的に錐形で、一部付着物有、鍛状に曲げられている	定形
I-25-124	造機 I	銅合金品	用途不明	直径 11.0			金属帶状 (幅 0.7cm) が輪状につながる	小明
I-25-125	造機 I	不明	用途不明品	全長 40.0	径 0.4		金属棒 U字状に加工している	不明
I-25-126	造機 I	金屬製品	用途不明品	長 (77.0)	直径 (0.4)		端部を細く削り、接合部を細い針金で縫合している	不明
I-25-127	造機 I	全鋼製品	工具バー/ペイ	横幅 (3.7)	-	厚 (0.1)	端部に刃物を接着	不明
I-25-128	造機 I	金屬製品	四四針	幅 5.3		幅 0.05	側面に不規則な孔有り	不明

表14 近代遺構出土木製品 觀察表 (單位: cm)

版番号	出土遺構	器種	法量					備考	遺存度
			(a)	(b)	(c)	(d)	(e)		
I26-1	遺構 1	荷札	18.2	5.9	1.0			墨書「相州鷺舎町扇ヶ谷鎌倉山臨 本多家御別荘」ト 本多正憲殿 志太郡鷺舎町水守菊屋晋一」トヶ所空孔有り	
I26-2	遺構 1	荷札	19.3	7.4	0.7			墨書「相州鷺舎 鳥ヶ谷 斯波忠三郎様 行刊」	
I26-3	遺構 1	木札	19.0	4.7	0.5			墨書「相州鷺舎 鳥ヶ谷 木村重■一 清水…」	
I26-4	遺構 1	荷札	24.1	5.5	0.7			墨書「ハマ ○キ (○の中にキ) 三 大■ (字跡) 青茶バラ葉■ (三枚) 千■ (茶跡) 四百人 ■ 内■■■■■六百■入り 新井」トヶ所空孔有り	
I26-5	遺構 1	荷札	13.5	5.1	1.2			墨書「鷺舎」、トヶ所空孔有り	
I26-6	遺構 1	木札	15.0	3.4	0.9			墨書「(表)」「(裏)」「」	
I26-7	遺構 1	荷札	8.0	11.5	0.4 ~ 0.8			墨書「」、トヶ所空孔有り	
I26-8	遺構 1	荷札	12.6	4.5	0.5			上端感熱及び表面黒然により劣化。墨書「…」	
I27-9	遺構 1	部材	12.1	3.5	0.4 ~ 0.7			墨書判不能、トヶ所空孔有り	
I27-10	遺構 2	部材	10.5	4.7	1.7			墨書「瓦具車」、6 所鉤跡	
I27-11	遺構 1	部材	13.0	6.0	0.7			墨書判不能、表面に傷多段	
I27-12	遺構 1	表札か	14.5	(3.4)	1.0			墨書「表」■■■、「(裏)」■■■(堅厚)」、表面は墨書きが盛り上がる	
I27-13	遺構 1	部材	26.4	6.9	2.1			表面感熱により劣化、墨書き不能、未完鉤込 2 所	
I27-14	遺構 2	部材	16.8	8.2	1.5			焼印「唐春新」、側面に若干剥落する、木釘 2 所墨書きが抜けた孔ミナ所	
I27-15	遺構 1	部材	16.7	8.1	1.4			表面の一部被熱により黒化、裏面損傷激しい、焼印判不能	
I28-16	遺構 1	墨書き赤色塗料	(19.8)	(3.9)	0.9	1.8		柄部は赤色塗料で着色、柄の覆部のみ無着色、3 ャ所鉤跡	
I28-17	漆垂り板(墨書き)	行文字	9.1	8.3	1.1			孔 1 点あり、漆は残存が不良、全面に使っていたと思われる	
I28-18	遺構 1	漆椀	10.2	4.6	6.4			外側黒漆、内面朱漆、高台内黒漆、寄合で丸・輪・松・竹ぶれて出んでおり、やや指彫	
I28-19	遺構 1	漆椀	9.0	4.4	5.8			外側黒漆、内面朱漆。朱漆は黒漆の上から施す。高台黒漆なし。高台内黒漆、外面上には寄合により丸・輪・松・竹	
I28-20	遺構 1	漆椀	12.0	7.2	5.1			底部と高台の境エリグリ、内面朱漆、朱漆は黒の上から施す。外側高台端まで黒漆	
I28-21	遺構 1	漆椀	11.0	7.2	4.8			底部と高台の境エリグリ、内面朱漆、朱漆は黒の上から施す。外側高台端まで黒漆	
I28-22	遺構 1	漆椀	10.2	5.4	5.0			全面黒漆、口縁端部及び隆起部に朱漆。外側は計 15 条の溝を彫る、それぞれの幅 4mm、高台はつくらぎ、底面を彫り抜く	
I28-23	遺構 1	漆椀	-	-	(3.9)			内面朱漆、外側黒漆	
I28-24	遺構 1	漆杯	-	-	(3.5)			内底部及び外側面削離。内面黒漆、外側朱漆	
I28-25	遺構 1	漆器・重?	長 (6.5)	幅 (4.2)	厚 0.3			赤漆	
I28-26	遺構 1	漆器・重?	高 (1.9)	幅 (3.2)	厚 0.3		a・bは同一個体であろうが接合しない		
I28-27	遺構 1	漆器・碗の蓋 か?	(10.0)	(2.5)	(2.9)			つまり内部は、やや暗い赤、点は漆器による文様、文様は不明。全面黒に云々紫色の漆で塗られる	
I28-28	遺構 1	血虫底	(4.6)	(3.3)	(0.15)			片面のみ黒漆	

固版 番号	出土 遺構	器種	法量					備考	遺存度
			(a)	(b)	(c)	(d)	(e)		
129-29	遺構 1	漆器 曲底?	102	10.25	0.6 ~ 0.7			下地黒漆の上に朱漆。斜面は黒色付着物。黒塗りは朱漆の残存部。白又キは朱漆が痕跡に残る箇所	
129-30	遺構 1	袖蓋?	(225)	(102)	1.3			欠損が激しい。本来は円形。端部面取り、表裏および上縁に黒漆、表面には～の中に子が白系の顔料によって描かれる、金子か	
129-31	遺構 1	盤	28.8	25.5	4.8			(上縁) 漆が全体に切り込まれている。(下縁) 邪魔取りを施し、脚を嵌め込む溝を彫りこむ。スレ目立つ。縁々に木蝶子(木釘跡)の孔が空たれ、底板端に丸。周内側に崩みを入れて成形。全面黒漆。虫みが激しい。側板破損部を観て強強	
129-32	遺構 1	方形板	15.8	17.2	0.7			黒漆。剥離著しい	
130-33	遺構 1	箱蓋	12.1	7.7	0.85	0.3		下地黒漆。赤色顔料と金泥により文様。器種不明。箱の蓋か	
130-34	遺構 1	用途不明	22.4	3.3	0.2			本地に黒漆を黒漆で、麦草の葉が朱漆で描く。葉は墨で生地に直接描く	
130-35	遺構 1	用途不明	(9.2)	(3.2)	0.2			本地に黒漆を黒漆で、麦草の葉が朱漆で描く。葉は墨で生地に直接描く	
130-36	遺構 1	移状加工品	(7.8)	1.4	1.15			全面朱漆	
130-37	遺構 1	移状加工品	(20.9)	1.4	1.2			全面朱漆	
130-38	遺構 1	移状加工品	21.5	1.35	1.2			全面朱漆	
130-39	遺構 1	箱側板	18.8	2.6	0.5			両端に切り込み。全体黒漆。表面と側面に朱漆でマーブル状文様	
130-40	遺構 1	箱側板	18.3	2.5	0.5			両端に切り込み。全体黒漆。表面と側面に朱漆でマーブル状文様	
130-41	遺構 1	箱側板	12.3	2.6	0.5			両端に切り込み。全体黒漆。表面と側面に朱漆でマーブル状文様	
130-42	遺構 1	署範	19.4	2.3	1.7			両面、外側側面に円形の痕跡有り法量は組み立て時のもの	
131-43	遺構 1	用途不明	(19.0)	2.0	0.5			裏地に朱漆で新草模様	
131-44	遺構 1	用途不明	15.6	2.7	0.6 ~ 0.3			本地に本施事? 黒漆? 狹有り、側面朱漆と一部裂地が残る	
131-45	遺構 1	用途不明	(12.1)	(2.2)	0.3			片面のみ黒漆残存	
131-46	遺構 1	透窟の把手	17.2	4.8	1.5	0.8		全体に黒漆、再度朱漆。柄下部には孔	
131-47	遺構 1	透窟の把手	14.5	4.8	1.7	0.8		全体に黒漆。柄下部には孔	
131-48	遺構 1	透窟の把手	(10.5)	-	1.75	0.55		全体に黒漆。柄下部には孔	
131-49	遺構 1	透窟の把手	(8.2)	-	(1.5)	0.7		全体に黒漆。柄下部には孔	
131-50	遺構 1	透窟の把手	(4.3)	-	-	0.6		全体に黒漆。	
132-51	遺構 1	黒漆か?	33.0	6.3	2.0			内側底部に横棒を掛けたための影り3箇所。側板2重、から3重。側板を板皮で留める。植物を捲った絆残存。	
133-52	遺構 1	曲物	10.6	2.3	0.6	0.5	0.3	蓋の中央1箇所、外底部3箇所(中央のみ貫通)に木釘痕。桿度0.5 ~ 0.7mm	
133-53	遺構 1	曲物	8.0	3.5	-	0.3	0.3	外底部3箇所(中央のみ貫通)に木釘痕。桿度0.2 ~ 0.5mm。内部残存物の影響で内面及び外面が紫色、紫色。表面が黄白色 ~ 黑褐色に。	
133-54	遺構 1	曲物	15.4	7.0	12.4	1.0	0.8	内面赤色の上に黒色の跡またはペンキで着色。口縁には赤色と白色が分る。外側も一部赤色。外底中央に木釘痕。変形激しく、付着物厚い。	
134-55	遺構 1	粘物	16.0	14.4	7.1	0.6	0.8 ~ 0.6	側板底面より25cmの高さに底板を張る。脚用の頸りが3箇所。隅隅は不規則	
134-56	遺構 1	粘物側板	(11.0)	6.5	(12.0)	-			
134-57	遺構 1	粘物側板	-	5.4	-	-	0.4 ~ 0.6		
134-58	遺構 1	粘物側板	(7.6)	21.7	(7.8)	-	0.8 ~ 0.2	重ねあわせるよう側面を振り	
134-59	遺構 1	粘物側板	(6.5)	21.0	(10.3)	-	0.5		
135-60	遺構 1	縦隔板?	(9.2)	11.3	(7.7)	-	0.5 ~ 0.7	縦の縦隔板か	
135-61	遺構 1	箱?	(11.1)	(18.1)	(11.0)	-	0.1 ~ 0.6		
135-62	遺構 1	博の材か?	(5.9)	(12.7)	-	-	0.7 ~ 1.3	炭化とと思われる	
135-63	遺構 1	竹製品	8.3	9.5	7.5	-	0.5 ~ 1.4	やや歪んでいる	
135-64	遺構 1	竹製品	(4.2)	(3.55)	(5.2)	-	0.1 ~ 1.2	竹筋を残し上下切断	
136-65	遺構 1	蓋?	(21.9)	23.85	0.8	3.6			
136-66	遺構 1	蓋?	(14.8)	21.9	0.2 ~ 0.8	-		フマミ欠損	
137-67	遺構 1	博?	(10.0)	(17.1)	(3.1)	-	(4.6)	栓。欠損	
137-68	遺構 1	博 盖栓	(9.0)	(27.2)	1.0 ~ 2.5	2.9	4.3 ~ 5.0		
137-69	遺構 1	不明品	(2.3)	(15.9)	(2.3)	(2.1)		本木ジの残る孔あり	
137-70	遺構 1	蓋?	(5.7)	(11.6)	(0.7)	3.0		移し手を鉄釘で固定	
138-71	遺構 1	蓋?	(13.4)	(36.9)	2.5 ~ 2.7			縦筋面取り、木釘2ヶ所(端部欠損)	
138-72	遺構 1	蓋?	(7.0)	(30.7)	2.5 ~ 2.8			縦筋面取り、木釘2ヶ所(端部欠損)	
138-73	遺構 1	用途不明	27.1	(12.6)	1.5 ~ 2.0			縦筋面取り、木釘1ヶ所(端部欠損)、表面と端部は炭化	
139-74	遺構 1	蓋?	22.8	21.8	1.0 ~ 1.1			縦筋面取り	
139-75	遺構 1	蓋か底?	(10.8)	(21.0)	0.2 ~ 1.2			縦筋面取り	
139-76	遺構 1	蓋?	15.4	14.7	0.8 ~ 1.5				
140-77	遺構 1	蓋?	(6.3)	(21.6)	0.4 ~ 0.8			縦筋面取り、貫通孔2ヶ所	
140-78	遺構 1	蓋?	(6.2)	(22.9)	0.1 ~ 1.0			縦筋面取り	
140-79	遺構 1	蓋?	(5.0)	(15.7)	0.5 ~ 1.0			縦筋面取り、両面の孔付近は焦げている	
140-80	遺構 1	曲物	(4.5)	(17.7)	0.1 ~ 1.5			縦筋面取り	

図版番号	出土遺構	部材	法量					備考	遺存度
			(a)	(b)	(c)	(d)	(e)		
140-81	追拂 1	蓋の取手か	(3.5)	(23.2)	0.5			貫通孔 2ヶ所	
140-82	追拂 1	曲物	(8.1)	(16.7)	0.4 ~ 0.5			全体に底食	
140-83	追拂 1	蓋	(6.7)	(12.9)	0.3 ~ 0.8			端部面取り	
140-84	追拂 1	蓋	11.2	11.4	0.2 ~ 1.0			端部面取り、刃物痕のような痕有り	
141-85	追拂 1	蓋	16.8	16.8	0.3 ~ 0.6			樹皮紋が通してある	
141-86	追拂 1	蓋	11.2	(11.4)	0.3 ~ 0.5			中央に穿孔、側面を周辺に押しこむ	
141-87	追拂 1	蓋	(7.2)	9.15	0.2 ~ 0.5			周縁に樹皮を押しこむ、中央には管状工具で穿孔を試みたような痕跡あり、しかし穴はあいていない	
141-88	追拂 1	蓋?	11.6	11.6	0.3 ~ 0.4			中央に縱状の金属を打ち込む	
142-89	追拂 1	曲物蓋	16.5	16.8	0.3 ~ 0.6				
142-90	追拂 1	底?	(7.5)	(14.9)	0.3 ~ 0.4				
142-91	追拂 1	曲物蓋	(4.45)	(13.7)	0.25 ~ 0.8			片面に刃物痕有り	
142-92	追拂 1	底?	(5.9)	(13.0)	0.3 ~ 0.6			樹皮紋を通す、材質は楓	
142-93	追拂 1	底?	(5.7)	9.2	0.1 ~ 0.2			端部面取り	
142-94	追拂 1	底?	(4.15)	8.75	0.6 ~ 0.9			表面内面に向けて面取り	
142-95	追拂 1	底?	(5.4)	9.2	0.15 ~ 0.2			端部面取り	
142-96	追拂 1	底?	(5.8)	(8.5)	0.05 ~ 0.2			端部面取り	
143-97	追拂 1	蓋?	10.5	10.3	0.4 ~ 0.5			端部面取り、中央に貫通孔	
143-98	追拂 1	蓋?	(9.2)	9.6	0.1 ~ 0.3			端部面取り、中央に貫通孔	
143-99	追拂 1	蓋?	(9.25)	10.0	0.3 ~ 0.5			端部面取り、中央の孔は貫通せず	
143-100	追拂 1	蓋?	7.8	7.5	0.6			端部面取り、中央の孔は貫通せず	
143-101	追拂 1	蓋?	6.1	6.1	0.1 ~ 0.25			端部面取り、中央に貫通孔	
143-102	追拂 1	蓋?	(5.85)	6.35	0.1 ~ 0.2			端部面取り、中央に貫通孔	
143-103	追拂 1	蓋?	(5.5)	6.2	0.2 ~ 0.3			中央に鉄釘が打ち込まれている	
143-104	追拂 1	蓋?	5.85	5.85	0.1 ~ 0.2			端部面取り、中央に貫通孔	
143-105	追拂 1	蓋?	5.5	5.5	0.2 ~ 0.3			端部面取り、中央に貫通孔	
143-106	追拂 1	蓋?	5.4	5.5	0.2			端部面取り、中央に貫通孔	
144-107	追拂 1	蓋?	5.5	5.5	0.2			端部面取り、中央に貫通孔	
144-108	追拂 1	底?	5.6	5.5	0.3			端部面取り	
144-109	追拂 1	蓋?	(5.4)	6.25	0.1 ~ 0.2			端部面取り、中央に貫通孔	
144-110	追拂 1	蓋?	(4.25)	5.5	0.2			端部面取り、中央に貫通孔	
144-111	追拂 1	底?	(3.3)	5.65	0.3			端部面取り	
144-112	追拂 1	底?	(2.7)	(5.7)	0.1 ~ 0.25			端部面取り	
144-113	追拂 1	底?	(3.15)	5.8	0.1 ~ 0.2			端部面取り	
144-114	追拂 1	曲物?	(4.6)	(5.7)	0.05 ~ 0.2			端部面取り	
144-115	追拂 1	蓋	(3.6)	5.35	0.2			端部面取り、中央に貫通孔	
145-116	追拂 1	筋	17.3	30.8	2.6			底板・横板を鉄釘で打ち付ける	
145-117	追拂 1	筋	9.1	18.5	8.5			底板・横板を木釘・鉄釘両方で打ち付ける	
146-118	追拂 1	部材	(4.2)	(29.0)	(1.4)			釘孔 1ヶ所	
146-119	追拂 1	部材	(4.9)	(31.5)	(1.5)			貫通している釘孔 2ヶ所	
146-120	追拂 1	部材	(4.1)	(31.0)	(1.4)			釘孔 1ヶ所	
146-121	追拂 1	木枠	(6.5)	(7.8)	1.3			枠を釘で固定	
146-122	追拂 1	筋	8.0	9.0	0.7			裏面に黒漆が微量に残る。丁寧に加工。貫通孔 1ヶ所、未完孔 1ヶ所	
146-123	追拂 1	横板	2.9	6.2	0.6			木枠の横板か、釘孔 7ヶ所、うち釘が 1ヶ所に残る	
147-124	追拂 1	筋枕か	14.3	21.1	(5.1)	0.4 ~ 0.8		釘孔 1ヶ所	
147-125	追拂 1	筋枕か	14.4	21.0	(7.7)	0.3 ~ 0.9		釘孔 1ヶ所	
147-126	追拂 1	筋枕か	16.7	(22.5)	13.5	0.3 ~ 0.6		鉄釘 12ヶ所、釘孔 1ヶ所	
147-127	追拂 1	筋枕か	14.7	23.5	12.2	0.3 ~ 1.0		木釘 1ヶ所、鉄釘 3ヶ所、中央に穿孔	
148-128	追拂 1	筋枕か	13.2	15.3	11.3	0.4 ~ 0.8		釘 3ヶ所、釘孔 11ヶ所、中央に穿孔	
148-129	追拂 1	筋枕か	(28.5)	(7.1)	0.5 ~ 0.6			釘 2ヶ所、釘孔 6ヶ所	
148-130	追拂 1	筋枕か	16.4	11.7	0.3 ~ 1.2			上部が底漆より広がる筋か。一枚、漆が切られていない板有り	
149-131	追拂 1	用途不明	38.2	30.4	0.6 ~ 1.5			2点孔が穿たれている	
150-132	追拂 1	差函下駄	10.5	22.6	12.3	8.0	6.0	革製の鼻緒が残る	
150-133	追拂 1	差函下駄	10.1	22.6	12.7	7.7	2.0		略定形
150-134	追拂 1	差函下駄	9.5	21.0	11.4	7.5	7.6		
150-135	追拂 1	差函下駄	9.5	21.0	11.8	7.5	6.0		
151-136	追拂 1	差函下駄	9.0	19.5	11.0	7.0	3.0	赤漆	
151-137	追拂 1	差函下駄	9.0	19.5	10.7	7.5	(1.6)	赤漆	
151-138	追拂 1	差函下駄	9.5	21.0	11.0	7.0	7.0	黒漆が残る。表面は光沢のある漆、裏面は黒いが甘く光沢がない。漆が薄い	
151-139	追拂 1	差函下駄	9.8	21.0	11.3	8.0	(5.7)		
152-140	追拂 1	差函下駄	8.6	16.6	8.7	6.5	(1.6)	表面黒漆、裏面一部赤色漆、刃物で「け」と削られている。木地、裏面	略定形
152-141	追拂 1	差函下駄	8.9	16.7	8.7	6.6	(1.6)	表面黒漆、裏面一部赤色漆、刃物で「け」と削られている。木地、裏面	略定形
152-142	追拂 1	差函下駄	(7.3)	(16.3)	11.5	-	3.0	表面黒漆着付(黄褐色)裏面一部黒色漆付着	1/2 程残存

圖版 番号	出土 遺構	部種	法差					参考	進存度
			(a)	(b)	(c)	(d)	(e)		
152-143	遺構 I	差函下軸	(7.8)	21.3	11.8	-	2.6		1/2 程残存
152-144	遺構 I	差函下軸	(5.8)	(11.4)	-	-	1.6		1/4 程残存
153-145	遺構 I	通函下軸(右)	10.6	22.6	11.9	8.3	4.4	表面 鉄錆の付着物。破損した面に小穴がある。縫隙の面に剝離が見られる。	一部欠損
153-146	遺構 I	通函下軸(左)	10.7	22.5	11.9	8.4	3.7	表面 指痕有り	一部欠損
153-147	遺構 I	通函下軸	(11.0)	(15.0)	-	-	(1.7)	表面 指痕有り	1/2 程残存
153-148	遺構 I	通函下軸	(9.0)	18.0	9.7	7.5	2.3	表面 指痕有り	3/4 程残存
154-149	遺構 I	通函下軸	10.5	(22.5)	-	8.3	2.8	表面 表面の減りが激しい	3/4 程残存
154-150	遺構 I	通函下軸	8.5	16.6	8.5	6.3	1.7	表面 指痕有り、表面 表面の減りが激しい	ほぼ完形
154-151	遺構 I	通函下軸	7.9	14.7	7.7	5.8	(2.0)		3/4 程残存
154-152	遺構 I	通函下軸	(7.4)	(10.0)	-	5.5	3.2		2/3 残存
154-153	遺構 I	通函下軸	(7.5)	(13.3)	(6.6)	(5.2)	2.3	表面 四角の压痕	1/2 程残存
154-154	遺構 I	割り下軸	(6.0)	(6.7)	-	-	1.3	表面 に9箇所斜削痕有り、内5ヶ所表面まで貫通	不明
154-155	遺構 I	通函下軸	(5.5)	(9.4)	-	-	2.8	表面 深い溝がめり込まっている	不明
154-156	遺構 I	通函下軸	(9.1)	(8.7)	-	7.9	1.7	表面 3ヶ所斜削痕有り	1/4 程残存
155-157	遺構 I	卓函下軸(右)	10.3	21.2	11.7	7.4	2.3	表面 崩壊部分鉄錆、小石がめり込む	ほぼ完形
155-158	遺構 I	卓函下軸(左)	10.3	21.1	11.7	7.3	2.4	表面 崩壊部分鉄錆、小石がめり込む	ほぼ完形
155-159	遺構 I	卓函下軸	10.0	20.7	11.8	8.2	3.0		ほぼ完形
155-160	遺構 I	卓函下軸	10.0	20.9	11.7	7.5	2.6		ほぼ完形
156-161	遺構 I	卓函下軸か	9.9	20.5	11.8	7.5	2.3	表面 小石がめり込む	ほぼ完形
156-162	遺構 I	卓函下軸か	(9.5)	(21.0)	12.3	7.2	2.3	表面 黒錆か? 黒色残る。小石がめり込む	4/5 程残存
156-163	遺構 I	卓函下軸か	(9.2)	(21.0)	12.0	(7.7)	2.8		3/4 程残存
156-164	遺構 I	卓函下軸か	9.5	(21.0)	12.5	(8.0)	2.0	後縁孔が4個開いていたのか。もともとの大きさか不明。表面 小石がめり込む	4/5 程残存
156-165	遺構 I	卓函下軸か	(3.8)	(16.2)	-	-	(1.5)		不明
157-166	遺構 I	卓函下軸か	10.2	21.3	11.7	7.6	2.1	表面 2ヶ所斜削痕有り、真まで貫通。表面 崩壊(崩落)の両側2ヶ所斜削痕有り	ほぼ完形
157-167	遺構 I	卓函下軸か	9.3	(21.6)	11.8	7.7	1.5	表面 14箇所の斜削穴、表面 崩壊部分鉄錆、崩壊部周辺に斜削痕有り	ほぼ完形
157-168	遺構 I	卓函下軸か	(8.5)	21.0	12.5	-	(2.6)	一部本地が崩壊。表面 崩壊部分鉄錆、中央一部炭化	3/4 程残存
157-169	遺構 I	卓函下軸か	(9.0)	(15.3)	(11.7)	-	(2.0)	表面 指痕有り、表面 表面の減りが激しい	1/2 程残存
158-170	遺構 I	卓函下軸(左)	(9.7)	20.6	11.7	(7.2)	(2.1)	表面 1ヶ所丸削痕、2ヶ所斜削穴有り	2/3 程残存
158-171	遺構 I	中切り下軸か	(9.5)	(17.8)	-	(7.4)	(2.2)	左右側面に4個削り込み有り	2/3 程残存
158-172	遺構 I	卓函下軸	(8.5)	(16.8)	(9.5)	-	(2.1)	本地やその他の薄くなっている、表面 赤色系の漆が残る。表面 一部焦げたような色あり	1/2 程残存
158-173	遺構 I	卓函下軸	(8.5)	16.8	9.2	6.2	(1.4)	本地やその他の薄くなっている、表面 赤色系の漆が残る	2/3 程残存
158-174	遺構 I	卓函下軸	(8.5)	(12.2)	-	-	(1.0)	表面 崩壊部分クリップを含む繊維状物質	1/2 程残存
159-175	遺構 I	卓函下軸	8.9	16.3	9.8	6.8	1.8		ほぼ完形
159-176	遺構 I	卓函下軸	(8.3)	14.5	7.9	(6.3)	1.5	表面 赤色漆残存、指痕有り	4/5 程残存
159-177	遺構 I	卓函下軸	(7.8)	14.8	(7.9)	(5.7)	1.5	表面 崩壊部分鉄錆	2/3 程残存
159-178	遺構 I	卓函下軸か	(10.0)	(16.4)	-	-	(2.0)	表面 指痕有り	1/3 程残存
159-179	遺構 I	下軸	(10.0)	(10.3)	-	-	(2.5)		1/3 程残存
159-180	遺構 I	卓函下軸か	(9.9)	(10.7)	-	-	2.0		1/3 程残存
159-181	遺構 I	卓函下軸か	(5.3)	(11.0)	-	-	2.3		1/5 程残存
159-182	遺構 I	下軸か	(7.7)	(7.2)	-	-	0.5		1/3 程残存
160-183	遺構 I	便所下軸か	(8.2)	(6.0)	-	-	(1.0)	表面 繊維状の物が若干残る、無繊維の縫合のようものが數か所打ち込まれている	1/5 程残存
160-183	遺構 I	便所下軸か	(8.2)	(14.0)	-	-	(0.9)	表面 刃と無繊維の縫合のようものが数か所打ち込まれている	3/5 程残存
160-184	遺構 I	便所下軸か	(7.2)	(4.1)	-	-	(0.65)	表面 黒褐色で断面4層から成る。表面:刃孔5ヶ所、刃16ヶ所。無繊維の縫合を1ヶ所打ち込む。裏面:無繊維の縫合を8ヶ所打ち込む。	不明
160-185	遺構 I	便所下軸か	(6.1)	(3.4)	-	-	(0.45)	表面 黒褐色 表面:刃12ヶ所。無繊維の縫合のようものが3ヶ所、裏面:刃9ヶ所、無繊維の縫合2ヶ所。	不明
160-186	遺構 I	隼り著	(19.6)	0.4	0.4			黒漆地の上に赤漆を配色し、齊いて模様を出している。	
160-187	遺構 I	隼り著	(12.9)	0.6	0.6			黒漆地の上に赤漆を配色し、削いて模様を出している。	
160-188	遺構 I	隼り著	21.1	0.4	0.35			黄褐色(ほぼ本地と同一)、丸形	
160-189	遺構 I	隼り著	(18.5)	0.4	0.4			黄褐色(ほぼ本地と同一)、丸形	
160-190	遺構 I	著	15.3	0.45	0.3			黄褐色、角形、先端部にぬみ痕のようないずれ有り	
160-191	遺構 I	著	15	0.4	0.3			黄褐色、角形、先端部にぬみ痕のようないずれ有り	
160-192	遺構 I	著	22.3	0.6	0.5			黒褐色、角形	
160-193	遺構 I	著	(18.2)	0.55	0.5			暗黄褐色、角形	
160-194	遺構 I	著	17.3	0.5	0.5			暗黄褐色、角形	
160-195	遺構 I	著	(16.3)	0.55	0.4			暗黄褐色、角形	
160-196	遺構 I	著	21.2	0.5	0.5			黄褐色、椭円形	
160-197	遺構 I	著	21.2	0.35	0.5			黄褐色、椭円形	
160-198	遺構 I	著	21.4	0.6	0.4			暗黄褐色、角形	
160-199	遺構 I	著	21.2	0.55	0.4			暗黄褐色、角形	
160-200	遺構 I	著	21.15	0.5	0.3			黄褐色、角形	
160-201	遺構 I	著	21.2	0.6	0.4			黄褐色、角形	
160-202	遺構 I	著	21.4	0.5	0.4			暗黄褐色、角形	
160-203	遺構 I	著	(10.4)	0.5	0.55			黄褐色、角形	
160-204	遺構 I	著	21.0	0.6	0.65			黄褐色、丸形	
160-205	遺構 I	著	21.3	0.6	0.55			暗黄褐色、丸形	
160-206	遺構 I	著	21.0	0.65	0.6			暗黄褐色、丸形	
160-207	遺構 I	著	21.1	0.6	0.5			黄褐色、椭円形、側面きれいな削り	
160-208	遺構 I	著	22.1	0.6	0.4			黄褐色、椭円形	
160-209	遺構 I	著	(20.7)	0.6	0.4			黄褐色、椭円形	

図版 番号	出土 遺構	部種	法量					参考	遺存度
			(a)	(b)	(c)	(d)	(e)		
160-210	遺構 1	箸	21.0	0.65	0.55			黄褐色、丸形	
160-211	遺構 1	箸	(16.3)	0.6	0.4			黄褐色、楕円形	
160-212	遺構 1	箸	(13.1)	0.5	0.3			黄褐色、楕円形	
161-213	遺構 1	鈴	3.85	(6.5)	0.6			全体朱漆、毒鉛で墨のような植物が描かれている	2/3 残存
161-214	遺構 2	鈴	3.1	8.95	0.45			画面に松・帆船・岩などを描く。透跡招津仕上げか	
161-215	遺構 1	鈴	(3.45)	(2.2)	1.0				
161-216	遺構 1	鈴	(3.1)	(7.1)	0.8				
161-217	遺構 1	鈴	(3.0)	(4.0)	0.6				
161-218	遺構 1	鈴	(4.5)	(7.9)	0.6			朱漆	
161-219	遺構 1	鈴	(6.3)	(5.2)	0.4			南北欠損	
161-220	遺構 1	鈴	6.7	8.1	0.1			被熱のため歪む	
161-221	遺構 1	鈴	4.5	8.1	0.1			全体的に赤黒い、被熱のため歪む	
161-222	遺構 1	鈴	3.0	10.6	0.4				
161-223	遺構 1	鈴	6.5	7.1	0.5			明黄色調、被熱	
161-224	遺構 1	鉛筆	(8.8)	1.0	0.4			青赤 2 色。芯の墨の画面四角。表面金色で「Johann Faber.Bavaria. Manufacturer」の文字	
161-225	遺構 1	鉛筆	(14.9)	0.8				芯の墨の断面丸	
161-226	遺構 1	鉛筆	(15.7)	0.8				画面エジ色、端部接着剤のような樹脂付着、芯の溝断面丸	
161-227	遺構 1	鉛筆	(12.8)	0.8	0.3			芯一部残存	
161-228	遺構	鉛筆	(13.0)	(0.6)				芯の墨の断面丸	
161-229	遺構 1	鉛筆	(5.7)	0.8	0.25			芯の墨の断面丸、端部に金屬が巻き付けられている	
161-230	遺構 1	鉛筆	(4.6)	(0.8)				芯の墨の断面丸、炭化したような状態	
161-231	遺構 1	鉛筆	(2.5)	(0.7)				芯の墨の断面丸	
162-232	遺構 1	約文字	(12.5)	(7.0)	(0.6)				
162-233	遺構 1	約文字	19.3	6.5	0.8			柄の左右端部が缺かれている	
162-234	遺構 1	墨毛か	(20.5)	3.1	0.5			画面上一部は破損	
162-235	遺構 1	折敷	18.1	(18.2)	(0.1)			材木を薄くはいた板	
162-236	遺構 1	折敷	18.1	(6.5)	0.1			材木を薄くはいた板	
162-237	遺構 1	折敷か	21.2	(7.05)	0.2	33			
163-238	遺構 1	台	4.1	11.7					
163-239	遺構 1	蓋か	1.0	8.3				中央穴の側面螺旋(螺子式)。表面に 3 本、裏面 1 本沈線入る。差し込み式の足 3 本(内 1 本欠損)	
163-240	遺構 1	蓋か	1.0	11.8				歪んで曲がっている	
163-241	遺構 1	円形板	1.1	6.8				表裏不明 一面に爪跡状の痕跡有り	
163-242	遺構 1	滑音の車か	3.0	5.0				2箇所に 8mm のところに穿孔あり	
163-243	遺構 1	不明品	19.2	4.7	29			中心に貫通孔。裏面に 3 穴所針の先のような孔	
163-244	遺構 1	不明品	0.75	3.1				裏面にこぎり刺	
163-245	遺構 1	栓	1.5	4.5					
163-246	遺構 1	用途不明	0.8	3.2					
163-247	遺構 1	栓	(18.8)	2.5	2.4			黒漆彫り 全面に削りが入る	
163-248	遺構 1	不明品	17.2	5.2	21			頭頂部に鉄の樹状 先端部は串状に削られる	
164-249	遺構 1	筒状品	9.9	4.05	1.1				
164-250	遺構 1	取手?	11.0	3.0	30			筒型 外部底部縁、口縁端部に削り 内側 7.6cm ほど彫り込まれ、内底に凹み	
164-251	遺構 1	栓	8.7	2.5	2.4			8 角形に面取りされ、先端部はほぼ円形	
164-252	遺構 1	柄?	8.3	3.1	1.9			片面に「花山」と角路	
164-253	遺構 1	コルク栓	6.3	2.3					
164-254	遺構 1	コルク栓	6.2	1.4					
164-255	遺構 1	コルク栓	4.1	2.1					
164-256	遺構 1	コルク栓	3.8	2.2					
164-257	遺構 1	コルク栓	3.75	2.2					
164-258	遺構 1	コルク栓	3.0	1.3					
164-259	遺構 1	コルク栓	2.6	2.5					
164-260	遺構 1	コルク栓	2.0	2.8					
164-261	遺構 1	コルク栓	2.3	2.0					
164-262	遺構 1	コルク栓	2.3	1.8					
164-263	遺構 1	コルク栓	2.1	1.8					
164-264	遺構 1	木舟	10.9	5.8	0.6			直徑 0.2cm の木ねじが 2 ヶ所	
164-265	遺構 1	不明品	2.6	8.0	1.0			表裏それぞれ 1 頭所に貫通していない孔	
164-266	遺構 1	不明品	10.5	2.3	1			端材か?	
164-267	遺構 1	用途不明	28.7	2.8	0.75				
164-268	遺構 1	用意不明	9.5	3.1	0.6			穴 2 ヶ所 片面上部端付着	
164-269	遺構 1	杭状	(13.0)	(3.9)	0.6				
164-270	遺構 1	直角二形状	(13.5)	(4.0)	0.2			黒褐色 中央に円形の孔	
164-271	遺構 1	半円状	(9.7)	(4.8)	1.9			半円状で縦に構あり 円形の縦にホゾあり	
164-272	遺構 1	竹籠							
165-273	遺構 1	舟形状	14.7	3.3	27			側面・表・端部に計 8 釘、舟形後部にはフック状の金属が 1 本が打たれている。舟形の輪郭部くり抜き、中央に 3mm 程の孔	
165-274	遺構 1	用途不明	(4.5)	(11.4)	0.4				
165-275	遺構 1	蓋	22	4.4	(高) 2.2			本体中央に角製のつまみを嵌め込み。つまみは下方、横に穴が穿たれている	
165-276	遺構 1	用途不明	(12.4)	(1.8)	1.6			炭化	
165-277	遺構 1	鞘	31.5	2.7	1.8			内面刃物の形に彫り込まれている	

圖版 番号	出土 遺構	部種	法差					備考	遺存度
			(a)	(b)	(c)	(d)	(e)		
166-278	遺構 1	縫?	31.6	26.3	0.8			上下端部に計 4ヶ所削。釘孔 6ヶ所程。板の圧迫痕残る	
166-279	遺構 1	板	23.7	19.3	0.7				
166-280	遺構 1	板	22.4	18.8	0.8				
167-281	遺構 1	板	21.5	18.8	0.6			表面は丁寧な削り、裏面は荒削り	
167-282	遺構 1	板	34.8	18.2	1.0			表面は荒削り、裏面は丁寧な削り	
168-283	遺構 1	板	30.3	15.8	0.7			表面丁寧な削り	
168-284	遺構 1	板	28.1	11.9	0.7			表面丁寧な削り	
168-285	遺構 1	板	25.6	17.0	1.2			縫の切り込み痕	
169-286	遺構 1	板	29.7	10.2	0.7			3面端に削孔。木釘 1本残存	
169-287	遺構 1	板	23.5	9.6	0.7			刃物痕が斜めに残る。他の部分は丁寧に削られている	
169-288	遺構 1	板	26.5	14.1	0.9				
170-289	遺構 1	板	8.2	31.0	0.7			左側側面、削った痕跡	
170-290	遺構 1	板	37.3	29.8	1.2				
170-291	遺構 1	加工材	(6.4)	(6.8)	0.7				
170-292	遺構 1	用途不明	8.3	9.0	0.8			中央付近に穿孔。片面著しく削ける	
170-293	遺構 1	板	25.2	7.3	0.7			上下端部を斜めに切り出している	
171-294	遺構 1	用途不明	41.7	12.7	1.2			1箇所孔が空たれています	
171-295	遺構 1	板	20.7	6.5	1.0				
171-296	遺構 1	縫?	12.6	10.0	0.6			木釘 1ヶ所、鉄釘 3ヶ所、釘孔 3ヶ所	
171-297	遺構 1	軸用品	10.0	6.6	0.7			一端朱色に着色	
171-298	遺構 1	板	8.6	8.4	0.6				
171-299	遺構 1	不明品	10.2	6.3	0.8			端部一部斜めに削り、細い削孔 1ヶ所	
171-300	遺構 1	部材	13.6	13.4	1.29			所により著しく炭化	
172-301	遺構 1	加工材	(19.3)	(18.5)	(14.5)			側面に縦 5cm、横 1.7cm の矩形の穴。反対側にも同様の穴あります。表面の大半が炭化	
172-302	遺構 1	部材	18.7	13.8	4.8			上面に斜穴、下邊は面取り、裏面の加工がやや粗い	
172-303	遺構 1	建具	4.2	10.3	3.2			敷居の端材が、溝が切ってある	
172-304	遺構 1	部材	15.5	5.0	4.4				
173-305	遺構 1	部材	9.4	14.0	7.6				
173-306	遺構 1	部材	8.3	9.2	3.0				
173-307	遺構 1	部材	8.5	11.5	4.2			端部を残して崩れている	
173-308	遺構 1	三脚形板	5.1	10.1	2.7				
173-309	遺構 1	部材	7.6	3.3	2.3			両端に削を打ち、その間に針金? を巻いている	
173-310	遺構 1	用途不明	29.9	12.0	4.3			金具付き、4ヶ所削が打たれています	
174-311	遺構 1	部材	26.0	5.3	4.9			釘が貫通	
174-312	遺構 1	多角形状	12.1	5.3	2.2			切り込みあり	
174-313	遺構 1	板	10.7	9.5	2.2			体部分凹む	
174-314	遺構 1	板	9.1	9.8	1.4				
174-315	遺構 1	部材	18.0	5.5	2.3			丸頭釘が打ち込まれている	
175-316	遺構 1	部材	16.0	5.6	0.5				
175-317	遺構 1	部材	8.2	3.6	3.0			釘痕が 5箇所残る	
175-318	遺構 1	部材	10.8	3.8	2.3			木釘 1ヶ所、釘 3ヶ所	
175-319	遺構 1	端材	5.5	9.4	1.5				
175-320	遺構 1	端材	6.8	6.4	2.2				
175-321	遺構 1	端材	5.3	6.5	2.5				
175-322	遺構 1	部材	44.3	20	22			釘孔 2ヶ所有り	
176-323	遺構 1	部材	(41.7)	35	29			縫がく面取りをしている	
176-324	遺構 1	部材	47.1	1.3	0.7			木釘 1ヶ所、孔 1ヶ所	
176-325	遺構 1	部材	(16.3)	1.3	1.2			鉄釘 1ヶ所	
176-326	遺構 1	部材	13.1	1.3	1.3			灰色の金属質白色に塗った金属板を釘で留めてある	
176-327	遺構 1	部材	26.2	1.3	1.4			一部炭化	
177-328	遺構 1	部材	(48.2)	(5.2)	(1.8)			4箇所削み有り	
177-329	遺構 1	不明品	(21.2)	1.4	0.9			1箇所に釘痕	
177-330	遺構 1	不明品	20.5	1.4	0.8			上端部にサビの残る釘穴、ほか 1箇所に木ネジの残る貫通孔	
177-331	遺構 1	加工木材	(20.2)	(5.6)	(1.8)			上部左端斜穴のように加工。一部炭化	
177-332	遺構 1	不明品	(10.0)	(3.5)	2.0			3面を機械的に切断	
177-333	遺構 1	加工木材	(8.4)	(9.5)				木の皮が剥がれたような状態	
177-334	遺構 1	鏡床形	5.8	(18.8)	1.4			留め金具に釘が残る	

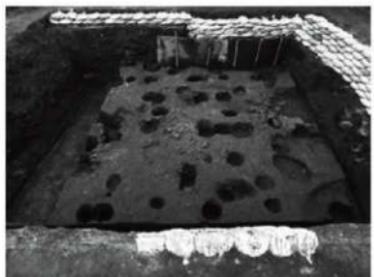
表15 近代遺構その他遺物 観察表 (単位: cm)

図番号	出土遺構	材質	器種	法華			備考	遺存度
				長さ	幅	厚さ		
178-1	道橋 1	骨角製品	歯ブラシ	最大 14.5	最大 1.1	最大 0.6	黄褐色、溝切り型（參沙留Ⅱによる）、ブラシ部破損。植毛穴 3列×18、刻字「TRADE K MARK」	3/5
178-2	道橋 1	骨角製品	歯ブラシ	最大 14.7	最大 1.2	最大 0.5	黄褐色、側穴型 3穴。ただし底部側穴は埋められている。植毛穴 3列。中央 2列、両端 2列	1/2
178-3	道橋 1	骨角製品	歯ブラシ	最大 14.8	最大 1.2	最大 0.6	黄褐色、側穴型 3穴。植毛穴 3列×21	1/2
178-4	道橋 1	骨角製品	歯ブラシ	最大 13.4	最大 1.2	最大 0.7	黄褐色、側穴型 3穴。ただし埋めているか穴が不明瞭。詰め物残る。植毛穴 3列。中央 19、両端 18、側面の掛け具穴貫通	1/2
178-5	道橋 1	骨角製品	歯ブラシ	最大 12.9	最大 1.0	最大 0.6	黄褐色、側穴型 3穴、植毛穴 3列×15	1/2
178-6	道橋 1	骨角製品	歯ブラシ	(9.4)	最大 1.1	最大 0.7	黄褐色、側穴型 3穴。ただし埋れ1の側面に3穴、植毛穴 3列。掛け具穴貫通、掛け具は粉矢	3/5
178-7	道橋 1	骨角製品	歯ブラシ	(8.0)	最大 1.2	最大 0.7	黒褐色、ブラシ部は欠損。掛け具穴貫通。掛け具は小釘の跡をつぶして作成	3/5
178-8	道橋 1	骨角製品	著	(17.0)	(0.6)	(0.6)	四角形に成形され、端部へ向けて細くなる。黄褐色、一部黒色に変色する	4/5
178-9	道橋 1	骨角製品	著	(14.0)	(0.6)	(0.5)	四角形に成形され、端部へ向けて細くなる。黄褐色	2/3
178-10	道橋 1	骨角製品	業著	(14.0)	(0.5)	(0.4)	四角形に成形され、端部へ向けて細くなる。黄褐色、一部黒色に変色する。先端部に纏織有り	不明
178-11	道橋 1	骨角製品	黒	12.7	最大 2.3	最大 0.6	表裏面共に面取り。穿孔あり	完形
178-12	道橋 1	骨角製品	黒	8	最大 2.0	最大 0.5	表裏面共に面取り、穿孔あり。一部暗赤褐色の着色物付着	完形
178-13	道橋 1	骨角製品	表無品	(1.5)	(3.1)	(0.1～0.5)	文様が刷り込まれた装飾品	不明
178-14	道橋 1	皮製品	用途不明	縦 4.6	横 4.2	0.1	薄い内盤状。ナメ（円周）がわずかに内側へカーブする。表面に白い附着物残存	不明
178-15	道橋 1	皮製品	ベルト	14.3	1.8	0.3	黒褐色、両端の左右サイドにミシン目が5個づくっきりと認められる	不明
178-16	道橋 1	皮製品	ボールか	縦 (100)	横 (4.0)	(2.0)	压縮された且つ材質は硬化	不明
178-17	道橋 1	棕櫚	ささらたわし				棕櫚の繊維？を束ね針金で3ヶ所縛っている。体部から持ち手用に捻られた部分が出ていている	不明
178-18	道橋 1	棕櫚	ささらたわし				棕櫚の繊維？を束ね、その上に竹を重ね、針金で縛っている。竹部分は持ち手	不明
178-19	道橋 1	棕櫚	ささらたわし				棕櫚の繊維？を束ね針金で4ヶ所縛っている	不明

表 16 鎌倉焼 觀察表 (単位: cm)

図 番号	出土地	材質	器種	釉調など	胎土	技法 / 文様 / その他	備考	推定 生産地	法華			遺存度		
									年代	口径	底径			
										高さ	器高			
179-1	長谷	陶器	小坪	淡黄色釉	淡白黄色 粘質土	外面指頭痕、貼り付け 高台、器付露胎	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	8.0	4.4	4.3	完形	
179-2	長谷	土製品	小坪	素焼き	白色粘質 土	ロクロ 顎り出し高台 / 外面スタンプ (花と 文様不明)	底部見込み駆削 (判読不能)	鎌倉焼	明治～大正	7.6	3.2	4.2	完形	
179-3	長谷	土製品	小坪	素焼き	淡黄色粘 質土	淡黄色粘 質土	ロクロ 顎り出し高台 / 外面スタンプ (花と 文様不明)	底部見込み駆削 「鎌倉」	明治～大正	7.2	3.2	3.5	ほぼ 完形	
179-4	長谷	土製品	小坪	素焼き	淡黄色粘 質土	内外面無文 高台見込 みに駆削 貼り付け高 台	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	6.6	3.2	2.9	完形	
179-5	長谷	土製品	小坪	素焼き	灰色粘質 土	外面指頭痕 / 植物文 様 粘り付け高台	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	6.7	2.9	3.3	完形	
179-6	長谷	磁器	小坪	手書き墨化 コバルト・土 透明釉	白色粘質 土	内面無文 外面繪 画 島 / 口縁部下・高台團 鏡 純の日高台		瀬戸美 濃	明治～大正	7.6	3.6	3.7	完形	
179-7	長谷	磁器	小坪	クロム青磁 飛びカンナ	白色粘質 土	内外面無文 高台内露 胎			明治～大正	7.5	3.2	3.6	完形	
179-8	長谷	土製品	小皿	素焼き	洪褐色粘 質土	洪褐色粘 質土	ロクロ成形 / 内底引 矢の輪	見込み 「弓衛 會」 「鶴岡八幡 宮鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	9.4	3.7	2.6	ほぼ 完形
179-9	長谷	土製品	蛤形皿	素焼き	白色粘質 土	白色粘質 土	貼り付け高台	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	最大 7.1	最大 4.0	2.4	完形
179-10	長谷	土製品	貝形湯呑	素焼き	黄白色粘 質土	外面指頭痕、繩削「文 字」 (内容不明、和歌 か?) 貼り付け高台	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	6.1	4.2	6.1	完形	
179-11	長谷	土製品	貝形湯呑	灰釉	黄白色粘 質土	外面指頭痕、繩削「文 字」 (内容不明、和歌 か?) 貼り付け高台	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	6.6	4.6	6.2	完形	
179-12	長谷	土製品	貝形湯呑	緑白色釉	淡黄色粘 質土	ロクロ成形 / 内底引 白色釉 貼り出し高台 高台露胎		鎌倉焼	明治～大正	5.6	4.2	6.5	完形	
180-13	長谷	陶器	水注	透明釉	灰白色粘 質土	外面半紫・灰綠色釉 施釉	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	4.4	最大 5.3	13.0 120	ほぼ 完形	
180-14	長谷	土製品	皿	素焼き	白色粘質 土	白色粘質 土	高台見込み駆削 魚形	鎌倉焼	明治～大正	全長 16.9	最大 12	2.6	完形	
180-15	長谷	陶器	透明釉・ 暗赤色釉	洪褐色粘 質土	洪褐色粘 質土	松葉形つまみ 内面暗 赤褐色 外面露胎		鎌倉焼	明治～大正	6.5	-	1.7	完形	
180-16	長谷	土製品	器蓋	素焼き	灰白色粘 質土	灰白色粘 質土	ロクロ成形 / 内底引 白色釉 貼り出し高台 高台露胎		鎌倉焼	明治～大正	6.7	-	1.6	完形
180-17	長谷	土製品	器柄	素焼き	黄白色粘 質土	外面指頭痕	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	3.2	4.8	13.2 7.2	最大 7.2	完形
180-18	長谷	土製品	蓮華	素焼き	黄白色粘 質土	内底に繩削「大」	底部見込み駆削 (判読不能)	鎌倉焼	明治～大正	全長 (10.0)	幅 (6.8)	(2.8)	不明	
180-19	長谷	土製品	蓮華	素焼き	黄白色粘 質土	内面斜多福	底部見込み駆削 (判読不能)	鎌倉焼	明治～大正	全長 10.5	幅 4.6	4.8	完形	
181-20	長谷	土製品	兜形皿	淡黄色釉	黄白色粘 質土			鎌倉焼	明治～大正	8.3	5.6	1.6	完形	
181-21	長谷	土製品	鉢型	素焼き	洪褐色粘 質土	外面指頭痕 内面に竹 文様		鎌倉焼	明治～大正	-	-	7.0	不明	
181-22	長谷	陶器	玩具	素焼き	灰白色粘 質土	灰白色粘 質土	内面斜多福 外面兔 (黒・茶色・茶褐色)	鎌倉焼	明治～大正	長径 7.0	厚径 6.7	厚 2.6	ほぼ 完形	
181-23	長谷	土製品	ミニチュア	素焼き	黄白色粘 質土	黄白色粘 質土	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	6.0	-	5.1	ほぼ完 形	
181-24	由比ヶ 浜	土製品	ミニチュア	素焼き	黄白色粘 質土		底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	5.0	-	(4.0)	ほぼ 完形	
181-25	長谷	陶器	ミニチュア	軒丸瓦	褐色・白色 青色・淡褐色	相対する島で八字の字 外面施釉。右目板	底部見込み駆削 (判読不能)	鎌倉焼	明治～大正	径 7.8	-	厚 0.8	ほぼ 完形	
181-26	長谷	陶器	印	灰白色釉	洪褐色粘 質土	豹大の印鑑	底部割 (判読 不能)	鎌倉焼	明治～大正	幅 4.2	横 4.2	3.3	完形	
181-27	長谷	磁器	ミニチュア		黄白色粘 質土	器種不明 外底部露胎 内面文様駆削		鎌倉焼	明治～大正	全長 4.8	横 4.0	厚 0.9	完形	
181-28	由比ヶ 浜	陶器	ミニチュア	白色釉 急須	灰白色粘 質土	内面線・系、黃色釉 質土	底部見込み駆削 「鎌倉」	鎌倉焼	明治～大正	1.5	2.0	1.3	完形	
181-29	長谷	陶器	ミニチュア	透明釉	白色粘質 土	白色粘質 土	底部見込み駆削 外底部露胎	鎌倉焼	明治～大正	1.8	3.2	3.3	完形	
181-30	長谷	陶器	鳩形置物	透明釉	黄白色粘 質土	堅作より 外面端の羽根 脚色釉		鎌倉焼	明治～大正	全長 3.6	幅 2.3	2.7	完形	

図 番号	出土地	材質	器種	釉調など	胎土	技法／文様／その他の特徴	備考	推定 生産地	推定 年代	法量			遺存度
										口径	底径	器高	
181-31	長谷	石製品	勾玉			縫を通した痕跡有り		羅倉焼	明治～大正	全長34 5.8	最大幅 厚17	1.7	完形
181-32	長谷	磁器	豆形著置	青緑色釉		底部茶色	底部見込み階層 (判読不能)	羅倉焼	明治～大正	全長5.0 幅1.4	幅1.4	1.7	完形



1.1 区 1 面全景（北から）



2.1 区 1 面遺構 16 滑石製品出土状況



3.1 区 2 面全景（南から）



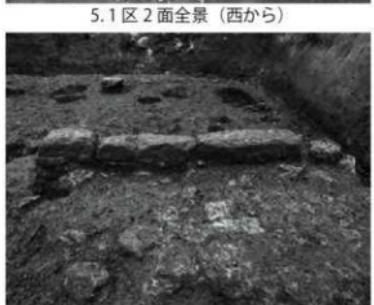
4.2 区 2 面遺構（南から）



5.1 区 2 面全景（西から）



6.1 区 2 面 遺構 79（南西から）



7.1 区 2 面 遺構 80（西から）

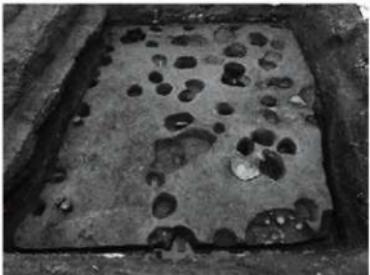


7.1 区 2 面 遺構 78（西から）

写真図版2



1.1 区 3面全景（北から）



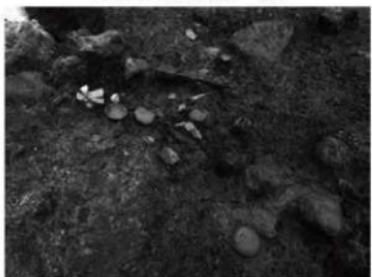
2.2 区 3面全景（南から）



3.1 区 3面遺構 81～83



4.1 区 3面遺構 108



5.1 区 3面遺物集中 1（南から）



6.1 区 3面遺構 207 满全景（南から）



7.1 区 3面遺構 207 南部（西から）



7.1 区 3面遺構 207 南部（東から）



1.2区3面遺構 167、168



2.2区3面遺構 163



3.2区3面遺構 206 かわらけ出土状況



4.2区3面遺構 170



5.1区4面全景（北から）



6.2区4面全景（西から）



7.1区4面遺構 287、290



7.1区4面東南部（南から）

写真図版4



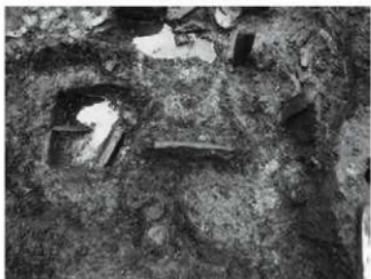
1.1 区 4面遺構 277 舟形出土状況



2.2 区 4面遺構 298



3.2 区 4面遺構 297 遺物出土状況



4.2 区 4面遺構 297 刀子出土状況



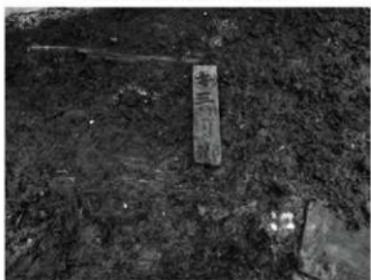
5.2 区近代遺構全景（北から）



6. 近代遺構 1 北壁（南から）



7. 近代遺構 3



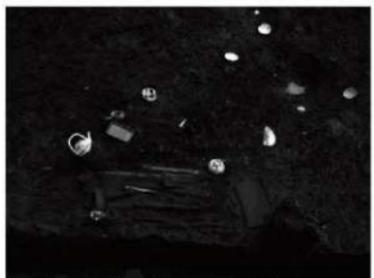
8. 近代遺構 1 荷札出土状況



1. 近代遺構 1 拿出土状況



2. 近代遺構 1 西側下駄集中



3. 近代遺構 1 西側遺物集中



4. 近代遺構 1 西側遺物集中



5. 近代遺構 1 東南遺物集中



6. 近代遺構 1 西端土層堆積状況



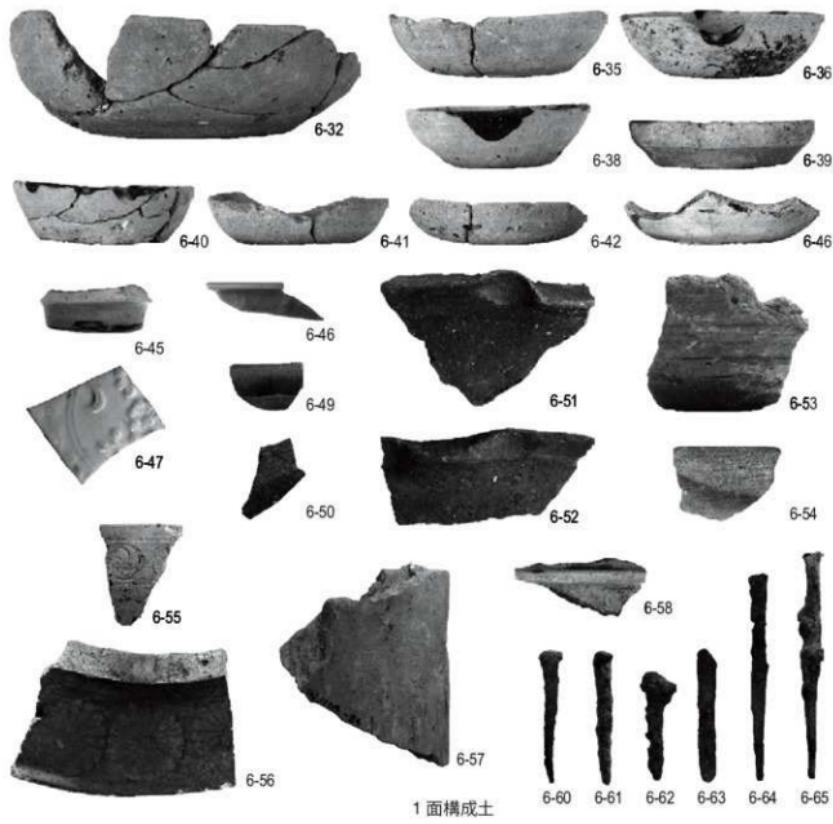
7. 調査区周辺（観音山を臨む）



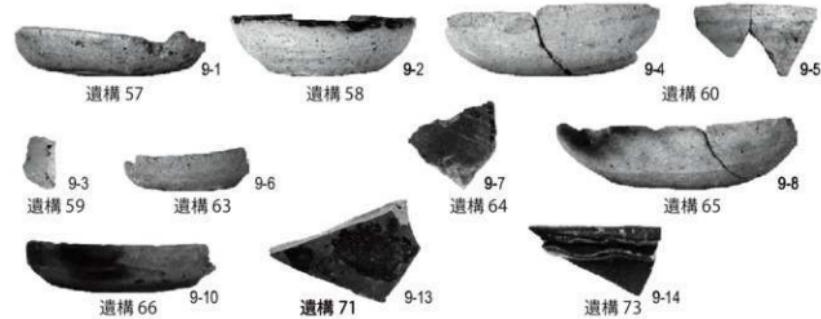
8. 調査区周辺（現古我邸）

写真図版6



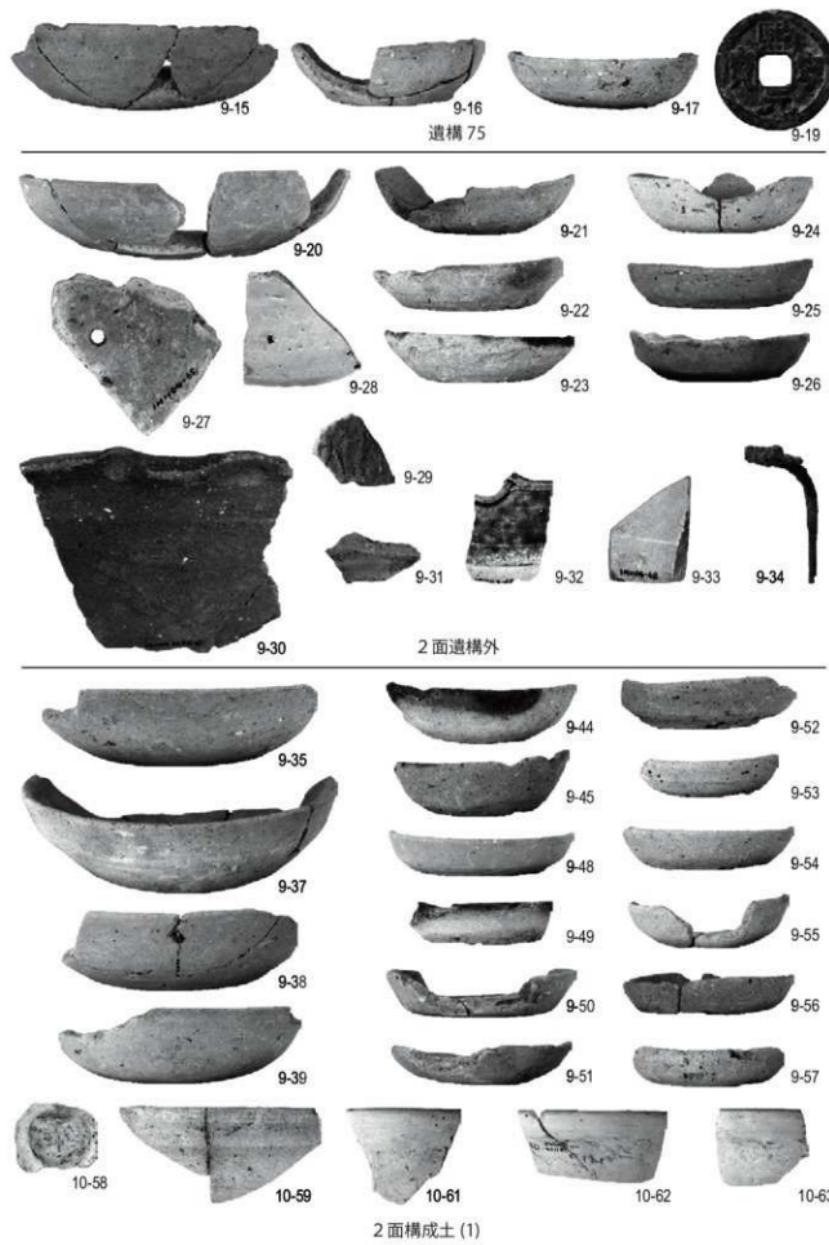


1面構成土

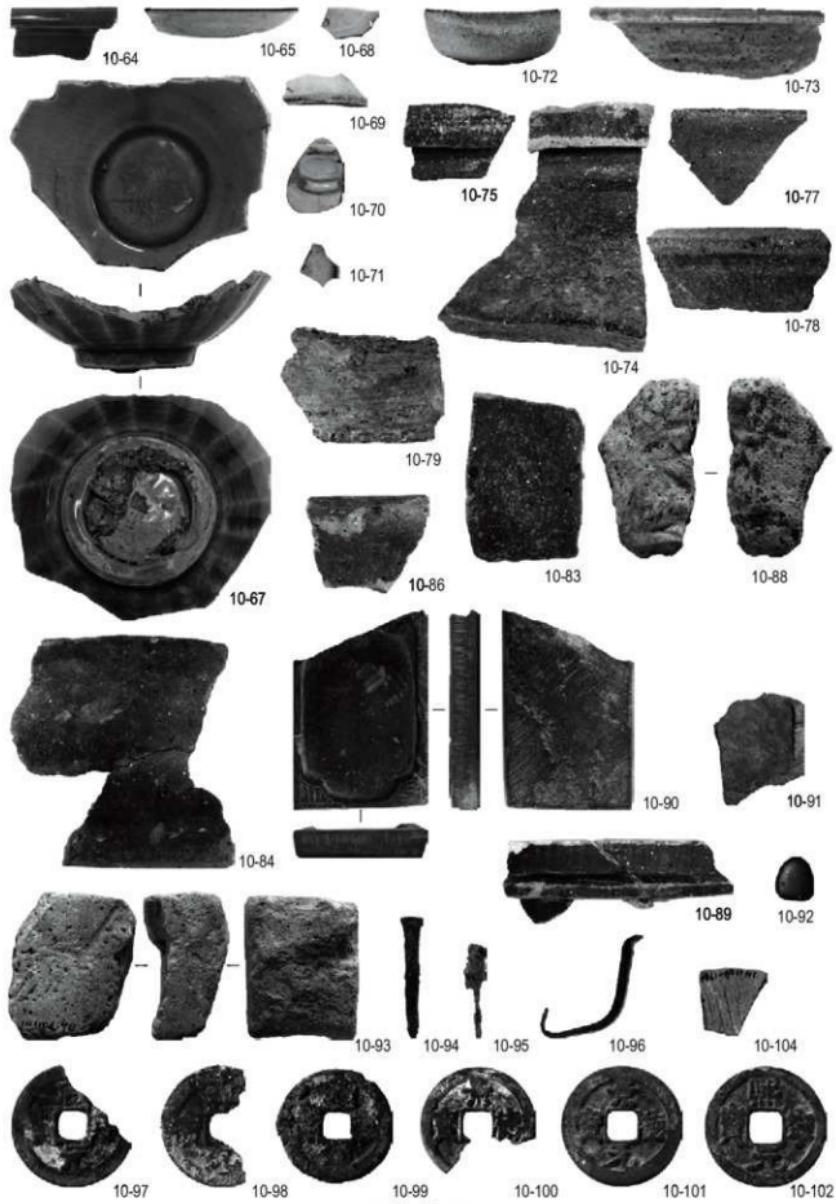


2面構成

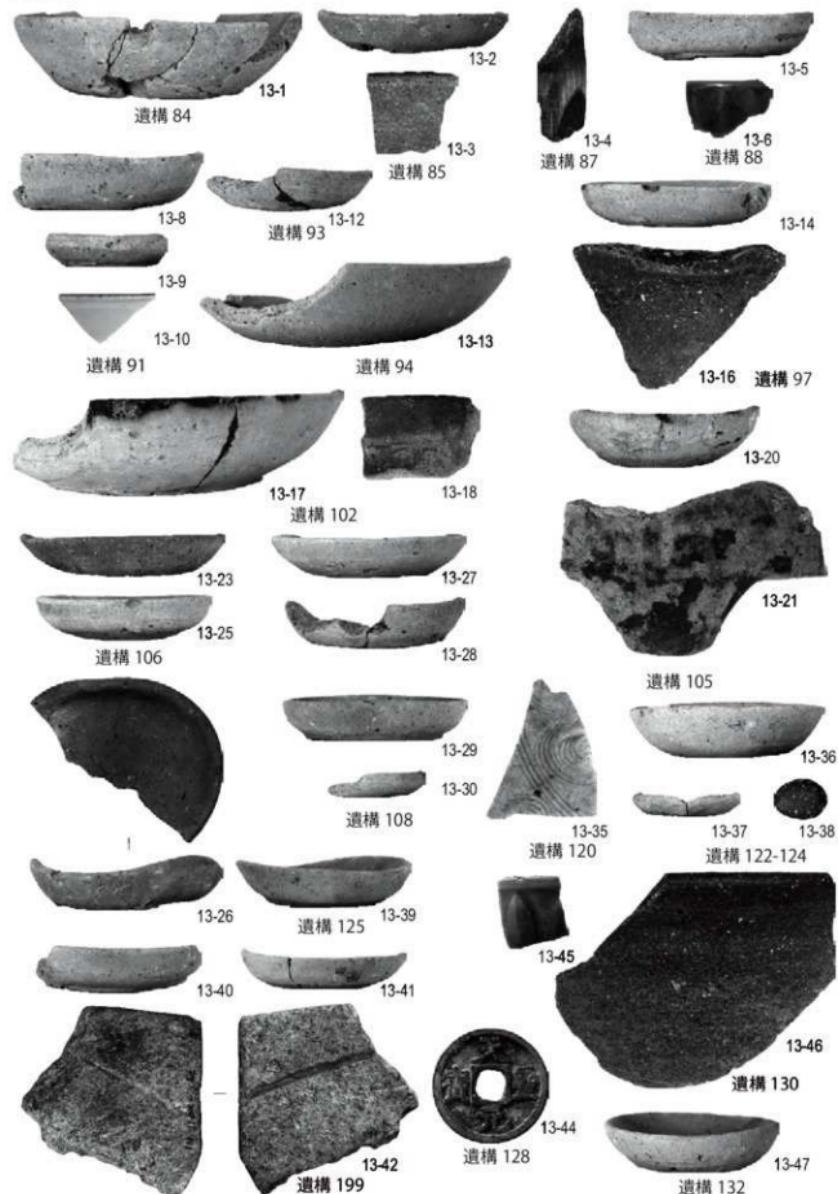
写真図版8



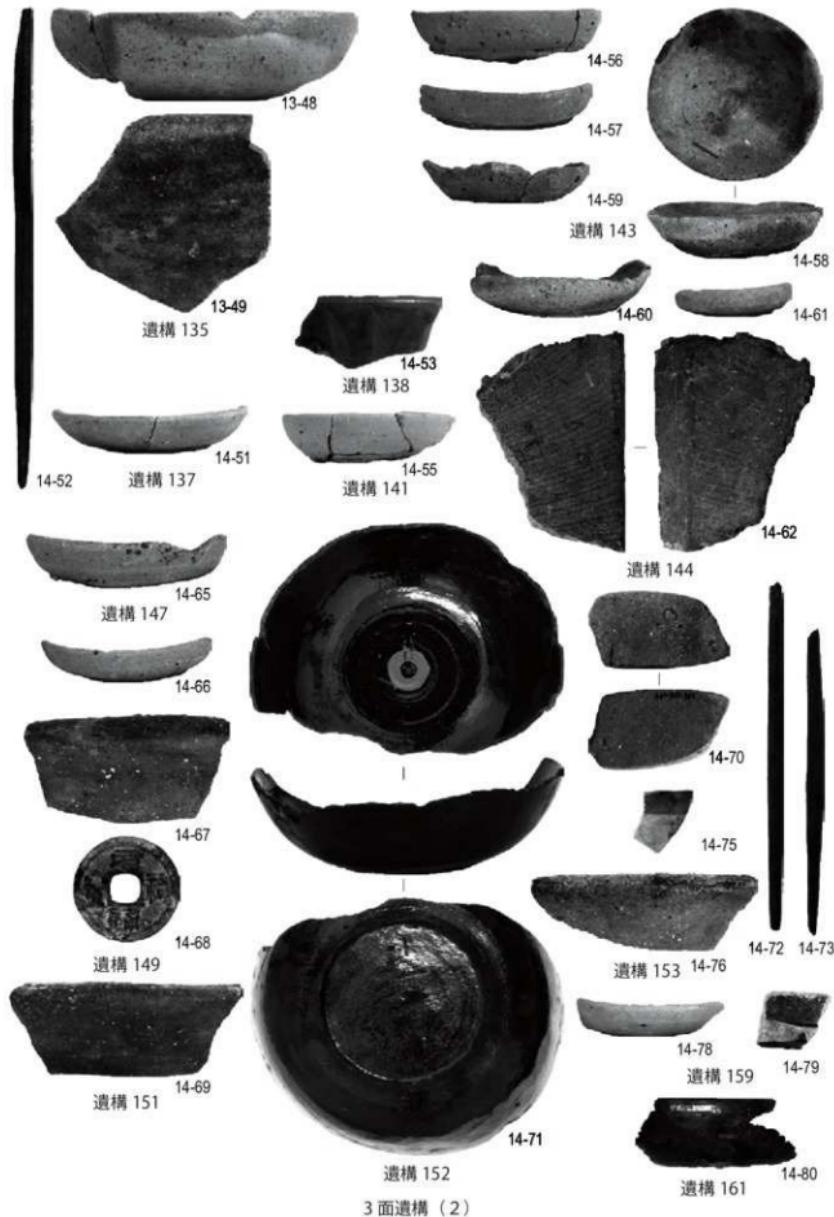
2面構成土 (1)



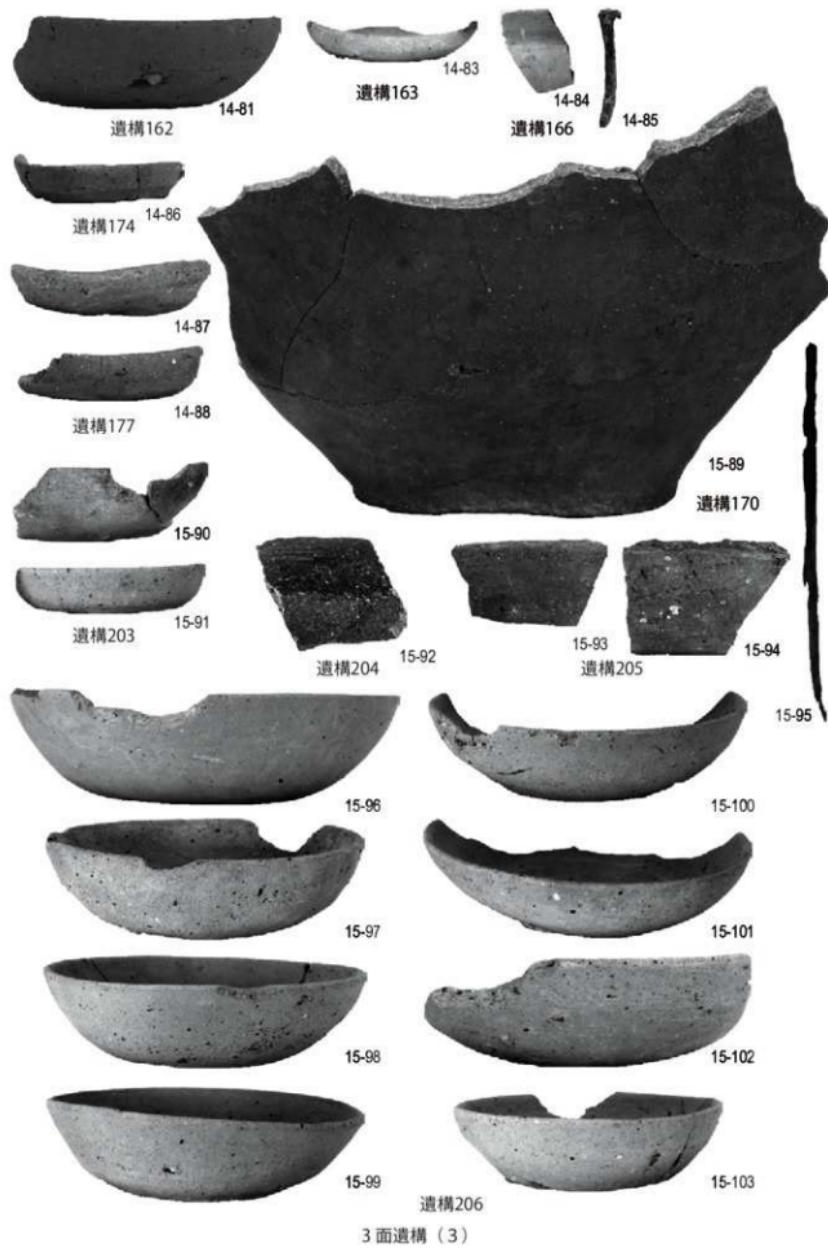
写真図版 10



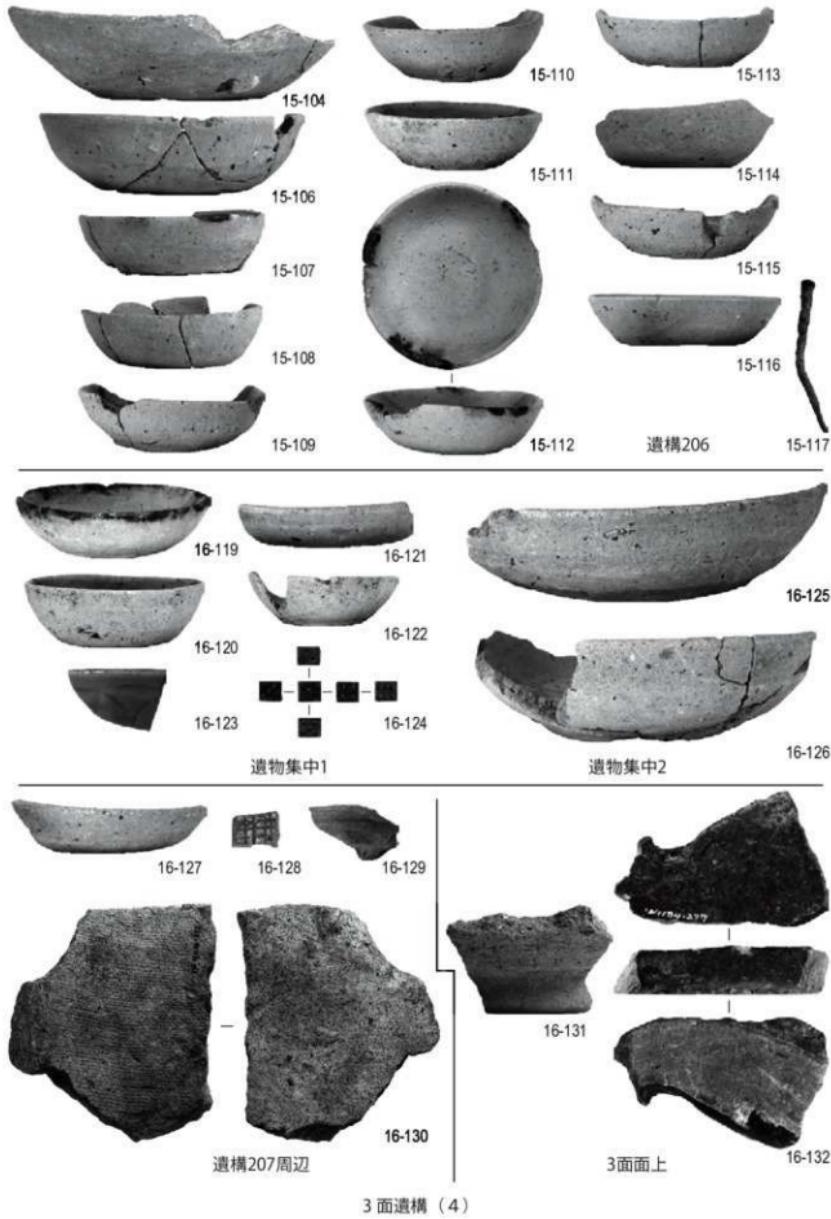
3面遺構 (1)



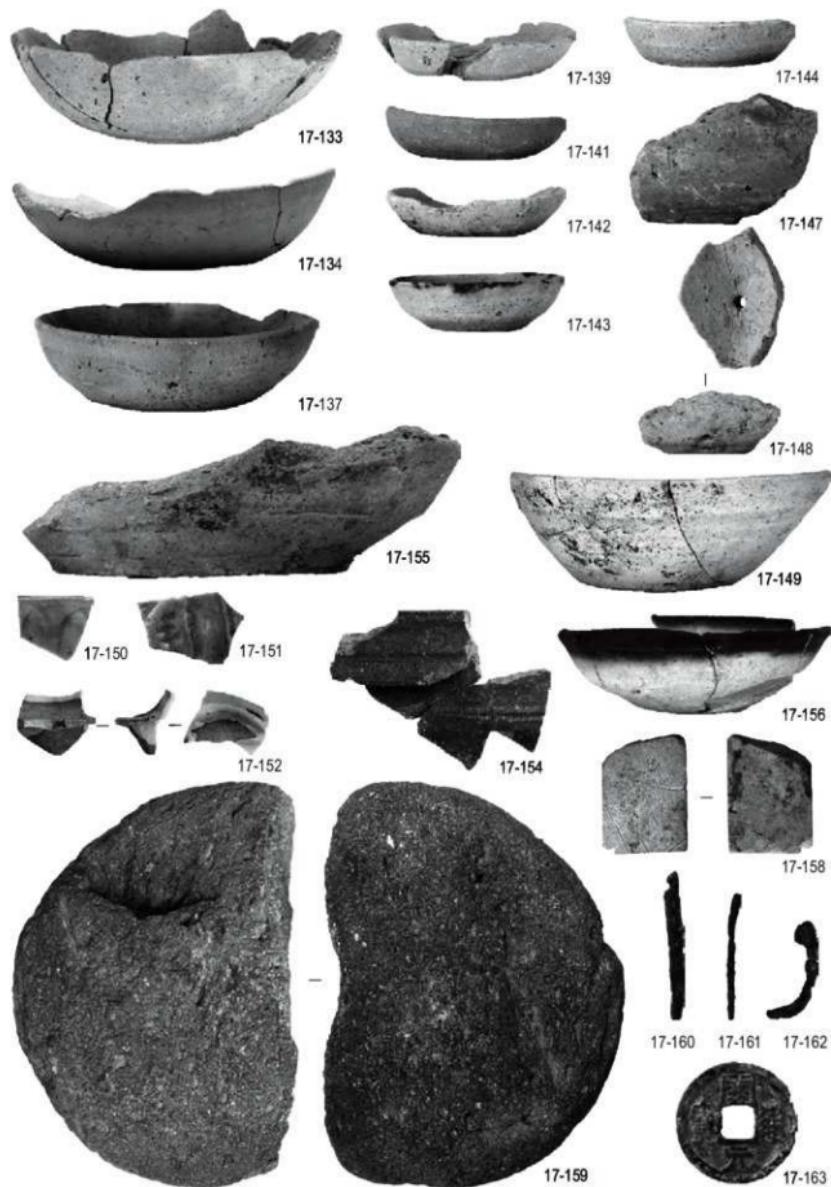
写真図版 12



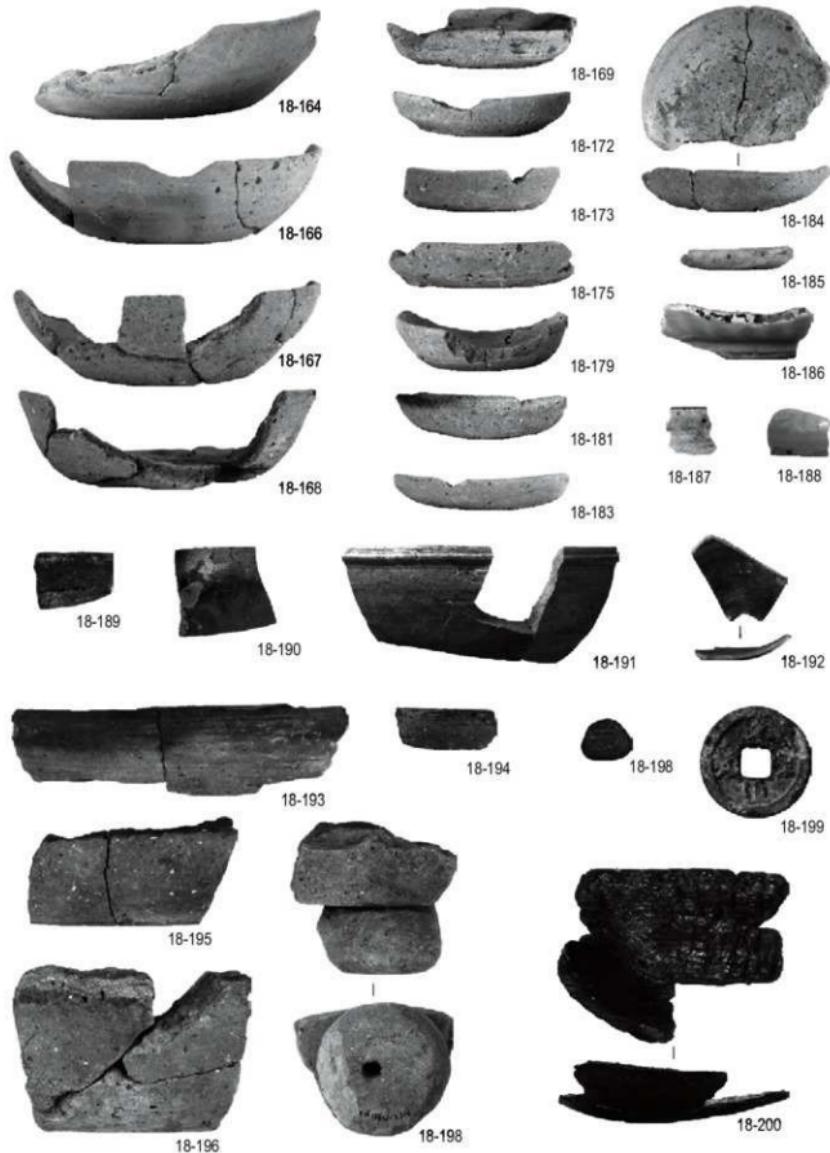
3面遺構（3）



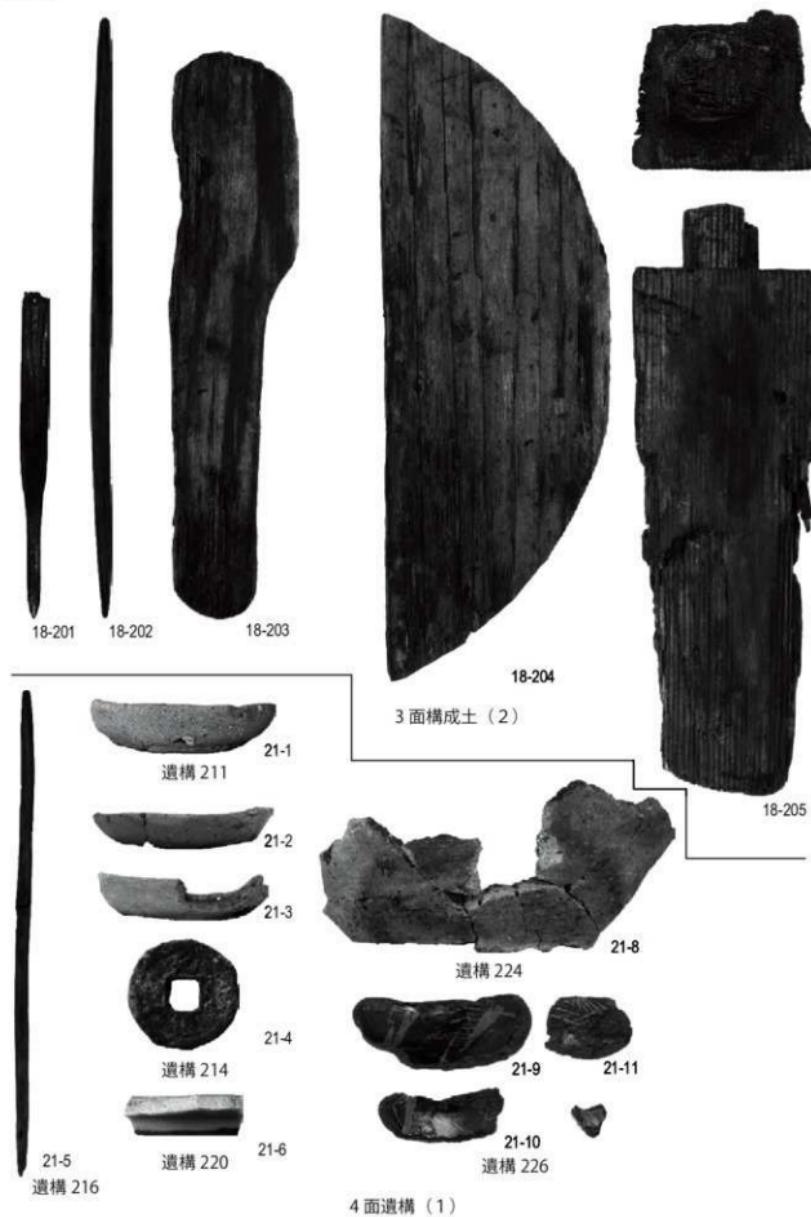
写真図版 14

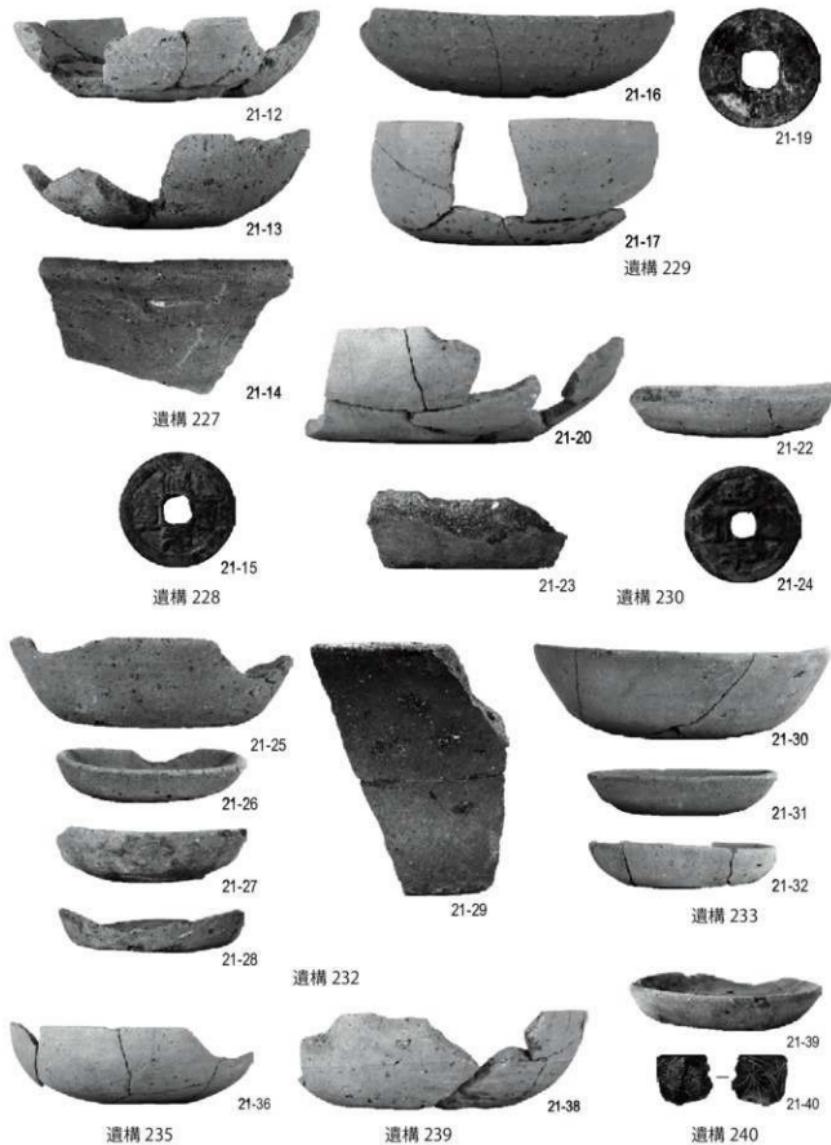


3面遺構外



3面構成土 (1)

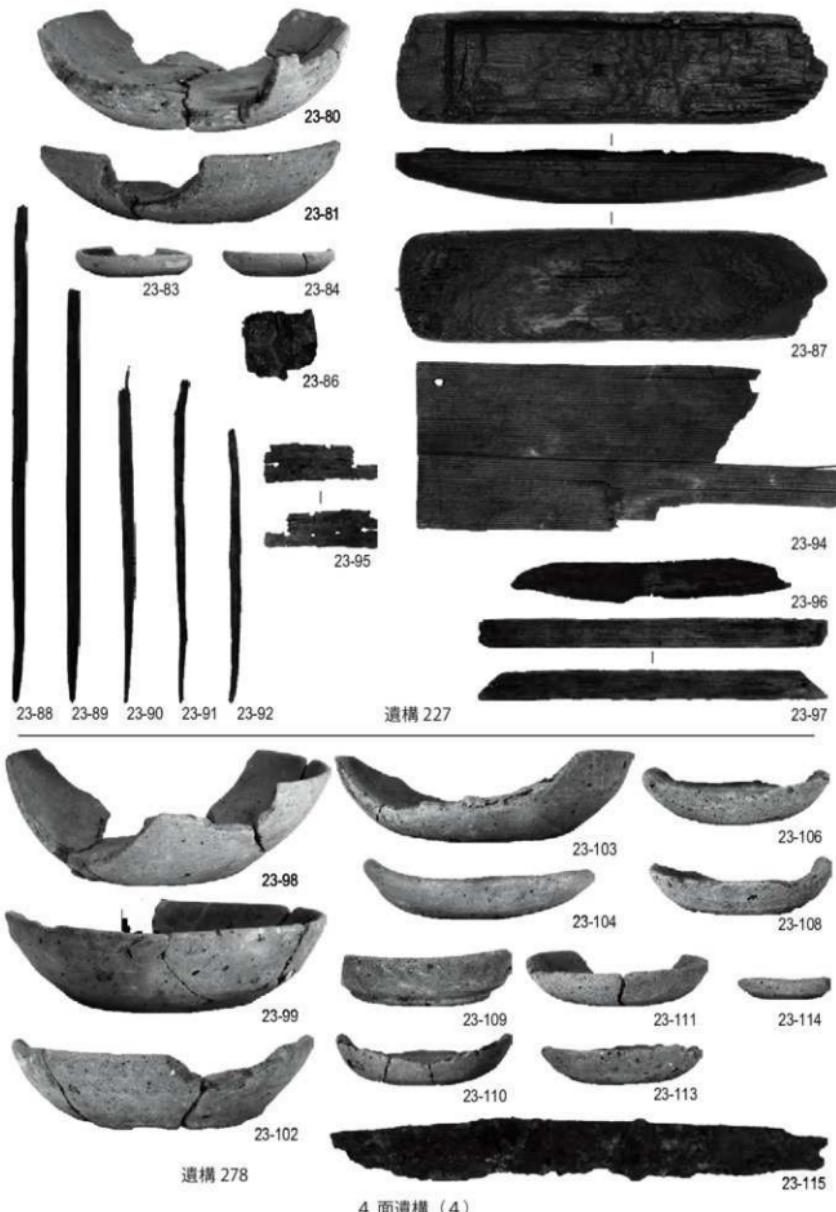




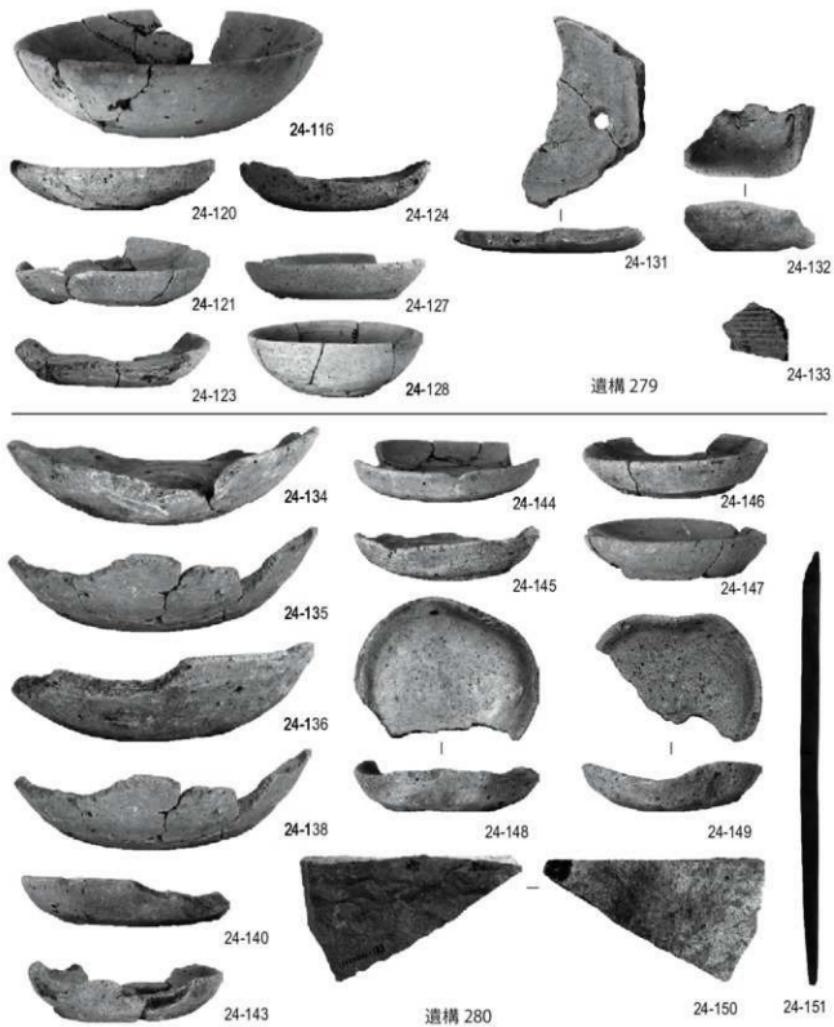
4 面遺構 (2)

写真図版 18





写真図版20



4面遺構(5)



24-152



遺構 280



24-153



24-155



24-154



24-156



24-154



24-157



24-154



25-184



25-187



25-188



25-189



遺構 282

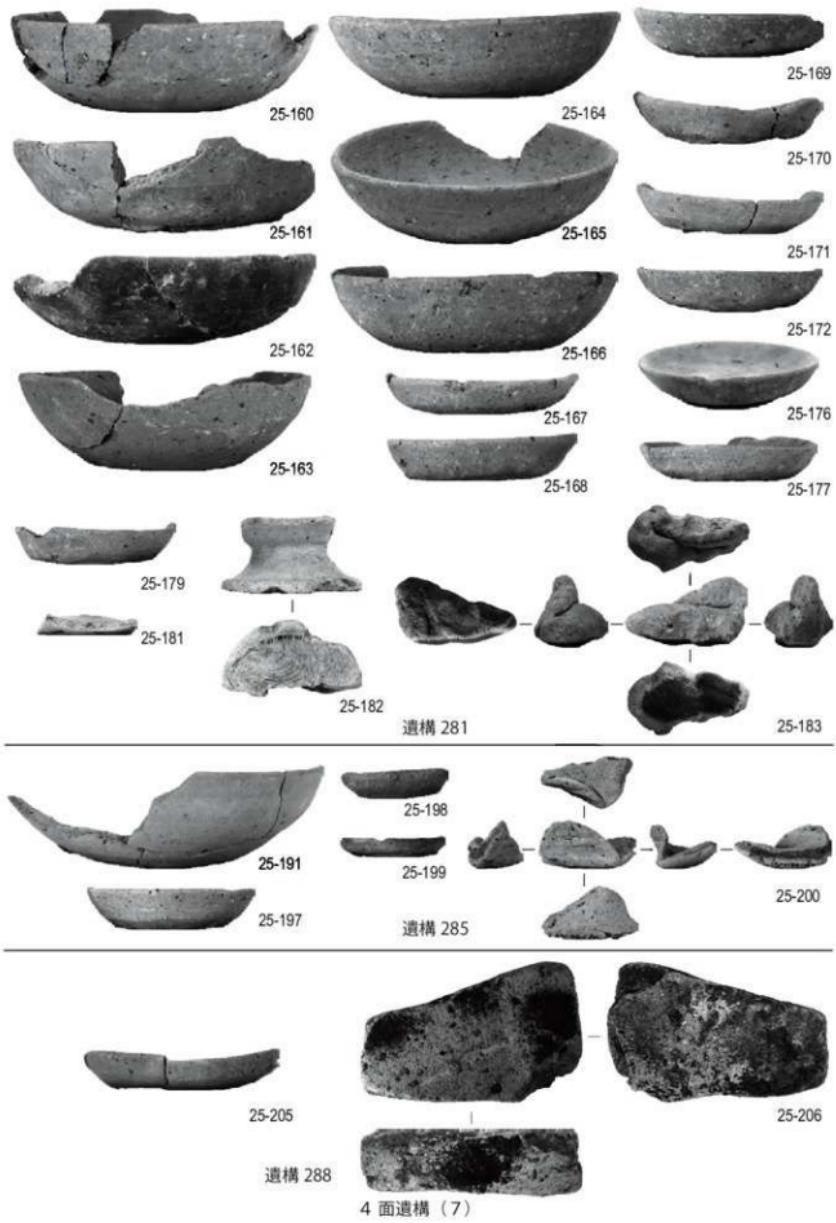


遺構 283

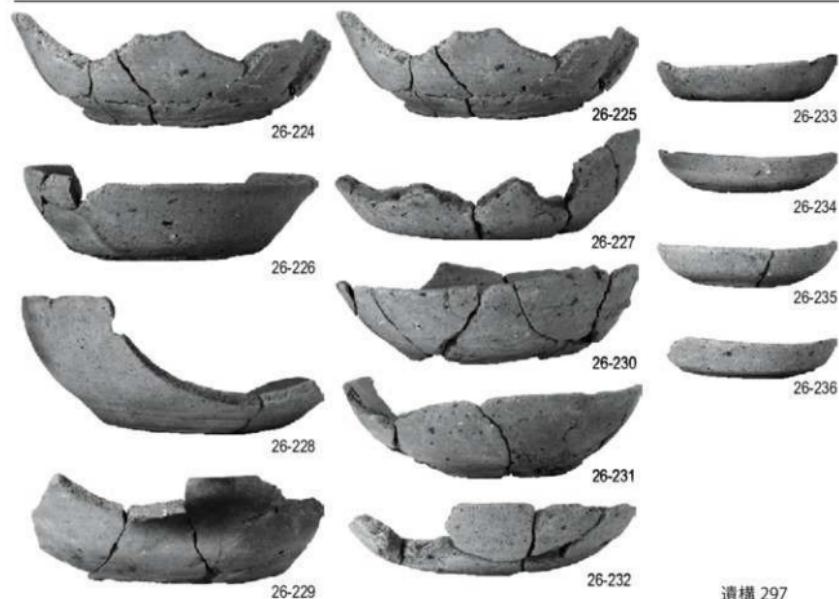


遺構 284

写真図版22



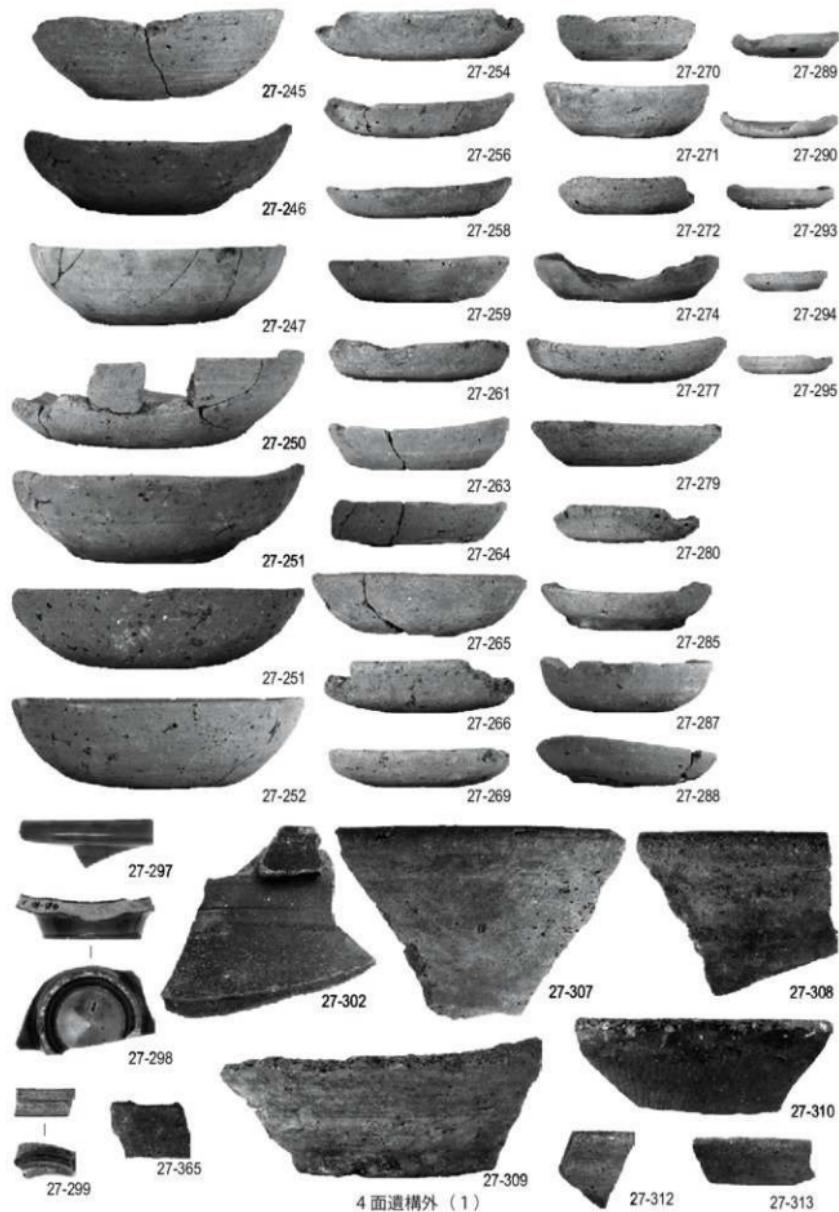
4面遺構 (7)

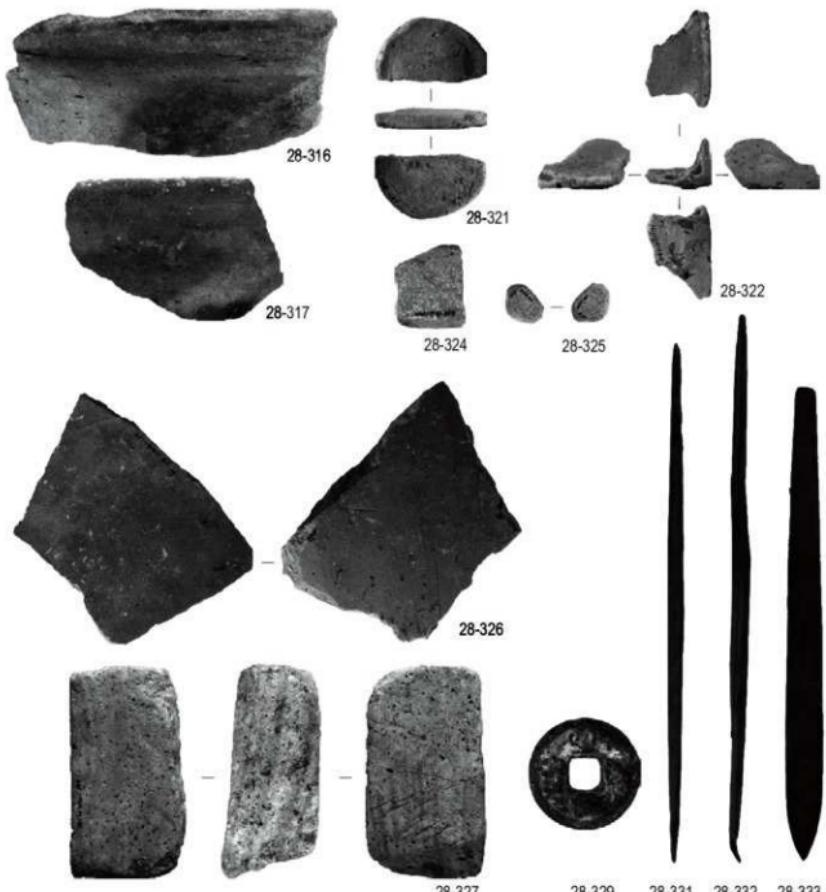


4面遺構 (8)

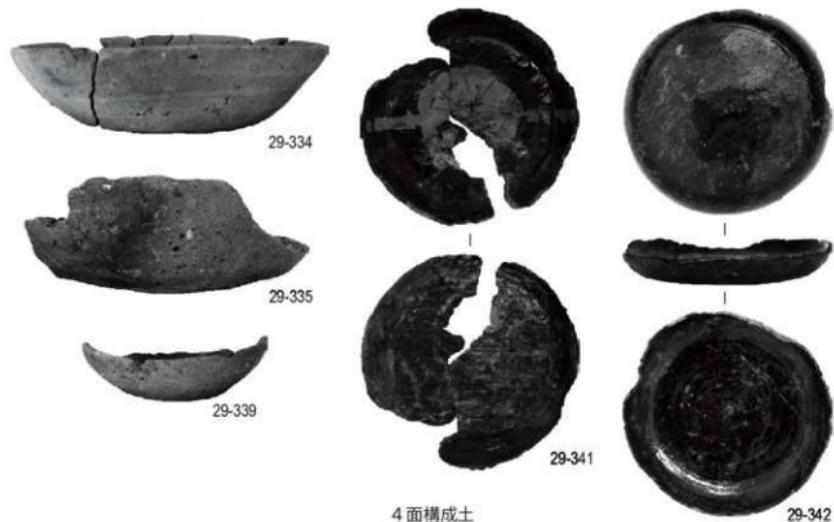


遺構 297
4面遺構 (9)





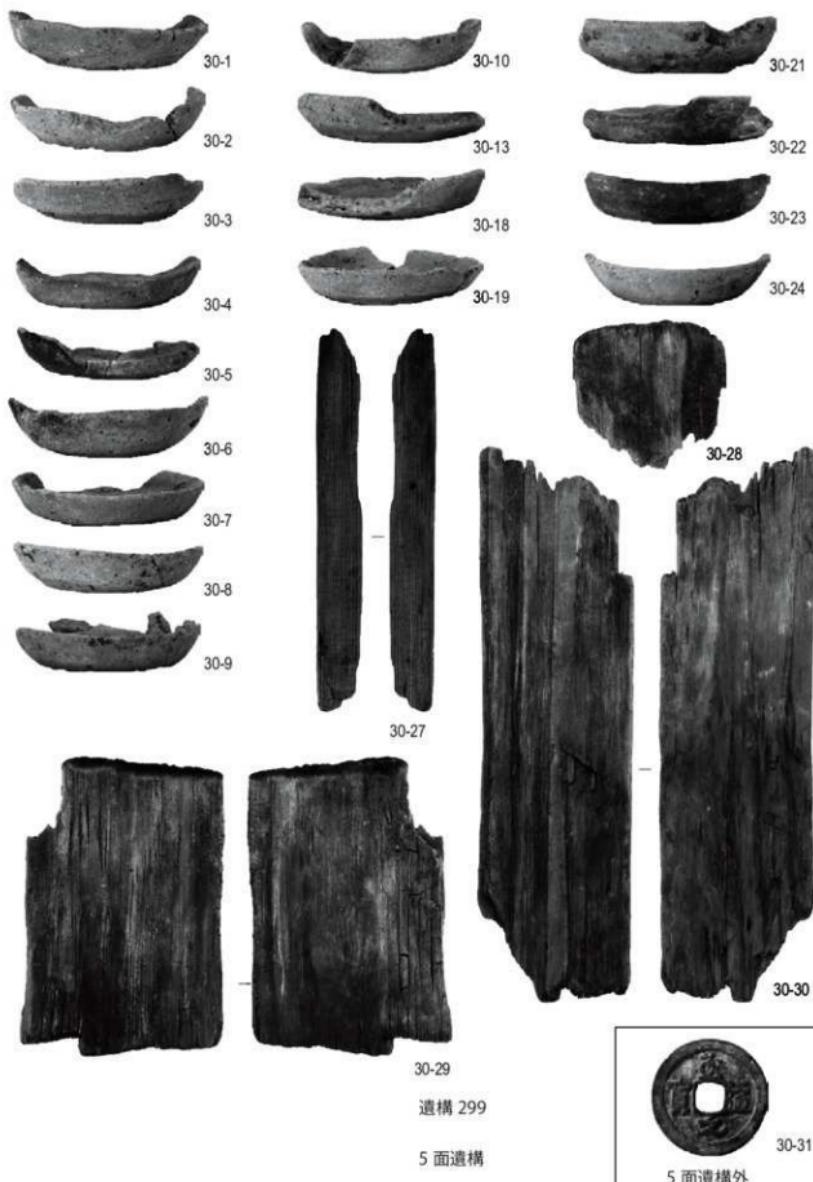
4面遺構外 (2)



4面構成土

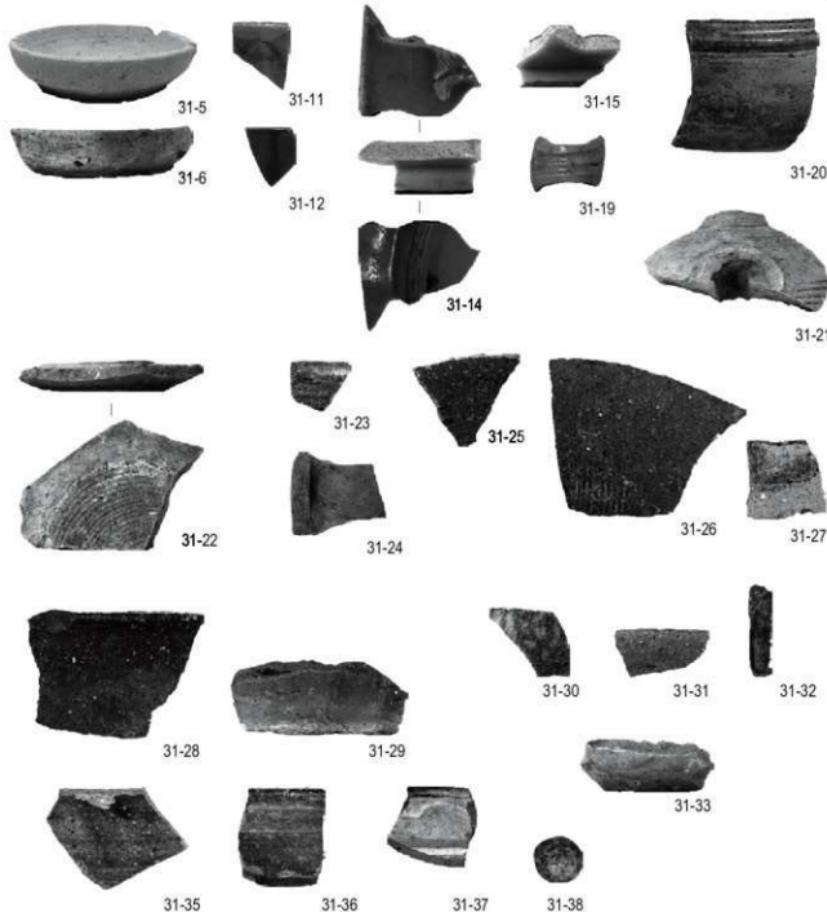


写真図版28

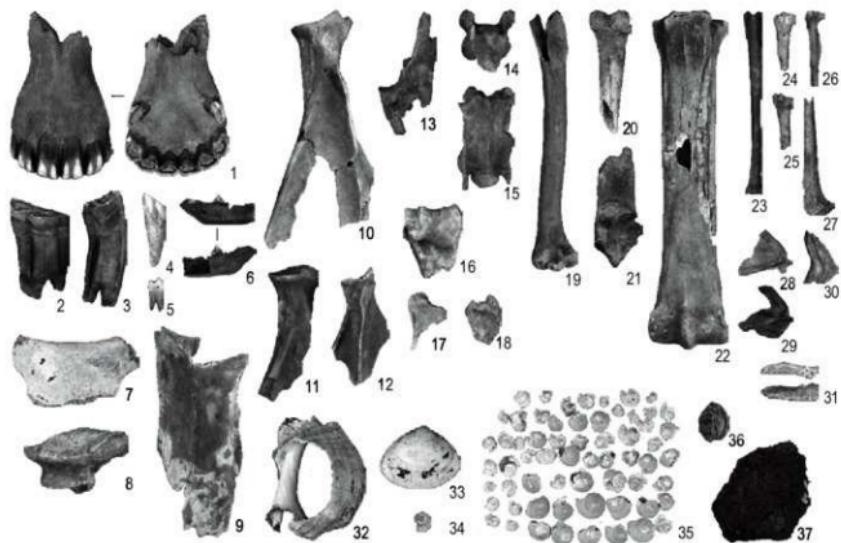




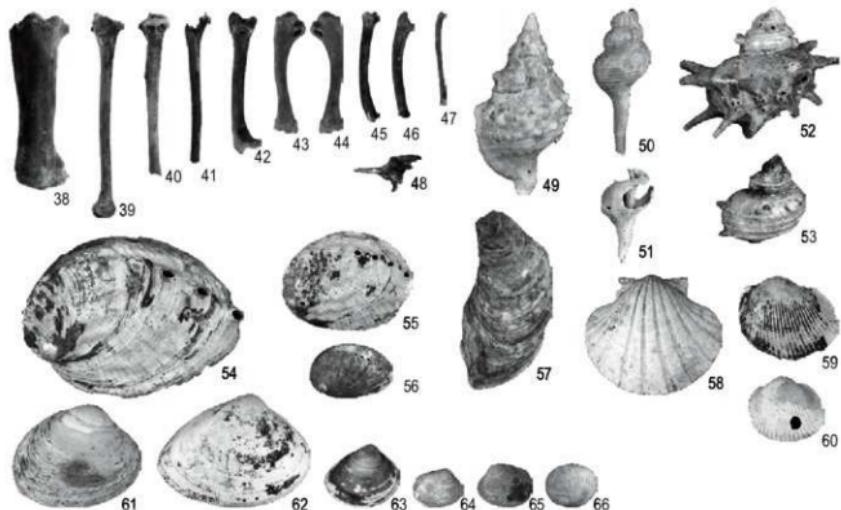
4面北壁深掘トレンチ



近代遺構出土中世遺物



中世遺構出土自然遺物



近代遺構出土自然遺物

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさはうこくしょ						
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書						
副書名	平成29年度調査報告						
卷次	34 (第2分冊)						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者	伊丹まだか／後藤 健						
編集機関	鎌倉市教育委員会						
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号						
発行年月日	西暦2018年3月30日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号					
ほうせんじあと 法泉寺跡	神奈川県鎌倉市 扇ガ谷四丁目 518番8	14204	182	3.5° 1.9' 5.0"	139° 3.2' 4.1"	20100326 ~ 20100528	38.00 個人専用住宅 (鋼管杭工事)
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	神奈川県鎌倉市 扇ガ谷一丁目 145番3、146番2	14204	201	3.5° 1.9' 1.5"	139° 3.2' 5.6"	20110926 ~ 20111222	120.00 店舗併用 個人専用住宅 (鋼管杭工事)

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほうせんじあと 法泉寺跡	寺社跡	中世	溝、土坑、ピット	土師器、かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品	13世紀中頃～15世紀中葉の石積み遺構と柱穴、土坑、泥岩による地盤を確認。
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	城館跡 都市遺跡	中世	石列、溝、土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品、瓦、等	中世遺構は13世紀後半～14世紀前半で、凝灰質砂岩石列などを確認。大規模な近代遺構を検出。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成 29 年度発掘調査報告

(第 2 分 冊)

発 行 日 平成 30 年 3 月 30 日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印 刷 芝浦エンジニアリング株式会社